



Windows

Corel
PHOTO-PAINT™

ユーザーガイド

2022年9月サブスクリプション版リリース

このユーザー ガイドに記載されている機能は、CorelDRAW Graphics Suite のフルバージョンで利用できる機能です。お手持ちのバージョンでは、一部の機能を使用できないことがあります。

製品の仕様、価格設定、パッケージング、テクニカル サポートおよび情報（「仕様」）は、英語版にのみ該当します。他のすべてのバージョンの仕様（他言語版も含む）は異なる可能性があります。

掲載された情報は、明示、黙示を問わずその他一切の保証または条件（市販可能な品質に関する保証、適正品質に関する保証、または商品性、特定用途への適合性等の保証、あるいは、法律その他の法令、取引慣行、取引過程等により発生するものを含むがこれに限らない）を伴わずに「現状有姿」ベースで COREL によって供給されるものとします。提供された情報またはその使用の結果に関する一切のリスクはユーザーが負うものとします。いかなる場合においても、損害の発生する可能性について知らされていた場合や、予測可能であっても、収益または利益の損失、データの損失または損害、またはその他の経済的な損失を含み、それらに限定されない損失や損害に対して、COREL は間接損害、偶発損害、特別損害または結果的損害、あるいはいかなる損害について、個人または団体に対して如何なる責任も負いません。また、Corel は、第三者からなされた如何なる請求に対しても責任を負いません。Corel のお客様に対する最大債務総額はお客様が製品の購入に支払った費用を超えないものとします。間接的または二次的損害の免責または責任限定が認められない一部の州 / 国では、上記の制限事項は適用されない場合があります。

Corel、Corel ロゴ、Corel バルーン ロゴ、CorelDRAW、CorelDRAW バルーン ロゴ、Corel DESIGNER、Corel Font Manager、CAPTURE、CONNECT、LiveSketch、PaintShop、PaintShop Pro、PHOTO-PAINT、Painter、パワークリップ、VideoStudio、および WordPerfect は、カナダ、米国、およびその他の国々、またはそのいずれかにおける Corel Corporation およびその関連会社、またはそのいずれかの商標、または登録商標です。その他の製品名、フォント、および会社名とロゴは、それぞれ該当する会社の商標または登録商標です。

特許 : www.corel.com/patent

202031

目次

はじめに.....	15
CorelDRAW Graphics Suite をインストールする.....	17
システム要件.....	17
インストールを準備する.....	17
CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションをインストールする.....	18
インストール オプション.....	18
インストールを修正および修復する.....	20
CorelDRAW Graphics Suite のアンインストール.....	20
FAQ.....	21
Corel のアカウントとサービス.....	23
CorelDRAW Graphics Suite の認証.....	23
アカウント設定.....	24
アップデート.....	24
ユーザー認証情報の変更.....	24
プライバシーとプロファイル.....	25
Corel サポート サービス.....	26
フィードバックの送信.....	26
CorelDRAW Graphics Suite の新機能.....	27
CorelDRAW Graphics Suite September 2022 Subscriber Update.....	27
CorelDRAW Graphics Suite March 2022 Subscriber Update.....	28
CorelDRAW Graphics Suite 2021.5.....	32
CorelDRAW Graphics Suite 2021.....	34
学習資料.....	41
ヘルプを参照する.....	41
[学習] ドッキング ウィンドウ.....	43
ヘルプとツールのヘルプ.....	44
ヒント.....	45
Welcome スクリーン.....	46
クイック スタート ガイド.....	46
演習プロジェクト.....	46

ビデオ資料.....	47
開発者の Web サイト.....	47
ネットワーク配布ガイド.....	48
Web ベースのリソース.....	48
起動/設定する.....	49
Corel PHOTO-PAINT を起動/終了する.....	49
言語を変更する.....	49
スタートアップ設定.....	50
Corel PHOTO-PAINT 作業領域の概要.....	51
Corel PHOTO-PAINT の用語.....	51
アプリケーション ウィンドウ.....	52
作業領域を選択する.....	54
ツールバー.....	55
ツールボックス.....	57
プロパティ バー.....	66
ドッキング ウィンドウ.....	67
カラー パレット.....	69
ステータス バー.....	69
設定.....	71
作業領域オプション.....	71
警告メッセージの表示をオフにする.....	72
Corel PHOTO-PAINT にイメージを読み込む.....	73
イメージを開く.....	73
ファイルをインポートする.....	75
イメージをスキャンする.....	77
イメージを作成する.....	78
複数のイメージを操作する.....	80
ベクトル グラフィックを操作する.....	80
イメージとイメージ情報を表示する.....	83
イメージを表示する.....	83
ズーム.....	85

イメージ情報を表示する.....	86
イメージ ウィンドウを更新する.....	87
Digimarc のすかし模様を検出する/埋め込む.....	87
ガイドライン、グリッド、ルーラー.....	89
ガイドライン.....	89
グリッド.....	92
ルーラー.....	94
操作を元に戻す/やり直す/繰り返す/フェードする.....	97
元に戻す/やり直す.....	97
復帰.....	99
繰り返すとフェード.....	99
保存する/閉じる.....	103
イメージを保存する.....	103
イメージをエクスポートする.....	105
ロックされているファイル.....	107
イメージを閉じる.....	107
クリエイティブなツールとコンテンツ.....	109
コンテンツの種類.....	109
クリップアートおよびその他のローカル アセットとネットワーク アセットを検索する.....	110
[アセット] ドッキング ウィンドウを使ってイメージを使用/管理する.....	114
[トレイ] ドッキング ウィンドウでコンテンツを管理する.....	116
アプリケーション、プラグイン、コンテンツを入手する.....	117
コンテンツの場所を変更する.....	118
タッチスクリーンとホイール デバイス.....	121
タッチ.....	121
ホイール デバイス.....	123
イメージの編集.....	125
イメージの寸法、解像度、および用紙サイズ.....	127
イメージのサイズおよび解像度.....	127
用紙のサイズ.....	131
切り抜く/つなぎ合わせる/スケールする/向きを変更する.....	133

イメージの切り抜き.....	133
イメージをつなぎ合わせる.....	135
スマート カーバーを使用してイメージをスケールする.....	137
イメージの傾き補正.....	139
イメージやオブジェクトの傾きをインタラクティブに補正する.....	141
射影歪みを補正する.....	143
イメージを回転/反転する.....	146
レタッチする.....	149
スキャンしたイメージの画質を向上させる.....	149
赤目修正.....	150
ダストやキズを除去する.....	151
イメージ領域のクローンを作成する.....	154
イメージをシャープ化する.....	157
JPEG イメージからアーチファクトやノイズを除去する.....	158
イメージのバックグラウンドを削除する.....	159
イメージの領域を消去する.....	159
カラーを塗り付ける/染み付ける/ブレンドする.....	162
カラーとトーンを調整する.....	165
カラーを調整するためのツールと効果.....	165
[調整] ドッキング ウィンドウ.....	167
調整のコピーとフラット化.....	172
ヒストグラム.....	173
自動調整.....	174
調整フィルタ.....	175
ホワイト バランス.....	175
ライト (旧称 [輝度/コントラスト/強度]).....	176
レベル (旧称 [コントラストの向上]).....	177
トーン カーブ.....	178
サンプル&ターゲット.....	179
均一化 (旧称 [ヒストグラムの均一化]).....	179
ガンマ.....	180

色相/彩度/明度.....	180
自然な彩度.....	180
モノクロ (旧称 [グレースケール]).....	181
選択カラー.....	182
カラーの置き換え.....	182
チャンネル ミキサー.....	184
カラー バランス.....	185
調整プリセットを適用、管理、作成する.....	185
ブラシ効果を使用してカラーとトーンを調整する.....	187
カラー チャンネル.....	188
レンズ.....	191
レンズを作成する.....	191
レンズを編集する.....	192
レンズをイメージ バックグラウンドと結合する.....	194
イメージ領域を変形する.....	195
イメージ領域を塗り付ける.....	195
旋回効果を追加する.....	196
ピクセルを引き付け/押し出して、イメージ領域を変形する.....	197
カラー、塗りつぶし、および透明.....	199
カラー.....	201
カラー モデル.....	201
カラー深度.....	203
カラーを選択する.....	204
イメージ パレット.....	210
カラー パレットを作成/編集する.....	212
カラー パレットの表示と整理.....	214
カラー パレットを表示または非表示にする.....	216
カラー パレット プロパティを設定する.....	217
スポット カラー チャンネル.....	218
カラー モード.....	221
カラー モードを変更する.....	221

モノクロ カラー モード.....	223
パレット カラー モード.....	223
2 色トーン カラー モード.....	226
カラー マネージメント.....	229
カラー マネージメントについて.....	229
カラー マネージメントを使用する.....	233
カラー プロファイルのインストール、ロード、埋め込み.....	234
カラー プロファイルを割り当てる.....	236
カラーを他のカラー プロファイルに変換する.....	237
カラー変換設定.....	237
ソフト校正.....	238
カラー マネージメント プリセット.....	241
カラー マネージメント ポリシー.....	242
ドキュメントを開くときにカラーを管理する.....	243
ファイルをインポートおよび貼り付ける際のカラーの管理.....	244
印刷のカラーを管理する.....	244
安全な CMYK ワークフローを使用する.....	245
オンライン表示のカラーを管理する.....	245
塗りつぶし.....	247
標準塗りつぶし.....	247
グラデーション塗りつぶし.....	248
ビットマップ パターン塗りつぶし.....	252
テキストチャ塗りつぶし.....	256
透明.....	259
標準透明.....	259
透明グラデーション.....	260
ビットマップ パターン透明.....	263
透明テキストチャ.....	266
ブラシストロークを使用した透明.....	268
選択したカラーの透明度.....	268
オブジェクトをブレンドする.....	268

塗りつぶしや透明を検索、管理、保存する.....	271
塗りつぶしや透明を検索および表示する.....	271
塗りつぶしと透明を管理する.....	273
塗りつぶしや透明を保存する.....	275
マスクとパス.....	277
マスク.....	279
保護領域と編集領域を区別する.....	279
編集領域を定義する.....	281
カラー情報を使用して編集領域を定義する.....	286
編集領域を拡張/縮小する.....	289
マスクを反転/削除する.....	292
編集領域を移動/整列する.....	292
編集領域を変形する.....	294
編集領域のエッジを調整する.....	298
マスクの透明度を調整する.....	300
イメージをカットアウトする.....	300
パス.....	305
パスを作成する.....	305
パスを管理する.....	307
パスを整形する.....	309
パス ノードを追加/削除する.....	311
パスを結合/分割する.....	312
ノードの種類を変更する.....	313
ブラシ ストロークをパスに適用する.....	314
クリップ パス.....	315
アルファ チャンネルを使用したマスク.....	317
アルファ チャンネルを作成および編集する.....	317
マスクおよびアルファ チャンネルを保存する.....	318
マスクおよびアルファ チャンネルをロードする.....	319
アルファ チャンネルを管理する.....	321

ペイントと特殊効果.....	323
描画とペイント.....	325
図形と線.....	325
ブラシストローク.....	329
イメージをスプレーする.....	332
対称パターンおよび軌道.....	334
ブラシ ストロークを繰り返す.....	336
カスタム ブラシ.....	337
圧力感知ペンとデバイス.....	339
マージ モード.....	343
特殊効果を適用する.....	347
特殊効果を操作する.....	347
プリセット スタイル.....	355
カラー/トーン効果.....	355
ベベル効果.....	356
ボケぼかし効果.....	356
レンズ フレア効果.....	358
照明効果.....	358
フォト フレーム.....	359
プラグインを管理する.....	360
特殊効果のカテゴリ.....	361
3-D.....	361
アート ストローク.....	365
フェード.....	371
カメラ.....	377
カラー変換.....	381
等高線.....	383
クリエイティブ.....	385
カスタム.....	391
歪曲.....	392
ノイズ.....	397

シャープ化.....	400
テクスチャ.....	402
オブジェクト.....	409
オブジェクトを操作する.....	411
オブジェクトを作成する.....	412
オブジェクトのプロパティを変更/表示する.....	414
オブジェクトを選択する.....	414
オブジェクトを移動/コピー/削除する.....	416
オブジェクトを表示およびアレンジする.....	418
オブジェクトを整列/配置する.....	420
整列ガイド.....	422
オブジェクトをロックする.....	424
オブジェクトをグループ化/結合する.....	425
選択したグループのマージ モード.....	427
クリッピング グループを使用する.....	428
オブジェクトを修正する.....	431
オブジェクトを変形する.....	431
オブジェクトを切り抜く.....	436
オブジェクトのエッジを変更する.....	436
ドロップ シャドウを追加する.....	438
クリップ マスクを使用する.....	441
オブジェクトを取り囲んでいる領域を保護する.....	443
オブジェクトのリンクと埋め込み.....	445
リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを別のアプリケーションに挿入する.....	445
リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを編集する.....	446
テキスト.....	447
テキストを作成/フォーマットする.....	449
テキストを追加/選択する.....	449
テキストにカラーを追加する.....	451
テキストのフォーマット.....	452

OpenType の機能.....	454
可変フォント.....	458
特殊文字、シンボル、グリフの挿入.....	460
テキストをカーニング/シフト/回転する.....	463
テキストを配置する.....	464
行、文字、および単語の間隔を調整する.....	464
アンチエイリアス テキスト.....	465
テキストをパスに結合する.....	465
レガシー テキスト.....	467
フォントを管理する.....	469
フォントを表示する.....	469
フォントをフィルタする.....	471
フォントを検索する.....	472
さらに多くのフォントを取得する.....	473
フォントを選択する.....	474
Corel Font Manager.....	476
異なる言語のテキスト.....	477
エンコード設定を修正する.....	477
アジア系および中東系言語テキスト.....	478
アジア言語テキストに対する OpenType のサポート.....	479
Web イメージとムービー.....	481
ムービーを作成/編集する.....	483
ムービーを開く/再生する.....	483
ムービーを作成する.....	484
フレーム順と表示時間を変更する.....	486
ムービーを保存する.....	489
Web 用のイメージを作成する.....	491
Web 用のイメージをエクスポートする.....	491
ビットマップをエクスポートして WordPress にアップロードする.....	497
Web プリセットの保存と適用.....	498
透明なカラーとバックグラウンドのパレット ベースのイメージを作成する.....	498

イメージをスライスする.....	499
ロールオーバーを作成/編集する.....	502
イメージを電子メールで送信する.....	506
印刷.....	507
印刷の基本.....	509
作業内容を印刷する.....	509
プリント ジョブをレイアウトする.....	510
プリント ジョブをプレビューする.....	511
印刷スタイル.....	512
プリント ジョブを微調整する.....	513
カラーを正確に印刷する.....	514
PostScript プリンタへ印刷する.....	516
プリフライトの概要.....	517
印刷サービス プロバイダ用にファイルを準備する.....	519
印刷サービス プロバイダ用に準備する.....	519
インポジション レイアウト.....	520
印刷マーク.....	522
カラー分解.....	524
カラー トラッピングとオーバープリント.....	525
コンポジットを印刷する.....	526
フィルムに印刷する.....	527
キャンバス印刷.....	527
印刷サービス プロバイダを使用する.....	528
ファイル形式.....	529
PDF へのエクスポート.....	531
PDF へのエクスポート.....	531
PDF ハイパーリンク、ブックマーク、サムネール.....	533
PDF ファイル サイズを縮小する.....	534
PDF ファイルのエンコード.....	535
PDF カラー マネジメント オプション.....	535

PDF セキュリティ オプション.....	536
PDF ファイルを最適化する.....	538
PDF プリフライトの概要.....	538
印刷プロバイダ用に PDF ファイルを準備する.....	539
オフィス生産性アプリケーションを使用する.....	541
ファイルをオフィス生産性アプリケーションにエクスポートする.....	541
オブジェクトをドキュメントに追加する.....	541
RAW カメラ ファイル.....	543
RAW カメラ ファイルを使用する.....	543
Corel PHOTO-PAINT に RAW カメラ ファイルをインポートする.....	544
RAW カメラ ファイルのカラーとトーンを調整する.....	546
RAW カメラ ファイルをシャープ化してノイズを低減する.....	549
RAW カメラ ファイルをプレビューしてイメージ情報を取得する.....	549
サポートされているファイル形式.....	551
Adobe Illustrator (AI).....	552
Windows ビットマップ (BMP).....	552
OS/2 ビットマップ (BMP).....	553
コンピュータ グラフィックス メタファイル (CGM).....	553
CorelDRAW (CDR).....	554
Corel Presentation Exchange (CMX).....	554
Corel PHOTO-PAINT (CPT).....	555
カーソル リソース (CUR).....	555
AutoCAD Drawing Database (DWG) および AutoCAD Drawing Interchange Format (DXF).....	555
Encapsulated PostScript (EPS).....	556
PostScript (PS または PRN).....	558
GIF.....	559
High Efficiency Image File Format (HEIF).....	560
JPEG (JPG).....	561
JPEG 2000 (JP2).....	561
Kodak Photo CD イメージ (PCD).....	563
PICT (PCT).....	564

PaintBrush (PCX).....	565
Adobe Portable Document Format(PDF).....	565
HPGL プロッタ ファイル (PLT).....	566
Portable Network Graphics (PNG).....	567
Adobe Photoshop (PSD).....	568
Corel Painter (RIF).....	569
TARGA (TGA).....	570
TIFF.....	571
Google Web Picture (WEBP).....	571
WordPerfect Graphic (WPG).....	573
RAW カメラ ファイル形式.....	574
Wavelet 圧縮ビットマップ (WI).....	574
Windows メタファイル形式 (WMF).....	574
その他のファイル形式.....	574
グラフィックをインポートする際の推奨形式.....	575
グラフィックをエクスポートする際の推奨形式.....	576
カスタマイズと自動化.....	577
Corel PHOTO-PAINTをカスタマイズする.....	579
オプションを選択する.....	579
GPU を設定する.....	580
デフォルトを変更する/復元する.....	581
作業領域を作成する.....	581
作業領域をインポートする/エクスポートする.....	582
作業領域の外観をカスタマイズする.....	583
ショートカット キーをカスタマイズする.....	585
メニューをカスタマイズする.....	586
ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする.....	588
ツールボックスをカスタマイズする.....	591
プロパティ バーをカスタマイズする.....	591
ステータス バーをカスタマイズする.....	593
フィルタをカスタマイズする.....	594

マクロとスクリプトを使用してタスクを自動化する.....	595
Macros.....	595
JavaScript スクリプト.....	600
Corel スクリプト.....	601
参照.....	605
Adobe Photoshop ユーザーのための Corel PHOTO-PAINT.....	607
用語の違い.....	607
ツールの違い.....	608
用語集.....	611

はじめに

CorelDRAW Graphics Suite をインストールする.....	17
Corel のアカウントとサービス.....	23
CorelDRAW Graphics Suite の新機能.....	27
学習資料	41
起動/設定する.....	49
Corel PHOTO-PAINT 作業領域の概要.....	51
設定.....	71
Corel PHOTO-PAINT にイメージを読み込む.....	73
イメージとイメージ情報を表示する.....	83
ガイドライン、グリッド、ルーラー.....	89
操作を元に戻す/やり直す/繰り返す/フェードする.....	97
保存する/閉じる.....	103
クリエイティブなツールとコンテンツ.....	109
タッチスクリーンとホイール デバイス.....	121



CorelDRAW Graphics Suite をインストールする

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 17 の「システム要件」。
- ページ 17 の「インストールを準備する」。
- ページ 18 の「CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションをインストールする」。
- ページ 18 の「インストール オプション」。
- ページ 20 の「インストールを修正および修復する」。
- ページ 20 の「CorelDRAW Graphics Suite のアンインストール」。
- ページ 21 の「FAQ」。

システム要件

次のリストには、最小システム要件が記載されています。最適なパフォーマンスのために、リストに記載されているより多くの RAM およびハード ディスク領域が必要です。

- 64 ビットの Windows 11、Windows 10 (最新アップデートおよびサービス パック適用済み)。CorelDRAW® Graphics Suite は、Windows 10 のバージョン、21H1、21H2、および本スイートの製品ライフ サイクル期間中にリリースされる後続のバージョンをサポートします。
- Intel Core i3/5/7/9 または AMD Ryzen 3/5/7/9、Threadripper、EPYC
- 3 GB 以上の VRAM 搭載の OpenCL 1.2 対応ビデオカード
- 4 GB RAM (8 GB 以上を推奨)
- アプリケーション ファイルとインストール ファイル用の GB のハード ディスク領域
- マルチタッチ スクリーン、マウス、タブレット
- ディスプレイの解像度: 100% (96 dpi) で 1280 x 720 の画面解像度
- オプションの DVD ドライブ (パッケージ版の場合)。DVD からのインストールには、最大 700 MB のファイルをダウンロードする必要があります
- CorelDRAW Graphics Suite をインストールして認証したり、含まれているソフトウェア コンポーネント、オンライン機能、およびコンテンツの一部にアクセスしたりするには、インターネット接続が必要です。

インストールを準備する

- ご使用のシステムの日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。

- ご使用のシステムで最新の更新プログラムがインストールされていることを確認してください。
- ウィルス検出プログラム、およびシステム トレイまたは Windows タスクバーで開いているアプリケーションを含む、すべてのアプリケーションを閉じてください。他のアプリケーションを実行していると、インストール時間が長くなる可能性や、インストールの妨げになる可能性があります。
- 管理者権限のあるユーザーでログインします。
- アプリケーションをインストールするドライブに、利用可能な十分な空き容量があることを確認してください。
- システムの TEMP フォルダのコンテンツを削除して、ファイルとメモリの競合を回避します。Temp フォルダに移動するには、Windows 10 のスタート メニューの **[プログラムとファイルの検索]** ボックスに「%temp%」と入力します。
- お使いのシステムがインターネットに接続されていることを確認してください。
- 以前のバージョンとの競合を避けるために、CorelDRAW® Graphics Suite は、現在使用しているディレクトリにインストールします。

CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションをインストールする

インストール ウィザードを使用すると、CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションとコンポーネントを簡単にインストールできます。標準インストールを選ぶとスイートを素早くインストールできます。また、異なるオプションを選択してインストールをカスタマイズすることができます。

CorelDRAW Graphics Suite アプリケーションをインストールするには

- 1 すべてのウィルス検出プログラムを含む、すべてのアプリケーションを閉じます。
インストールを支障なく行うために、Windows を再起動することをお勧めします。これにより、適用した最新のシステム更新プログラムによる再起動が不要になり、メモリの問題も発生しなくなります。
- 2 ご注文の確認に記載されているリンクから製品をダウンロードします。
- 3 インストール ウィザードの指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

インストール オプション

次のインストールの種類から選択できます。

- **標準インストール** — Program Files フォルダのデフォルトの場所にスイートの主要なプログラムおよびユーティリティが自動的にインストールされます。インストールされていないコンポーネントが後で必要になった場合、インストールを変更できます。
- **カスタム インストール** — 追加の機能を選択できます。また、必要のないコンポーネントを除外し、スイートのインストール場所を指定できます。スイートの多言語バージョンを購入した場合は、インストールする言語パックを選択することもできます。
- **配布** — マルチシート ライセンスを購入した場合のみ使用可能です。このオプションを使用すると、個々のワークステーションにソフトウェアをインストールするためのサーバー イメージを作成できます。詳しくは、『CorelDRAW Graphics Suite 配布ガイド』を参照してください。

プログラム

次の表にはデフォルトでインストールされるプログラムが記載されています。インストールからプログラムを除外するには、カスタムインストールを選択する必要があります。

プログラム

説明

CorelDRAW®CorelDRAW

高画質ベクトル イラスト、ロゴ デザイン、ページ レイアウトを作成するための直観的および多目的なグラフィックス アプリケーション

Corel PHOTO-PAINT™

写真のレタッチや補正、およびオリジナル ビットマップのイラストやペイントを作成することができる総合的なイメージ編集アプリケーション

プログラム

説明

CAPTURE™

コンピュータ画面からイメージをキャプチャするための使いやすいアプリケーション

Corel® Font Manager

フォントを検索、整理、管理するためのアプリケーション

Corel® BARCODE WIZARD

工業規格形式のさまざまなバーコードを生成できるアプリケーション。

プログラムの機能およびユーティリティ

次の表にはインストール可能なプログラムの機能が記載されています。すべてのコンポーネントが、ソフトウェアのすべてのバージョンで利用できるというわけではありません。

機能またはユーティリティ

説明

注記

Microsoft Visual Basic for Applications 7.1

Microsoft Visual Basic (VB) プログラム環境のサブセットです (初心者向き)。

VBA を使用して個人用の基本的なマクロを作成できますが、より高度なマクロプロジェクトも作成できます。

Microsoft Visual Studio Tools for Applications (VSTA)

内蔵型のプログラム環境です。開発者およびその他のプログラミングの専門家が、最新のマクロプロジェクトを作成するために VSTA を使用できます。

CorelDRAW Graphics Suite で VSTA を使用するには、Microsoft Visual Studio 2019 のコピーをインストールしている必要があります。

CorelDRAW Graphics Suite をインストールした後に Microsoft Visual Studio をインストールする場合、CorelDRAW Graphics Suite のインストールを変更して、VSTA の機能を再インストールする必要があります。詳しくは、[20 ページの「CorelDRAW Graphics Suite インストールを修正/修復するには」](#)を参照してください。

Windows Shell Extension

CorelDRAW (CDR)、Corel PHOTO-PAINT (CPT)、およびパターン塗りつぶしファイル (FILL) など、ネイティブの Corel ファイルのサムネールを表示できます。

既に CorelDRAW Graphics Suite または CorelDRAW Technical Suite をインストールしてある場合、インストールウィザードにこのオプションは表示されません。

GPL Ghostscript

これは、ドキュメントに EPS および PDF ファイルをインポートする場合に、強く推奨します。この機能を使用すると、ヘッダー イメージだけでなく、インポートした ESP ファイルの個々の要素を隔離して使用できます。また、サードパーティのアプリケーションで生成された

標準インストールに含まれています。

機能またはユーティリティ	説明	注記
	PDF ファイルのインポートが向上します。	
製品言語	二つ以上の言語でプログラムおよびヘルプが使用できます。	このオプションは、多言語バージョンのソフトウェアのみに含まれており、カスタム インストールが必要です。
デスクトップ ショートカットをインストールします。	デスクトップに製品のアイコンを加え、アクセスを容易にします。	標準インストールに含まれています。
インストール ファイルをコピーします。	ディスクをインストールすることなく、ソフトウェアを管理および更新することができます。	標準インストールに含まれています。

インストールを修正および修復する

インストール ウィザードを使用して、次を行うこともできます。

- プログラムや製品言語などのコンポーネントの追加と削除により、現在のインストールを変更
- 見つからない、または破損したファイルおよび不正確なショートカット、レジストリ キーなどのエラーの修復により、現在のインストールを修復

インストールの修復は、アプリケーションの使用に問題がある場合や、インストールされているアプリケーションが破損している可能性がある場合に便利です。



インストールを修復する前に、アプリケーションの起動中に **F8** キーを押し続けて、現在の作業領域をデフォルト設定にリセットしてみてください。作業領域をリセットすると、作業領域のすべての環境設定がリセットされることに注意してください。

CorelDRAW Graphics Suite インストールを修正/修復するには

- 1 すべてのアプリケーションを閉じます。
- 2 Windows のコントロール パネルで **[プログラムのアンインストール]** をクリックします。
- 3 **[プログラムのアンインストールまたは変更]** ページで、スイートの名前をダブルクリックします。
- 4 ウィザードに表示される **[修正]** オプション、または **[修復]** オプションをオンにして、指示に従います。
製品言語はウィザードの最後のページで選択できます。



インストール済みのプログラム機能やユーティリティは、ウィザードに表示されないことがあります。また、これらのチェック ボックスが無効になっていることがあります。

インストール ファイルのコピーなどの一部機能は、インストールの修正では追加できません。

CorelDRAW Graphics Suite のアンインストール

コントロール パネルから、CorelDRAW Graphics Suite をアンインストールできます。製品をアンインストールして、同じシリアル番号を指定して別のコンピュータに再インストールするには、アンインストール時にインターネットに接続している必要があります。こうすることで、製品を合法的にインストールできるコンピュータの数が 1 つ戻ります。

CorelDRAW Graphics Suite をアンインストールするには

- 1 Windows のコントロール パネルで **[プログラムのアンインストール]** をクリックします。
- 2 **[プログラムのアンインストールまたは変更]** ページで、スイートの名前をダブルクリックします。
- 3 ウィザードに表示される **[削除]** オプションをオンにして、指示に従います。
作業領域、プリセット、ユーザー作成の塗りつぶし、カスタマイズしたファイルなどのユーザー ファイルを削除して製品を完全にアンインストールするには、**[ユーザー ファイルの削除]** チェック ボックスをオンにします。



Corel Graphics などのスイートと共にインストールした、Windows Shell Extension、GPL Ghostscript、Microsoft Visual Studio Tools for Applications (VSTA) などの追加のコンポーネントやアプリケーションは、別途アンインストールする必要があります。

FAQ

質問が次のよくある質問 (FAQ) リストにない場合は、Corel® サポート サービスにアクセスして、Corel® Knowledge Base で検索してください。

- ページ 21 の「ソフトウェアのバージョンをアップグレードします。以前のバージョンをアンインストールする必要がありますか?」。
- ページ 21 の「アップグレードと更新は何が違うのですか?」。
- ページ 21 の「ソフトウェアを再インストールする必要がありますが、シリアル番号をなくしてしまいました。どうすればよいでしょう?」。
- ページ 21 の「通常インストールとカスタム インストールは何が違うのですか? どちらのタイプのインストールが適切なのですか?」。
- ページ 21 の「最新のサービス パックおよび重要な更新プログラムを適用してオペレーティング システムを更新する必要がある理由を教えてください。」。
- ページ 22 の「どうすれば」。CorelDRAW Graphics Suite ページ 22 の「を組織のネットワークに配布できますか?」。
- ページ 22 の「ユーザー インタフェースおよびヘルプの言語を変更するには」。

ソフトウェアのバージョンをアップグレードします。以前のバージョンをアンインストールする必要がありますか?

いいえ。以前のバージョンをアンインストールする必要はありません。デフォルトでは、新しいバージョンは別のフォルダにインストールされます。これにより、両方のバージョンで作業できます。インストール フォルダを変更して、アップグレード版と以前のバージョンを同じフォルダにインストールしないでください。

アップグレードと更新は何が違うのですか?

アップグレードでは、ソフトウェアの最新のメジャー バージョンをインストールできます。更新プログラムは通常、メジャーバージョンのリリース後に、不具合の修正、パフォーマンスや安定性の向上を目的に提供されます。更新は、メジャーバージョンの名前に番号が付いています (例: .1)。通常、必要な更新はサイレント インストールされますが、**[ヘルプ]** ▶ **[更新]** をクリックして、更新をチェックすることもできます。

ソフトウェアを再インストールする必要がありますが、シリアル番号をなくしてしまいました。どうすればよいでしょう?

次のいずれかの操作を実行します。

- ダウンロード バージョンの場合は、製品を購入したときに Corel から送られた電子メールを確認してください。
- corel.com にサインインして、**[アカウント]** ページにアクセスします。
- パッケージで購入した場合は、インストール ディスクのカバーを確認してください。

通常インストールとカスタム インストールは何が違うのですか? どちらのタイプのインストールが適切なのですか?

18 ページの「インストール オプション」。を参照してください。

最新のサービス パックおよび重要な更新プログラムを適用してオペレーティング システムを更新する必要がある理由を教えてください。

最新のサービス パックと重要な更新プログラムは、次の理由からインストールする必要があります。

- コンピュータを悪意のあるソフトウェアから保護する
- Windows の問題と不具合を解決する
- オペレーティング システムおよび Corel ソフトウェアを支障なく動作させる
- 最小システム要件を満たす
- インストール プロセスをスピードアップする
- オペレーティング システムの再起動が必要になる可能性を小さくする
- システム ドライバを最新にし、スイート用に最適化する

どうすれば CorelDRAW Graphics Suite を組織のネットワークに配布できますか？

CorelDRAW Graphics Suite のライセンスを複数購入すると、組織のネットワークにアプリケーションを配布するオプションを使用できます。

ネットワーク インストールの詳細については、『[CorelDRAW Graphics Suite 配布ガイド](#)』を参照してください。ソフトウェアのボリューム ライセンスを購入する場合は、[Corel® サポート サービス](#)に問い合わせてください。

ユーザー インタフェースおよびヘルプの言語を変更するには

ユーザー インタフェースやヘルプの言語を変更できるのは、スイートの多言語バージョンを購入してインストールした場合に限られます。詳しくは、[49 ページの「ユーザー インタフェースおよびヘルプの言語を変更するには」](#)。を参照してください。



Corel のアカウントとサービス

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 23 の「CorelDRAW Graphics Suite の認証」。
- ページ 24 の「アカウント設定」。
- ページ 24 の「アップデート」。
- ページ 24 の「ユーザー認証情報の変更」。
- ページ 25 の「プライバシーとプロファイル」。
- ページ 26 の「Corel サポート サービス」。
- ページ 26 の「フィードバックの送信」。

CorelDRAW Graphics Suite の認証

認証を行うと、ソフトウェアに含まれるオンラインの機能やコンテンツにアクセスできるようになります。CorelDRAW Graphics Suite の認証は、スイートのインストール後、アプリケーションの開始前、あるいはアプリケーションの使用中に実行できます。

CorelDRAW Graphics Suite CorelDRAW Technical Suite を認証するには、自分の Corel.com アカウントでサイン インする必要があります。この操作により、お使いの製品とアカウントが関連付けられます。Corel.com のアカウントを持っていない、または製品を新しいアカウントと関連付けたい場合は、サイン インする前にアカウントを作成する必要があります。

CorelDRAW Graphics Suite CorelDRAW Technical Suite をインストールして認証すると、corel.com の [アカウント] ページに製品が表示されます。製品を別のアカウントと関連付けたい場合は、ユーザー認証情報を変更する必要があります。詳しくは、[24 ページの「ユーザー認証情報の変更」](#)を参照してください。

CorelDRAW Graphics Suite を認証するには

- 1 アプリケーション ウィンドウの右上隅にある **[サイン イン]** ボタンをクリックします。



- 2 表示されたダイアログ ボックスで、次のいずれかの操作を行います。
 - Corel.com のアカウントに関連付けられた電子メール アドレスとパスワードを入力してサイン インします。
 - 指示に従って、アカウントを作成してサイン インします。



インターネットに接続されている場合、これでオンラインの機能にアクセスできるようになります。

アカウント設定

アプリケーション内から [アカウント] ページにアクセスすると、アカウント設定を確認できます。[アカウント] ページでは、アカウントに関連付けられた製品について詳細情報を調べたり、サポートにアクセスしたり、通信環境設定を設定したりできます。

まれに、自分のアカウント設定に直前の操作が反映されていないことがあります。その場合はアプリケーション内でアカウントを更新できます。

自分の corel.com のアカウントを確認するには

- [ヘルプ] ▶ [アカウント設定] をクリックします。

アップデート

製品のアップデートは、以前はサービス パックと呼ばれていましたが、製品体験を強化する、パフォーマンスや安定性の改善が含まれています。デフォルトでは、製品のアップデートやニュースが入手できるようになると、自動的に通知を受け取ります。アップデートとメッセージの設定はカスタマイズできます。たとえば、アップデートや特典情報をトレイ通知として受け取る頻度を、毎日、毎週、毎月、なしの中から選択できます。



製品アップデートの情報を表示するには、[ヘルプ] ▶ [更新] をクリックします。

アップデートやメッセージの設定をカスタマイズするには、[ヘルプ] ▶ [メッセージの設定] をクリックします。

ユーザー認証情報の変更

CorelDRAW Graphics SuiteCorelDRAW Technical Suite のユーザーおよび所有者として、自分のユーザー認証情報を知っておく必要があります。

- 製品のシリアル番号 — 製品のインストールおよび再インストールに使用します。シリアル番号は製品ライセンスの固有の識別子です。
- Corel.com アカウントに関連付けられた電子メール アドレス。Corel.com アカウントごとに、固有の電子メール アドレスとパスワードが必要です。オンラインの機能やコンテンツにアクセスするために製品を認証する場合、特定の Corel.com アカウントでサイン インして、製品にそのアカウントと電子メール アドレスを関連付けます。

このトピックでは、アカウント設定を変更してからインストール済みの製品のユーザー認証情報を更新して新しいアカウント設定に適合させる必要がある 2 つの一般的なケースについて説明します。ユーザー認証情報を更新することで、製品のアンインストールと再インストールを行う必要がなくなります。

同じ Corel.com アカウントで個別に購入した 2 つの製品サブスクリプションをマージして、両方のサブスクリプションの更新日が同一になるようにする場合:

この場合、各サブスクリプションは異なるシリアル番号が関連付けられています。まず [アカウント] ページに移動して、両方のサブスクリプションにどちらか一方のシリアル番号を関連付ける必要があります。次に、使用しなかったシリアル番号を持つ製品のユーザー認証情報を変更します。

手順 1: corel.com にサイン インして [アカウント] ページに移動し、[製品ステータス] 領域の [マージ] をクリックします。[サブスクリプション] ページで、マージしたいサブスクリプションを選択します。[選択の確認] ページに進んで、保持したいシリアル番号を選択します。

手順 2: 使用しないシリアル番号を持つ CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT のバージョンを起動します。[ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。ダイアログ ボックスの左側のペインで [ユーザー ID] をクリックします。次に、[認証情報の編集] をクリックし、ダイアログ ボックスに手順 1 で選択したシリアル番号を入力します。

異なる電子メール アドレスと関連付けられた 2 つの Corel.com アカウントがあり、2 つのアカウントをマージしたい場合:

はじめに、Corel サポート サービスに電話してアカウントのマージを依頼する必要があります。次に、製品から電子メール アドレスを更新します。

手順 1: Corel サポート サービスに連絡して 2 つのアカウントのマージを依頼します。マージ後のアカウント用に、有効な電子メール アドレスを伝えます。それぞれのアカウントにサブスクリプションまたはアップグレード プログラムがある場合、個別のシリアル番号に関連付けられているため、どちらか 1 つのシリアル番号を選択する必要があります。

手順 2: 使用しないアカウントと電子メール アドレスと関連付けられている CorelDRAW または Corel PHOTO-PAINT のバージョンを起動します。[ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。ダイアログ ボックスの左側のペインで [ユーザー ID] をクリックします。[認証情報の編集] をクリックし、表示されたダイアログ ボックスで、マージ後のアカウント用に選択した電子メール アドレスを入力します。パスワードを入力します。必要に応じて、手順 1 で選択したシリアル番号を入力します。

プライバシーとプロファイル

Corel は、アプリケーションの機能を向上させるためにお客様が使用している機能を追跡します。また、[学習] ドッキング ウィンドウで学習資料を検索すると、Corel は、検索内容を追跡して、その情報を使用し、既存の学習資料を改善し、新しいチュートリアルを作成します。プライバシー設定を調整して、いつでも機能と検索用語の追跡を停止することができます。

プロファイル作成が完了すると、アンケートに入力した情報 (製品の習熟度や作成するプロジェクトなど) に基づいて学習資料が推奨されます。お勧めの学習資料を通知しないようにする場合は、プロファイルをデフォルトの状態にリセットできます。プロファイルは、応答を変更したり、新たに追加した質問に回答したりすることで、いつでも編集できます。最新のプロファイルにより、当社は推奨機能を向上させることができます。

プライバシー設定を管理するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[プライバシー] をクリックします。
- 3 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
お使いの機能を Corel が追跡することを許可または禁止する	[機能の使用状況を共有] チェック ボックスをオンまたはオフにします。
[学習] ドッキング ウィンドウの [検索] タブで、Corel が検索に関する情報を収集することを許可または禁止する	[検索用語を共有] チェック ボックスをオンまたはオフにします。 注記: [学習] ドッキング ウィンドウの [検索] タブで学習資料を検索する機能はアプリケーションの機能であるため、[機能の使用状況を共有] チェック ボックスをオフにすると、[検索用語を共有] チェック ボックスもオフになり、デフォルトでグレー表示になります。

プロファイルを管理するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[プライバシー] をクリックします。

3 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **プロフィールのリセット** – プロファイルをデフォルトの状態に戻します。これにより、[Welcome スクリーン] と [学習] ドッキング ウィンドウに推奨事項が表示されないようになります。
- **プロフィールの編集** – 最新のプロフィール アンケートを開きます。これにより、新たに追加された質問に対する応答や回答を更新できます。

Corel サポート サービス

Corel サポート サービスでは、Corel 製品の機能、仕様、価格、在庫、サービス、およびテクニカル サポートに関する詳細情報を提供します。Corel 製品に関するサポート サービスの最新情報については、www.corel.jp/support をご覧ください。

フィードバックの送信

CorelDRAW Graphics Suite に対するご意見やご提案をオンライン ポータルに送信できます。ポータルでは、他のユーザーが送信内容を確認したり評価したりできます。他のユーザーからのフィードバックに投票したり、意見を投稿したりすることも可能です。フィードバックを送信し、フィードバックに投票またはコメントするには、CorelDRAW Graphics Suite アイデア ポータル アカウントにログインする必要があります。ポータルは英語でのみ利用できます。

アイデアを共有し、アプリケーションに関するフィードバックを送信するには

- 1 次のいずれかの操作を実行します。
 - [ヘルプ] ▶ [アイデアとフィードバックの送信]。
 - [ヘルプ] ▶ [Welcome スクリーン] をクリックして、[アイデアとフィードバック] をクリックします。
 - [ヘルプ] ▶ [学習] をクリックして、[アイデアと提案を共有する] をクリックします。
- 2 CorelDRAW Graphics Suite アイデア ポータルで、[ログイン/サインアップ] をクリックして、資格情報を入力します。CorelDRAW Graphics Suite アイデア ポータル アカウントを持っていない場合は、作成することができます。
- 3 [新しいアイデアの追加] をクリックします。
- 4 [新規アイデア] ページで、[アイデア] ボックスに要約したアイデアを入力します。
入力を始めると、ボックスに同様のアイデアが表示されます。新しいアイデアを作成する前に、それらに投票するかどうか検討できます。[すべてのアイデアを検索] ボックスに入力すると、既存のアイデアを検索できます。同意するアイデアがある場合、対応する [投票] ボタンをクリックします。
- 5 [詳細を入力してください] ボックスで、アイデアに関する詳細を入力します。
- 6 [アイデアの追加] をクリックします。

Corel PHOTO-PAINT™



CorelDRAW Graphics Suite の新機能

CorelDRAW® Graphics Suite の新機能と強化された機能は、次のトピックで説明しています。

- ページ 27 の「[CorelDRAW Graphics Suite September 2022 Subscriber Update](#)」。
- ページ 28 の「[CorelDRAW Graphics Suite March 2022 Subscriber Update](#)」。
- ページ 32 の「[CorelDRAW Graphics Suite 2021.5](#)」。
- ページ 34 の「[CorelDRAW Graphics Suite 2021](#)」。

CorelDRAW Graphics Suite September 2022 Subscriber Update

新機能と機能強化 Google Web Picture (*.webp) ファイル形式のサポート

CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT は、Google Web Picture (*.webp) ファイル形式をサポートするようになりました。Google が開発したこのオープン標準のファイル形式は、Web での利用を目的としており、画像のデータ非損失型圧縮とデータ損失型圧縮に対応しています。WEBP データ非損失型画像は PNG よりも小さく、WEBP データ損失型画像は JPEG 画像よりも小さくなります。他のサポート対象ファイルと同様に、WEBP ファイルをインポートできます。ファイルを WEBP 形式にエクスポートする場合は、ニーズに合わせていくつかのプリセットから選択したり、新しいプリセットを作成して将来の利用のために保存したりできます。品質や圧縮率などの高度な設定により、RGB チャンネルの圧縮係数を柔軟に調整し、エンコード速度、ファイル サイズ、品質の比率を制御できます。画像の透明度は、インポートとエクスポートの両方で維持されます。詳しくは、571 ページの「[Google Web Picture \(WEBP\)](#)」を参照してください。

新機能と機能強化 演習プロジェクト

演習プロジェクトは、CorelDRAW (CDR) ファイルおよび Corel PHOTO-PAINT (CPT) ファイルのコレクションで、ダウンロードして学習、トレーニング、デモに利用できます。これらの新しいアプリ内チュートリアルを利用して、基本的な概念を演習したりスキルを磨いたりできます。各 CorelDRAW チュートリアルには、参考になる完成版のプロジェクトに加えて、部分的に未完になっているプロジェクトがあり、手順ごとの説明で対話的に学習することができ、プロジェクトを順調に進めるために役立っています。[学習] ドキュメント ウィンドウ [検索] タブでは、演習プロジェクトへのアクセスと参照を行うことができます。ユーザー プロファイルのアンケートに回答して、ニーズに合った演習プロジェクトが推奨されるようにしてください。詳しくは、46 ページの「[演習プロジェクト](#)」を参照してください。

新機能と機能強化 [新規ドキュメントの作成] ダイアログ ボックス

[**新規ドキュメントの作成**] ダイアログ ボックスは、描画を始めるための中心的な場所になるように再設計されました。ダイアログ ボックスには、[**ドキュメントの設定**] と [**テンプレート**] の 2 つのタブがあり、表示を簡単に切り替えることができます。

[**ドキュメントの設定**] タブ ([**ファイル**] ▶ [**新規作成**]) では、ドキュメントの設定を指定するか、プリセットを選択して、空白の状態から描画を開始できます。CorelDRAW では、印刷、Web、デバイス固有、ソーシャル メディアなど、幅広いプリセットを検索

したり参照したりできます。プリセットには、ページのサイズと向き、主カラー モード、測定単位、および解像度の定義済み設定が含まれています。たとえば、[ソーシャル] カテゴリの [LinkedIn カバー] プリセットでは、ピクセル (インチではなく)、横向き、RGB カラー、LinkedIn カバー画像の寸法が設定として定義されています。CorelDRAW では、プリセットをより簡単に見つけられるように、カテゴリとページの種類で絞り込み、名前、日付、ページ サイズで並べ替えることができます。詳しくは、6 ページの「描画を作成する/開く」を参照してください。

[テンプレート] タブ ([ファイル] ▶ [テンプレートから新規作成]) で、テンプレートから描画を開始できます。テンプレートの絞り込みと並べ替えのために、およびローカル フォルダとネットワーク フォルダへのアクセスのために、インターフェースが再編成され、必要なテンプレートがすばやく見つかるようになりました。詳しくは、4 ページの「テンプレートを検索する」を参照してください。

新機能と機能強化スケール ツール

CorelDRAW では、オブジェクトまたは画像の一部を特定のサイズに簡単にスケールできます。時間短縮を実現する**部分スケール** ツールを使用すると、目的の寸法に合わせてオブジェクトの一部のサイズを変更できます。たとえば、ドアの高さを 213 cm (7 フィート) にする必要がある場合は、その値を指定し、ドアに沿って垂直方向にドラッグしてスケールします。オブジェクトのサイズを変更して、別のオブジェクトに合わせる場合、インタラクティブな**参照値整合** ツールを使用して精度を高めることもできます。たとえば、この便利な新しいツールを使用すると、特定のナットに完全に収まるように、ネジのスケールと移動を同時に実行できます。詳しくは、44 ページの「オブジェクトをサイズ変更/スケールする」を参照してください。

新機能と機能強化エクスポート時にページの境界線までアートワークを切り抜く

ファイルを PNG、JPEG、および GIF 形式にエクスポートする場合、アートワークを描画ページの境界線まで切り抜いて、不要なオブジェクトを削除し、ファイル サイズを小さくすることができます。

機能強化[エクスポート]

CorelDRAW Graphics Suite September 2022 Subscriber Update では、[エクスポート] にさまざまな機能と拡張機能が導入されており、ワークフローが改善されています。アセットとページは 3 つの新しい形式でエクスポートできるようになりました。Adobe Illustrator (AI)、AutoCAD Drawing Database (DWG) および AutoCAD Drawing Interchange Format (DXF)。便宜上、[エクスポート] ではアセットとページの名前を直接変更できます。なお、アイテムが選択されていない場合、[エクスポート] ボタンはグレー表示になります。

新機能Windows 11 に合わせて更新されたユーザー インタフェース

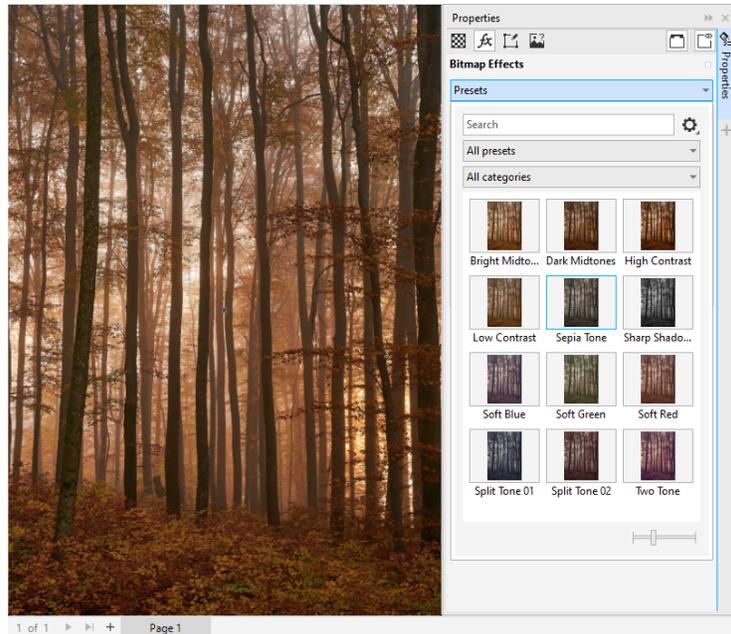
更新された Windows 11 ユーザー インタフェースに外観を合わせるため、CorelDRAW Graphics Suite September 2022 Subscriber Update では、アプリケーション ウィンドウとダイアログ ボックスの丸い角、ダイアログ ボックスの影、新しいアプリケーション タイトルバー、スナップ レイアウトを採用しています。

CorelDRAW Graphics Suite March 2022 Subscriber Update

新機能調整プリセット

CorelDRAW Graphics Suite March 2022 Subscriber Update では、調整プリセットが完全に再構築されました。Corel PHOTO-PAINT™ でマルチフィルタ調整プリセットを非破壊的に作成して、それらのプリセットを CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT の両方に適用できるようになりました。イメージをうまく編集できた場合、調整フィルタ設定を組み合わせ保存し、別のプロジェクトで簡単に再使用できます。

プリセットをカスタム カテゴリに編成したり、単にデフォルトのカテゴリに割り当てたりすることもできます。さらに、モノクロ、カラー、トーンのカテゴリを含む慎重にキュレートしテストされたプリセット スタイルのコレクションから選択することで、編集プロセスを即座に開始できます。



CorelDRAW では、[プロパティ] ドッキング ウィンドウの [FX] タブから調整プリセットを適用できます。

新機能と機能強化調整メニュー

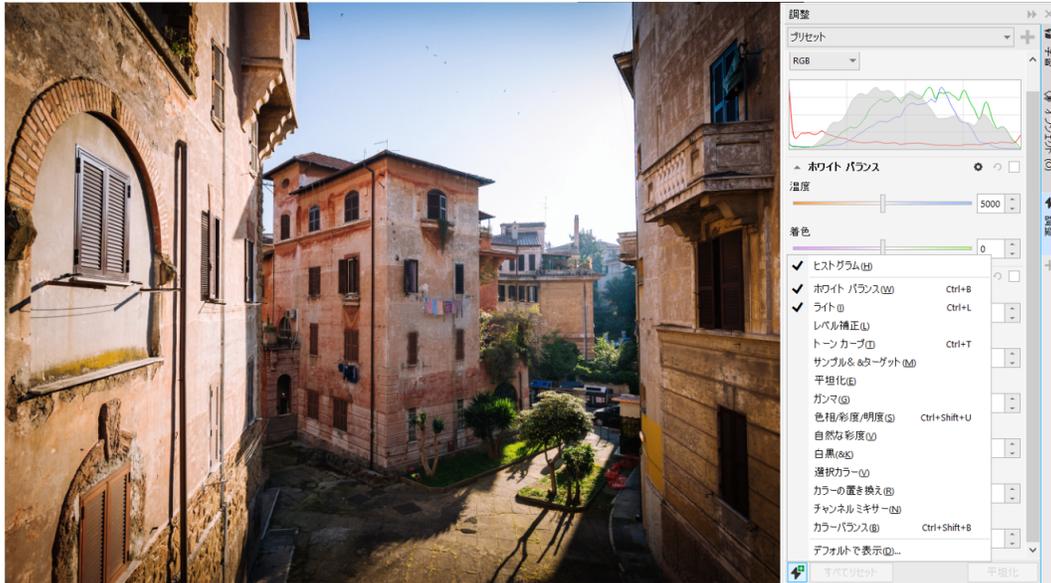
Corel PHOTO-PAINT で再構築された調整メニューからフィルタを選択すると、[調整] ドッキング ウィンドウが選択したフィルタに対して自動的にツールや設定を起動します。すべての調整が非破壊的であり、際限なく試すことができるようになりました。シングルクリックで調整をリセットしたりフラット化したりできます。また、時間を節約するために設計された新しいショートカットやコマンドがあり、メニュー コマンドを使用して、即座に調整をコピー アンド ペーストできます。

新機能と機能強化[調整] ドッキング ウィンドウ

Corel PHOTO-PAINT の [調整] ドッキング ウィンドウが、あらゆる調整フィルタを使用できるように再編成されました。4 つの新たなフィルタが追加され、既存のフィルタに新しいインタフェース エLEMENT と編集オプションが導入され、簡単に望む結果を得ることができます。

モノクロ フィルタに新しいクリエイティブ オプションが追加され、これにより、カラー イメージからグレースケールに変換する際の制御が向上します。イメージのシャドウとハイライトを分離して各イメージ特性の色相と彩度を個別に調整できるようになりました。これは、着色に非常に効果的です。

また、[カラー バランス]、[均一化]、[サンプル&ターゲット] の各フィルタおよび新しい [レベル] フィルタの制御が向上し、イメージのコントラストを簡単に調整できます。[カラー バランス] フィルタでは、新しいカラー サンプリング ツールを使用して、シングルクリックでニュートラル グレーを設定できます。ヒストグラム インタフェースが強化され、調整時により優れた視覚表現を提供するために、[色相]、[彩度]、[メイド]、[モノクロ]、[カラーの置き換え]、[チャンネル ミキサー]、および [カラー バランス] の各フィルタのスライダにカラーを追加しました。



強化された [調整] ドッキング ウィンドウ。

機能強化[調整] ドッキング ウィンドウのパフォーマンス

Corel PHOTO-PAINT で、[調整] ドッキング ウィンドウを使用すると、イメージ編集速度が格段に向上していることがわかります。ディスプレイのキャッシング システムが強化されたため、調整フィルタは滑らかになり、反応性も高くなります。これにより、特に小さなイメージの詳細や領域を拡大する際に役立ちます。また、CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT ではマルチコア プロセッサをサポートし、アプリケーションで簡単に調整を適用できます。

新機能と機能強化一般的な機能強化

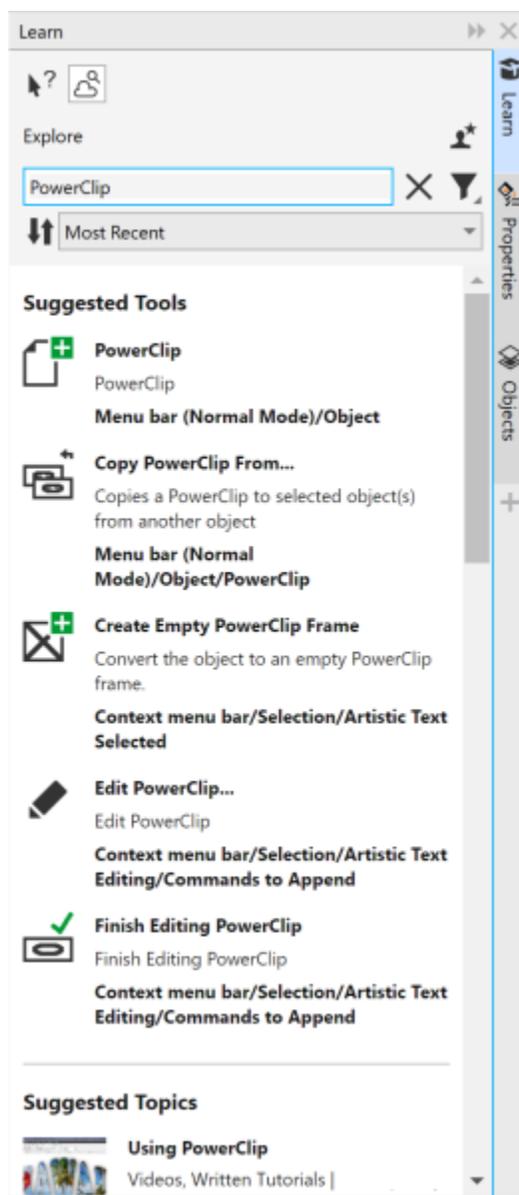
CorelDRAW Graphics Suite March 2022 Subscriber Update は、ユーザーからのよくあるリクエストから発想を得たさまざまな強化機能を提供します。CorelDRAW には、ビットマップを操作するための 5 種類の新しい調整フィルタと 19 種類の効果が用意されています。これらの設定には、[効果] メニューからアクセスできます。

Corel PHOTO-PAINT では、[オブジェクト] ドッキング ウィンドウのライブ結果を示す不透明度スライダが表示されるようになりました。これにより、オブジェクトの不透明度の変更を簡単に調整し、確認できます。また、マスクを使用している場合、複数のオブジェクトを含む選択肢に非破壊的な効果を適用することもできるようになりました。

Corel PHOTO-PAINT で非破壊的な効果を適用した作品を保存すると、ファイル サイズを小さくするよう通知されます。多くの場合、効果データに ZIP 圧縮を新たに使用すると半分ほどのサイズになります。[マスク] メニューには新しいエッジの透明度オプションもあり、マスク エッジの透明度の減少度を制御できます。また、複数のマスク ツールのカーソルが更新され、作成状態が変換状態なのかがわかりやすくなりました。

新機能と機能強化[学習] ドッキング ウィンドウ

[学習] ドキュメント ウィンドウ (以前のバージョンの [ヒント] ドキュメント ウィンドウ) の新しい [検索] セクションで学習資料やツールを検索します。アプリケーション内の豊富なオンライン リソースのライブラリにアクセスして参照し、製品の機能をすばやく理解することができます。プロファイルを完成させると自分のレベルやニーズに適したビデオやチュートリアルが推奨されます。さらに、フィルタを適用して好みの学習資料のみを表示できます。また、関連性、日付、最適一致順に並べ替えることができます。詳しくは、43 ページの「[学習] ドッキング ウィンドウ」を参照してください。



[学習] ドッキング ウィンドウ。

新機能パーソナライズ設定

プロフィール アンケートで入力した答えに基づいて、パーソナライズされた学習資料が推奨されます。プロフィールを更新すると、ニーズにより適合するようにお勧めの学習資料が変更されます。プロフィールをデフォルトの状態にリセットすると、お勧めが通知されないようにすることもできます。詳しくは、[25 ページの「プライバシーとプロフィール」](#)。を参照してください。

機能強化[ページ] ドッキング ウィンドウ

CorelDRAW の [ページ] ドッキング ウィンドウのサムネイル プレビューが向上し、ページの操作が簡単になりました。さらに、手動でページを並べ替えることなく、アクティブなページの後にページを簡単に挿入できるようになりました。

機能強化マルチページ表示

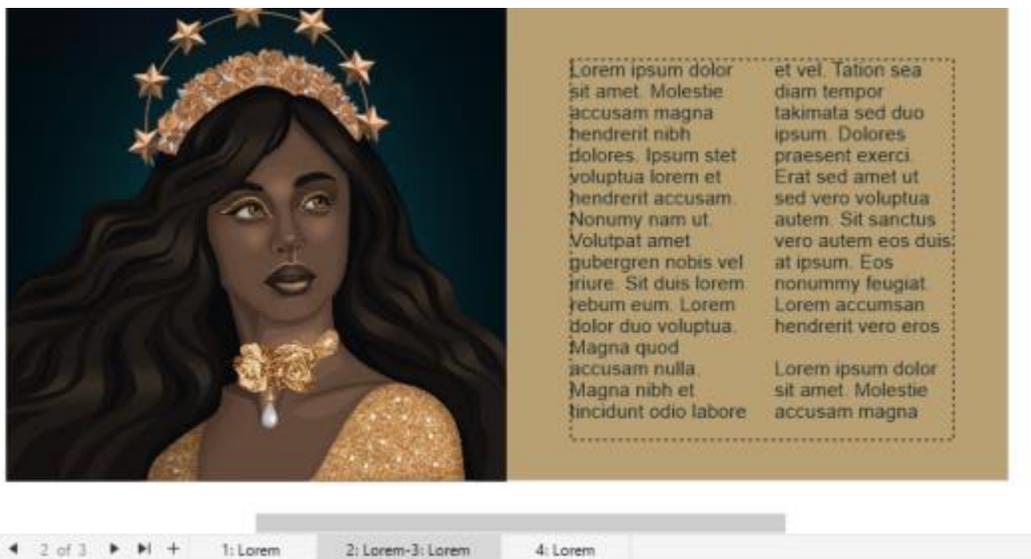
マルチページ表示でインタラクティブにページを標準の長方形オブジェクトのようにサイズ変更できます。中央からページをサイズ変更するには、Shift を押しながらハンドルをドラッグします。

すべてのページを表示するようマルチページ表示の拡大縮小を切り替えます。単一ページ表示を描画ウィンドウのアクティブなページに収まるように拡大縮小します。

機能強化見開きページ

CorelDRAW の [ページ] ドッキング ウィンドウの新しい [スプレッドを表示] コマンドを使用すると、見開きページのスプレッドと単一ページのサムネールの表示を簡単に切り替えることができます。スプレッドを単一ページのサムネールとして表示する場合、[ページ] ドッキング ウィンドウ内で見開きページをドラッグしたり、ドキュメント ナビゲータで見開きページのページ タブを動かしたりして、見開きページを移動することができます。

さらに、ドキュメント ナビゲータの向上したタブにより、見開きページのスプレッドを表示して簡単にページを移動できます。



2 番目と 3 番目のページのタブには、それらのページが見開きであることが示されます。(Claudia Driemeyer によるアートワーク)

機能強化マルチアセット エクスポート

[エクスポート] ドッキング ウィンドウは、ファイルの拡張サポートに対応しており、アセットを TIFF や EPS ファイル形式にエクスポートできます。また、シングル クリックですべてのアセットを選択して、一度にすべてのアセットをエクスポートしたり、エクスポート リストからすべてのアイテムを削除したりできます。

機能強化[アセット] ドッキング ウィンドウ

Cloud アセットの新規のデフォルト リスト表示と強化されたサムネールにより、コンテンツを簡単に表示して使用できます。Cloud とのアセットの同期が速くなり、より信頼性が高まりました。さらに、リンクされたシンボル ライブラリを使用すると、破損したリンクを復元して、ライブラリのシンボルに簡単にアクセスできます。

新機能アイデアを共有しフィードバックを提供する

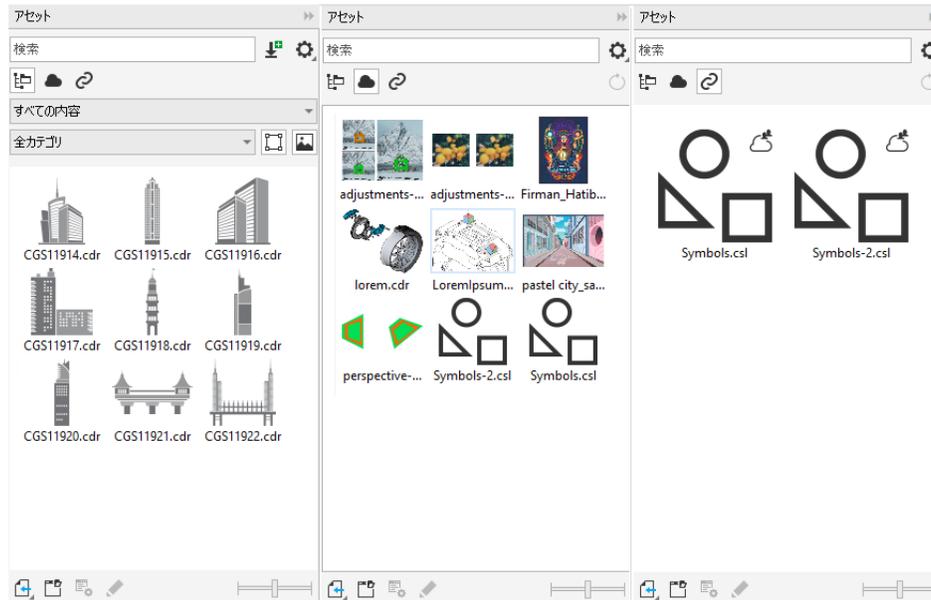
CorelDRAW Graphics Suite に対する提案をアプリケーションから直接送信し、他のユーザーがそのアイデアを評価し、フィードバックを提供することができます。また、他のユーザーからのお勧めをレビューし、投票することもできます。詳しくは、[26 ページの「フィードバックの送信」](#)を参照してください。

CorelDRAW Graphics Suite 2021.5

サブスクリバのみが利用できる CorelDRAW Graphics Suite 2021.5 は、機能強化されたアセット管理、合理化されたコラボレーション ワークフロー、Corel® Font Manager™ からのオンライン フォントへの直接アクセスなど、さまざまな機能を備えています。

新機能と機能強化アセットの管理、共有、および同期

CorelDRAW の **[アセット]** ドッキング ウィンドウ (旧称 **[CONNECT コンテンツ]** ドッキング ウィンドウ) で、すべてのローカル コンテンツ、共有コンテンツ、および Cloud コンテンツにアクセスできます。名前が変更され、強化された **[アセット]** ドッキング ウィンドウでは、Cloud フォルダに保存され共有されているすべてのシンボル ライブラリおよびその他のファイルにすばやくアクセスできます。また、リンクされているシンボル ライブラリを表示したり、それらをローカルまたはオンラインのソースと同期して常に最新の状態に保つことができます。



[アセット] ドッキング ウィンドウでは、ローカル アセット、Cloud アセット、およびリンクされたアセットを操作できます。

機能強化Cloud ファイルのパフォーマンス

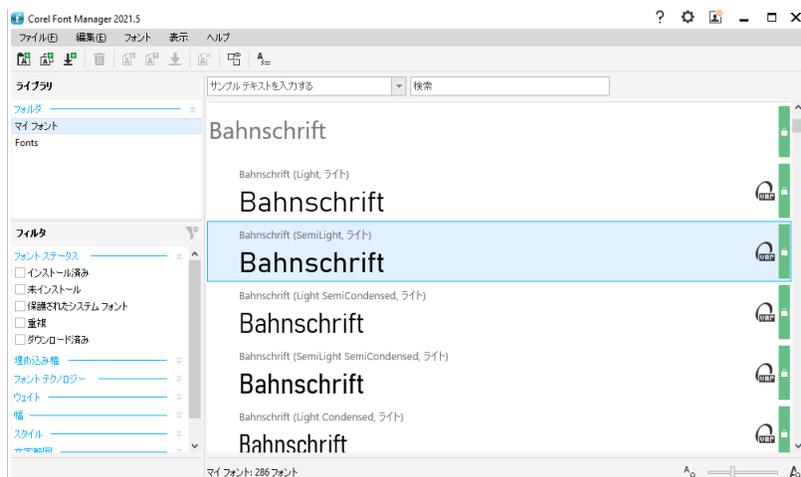
Cloud ファイルをよりすばやく簡単に操作できるようになりました。ドキュメントを Cloud に保存したり、Cloud ドキュメントを開いたり共有するときに、速度とパフォーマンスが向上されていることに気づくでしょう。

機能強化コラボレーション

合理化されたログイン プロセスにより、Corel アカウントを使用して Cloud と **[注釈]** ドッキング ウィンドウに同時にサイン インできます。サイン イン後にドキュメントに追加した注釈は、名前に加えて電子メール アドレスで識別されるようになりました。また、認証情報を一切提供せずに匿名の注釈を追加できます。

新機能オンライン フォントへのアクセス

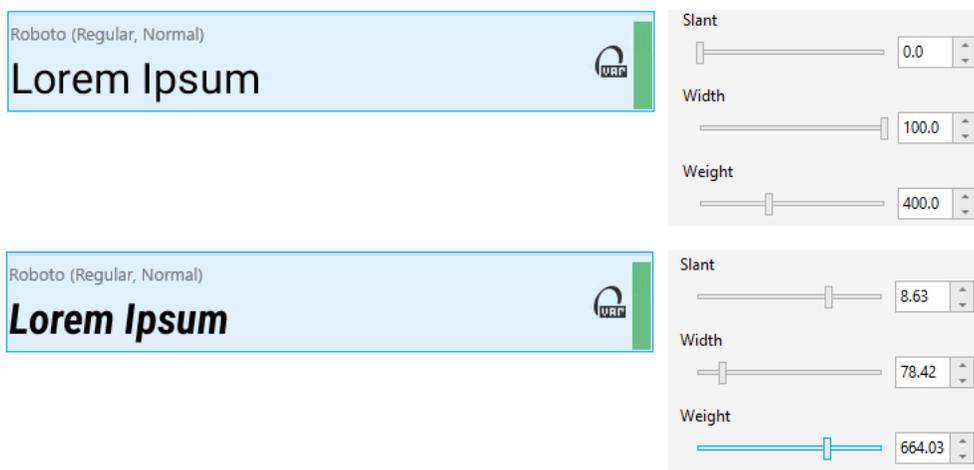
Corel Font Manager から直接 Google Fonts ライブラリの 1000 を超えるフォント ファミリーにアクセスして、それらをデザインで使用できます。インストールすることなく簡単に、オンライン フォントを参照、検索、およびプレビューできます。気に入ったフォントをダウンロードまたはインストールして、CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT の **[フォント リスト]** ボックスからそれらにアクセスできます。



Google Fonts に簡単にアクセスできます。

新機能Corel Font Manager での可変フォントのプロパティの調整

Corel Font Manager で可変フォントのプロパティを表示および調整できるようになりました。



可変フォントのプロパティの調整

機能強化[ソース] ドッキング ウィンドウでのファイルのサポート

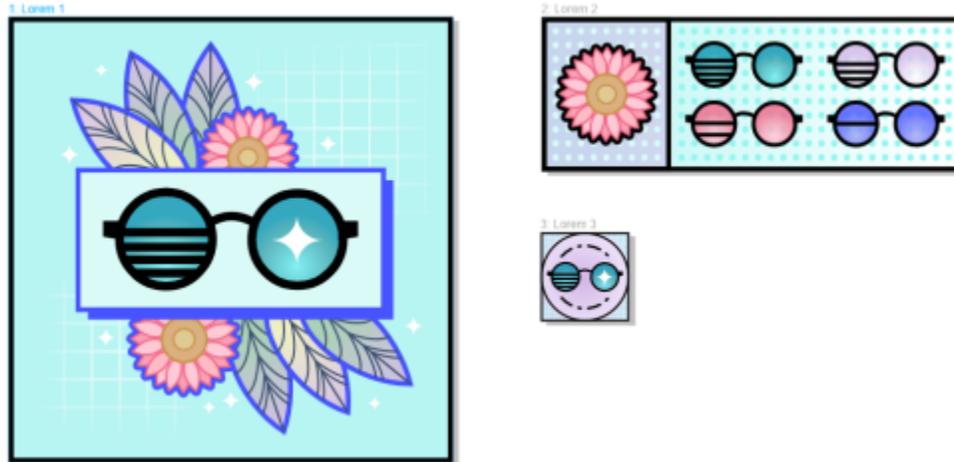
CorelDRAW の [ソース] ドッキング ウィンドウの強化されたファイル サポートにより、複雑なプロジェクトを簡単に構成することができます。外部のリンクされた CorelDRAW ファイルに描画を追加できます。Excel ブック (XLS および XLSX) またはカンマ区切り値 (CSV) ファイルをインポートして、プロジェクト情報が含まれているリンクされたテーブルを追加することもできます。また、リンクされたファイルをいつでもソースと同期して、最新の変更で更新できます。

CorelDRAW Graphics Suite 2021

CorelDRAW Graphics Suite 2021 は、デザイン過程全体の合理化にとって頼もしい味方です。革新的なイメージ編集機能、生産性の向上を促す次世代のコラボレーション機能、そして創造性の限界を押し広げる先進の新イラストレーション ツールを使用すれば、作成対象が Web か印刷かを問わず、仕事がかどります。

新機能マルチページ表示

CorelDRAW® 2021 では、マルチページ表示を使用してデザイン ワークフローをスピードアップできます。ドキュメントのページをすべて同時に表示でき、描画の別部分への移動にタブのクリックが不要です。

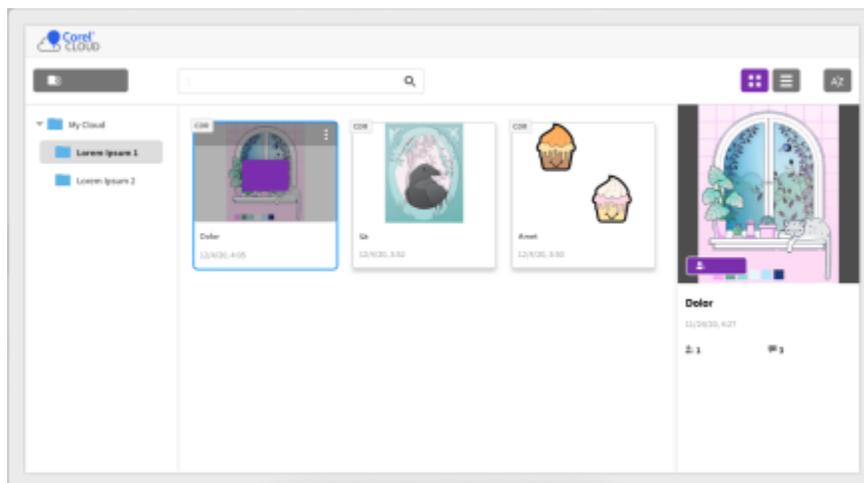


プロジェクトのデジタル アセットをすべて同じ画面で表示、管理、編集する

新機能ライブ コメント

この新機能を使用すると、誰もがプロジェクト作業にリアルタイムで関わられます。関係者が CorelDRAW.app™ でドキュメントに注記を付けると、CorelDRAW 2021 での作業ファイルにすべてのフィードバックがすぐに表示されます。

CorelDRAW 2021 と CorelDRAW.app™ のどちらにも新しいダッシュボードが備えられ、コラボレーション ハブの役割を果たします。Cloud 上の描画がすべて含まれているほか、プレビュー、コメント数、チーム メンバー数、プロジェクト ステータスがワンクリックで表示されます。また、デザインをこのダッシュボードで CorelDRAW 2021 から直接共有でき、ファイルをひとつひとつ開く必要がありません。



プロジェクト ダッシュボードでは、ファイルの保存、表示、整理と、Cloud に保存されたファイルの共有ができます。

新機能遠近効果を用いた描画

CorelDRAW 2021 では、遠近効果を用いたオブジェクトやシーンの描画がこれまでになく簡単になりました。この新機能は透視投影の原理に基づいており、複雑なグリッドをあらかじめ用意する必要がなく、生産性が大幅に向上します。

すぐに使い始められるよう、4種類の遠近効果を用いる描画のプリセットが用意されており、視点場の任意の部分を調整して簡単にカスタマイズできます。遠近効果グループを複数作成し、同じページまたはドキュメント内でそれぞれ独自の視点場を持たせられるので、可能性は無限大です。

制作するのがイラスト用のテキストチャやパターンでも、製品案の立体感のあるスケッチでも、距離や奥行き of 視覚効果を用いたコンセプトデザインのプルーフでも、遠近効果を用いて描画することで目の前の作業を簡単に仕上げることができます。

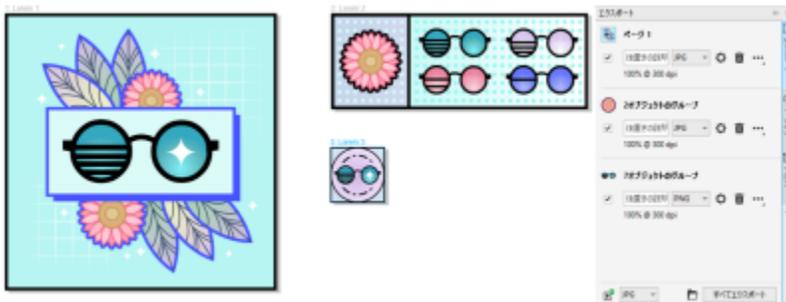


オブジェクトやイラスト化したシーンを、遠近効果を用いてこれまでになく簡単迅速に描画できます。

新機能マルチアセット エクスポート

CorelDRAW 2021 では、エクスポートするアセットのカスタマイズ リストを作成し、ワンクリックでエクスポートできます。新しい【エクスポート】ドッキング ウィンドウには、ページやオブジェクトを出力するための、柔軟で時間の節約になる各種オプションが用意されています。

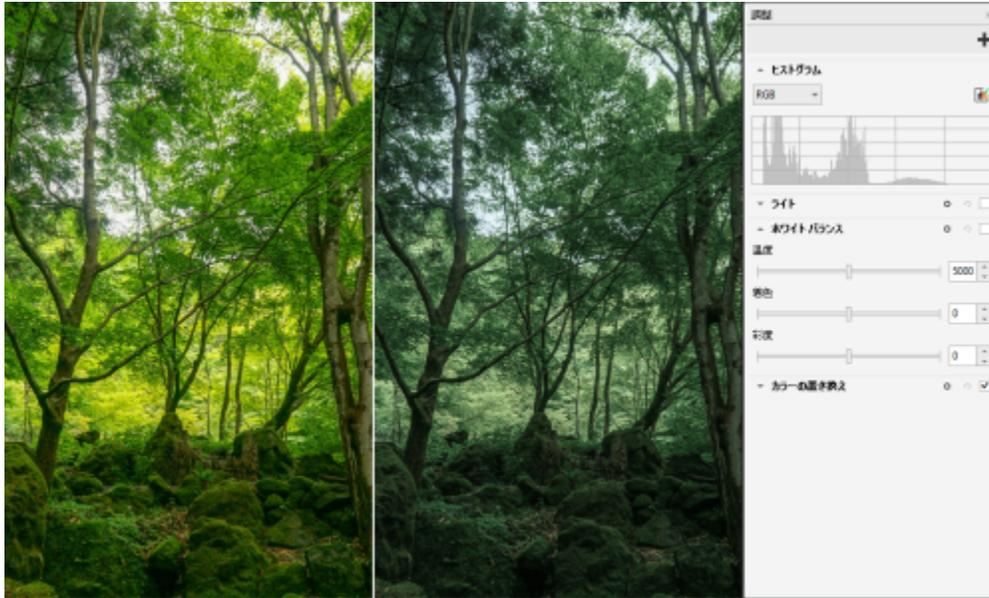
ページやオブジェクトをものの数クリックで、PDFをはじめとする複数の業界標準形式で送信できます。デザイン要素を【エクスポート】ドッキング ウィンドウで複製し、出力オプションを変更することで、同じデザイン要素を異なる設定で同時にエクスポートできます。または、同一の環境設定を使用して複数の項目を同時にエクスポートできます。



リストされたページやオブジェクトを各種形式にワンクリックでエクスポートできます。

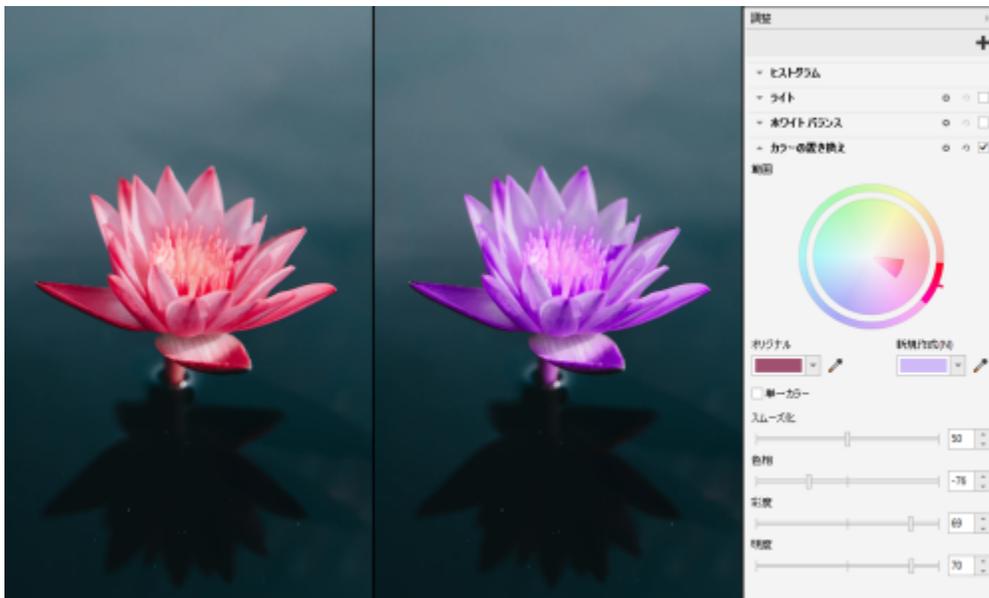
機能強化イメージの調整

Corel PHOTO-PAINT 2021 に、イメージ編集の効率と正確さをいっそう高める各種機能および機能強化が導入されました。新しい【調整】ドッキング ウィンドウでは、頻繁に使用する重要なフィルタの大半にすぐにアクセスでき、作業を迅速かつ非破壊的に、リアルタイムで、その場で行うことができます。さらに、新しい【ローカル調整モード】により、フィルタの対象をイメージの特定領域に限定するのが簡単になりました。詳しくは、167 ページの「【調整】ドッキング ウィンドウ」を参照してください。



重要なイメージ調整を非破壊的に、リアルタイムで、その場で適用します。

[カラーの置き換え] フィルタが刷新されました。カラー ピッカーやスポイト ツールの機能が強化され、より正確に編集できるようになったほか、新しいインタラクティブ コントロールを使用して色相や彩度の範囲をより直感的に微調整できます。また、Corel PHOTO-PAINT 2021 にスライダが追加され、選択されているピクセルと選択されていないピクセルとの間でカラーの遷移をいっそう滑らかにできるようになりました。詳しくは、182 ページの「カラーの置き換え」を参照してください。



カラーの正確な置き換えや微調整ができます。

新機能HEIF サポート

CorelDRAW Graphics Suite 2021 は High Efficiency Image File (HEIF) をサポートしており、携帯電話で撮影された写真を活用できます。HEIF は、画質を犠牲にせずにファイル サイズを小さくできることから、デフォルトの撮影形式として使用するデバイスが増えています。Corel PHOTO-PAINT では HEIF ファイルの中から核となるイメージをインポートしたり開いたりすることができ、CorelDRAW では描画にインポートすることができます。詳しくは、560 ページの「High Efficiency Image File Format (HEIF)」を参照してください。

新機能[ページ] ドッキング ウィンドウ

CorelDRAW 2021 では、新しい [ページ] ドッキング ウィンドウによって、複数ページのドキュメントに対する作業が簡素化されています。デザインに含まれているすべてのページが表示されるので、管理しやすく、プロジェクトのナビゲーションも簡単です。各ページには、サイズや内容が反映されたスケーラブルなサムネイル プレビューが用意されます。ページの並べ替えは、このドッキング ウィンドウ内でドラッグするだけで簡単です。さらに、ページの追加、削除、名前変更をここだけでできるので、時間と手間が省かれます。また、表示モードをワンクリックで切り替えて、1 つのページに集中したり、新しいマルチページ表示を使用したりできます。



描画内のページを簡単に管理でき、これまでになく迅速にプロジェクト間を移動できます。

新機能ページ サイズの自動調整

CorelDRAW 2021 では、**ページ サイズの自動調整** 機能も時間の節約に貢献します。ページをその内容が納まるようなサイズにワンクリックで変更できます。また、マージンのカスタマイズも、デザイン要素とページの端との間隔を指定して迅速に行うことができます。

機能強化ガイドライン

CorelDRAW 2021 でのガイドラインを使用した作業で、世界単位からページ寸法へと表示を簡単に切り替えられます。加えて、カスタム ガイドラインの管理がいっそう簡単になり、デザインで使用するフレームワークをこれまでになく素早くセットアップできます。

機能強化スクロールとズーム

CorelDRAW Graphics Suite 2021 がシステムのグラフィック処理ユニット (GPU) を効果的に活かせるように最適化されて、スクロールとズームが大幅にスムーズになりました。マウスとトラックパッドのどちらを使っても、ドキュメントを非常に滑らかに操作できます。

寄せられたご意見に基づく機能拡張

新機能フォント コレクションのエクスポート/インポート

Corel Font Manager 2021 には、お使いのフォント コレクションの保持に便利な新機能が用意されています。フォント データベースをインポートおよびエクスポートできるようになっており、このソフトウェアの別バージョンで使用したり他のユーザーと共有したりできます。

機能強化検索/置換

CorelDRAW 2021 におけるオブジェクトの検索と置換がもっと簡単になりました。選択項目の範囲を限定した場合、検索結果に含まれるオブジェクトが新しいインジケータで強調表示されます。

新機能それ自体へのスナップ

CorelDRAW 2021 での複雑なデザインの作業において、オブジェクトがそれ自体にあるスナップ ポイントにスナップしないようにする新しい設定が用意され、デザイン要素を簡単かつ正確に移動および変形できるようになりました。

Corel PHOTO-PAINT™



学習資料

製品の使い方は、『クイック スタート ガイド』を読む、ヘルプ、ヒントおよびツールのヘルプを利用する、ビデオ チュートリアルを見る、Corel Web サイト (www.corel.com) で資料を探すなど、さまざまな方法で学習できます。Web サイトでは、ヒントや追加のチュートリアルにアクセスできます。また、ソフトウェアと一緒にインストールされる Readme ファイル ([readme.html](#)) でチェックすることもできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 41 の「ヘルプを参照する」。
- ページ 43 の「[学習] ドッキング ウィンドウ」。
- ページ 44 の「ヘルプとツールのヘルプ」。
- ページ 45 の「ヒント」。
- ページ 46 の「Welcome スクリーン」。
- ページ 46 の「クイック スタート ガイド」。
- ページ 46 の「演習プロジェクト」。
- ページ 47 の「ビデオ資料」。
- ページ 47 の「開発者の Web サイト」。
- ページ 48 の「ネットワーク配布ガイド」。
- ページ 48 の「Web ベースのリソース」。

ヘルプを参照する

さまざまな学習資料が用意されています。以下の表では、補助が必要な場合に対応する学習資料について説明しています。特定の資料についての詳細情報を得るには、対応するリンクをクリックします。

目的	参照先
アプリケーションの学習を開始します	47 ページの「ビデオ資料」 46 ページの「クイック スタート ガイド」 46 ページの「演習プロジェクト」
タスクの実行に役立つ、お勧めのツールや学習資料に関する情報を取得できます。	43 ページの「[学習] ドッキング ウィンドウ」

目的

新機能と強化された機能について説明します

製品のツールと機能について説明します

グラフィックス デザインのエキスパートから学んでパッケージソフトの予備知識を得ます

マクロとスクリプトを使用して自動タスクについて学習します

ネットワークにパッケージ ソフトを配布する方法について説明します

パッケージ ソフトの最新バージョンについて説明します

表記規則

以下の表では、ドキュメントで使用される重要な表記規則について説明します。

表記	説明	例
[メニュー] ▶ [メニュー コマンド]	続けてクリックするメニュー項目とメニュー コマンド。	[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。

参照先

47 ページの「ビデオ資料」

44 ページの「ヘルプとツールのヘルプ」

45 ページの「ヒント」

48 ページの「Web ベースのリソース」

エキスパートからのヒントは、CorelDRAW Graphics Suite を日常的に使用しているグラフィック デザイン専門家が執筆したチュートリアルです。これらのオンライン チュートリアルには、Corel の Web サイトから直接、個別の PDF ファイルとしてアクセスできます。

48 ページの「Web ベースのリソース」

開発者向けのコミュニティ Web サイト

CorelDRAW Graphics Suite 配布ガイド

ソフトウェアと一緒にインストールされる Readme ファイル (readme.html)。製品がインストールされているフォルダを参照して **[言語]** フォルダを開き、希望の言語フォルダを開きます。

表記



説明

このアイコンより上に記述されている手順に関する重要事項を示します。どのような場合に、上の手順に従って操作するかなどの説明が入っています。

例

複合ブレンドは、コピーしたりクローンしたりすることはできません。

[等幅マージン] ボタンをクリックした場合は、**[上/左端マージン]** ボックスに値を指定する必要があります。



このアイコンより上に記述されている手順に関するヒントを示します。説明されている操作を行う別の方法や、この操作の利点や目的などを説明します。

オブジェクトを切り抜くと、描画ファイルのサイズが小さくなります。

[サイズ] スライダをドラッグすると、カラーグリッドに表示されるカラーボックスの数を変更できます。

[学習] ドッキング ウィンドウ

[学習] ドッキング ウィンドウを使用すると、演習プロジェクト、プロジェクトに役立つビデオ、ヘルプ トピック、チュートリアルなどのさまざまなオンライン学習資料を検索して、利用できます。これらの必要なリソースを簡単に見つけるために、検索結果をフィルタリングして、並べ替えることができます。

製品の使用方法および作成するプロジェクトの種類に関する質問に回答してプロファイルを完成すると、当社は、お客様のスキルレベル、ニーズ、興味関心に一致する学習資料を提案することができます。初めてアプリケーションを起動したとき、または **[学習]** ドッキング ウィンドウの **[検索]** タブからプロファイル アンケートにアクセスできます。

また、**[学習]** ドッキング ウィンドウでヒントやツールのヘルプなどのローカル リソースを検索できます。ヒントの利用方法について詳しくは、45 ページの「**ヒント**」を参照してください。ツールのヘルプの利用方法について詳しくは、44 ページの「**ヘルプとツールのヘルプ**」を参照してください。

[学習] ドッキング ウィンドウでアプリケーションに関するフィードバックを送信したり、アイデアを共有したりできます。詳しくは、26 ページの「**フィードバックの送信**」を参照してください。

学習資料を見つけるには

- 1 **[ヘルプ]** ▶ **[学習]** をクリックします。
- 2 **[学習]** ドッキング ウィンドウで、**[検索]** ボタン  をクリックします。
プロファイルを完成していない場合、**[結果のパーソナライズ]** ボタン  をクリックして、アンケートの質問に回答してください。
- 3 **[検索]** ボックスに、検索用語を入力して、**Enter** を押します。
検索用語を削除するには、**[検索をクリア]** ボタン (X) をクリックします。

可能な操作

検索結果をフィルタ処理する

[フィルタ] ボタンをクリックすると、次のいずれかのフィルタが無効になります。**[ツール ヒント]**、**[演習プロジェクト]**、**[チュートリアル]**、**[ビデオ]**、および **[ヘルプ トピック]**。

検索結果をソートする

[並べ替え] リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

可能な操作

- **最も新しい** — 作成された日付順に学習資料を並べ替えます。最新のものから順に表示されます。
- **あなたへのお勧め** — プロファイルに基づいて学習資料を並べ替えます。お客様のニーズ、興味関心、スキル レベルに適している順に表示されます。
- **最も関連性が高い** — 入力した検索用語との関連性に基づいて学習資料を並べ替えます。



【検索】 タブにアクセスするには、サイン インしている必要があります。詳しくは、23 ページの「CorelDRAW Graphics Suite を認証するには」を参照してください。



【オプション】 ダイアログ ボックスの **【プライバシー】** ページからプロファイル アンケートにアクセスすることもできます。詳しくは、25 ページの「プライバシーとプロファイル」を参照してください。

ヘルプとツールのヘルプ

このヘルプは、製品の機能に関する包括的な情報を提供します。

ヘルプにアクセスするには、アクティブなインターネット接続が必要です。ヘルプは、印刷しやすい PDF 形式のユーザー ガイドとしてオンラインでも利用できます。オフラインで作業することが多い場合は、『Corel PHOTO-PAINT ユーザー ガイド』をダウンロードできます。

トピック リスト全体を参照したり、特定語句を検索したりできます。また、[ヘルプ] ウィンドウから Corel Web サイトの [Corel Knowledge Base](#) や、ビデオなどのその他のオンライン リソースにアクセスすることもできます。

ツールのヘルプは、アイコンやボタンなどのユーザー インタフェース要素上にマウス ポインタが置かれたときに、アプリケーションのコントロールに関する便利な情報を提供します。ツールのヘルプは、すべて非表示にできます。必要に応じて再び表示できます。

ヘルプを使用するには

- 1 **【ヘルプ】** ▶ **【製品のヘルプ】** をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的

ヘルプ内のトピックを参照する

語句を入力してヘルプのフル テキスト検索を行う

作業手順

左側のペインでトピックの見出しをクリックします。

検索ボックスに検索する単語や語句を入力します。

たとえば、「RGB カラー モード」の説明を見たい場合は、「**RGB**」と入力すると、関連するトピックが一覧表示されます。

表示されたリストからトピックを選択します。

ヒント: 該当するトピックが検索結果にない場合は、検索語句の綴りが正しいかどうかを確認してください。英語のヘルプではアメリカ式の綴り (「color」、「favorite」、「center」、「rasterize」など) を採用しているので、イギリ

目的

作業手順

式 (「colour」、「favourite」、「centre」、「rasterise」) では検索で見つかりません。



F1 を押してヘルプにアクセスすることもできます。

ダイアログ ボックスの **[ヘルプ]** ボタンをクリックすると、コンテキストに応じたヘルプがダイアログ ボックスに表示されます。

Corel PHOTO-PAINT ユーザー ガイドにアクセスするには

- **[ヘルプ]** ▶ **[ユーザー ガイド]** をクリックします。



ユーザー ガイドにアクセスするには、アクティブなインターネット接続が必要です。オフラインでの作業が多い場合は、product.corel.com からユーザー ガイドをダウンロードしてください。

ツールのヘルプの表示/非表示を切り替えるには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[一般]** をクリックします。
- 3 **[外観]** 領域で、**[ツールのヘルプの表示]** チェック ボックスをオンまたはオフにします。

ヒント

ヒントは、ツールボックス内のツールに関する情報を提供します。ツールをクリックすると、アプリケーション ウィンドウ右側の **[学習]** ドッキング ウィンドウの **[ヒント]** タブにツールの使用方法に関するヒントが表示されます。ツールについて詳細な情報が必要な場合は、ヘルプ トピック、ビデオ、チュートリアル文書など、関連する学習資料にアクセスできます。ヒントは、いつでも非表示にすることができます。

ヒントを使用するには

目的

作業手順

ヒントの表示と非表示を切り替える

[ヘルプ] ▶ **[学習]** をクリックして、**[学習]** ドッキング ウィンドウの **[ヒント]** ボタンをクリックします。

[学習] コマンドが有効な場合は、**[学習]** ドッキング ウィンドウが表示され、ツールボックス内のアクティブなツールに関する情報が表示されます。

ツールに関する情報を表示する

ツールをクリックするか、既にアクティブなツールでアクションを実行します。

アクティブなツールに関する情報を取得する

[詳細] セクションで、関連するヘルプ トピック、ビデオ、またはチュートリアル文書へのリンクをクリックします。

目的

以前表示したトピックに移動する

作業手順

[学習] ドッキング ウィンドウの一番下にある **[戻る]** ボタンまたは **[進む]** ボタンをクリックします。



[学習] ドッキング ウィンドウの [ヒント] からアプリケーションに関するフィードバックを送信したり、アイデアを共有したりできます。詳しくは、[26 ページの「フィードバックの送信」](#) を参照してください。

Welcome スクリーン

Welcome スクリーンは、アプリケーションを起動すると表示されます。Welcome スクリーンからは、ドキュメントを素早く開始したり開いたりできます。また、ニーズに最適な作業領域を選択することや、学習ビデオなどの学習資料にオンラインでアクセスすること、CorelDRAW Corel PHOTO-PAINT で作成されたオリジナル アートワークのギャラリーを参考にするることができます。また、発見ファイルはアプリケーションをすぐに使い始める上で役立ちます。

Welcome スクリーンへアクセスするには

- **[ヘルプ]** ▶ **[Welcome スクリーン]** をクリックします。



タブ バーの **[Welcome スクリーン]** ボタンをクリックして、Welcome スクリーンにアクセスすることもできます。

アプリケーションを起動するたびに Welcome スクリーン が表示されないようにするには、**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックして、**[全般]** ページの **[Corel PHOTO-PAINT 起動時]** リスト ボックスから異なるオプションを選択します。

Welcome スクリーンからアプリケーションに関するフィードバックを送信したり、アイデアを共有したりできます。詳しくは、[26 ページの「フィードバックの送信」](#) を参照してください。

クイック スタート ガイド

『クイック スタート ガイド』は、PDF 形式で用意されています。便利なツールや機能が紹介されており、このスイートをすぐに使い始めることができます。

『クイック スタート ガイド』へアクセスするには

- **[ヘルプ]** ▶ **[クイック スタート ガイド]** をクリックします。



クイック スタート ガイドにアクセスするには、アクティブなインターネット接続が必要です。オフラインでの作業が多い場合は、クイック スタート ガイドを product.corel.com からダウンロードしてください。

演習プロジェクト

演習プロジェクトは、CorelDRAW (CDR) ファイルおよび Corel PHOTO-PAINT (CPT) ファイルのコレクションで、ダウンロードして学習、トレーニング、デモに利用できます。これらの簡潔なアプリ内チュートリアルを利用して、基本的な概念を演習したり、スキルを磨いたりしてください。各 CorelDRAW チュートリアルには、参考になる完成版のプロジェクトに加えて、部分的に未完になっているプロジェクトがあり、手順ごとの説明、対話的に学習できる実地研修タスクが充実しています。したがって、これらの資料は、知識を強化して、プロジェクトを順調に進めるために役立ちます。**[学習]** ドッキング ウィンドウで演習プロジェクトにアクセスできます。**[学習]** ドッキング ウィンドウについては、[43 ページの「\[学習\] ドッキング ウィンドウ」](#)

ウ」。「学習したい機能を検索し、コレクション内のどのチュートリアルがニーズに合っているかを確認してください」を参照してください。検索結果のリストで演習ファイルをクリックすると、演習ファイルは **%AppData%\Roaming\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2022\{APP}\Discovery\{LANGUAGE}** フォルダにダウンロードされます。ここで {APP} はアプリケーション、{LANGUAGE} はユーザー インタフェースの言語を表します。たとえば、アプリケーションを英語でインストールした場合、ダウンロードした演習プロジェクトは **%AppData%\Roaming\Corel\CorelDRAW Graphics Suite 2022\PHOTO-PAINT\Discovery\EN** フォルダに格納されます。チュートリアルがデフォルト フォルダにダウンロードされると、チュートリアルがアプリケーションで自動的に開かれます。

演習プロジェクトにアクセスするには

- 1 **[学習]** ドッキング ウィンドウ (**[ヘルプ]** ▶ **[学習]**) で、**[検索]** ボタン  をクリックします。
ニーズに合った演習プロジェクトを推奨させるには、**[結果のパーソナライズ]** ボタン  をクリックして、アンケートの質問に回答し、プロファイルを完成させてください。
- 2 **[検索]** ボックスに、検索用語を入力して、**Enter** を押します。
演習プロジェクトのみを表示するには、**[フィルタ]** ボタンをクリックし、**演習プロジェクト**以外のすべてのフィルタを無効にします。
- 3 検索結果のリストで、学習する演習プロジェクトのサムネールをクリックします。
ファイルがコンピュータにダウンロードされると、アプリケーションで自動的に開かれます。



チュートリアルは作成後に保存することができます。を参照してください。ファイルの保存について詳しくは、[103 ページの「イメージを保存する」](#)。を参照してください。

演習プロジェクトを既にダウンロードしていた場合、次回 **[学習]** ドッキング ウィンドウでこのチュートリアルのサムネール画像をクリックすると、アプリケーションによってローカルバージョンが新しいドキュメントとして開かれます。

ビデオ資料

ビデオ学習資料には、Welcome スクリーンや **[学習]** ドッキング ウィンドウ メニュー、**[ヘルプ]** メニューからアクセスできます。

ビデオ チュートリアルでは、CorelDRAW でのオブジェクトの描画、整形、カラーリング、Corel PHOTO-PAINT でのマスクや切り抜きなど、基本タスクの実行方法を紹介しており、対称、フォント管理、塗りつぶしと透明、整列ツール、QR コード、ビットマップ効果やベクトル効果などの機能を最大限に活用する方法を学習できます。一部のビデオには音声がありませんが、キャプションにより有用なヒントが提示されるため、紹介されている機能の理解に役立ちます。未経験者にとってもベテラン ユーザーにとっても、デモやヒントは有益で、生産性を向上させ、経験値が高められるはずです。

ビデオにアクセスするには

- **[ヘルプ]** ▶ **[ビデオ チュートリアル]** をクリックします。

開発者の Web サイト

マクロまたはスクリプトを使用してタスクを自動化する場合でも、カスタム ツールを作成する場合でも、商用ソリューションを開発して CorelDRAW Graphics Suite に統合する場合でも、[開発者向けのコミュニティ Web サイト](#)ではプログラミング ガイド、コード サンプル付きの詳細なオブジェクト モデル参照ドキュメント、詳細なプログラミング記事などの便利なリソースを豊富に用意して開発者を支援します。

Microsoft Visual Basic for Applications (VBA) または Microsoft Visual Studio Tools for Applications (VSTA) のいずれかを使用して、CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT 用のマクロやカスタマイズされたソリューションを作成できます。

ネットワーク配布ガイド

『CorelDRAW Graphics Suite 配布ガイド』では、CorelDRAW Graphics Suite をネットワークに配布する方法を段階的に説明します。このガイドは、団体用に、CorelDRAW Graphics Suite のボリューム（「マルチシート」）ライセンスを購入するお客様へ提供されます。ソフトウェアのボリュームライセンスを購入して、配布ガイドを取得する方法については、[Corel サポート サービス](#)にお問い合わせください。

Web ベースのリソース

以下の Web ベースのリソースは、CorelDRAW Graphics Suite を最大限に活用する際に役立ちます。

- [Corel Knowledge Base](#) - ユーザーからの質問に答えて Corel テクニカル サポート サービス チームによって記載された記事
- [Community.CorelDRAW.com](#) - 製品に関する自分の経験を共有し、質問を投稿し、アプリケーションに関するフィードバックの送信/アイデアの共有、他のユーザーから解決策やアドバイスをもらうためのオンライン環境
- [Corel Web サイトのチュートリアル](#) - CorelDRAW Graphics Suite のエキスパートの知識やテクニックを学べる詳細なチュートリアル

Web ベースのリソースにアクセスするには、アクティブなインターネット接続が必要です。

Corel PHOTO-PAINT™



起動/設定する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 49 の「Corel PHOTO-PAINT を起動/終了する」。
- ページ 49 の「言語を変更する」。
- ページ 50 の「スタートアップ設定」。

Corel PHOTO-PAINT を起動/終了する

Corel PHOTO-PAINT は Windows タスクバー から起動し、Corel PHOTO-PAINT セッションはアプリケーション ウィンドウから終了できます。

Corel PHOTO-PAINT を起動/終了するには

目的	作業手順
Corel PHOTO-PAINT を起動する	Windows タスクバーで、 スタート ▶ [CorelDRAW Graphics Suite] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
Corel PHOTO-PAINT を終了する	[ファイル] ▶ [終了] をクリックします。

言語を変更する

複数の言語でアプリケーションがインストールされている場合は、ユーザー インタフェースおよびヘルプの言語をいつでも変更できます。

ユーザー インタフェースおよびヘルプの言語を変更するには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[グローバル]** をクリックします。

- 2 **[一般]**をクリックします。
- 3 **[ユーザー インタフェースの言語]** リスト ボックスで言語を選択します。
アプリケーションの起動時にユーザー インタフェースおよびヘルプの言語を変更するには、**[次回起動時にこのアプリケーションを表示]** チェック ボックスをオンにします。
- 4 アプリケーションを再起動します。



[ユーザー インタフェースの言語] リスト ボックスに使用可能な言語が 1 つしかない場合は、最初に希望の言語をインストールする必要があります。詳しくは、[を参照してください。20 ページの「CorelDRAW Graphics Suite インストールを修正/修復するには」](#)。

スタートアップ設定

Corel PHOTO-PAINT の起動設定を指定して、起動時のアプリケーションの表示方法を制御できます。たとえば、ウェルカム画面を開いたり、新規の空白ドキュメントと共にアプリケーションを起動することができます。

スタートアップ設定を変更するには

- 1 **[ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[一般]**をクリックします。
- 3 **[使い始める]** 領域で、**[Corel PHOTO-PAINT 起動時]** リスト ボックスからオプションを選択します。
イメージを開始する時に **[新規イメージの作成]** ダイアログ ボックスを非表示にするには、**[新規イメージ ダイアログ ボックスの表示]** チェック ボックスをオフにします。



Corel PHOTO-PAINT 作業領域の概要

ここでは、Corel PHOTO-PAINT で使用する用語と作業領域について説明します。これを理解すると、ユーザー ガイドおよびヘルプの概念と手順がわかりやすくなります。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 51 の「Corel PHOTO-PAINT の用語」。
- ページ 52 の「アプリケーション ウィンドウ」。
- ページ 54 の「作業領域を選択する」。
- ページ 55 の「ツールバー」。
- ページ 57 の「ツールボックス」。
- ページ 66 の「プロパティ バー」。
- ページ 67 の「ドッキング ウィンドウ」。
- ページ 69 の「カラー パレット」。
- ページ 69 の「ステータス バー」。

Corel PHOTO-PAINT の用語

Corel PHOTO-PAINT で作業を始める前に、次の用語について理解しておいてください。

用語	説明
チャンネル	イメージのカラーまたはマスクに関する情報を保持する 8 ビットのグレースケール イメージ。
編集領域	マスクの編集可能な領域で、選択したイメージ領域にペイントや効果を適用できます。
イメージ	Corel PHOTO-PAINT で開いたり作成したりするファイル。
レンズ	カラーやトーンを補正するときに、イメージの一部または全体を保護するオブジェクト レイヤ。

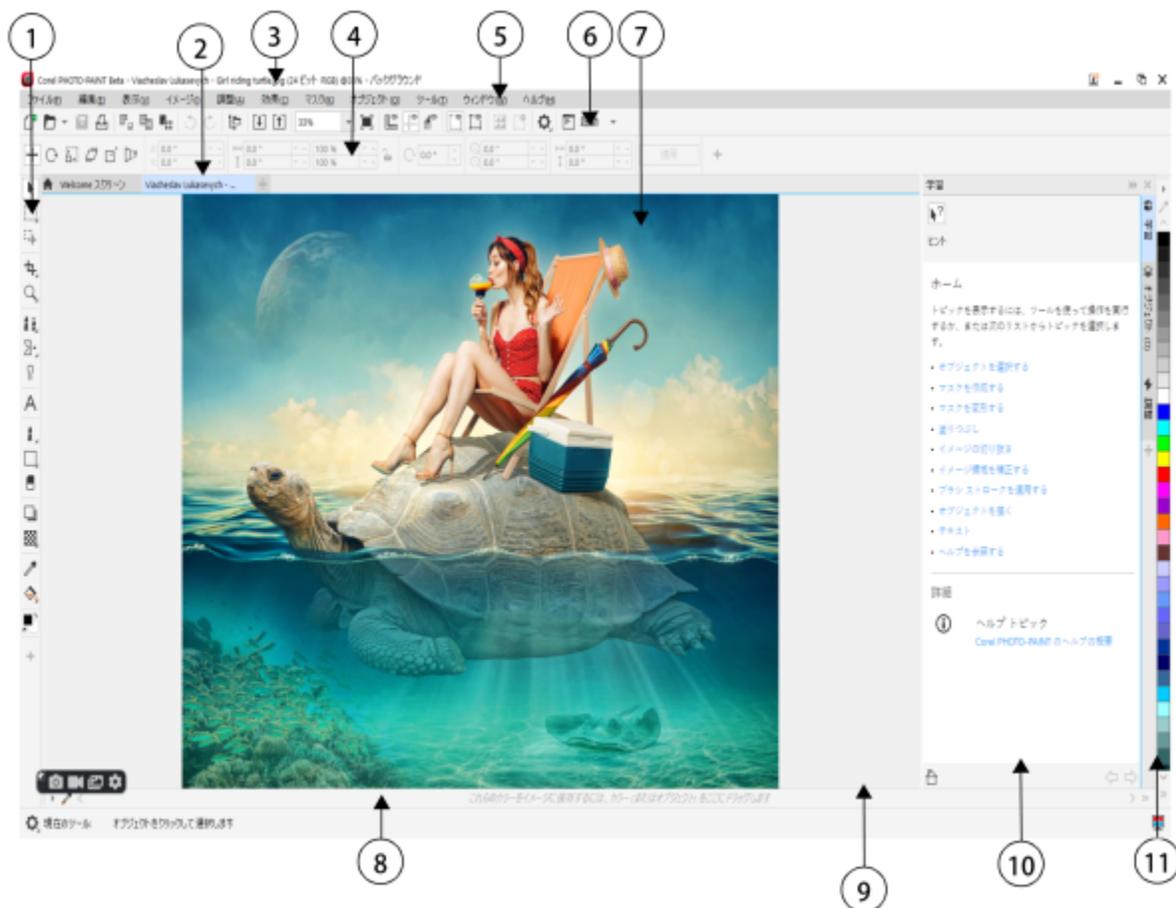
用語	説明
マスク	イメージの編集の際に、イメージにマスクを適用し、保護領域と編集領域を定義します。
オブジェクト	バックグラウンド イメージの前面に重なる独立したビットマップ。
パス	ノードと呼ばれる調整可能な端点を接続した、一連の直線セグメントおよび曲線セグメント。
サムネール	イメージを低解像度で表示する縮小版のプレビュー。

用語と定義について詳しくは、611 ページの「用語集」を参照してください。

アプリケーション ウィンドウ

Corel PHOTO-PAINT アプリケーション ウィンドウには、イメージの表示や編集に必要なツールとコマンドに簡単にアクセスできる要素が表示されます。各アプリケーション コマンドは、メニュー バー、ツールボックス、プロパティ バー、ツールバー、ドッキング ウィンドウから利用できます。

次にアプリケーション ウィンドウの図を示します。



丸数字は、アプリケーション ウィンドウの主要コンポーネントについて説明する次の表内の番号に対応します。

構成要素

1. ツールボックス
2. [ドキュメント] タブ
3. タイトル バー
4. プロパティ バー
5. メニュー バー
6. ツールバー (標準)

説明

- イメージの編集、作成、表示用のツールと、カラーおよび塗りつぶしを選択するためのコントロールが含まれています
- ドキュメント間を素早く移動できます
- 選択したドキュメントのタイトルが表示されます
- アクティブなツールに適したコマンドが含まれています
- ドロップダウン メニューと、カテゴリ別にまとめられたコマンドが含まれています
- 開く、保存、印刷など、メニューとその他の基本的なコマンドのショートカットが含まれています

構成要素

説明

7.イメージ ウィンドウ

イメージが表示されるウィンドウです。一度に複数のイメージウィンドウを開くことができますが、コマンドを適用できるのはアクティブなイメージ ウィンドウのみです。

8.ステータス バー

イメージ情報、システム情報、ヒントが表示されます

9.Navigator

イメージ全体のサムネイルが表示されるので、スクロールしたりパンしたりしなくてもイメージのまわりを移動できます。ナビゲータは、イメージ ウィンドウに入りきらないイメージがあるときにのみ利用できます。

10.ドッキング ウィンドウ:

追加のコマンドとイメージ情報にアクセスできます。ドッキング ウィンドウの中には、常に表示されているものもあります。

11.カラー パレット

カラー ボックスが含まれています

アプリケーション ウィンドウ内の各機能は、作業に応じてカスタマイズすることもできます。Corel PHOTO-PAINT のカスタマイズについて詳しくは、579 ページの「Corel PHOTO-PAINTをカスタマイズする」を参照してください。

作業領域を選択する

Corel PHOTO-PAINT には生産性を上げるためにデザインされた作業領域のコレクションがあります。作業領域とは、アプリケーションを開くときにコマンド バー、コマンド、およびボタンをどのように配置するかを指定する作業環境の設定状態をさします。これにより、頻繁に使用するツールへのアクセスがより簡単になります。作業領域は、Welcome スクリーンから選択できます。また、アプリケーションから異なる作業領域に切り替えることもできます。

次の表では利用可能な作業領域を説明しています。

作業領域

説明

ライト

この作業領域では、Corel PHOTO-PAINT で最も一般的に使用されるツールと機能へのアクセスがより容易になります。Corel PHOTO-PAINT の初心者の場合、ライト作業領域は理想的な作業領域です。

Default

ツールとコントロールをより直感的な配置するために、この作業領域は再設計されました。Corel PHOTO-PAINT や他の写真修正アプリケーションの使用経験がある場合、デフォルト作業領域の選択をお勧めします。

ヘルプのトピックは、デフォルト作業領域に基づいて記述されています。

タッチ

タッチ作業領域はタッチ対応デバイスに最適化されており、フィールド ワークやスケッチ操作に最適です。マウスやキーボードを必要とせずに、タッチ、ダイヤル、スタイラスを使用してさまざまなタスクを完了できます。

作業領域

説明

Adobe Photoshop

Corel PHOTO-PAINT の機能を Adobe Photoshop の機能と同様の場所に配置して、Adobe Photoshop の作業領域をシミュレートします。この作業領域は、最近 Adobe Photoshop から Corel PHOTO-PAINT に切り替えたばかりで、Corel PHOTO-PAINT の作業領域に慣れていないユーザーに役立ちます。

固有のワークフローがある場合、特定のニーズに対して最適なカスタム作業領域を作成できます。詳しくは、[581 ページの「作業領域を作成する」](#)を参照してください。

作業領域を選択するには

- **[ウィンドウ] ▶ [作業領域]** をクリックし、利用可能な作業領域を 1 つ選択します。



[Welcome スクリーン] または **[オプション]** ダイアログ ボックス (**[ツール] ▶ [オプション] ▶ [作業領域]**) から作業領域を選択できます。

ツールバー

ツールバーには、メニュー コマンドへのショートカット ボタンが用意されています。標準ツールバーには、頻繁に使用するコマンドが含まれています。次の表に、標準ツールバーのボタンの概要を示します。

クリックするボタン

目的



イメージを新規作成します。



イメージを開きます。



イメージを保存します。



イメージを印刷します。



選択したオブジェクトを切り取ってクリップボードに入れます。



選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。



クリップボードの内容をイメージに貼り付けます。

クリックするボタン



目的

直前に実行した操作を元に戻します。

取り消した操作を再実行します。

[CONNECT] ドッキング ウィンドウを表示し、クリップアート、フォト、フォントなどのコンテンツを検索します。

イメージをインポートします。

イメージをエクスポートします。

ズーム レベルを変更します。

フルスクリーン プレビューを表示します。

ルーラーを表示/非表示にします。

ガイドラインを表示/非表示にします。

イメージのスライス グリッドの表示/非表示を切り替えます。

マスクの選択範囲線の表示/非表示を切り替えます。

オブジェクトの選択範囲線の表示/非表示を切り替えます。

マスクを反転します。

マスクを削除します。

クリックするボタン



起動

目的

様々な **[オプション]** ダイアログ ボックスを開く

Corel アプリケーションを起動する

Corel PHOTO-PAINT には、標準ツールバーの他にも、特定のタスク用のツールバーがあります。たとえば、**[マスク]**をよく使用する場合は、**[マスク/オブジェクト]**ツールバーを表示することができます。選択したツールに応じて動的に変化するプロパティ バーのコマンドとは異なり、ツールバーのコマンドは変化しません。

ツールバーの移動とサイズ変更、およびデフォルトで表示するツールバーの変更について詳しくは、588 ページの「**ツールバーの位置および表示をカスタマイズするには**」を参照してください。頻繁に使用するツールやコマンドを含むカスタム ツールバーを作成することもできます。カスタム ツールバーの作成について詳しくは、588 ページの「**ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする**」を参照してください。

ツールバーの表示/非表示を切り替えるには

- **[ウィンドウ]** ▶ **[ツールバー]** をクリックし、ツールバーをクリックします。

ツールバー名の横にチェック マークが付いている場合は、そのツールバーがアプリケーション ウィンドウに表示されていることを示します。

ツールボックス

ツールボックスには、イメージの編集、作成、および表示用ツールが表示されます。関連のあるツールはフライアウトでグループ化されます。

ツールボックスのボタンの右下隅に小さな矢印がある場合は、それがフライアウトであることを示しています。フライアウトでは、最後に使用したツールがツールボックスに表示されます。フライアウトのツールにアクセスするには、ツールボックス ボタンの右下隅に表示される小さな黒い矢印をクリックします。



クローン ツールのフライアウト矢印をクリックすると、**[補正]** ツールのフライアウトが開きます。

ツールボックスには、ツールの他にカラー コントロールが表示されます。カラー コントロールでは、カラーと塗りつぶしを選択できます。

ツールボックスの表示/非表示を切り替えるには

- [ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [ツールボックス] をクリックします。

ツールボックスでツールの表示/非表示を切り替えるには

- [素早くカスタマイズ] ボタン  をクリックして、対応するチェック ボックスをオンまたはオフにします。

詳しくは、591 ページの「ツールボックスをカスタマイズする」を参照してください。

次の表に、ツールとカラー コントロール領域の説明を示します。

ツール

選択ツール



選択ツールでは、オブジェクトを選択、配置、変形することができます。



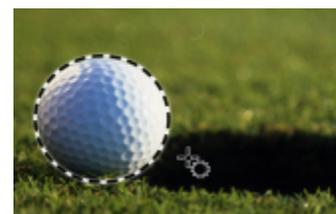
マスク ツール



長方形マスク ツール。長方形の編集領域を定義できます。



楕円形マスク ツール。楕円形の編集領域を定義できます。

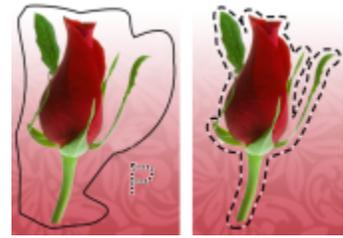


自由選択マスク ツールは、最初に選択したピクセルとカラーが類似する隣接ピクセルをすべて含む不規則な形の編集領域を定義します。





投げ縄マスク ツール。類似色のピクセルで囲まれている不定形の編集領域を定義します。



[マグネティックマスク] ツールは、周囲の領域とカラーが異なる領域のエッジにマスク選択範囲をスナップします。



フリーハンドマスク ツール。不規則な形や多角形の編集領域を定義できます。



ブラシマスク ツールは、絵を描くようにブラシを使用して編集領域を定義します。



平面マスク ツールは、平行線で定義されたフェードマスクを作成します。



スマート選択マスク ツールを使用すると、編集領域をペイント操作で形状または領域のエッジに基づいて定義できます。



マスクの変形ツール



[マスクの変形] ツールでは、編集可能な領域を位置合わせ、サイズ変更、および回転することができます。



切り抜きツール



[切り抜き] ツールは、イメージを切り抜いたり、傾いたイメージを真っすぐにします。



直線化 ツールを使用すると、直線化バーをイメージの要素に揃えて、傾いたイメージを補正できます。



遠近補正 ツールを使用すると、写真の射影歪みを補正できます。



イメージスライス ツールは、大きいイメージをいくつかの小さい部分に分け、Web ページで使用できるようにします。



ズーム ツール



ズーム ツールは、イメージ ウィンドウのズーム レベルを変更できます。



スクロール ツールは、イメージがイメージ ウィンドウより大きい場合、イメージ領域をドラッグして表示できるようにします。



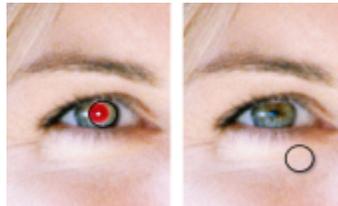
補正ツール



クローン ツールは、イメージの一部を複製し、その複製を同じイメージの他の部分や別のイメージに適用できます。



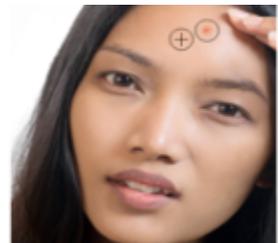
赤目修正 ツールは、撮影したフォトから、人物の赤目を修正します。



補正ブラシ ツールは、テクスチャやカラーをブレンドすることで、イメージに含まれる裂け目、キズ、しわなどの問題を除去します。



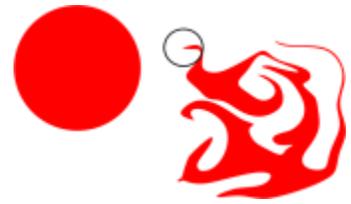
クローン修復 ツールでは、周囲の領域の色と調和したテクスチャをサンプリングしてペイントすることにより、写真の不完全部分を修正できます。



液体ツール



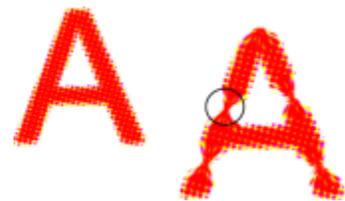
塗り付けツールは、ウェットペイントで引きずったような効果を作成します。



旋回ツールは、特定のイメージ領域から、うず巻きを作成します。



反発ツールは、ブラシの中央に向かってピクセルを引き付けてイメージを変形します。



引き付けツールは、ブラシの中央からピクセルを引き離してイメージを変形します。



効果ツール



効果ツールは、イメージの部分的なカラーおよび色調を補正します。



テキスト ツール

A

テキスト ツールは、テキストをイメージに追加したり、既存のテキストを編集したりできます。



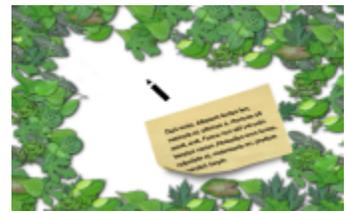
ブラシ ツール



ペイント ツールは、主要なカラーでイメージをペイントします。



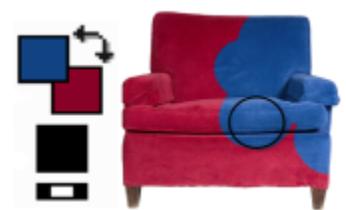
イメージスプレー ツールは、1 つまたは複数のイメージをロードし、現在のイメージの上にペイントします。



ブラシを元に戻す ツールは、イメージ領域の外観を、ブラシ ストロークを適用する前の状態に復元します。



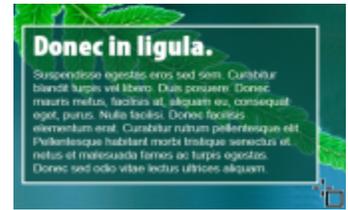
カラーの入れ替えブラシ ツールは、イメージの主要カラーと副カラーを入れ替えることができます。



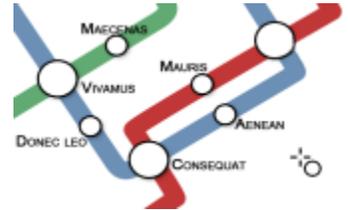
整形ツール



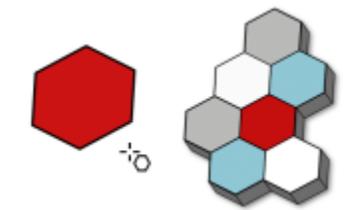
長方形ツールは、長方形と正方形を描きます。



楕円形ツールは、楕円と正円を描きます。



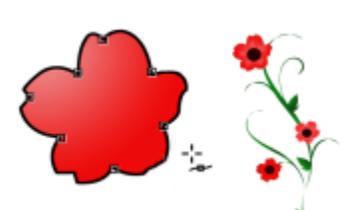
多角形ツールは、多角形を描きます。



直線ツールは、主要なカラーを使用して、単一の直線または接続された直線を描きます。



パス ツールは、表を作成/編集します。



消しゴム ツール



消しゴム ツールは、イメージ領域またはオブジェクト領域を消去して、その下にあるオブジェクトまたはバックグラウンドが透けて見えるようにします。



ドロップ シャドウ ツール



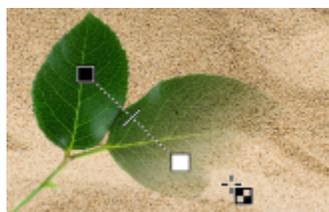
ドロップ シャドウ ツールは、影をオブジェクトに追加します。



透明度ツール



オブジェクトの透明度 ツールは、オブジェクトの色をイメージの背景色に徐々にフェードするように作成します。



カラー透明 ツールは、オブジェクト内の特定のカラー値のピクセルを透明にします。



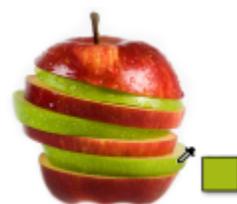
オブジェクト透明ブラシツールは、オブジェクト上の領域にブラシを適用して透明度を高めます。



スポイト ツール



スポイト ツールは、イメージからカラーを選択します。



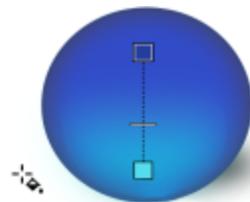
塗りつぶしツール



塗りつぶしツール。 標準塗りつぶし、グラデーション塗りつぶし、ビットマップ塗りつぶし、テクスチャ塗りつぶしのいずれかで、領域を塗りつぶします。



インタラクティブ塗りつぶしツール。 イメージ、オブジェクト、または選択範囲全体にグラデーション塗りつぶしを適用します。



カラーコントロール領域



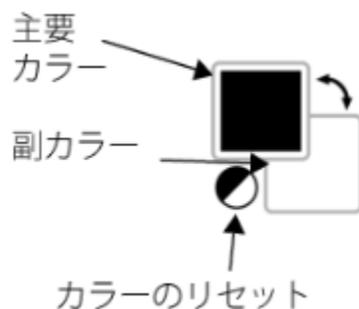
[主要カラー] ボックスには、現在のカラーが表示されます。これらは、あらゆるペイント、形状、塗りつぶし、テキストツールに適用されます。

[副カラー] ボックスには、現在の副カラーが表示されます。

矢印を使うと、主要カラーと副カラーを切り替えられます。

主要カラーと副カラーは、それぞれのカラーボックスをダブルクリックして変更できます。

カラーのリセット アイコンをクリックすると、デフォルトのカラー（主要カラーは黒、副カラーは白）に戻ります。



プロパティバー

プロパティバーには、アクティブなツールに関連のあるコマンドが表示されます。たとえば、**赤目修正**ツールを使用すると、プロパティバーの内容が変わり、ブラシの先の形やサイズ、許容範囲、ペンの設定などの設定が表示されます。



プロパティバーのツールを表示/非表示にするには、**[素早くカスタマイズ]** ボタン **+** をクリックして、対応するチェックボックスをオンまたはオフにします。詳しくは、591 ページの「プロパティバーをカスタマイズする」を参照してください。

ドッキング ウィンドウ

ドッキング ウィンドウには、ダイアログ ボックスと同じように、コマンド ボタン、オプション、リスト ボックスなどのコントロールが表示されます。ただし、ダイアログ ボックスとは異なり、ドッキング ウィンドウはドキュメントで作業しているときに開いたままにしておけるので、手軽にコマンドを使用して、さまざまなオプションを試すことができます。ドッキング ウィンドウには、他のグラフィック プログラムのパレットと同様の機能があります。

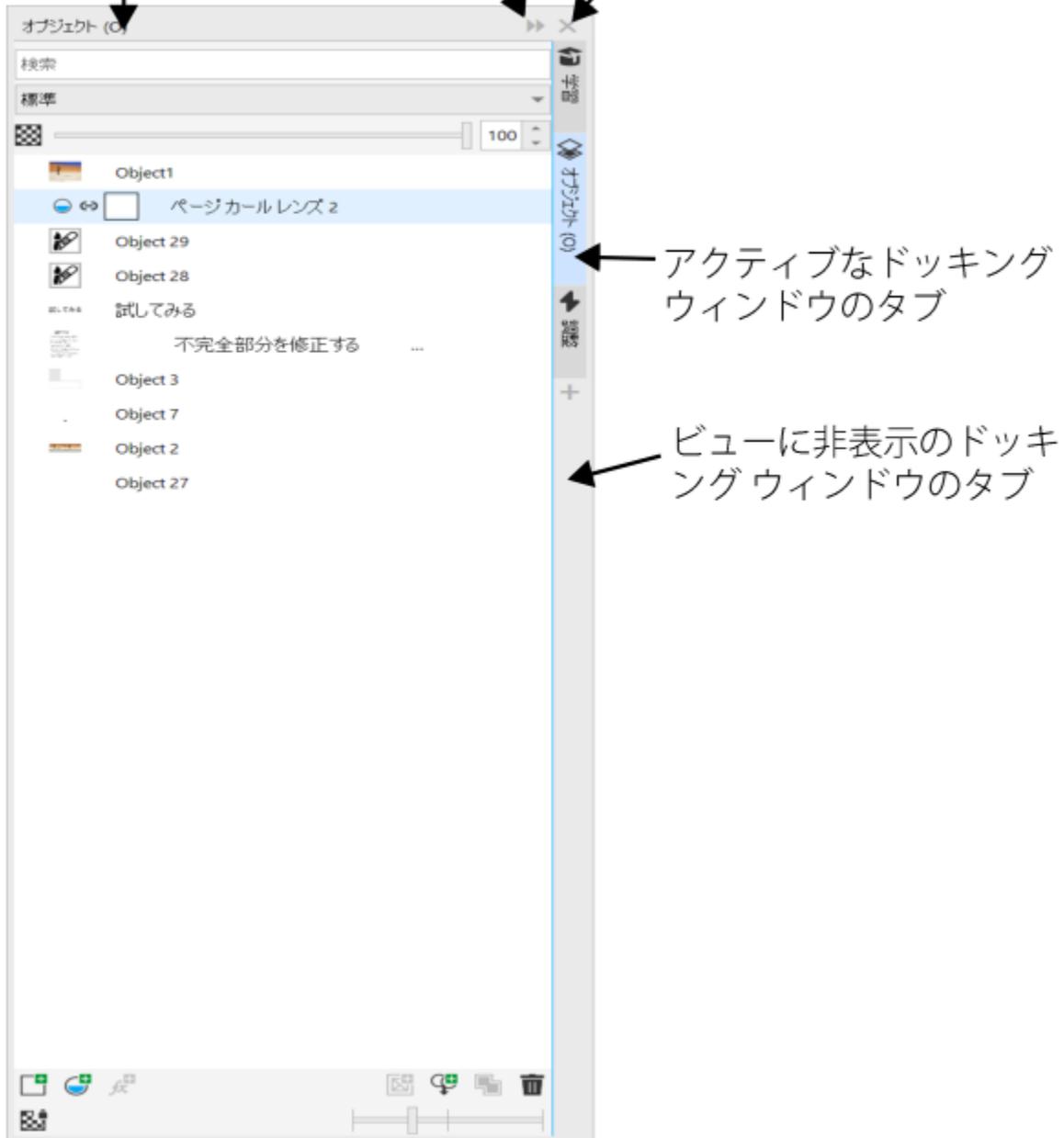
ドッキング ウィンドウは、固定することも移動することもできます。ドッキング ウィンドウを固定すると、アプリケーション ウィンドウ、ツールバー、パレットの端に結合します。ドッキング ウィンドウを切り離すと、作業領域要素から離れます。複数のドッキング ウィンドウを開くと、通常はネストして表示され、1 つのドッキング ウィンドウだけが完全に表示されます。ドッキング ウィンドウのタブをクリックして、表示されていないドッキング ウィンドウを表示できます。

ドッキング ウィンドウを移動したり、最小表示にしたりして画面のスペースを節約できます。

タイトルバー

ドッキング ウィンドウ
の最小表示ボタン

ドッキング ウィンドウすべ
てを閉じる (X) ボタン



ドッキング ウィンドウの例として、[オブジェクト]ドッキング ウィンドウがあります。[オブジェクト]ドッキング ウィンドウには、オブジェクトに関するコマンド ボタンとオプションに加え、イメージのバックグラウンドと各オブジェクトレイヤのサムネールが表示されます。

ドッキング ウィンドウを開く/閉じるには

- [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] をクリックし、ドッキング ウィンドウをクリックします。



ドッキング ウィンドウを開く/閉じるには、ドッキング ウィンドウの右側にある **[素早くカスタマイズ]** ボタン  をクリックして、対応するチェック ボックスをオンまたはオフにすることもできます。

タイトル バーの **X** ボタンをクリックして、ドッキング ウィンドウを閉じることもできます。タイトル バーの **X** ボタンをクリックすると、グループ内でネストされたすべてのドッキング ウィンドウが閉じます。特定のドッキング ウィンドウだけを閉じるには、ドッキング ウィンドウの **X** ボタンをクリックします。

ドッキング ウィンドウを移動するには

目的	作業手順
ドッキング ウィンドウ	ドッキング ウィンドウのタブを、別の場所にドラッグします。
複数のネストされたドッキング ウィンドウ	アクティブなドッキング ウィンドウのタイトル バーを新しい位置にドラッグします。

切り離されたドッキング ウィンドウを固定するには

- ドッキング ウィンドウのタイトル バーまたはタブを描画ウィンドウの端にドラッグし、端に沿ってポインタを合わせます。ドッキング ウィンドウの位置を示すグレーのプレビューが表示されたら、マウス ボタンを離します。

ドッキング ウィンドウを最小表示にするには

- ドッキング ウィンドウのタイトルバーの **[ドッキング ウィンドウの最小表示]** ボタン  をクリックします。



ドッキング ウィンドウを拡張するには、ドッキング ウィンドウのタブをクリックします。

カラー パレット

カラー パレットは、複数のカラー ボックスから構成されています。デフォルトのカラー パレットを使用して主要カラーと副カラーを選択できます。このパレットには RGB カラーが含まれています。カラーの選択について詳しくは、[204 ページの「カラーを選択する」](#)。を参照してください。

ステータス バー

ステータス バーには、イメージ、システム メモリ、使用中のツールの情報が表示されます。また、ドキュメント カラーと色校正のステータスについての情報も表示します。この表示情報の種類を変更して、実行中の操作に役立てることができます。たとえば、大きさの異なるいくつかのイメージを操作している場合は、実行中の特定のイメージの大きさをステータス バーに表示できます。

コマンド ボタンを追加して、ステータス バーをカスタマイズすることもできます。ステータス バーのカスタマイズについて詳しくは、[593 ページの「ステータス バーをカスタマイズする」](#)。を参照してください。

ステータス バーの表示情報の種類を変更するには

- ステータス バーで**[ドキュメント プロパティ]** ボタン  をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **ファイル サイズ**

- ツール ヒント
- ドキュメントの寸法
- ドキュメントのカラー設定
- メモリ



設定

Corel PHOTO-PAINT では、各種の設定を自由に変更できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 71 の「作業領域オプション」。
- ページ 72 の「警告メッセージの表示をオフにする」。

作業領域オプション

Corel PHOTO-PAINT では、デフォルトの作業領域設定を自由に変更できます。

作業領域オプションには、一般オプションと表示オプションの 2 つがあります。一般オプションは、使用単位、オフセットの複製、起動時の設定などを設定します。

また、カーソルキー移動、スーパー カーソルキー移動の値を設定することもできます。カーソルキー移動の値は、オブジェクト、編集領域、またはガイドラインを矢印キーで移動できる距離をピクセル単位で定義します。スーパー カーソルキー移動の値には、複数の値を指定します。

表示オプションは、パスのカラー、マスクの色かぶり、ガイドラインのカラー、透明グリッドパターン、マスクおよびオブジェクトの選択範囲線のしきい値などを設定します。

一般オプションを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [一般] をクリックします。
- 3 必要な設定を行います。

表示オプションを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 必要な設定を行います。

警告メッセージの表示をオフにする

Corel PHOTO-PAINT の作業時に、警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージは、実行する操作の結果について説明し、その操作によってこれまでのデータが失われる場合はその旨を通知します。警告メッセージは便利ですが、ソフトウェアの操作に慣れたきたら、警告メッセージの表示をオフにすることもできます。アプリケーションの操作に慣れ、各コマンドの処理結果を事前に把握できるようになるまで、警告メッセージの表示をオフにしない方がよいでしょう。

警告メッセージの表示をオフにするには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [警告] をクリックします。
- 3 必要に応じて、チェック ボックスをオフにします。



Corel PHOTO-PAINT にイメージを読み込む

Corel PHOTO-PAINT にイメージを読み込むには、いくつかの方法があります。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 73 の「イメージを開く」。
- ページ 75 の「ファイルをインポートする」。
- ページ 77 の「イメージをスキャンする」。
- ページ 78 の「イメージを作成する」。
- ページ 80 の「複数のイメージを操作する」。
- ページ 80 の「ベクトル グラフィックを操作する」。

RAW カメラ ファイルを Corel PHOTO-PAINT に取り込む方法については、544 ページの「Corel PHOTO-PAINT に RAW カメラ ファイルをインポートする」を参照してください。

イメージを開く

Corel PHOTO-PAINT では、ほとんどのビットマップを開くことができます。開いたイメージは、それぞれ別のイメージ ウィンドウに表示されます。

Corel PHOTO-PAINT でドキュメントを開くと、デフォルトではタブ表示で表示されますが、ドキュメントがフロート ウィンドウに表示されるように、アプリケーションをカスタマイズできるようになりました。

イメージはインポートすることもできます。インポートすると、新しいイメージをアクティブなイメージ ウィンドウに追加できます。詳しくは、75 ページの「ファイルをインポートする」を参照してください。

アプリケーションに含まれているクリップアートや写真を使用できます。ファイル名、タイトル、主題、キーワード、コメント、およびファイルに関連付けられたその他のプロパティなど、さまざまな条件でイメージを検索できます。ファイルの検索について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。詳しくは、110 ページの「クリップアートおよびその他のローカル アセットとネットワーク アセットを検索する」を参照してください。

旧バージョンの多言語ファイルを開く

オペレーティング システムの言語とは異なる言語のテキストが入っている、Corel PHOTO-PAINT のバージョン 11 以前のイメージを開いたり、インポートすることができます。それには、コード ページ設定を使用して、イメージとともに保存されたオブジェクト名や注釈が【オブジェクト】ドッキング ウィンドウに正しく表示されるようにします。イメージ ウィンドウに正しくテキストを表示するには、エンコード設定を使用する必要があります。詳しくは、477 ページの「エンコード設定を修正する」を参照してください。

イメージを開くには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をクリックします。
必要に応じて、検索ボックスを使用してイメージを検索できます。
- 4 **[開く]** をクリックします。

可能な操作

すかし模様を検出する

[すかし模様のチェック] チェック ボックスをオンにします。
このオプションは、ファイル形式によっては使用できません。

イメージを開いた状態で不要な領域を削除する

[開く] リスト ボックスで、**[切り抜いてロード]** をクリックします。

イメージを開くときに寸法を小さくする

[開く] リスト ボックスで、**[リサンプルしてロード]** をクリックします。

イメージを検索する

検索ボックスに検索する単語や語句を入力します。
検索ボックスでは、現在のフォルダやサブフォルダでのみファイルを検索します。別の場所でイメージを検索するには、最初にそのイメージが保存されているフォルダに移動します。

以前のバージョンのファイルにアクセスする

ファイルを右クリックし、**[以前のバージョンの復元]** をクリックします。

旧バージョンのファイルは、「システムの保護」がオンになっている場合にのみアクセスできます。

旧バージョンのファイルへのアクセスについて詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

旧バージョンの Corel PHOTO-PAINT で作成されたイメージにオブジェクトの名前と注記を正しく表示する

[コード ページの選択] リスト ボックスから該当するオプションを選択します。

このオプションは、ファイル形式によっては使用できません。



最近使用したファイルを開くには、**[ファイル]** ▶ **[最近使ったファイルを開く]** をクリックし、ファイル名を選択します。最近使ったファイルのリストを消去するには、**[ファイル]** ▶ **[最近使ったファイルを開く]** ▶ **[メニューを消去]** をクリックします。

標準ツールバーの **[開く]** ボタン  をクリックして、イメージを開くこともできます。標準ツールバーが表示されていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ツールバー]** ▶ **[標準]** をクリックします。

ドキュメントをフロート ウィンドウで開くには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。

- 2 [一般]をクリックします。
- 3 [フロート ウィンドウでドキュメントを開く] チェック ボックスをオンにします。

アクティブなイメージにファイルを挿入するには

- イメージまたはサウンド ファイルをイメージ ウィンドウにドラッグします。



ファイルをアプリケーション ウィンドウにドラッグして、新しいイメージ ウィンドウでファイルを開くこともできます。

ファイルをインポートする

Corel PHOTO-PAINT には、ファイルをインポートするときにファイルの形式を変換するフィルタが用意されています。ファイルをインポートし、アクティブなアプリケーション ウィンドウにオブジェクトとして挿入できます。インポートしたファイルはアクティブなイメージの一部になります。

インポート時にビットマップをリサンプルすれば、ピクセル数を変更し、使用しない詳細部分を除去して、ファイル サイズを縮小することができます。また、ビットマップを切り抜いて、インポートするイメージの正確な領域とサイズを選択することもできます。

ファイル名、タイトル、主題、作者、キーワード、コメント、およびファイルに関連付けられたその他のプロパティなど、さまざまな条件でイメージを検索できます。ファイルの検索について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

また、Corel PHOTO-PAINT イメージは、さまざまなファイル形式にエクスポートできます。ファイル形式は、後でイメージを使用する方法に合わせて選択します。ファイルのエクスポートについて詳しくは、105 ページの「イメージをエクスポートする」を参照してください。

ファイル形式について詳しくは、551 ページの「サポートされているファイル形式」を参照してください。

アクティブなイメージにファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから、ファイル形式を選択します。
インポートするファイルの形式が不明の場合は、[すべてのファイル形式]を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
ファイル内に、オペレーティング システムの言語と異なる言語のテキストがある場合は、注記およびオブジェクト名を正しく表示するために、[コード ページ] リスト ボックスから対応するオプションを選択します。このオプションは、ファイル形式によっては使用できません。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

複数ページの TIFF ドキュメントをインポートする場合は、インポートするページを選択します

[TIFF インポート] ダイアログ ボックスで、[インポートするページの選択] 領域でオプションを有効にします。

Corel PHOTO-PAINT では、複数ページの TIFF の場合、一度に 1 ページしか開くことができません。

イメージを検索する

検索ボックスに検索する単語や語句を入力します。

可能な操作

検索ボックスでは、現在のフォルダやサブフォルダでのみファイルを検索します。別の場所でイメージを検索するには、最初にそのイメージが保存されているフォルダに移動します。



[ディスクからイメージをインポート]ダイアログ ボックスに、インポートするファイルのサイズおよびファイルに関連する注記が表示されます。

インポート時にイメージをリサンプルするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
必要に応じて、検索ボックスを使用してイメージを検索できます。ファイル名、題名、主題、作成者、キーワード、コメント、ビットマップ名、オブジェクト名などを検索できます。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから、ファイル形式を選択します。
ファイルの形式が不明の場合は、[すべてのファイル形式]を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックして、[リサンプルしてロード] をクリックします。
- 6 [イメージのリサンプル]ダイアログ ボックスで、必要に応じて、次のボックスに値を入力します。
 - 幅 - 選択された単位でグラフィックの幅を指定するか、元の幅に対する比率を指定します。
 - 高さ - 選択された単位でグラフィックの高さを指定するか、元の高さに対する比率を指定します。
- 7 [解像度]の次のボックスのいずれかに値を入力します。
 - 水平方向 - グラフィックの水平方向の解像度をピクセル数、つまり 1 インチあたりのドット数 (dpi) で指定します。
 - 垂直方向 - グラフィックの垂直方向の解像度をピクセル数、つまり 1 インチあたりのドット数 (dpi) で指定します。
- 8 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

イメージの幅と高さの比率を一定に保つ

[縦横比の維持]チェック ボックスをオンにします。

単位を変更する

[単位]リスト ボックスで単位を選択します。

水平方向と垂直方向の解像度の値を同じに保つ

[同一値]チェック ボックスをオンにします。



インポート形式のダイアログ ボックスが開いたら、必要なオプションを指定します。ファイル形式について詳しくは、551 ページの「サポートされているファイル形式」を参照してください。

インポート時は、解像度を上げることはできません。

インポート時にイメージを切り抜くには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
必要に応じて、検索ボックスを使用してイメージを検索できます。ファイル名、題名、主題、作成者、キーワード、コメント、ビットマップ名、オブジェクト名などを検索できます。

- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから、ファイル形式を選択します。
ファイルの形式が不明の場合は、**[すべてのファイル形式]**を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックして、**[切り抜いてロード]** をクリックします。
- 6 次のいずれかのボックスに値を入力します。
 - **上端** - グラフィックの上端から削除する領域を指定します。
 - **左端** - グラフィックの左端から削除する領域を指定します。
 - **幅** - グラフィックの削除しない領域の幅を指定します。
 - **高さ** - グラフィックの削除しない領域の高さを指定します。
- 7 イメージ ウィンドウをクリックします。



16 カラー ビットマップをインポートすると、自動的に 256 色に変換されます。



プレビュー ウィンドウで**選択範囲線ボックス**をドラッグしてイメージをリサイズすることもできます。

単位を変更するには、**[イメージの切り抜き]**ダイアログ ボックスの**[単位]**リスト ボックスから単位を選択します。

イメージをスキャンする

Corel PHOTO-PAINT でイメージをスキャンできます。互換性のある TWAIN ドライバを使って Corel PHOTO-PAINT でイメージをスキャンすることができます。Corel PHOTO-PAINT は、イメージ スキャン用標準インターフェイスを装備した Microsoft Windows Image Acquisition (WIA) 対応スキャナをサポートしています。

スキャナが WIA をサポートしていなくても、互換性のある TWAIN ドライバがある場合は、このドライバをスキャンに使用できます。TWAIN は、32 ビットと 64 ビットの両方のバージョンの Corel PHOTO-PAINT でサポートされています。ただし、使用可能な 64 ビットの TWAIN ドライバは非常に少ないことに注意してください。

ソフトウェアのインタフェースとオプションは、ソフトウェアによって異なります。スキャナのソフトウェアの使用方法について詳しくは、製造元のマニュアルを参照してください。

イメージをスキャンするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[イメージの取り込み]** をクリックし、次のいずれかのコマンドをクリックします。
 - **WIA ソースの選択** - WIA ドライバを使用するスキャナの場合。
 - **TWAIN ソースの選択** - TWAIN ドライバを使用するスキャナの場合。互換性のある WIA または TWAIN のスキャナ ドライバがインストールされていない場合、コマンドはグレー表示されます。
- 2 表示されたダイアログ ボックスからスキャナを選択します。
- 3 **[選択]** をクリックします。
- 4 **[ファイル]** ▶ **[イメージの取り込み]** ▶ **[取り込み]** をクリックします。
- 5 イメージをプレビューし、スキャンする領域を選択します。
一部のスキャナと WIA との組み合わせでは、複数領域をスキャンして個別のファイルに保存する機能がサポートされています。
- 6 **[スキャン]** をクリックします。
使用するスキャナのインタフェースによっては、このボタンの名前が異なる (**[OK]**、**[送信]**など) 場合があります。

イメージを作成する

オリジナルのアートワークを作成する場合、イメージを最初から作成したり、既存のイメージを複製して作成したりすることができます。最初からイメージを作成する場合、Corel PHOTO-PAINT ではさまざまなイメージとカラー管理設定を指定することができます。イメージを使用する目的に応じてプリセット設定のリストから選択することができます。たとえば、インターネット用のイメージを作成する場合は **[Web]** オプションを選択し、写真を作成する場合は **[写真]** オプションを選択することができます。ただし、プリセットが作成するイメージに適していない場合はカスタム設定を選択して、今後使用するために保存することもできます。

さらに、別のイメージ ウィンドウや別のアプリケーションにあるデータを **クリップボード** にコピーして使用することもできます。

新規イメージを最初から作成する場合は、イメージのサイズ、バックグラウンド カラー、カラー モードを指定します。また、イメージの**解像度**、つまり単位あたりの**ピクセル**数も選択できます。

イメージを最初から作成するには

- 次のいずれかの操作を実行します。
 - [Welcome] ページで、**[新規ドキュメント]** をクリックします。
 - アプリケーション ウィンドウで、**[ファイル]** ▶ **[新規作成]** をクリックします。
- [名前]** テキスト ボックスにファイル名を入力します。
- [プリセット]** リスト ボックスからイメージの出力先を選択します。
 - Web** — インターネット用のイメージを作成するための設定を適用します
 - フォト** — 写真であるイメージを作成するための設定を適用します
 - デフォルトの CMYK** — 商業印刷用のイメージを作成するための設定を適用します。

可能な操作

イメージの測定単位を変更する

[単位] リスト ボックスから測定の単位を選択します。

イメージのサイズを変更する

[サイズ] リスト ボックスからイメージのサイズを選択するか、**[幅]** ボックスと **[高さ]** ボックスに値を入力します。

イメージの方向を変更する

次のいずれかの方向ボタンをクリックします。

- 縦置き
- 横置き

イメージの背景色を変更する

[バックグラウンド カラー] ピッカーを開いて、色をクリックします。

イメージのカラー モードを変更する

[カラー モード] リスト ボックスからカラー モードを選択します。

イメージの解像度を設定する

[解像度] リスト ボックスから解像度を選択します。

イメージの最終出力に応じてレンダリング方法を選択する

[レンダリング方法] リスト ボックスからレンダリング方法を選択します。

レンダリング方法について詳しくは、[232 ページの「レンダリング方法とは？」](#)を参照してください。

可能な操作

選択したカラー モードに応じてカラー プロファイルを選択する	カラー プロファイル リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。
ファイル内にムービーの複数フレームを作成する	[フレーム数] ボックスに値を入力します。
[新規イメージの作成] ダイアログ ボックスのデフォルト設定をリセットする	[プリセット] リスト ボックスから、[PHOTO-PAINT のデフォルト] を選択します。



[新規イメージの作成] ダイアログ ボックスを表示しないでデフォルト設定を使用する場合は、[このダイアログ再び表示しない] チェック ボックスを選択します。

イメージの開始時に [新規イメージの作成] ダイアログ ボックスが表示されるよう戻すには、[ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックし、カテゴリのリストで [一般] を選び、[新規イメージ ダイアログを表示] チェック ボックスをオンにします。

カスタム プリセットを作成するには

- 1 アプリケーション ウィンドウで、[ファイル] ▶ [新規作成] をクリックします。
- 2 [新規イメージの作成] ダイアログ ボックスで、プリセットとして保存する設定を選択します。
- 3 [プリセット] リスト ボックスの横にあるボタン **■** をクリックします。
- 4 [プリセットの保存] をクリックし、テキスト ボックスに新しいプリセットの名前を入力します。



解像度を高くするほど、ファイルのサイズは大きくなります。



プリセットを削除するには、[プリセット] リスト ボックスからプリセット名を選択し、リスト ボックスの横にあるボタンをクリックして、[プリセットの削除] をクリックします。

カスタムのページ サイズを指定するには [サイズ] リスト ボックスで [カスタム] を選択し、[幅] と [高さ] のボックスに値を入力します。

標準ツールバーの [新規作成] ボタン  をクリックして、イメージを作成することもできます。標準ツールバーが表示されていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [標準] をクリックします。

複製からイメージを作成するには

- 1 [イメージ] ▶ [複製] をクリックします。
- 2 [名前] ボックスにファイル名を入力します。

オブジェクトとバックグラウンドを新規イメージに結合する場合は、[バックグラウンドでオブジェクトを結合する] チェック ボックスをオンにします。

クリップボードの内容を使用して新規イメージを作成するには

- [ファイル] ▶ [クリップボードから新規作成] をクリックします。

複数のイメージを操作する

複数のイメージを単一のイメージ ウィンドウで開くことができます。これにより、複数のイメージの同時処理が容易になります。イメージ ウィンドウの上部にあるタブから、開いているイメージにアクセスできます。また、新規のイメージを開始できます。

開いたイメージは固定されていますが、固定解除することができ、アプリケーション ウィンドウの内側や外側にドラッグすることができます。

また、イメージを表示するウィンドウは、オーバーラップ (重ねて表示) させることも、左右または上下に並べて配置することもできます。

複数のイメージを処理するには

目的	作業手順
他の開いているイメージに切り替える	希望するファイル名が含まれているタブをクリックします。
他のイメージを開始する	最後のドキュメント タブの右にある [新規作成] ボタン  をクリックします。
イメージを固定解除する	イメージ タブを、アプリケーション ウィンドウの内側または外側の新しい場所にドラッグします。

複数のイメージを配置するには

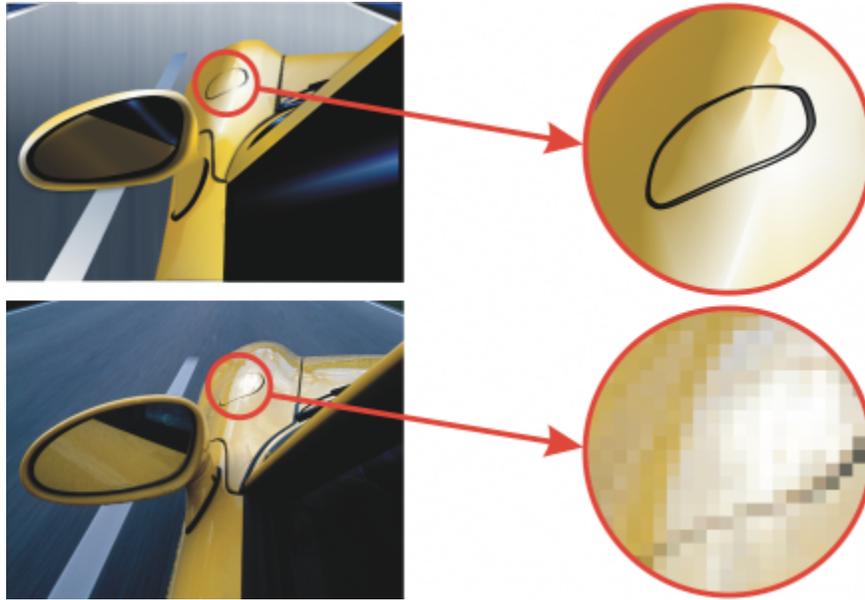
- **[ウィンドウ]** をクリックし、次のコマンドのいずれかをクリックします。
 - **重ねて表示** — イメージ ウィンドウを、オーバーラップし、タイトル バーが表示されるように、配置します。
 - **左右に並べて配置** — イメージを左右に並べて配置します。
 - **上下に並べて配置** — イメージを上下に並べて配置します。

ベクトル グラフィックを操作する

Corel PHOTO-PAINT では、**ビットマップ**、別名ラスタ イメージを操作します。ビットマップ (または「ラスタ イメージ」) は、**ピクセル** (画素) と呼ばれる小さなドット (点) で構成され、各ピクセルにはイメージ内の位置とカラー数値が割り当てられます。この配置位置とカラー数値データがビットとして保存されるため、ビットマップと呼ばれています。

ベクトル グラフィック は、数値計算によって描かれた直線、曲線、オブジェクト、塗りつぶしから構成されます。Corel PHOTO-PAINT ではベクトル グラフィックを操作できませんが、ベクトル グラフィックを開いたりインポートしたりするときにビットマップに変換することができます。この変換処理は、**ラスタ処理** と呼ばれています。また、CorelDRAW からベクトル グラフィックをコピーして、Corel PHOTO-PAINT に貼り付けることもできます。

通常、ベクトル グラフィックはビットマップよりもサイズが小さいため、ベクトル グラフィックをビットマップに変換すると、ほとんどの場合、ファイルのサイズは大きくなります。



上側のイラストは、直線、オブジェクト、塗りつぶしから構成されたベクトルグラフィックです。下のイラストは、同じグラフィックをピクセル描画によるビットマップに変換したものです。

ベクトルグラフィックを開くには

- 1 [ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リストボックスから、インポートするファイルのベクトルファイル形式を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [開く] をクリックします。
- 6 [ビットマップに変換] ダイアログボックスで、必要な項目を設定します。



CorelDRAW のベクトルグラフィックをコピーして Corel PHOTO-PAINT に貼り付けるには、[ファイル] ▶ [クリップボードから新規作成] をクリックします。

ベクトルグラフィックをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
ツールバーで [インポート] ボタン  をクリックすることもできます。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リストボックスから、インポートするファイルのベクトルファイル形式を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージウィンドウ内をクリックします。
- 7 [ビットマップに変換] ダイアログボックスで、必要な項目を設定します。



CorelDRAW のベクトルグラフィックをコピーして Corel PHOTO-PAINT に貼り付けるには、[ファイル] ▶ [クリップボードから新規作成] をクリックします。



イメージとイメージ情報を表示する

ウィンドウの外観やイメージの倍率を変更できます。倍率を変更すると、特定のイメージ領域を表示してイメージをより簡単に編集することができます。また、編集中に、**カラー モデル**情報などのイメージ関連情報を表示することもできます。

Corel PHOTO-PAINT には Digimarc 社の ImageBridge が含まれており、デジタルすかし模様をイメージに埋め込んだり、イメージから読み取ったりすることができます。このような**すかし模様**には、著作権や作成者に関する識別情報が入っていますが、画質には大きな影響はありません。

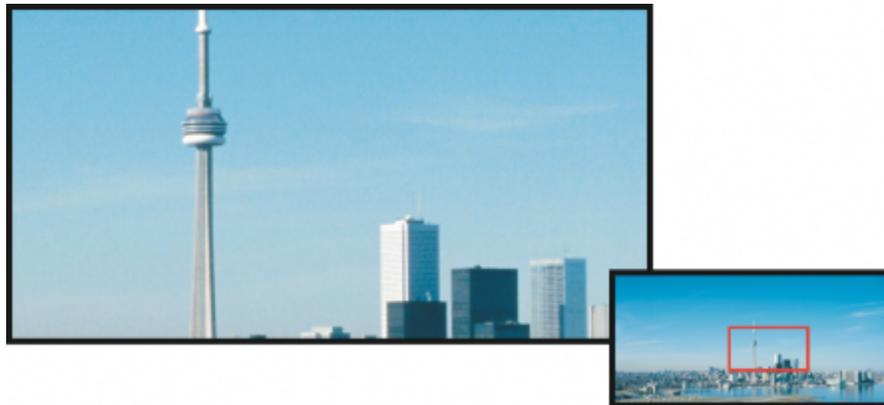
このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 83 の「イメージを表示する」。
- ページ 85 の「ズーム」。
- ページ 86 の「イメージ情報を表示する」。
- ページ 87 の「イメージ ウィンドウを更新する」。
- ページ 87 の「Digimarc のすかし模様を検出する/埋め込む」。

イメージを表示する

イメージを表示するには、さまざまな方法があります。ウィンドウ、ツールボックスおよびツールバーを非表示にして、メニューバーとイメージ ウィンドウのみを表示することができます。フルスクリーン プレビューでイメージを大きく表示することができます。ウィンドウを非表示にした場合はイメージを編集することができますが、フルスクリーン プレビューではイメージを変更できません。また、作業領域を最大化したり、元に戻すこともできます。

イメージ ウィンドウに入りきらないイメージ領域も表示できます。たとえば、高い倍率や拡大したイメージで作業しているとき、倍率を調整しなくても、別のイメージ領域に**スクロール**または**ジャンプ**できます。クイック スクロール モードを使用して、アクティブなツールから**スクロール** ツールへの切り替えができるようになりました。



[ナビゲータ] のポップアップ ウィンドウを使用して、選択したイメージ領域をイメージ ウィンドウで表示することができます。

ウィンドウ、ツールボックス、およびツールバーを非表示にするには

- [ウィンドウ] ▶ [ウィンドウを隠す] をクリックします。

通常の表示に戻す場合は、作業領域で右クリックして、[ウィンドウの表示] をクリックします。

作業領域を最大化する/元に戻すには

- [ウィンドウ] ▶ [作業領域の最大表示] をクリックします。



作業領域を元に戻すには、[ウィンドウ] ▶ [作業領域の最大表示] をもう一度クリックします。

イメージのフルスクリーンプレビューを表示するには

- [表示] ▶ [フルスクリーンプレビュー] をクリックします。

通常の表示に戻すには、任意のキーを押すか、画面をクリックします。

イメージ ウィンドウに入りきらない領域を表示するには

目的

イメージの別の領域にスクロールする

クイック スクロール モードに切り替える

イメージの別の領域にジャンプする

作業手順

ツールボックスの**スクロール** ツール  をクリックします。

目的の領域がイメージ ウィンドウに表示されるまで、イメージをドラッグします。

ツールボックスの任意のツールをクリックし、使用を開始します。マウスの中央ボタンまたはホイールを押しながら、イメージ ウィンドウ内にドラッグします。

イメージ ウィンドウの右下隅にある**[ナビゲータ]** ポップアップ  をクリックします。四角形を、イメージの必要な領域にドラッグします。



スクロールツールをクリックして、**矢印**キーを押すと、イメージの周囲に**スクロール**することができます。イメージ ウィンドウの**スクロール**バーを使用して、イメージを**スクロール**することもできます。

マウスのホイールや別の入力デバイスを使用している場合、**Alt**を押すと**垂直**に**スクロール**、**Ctrl**を押すと**水平**に**スクロール**できます。



イメージ ウィンドウに表示されないイメージ領域は、[スクロール] ツールを使用して表示できます。この写真は、1 番目のイメージの元の位置 (左上) から、右のイメージ (右上) ドラッグされています。挿入イメージ (下)、イメージ全体を表しています。

マウス ホイールにデフォルトの設定を行うには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 カテゴリのリストで、[表示] をクリックします。
- 3 マウス ホイールのデフォルトの動作を指定するには、[マウス ホイールの動作] メニューから、[ズーム] または [スクロール] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

ズーム

デフォルトでは、イメージは 100% の倍率で表示されますが、**ズーム** インするとイメージの細部が表示され、**ズーム** アウトするとイメージの一部または全体がより大きく表示されます。また、イメージを開くときの倍率を指定できます。

ズーム アウトするときのイメージ表示にバイリニア補完を使用するように設定できます。バイリニア補完法を使用することで、精緻な細部を含むシャープなイメージの表示画質が向上し、エッジがギザギザになることを防ぐことができます。ただし、ぼやけたイメージがさらにぼやける場合があります。

ズームするには

- ツールボックスの **ズーム** ツール  をクリックします。

目的

ズーム インする

特定の領域にズーム インする

ズーム アウトする

作業手順

拡大する場所をクリックします。

拡大する領域をドラッグします。

イメージ ウィンドウで右クリックします。

目的	作業手順
現在のズーム レベルと前のズーム レベルを切り替える	プロパティ バーで [前のズームレベルに戻る] ボタン  をクリックします。
プリセットの倍率でズーム イン/アウトする	プロパティ バーの [ズーム レベルの変更] リスト ボックスから、倍率を選択します。



[表示] メニューのズーム コマンドを使って、ズームすることもできます。
マウス ホイールを使って、イメージをズーム イン/ズーム アウトすることもできます。

イメージを開くときの倍率を設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [一般] をクリックします。
- 3 [開くときのズーム] リスト ボックスから倍率を選択します。



選択した倍率は、次にイメージを開いたときから適用されます。

イメージの表示にバイリニア補完を使用するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [一般] をクリックします。
- 3 [リサンプル] 領域で、**[ズーム アウト時にバイリニア補完を使用する]** チェック ボックスをオンにします。

イメージ情報を表示する

イメージのファイル名、形式、サイズなど、イメージのプロパティが表示されます。イメージがデジタル カメラからロードされたものである場合、写真が撮影された日時、露出、フラッシュの設定など、イメージに関する EXIF 情報を表示することもできます。

作業中のポイントの座標など、イメージ領域についての情報を表示することができます。イメージ ウィンドウでポイントを移動すると、表示されている x 座標 ([X]) と y 座標 ([Y]) が変化します。ある形状を描いたり、編集領域を定義したりする際に、イメージ ウィンドウ内でポイントが移動したときの角度 ([A]) と距離 ([D]) も表示できます。また、円の**編集領域**や形状を作成/選択するときに、その中心 ([C]) の x 座標と y 座標、x 軸方向および y 軸方向の**半径** ([R]) の情報も表示することができます。

ポイントの位置に対応するイメージ領域のカラー情報を表示することもできます。デフォルトでは、RGB、Hex、および CMYK の値が表示されます。カラー情報を 2 つのカラー モデルで同時に表示することができます。たとえば、特定のイメージ領域に関して、グレースケールと RGB の両方の値を表示することができます。カラー モデルとカラー モードについては、221 ページの「カラー モード」および201 ページの「カラー」を参照してください。

イメージ情報を表示するには

- [ファイル] ▶ [ドキュメントのプロパティ] をクリックします。

イメージ領域についての情報を表示するには

- [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [情報] をクリックします。

可能な操作

新しいカラー モデルを選択する

上部のフライアウト矢印  をクリックし、色レベルを選択してカラー モデルをクリックします。

イメージ情報の表示に使用する単位を変更する

下部のフライアウト矢印をクリックし、単位をクリックします。



デフォルトで **[情報]** パレットは、上から下に RGB、Hex、CMYK の値を表示します。



スポイト ツール  をクリックし、イメージ領域にポインタを合わせることで、カラー モード情報を表示することもできます。

イメージ ウィンドウを更新する

イメージ ウィンドウはいつでも更新できます。たとえば、大きなイメージを表示する場合にこのオプションは便利です。

イメージ ウィンドウを更新するには

- **[ウィンドウ]** ▶ **[ウィンドウの更新]** をクリックします。



また、**Ctrl + W** を押してイメージ ウィンドウを更新することもできます。

Digimarc のすかし模様を検出する/埋め込む

Digimarc すかし模様を使用して、著作権情報、連絡先情報、およびイメージ属性をイメージに埋め込むことができます。すかし模様を使用すると、イメージのピクセルの輝度がわずかに変化します。この変化は肉眼ではわかりにくいですが、イメージ処理を進めていくうちに、ピクセルの輝度がわずかに変化していることがわかります。通常の編集、印刷、スキャンでは、Digimarc すかし模様が影響を受けることはありません。

Digimarc すかし模様の検出と埋め込みは、64 ビットバージョンの CorelDRAW Graphics Suite ではサポートされていません。

すかし模様を検出する

Corel PHOTO-PAINT でイメージを開いたときに、すかし模様が入っているかどうかを確認できます。すかし模様が入っている場合は、タイトル バーに著作権記号が表示されます。すかし模様の付いたイメージに関する情報は、埋め込まれているメッセージを読むか、Digimarc のデータベース内の連絡先プロファイルにリンクして確認できます。

すかし模様を埋め込む

Corel PHOTO-PAINT では、イメージに Digimarc すかし模様を埋め込むこともできます。すかし模様を埋め込むには、まず、Digimarc のオンライン サービスに加入して一意の作成者 ID を入手します。作成者 ID には、名前、電話番号、住所、電子メールアドレス、Web アドレスなど、連絡先の詳細な情報が入っています。

作成者 ID を入手したら、すかし模様をイメージに埋め込むことができますようになります。すかし模様を埋め込む際は、著作権の発行年、イメージの属性、すかし模様の耐久性などを指定できます。また、イメージの出力方法 (印刷、Web など) も指定できます。

Digimarc すかし模様を使用してもイメージの不正使用や著作権侵害を阻止できるわけではありませんが、著作権情報をすかし模様に表示することができます。また、イメージの使用やライセンスの取得を希望するユーザーに連絡先の情報を提供できます。

Digimarc について詳しくは、www.digimarc.com を参照してください。

すかし模様を検出するには

- 1 [効果] ▶ [Digimarc] ▶ [すかし模様の読み込み] をクリックします。
- 2 [Web の検索] をクリックして Web ページで連絡先を確認するか、記載されているファックス番号の Digimarc ファックス返送サービスから情報を入手します。



この機能は、64 ビットバージョンの CorelDRAW Graphics Suite ではサポートされていません。



[すかし模様のチェック] をオンにしておけば、イメージを開いた時点またはインポートした時点で、すかし模様を検出できます。

作成者 ID を取得するには

- 1 [効果] ▶ [Digimarc] ▶ [すかし模様の埋め込み] をクリックします。
- 2 [登録] をクリックします。
- 3 [登録作成者 ID] ダイアログ ボックスで [登録] をクリックし、Digimarc の Web サイトで表示される指示に従います。
- 4 [登録作成者 ID] ダイアログ ボックスで、[作成者 ID] ボックスに作成者 ID を入力します。

すかし模様を埋め込むには

- 1 [効果] ▶ [Digimarc] ▶ [すかし模様の埋め込み] をクリックします。
- 2 [著作権発行年] ボックスに、年 (複数可) を入力します。
1922 年以前の年、または来年以降の年を入力することはできません。複数の年を入力するときは、カンマで区切ります。
- 3 [イメージの属性] グループ ボックスで、該当する属性のチェック ボックスをオンにします。
- 4 [出力ターゲット] リスト ボックスからオプションを選択します。
[モニタ] と [Web] には 200 DPI 未満の値を設定し、[プリンタ] には 300 DPI 以上の値を設定する必要があります。
- 5 [すかし模様の耐久性] ボックスに値を入力します。
値が大きいくほど、すかし模様の耐久性が長くなります。

すかし模様を検出した閲覧者がすかし模様の情報を確認できるようにする場合は、[確認] チェック ボックスをオンにします。



この機能は、64 ビットバージョンの CorelDRAW Graphics Suite ではサポートされていません。

すかし模様を追加する前に、すべてのオブジェクトをバックグラウンドに結合します。オブジェクトとバックグラウンドの結合について詳しくは、425 ページの「オブジェクトをグループ化/結合する」。次を参照してください:



ガイドライン、グリッド、ルーラー

ガイドライン、グリッド、ルーラーは、イメージ、オブジェクト、編集領域の配置とサイズの決定に使用できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 89 の「ガイドライン」。
- ページ 92 の「グリッド」。
- ページ 94 の「ルーラー」。

ガイドライン

ガイドラインは、イメージ ウィンドウのどこにでも追加できる縦横の線で、イメージ コンポーネントの測定、整列、配置に便利です。ガイドラインでは、ルーラーと同じ単位が使用されます。イメージを Corel PHOTO-PAINT アプリケーションで保存すると、ガイドラインも保存されます。

ガイドラインは表示と非表示を切り替えられます。また、イメージ ウィンドウでガイドラインを追加、削除、移動、ロックすることもできます。斜めのガイドラインを追加することや、既存のガイドラインを回転させることもできます。

ガイドラインにはオブジェクトや編集領域をスナップさせることができます。この機能を使用した場合、オブジェクトや編集領域をガイドラインへ近づけると、オブジェクトや編集領域がガイドラインに自動で揃います。この機能の感度を設定して、ガイドラインに所定のピクセル数以内まで近づいたオブジェクトや編集領域がスナップするようにできます。

ガイドラインのカラーや線スタイルを変更して、イメージのバックグラウンドに対して目立たせることができます。デフォルトでは、ガイドラインを選択すると、赤に変わります。ガイドラインの選択を解除すると、青に変わります。

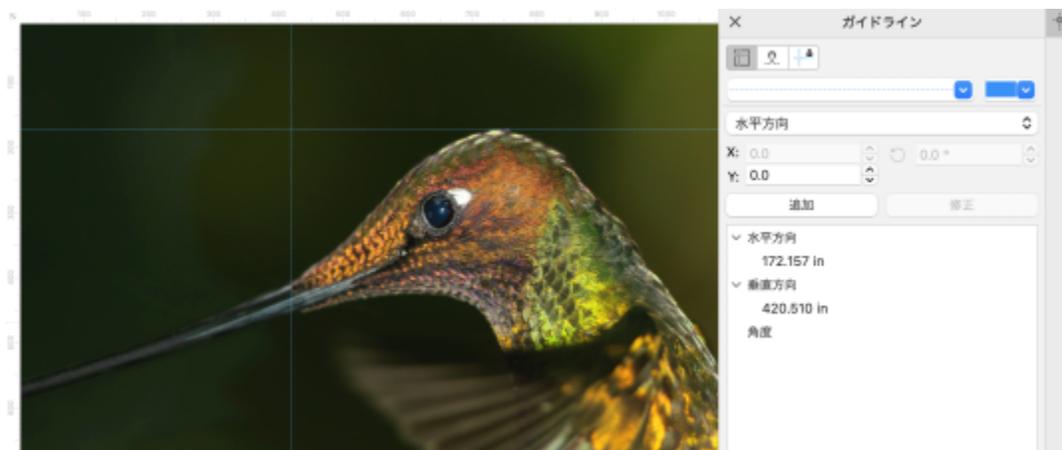
ガイドラインを表示または非表示にするには

- **[表示]** ▶ **[ガイドライン]** をクリックします。

メニュー コマンドの横にチェック マークが付いている場合は、ガイドラインが表示されています。



また、**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[ガイドライ]** をクリックし、**[ガイドラインの表示]** ボタン  をクリックして、ガイドラインの表示/非表示を切り替えることができます。



表示されているガイドライン

水平方向または垂直方向のガイドラインを追加するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ガイドライン]をクリックします。
- 2 [ガイドラインのタイプ] リスト ボックスで、次のオプションから 1 つ選択します。
 - 水平方向
 - 垂直方向
- 3 ガイドラインの位置を **x** や **y** のボックスで指定します。
- 4 [追加] をクリックします。



水平または垂直ルーラーからイメージ ウィンドウにドラッグして、ガイドラインを追加することもできます。

斜めのガイドラインを追加するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ガイドライン]をクリックします。
- 2 [ガイドラインのタイプ] リスト ボックスから [斜め] を選択します。
- 3 ガイドラインの位置を **x** と **y** のボックスで指定します。
- 4 [回転の角度] ボックスに値を入力します。
- 5 [追加] をクリックします。

ガイドラインを削除するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ガイドライン]をクリックします。
- 2 リストからガイドラインを選択します。
Ctrl キーを押したままクリックすると、複数のガイドラインを選択できます。
- 3 [ガイドラインの削除] ボタン  をクリックします。



また、ガイドラインをイメージ ウィンドウの外へドラッグしてガイドラインを個別に削除することもできます。

ガイドラインを移動するには

- 1 ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。
- 2 **ガイドライン**をイメージ ウィンドウ内の別の位置にドラッグします。



ガイドラインは**カーソル キー移動**もできます。

x および y 座標を指定してガイドラインを移動するには、**[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ガイドライン]** をクリックします。ガイドラインを選択し、**[x]** および **[y]** ボックスに値を入力し、**[修正]** をクリックします。

ガイドラインを回転させるには

- 1 ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
ガイドラインを回転する	ガイドラインを 2 回クリックし、回転ハンドル  が表示されたらガイドラインを回転させます。 また、 [ガイドラインのタイプ] リスト ボックスから [斜め] を選択し、 [回転の角度] ボックスに値を入力して [修正] をクリックすることでも、ガイドラインを回転させることができます。
複数のガイドラインを回転させる	Shift キーを押しながら、ガイドラインを選択し、選択したガイドラインをもう一度クリックし、回転ハンドルが表示されたらガイドラインを回転させます。 回転の中心は、最後に選択したガイドラインで決まります。
ガイドラインを指定した値で回転させる	ガイドラインを 2 回クリックして回転ハンドルを表示し、プロパティ バーの [回転の角度] ボックスに値を入力します。 特定の値を指定して複数のガイドラインを回転させることもできます。
ガイドラインを 15° 単位で回転させる	ガイドラインを 2 回クリックして回転ハンドルを表示し、 Ctrl キーを押したままガイドラインを回転させます。 複数のガイドラインを 15° 単位で回転させることもできます。
回転の中心点を変更する	ガイドラインの回転の中心を別の位置へドラッグするか、プロパティ バーの [回転の中心] ボックスに値を入力します。

ガイドラインのロック/ロック解除を切り替えるには

- **[表示] ▶ [ガイドラインのロック]** をクリックします。
メニュー コマンドの横にチェック マークが付いている場合、**ガイドライン**はロックされています。



また、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ガイドライン] をクリックし、[ガイドラインのロック] ボタン  をクリックして、ガイドラインをロックすることもできます。

オブジェクトや編集領域をガイドラインにスナップするには

- [表示] ▶ [スナップ] ▶ [ガイドライン] をクリックします。



また、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ガイドライン] をクリックし、[ガイドラインにスナップ] ボタン  をクリックすることでも、オブジェクトや編集領域がガイドラインにスナップされるように設定できます。

ガイドラインのスナップ感度を設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [ガイドライン スナップ許容範囲 (ピクセル単位)] ボックスに値を入力します。

ガイドラインの線のスタイルや色を設定するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ガイドライン] をクリックします。
- 2 ガイドラインの色ピッカーを開き、色を選択します。
- 3 ガイドラインのスタイル ピッカーを開いて、線のスタイルを選択します。



線スタイルやカラーを変更すると、既存のすべてのガイドラインとこれから追加するすべてのガイドラインに反映されます。

グリッド

グリッドは交差する一連の線で、印刷はされません。イメージ上に重ねて表示され、オブジェクトを正確に整列および配置するのに便利です。グリッドは、表示と非表示をいつでも切り替えることができます。

オブジェクトや編集領域がグリッド ラインに自動で揃うようにすることができます。グリッドの間隔を変更して、グリッドの見た目をカスタマイズすることができます。間隔を変更することで、グリッド ラインの間隔を設定できます。間隔のオプションは、ルーラーの測定単位に基づきます。たとえば、ルーラーの測定単位がインチに設定されると、間隔のオプションもインチに基づきます。

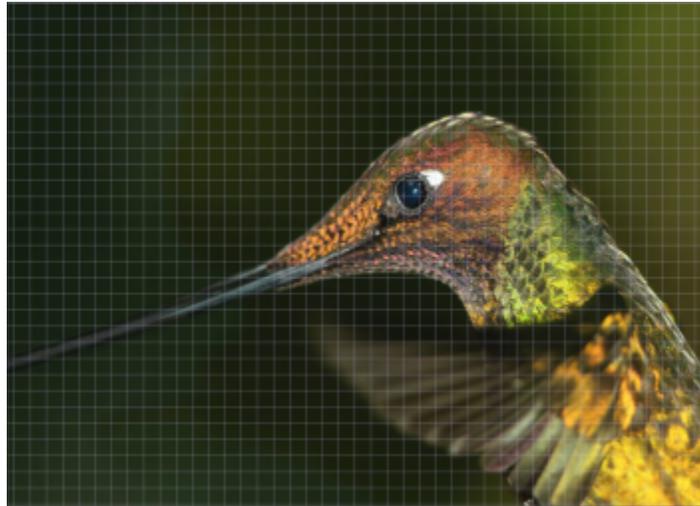
ルーラーの測定単位がピクセルに設定されていると、グリッドの見た目をカスタマイズするためのオプションが他にも表示されます。ピクセル グリッドには、グリッドの色と不透明度を指定できます。

ズーム倍率を最大にしてピクセルをより正確に編集したい場合は、各ピクセルの周囲にグリッドを表示できます。

グリッドを表示/非表示にするには

- [表示] ▶ [グリッド] をクリックします。

メニュー コマンド名の横にチェック マークが付いている場合、グリッドが表示されています。



表示されているグリッド。

オブジェクトや編集領域をグリッドにスナップさせるには

- [表示] ▶ [スナップ] ▶ [グリッド] をクリックします。

グリッドの間隔を設定するには

- 1 [イメージ] ▶ [ドキュメント オプション] をクリックします。
- 2 [グリッド] をクリックします。
- 3 [ドキュメントグリッド] 領域内の [水平方向] ボックスに値を入力します。
グリッドのスペース間隔や、測定単位当たりに表示されるライン数を変更する場合は、リスト ボックスからオプションを選択します。オプションは、ルーラーの測定単位に基づきます。
- 4 [垂直方向] ボックスに値を入力します。

グリッドのカラーを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [グリッド] カラー ピッカーを開き、カラーをクリックします。

ピクセル グリッドのカラーとスタイルを変更するには

- 1 [イメージ] ▶ [ドキュメント オプション] をクリックします。
- 2 [グリッド] をクリックします。
- 3 [ピクセル グリッド] 領域で [カラー] ピッカーを開き、カラーをクリックします。
- 4 [不透明度] スライダを右に移動すると、グリッドの不透明度が増加します。

ピクセル グリッドを最大倍率で表示するには

- 1 [イメージ] ▶ [ドキュメント オプション] をクリックします。
- 2 [グリッド] をクリックします。
- 3 [ピクセル グリッド] 領域で、[800% 以上のズームでグリッドを表示] チェック ボックスをオンにします。

ルーラー

画面上のルーラーは、イメージ、オブジェクト、編集領域のサイズや配置を決める際に視覚的な基準になります。ルーラーは、表示と非表示をいつでも切り替えることができます。また、デスクトップモードおよびタブレットモードのルーラーは、作業に応じて個別に表示/非表示を切り替えることができます。ルーラーはデフォルトで、デスクトップモードでは表示され、タブレットモードに切り替えると非表示になります。

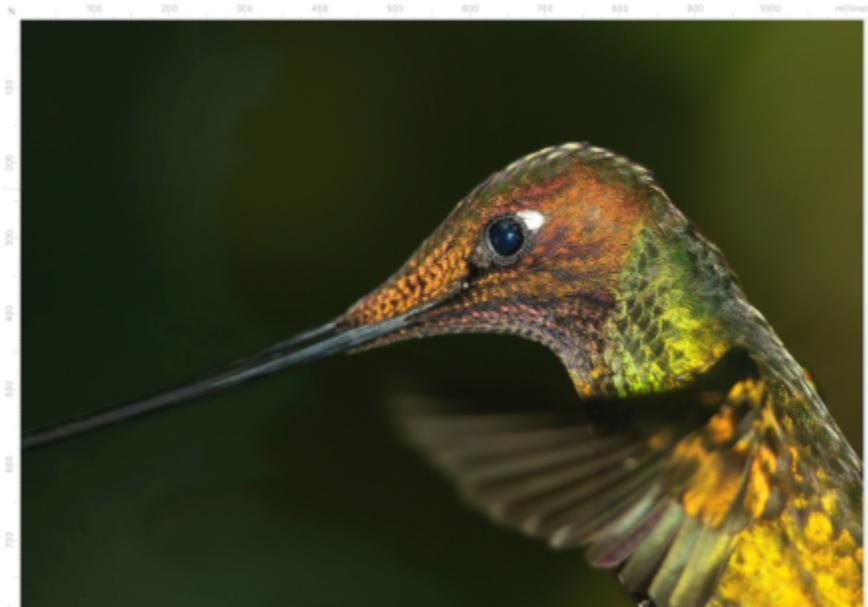
イメージウィンドウでポインタを動かすと、その位置がルーラー上のマークで示されます。ルーラーのゼロマーク位置をカスタマイズすることや、現在のドキュメントで使用する測定単位を指定することもできます。

ルーラーはイメージウィンドウ内のどこへでも動かしますが、デフォルトではイメージウィンドウの上辺と左辺に沿って表示されます。

ルーラーの表示/非表示を切り替えるには

- **[表示] ▶ [ルーラー]** をクリックします。

メニューコマンドの横にチェックマークが付いているときは、ルーラーが表示されています。



表示されているルーラー。

デスクトップモードおよびタブレットモードでルーラーの表示/非表示を切り替えるには

- 1 **[イメージ] ▶ [ドキュメント オプション]** をクリックします。
- 2 **[ルーラー]** をクリックします。
- 3 **[ルーラー]** ページで、次のチェックボックスをオンまたはオフにします。
 - ルーラーをデスクトップモードで表示
 - ルーラーをタブレットモードで表示

ルーラーをカスタマイズするには

- 1 **[イメージ] ▶ [ドキュメント オプション]** をクリックします。
- 2 **[ルーラー]** をクリックします。
- 3 **[単位]** 領域で、以下のリストボックスから単位を選択します。

- 水平方向
- 垂直方向

垂直および水平ルーラーの両方で同じ測定単位を使用する場合は、**[水平/垂直方向に同じ単位を使用する]** チェック ボックスをオンにします。

4 **[原点]**の次のボックスに値を入力します。

- 水平方向
- 垂直方向

原点値は、ルーラーのゼロ マークとルーラーの原点との距離を、指定した単位で示します。たとえば、水平ルーラーの原点値を 4 にすると、そのルーラーのゼロ マークが原点から、すなわちルーラーの始点から 4 単位離れます。

5 **[目盛りの刻み]** 領域で、**[値]** ボックスに値を入力します。

ルーラーに小数点以下を表示するには、**[小数を表示する]** チェック ボックスをオンにします。

ルーラーを移動するには

- **Shift** キーを押しながらルーラーを別の位置へドラッグします。

可能な操作

ルーラーを元の位置に戻す

Shift キーを押しながらルーラーをダブルクリックします。

両ルーラーを同時に移動する

Shift キーを押しながら、2 本のルーラーの交点をドラッグします。



操作を元に戻す/やり直す/繰り返す/フェードする

Corel PHOTO-PAINT では、操作を元に戻す、やり直す、繰り返す、およびフェードすることができます。また、イメージまたはイメージの一部を以前に保存した状態に戻すこともできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 97 の「元に戻す/やり直す」。
- ページ 99 の「復帰」。
- ページ 99 の「繰り返しとフェード」。

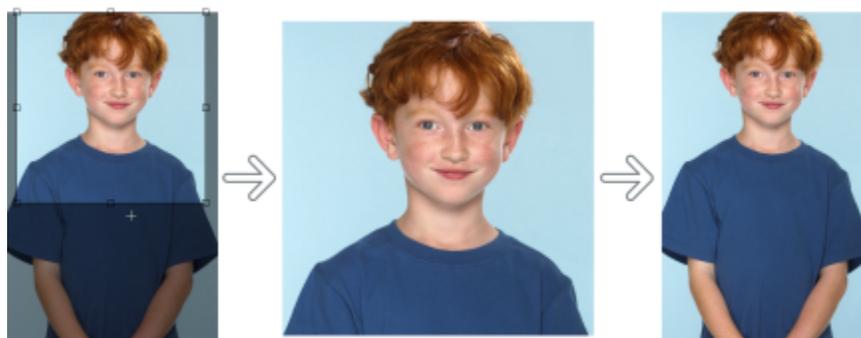
元に戻す/やり直す

Corel PHOTO-PAINT では、イメージに適用した操作を元に戻し、直前の操作から再開できます。元に戻した結果がよくない場合は、操作をやり直すことができます。ブラシストローク、効果、変形などの、イメージに適用した操作は、元に戻したり、やり直したりすることができます。ただし、環境設定の変更のような、作業領域に適用した操作は、元に戻したり、やり直したりすることはできません。

元に戻す設定をカスタマイズし、元に戻す操作またはやり直す操作の数を増減できます。

元に戻すリストの操作の数を増やすと、元に戻すリストを保持するために必要なメモリ量が多くなります。メモリを解放するには、元に戻すリストからすべての操作を消去します。

また、直前の操作を取り消して、イメージの一部を復元することもできます。詳しくは、159 ページの「イメージの領域を消去する」を参照してください。



左から右へ: 元のイメージ、切り取ったイメージ、切り取りアクションを元に戻してイメージの寸法を復元する

操作を元に戻す/やり直すには

目的

直前に実行した操作を元に戻します。

取り消した操作を再実行します。

一連の操作を元に戻すまたはやり直す

作業手順

[編集] ▶ **[元に戻す (直前の操作)]** をクリックします。

[編集] ▶ **[やり直し (直前の操作)]** をクリックします。

[履歴] ドッキング ウィンドウで、操作をリストから選択します。選択した操作の下に表示されている操作がすべて元に戻されます。**[履歴]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** } **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[履歴]** をクリックします。

[履歴] ドッキング ウィンドウのすべての操作を削除してメモリを解放する

[編集] ▶ **[消去]** ▶ **[元に戻すリスト]** をクリックします。



一連の操作を元に戻すと、選択した操作とその下に表示されているすべての操作が元に戻ります。

一連の操作をやり直すと、選択した操作から最後に元に戻した操作までのすべての操作が再実行されます。

元に戻す設定をカスタマイズするには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[一般]** をクリックします。
- 3 **[メモリ]** 領域の **[元に戻すレベル]** ボックスに値を入力します。



元に戻す操作のレベルは最高 99 まで指定できますが、このレベル数は**スワップ ディスク**のサイズに影響します。コンピュータの処理速度が落ちたと感じる場合は、元に戻す操作のレベルを小さくしてください。

復帰

イメージを作成または編集するとき、イメージを最後に保存したバージョンに戻して、そのバージョン以降のすべての変更を削除することができます。変更の一部だけを取り消す場合は、特定のイメージ領域を、最後に保存したイメージの表示に戻すことができます。

また、イメージの現在の状態を一時的に保存するチェックポイントを作成すると、必要に応じて、後でイメージをその状態まで戻すことができます。

また、チェックポイントを使用して自動保存する作業領域を作成することもできます。詳しくは、105 ページの「自動保存設定を指定するには」を参照してください。

イメージを最後に保存したバージョンに戻すには

- [ファイル] ▶ [保存した状態に戻す] をクリックします。



[履歴] ドッキング ウィンドウの[前回保存した状態に戻す] ボタン  をクリックして、最後に保存したイメージに戻すこともできます。

イメージ領域を元に戻すには

- 1 ツールボックスのクローン ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、[保存からクローン] のブラシ カテゴリ  を選択し、プリセットのブラシの種類を選択します。
- 3 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



イメージを最初から作成している場合は、**保存からクローン** ツールを使用する前にイメージを保存してください。イメージの保存について詳しくは、103 ページの「保存する/閉じる」を参照してください。

チェックポイントを作成する/チェックポイントに戻るには

目的	作業手順
チェックポイントを作成する	[編集] ▶ [チェックポイント] をクリックします。
チェックポイントに戻る	[編集] ▶▶ [チェックポイントに戻す] をクリックします。

繰り返しとフェード

操作は、繰り返したり、フェードしたりすることができます。操作を繰り返してイメージに何度も同じ操作を適用すると、視覚的効果がより強調されます。操作をフェードすると、操作が徐々に取り消されていきます。マージ モードを使用してフェード効果を修正することもできます。マージ モードについて詳しくは、343 ページの「マージ モード」を参照してください。



直前の操作を繰り返して、効果を強めることができます。左側のイメージが元のイメージで、中央のイメージには風の効果が適用されています。また、右側のイメージでは、その効果が繰り返されています。



直前の操作を、指定した量だけフェードすることができます。元のイメージが左側のイメージで、中央のイメージはフェードされています。右側のイメージでは、フェード効果は弱められています。

操作を繰り返す/フェードするには

目的	作業手順
直前の操作を繰り返す	[編集] ▶ [繰り返す (直前の操作)] をクリックします。
直前の操作をフェードする	[編集] ▶ [最終コマンドのフェード] をクリックします。 [パーセント] スライダを調整して、フェードのレベルを設定します。フェード効果を修正する場合は、 [マージ] リスト ボックスからマージ モードを選択します。



操作を繰り返す、またはフェードするには、その前に効果、ブラシストローク、または変形などの操作がイメージに適用されている必要があります。環境設定の変更などの、作業領域で実行された操作は繰り返したり、フェードしたりすることはできません。



特殊効果の設定を最大化すると、その効果を繰り返して強調することができます。特殊効果について詳しくは、[347 ページの「特殊効果を適用する」](#)を参照してください。



保存する/閉じる

Corel PHOTO-PAINT では、イメージを作成しているときやイメージを閉じる前に、作業内容を保存することができます。また、イメージはさまざまなファイル形式で保存することもできます。

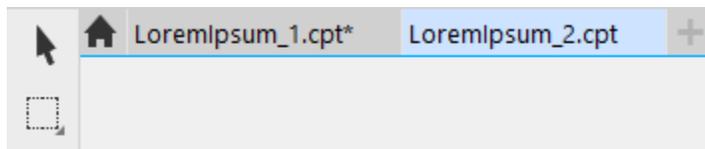
このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 103 の「イメージを保存する」。
- ページ 105 の「イメージをエクスポートする」。
- ページ 107 の「ロックされているファイル」。
- ページ 107 の「イメージを閉じる」。

イメージを保存する

イメージは保存することができます。また、イメージを一定の間隔で自動的に保存したり、ファイルのバックアップ コピーを保存したりすることもできます。

このアプリケーションでは、未保存の変更内容があるイメージに対してファイル名の後ろにアスタリスクが付くため、未保存かどうかを簡単に確かめることができます。アスタリスクの付加される場所は、ファイル名の表示場所が Windows メニューか、タイトルバーか、ドキュメントのタブかに応じて異なります。



ドキュメントのタブに表示されるファイル名の後ろにアスタリスクが付加され、ファイル LoremIpsum_1.cpt に未保存の変更があることを示しています。ファイル LoremIpsum_2.cpt に未保存の変更内容はありません。

イメージを保存する

イメージを保存するときは、ファイルの形式、ファイル名、およびファイルを保存するフォルダを指定します。イメージは、現在選択しているファイル形式、ファイル名、およびファイルの場所に保存されます。デフォルトの形式は、Corel PHOTO-PAINT 固有のファイル形式 (CPT) です。Corel PHOTO-PAINT (CPT) のファイル形式で保存すると、**オブジェクト**、最近作成した**マスク**、**アルファチャンネル**、**グリッド**、**ガイドライン**、**カラー情報**などの、すべてのイメージプロパティが保持されるので、後でこれらを編集することができます。

コメントや注記などの情報 (メタデータ) をイメージに関連付けると、イメージを簡単に検索したり整理したりできるようになります。

イメージを別のファイル形式にエクスポートすることも可能です。詳しくは、105 ページの「イメージをエクスポートする」を参照してください。

イメージを自動保存する/バックアップする

自動保存設定を指定して、作業中に一定の間隔でイメージを自動的に保存することができます。作業の特定の段階のイメージを一時的に保存することも、最後に保存したイメージに上書きすることもできます。

バックアップを設定すると、イメージを保存するたびにコピーが作成されます。バックアップ コピーは、選択したフォルダに保存されます。

また、現在のイメージのスナップショットを一時的に保存するチェックポイントを作成すると、必要に応じてイメージをその状態まで戻すことができます。チェックポイントについて詳しくは、99 ページの「チェックポイントを作成する/チェックポイントに戻るには」を参照してください。

イメージを保存するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[名前を付けて保存]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
入力したファイル名には、選択したファイル形式の拡張子が自動的に追加されますが、削除することもできます。
- 5 次のアクティブなチェック ボックスを、必要に応じてオンにします。
 - **選択オブジェクトのみ** - アクティブなオブジェクトおよび選択済みのオブジェクトがない場合は、イメージで定義されている編集領域のみが保存されます。編集領域がない場合は、アクティブなオブジェクトおよび選択済みのオブジェクトのみが保存されます。
 - **フィルタ ダイアログ ボックスを表示しない** - 高度なエクスポート オプションを提供するダイアログ ボックスを表示しません。
- 6 **[保存]** をクリックします。

可能な操作

ファイルを圧縮する

[圧縮の種類] リスト ボックスで圧縮方法を選択します。

[圧縮の種類] リスト ボックスは、イメージを圧縮可能なファイル形式に保存する場合にのみ使用できます。

ファイルに関する情報を指定する

[タイトル] または **[主題]** ボックスに必要なコメントを入力します。

このオプションが確認できない場合、右下の隅をドラッグしてダイアログ ボックスのサイズを大きくし、隠れているオプションを表示させます。



オブジェクトのあるイメージを、オブジェクトをサポートしていないファイル形式で保存するときは、イメージ ウィンドウで (オブジェクトを含む) 元のファイルで作業を続けることができます。この場合も、イメージとそのオブジェクトを Corel PHOTO-PAINT (CPT) 形式で保存できます。



標準ツールバーの**[保存]** ボタン  をクリックして、イメージを保存することもできます。

注記は、イメージを開くときに **[開く]** ダイアログ ボックスの **[ノート]** ボックスで確認したり、イメージをインポートするときに **[インポート]** ダイアログ ボックスで確認したりすることができます。一部のファイル形式では、イメージとともに注記を保存できません。

自動保存設定を指定するには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[保存]** をクリックします。
- 3 **[自動保存する間隔]** チェック ボックスをオンにし、その下のボックスに値を入力します。
値を入力すると、自動保存する間隔が分単位で指定されます。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **チェックポイントに保存** - ディスクに保存されているイメージに上書きせず、現在のイメージのコピーを一時的に保存します。
 - **ファイルに保存** - ディスクに保存されているイメージに上書きします。

自動保存が行われるたびに確認のメッセージを表示するには、**[保存前にメッセージを表示する]** チェック ボックスをオンにします。



イメージを保存するか、Corel PHOTO-PAINT を終了すると、チェックポイントのイメージは失われます。

バックアップ設定を指定するには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[保存]** をクリックします。
- 3 **[保存時にバックアップ作成]** チェック ボックスをオンにします。

バックアップ コピーを保存するフォルダを変更する場合は、**[バックアップの場所]** チェック ボックスをオンにして **[参照]** をクリックし、フォルダを指定します。

ドキュメントのプロパティを編集するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[ドキュメントのプロパティ]** をクリックします。
- 2 **[ドキュメントのプロパティ]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかに関する単語や語句を入力します。**タイトル**、**主題**、**キーワード**、**著作権情報**、**ノート**、または**作成者**。
評価を指定するには、**[評価]** リスト ボックスから評価を選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

イメージをエクスポートする

Corel PHOTO-PAINT イメージは、さまざまなファイル形式にエクスポートできます。イメージをエクスポートすると、元のイメージは既存のファイル形式でイメージ ウィンドウに開いたまま残ります。

ファイル形式は、後でイメージを使用する方法に合わせて選択します。イメージを Corel PHOTO-PAINT (CPT) 以外のファイル形式にエクスポートすると、一部のイメージ プロパティが失われることがあります。各ファイル形式には、独自の特徴と適切な用途があります。たとえば、別のイメージ編集アプリケーションでイメージを扱う場合は、Adobe Photoshop (PSD) のファイル形式にイメージをエクスポートします。**オブジェクト**や**マスク**など、多くのイメージ プロパティが保存されるため、継続してイメージを編集することができます。イメージを共有する場合は、標準的な形式である Tagged Image File Format (TIFF) や Windows のビット

マップ (BMP) のファイル形式が適しています。この形式のイメージは、ほとんどのイメージビューアや、ほとんどのイメージ編集アプリケーション、デスクトップパブリッシングアプリケーションで開くことができます。

ファイルをエクスポートして、Microsoft Office や Corel® WordPerfect® Office などのオフィス製品用に最適化することもできます。

イメージは、JPEG や GIF などの Web 対応ファイル形式にエクスポートすることもできます。詳しくは、491 ページの「Web 用のイメージをエクスポートする」を参照してください。

サポートされているファイル形式について詳しくは、551 ページの「サポートされているファイル形式」を参照してください。

イメージを別のファイル形式にエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- 4 [ファイル名] リスト ボックスにファイル名を入力します。
入力したファイル名には、選択したファイル形式の拡張子が自動的に追加されますが、削除することもできます。
- 5 次のアクティブなチェック ボックスを、必要に応じてオンにします。
 - **選択オブジェクトのみ** - アクティブなオブジェクトおよび選択済みのオブジェクトがない場合は、イメージで定義されている編集領域のみが保存されます。編集領域がない場合は、アクティブなオブジェクトおよび選択済みのオブジェクトのみが保存されます。
 - **フィルタ ダイアログ ボックスを表示しない** - 高度なエクスポート オプションを提供するダイアログ ボックスを表示しません。
- 6 [保存] をクリックします。

可能な操作

ファイルを圧縮する

[圧縮の種類] リスト ボックスで圧縮方法を選択します。

[圧縮の種類] リスト ボックスは、イメージを圧縮可能なファイル形式に保存する場合にのみ使用できます。

ファイルに関する情報を指定する

[タイトル] または [主題] ボックスに必要なコメントを入力します。



エクスポートする形式に関するダイアログ ボックスが表示された場合は、必要に応じてオプションを選択します。ファイル形式について詳しくは、551 ページの「サポートされているファイル形式」を参照してください。

Microsoft Office または Corel WordPerfect Office にイメージをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [Office] をクリックします。
- 2 [エクスポート先] リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - Microsoft Office
 - WordPerfect Office
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 5 [ファイル名] リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 6 [保存] をクリックします。



イメージのレイヤは、Microsoft Office または Corel WordPerfect Office にエクスポートされると平坦化されます。

ロックされているファイル

会社などでの環境では、すでに他のユーザーが編集中のためロックされているファイルを開くことがあります。ロックされているファイルに変更を加えた場合は、次の方法のいずれかで保存できます。

- 他のユーザーがそのファイルを変更した場合や、まだ開いている場合は、**[ファイル] ▶ [名前を付けて保存]** をクリックして新規ファイル名で保存する必要があります。
- 他のユーザーがそのファイルを変更せずに閉じた場合は、**[ファイル] ▶ [保存]** をクリックして変更内容を保存できます。

イメージを閉じる

一度に 1 つまたは多数の開いているイメージを閉じることができます。イメージを保存せずに閉じた場合、作業内容は失われます。

イメージを閉じるには

目的	作業手順
1 つの開いているイメージを閉じる	[ウィンドウ] ▶ [ウィンドウを閉じる] をクリックします。
開いているすべての描画を閉じる	[ウィンドウ] ▶ [すべて閉じる] をクリックします。



ファイルを閉じることができない場合は、印刷や保存などのタスクが処理中か、エラーがある場合がある場合があります。タスクのステータスを表示するには、ステータス バーを参照してください。



クリエイティブなツールとコンテンツ

ローカルまたはネットワーク フォルダ内、またはポータブル デバイス上にあるベクトルやビットマップ (または「ラスタ」) イメージなどのコンテンツを検索したり管理したりすることができます。必要なコンテンツを検索したら、プロジェクトにそれを挿入したり、関連するアプリケーションでそれを開いたりすることができます。

無料のツールとコンテンツをダウンロードしたり、アプリ、プラグイン、コンテンツ パックを購入したりして、クリエイティブなツールを拡張することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 109 の「コンテンツの種類」。
- ページ 110 の「クリップアートおよびその他のローカル アセットとネットワーク アセットを検索する」。
- ページ 114 の「[アセット] ドッキング ウィンドウを使ってイメージを使用/管理する」。
- ページ 116 の「[トレイ] ドッキング ウィンドウでコンテンツを管理する」。
- ページ 117 の「アプリケーション、プラグイン、コンテンツを入手する」。
- ページ 118 の「コンテンツの場所を変更する」。

コンテンツの種類

コンテンツの種類には、イメージ (クリップアートやフォト)、塗りつぶし (グラデーション、ビットマップ パターン、ベクトルパターン)、フォント、イメージ リスト、パレット、シンボル ライブラリ、フォト フレーム、テンプレートがあります。このスイートには、すぐに始められるようにコンテンツがいくつか用意されています。ほかにも、ダウンロードして入手できるコンテンツがあります。詳しくは、117 ページの「[追加] ダイアログ ボックスにアクセスするには」を参照してください。

塗りつぶしについて詳しくは、271 ページの「塗りつぶしや透明を検索および表示する」を参照してください。フォントについて詳しくは、Corel Font Manager のヘルプまたは 473 ページの「さらに多くのフォントを取得する」を参照してください。

サンプルのベクトル イメージ



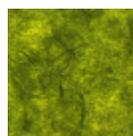
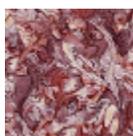
サンプルのビットマップ イメージ



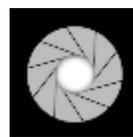
サンプルのベクトル パターン



サンプルのビットマップ パターン



サンプル フォト フレーム



サンプル イメージ リスト



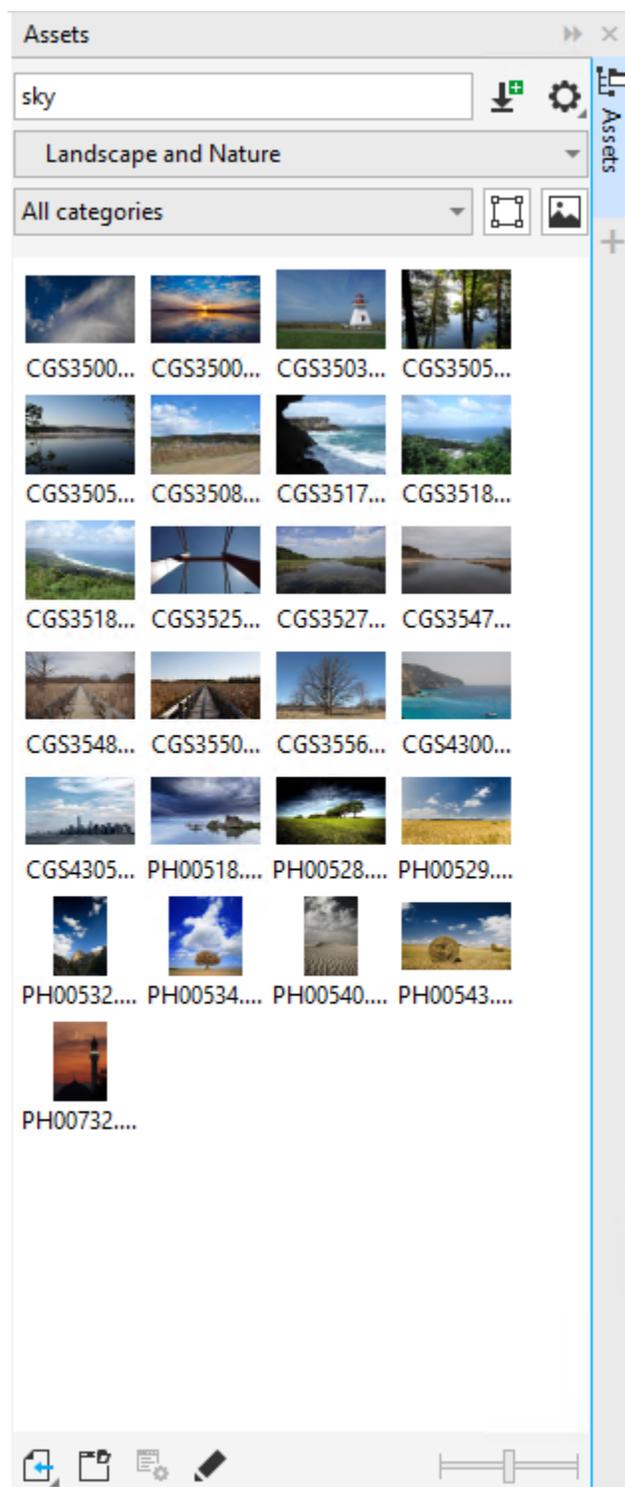
クリップアートおよびその他のローカル アセットとネットワーク アセットを検索する

[アセット] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [アセット]) では、ローカル フォルダ、ネットワーク フォルダ、ポータブル デバイスでベクトル イメージやビットマップ イメージを検索して参照できます。[アセット] ドッキング ウィンドウは、以前のバージョンの [CONNECT コンテンツ] ドッキング ウィンドウに置き換わるものです。

必要なイメージまたはアセットが見つかったら、プロジェクトに追加することができます。詳しくは、114 ページの「[\[アセット\] ドッキング ウィンドウを使ってイメージを使用/管理する](#)」を参照してください。

手始めとして、Corel では **Documents¥Corel¥Corel Content¥Images** フォルダに保存されているローカル コンテンツを用意しています。イメージのコレクションを拡充する場合は、**[追加]** ダイアログ ボックスでイメージ パックを追加でダウンロードできます。

Documents¥Corel¥Corel Content¥Images フォルダ以外のローカル フォルダに保存したイメージにアクセスするには、それらのフォルダにリンク (エイリアス) を作成します。エイリアスは他にも、共有ネットワーク上の場所や、USB フラッシュ ドライブやポータブル ハード ドライブのような 2 次ストレージ デバイスに保存されたイメージへのアクセスに使用できます。



ファイル名、タイトル、またはタグなどで検索できます。たとえば、テキスト フィールドに「tree」と入力すると、一致しないファイルがすべて自動的にフィルタリングされ、ファイル名、タイトル、またはタグに「tree」という単語が含まれているファイルだけが表示されます。

コンテンツのソース（例：特定のフォルダの場所）やカテゴリ（例：自然）を選択して、検索結果を絞り込むことができます。お気に入りや最も最近使用したイメージのリストを表示したり、名前や作成・変更された日付ごとにイメージを並べ替えたりすることもできます。

デフォルトでは、**Documents¥Corel¥Corel Content¥Images** フォルダに保存されている **すべてのコンテンツ** ライブラリ全体を参照して検索します。一度に 1 つのフォルダやリストを検索および参照することもできます。

イメージが含まれるフォルダをコンピュータにコピーした後、オペレーティング システムによるフォルダのインデックス処理に時間がかかることがあります。このようなフォルダに含まれるコンテンツを短時間で表示、参照、検索できるようにするには、フォルダのインデックスを作り直す必要がある場合があります。

サムネールのサイズを大きくしたり、サムネールのサイズを小さくして一度にたくさんの検索結果を表示させたりすることができます。

ローカル アセットとネットワーク アセットの検索、絞り込み、並べ替えを行うには

1 **[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[アセット]** をクリックします。

2 **[検索]** ボックスに語句を入力し、**Enter** キーを押します。

検索条件に一致するサムネールが表示ペインに表示されます。

利用可能なコンテンツすべてを検索・参照するには、**[コンテンツ ソースを選択]** リスト ボックスから**[すべてのコンテンツ]** を選択します。

可能な操作

イメージを絞り込む

[コンテンツの絞り込み] リスト ボックスからカテゴリを選択します。

クリップアートやベクトル グラフィックの表示/非表示を切り替えるには、**[ベクトル イメージを表示]** ボタン  をクリックします。

写真やその他のビットマップの表示/非表示を切り替えるには、**[ラスタ イメージを表示]** ボタン  をクリックします。

最近使用したイメージを表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[最近使用したファイル]** を選択します。

お気に入りのイメージを表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[お気に入り]** を選択します。コンテンツをお気に入りとしてマークする方法については、115 ページの「ローカルまたはネットワーク アセットのプロパティのタグ付け、削除、編集を行うには」を参照してください。

イメージを並べ替える

[フォルダまたはエイリアスのオプション] ボタン  をクリックして、次のいずれかを選択します。

- **[名前で並べ替え]** では、テンプレートがファイル名でアルファベット順に並べ替えられます。
- **[作成日で並び替え]** では、イメージが作成日の新しい順に並べ替えられます。
- **[最後の变更日期で並び替え]** では、イメージが変更日の新しい順に並べ替えられます。

[お気に入り] リストのイメージは、お気に入りとしてマークされた日付の順に自動で並べ替えられ、**[お気に入り]** に追加された最も新しいイメージが先頭に表示されます。

可能な操作

[最近使用したファイル] リストのイメージは使用日の順に自動で並べ替えられ、最後に使用されたイメージが先頭に表示されます。

[すべてのコンテンツ] ライブラリに含まれている全アイテムを参照または検索する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[すべてのコンテンツ]** を選択します。**[フォルダまたはエイリアスのオプション]** ボタン  をクリックし、**[再帰参照]** コマンドがオンになっていることを確認します。

フォルダのインデックスを再作成する

[フォルダまたはエイリアスのオプション] ボタン  をクリックして、**[フォルダの再インデックス]** をクリックします。

イメージ パックを新たにダウンロードして追加するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[アセット]** をクリックします。
- 2 **[追加]** ボタン  をクリックします。
- 3 **[追加]** ダイアログ ボックスで、必要なイメージ パックをクリックします。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - **[立即购买]** をクリックし、画面の説明に従って、アイテムを購入します。
 - 製品またはサブスクリプションにアイテムがある場合は、**[ダウンロード]** をクリックします。

イメージがある場所へのエイリアスを追加するには

- 1 **[アセット]** ドッキング ウィンドウで **[コンテンツ ソースを選択]** リスト ボックスを開き、**[新規追加]** をクリックします。
- 2 **[エイリアスの作成]** をクリックします。
- 3 **[コンテンツ ライブラリの検索]** ダイアログ ボックスで、必要なフォルダまたは場所を参照します。
- 4 **[フォルダを選択]** をクリックします。
すぐにイメージが表示されない場合は、**[フォルダまたはエイリアスのオプション]** ボタンをクリックして、**[フォルダの再インデックス]** をクリックします。

イメージのファイル名と場所を表示するには

- ポインタをサムネールの上に移動させます。

イメージ サムネールのサイズを調整するには

- **[サムネール サイズ]** スライダーを調整します。

[アセット] ドッキング ウィンドウを使ってイメージを使用/管理する

必要なベクトルまたはビットマップ イメージがローカル フォルダ、ネットワーク フォルダ、または Cloud フォルダで見つかったら、それを埋め込みオブジェクトまたはリンク オブジェクトとしてプロジェクトに追加することができます。ベクトル グラフィックを挿入する場合、ページを基準とした元の位置にベクトル グラフィックを配置します。

関連するアプリケーションでイメージを開いて、編集できます。気に入ったイメージをお気に入りとしてマークしておく、すぐに見つけることができます。また、イメージのプロパティの表示や変更もできます。たとえば、タイトルの変更、新しいタグの追加や既存のタグの削除を行えます。不要になったイメージは削除できます。

ローカルパックやエイリアス (ローカル フォルダ、ネットワークの場所、2 次ストレージ デバイスへのリンク) のリストを管理できます。たとえば、ローカル パックやエイリアスの名前を変更したり、エイリアスをリストから削除したりできます。フォルダが削除されてエイリアスが機能しない場合は、別の場所を参照してリンクを復元することができます。

アクティブなドキュメントにコンテンツを挿入するには

- 1 **[アセット]** ドッキング ウィンドウでサムネールをクリックします。
- 2 **[インポート]** ボタン  をクリックし、次のコマンドのいずれかを選択します。
 - **[インポート してリンク]** — リンク オブジェクトとしてファイルを挿入します
 - **[元の位置にインポート]** — ベクトル グラフィックを、ページを基準とした元の作成位置に配置できます。グラフィックは埋め込みオブジェクトとして配置されます。
 - **[インポート]** — 埋め込みオブジェクトとしてファイルを挿入します
- 3 画面に表示される指示に従って操作を行います。



また、表示ペインからアクティブなドキュメントにファイルをドラッグすると、ファイルをアクティブなドキュメントに挿入できます。

表示ペインのファイルを右クリックし、**[インポート]** コマンドを選択して、ファイルをアクティブ ドキュメントに挿入することもできます。

[トレイ] ドッキング ウィンドウを使用して、ファイルをアクティブなドキュメントに挿入することもできます。

イメージを開いて編集するには

- 1 **[アセット]** ドッキング ウィンドウでサムネールをクリックします。
- 2 **[編集]** ボタン  をクリックします。

関連するアプリケーションでファイルが開きます。

ローカルまたはネットワーク アセットのプロパティのタグ付け、削除、編集を行うには

- **[アセット]** ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[アセット]**) で、次の表のタスクを実行します。

目的	作業手順
イメージをお気に入りにマークする	サムネールを右クリックし、 [お気に入り] をクリックします。
イメージ プロパティを編集する	サムネールを右クリックし、 [プロパティ] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックスで、次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none">• [言語] リスト ボックスで言語を選択します。• [タイトル] ボックスに新しい名前を入力します。• [カテゴリ] リスト ボックスからカテゴリを選択して、イメージを分類します。• カスタム カテゴリを割り当てるには、[カテゴリ] リストボックスの [新規カテゴリ] を選択し、ボックスにカテゴリ名を入力します。• キーワードは [タグ] ボックスで追加または削除します。
ローカル ライブラリからファイルを削除する	サムネールを右クリックし、 [削除] をクリックします。

[アセット] ドッキング ウィンドウでフォルダやエイリアスのリストを更新するには

- 1 [アセット] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [アセット]) で、次の表のタスクを実行します。
- 2 [すべてのコンテンツ] の [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスからコンテンツ フォルダまたはエイリアスを選択します。
- 3 [フォルダまたはエイリアスのオプション] ボタン  をクリックし、次の表からいずれかのタスクを実行します。

目的	作業手順
コンテンツ パックまたはエイリアスの名前を変更する	[名前の変更] をクリックし、[名前の変更] ダイアログ ボックスの [名前] ボックスに名前を入力します。
移動したフォルダまたは名前が変更されたフォルダを参照する	[参照] をクリックし、イメージのあるフォルダへ移動します。
リストからエイリアスを削除する	[削除] をクリックします。
でコンテンツ パックまたはエイリアスを開く	[フォルダの場所を開く] をクリックします。

[トレイ] ドッキング ウィンドウでコンテンツを管理する

トレイを使用してコンテンツを整理できます。トレイは、さまざまなフォルダからコンテンツを集めるのに役立ちます。ファイルがトレイ内で参照されている間、それらは実際にはオリジナルの場所にあります。トレイにコンテンツを追加したり、トレイから削除できます。トレイは CorelDRAW および Corel PHOTO-PAINT の間で共有されます。

トレイの作成や、わかりやすい名前への変更ができます。また、使用可能なトレイにリストされていないトレイ ファイルをロードすることもできます。トレイはいつでも削除できます。

[トレイ] ドッキング ウィンドウでは、アクティブなドキュメントにコンテンツを追加することもできます。アクティブなドキュメントへのコンテンツの追加について詳しくは、115 ページの「アクティブなドキュメントにコンテンツを挿入するには」を参照してください。

トレイにコンテンツを追加するには

- 1 [アセット] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [アセット]) で、コンテンツを検索または参照します。
- 2 右クリックし、[[トレイ名] に追加] をクリックします。



コンピュータのフォルダから [トレイ] ドッキング ウィンドウにコンテンツをドラッグすることもできます。

トレイからコンテンツを削除するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [トレイ] をクリックします。
- 2 トレイでサムネールを選択し、[トレイから削除] ボタン  をクリックします。

トレイを操作するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [トレイ] をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
トレイを開く	リスト ボックスからトレイを選択します。
トレイを作成する	<p data-bbox="803 357 1513 441">[トレイ管理] ボタン  をクリックし、[新規トレイの追加] をクリックします。</p> <p data-bbox="803 451 1513 525">デフォルトでは、トレイは Documents¥Corel¥Corel Content¥Trays フォルダに保存されます。</p>
トレイの名前を変更する	<p data-bbox="803 567 1513 682">[トレイ管理] ボタン  をクリックし、[トレイ名の変更] をクリックします。[名前の変更] ダイアログ ボックスに名前を入力します。</p>
トレイ ファイルをロードする	<p data-bbox="803 724 1513 808">[トレイ管理] ボタン  をクリックし、[トレイ ファイルを開く] をクリックします。トレイ ファイルへ移動します。</p>
トレイを削除する	<p data-bbox="803 850 1513 926">[トレイ管理] ボタン  をクリックし、[トレイの削除] をクリックします。</p>

アプリケーション、プラグイン、コンテンツを入手する

[追加] ダイアログ ボックスを使用して、アプリやプラグインのほか、塗りつぶしパック、イメージ パック (クリップアートやフォント)、フォント パックなどのコンテンツを Corel PHOTO-PAINT 内から直接ダウンロードできます。候補は、新しいアイテムが利用可能になると更新されます。アイテムには、無料のものと有料のものがあります。

こうしたアプリケーションやプラグインは、いずれもインストールする必要があります。



アプリケーションまたはプラグインをアンインストールするには、オペレーティング システムのコントロール パネルを使用します。

AfterShot 3 HDR

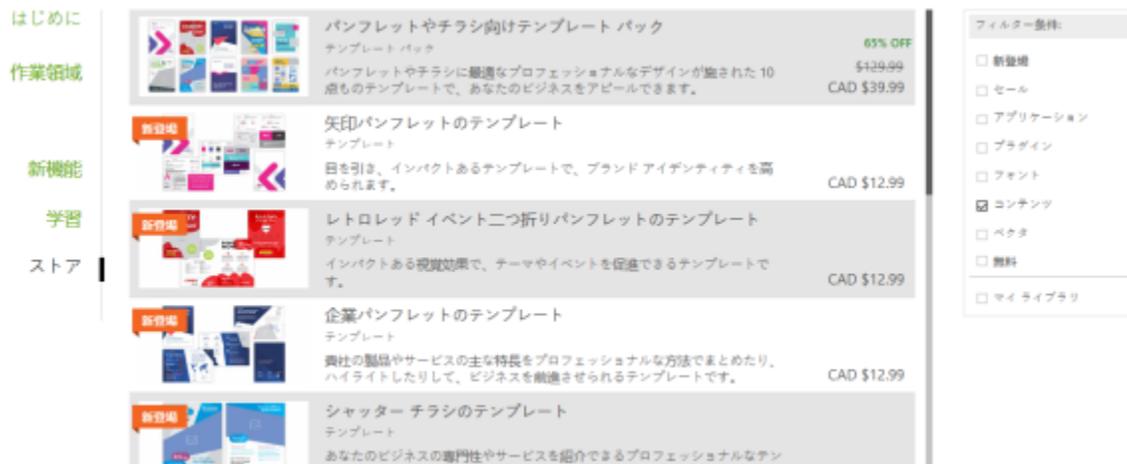
Corel® AfterShot™ 3 HDR では、RAW または JPEG 形式の写真に対する補正や調整を簡単に行なうことができ、バッチ処理ツールを使用して何千枚という写真に調整をまとめて適用できます。また、AfterShot 3 HDR に付属の HDR モジュールを使用して、HDR (ハイ ダイナミック レンジ) イメージを作成することもできます。Corel AfterShot 3 HDR を Corel PHOTO-PAINT から直接無料でダウンロードし、プロ レベルの写真編集を短期間で習得することができます。より強力な写真管理機能や写真編集機能を使用したい場合は、**[追加]** ダイアログ ボックスで AfterShot Pro の最新版にアップグレードできます。

購入したアイテムの復元

創作ツールを購入した後は、その名前の横にチェック マークが表示されます。スイートを再インストールする場合や別のコンピュータにスイートをインストールする場合は、購入したアイテムを復元できます。購入したアイテムは、**[追加]** ダイアログ ボックスに表示されるので、それらのアイテムをダウンロードしたり再インストールしたりすることができます。

[追加] ダイアログ ボックスにアクセスするには

- 標準ツールバーの **[起動]** ボタンをクリックし、**[追加]** をクリックします。



[追加] ダイアログ ボックスでは、クリップアート、フォト、フォント、アプリケーションなどをダウンロードできます。

AfterShot 3 HDR をダウンロードするには

- 標準ツールバーの **[起動]** ボタンをクリックし、**[AfterShot 3 HDR]** をクリックします。



AfterShot 3 HDR のダウンロードが終わると、標準ツールバーの **[起動]** ボタンで起動できるようになります。

AfterShot 3 HDR の使い方についての詳細は、アプリケーションを起動し、**F1** キーを押してヘルプにアクセスしてください。

アプリケーションまたはプラグインにアクセスするには

- 標準ツールバーの **[起動]** ボタンをクリックし、使用するアプリケーション、またはプラグインをクリックします。

購入したアイテムを復元するには

- [ヘルプ]** ▶ **[購入したアイテムの復元]** をクリックします。
- 表示されるダイアログ ボックスで、購入時に使用した電子メール アドレスを入力し、**[続行]** をクリックします。購入済みアイテムのリストが表示されます。
- [閉じる]** をクリックします。
[追加] ダイアログ ボックスに表示されるアイテム リストが更新され、購入済みのアイテムが表示されます。
- 必要なアイテムをダウンロードします。

コンテンツの場所を変更する

イメージ、塗りつぶし、フォント、イメージ リスト、フォト フレーム、トレイ、テンプレートは、**Documents¥Corel¥Corel Content¥[Content Type]** フォルダに保存されます。これらのコンテンツ ファイルの一部またはすべての場所は、別のフォルダを指定することで変更できます。たとえば、テンプレートとフォントを別の場所に保存しつつ、他のコンテンツ ファイルについては **Documents¥Corel¥Corel Content** フォルダのままにしておくことができます。

コンテンツの場所を変更する場合は、コンテンツ ファイルを以前の場所から新しい場所に移動することを選択できます。

個々または複数のコンテンツの場所をデフォルトのフォルダに戻すために、**[オプション]** ダイアログ ボックスを使用できます。または、**F8** キーを押しながらアプリケーションを起動して、アプリケーションをデフォルト設定にリセットすることで、すべてのコンテンツの場所をリセットできます。この方法の場合、カスタムの場所に保存されているファイルはすべてそのまま残ります。カスタムのコンテンツの場所を復元するには、該当するフォルダを再度指定する必要があります。

コンテンツの場所を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [ファイルの場所] をクリックします。
- 3 変更したい場所をクリックし、[編集] をクリックします。
- 4 [フォルダを選択] ダイアログ ボックスで、使用するフォルダに移動します。
古い場所に保存されているコンテンツ ファイルを新しいフォルダに移動する場合は、[コンテンツの移動] ダイアログ ボックスで [はい] をクリックします。

可能な操作

- | | |
|-----------------------|---|
| 1 種類のコンテンツの場所をリセットする | コンテンツの種類の名前をクリックし、[リセット] をクリックします。 |
| 複数の種類のコンテンツの場所をリセットする | Ctrl キーを押しながら複数のコンテンツの種類をクリックし、[リセット] をクリックします。 |



タッチスクリーンとホイール デバイス

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 121 の「タッチ」。
- ページ 123 の「ホイール デバイス」。

Corel PHOTO-PAINT でペンとスタイラスを使用する方法については、339 ページの「圧力感知ペンとデバイス」を参照してください。

タッチ

Corel PHOTO-PAINT には、タッチ ジェスチャをサポートするタッチ作業領域と、作業領域の自動切換え機能が備わっており、タッチ対応デバイスの能力を最大限に活用できます。

ジェスチャ

タッチスクリーンで一般的なジェスチャを使用して、ドキュメントのスクロールやズーム、およびフライアウトにグループ化されたツールへのアクセスを行うことができます。以下の表では、タッチ ジェスチャを使用して一般的なタスクを完了する方法について説明します。

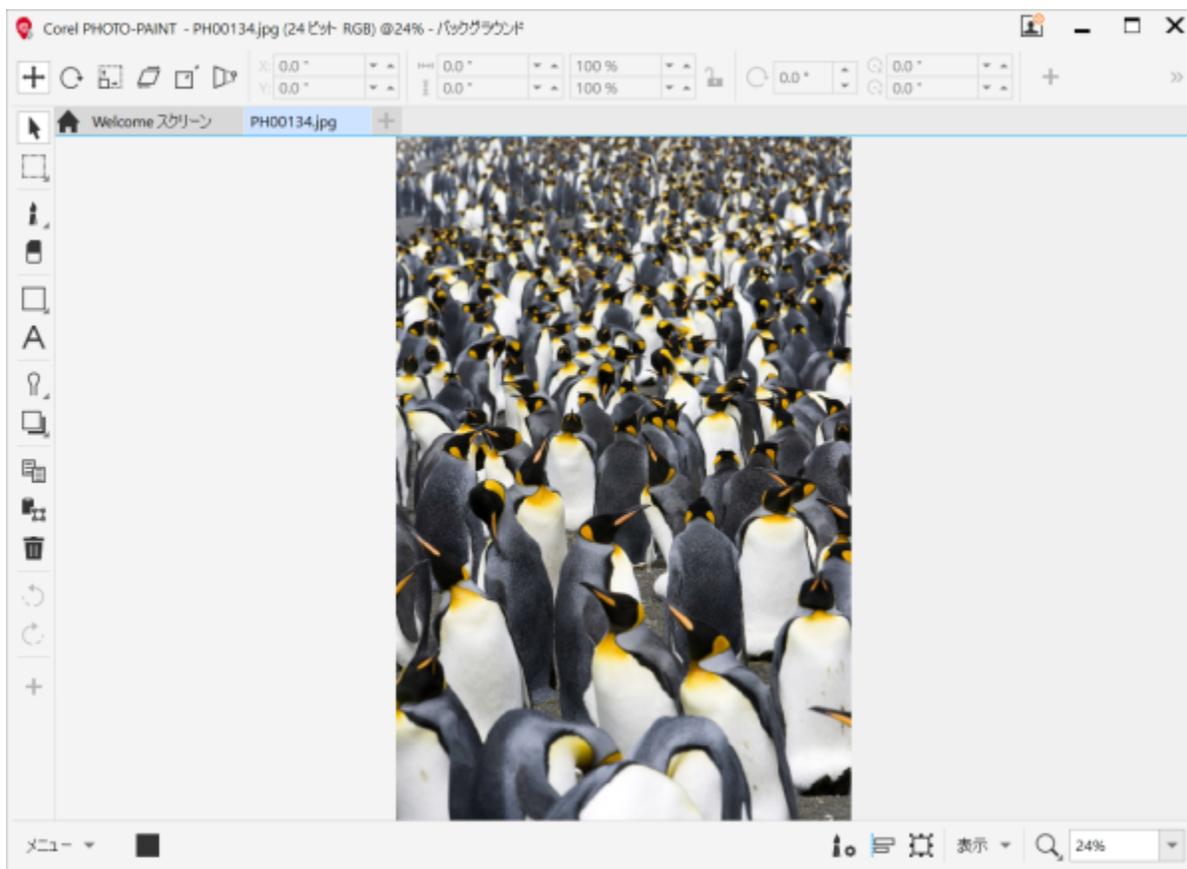
目的	作業手順
ドキュメントをスクロールする	2本の指でスクリーンをタップし、スクロールする方向にドラッグします。
ズーム イン/アウトする	2本の指を外側にピンチしてズーム インするか、内側にピンチしてズーム アウトします。
フライアウトにあるツールを選択する	ツールボックスでフライアウト ボタンをタップし、必要なツールをタップします。

タッチ作業領域

タッチ作業領域はタッチ対応デバイスに最適化されており、フィールド ワークやスケッチ操作に最適です。マウスやキーボードを必要とせずに、タッチ、ダイヤル、スタイラスを使用してさまざまなタスクを完了できます。

タッチ作業領域は効率的なユーザー インタフェース (UI) を備えており、タブレットを使用する際に最もよく使用するツールやコマンドのみが表示されます。タッチ作業領域は、利用可能な他の作業領域と次の点が異なります。

- ボタンや他の UI 要素はタッチしやすいように大きく表示されます。
- ツールボックスは、最も頻繁に使用するツールのみが含まれるよう変更されています。
- ツールボックスでは、[元に戻す]、[やり直し]、[コピー]、[貼り付け]、[削除] のコマンドを利用できます。
- メニュー バーは、メイン ウィンドウの上部には表示されません。メニュー コマンドにアクセスするには、ステータス バーの左下隅にある [メニュー] ボタンをクリックします。
- ステータス バーを使用すると、ズーム レベルの素早い変更、およびよく使用するコマンドやドッキング ウィンドウへのアクセスを行うことができます。



Corel PHOTO-PAINT でのタッチ作業領域

タッチ作業領域とデスクトップ作業領域を切り替える

タブレット モードは Windows の機能で、タッチ対応デバイス用に UI が最適化されています。通常、タブレット モードはタブレットをベースから切り離すとアクティブ化されます。タブレットをベースに装着すると、デスクトップ モードになります。Windows 10 の Corel PHOTO-PAINT では、タブレット モードが有効になると、自動的にタッチ作業領域に切り替わります。タブレット モードが無効になると、アプリケーションはデスクトップ作業領域に切り替わります。デスクトップ モードで使用する作業領域、およびタブレット モードで使用する作業領域を選択できます。作業領域の自動切換えをオフにすることもできます。

また、デスクトップ モードおよびタブレット モードのルーラーは、作業に応じて個別に表示/非表示を切り替えることができます。詳しくは、94 ページの「デスクトップ モードおよびタブレット モードでルーラーの表示/非表示を切り替えるには」を参照してください。

他の作業領域と同じく、タッチ作業領域は、**[ウィンドウ] ▶ [作業領域]** メニューから選択できます。

タブレット モードとデスクトップ モードを切り替えるためのオプションを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 表示されたダイアログ ボックスの左側のペインで、[タブレット モード] をクリックします。
- 3 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
デスクトップ モードとタブレット モードの切り替わり時に作業領域を自動的に切り替える機能をオンまたはオフにする	[タブレットの作業領域とデスクトップの作業領域を自動的に切り替える] チェック ボックスをオンまたはオフにします。
作業領域をタブレット モードに設定する	[タブレット モード] リスト ボックスで、作業領域を選択します。
作業領域をデスクトップ モードに設定する	[デスクトップ モード] リスト ボックスで、作業領域を選択します。

タッチ作業領域を選択するには

- [ウィンドウ] ▶ [作業領域] ▶ [タッチ] ▶ [タッチ] をクリックします。

ホイール デバイス

CorelDRAW Graphics Suite では Microsoft Surface Dial などのホイール デバイスを使用でき、ユーザーはクリエイティブな作業に集中できます。特にスタイラスとホイール デバイスを組み合わせて使用すると、描画や作成が人間工学的に理にかなった自然な作業になります。スタイラスでスケッチやデザインをしながら、利き手ではないほうの手でタスク間を簡単に行き来できます。

ホイール デバイスは、オフスクリーン (机上に配置) とオンスクリーン (画面上に直接配置) の 2 つのモードで使用できます。Corel PHOTO-PAINT では、ホイール デバイスのオンスクリーン モードとオフスクリーン モードに違いはありません。ホイール デバイスを画面上と机上のどちらに配置しても、オンスクリーン UI で[元に戻す]、[ズーム]、[オブジェクトの順序] の各コマンドを使用できます。

ホイール デバイスの設定方法について詳しくは、製造元のマニュアルを参照してください。

オフスクリーン モード

ホイール デバイスが画面上にない場合は、オンスクリーン インタフェースを使用してズーム インまたはズーム アウトしたり、操作を元に戻したりやり直したりすることができます。また、選択したオブジェクトを別のオブジェクトの前面や背面に動かしてオブジェクトの重ね順を変更することもできます。

オフスクリーン モードでホイール デバイスを使用するには

- 1 ホイール デバイスを押し下げてオンスクリーン メニューを表示し、離します。
- 2 ホイール デバイスを回してオンスクリーン メニューから次のいずれかのコマンドを選択し、クリックします。
 - **ズーム** — ズーム インまたはズーム アウトします。
 - **元に戻す** — 操作を元に戻したり、やり直したりします。
 - **オブジェクトの順序** — 選択したオブジェクトを前面または背面に動かして重ね順を変更します。
- 3 ホイール デバイスを時計回りまたは反時計回りに回して、タスクを完了します。

イメージの編集

イメージの寸法、解像度、および用紙サイズ.....	127
切り抜く/つなぎ合わせる/スケールする/向きを変更する.....	133
レタッチする.....	149
カラーとトーンを調整する.....	165
レンズ.....	191
イメージ領域を变形する.....	195



イメージの寸法、解像度、および用紙サイズ

イメージの寸法および解像度を変更することができます。また、イメージを囲む用紙の枠のサイズを変更することもできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 127 の「イメージのサイズおよび解像度」。
- ページ 131 の「用紙のサイズ」。

不要な領域の削除、または複数のイメージの結合により、イメージのサイズを変更することもできます。詳しくは、133 ページの「切り抜く/つなぎ合わせる/スケールする/向きを変更する」を参照してください。

イメージのサイズおよび解像度

イメージのサイズと解像度は印刷画質を左右します。アートワークで想定している使い方に合ったサイズと解像度を選択します。

イメージの寸法

幅や高さを調整して、イメージの物理的なサイズを変更できます。単位を選択する際には、以下のヒントを参考にしてください。

- イメージを後で印刷する場合は、プリンタに合った 1 インチ当たりのドット数 (dpi) 設定で、幅と高さをインチ、センチメートル、ポイント、またはパイカ単位で指定します。
- イメージを後で Web で使用する場合は、単位としてピクセルを選択します。

イメージの解像度

解像度は、イメージ ファイルに含まれるディテールの量、または、入力デバイス、出力デバイス、表示デバイスで再現できるディテールの量です。解像度は、1 インチあたりのドット数 (dpi) またはピクセル数 (ppi) で表されます。解像度を低くすると、粒子の質感が出ます。解像度を高くすると、画質は向上しますが、ファイル サイズが大きくなります。アートワークを後でデスクトップ プリンタで印刷するか Web で使用するかにかかわらず、最終イメージが意図したとおりになるように、以下の事項を考慮してください。

- 通常、コンピュータのモニタに表示するためだけに作成されたイメージは 96 dpi または 72 dpi で、Web 用に作成されたイメージは 72 dpi です。
- デスクトップ プリンタでの印刷用に作成されたイメージはほとんどが 150 dpi ですが、商用印刷用のイメージは通常 300 dpi 以上です。

画面上のイメージのサイズは、イメージのピクセルの高さと幅、ズーム レベル、およびモニタの設定によって異なります。その結果、イメージのサイズは画面上と印刷物で異なることがあります。

イメージのリサンプル

リサンプルでは、イメージの解像度やピクセル サイズの変更に合わせてイメージのディテールの量を変更します。



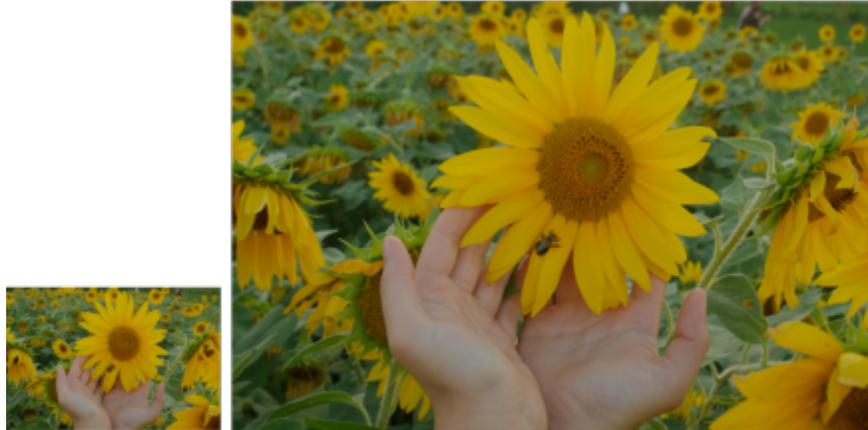
イメージの解像度とサイズを同時に変更することができます。左から右へ: ダウンサンプリングされたイメージ、オリジナル イメージ、アップサンプリングされたイメージ。

ダウンサンプリングでは、イメージに含まれるピクセルの総数が減少します。通常、イメージのカラーとトーンを補正した後、シャープ化する前にダウンサンプリングを行うと、最もよい画質が得られます。



イメージのダウンサンプリング

アップサンプリングでは、イメージにピクセルが追加されます。Corel PHOTO-PAINT では、画質やディテールを失うことなくイメージを拡大できます。いくつか用意されているアップサンプリング モードから、ニーズに応じて選択できます。**バイキュービック**法では、既存のピクセル間に新たなピクセルが追加され、近隣のピクセルのカラーに基づいて補間されます。この方法により、滑らかな階調グラデーションが生成されます。**ニアレストネイバー**法では、新たなすべてのピクセルはアップサンプリング元イメージの最も近いピクセルで置き換えられます。そのため、同じ色のピクセルが複数生成されます。この方法ではシャープなディテールが保持されますが、線や曲線が滑らかではなくなり、エッジがギザギザになることもあります。ほかにも、クリーンなエッジ、シャープ度、精細なディテールを保持してイメージを拡大するために、高度な機械学習テクニックが使用されています。**イラスト**と**フォトリアル**という 2 種類の AI 技法では、アーティストックなイメージや写真を大量に分析した結果に基づき、ニューラル ネットワーク アルゴリズムを使用してノイズの軽減、ピクセルの処理、カラーの維持を達成しています。低レベルのぼかしやシャープ化の技法を駆使してカートゥーンのような効果を生む**イラスト**法は、グラフィック デザイン ソフトウェアで作成したロゴ、デッサン、イラスト、絵などのイメージに最適です。**フォトリアル**法は写真のサイズ変更に最適です。



(左) 元の写真、(右) 元サイズの 3 倍に拡大された写真。

使用システムのハードウェア構成によっては、**イラスト法**や**フォトリアル法**を使用した場合に、イメージのアップサンプリングに数秒から数分かかることがあります。処理の完了までに 3 秒以上かかると推定された場合は、進捗バーが表示され、残り時間が示されます。アップサンプリング処理はいつでもキャンセルできます。

イメージのファイルサイズは、アップサンプリングでは大きくなり、ダウンサンプリングでは小さくなります。解像度固定でリサンプルした場合、イメージの解像度はピクセルの追加や削除によって維持されますが、ファイルサイズは増減します。可変解像度でリサンプルした場合、イメージのインチ、ミリメートル、またはセンチメートル単位でのサイズは変わりませんが、ピクセルサイズが変わり、元イメージとは異なる解像度になります。

イメージの寸法を変更するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[リサンプル]** をクリックします。
- 2 **[幅]** ボックスと**[高さ]** ボックスの横にあるリスト ボックスから、測定単位を選択します。
- 3 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的

イメージのダウンサンプリング

作業手順

イメージのサイズを小さくするには、**[幅]** ボックスと **[高さ]** ボックスに値を入力するか、スケール率として 100% を下回る値を選択します。**[モード]** 領域でダウンサンプリングの手法を選択して、ピクセルの除去方法を指定します。

- **バイキュービック** — バイキュービック補間を使用して、トーンのグラデーションを滑らかにします。
- **ニアレストネイバー** — シャープなディテールが保持されますが、線や曲線が滑らかではなくなり、エッジがギザギザになることがあります。

イメージのアップサンプリング

イメージのサイズを大きくするには、**[幅]** ボックスと **[高さ]** ボックスに値を入力するか、スケール率として 100% を上回る値を選択します。**[モード]** 領域でアップサンプリングの手法を選択して、ピクセルの追加方法を指定します。

- **バイキュービック** — バイキュービック補間を使用して、トーンのグラデーションを滑らかにします。新しいピクセルが既存のピクセル間に追加され、近隣のピクセルのカラーに基づいて補間されます。

目的

作業手順

- **ニアレストネイバー** — 新しいすべてのピクセルは、アップサンプリング元イメージの最も近いピクセルで置き換えられます。そのため、同じ色のピクセルが複数生成されます。この方法ではシャープなディテールが保持されますが、線や曲線が滑らかではなくなり、エッジがギザギザになることもあります。
- **イラスト** — 低レベルのぼかしやシャープ化の技法を駆使してアーティスティックな効果を生み出します。グラフィックデザインソフトウェアで作成したロゴ、デッサン、イラスト、絵などのイメージに最適です。
- **フォトリアル** — エッジの鋭さ、カラーのグラデーション、テクスチャ、精細なディテールを保ちます。この方法は、写真のサイズ変更に最適です。

[**ノイズ軽減**] スライダを動かして、ノイズ軽減レベルを設定します。

注記: [**ノイズ軽減**] オプションは**イラスト**法か**フォトリアル**法でのみ使用できます。

4 [OK] をクリックします。

可能な操作

縦横比を維持する

[**縦横比の維持**] チェック ボックスをオンにします。

ピクセル数を変えずに (リサンプルなしで) イメージのサイズを変更する

[**オリジナルのファイル サイズを維持**] チェック ボックスをオンにします。

イメージの縦横比を変更すると、解像度が自動的に調整されます。

注記:

- このオプションは、解像度を上げるためにイメージ サイズを小さくする場合に便利です。
- このチェック ボックスがオンの場合、イメージに含まれるピクセルの合計数は変わらないので、[**測定単位**] リスト ボックスの [**ピクセル**] オプションはグレー表示になります。



時間の見積もりは、システムのハードウェア、および Corel PHOTO-PAINT タスク開始時にバックグラウンドで実行されていたプロセスの分析に基づいています。Corel PHOTO-PAINT の起動後に、パフォーマンスに影響するプロセスやアプリケーションが開始される状況は考慮されていません。

イメージのアップサンプリングには、デフォルトでコンピュータの GPU (グラフィック処理ユニット) が使用されます。ただし、システムの GPU が CUDA または OpenCL (1.2 以降) をサポートしておらず、Corel PHOTO-PAINT と互換性がない場合は、[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**グローバル**] で、[**一般**] をクリックし、[**アップサンプリングのアクセラレーションに GPU を使用**] オプションをオフにすることで、代わりに CPU (中央処理ユニット) を使用するように設定できます。Corel PHOTO-PAINT のシステム要件について詳しくは、[17 ページの「システム要件」](#)を参照してください。

アップサンプリングの**フォトリアル**法と**イラスト**法は、64 ビットバージョンの CorelDRAW Graphics Suite のみサポートしています。

イメージの寸法を変更するときは、元の値の整数倍または整数分の 1 の幅と高さの値を使用するとよい結果が得られます。たとえば、イメージを 50% 縮小すると、サイズを 77% 縮小した場合よりも見栄えのよいイメージになります。イメージを

50% 縮小するときは、ピクセルは 1 つおきに削除されますが、イメージを 77% 縮小する場合は、ピクセルは不規則に削除されます。

イメージの解像度を変更するには

- 1 [イメージ] ▶ [リサンプル] をクリックします。
- 2 [解像度] の次のボックスのいずれかに値を入力します。
 - 水平方向
 - 垂直方向

可能な操作

イメージの幅と高さの比率を一定に保つ

[縦横比の維持] チェック ボックスをオンにします。

ファイル サイズを維持する

[オリジナルのファイル サイズを維持] チェック ボックスをオンにします。

解像度を変更すると、イメージの縦横比が自動的に調整されますが、ファイルに含まれるピクセルの合計数は変わりません。

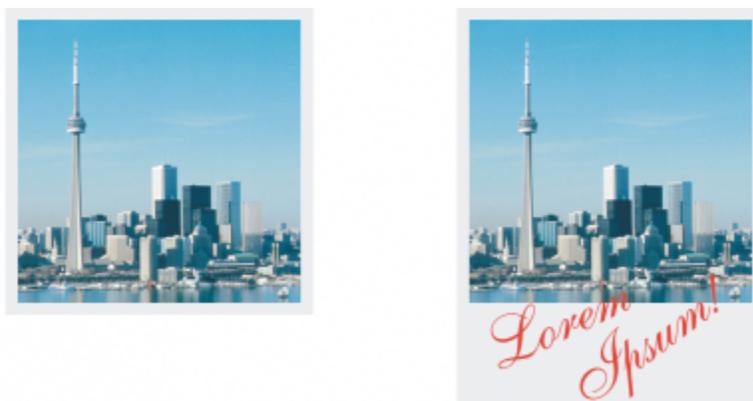


ピクセルが単位に設定されているイメージをリサンプルした場合、イメージのサイズも変わります。

[縦横比の維持] チェック ボックスがオンになっている場合、[同一値] チェック ボックスは使用できません。

用紙のサイズ

用紙サイズを変更すると、イメージと用紙の両方を含む印刷可能領域の寸法が変わります。用紙をリサイズしたときは、オリジナルイメージの寸法は変わらずに、用紙カラーの枠のサイズが拡大または縮小します。ただし、用紙サイズを縮小した結果、高さや幅がオリジナル イメージの寸法より小さくなる場合は、オリジナル イメージは切り抜かれます。



オリジナル イメージを囲む用紙のサイズを変更することができます。

用紙サイズを変更するには

- 1 [イメージ] ▶ [用紙サイズ] をクリックします。
- 2 [幅] ボックスの横にあるリスト ボックスで、単位を選択します。
- 3 以下のボックスに値を入力します。
 - [幅]

- **[高さ]**

用紙サイズの比率をロックする場合は、**[ロック]**  をクリックします。



切り抜く/つなぎ合わせる/スケールする/向きを変更する

イメージを切り抜いて不要な領域を削除したり、複数のイメージをつなぎ合わせて 1 つの大きなイメージを作成したりすることができます。Smart Carver™ を使用してイメージをスケールしたり、イメージを反転または回転させて向きを変更したりできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 133 の「イメージの切り抜き」。
- ページ 135 の「イメージをつなぎ合わせる」。
- ページ 137 の「スマート カーバーを使用してイメージをスケールする」。
- ページ 139 の「イメージの傾き補正」。
- ページ 141 の「イメージやオブジェクトの傾きをインタラクティブに補正する」。
- ページ 143 の「射影歪みを補正する」。
- ページ 146 の「イメージを回転/反転する」。

イメージの切り抜き

イメージを切り抜いて不要な領域を削除し、イメージを再構成できます。後に残す長方形の領域を選択して、それ以外の部分を破棄します。そのため、[解像度](#)を変えずにイメージのファイルサイズを縮小できます。



切り抜きにより、不要な領域を削除できます。

また、古い写真を囲む白いエッジなど、イメージを囲む単一カラーの枠を簡単に切り抜くこともできます。

Corel PHOTO-PAINT では、マスクの編集領域に沿って切り抜くこともできますが、この場合、切り抜き後のイメージは常に長方形になります。マスクについて詳しくは、279 ページの「マスク」を参照してください。

イメージの寸法と解像度を変更することで、イメージ領域を削除または追加せずにイメージのサイズを変更することもできます。詳しくは、127 ページの「イメージの寸法、解像度、および用紙サイズ」を参照してください。

イメージを切り抜くには

- 1 切り抜きツール  をクリックします。
- 2 ドラッグしてイメージの領域を選択します。
- 3 切り抜く領域の内側をダブルクリックします。

可能な操作

切り抜き領域を拡大または縮小する

切り抜きハンドルをドラッグします。

切り抜き領域を移動する

切り抜き領域の内側をクリック アンド ドラッグして、位置を移動します。

切り抜き領域を回転して、直線化する

切り抜き領域の内側をクリックして、回転ハンドル  を表示します。回転ハンドルをドラッグして、切り抜く部分のイメージ領域と切り抜き領域を揃えます。

オリジナル イメージの外側に切り抜き領域を拡張する

[イメージ] ▶ [切り抜き] ▶ [切り抜き領域の拡大] をクリックし、イメージの外側に切り抜きハンドルをドラッグします。

切り抜き領域の解像度を変更する

プロパティ バーの [切り抜き解像度] リスト ボックスから値を選択します。

この設定により、切り抜き領域に新しい解像度が設定されます。たとえば、高画質フォトを切り抜いてサイズを変更し、解像度を 96 dpi に変更すると、切り抜いた写真を Web で使用できるようになります。

切り抜き領域の方向を変更する

プロパティ バーの [方向の変更] ボタン  をクリックします。



[イメージ] ▶ [切り抜き] ▶ [オーバーレイの切り抜き] をクリックすることにより、切り抜きのオーバーレイを非表示にして、切り抜き中のイメージをより鮮明に表示できます。

切り抜きツールをクリックし、プロパティ バーの [サイズ] ボックスと [配置] ボックスに値を入力して、イメージ領域を切り抜くこともできます。

イメージから枠カラーを切り抜くには

- 1 [イメージ] ▶ [切り抜き] ▶ [枠カラーの切り抜き] をクリックします。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- **バックグラウンド** - ツールボックスのカラー コントロール領域にある **[バックグラウンド カラー]** ボックス  で指定されたカラーを切り抜きます。
- **フォアグラウンド** - ツールボックスのカラー コントロール領域にある **[フォアグラウンド カラー]** ボックス  で指定されたカラーを切り抜きます。
- **その他** - カラー ピッカーや**スポイト** ツール  を使用して選択したカラーを切り抜きます。

3 **[許容範囲]** で、次のいずれかのオプションを選択します。

- **標準** - 隣接ピクセル間での色相値の近似性に基づいて、カラーの許容範囲を決定します。
- **HSB モード** - 隣接ピクセル間での色相、彩度、および輝度レベルの近似性に基づいてカラーの許容範囲を決定します。

4 **[許容範囲]** スライダを調整して、切り抜くカラーの許容範囲を設定します。

正確に枠カラーを切り抜くには、**[許容範囲]** スライダをさまざまな位置に動かしてみる必要があります。

マスクの編集領域を切り抜くには

- 1 イメージ内に**編集領域**を定義します。
- 2 **[イメージ]** ▶ **[切り抜き]** ▶ **[マスクの切り抜き]** をクリックします。



編集領域の定義について詳しくは、[281 ページの「編集領域を定義する」](#)。を参照してください。

イメージをつなぎ合わせる

イメージのステッチによって、2D イメージをシームレスに結合できます。たとえば、大きなイメージを小さく重なり合う部分ごとにスキャンし、それらを復元できます。



複数のイメージをつなぎ合わせて 1 つの大きなイメージを作成することができます。このイメージは、4 つのセクションをスキャンし、つなぎ合わせたものです。

Corel PHOTO-PAINT では、複数のイメージをインタラクティブにつなぎ合わせることが可能です。イメージを選択して、移動や回転を行ったり、その外観を変更したりすることによって、より正確に配置することができます。イメージを配置するときは、重なり合う部分が黒くなるため、エッジを正確に揃えることができます。つなぎ合わせたイメージは、単一の平坦化イメージとして保存するか、個別に編集を継続できるような**オブジェクト**として保存します。

モノクロ、2 色トーン、16 ビット グレースケール、48 ビット RGB、およびマルチチャンネルを除くすべてのカラー モードのイメージをつなぎ合わせることが可能です。つなぎ合わせるイメージが**パレット カラー** モード以外の同じカラー モードを使用している場合、新しいファイルも同じカラー モードになります。つなぎ合わせるイメージがそれぞれ異なるカラー モードを使用している場合、またはすべてパレット カラー モードである場合は、新しいファイルは RGB カラー モードになります。カラー モードについて詳しくは、[221 ページの「カラー モード」](#)。を参照してください。

イメージをつなぎ合わせるには

- 1 つなぎ合わせるイメージを開きます。
- 2 **[イメージ]** ▶ **[ステッチ]** をクリックします。
- 3 **[ソース ファイル]** リストからファイル名を選択し、**[追加]** をクリックします。
開いているイメージをすべて選択する場合は、**[すべて追加]** をクリックします。
- 4 **[選択ファイル]** リストでイメージの位置を変更するには、ファイル名をクリックして、次のボタンのいずれかをクリックします。
 - **[上]** ボタン 
 - **[下]** ボタン 
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 **[イメージのステッチ]** ダイアログ ボックスで、**選択ツール**  をクリックします。
- 7 イメージのステッチ ウィンドウで、イメージをドラッグして別のイメージに重ね合わせます。
すべてのイメージでこれを繰り返します。
- 8 **[イメージのブレンド]** リスト ボックスに値を入力して、イメージをブレンドするときに重ね合わせるピクセルの数を定義します。
- 9 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **バックグラウンドに結合** - 単一の平坦化イメージを作成します。
 - **イメージからオブジェクトを作成** - 各ソース イメージが個別のオブジェクトになるようにつなぎ合わされたイメージを作成します。後から各オブジェクトの輝度とコントラストを適切に調整できます。

可能な操作

イメージの配置を確認する

差分ツール  をクリックします。重なり合うイメージ領域はハイライト表示され、適切に配置されたイメージのエッジは黒く表示されます。

単一または複数の選択したイメージを回転させる

回転ツール  をクリックして、イメージをドラッグします。正確な角度でイメージを回転させる場合は、**[イメージの回転]** ボックスに値を入力します。

イメージを結合する領域を調べるためにズーム インする

ズーム インツール  をクリックして、クローズアップする部分をクリックします。

ズームアウトする

ズームアウト ツール  をクリックして、イメージをクリックします。

イメージ ステッチ ウィンドウの外側の領域を表示する

スクロール ツール  をクリックして、イメージをドラッグします。



つなぎ合わせたイメージのファイル サイズは、個別のオブジェクトを含むものより平坦化されたものの方が小さくなります。



選択ツール、回転ツール、およびスクロール ツールでは、矢印キーを使用することでイメージ ステッチ ウィンドウ内のイメージを細かく移動、回転、および表示できます。

スマート カーバーを使用してイメージをスケールする

スマート カーバーを使用すると、コンテンツを歪めることなく、イメージの幅と長さを拡大または縮小できます。この機能では、構造上の詳細情報がほとんど含まれていないイメージ領域を自動的に検出して削除することにより、イメージの外観を大幅に変更することなく縦横比を変更できます。また、詳細レベルに関係なく、保持するイメージ領域または削除するイメージ領域を指定することもできます。



スマート カーバーを使用すると、イメージをスケールするときに、削除または保護する領域を選択できます。

リサンプル機能を使用してイメージをスケールすることもできます。詳しくは、127 ページの「イメージのサイズおよび解像度」を参照してください。

スマート カーバーを使用してイメージをスケールするには

- 1 [イメージ] ▶ [スマート カーバー] を選択します。
- 2 [スマート カーバーの実行] 領域で、次のテーブルの 1 つまたは複数のタスクを実行して、[OK] をクリックします。

プレビュー ウィンドウに操作結果が表示されます。

目的	作業手順
イメージの幅をピクセル単位で設定する	[幅] ボックスで値を指定します。 幅の最小値はオリジナル イメージの幅の 10% です。幅の最大値はオリジナル イメージの幅の 2 倍です。
イメージの高さをピクセル単位で設定する	[高さ] ボックスで値を指定します。 高さの最小値はオリジナル イメージの高さの 10% です。高さの最大値はオリジナル イメージの高さの 2 倍です。
イメージの幅を少しずつ小さくする	イメージが希望の幅になるまで、[イメージを水平方向に縮小] ボタン  をクリックします。
イメージの高さを少しずつ小さくする	イメージが希望の高さになるまで、[イメージを垂直方向に縮小] ボタン  をクリックします。

目的

イメージの幅を少しずつ大きくする

イメージの高さを少しずつ大きくする

作業手順

イメージが希望の幅になるまで、**[イメージを水平方向に拡大]** ボタン  をクリックします。

イメージが希望の高さになるまで、**[イメージを垂直方向に拡大]** ボタン  をクリックします。



現在の設定を **[スマート カーバー]** ダイアログ ボックスに保存することもできます。そのためには、**[プリセットの保存]** ボタン  をクリックし、**[設定名]** ボックスで名前を指定します。

イメージをスケールするときに領域を削除する

- 1 **[イメージ]** ▶ **[スマート カーバー]** を選択します。
- 2 **[オブジェクトの削除]** 領域で **[削除]** ボタン  をクリックし、**[ペン先のサイズ]** ボックスでブラシ サイズを指定します。
- 3 プレビュー ウィンドウで、削除するイメージ領域の上に描画します。
選択した領域の上に赤いオーバーレイが表示されます。
- 4 **[水平方向に自動縮小して赤のペイントを削除]**  または **[垂直方向に自動縮小して赤のペイントを削除]**  ボタンをクリックして、イメージをスケールし、同時に赤いオーバーレイで覆われた領域を削除します。
- 5 **[バックグラウンドぼかし]** ボタンをクリックして、領域をカットアウトした部分と残りの部分を滑らかに結合します。

可能な操作

イメージ領域を保護する

[保存] ボタン  をクリックして、保護するイメージ領域の上に描画します。選択した領域の上に緑のオーバーレイが表示されます。

選択オーバーレイの一部を削除して、保護または削除する領域を調整する

[消しゴム] ボタン  をクリックして、選択オーバーレイの削除する部分の上でドラッグします。

プレビュー ウィンドウで選択オーバーレイを非表示にする

[マスクを非表示] チェック ボックスをオンにします。

イメージの変更内容を破棄して最初からやり直す

[リセット] をクリックします。

直前のブラシ ストロークを元に戻すか、ストロークを消去する

[元に戻す] ボタン  をクリックします。

前回の元に戻す操作をやり直す

[やり直し] ボタン  をクリックします。

ズーム イン/アウトする

[ズーム イン] ボタン  または **[ズームアウト]** ボタン  をクリックし、プレビュー ウィンドウ内をクリックします。

可能な操作

プレビュー ウィンドウの外側の領域を表示する

[スクロール] ボタン  をクリックして、プレビュー ウィンドウ内でドラッグします。

イメージを実寸で表示する

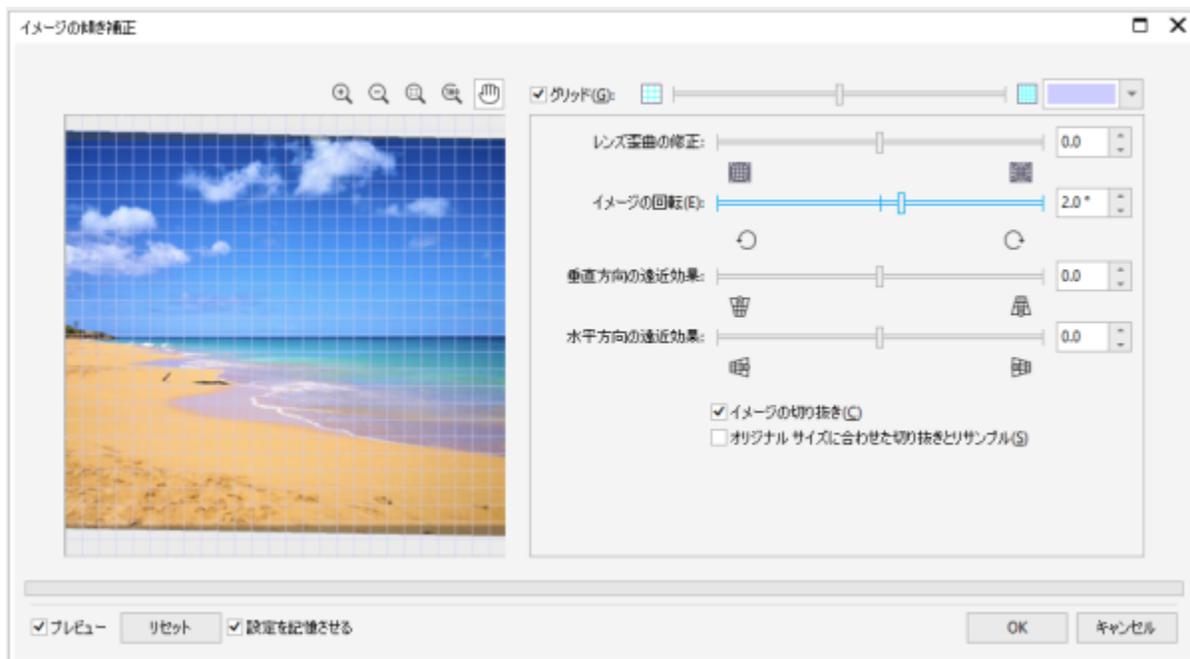
[100% にズーム] ボタン  をクリックします。

イメージをプレビュー ウィンドウに合わせる

[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。

イメージの傾き補正

[イメージの傾き補正] ダイアログ ボックスでは、レンズの歪曲とビットマップ イメージの傾きを素早く補正できます。この機能は、傾いて撮影またはスキャンされた写真、またはレンズ歪曲を含む写真を補正するときに便利です。



[イメージの傾き補正] ダイアログ ボックス

カメラ レンズ歪曲を修正する

カメラ レンズ歪曲のある写真の場合、レンズ歪曲を修正することをお勧めします。写真の直線が曲線に見える 2 つの種類のレンズ歪曲 (樽型歪曲と糸巻型歪曲) を修正できます。樽型歪曲は写真が中央から押し出されているように見えます。糸巻型歪曲は写真が中央に押しつぶされているように見えます。

回転とプレビュー

[イメージの傾き補正] ダイアログ ボックスでは、スライダの移動、回転角度の入力、または矢印キーの使用により、イメージを回転できます。-15~15 度のカスタム回転角度を指定できます。

プレビュー ウィンドウを使用すると、行っている調整を動的にプレビューすることができます。傾きを補正する前にイメージの方向を変更する場合は、最初にイメージを 90 度時計回りまたは 90 度反時計回りに回転します。

イメージの傾き補正に役立つグリッドがプレビュー ウィンドウに表示されます。グリッドのセルのサイズを制御すると、より正確に調整できます。イメージのカラーに対してグリッドのコントラストを高くするために、グリッドのカラーを変更できます。グリッドラインなしの最終結果をプレビューする場合に、グリッドを非表示にすることもできます。さらに、プレビュー ウィンドウ内でイメージをズーム イン、ズーム アウト、またはスクロールして結果を確認できます。

切り抜き

デフォルトでは、傾き補正したイメージは、プレビュー ウィンドウに表示される切り抜き領域に合わせて切り抜かれます。最終イメージの縦横比はオリジナルのイメージと同じになりますが、寸法は小さくなります。ただし、イメージを切り抜いてリサンプルすると、オリジナルのイメージ高さや幅を維持することができます。

切り抜きをオフにし、**切り抜き** ツールを使って描画ウィンドウのイメージを切り抜くと、傾いたイメージを作成することもできます。切り抜きをオフにすると、バックグラウンド カラーに傾き補正したイメージが表示されます。

イメージの傾きを補正するには

1 **[調整]** ▶ **[イメージの傾き補正]** をクリックします。

レンズ歪曲のあるイメージの場合、**[レンズ歪曲の修正]** スライダを左に動かして樽型歪曲を修正するか、右に動かして糸巻型歪曲を修正します。

2 **[イメージの回転]** スライダを調整するか、**[イメージの回転]** ボックスに **15 ~ -15** の値を入力します。

3 必要に応じて、**[グリッド]** スライダを動かして、グリッドのセルのサイズを調整します。

4 イメージを切り抜いて傾きを補正するには、**[イメージの切り抜き]** チェック ボックスをオンにします。

イメージはオリジナル イメージの縦横比を維持して切り抜かれます。つまり、最終イメージはオリジナル イメージより小さくなります。

オリジナル イメージの幅と高さを維持する場合は、**[オリジナル サイズに合わせた切り抜きとリサンプル]** チェック ボックスをオンにします。最終イメージがリサンプルされます。

可能な操作

グリッド カラーを変更する

[グリッド] カラー ピッカーからカラーを選択します。

イメージ領域をグリッドラインに整列する

[スクロール] ツール  を使用して、領域がグリッドラインに整列されるまでイメージをドラッグします。

[スクロール] ツールを使用できるのは、イメージをズーム インした場合に限定されます。

いずれかの方向にイメージを 90 度回転する

[反時計回りに回転] ボタン  または **[時計回りに回転]** ボタン  をクリックします。

グリッドの表示/非表示を切り替える

[グリッド] チェック ボックスをオンまたはオフにします。

0.1 度ずつ回転角度を調整する

[イメージの回転] ボックスをクリックして、**上矢印 (↑)** キーまたは**下矢印 (↓)** キーを押します。

イメージを元の方向にリセットする

[リセット] をクリックします。

可能な操作

ズーム イン/アウトする

ズーム イン  ツール、または **ズーム アウト**  ツールを使用して、プレビュー ウィンドウでクリックします。

イメージをプレビュー ウィンドウに合わせる

[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。

イメージを実寸で表示する

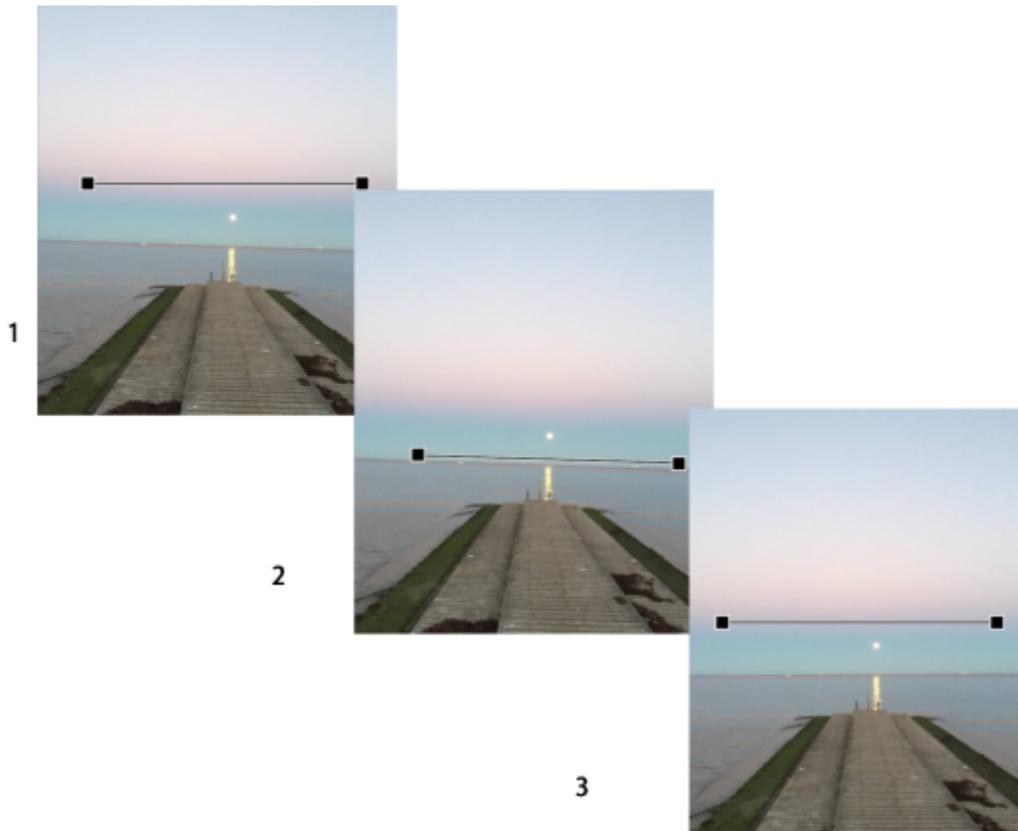
[100%] ボタン  をクリックします。



2色トーン イメージは、**[イメージの傾き補正]** ダイアログ ボックスのプレビュー ウィンドウにグレースケールで表示されますが、最終イメージは2色トーンです。

イメージやオブジェクトの傾きをインタラクティブに補正する

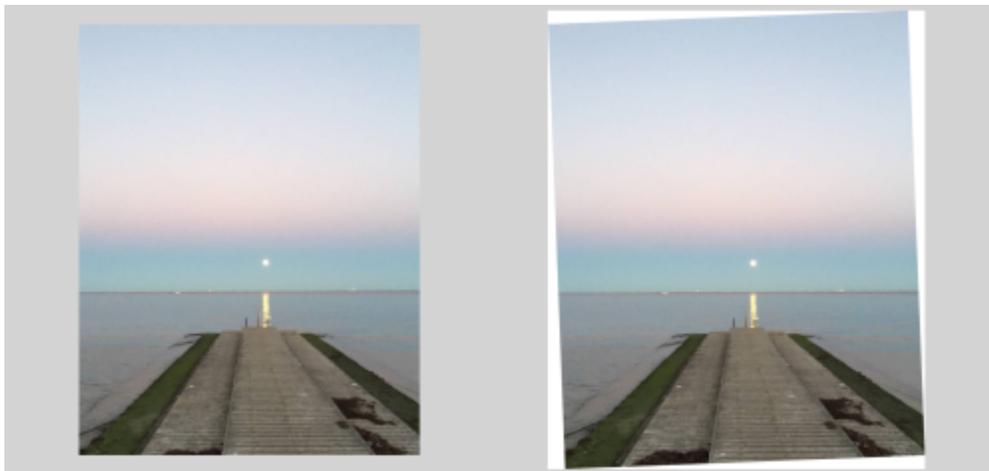
直線化 ツールを使用すると、直線化バーをイメージの特徴的な要素に揃えて、傾いたイメージやオブジェクトをインタラクティブに補正できます。直線化バーを揃えると、Corel PHOTO-PAINT によって、直線化バーが完全に水平になるようにイメージが回転されます。**直線化** ツールは、建物や地平線など、イメージに水平や垂直のはっきりした特徴がある場合にとりわけ便利です。



イメージの傾きを補正する: 1.直線化ツールを選択して、直線化バーを表示します。2.イメージの特徴的な要素に直線化バーを揃えます。3.回転を適用します。

イメージやオブジェクトの回転方法として、3種類の傾き補正モードが用意されています。デフォルトの**自動**モードでは、直線化バーの位置に基づいてイメージを回転させます。より細かく調整する場合は、**垂直方向**または**水平方向**モードを選択します。

デフォルトでは、傾き補正後、アプリケーションがイメージを自動的に切り抜いて、ある角度をなして現れるエッジを除去します。イメージの切り抜きを行わずに、イメージのエッジをバックグラウンドカラーで塗りつぶすこともできます。



傾き補正後にイメージを切り抜いた結果 (左)、切り抜きなしの結果 (右)

通常、直線化バーはハンドルを動かして調整します。細かく調整する場合は、直線化バーの回転角を指定することもできます。また、それまでの回転を取り消して、直線化バーをリセットすることもできます。

イメージの傾きをインタラクティブに補正するには

1 ツールボックスで**直線化ツール**  をクリックします。(このツールは **[切り抜き]** フライアウトにあります)。

端点ハンドル付きの直線化バーがイメージ上に表示されます。

2 直線化バーのハンドルをドラッグして、傾きを補正するイメージの特徴的な要素に揃えます。

3 プロパティバーの **[直線化モード]** リストボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。

- **自動** — 直線化バーの位置に基づいてイメージの傾きを自動的に補正します。
- **垂直方向** — 垂直方向が優先されたイメージになります。
- **水平方向** — 水平方向が優先されたイメージになります。

4 プロパティバーの **[適用]** をクリックします。

可能な操作

単一オブジェクトの傾きを補正する

直線化ツールをクリックする前に、オブジェクトを選択します。

直線化バーの角度を指定する

プロパティバーの **[回転の角度]** ボックスに値を入力します。

傾き補正後のイメージを切り抜く

[イメージの切り抜き] ボタン  をクリックして有効にしてから、**[適用]** ボタンをクリックします。

傾き補正後にイメージのエッジをバックグラウンドカラーで塗りつぶす

[イメージの切り抜き] ボタンをクリックして無効にしてから、**[適用]** ボタンをクリックします。

可能な操作

直線化バーをリセットする

プロパティ バーの **[回転の消去]** ボタン  をクリックします。

ヒント: **Esc** キーを押して直線化バーをリセットすることもできます。



Shift + X キーを押して**直線化**ツールを選択することもできます。

イメージをダブルクリックして回転を適用することもできます。

射影歪みを補正する

建築物や建物の写真など、直線と平らな表面がある写真の射影歪みを補正できます。

通常、射影歪みは、高さの高い被写体や幅の広い被写体を撮影し、カメラのセンサーが被写体の角度にある場合に発生します。この場合、撮影した被写体が傾斜していたり斜めになったりしているように見ることがあります。垂直方向の遠近効果を調整すると、傾斜した被写体を補正できます。水平方向の遠近効果を調整すると、斜めになっている被写体を補正できます。多くの場合、最良の結果を得るには、垂直方向と水平方向の両方の遠近効果を調整する必要があります。

射影歪みは、**[イメージの傾き補正]** ダイアログ ボックスを使用して補正したり、**遠近補正** ツールを使用してインタラクティブに補正したりできます。



射影歪みを補正する

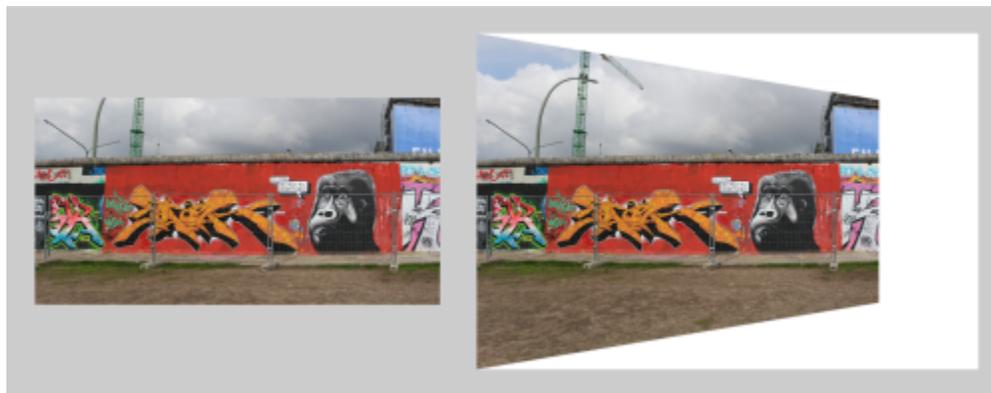
射影歪みをインタラクティブに補正する

遠近補正 ツールを使用すると、歪んだ要素を範囲ボックスで囲んで射影歪みを補正できます。範囲ボックスのハンドルを、傾いている、または角度が付いていると思われるイメージ要素の四隅にドラッグし、プロパティ バーの **[適用]** をクリックします。精度が必要な場合は、x 座標と y 座標を指定して範囲ボックスのハンドルを移動できます。また、範囲ボックスにグリッド線を表示することもできます。それまでの調整を取り消して範囲ボックスをリセットできます。また、グリッドは表示/非表示を切り替えることができます。



遠近効果の補正: 1.遠近補正ツールを選択して、範囲ボックスを表示します。2. 歪んだイメージ要素の四隅にハンドルを配置します。3.遠近補正を適用します。

デフォルトでは、遠近効果の補正後、アプリケーションがイメージを自動的に切り抜いて、ある角度をなして現れるエッジを除去します。そのため、得られるイメージのサイズが小さくなります。イメージの切り抜きを行わずに、イメージのエッジをバックグラウンドカラーで塗りつぶすこともできます。



切り抜きが有効の場合 (左) と無効の場合 (右) の最終結果。

写真の射影歪みを補正するには

- 1 [調整] ▶ [イメージの傾き補正] をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的

垂直方向の遠近効果を補正する

作業手順

[垂直方向の遠近効果] スライダを調整します。写真の被写体が後方に傾斜しているように見える場合は、スライダを左に移動します。通常、写真の高さの高い建物は、地上から写真を撮影すると、後方に傾斜しているように見えます。

目的

水平方向の遠近効果を補正する

補正したイメージを元のサイズに切り抜いてリサンプルする

作業手順

[水平方向の遠近効果] スライダを調整します。被写体の右側に向けたカメラで写真を撮影した場合は、スライダを左に移動します。

[イメージの切り抜き] チェック ボックスをオンにし、**[オリジナル サイズに合わせた切り抜きとリサンプル]** チェック ボックスをオンにします。

射影歪みをインタラクティブに補正するには

- 1 ツールボックスで**遠近補正**ツール  を選択します。(このツールは **[切り抜き]** フライアウトにあります)。角のハンドル付きの範囲ボックスがイメージ上に表示されます。
- 2 長方形であるはずのイメージ要素の四隅にハンドルをドラッグします。
- 3 プロパティ バーの **[適用]** をクリックします。

可能な操作

グリッドを表示する

プロパティ バーの **[グリッド]** ボタン  をクリックします。

座標を指定して範囲ボックスのハンドルを動かす

プロパティ バーで、各ハンドルの **[X]** および **[Y]** ボックスに値を入力します。

遠近補正後にイメージを切り抜く

[切り抜き] ボタン  をクリックして有効にします。

[切り抜き] ボタンを無効にすると、イメージが傾斜して見えます。

範囲ボックスに対する変更をすべて消去する

プロパティ バーの **[遠近補正の消去]** ボタン  をクリックします。

ヒント: **Esc** キーを押して範囲ボックスをリセットすることもできます。



遠近補正 ツールは、1ビットおよび 48 ビットのイメージには使用できません。



Shift + C キーを押して**遠近補正**ツールを選択することができます。

イメージをダブルクリックして遠近効果を適用することもできます。

イメージを回転/反転する

イメージ ウィンドウでイメージを反転または回転して、イメージの向きを変更することができます。イメージを水平方向または垂直方向に反転することにより、スキャンしたイメージを再配置し、独自の効果を作成できます。

回転の角度と方向、そして回転後に表示される用紙カラーを指定して、イメージを回転させることができます。



イメージを反転してミラー化できます。

イメージを反転するには

- **[イメージ] ▶ [ミラー化]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - 水平方向
 - 垂直方向

イメージを回転させるには

- 1 **[イメージ] ▶ [回転] ▶ [カスタム]** をクリックします。
- 2 **[角度]** ボックスに値を入力します。
- 3 次のいずれかのオプションを選択します。
 - 時計回り
 - 反時計回り
- 4 次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - **オリジナル イメージのサイズを維持** - オリジナル イメージのサイズを維持します。
 - **アンチエイリアス** - イメージのエッジをなめらかにします。
- 5 **[バックグラウンド]** カラー ピッカーを開き、カラーをクリックします。



[イメージ] ▶ [回転] をクリックし、**[90 度 時計回り]**、**[90 度 反時計回り]**、または **[180 度]** をクリックして、イメージを回転させることもできます。



イメージを回転して向きを変更できます。



レタッチする

Corel PHOTO-PAINT では、イメージをレタッチして画質を向上させ、内容を修正することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 149 の「スキャンしたイメージの画質を向上させる」。
- ページ 150 の「赤目修正」。
- ページ 151 の「ダストやキズを除去する」。
- ページ 154 の「イメージ領域のクローンを作成する」。
- ページ 157 の「イメージをシャープ化する」。
- ページ 158 の「JPEG イメージからアーチファクトやノイズを除去する」。
- ページ 159 の「イメージのバックグラウンドを削除する」。
- ページ 159 の「イメージの領域を消去する」。
- ページ 162 の「カラーを塗り付ける/染み付ける/ブレンドする」。

スキャンしたイメージの画質を向上させる

スキャン イメージまたはインターレースしたビデオ イメージから線を除去します。これらの線は、隣接するピクセルの線または周囲のピクセルのカラーで塗りつぶします。また、モアレやノイズも除去できます。モアレ パターンは、同じイメージ内で密度の異なる 2 つのハーフトーン スクリーンが重なったときに生成される波型のパターンです。ノイズは、スキャンやビデオ キャプチャによって生成される小さな斑点です。



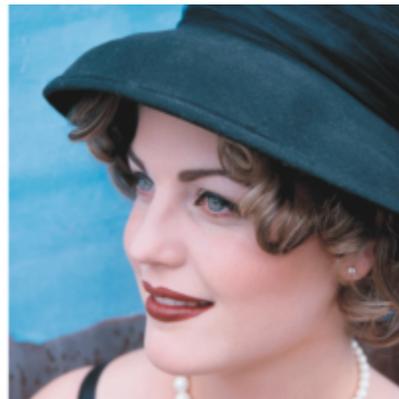
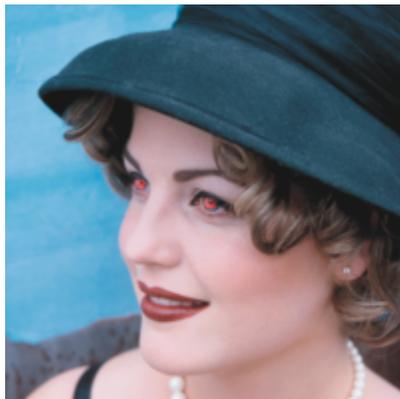
[インターレース補間]フィルタを使用して、スキャンしたイメージから線を除去することができます。

スキャンしたイメージの画質を向上させるには

目的	作業手順
モアレの除去	[効果] ▶ [ノイズ] ▶ [モアレの除去] をクリックし、必要な項目を設定します。
ノイズの除去	[効果] ▶ [ノイズ] ▶ [ノイズの除去] をクリックし、必要な項目を設定します。
線の除去	[イメージ] ▶ [変形] ▶ [インターレース補間] をクリックし、必要な項目を設定します。

赤目修正

写真の被写体の目から、赤目を除去することができます。赤目は、フラッシュの光が人の目の奥で反射すると発生します。



写真から赤目を除去することができます。

赤目を除去するには

- 1 ツールボックスの[赤目修正]ツール  をクリックします。

- 2 目に一致するブラシ サイズの値を **[ペン先のサイズ]** ボックスに入力します。
- 3 目をクリックして赤いピクセルを除去します。

可能な操作

許容範囲を変更する

プロパティ バーで、**[許容範囲]** リスト ボックスの値を選択します。

ブラシの形状を変更する

プロパティ バーの**[ペン先の形]**ピッカーからブラシの形を選択します。

ブラシストロークの透明度を変更する

Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにして、透明度スライダを表示します。

ブラシストロークのフェードを調整する

Ctrl + Alt キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

デジタル ペンの圧力を使用して効果の大きさを制御する

プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。



[許容範囲] のデフォルト値を使用すれば、ほとんどの写真の赤目を修正することができます。ただし、目の領域を分離するのが困難で、被写体の顔に赤いトーンがある場合は、**[許容範囲]** の値を小さくして、目の赤い部分と肌のトーンを識別させる必要があります。

[赤目修正] ツールは、パレット、Lab、RGB、CMYK のカラー モードのイメージで使用することができます。



目の領域に素早くズームするには、ツールバーの**ズーム** ツール  をクリックし、ズームされる四角形で目の領域が囲まれるようにイメージ ウィンドウ内でドラッグします。

ブラシ サイズは、**Shift** キーを押したままイメージ ウィンドウでドラッグすることによってインタラクティブに調整することができます。

ダストやキズを除去する

Corel PHOTO-PAINT では、小さなダストやキズのあるイメージの画質をさまざまな方法で向上できます。たとえば、イメージ全体に**フィルタ**を適用することや、特定の領域にキズがある場合は、そのキズを囲む**マスク**を作成して、フィルタを**編集領域**に適用することが可能です。

このフィルタには、設定した**コントラスト**のしきい値を超える**ピクセル**間のコントラストをなくす機能があります。この変更の対象となるピクセル数を決定するため、**半径**を設定することができます。選択する設定は、キズの大きさやキズを囲む領域によって異なります。たとえば、1~2 ピクセル幅の白いキズが暗いバックグラウンドにある場合は、半径を 2~3 ピクセルに設定し、明るいバックグラウンドに同じキズがある場合よりも**コントラスト**のしきい値を高く設定します。

テクスチャやカラーをブレンドすることで、イメージに含まれる裂け目、キズ、しわなどの問題を除去することもできます。フィルタを使用する場合と同様に、イメージのレタッチに必要なピクセルの範囲は、キズの大きさやキズを囲む領域に応じて選択します。

キズがかなり大きいか、樹木の葉のようにさまざまな色とテクスチャのある領域にキズがある場合は、イメージ領域のクローンを作成すると、よい結果が得られます。クローンについては、154 ページの「イメージ領域のクローンを作成する」を参照してください。

イメージ全体のダストとキズを除去するには

- 1 [イメージ] ▶ [補正] ▶ [ダストとキズ] をクリックします。
- 2 次のスライダを調整します。
 - **半径** - 効果を適用するピクセルの範囲を設定します。イメージの細部を保持するため、半径をできるだけ小さく設定してください。
 - **しきい値** - ノイズを除去する量を設定します。イメージの細部を保持するため、しきい値をできるだけ高く設定してください。



ダストやキズは、[ダストとキズ] フィルタを適用して除去することができます。

イメージの一部からキズを除去するには

- 1 キズを含む編集領域を定義します。
- 2 [イメージ] ▶ [補正] ▶ [ダストとキズ] をクリックします。
- 3 次のスライダを調整します。
 - **半径** - 効果を適用するピクセルの範囲を設定します。イメージの細部を保持するため、半径をできるだけ小さく設定してください。
 - **しきい値** - ノイズを除去する量を設定します。イメージの細部を保持するため、しきい値をできるだけ高く設定してください。



[ダストとキズ] フィルタを適用する前に、キズをマスクで囲んで特定領域からキズを除去することができます。破線と赤い透明なオーバーレイはマスクが存在することを示しています。



ブラシ マスク ツール  を使用して、キズを含む編集領域を定義することができます。キズより広いペン先のサイズを選択すると、簡単にキズをなぞることができます。**ブラシ マスク ツール** について詳しくは、283 ページの「フリーハンド マスク ツールを使用して編集領域を定義するには」を参照してください。

編集領域のエッジにフェードを適用すると、修復した領域と元のイメージとの間の不自然さがなくなり、よい結果が得られます。フェードの適用について詳しくは、437 ページの「オブジェクトのエッジにフェードを適用するには」を参照してください。

テクスチャとカラーをブレンドしてイメージの問題を除去するには

- 1 ツールボックスの**[補正ブラシ]** ツール  をクリックします。
- 2 **[ペン先の形]** ピッカーからペン先を選択します。
- 3 **[ペン先のサイズ]** ボックスに、ペン先のサイズを指定する値を入力します。
- 4 **[強度]** リスト ボックスからオプションを選択し、効果の強度を設定します。
- 5 イメージ ウィンドウでブラシをダブして (軽くはたいて) 効果を適用します。



[補正ブラシ] ツールを使用してテクスチャとカラーをブレンドすることでイメージの問題を除去できます。

可能な操作

効果をオブジェクトとバックグラウンドに同時に適用する

プロパティ バーの **[結合のソース]** ボタン  をクリックします。

ブラシのサイズを変更する

Shift キーを押しながらイメージ ウィンドウ内でドラッグします。ペン先が希望のサイズになったら、キーを離します。

ブラシストロークの透明度を変更する

Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにして、透明度スライダを表示します。

ブラシストロークのフェードを調整する

Ctrl + Alt キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

可能な操作

デジタル ペンの圧力を使用して効果の大きさを制御する

プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。



補正ブラシ ツールは、**グレースケール**、**2 色トーン**、**ラボ**、**RGB**、および **CMYK カラー モード**のイメージに使用できます。



角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで **[丸型のペン先]** ボタン  または **[角型のペン先]** ボタン  をクリックして簡単に選択できます。

イメージ領域のクローンを作成する

イメージ内にある損傷した領域や不要な要素を隠すため、あるイメージ領域から別のイメージ領域に **ピクセル** をコピーすることができます。たとえば、除去する領域にクローン化したピクセルを適用して、裂け目を修正したり、イメージから人物を除去したりすることが可能です。また、イメージの要素のクローンを作成し、別のイメージ領域や別のイメージに適用することもできます。**オブジェクト** のクローンを作成すると、新しくクローン化された領域は **アクティブなオブジェクト** に追加されます。また、元のイメージからサンプリングされたピクセルに基づいて、抽象的なイメージを作成することもできます。

クローンを作成する場合は、**ソース ポイント ブラシ** と、**ソース ポイント** からコピーしたピクセルを適用する **クローン ブラシ** の 2 つのブラシで構成されます。ソース ポイント ブラシには、クローン ブラシと区別できるように十字のマークが表示されます。ソース ポイント ブラシは、イメージ上をドラッグするとクローン ブラシを基準として相対的に移動します。



クローン ツールを使用して、イメージの女性からネックレスを除去しました。

周囲の領域の色と調和したテクスチャをサンプリングしてペイントすることにより、不完全部分を修正することもできます。ソース ポイント ブラシはソース ポイントからテクスチャをサンプリングするためのものです。サンプリングしたテクスチャはターゲット ブラシで適用し、周囲の領域の色と調和させます。ソース ポイントはリセットすることも、連続したブラシストロークで同じソース ポイントを使用することもできます。



テクスチャをサンプリングしてペイントすることにより、左の写真の女の子の顔からイメージの問題を除去しました。

イメージ領域またはオブジェクトのクローンを作成するには

- 1 ツールボックスのクローン ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ブラシ]** ピッカーを開き、クローン カテゴリを選択し、クローンの種類を選択します。
- 3 プロパティ バーで、必要な設定を指定します。
- 4 イメージをクリックして、クローンのソース ポイントを設定します。
ソース ポイントをリセットする場合は、クローン化する領域を右クリックします。
- 5 イメージ ウィンドウでクローン ブラシをドラッグして、ソース ポイントからピクセルを適用します。

可能な操作

ソース ポイントからサンプリングしたピクセルに基づいて抽象的なイメージ領域を作成する

[ブラシ] ピッカーの **[印象派クローン]** 、または **[点描クローン]**  をクリックしてから、イメージ ウィンドウでドラッグします。

オブジェクトの複数のクローンを作成する

[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウに表示される **[ブラシ ストロークの属性]** バーの **[累積モードの切り替え]** ボタン  をクリックします。このオプションは、**効果ツール**と**クローン ツール**の一部でのみ使用可能です。**[ブラシの設定]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[ブラシの設定]** をクリックします。

オブジェクトとバックグラウンドのクローンを同時に作成する

[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウに表示される **[ダブの属性]** バーの **[結合のソースの切り替え]** ボタン  をクリックします。このオプションは、**[累積モードの切り替え]** ボタンがオフになっている場合にのみ使用可能です。

対称パターンでクローンを作成する

[ウィンドウ] ▶ **[ツールバー]** ▶ **[対称]** バーをクリックし、**[対称]** バーで必要な設定を選択してからイメージ ウィンドウでドラッグします。

可能な操作

ブラシの先のサイズを変更する	Shift キーを押しながら、ペン先の中心に向かって、または中心から遠ざかる方向にドラッグします。
ブラシストロークの透明度を変更する	Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにして、透明度スライダを表示します。
ブラシストロークのフェードを調整する	Ctrl + Alt キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、透明度スライダを表示します。
直前のブラシストロークと同じソース ポイントを使用する	Shift + Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウ内でドラッグします。
ブラシストロークを直線に制限する	Ctrl キーを押しながら、イメージ ウィンドウ内でドラッグします。横から縦に、または縦から横に方向を変えるには、 Shift キーを長押しします。
クリックした 2 点間で一直線にクローンする	右クリックでソース ポイントを設定し、クローンを始めます。 Ctrl + Alt + Shift キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックすると、一直線にクローンされます。

サンプリングしたテキストチャを使用してイメージ領域をレタッチするには

- 1 ツールボックスの**修復クローン** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、必要な設定を指定します。
- 3 イメージをクリックして、使用するテキストチャをサンプリングするソース ポイントを設定します。
ソース ポイントをリセットする場合は、サンプリングする領域を右クリックします。
- 4 サンプリング範囲に含める領域をドラッグします。

可能な操作

直前のブラシストロークと同じソース ポイントを使用する	Shift + Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウ内でドラッグします。
ブラシの先のサイズを変更する	Shift キーを押しながら、ペン先の中心に向かって、または中心から遠ざかる方向にドラッグします。
ブラシの属性を変更する	[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ブラシ設定] をクリックし、 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで選択可能なバーにあるロールダウン矢印をクリックして、目的の属性の値を指定します。

可能な操作

対称パターンでクローンを作成する

[ウィンドウ] } [ツールバー] ▶ [対称] バーをクリックし、[対称] バーで必要な設定を選択してからイメージ ウィンドウでドラッグします。

[対称] バーに関する詳細は、335 ページの「対称パターンを使用してペイントするには」を参照してください。

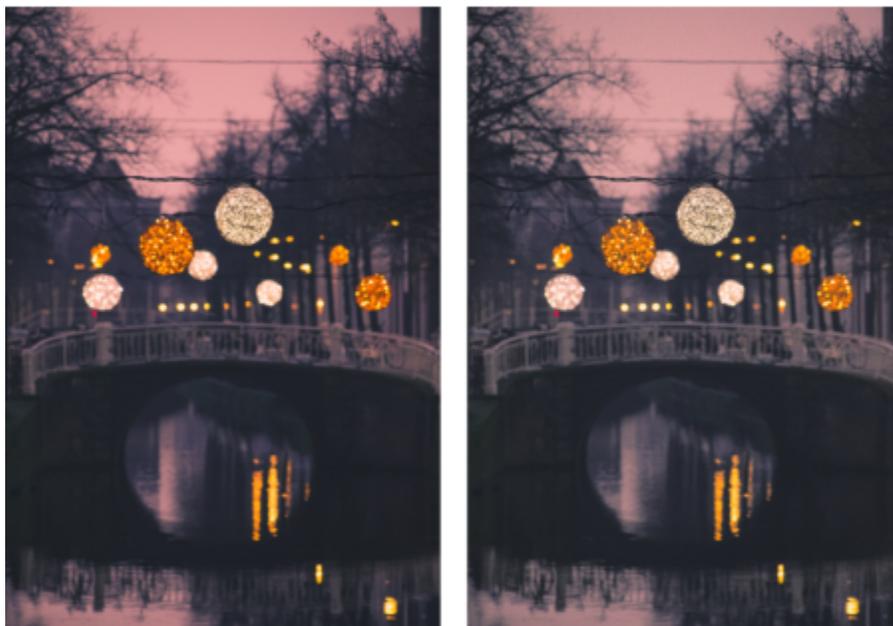
ツールのパフォーマンスを向上する

プロパティ バーで、[リアルタイムプレビュー] ボタンをクリックしてプレビューを無効にします。

プレビューを無効にした効果ははっきり現れるのは、ペン先の太いブラシを使用している場合のみです。

イメージをシャープ化する

イメージのシャープ化によって、コントラストを高め、エッジの画質を向上させ、シェーディングを減少させます。イメージ、またはその編集領域をシャープ化するには、フィルタまたはブラシ ストロークを使用します。フィルタは、レンズを使用して適用することもできます。レンズについて詳しくは、191 ページの「レンズを作成する」を参照してください。通常、シャープ化は、イメージのカラーとトーンを変更し、リサンプルやサイズ変更を行った後に行います。



イメージをシャープ化して、イメージの細部を鮮明にすることができます。

フィルタを適用してイメージをシャープ化するには

- 1 [イメージ] ▶ [補正] ▶ [シャープ化調整] をクリックします。
- 2 [パーセント] スライダーを調整してシャープ化の程度を設定します。このシャープ化は、サムネイルボタンをクリックするたびに適用されます。
- 3 次のいずれかのサムネイルボタンをクリックします。
 - アンシャープ マスク - 低密度領域を削除しないで、エッジの細部を強調し、イメージ内のぼんやりした部分を目立たせます。
 - アンシャープ調整 - 隣接するピクセルの値を分析して、エッジの細部を強調します。このフィルタでは、イメージの細部はほとんど保持され、高解像度のイメージで効果がはっきりします。

- **シャープ化** - イメージ内のぼんやりした部分を目立たせ、隣接するピクセル間の**コントラスト**を高くして、イメージのエッジを強調します。効果のしきい値を設定するには、**[バックグラウンド]**スライダを調整します。値を低くすると、シャープ化の効果によって変更されるピクセル数が増えます。
- **特定方向のシャープ化** - 粒状効果を出さずにイメージのエッジを強調します。

可能な操作

シェーディングを除去する

[効果] ▶ **[シャープ化]** ▶ **[ハイパス]** をクリックします。ハイパス フィルタは、イメージの細部とシェーディングを除去し、ハイライト部分と明るい部分を強調して、明るい印象を持つイメージにします。ただし、このフィルタは、イメージのカラーとトーンにも適用されます。



[アンシャープ マスク] フィルタを使用すると、ほとんどの写真で最もよい結果が得られます。

ほとんどのシャープ化フィルタでは、48 ビット RGB、16 ビット グレースケール、パレット、およびモノクロを除き、すべてのカラー モードがサポートされています。**[シャープ化]** フィルタでは、パレットおよびモノクロを除き、すべてのカラー モードがサポートされています。



個々のシャープ化フィルタを選択するには、**[効果]** ▶ **[シャープ化]** をクリックし、使用するフィルタをクリックします。

この手順を使用して、イメージの**編集領域**をシャープ化できます。

選択した領域にブラシ ストロークを適用してシャープ化するには

- 1 ツールボックスの **[効果]** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、**[ブラシ]** ピッカーを開いて、**[シャープ化]** をクリックして、ブラシを選択します。
- 3 **[ペン先の形]** ピッカーからペン先を選択します。
- 4 **[ペン先のサイズ]** ボックスに、ペン先のサイズを指定する値を入力します。
- 5 イメージ領域の上をドラッグします。



角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで**[丸型のペン先]** ボタン  または**[角型のペン先]** ボタン  をクリックして簡単に選択できます。

[ウィンドウ] ▶ **[ツールバー]** ▶ **[対称]** をクリックし、**[対称]** バーで必要な設定を選択してからイメージ ウィンドウでドラッグすると、対称パターンでシャープ化効果を適用できます。**[対称]** バーに関する詳細は、335 ページの「**対称パターンを使用してペイントするには**」を参照してください。

JPEG イメージからアーチファクトやノイズを除去する

JPEG 圧縮アーチファクトは、イメージのキャプチャや保存に絡んでさまざまな処理によって生じ、画質やカラーの質を落とします。Corel PHOTO-PAINT は、高度な機械学習テクノロジーを駆使して、JPEG 圧縮アーチファクトの削減やイメージに含まれるデテールの復元を行います。



(左) 帯状の出力やカラーの劣化が見られるイメージ、(右) AI 技法によって、ギザギザが軽減され、ディテールとカラーが復元されたイメージ。

JPEG イメージからアーチファクトやノイズを除去するには

- [イメージ] ▶ [補正] ▶ [JPEG アーチファクトの削除] をクリックします。

イメージのバックグラウンドを削除する

Corel PHOTO-PAINT には、写真からバックグラウンドを削除するためのツールや機能が、**カットアウト ラボ**、**スマート選択マスク ツール** 、**消しゴム ツール**  など、多数用意されています。

カットアウト ラボや**スマート選択マスク ツール**の概要については、以下のビデオをご覧ください。

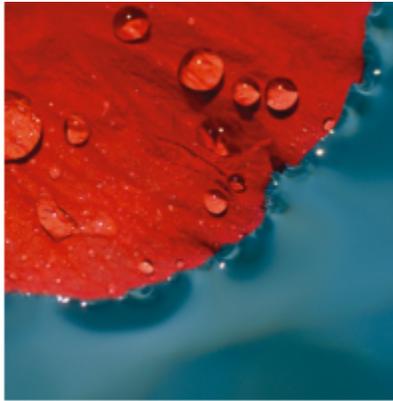
カットアウト ラボや**スマート選択マスク ツール**について詳しくは、[300 ページの「イメージをカットアウトする」](#) および [285 ページの「編集領域を形状または領域のエッジに基づいて定義するには」](#)。を参照してください。

消しゴム ツールについて詳しくは、[159 ページの「イメージの領域を消去する」](#)。を参照してください。

写真からバックグラウンドを分離して削除するために使用できる各種マスク ツールについて詳しくは、[279 ページの「マスク」](#)。を参照してください。

イメージの領域を消去する

領域を消去してイメージや**オブジェクト**を編集することができます。たとえば、オブジェクトの一部を消去して形を変えたり、下のレイヤの表示領域を広げたりできます。イメージのバックグラウンド領域を消去することも、イメージに最後に適用されたアクションの一部を消去することもできます。



消しゴム ツールを使用してバックグラウンド領域を消去し、副カラーを表示しました。



バックグラウンドを最初にオブジェクトに変換してから、消しゴム ツールを使用してバックグラウンド領域を消去し、完全に透明にしました。

消去に使用するツールには、ブラシと同じ設定が多数あります。つまり、サイズ、形状、および透明度を調節して独特の効果を出すことができます。たとえば、**ビットマップ塗りつぶし**をイメージ全体に適用し、消しゴム ツールの**透明度**を上げてから、塗りつぶし(直前の操作)を部分的に消去して重ね合わせの効果を作成することができます。また、**カラー**に基づいてイメージ領域を消去することも可能です。副カラーは、消去する主な色に置き換えられます。

イメージの領域を消去するには

- 1 次のいずれかの操作を実行します。
 - **オブジェクト**を選択します。
 - **バックグラウンド レイヤー**を選択します。
- 2 **[消しゴム]** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーで、必要な設定を指定します。
- 4 取り消す領域をドラッグします。



オブジェクトの一部を消去すると、その下のオブジェクトまたはバックグラウンドが表示されます。

バックグラウンドを消去すると、副カラーが表示されます。消去した領域を完全に透明にするには、**[オブジェクト] ▶ [作成] ▶ [バックグラウンドから]** をクリックして、最初にオブジェクトをバックグラウンドから作成します。



オブジェクトの形状を維持するには、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウの**[透明度のロック]** ボタン  をオンにします。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。

透明度をインタラクティブに調整するには、**Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックし、透明度スライダを表示します。

フェードをインタラクティブに調整するには、**Ctrl + Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

対称パターンで消去するには、**[ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [対称] バー** をクリックし、**[対称] バー** で必要な設定を選択してからイメージ ウィンドウでドラッグします。**[対称] バー** に関する詳細は、335 ページの「対称パターンを使用してペイントするには」を参照してください。

イメージに適用した直前の操作を取り消すには

- 1 ツールボックスの**[ブラシを元に戻す]** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、必要な設定を指定します。
- 3 取り消す領域をドラッグします。



直前の操作を完全に取り消す場合は、標準ツールバーの**[元に戻す]** ボタン  をクリックします。元に戻す処理について詳しくは、97 ページの「元に戻す/やり直す」を参照してください。



オブジェクトに適用した直前の操作を取り消すこともできますが、オブジェクトそのものを消去するには**[消しゴム]** ツール  を使用する必要があります。

透明度をインタラクティブに調整するには、**Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックし、透明度スライダを表示します。

フェードをインタラクティブに調整するには、**Ctrl + Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

主要カラーを副カラーに置き換えるには

- 1 ツールボックスの**[カラーの入れ替えブラシ]** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの**[ペン先の形]** ピッカーからペン先の形を選択します。
- 3 **[許容範囲]** ボックスに値を入力して、カラーの近似値に基づいて**カラーの許容範囲**を指定します。
- 4 ツールボックスのカラー コントロール領域で、**[主要]** カラー ボックスをダブルクリックし、カラーを選択します。
- 5 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



[スポイト] ツール  をクリックし、イメージ ウィンドウ内のカラーをクリックして、イメージから主要カラーを選択することができます。選択したカラーは、**[主要]** カラー ボックスに表示されます。

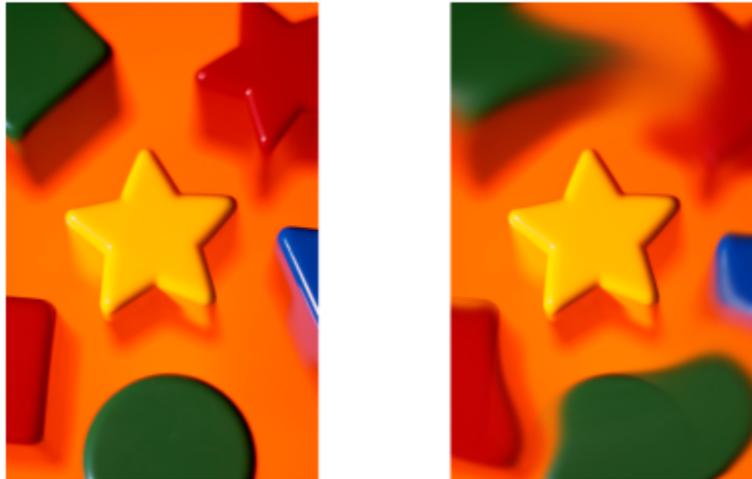
角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで**[丸型のペン先]** ボタン  または**[角型のペン先]** ボタン  をクリックして簡単に選択できます。

透明度をインタラクティブに調整するには、**Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックし、透明度スライダを表示します。

フェードをインタラクティブに調整するには、**Ctrl + Alt** キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

カラーを塗り付ける/染み付ける/ブレンドする

イメージにペイントを塗り付ける、染み付ける、またはブレンドすることができます。塗り付けは、ウェット ペイントの上をなぞったような効果を出します。染み付けは、パステル画をこすったような効果を出します。ブレンドは、カラー変化またはハードなエッジをぼかします。カラーの塗り付け、染み付け、およびブレンドは、イメージ全体または定義した**編集領域**に適用できます。編集領域の定義について詳しくは、281 ページの「**編集領域を定義する**」を参照してください。



塗り付けツールを使用して、星の周囲の形状を変更しました。

イメージにカラーを塗り付ける/染み付ける/ブレンドするには

- 1 ツールボックスの **[効果]** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ブラシ]** ピッカーを開き、次のいずれかのブラシ カテゴリをクリックします。
 - 塗り付け
 - 染み付け
 - ブレンド
- 3 **[ブラシ]** ピッカーを開いたままで、ブラシを選択します。
- 4 プロパティ バーの **[ペン先の形]** ピッカーからペン先を選択します。
- 5 **[ペン先のサイズ]** ボックスに、ペン先のサイズを指定する値を入力します。
- 6 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。

可能な操作

領域で何度もクリックせずに、領域全体のブラシ効果を高める

[**ブラシの設定**] ドッキング ウィンドウに表示される [**ブラシ ストロークの属性**] バーの [**累積**] ボタン  をクリックします。このオプションは、**効果** ツールと**クローン** ツールの一部でのみ使用可能です。[**ブラシの設定**] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[**ウィンドウ**] ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ [**ブラシの設定**] をクリックします。

効果をオブジェクトとバックグラウンドに同時に適用する

[**ブラシの設定**] ドッキング ウィンドウに表示される [**ダブの属性**] バーの [**結合のソース**] ボタン  をクリックします。このオプションは、[**累積**] ボタンがオフになっている場合にのみ使用可能です。

ブラシストロークの透明度を変更する

Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにして、透明度スライダを表示します。

ブラシストロークのフェードを調整する

Ctrl + Alt キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。

対称パターンでブラシ効果を適用する

[**ウィンドウ**] } [**ツールバー**] ▶ [**対称**] バーをクリックし、[**対称**] バーで必要な設定を選択してからイメージ ウィンドウでドラッグします。

[**対称**] バーに関する詳細は、[335 ページの「対称パターンを使用してペイントするには」](#)。を参照してください。



角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで [**丸型のペン先**] ボタン  または [**角型のペン先**] ボタン  をクリックして簡単に選択できます。



カラーとトーンを調整する

イメージの画質向上の方法として、イメージのカラーおよびトーンの調整が挙げられます。色かぶりを補正することも、暗すぎ/明るすぎる部分のバランスを取ることも、あるいは特定のカラーを変更することもできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 165 の「カラーを調整するためのツールと効果」。
- ページ 167 の「[調整] ドッキング ウィンドウ」。
- ページ 173 の「ヒストグラム」。
- ページ 174 の「自動調整」。
- ページ 175 の「調整フィルタ」。
- ページ 185 の「調整プリセットを適用、管理、作成する」。
- ページ 187 の「ブラシ効果を使用してカラーとトーンを調整する」。
- ページ 188 の「カラー チャンネル」。

カラーを調整するためのツールと効果

Corel PHOTO-PAINT には、イメージのカラーとトーンを編集するためのツールやフィルタ（「調整」、「調整効果」とも呼ばれます）が用意されています。カラーとトーンを編集する場合は、色相、彩度、輝度、コントラスト、強度などの要素を調整します。調整フィルタを直接イメージに適用して、イメージ全体のカラーとトーンを編集できます。また、個別のオブジェクト レイヤにあるレンズを適用して、元のイメージを変更せずに編集できます。レンズについて詳しくは、191 ページの「レンズ」を参照してください。

[調整] ドッキング ウィンドウ

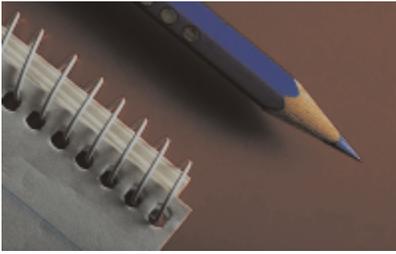
[調整] ドッキング ウィンドウは、最初のイメージ調整の場です。すべての調整を、非破壊的に、変化を実際に見ながら適用できます。また、ローカル調整モードを使用して、イメージの特定の領域のみ編集することもできます。詳しくは、を参照してください。167 ページの「[調整] ドッキング ウィンドウ」。

調整フィルタ

[調整] メニューからすべての調整フィルタにアクセスすることもできます。

イメージの調整に利用できるフィルタは、次のとおりです。

調整内容



露出、影、中間トーン、ハイライト



全体的カラー

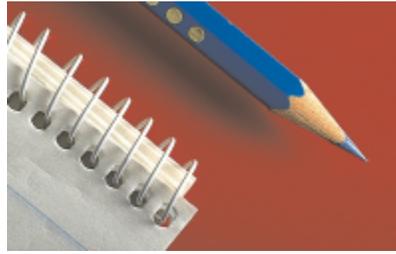


特定のカラー



コントラストが足りない不鮮明なイメージ

使用するフィルタ



自動レベル、トーンカーブ、ガンマ、サンプル&ターゲット、自動トーンカーブ、均一化



ホワイトバランス、カラーバランス、チャンネルミキサー

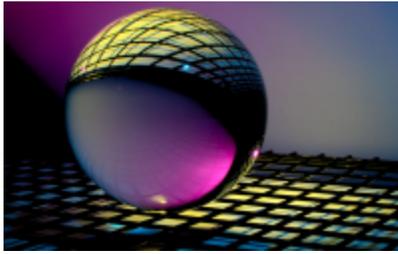


選択カラー、カラーの置き換え



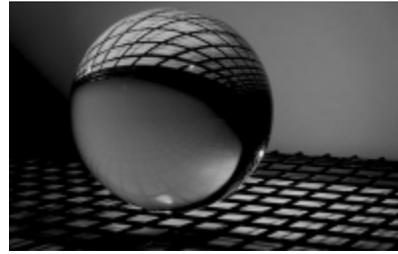
ライト、レベル

調整内容



彩度

使用するフィルタ



色相/彩度/明度、彩度の低減

フィルタには、自動的にイメージを調整するものと、ユーザーが調整を行うものとの2種類があります。たとえば、**[自動トーンカーブ]** フィルタは、すべてのカラーチャンネルでトーン範囲を自動的に調整します。一方、**[トーンカーブ]** フィルタを使用すると、**カラーチャンネル**別にトーンやカラーを細かく調整できます。また、**[トーンカーブ]** フィルタや**[レベル]** フィルタなどの高度なフィルタを使用すると、細かい調整を行ってさまざまな問題を補正できますが、操作するには慣れが必要です。

各調整フィルタについて詳しくは、175 ページの「調整フィルタ」を参照してください。

Image Adjustment Lab

イメージ調整ラボが削除され、調整には、**[調整]** ドッキングウィンドウの**[ホワイトバランス]** および**[ライト]** 調整フィルタからアクセスできるようになりました。

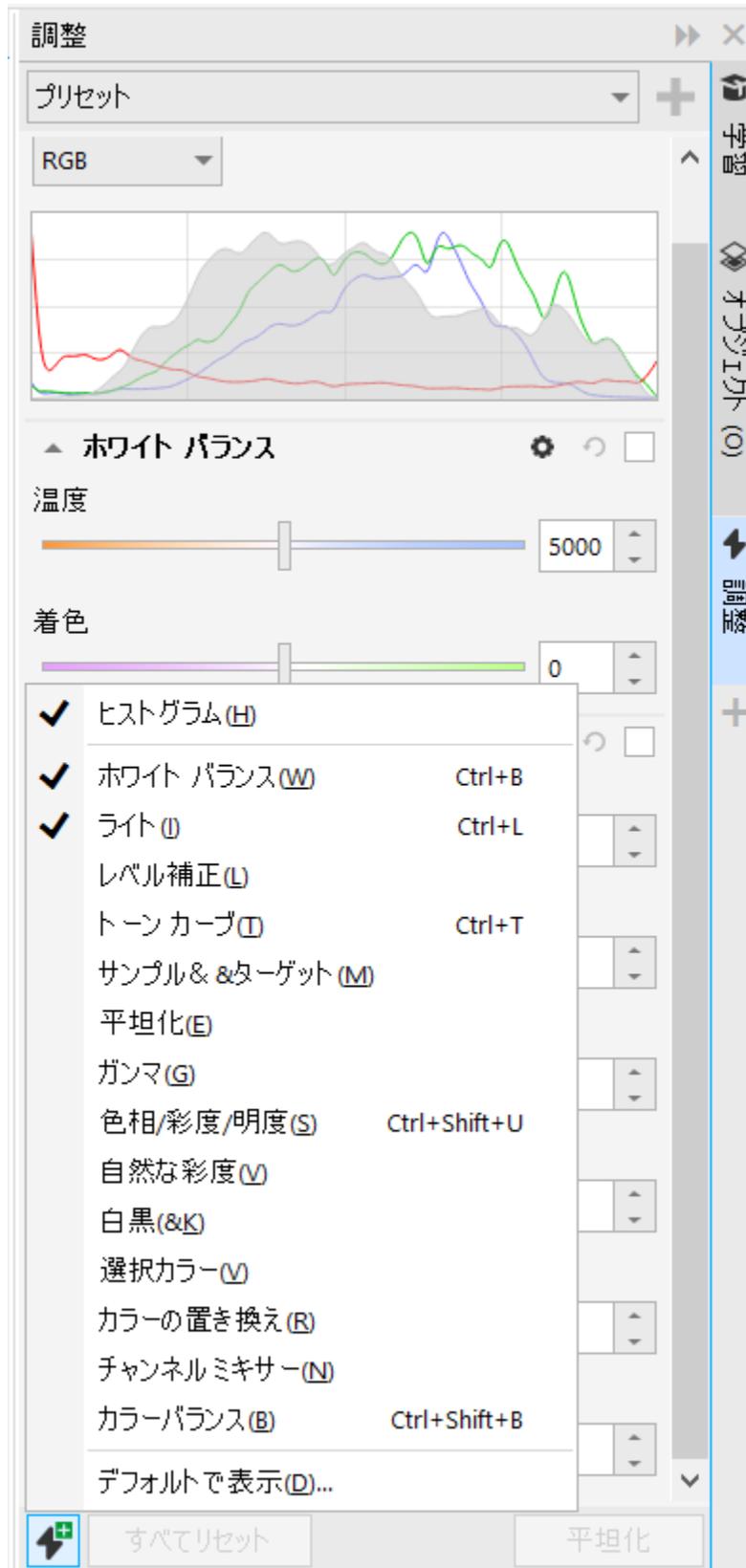
ブラシ効果

ブラシ効果を使用して、イメージのカラーやトーンを調整できます。詳しくは、187 ページの「ブラシ効果を使用してカラーとトーンを調整する」を参照してください。

[調整] ドッキング ウィンドウ

[調整] ドッキングウィンドウを使用すると、単一のカラー調整またはいくつかの調整を、イメージウィンドウで変化を見ながら適用できます。この調整は非破壊なので、調整の表示と非表示を切り替えながら、意図した結果が得られるかどうかを試すことができます。

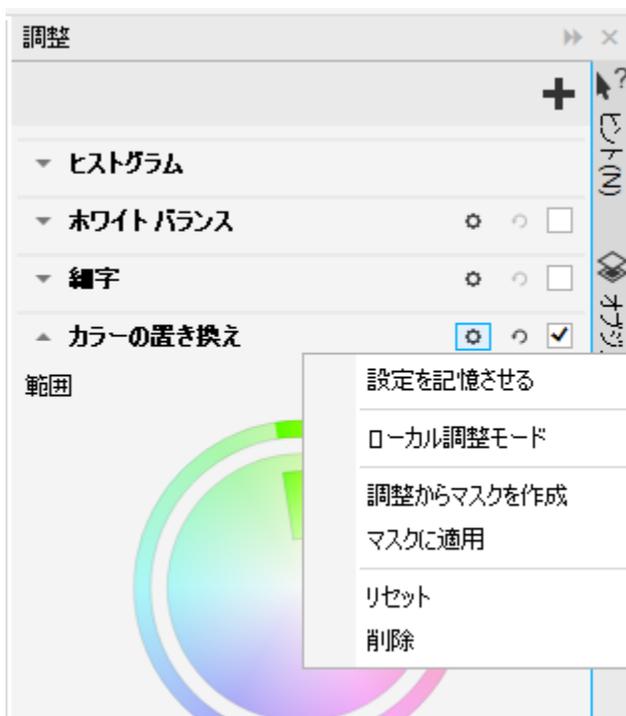
[調整] ドッキングウィンドウにはデフォルトで**[ヒストグラム]**、**[ホワイトバランス]**、**[ライト]** の各調整が表示されますが、随時他の調整を追加できます。調整を削除することもできます。



[調整] ドッキング ウィンドウでは、よく使われる調整にアクセスできます。

【調整】 ドッキング ウィンドウには、カラーやトーンの評価および調整に使用できるヒストグラムが用意されています。たとえば、ヒストグラムは、露光不足 (光不足の条件下で撮影された写真) のために細部が黒くつぶれた部分を検出するために便利です。ヒストグラムの使用については、173 ページの「ヒストグラム」を参照してください。

調整の結果が気に入らない場合は、デフォルトの設定に戻すことができます。調整に満足したら、その設定を記憶して別のイメージに適用することができます。**【調整】** ドッキング ウィンドウでの作業中には、すべてのマスク ツールや他の編集ツールにアクセスできるので、調整したい領域の微調整ができます。たとえば、マスクを作成し、新たに定義された編集領域に調整を適用することで、調整の適用領域を変更できます。また、調整の影響を受けた領域をもとにマスクを作成し、他の調整を適用する際に再利用することもできます。



調整名の右にある [オプション] ボタンから追加機能にアクセスできます。

イメージの特定の領域だけに調整を適用する場合は、ローカル調整モードを使用できます。**ブラシ マスク** ツールが有効になり、問題のある領域をペイントできます。ローカル調整モードでは他のマスク ツールも使用できます。



特定の領域のみに [ライト] 調整が適用されたイメージ (右)

同じ調整をよく使用していて、作業対象の各イメージでその調整に簡単にアクセスできるようにしたい場合は、その調整を [調整] ドッキング ウィンドウにデフォルトで表示させることができます。

調整を適用するには

- 次のいずれかの操作を実行します。
 - バックグラウンドを選択する — 調整をバックグラウンド レイヤに適用します。
 - 編集領域を定義する — 調整をイメージ領域に適用します。
 - オブジェクトを選択する — 調整をオブジェクトに適用します。
- [調整] ドッキング ウィンドウで、[調整の追加] ボタン  をクリックし、調整を選択します。
 [調整] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [調整] をクリックします。
- 必要な調整設定を選択します。

可能な操作

調整の表示/非表示を切り替える

調整名の右にあるチェック ボックスをオンまたはオフにします。

調整をデフォルト値にリセットする

調整名の右にある [リセット] ボタン  をクリックします。

後で使えるように調整設定を残す

[オプション] ボタン  をクリックし、[設定の保存] をクリックします。

[調整] ドッキング ウィンドウから調整を削除する

[オプション] ボタンをクリックし、[削除] をクリックします。

調整が適用される領域を変更するには

- マスク ツールを使用して、調整の適用先となる編集領域を定義します。
- [調整] ドッキング ウィンドウの調整領域で、[オプション] ボタン  をクリックし、[マスクに適用] をクリックします。



(左) [カラーの置き換え] 調整がイメージに適用されました。(右) 調整が四角い編集領域に限定されました。

適用済みの調整からマスクを作成するには

- 1 [調整] ドッキング ウィンドウで、マスクの作成元となる調整をクリックします。
- 2 [オプション] ボタン  をクリックし、[調整からマスクを作成] をクリックします。



(左) [カラーの置き換え] 調整がイメージに適用されました。(右) 調整が適用された領域を元にマスクが作成されました。

ローカル調整を適用するには

- 1 [調整] ドッキング ウィンドウで、イメージの特定の領域に適用する調整へ移動します。
- 2 [オプション] ボタンをクリックし、[ローカル調整モード] をクリックします。
ブラシ マスク ツールがアクティブになります。
- 3 必要な調整設定を選択します。
- 4 調整する領域をペイントします。

調整を複数回のストロークで適用するには、1 回目のストローク後にプロパティ バーの **[追加]**  ボタンをクリックします。

5 必要に応じて、調整の設定を微調整します。

6 ローカル調整モードを終了するには、**[オプション]** ボタンの右にある **[調整の表示]** ボタンをコントロールクリックします。



ローカル調整モードでは、他のマスク ツールや、**[オブジェクトからマスク]**、**[パスからのマスク]**、**[マスクの反転]**、**[マスクの削除]**、**[マスクのオーバーレイ]**、**[マスクの選択範囲]**、**[スマート選択をマスクに適用]** など、**[マスク]** メニューのコマンドも使用できます。

ローカル調整モードは、**ズーム** ツール、**スクロール** ツール、およびすべてのマスク ツールを除く、任意のツールをクリックすることでも終了できます。

[調整] ドッキング ウィンドウにデフォルトで表示する調整を選択するには

1 **[調整]** ドッキング ウィンドウで、**[調整の追加]** ボタン  をクリックし、**[デフォルトで表示]** をクリックします。

2 **[オプション]** ダイアログ ボックスで、**[調整]** ドッキング ウィンドウにデフォルトで表示する調整のチェック ボックスをオンにして、**[OK]** をクリックします。

調整のコピーとフラット化

イメージやオブジェクトに適用された調整をコピーして、別のイメージやオブジェクトに貼り付けることができます。調整のコピーアンドペーストは、特に合成画像で便利です。

調整に満足したら、その調整をフラット化してイメージやオブジェクトに永続的に適用できます。調整をフラット化すると、イメージファイルのサイズを小さくして、ブラシ ツールなど特定のツールのパフォーマンスを向上させることができます。

調整をコピーするには

1 次のいずれかの操作を実行します。

- イメージから調整をコピーするには、オブジェクトが選択されていないことを確認します。
- オブジェクトから調整をコピーするには、オブジェクトを選択します。

2 **[調整]** ▶ **[調整をコピー]** をクリックします。

3 別のイメージをクリックするか、別のオブジェクトを選択します。

4 **[調整]** ▶ **[調整を貼り付け]** をクリックします。



調整が適用されていない場合、**[調整をコピー]** コマンドは使用できません。

調整をコピーしていない場合、**[調整を貼り付け]** コマンドは使用できません。



イメージやオブジェクトを右クリックして、**[調整をコピー]** をクリックすると、調整をコピーすることもできます。

別のイメージやオブジェクトを右クリックして、**[調整を貼り付け]** をクリックすると、調整を貼り付けることもできます。

調整をフラット化するには

1 次のいずれかの操作を実行します。

- イメージに加えたすべての調整をフラット化するには、オブジェクトが選択されていないことを確認します。
- オブジェクトに加えたすべての調整をフラット化するには、オブジェクトを選択します。

2 **[調整]** ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[調整]**) の下部で、**[フラット化]** ボタンをクリックします。

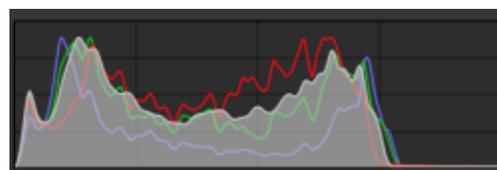
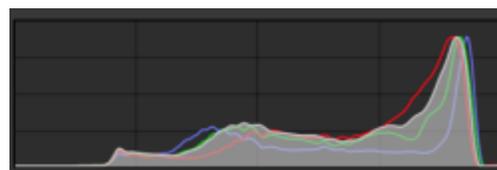
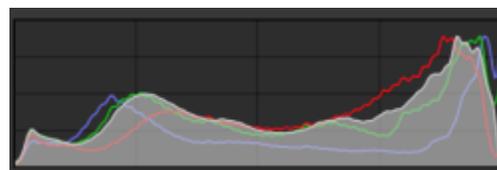
ヒストグラム

ヒストグラムにはイメージのトーン範囲を表示でき、カラーとトーンの評価や調整に便利です。たとえば、ヒストグラムは、露光不足(光不足の条件下で撮影された写真)のために細部が黒くつぶれた部分を検出するために便利です。

ヒストグラムは、イメージ内のピクセルの輝度を横軸方向に0(暗)~255(明)の範囲で示す棒グラフです。ヒストグラムでは、左側がイメージの影、中央部が中間トーン、右側がハイライトを表します。スパイクの高さは、各輝度レベルのピクセル数を示します。たとえば、影(ヒストグラムの左側)のピクセル数が多い場合、イメージの暗い領域に細部があることを示しています。

ヒストグラムは、**[調整]** ドッキング ウィンドウ、および以下のフィルタで使用できます。

- レベル (旧称 [コントラストの向上])
- 均一化 (旧称 [ヒストグラムの均一化])
- サンプル&ターゲット (旧称 [サンプル/ターゲットのバランス])
- トーン カーブ



異なる露出で撮影された写真: 適正露出 (上)、露出オーバー (中)、露出アンダー (下)。各写真のヒストグラム (右側) は、暗い方から明るい方へピクセルの分布を示します。適正露出の写真では、ピクセルがトーン範囲に均一に分布しています。

[調整] ドッキング ウィンドウでヒストグラムを使用するには

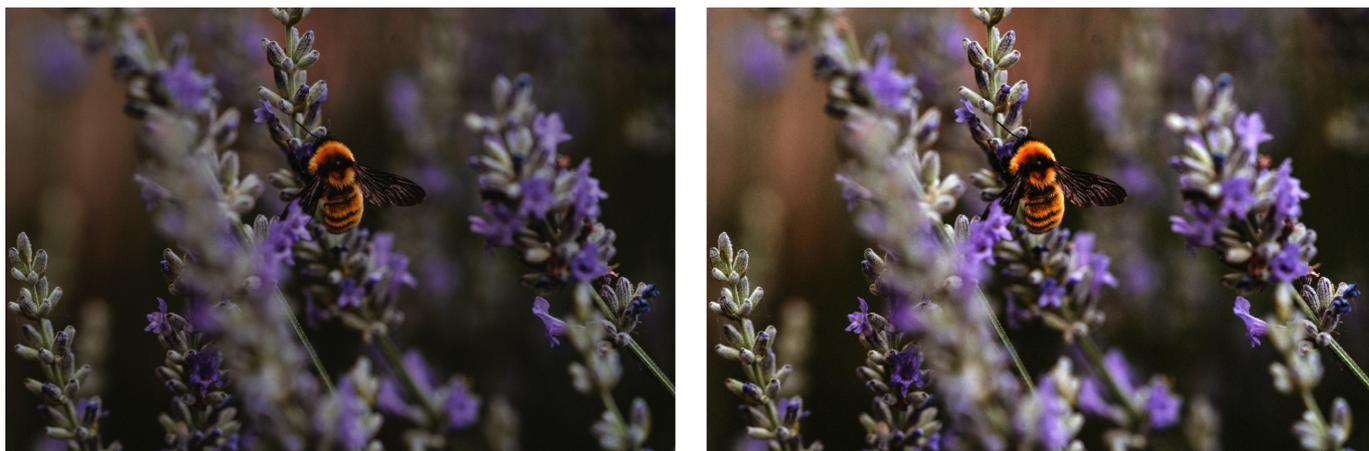
- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [調整] をクリックします。
- 2 [ヒストグラム] 領域で、表示するカラー チャンネルをリスト ボックスから選択します。デフォルトで、ヒストグラムにはイメージのカラー チャンネルがすべて表示されます。
- 3 適用する調整と設定を選択します。調整を適用するたびヒストグラムが更新され、結果の評価に役立ちます。

自動調整

[調整] メニューから次の自動調整にクイック アクセスできます。[自動レベル] (旧称 [自動調整])、[自動トーン カーブ] (旧称 [自動バランス トーン])、および [彩度の低減]。これらいずれかの調整を適用する場合、対応するセクションに調整値とともに [調整] ドッキング ウィンドウが表示されます。

自動レベル

[自動レベル] フィルタは、イメージの輝度、コントラスト、強度を調整すると失われる影やハイライトの細部を残したまま、イメージのトーン、カラー、およびコントラストを調整します。この調整は、イメージの各カラー チャンネルに対して実行され、イメージのカラーとトーンを変更します。



オリジナルのイメージ (左)、自動レベル適用後のイメージ (右)



[調整] メニューから、および [調整] ドッキング ウィンドウの [レベル] セクションからこの調整を適用できます。

自動トーン カーブ

[自動トーン カーブ] フィルタは、ピクセル値をトーン範囲全体へ自動的に再配分することにより、イメージの影、中間トーン、ハイライトを平均化します。



[調整] メニューから、および [調整] ドッキング ウィンドウの [トーン カーブ] セクションからこの調整を適用できます。

自動彩度低減

[彩度の低減] フィルタは、カラー モードを変更せずにグレースケールのイメージを作成します。たとえば、カラー写真に [彩度の低減] フィルタを適用して、モノクロ写真効果を生成できます。このフィルタは、自動的に各カラーの彩度をゼロにして、色相コンポーネントを取り除き、各カラーを対応するグレースケールに変換します。



この調整は、[調整] メニューから適用できます。

[調整] ドッキング ウィンドウの HSL (色相、彩度、明度) セクションで、[チャンネル] ボタンおよび [色相]、[彩度]、および [明度] スライダーを使用して、結果を微調整できます。

調整フィルタ

Corel PHOTO-PAINT には、イメージのカラーとトーンを調整するためのフィルタやツールが数多く用意されています。大部分のフィルタは、イメージ補正処理を詳細に制御したり、カラーを変更して特定の効果を得たりできる、高度なツールです。すべての調整フィルタは非破壊的に適用されるため、常に調整を削除することができます。

これらのフィルタの多くは、プリセットのレンズとしても使用できます。レンズについて詳しくは、191 ページの「レンズ」を参照してください。

調整フィルタには、次のものがあります。

- ページ 175 の「ホワイト バランス」。
- ページ 176 の「ライト (旧称 [輝度/コントラスト/強度])」。
- ページ 177 の「レベル (旧称 [コントラストの向上])」。
- ページ 178 の「トーン カーブ」。
- ページ 179 の「サンプル&ターゲット」。
- ページ 179 の「均一化 (旧称 [ヒストグラムの均一化])」。
- ページ 180 の「ガンマ」。
- ページ 180 の「色相/彩度/明度」。
- ページ 180 の「自然な彩度」。
- ページ 181 の「モノクロ (旧称 [グレースケール])」。
- ページ 182 の「選択カラー」。
- ページ 182 の「カラーの置き換え」。
- ページ 184 の「チャンネル ミキサー」。
- ページ 185 の「カラー バランス」。

ホワイト バランス

[ホワイト バランス] 調整を使用すると、イメージのカラー キャストを補正して、写真で正確なカラーを再現できます。カラー キャストは通常、写真撮影時の照明条件によって発生し、カメラやスキャナ内部のプロセッサに影響されることがあります。

カラー キャストを補正するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [調整] をクリックします。
- 2 [調整] ドッキング ウィンドウの [ホワイト バランス] 領域で、次のいずれかのスライダを動かします。
 - [色温度] スライダ - イメージのカラーを「暖色」または「寒色」に傾けることでカラー キャストを修正して、写真撮影時の照明条件を補正します。たとえば、室内の薄暗い白熱灯で撮影した写真のイエローの色かぶりを補正するには、スライダをブルーの方に向かって動かし、色温度値を上げます (単位はケルビン)。小さい値は、ろうそくの光や白熱電球などの弱い照明条件に相当します。この条件ではオレンジ色がかったカラー キャストが生じます。大きい値は、太陽光などの強い照明条件に相当します。このような条件は青みがかったカラー キャストが生じます。
 - [着色] スライダ - イメージの緑またはマゼンタを調整して、色かぶりを修正します。スライダを右に動かすと緑を増やし、左に動かすとマゼンタを増やすことができます。[色温度] スライダを使用してから [着色] スライダを動かすと、イメージを微調整できます。



カラー キャストの補正。右のイメージは補正したバージョンです。



カラー キャストの補正



[調整] メニューから、または **Ctrl + B** を押して **[ホワイト バランス]** 調整にアクセスすることもできます。

ライト (旧称 [輝度/コントラスト/強度])

[ライト] 調整を使用すると、イメージ全体の明るさやコントラストを調整できるほか、ハイライト、影、中間域のトーンなど、イメージの特定の領域を明るくしたり暗くしたりできます。

[ライト] 調整を使用するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[調整]** をクリックします。
- 2 **[調整]** ドッキング ウィンドウの **[ライト]** 領域で、次のいずれかのスライダを動かします。
 - **[輝度]** スライダ - イメージ全体を明るくまたは暗くします。このコントロールにより、写真撮影時の照明が明るすぎること (露光過多) や少なすぎる (露光不足) によって発生する露出の問題を補正します。イメージの特定の領域を明るくしたり暗くしたりするには、**[ハイライト]**、**[影]**、および**[中間トーン]** の各スライダを使用します。
 - **[コントラスト]** スライダ - イメージの暗い領域と明るい領域のトーンの差を大きくまたは小さくします。明るい領域をさらに明るく、暗い領域をさらに暗くするには、スライダを右に動かします。たとえば、イメージが不鮮明なグレーのトーンの場合、コントラストを大きくすることで細部をシャープにできます。
 - **[強度]** スライダ - カラーの強度を上げ下げします。コントラストと強度は一緒に使用するのが普通です。これは、コントラストを強くすると影やハイライト部分の細かな部分が失われるためです。その場合、強度を上げると細かな部分が復元されます。



イメージの輝度とコントラストを調整すると、イメージの細部がより鮮明になります。

- **[ハイライト]** スライダ - イメージの最も明るい領域の輝度を調整します。たとえば、フラッシュを使用して写真を撮影し、そのフラッシュによって前景の物体が白っぽくなった場合、**[ハイライト]** スライダを左に動かして、イメージ内の白っぽい領域を暗くできます。**[ハイライト]** スライダを **[影]** スライダおよび **[中間トーン]** スライダと組み合わせて使用すると、照明のバランスを調整できます。
- **[影]** スライダ - イメージの最も暗い領域の輝度を調整します。たとえば、写真撮影時に被写体の後ろに明るい光があると (逆光)、被写体が暗くなる場合があります。この写真を補正するには、**[影]** スライダを右に動かし、暗い領域を明るくし、細部を鮮明にします。**[影]** スライダを **[ハイライト]** スライダおよび**[中間トーン]** スライダと組み合わせて使用すると、照明のバランスを調整できます。



[ハイライト] スライダーおよび [影] スライダーを使って、イメージの特定の領域を明るくしたり暗くしたりすることができます。

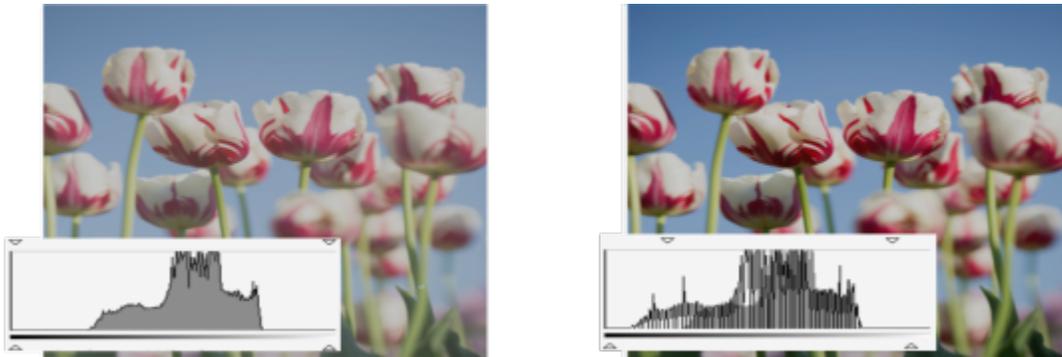
- **[中間トーン]** スライダー - イメージの中間域のトーンの輝度を調整します。ハイライトと影を調整してから、**[中間トーン]** スライダーを使用してイメージを微調整します。



[調整] メニューから、または **Ctrl + L** を押して **[ライト]** 調整にアクセスすることもできます。

レベル (旧称 [コントラストの向上])

[レベル] フィルタは、イメージの輝度、コントラスト、強度を調整すると失われる影やハイライトの細部を残したまま、イメージのトーン、カラー、およびコントラストを調整します。インタラクティブ ヒストグラムでは、輝度値を印刷可能範囲内にシフトまたは圧縮することができます。イメージの値をサンプリングすることにより、ヒストグラムを調整できます。



オリジナルのイメージ (左)、[レベル] を適用してトーン範囲を広げたイメージ (右)

ヒストグラムを使用してインタラクティブにレベル調整を使用するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[調整]** をクリックします。
- 2 **[調整の追加]** ボタン  をクリックし、**[レベル]** をクリックします。
- 3 ヒストグラムの上にある **[出力]** 矢印を動かして、コントラストを微調整します。
暗い領域を明るくするには、左の矢印を右へ動かします。
明るい領域を暗くするには、右の矢印を左へ動かします。
- 4 ヒストグラムの下にある **[入力]** 矢印を動かして、シャドウやハイライトを調整します。
左にある矢印は、影の領域を暗化します。新しいブラック ポイント値が影の [出力] 値にマップされます (デフォルトで 0)。
右にある矢印は、ハイライトの領域を明化します。新しいホワイト ポイント値がハイライトの [出力] 値にマップされます (デフォルトで 255)。
- 5 ヒストグラムの下にある **[中間トーン]** 矢印を動かして、中間域のトーンを調整します。

可能な操作

イメージ カラーを調整する

トーンを調整する前に、**[チャンネル]** リスト ボックスからカラー チャンネルを選択します。

トーン範囲に自動でピクセルを再配分する

[自動レベル] ボタン  をクリックします。

イメージのピクセルをサンプリングしてブラック ポイントとホワイト ポイントを設定する

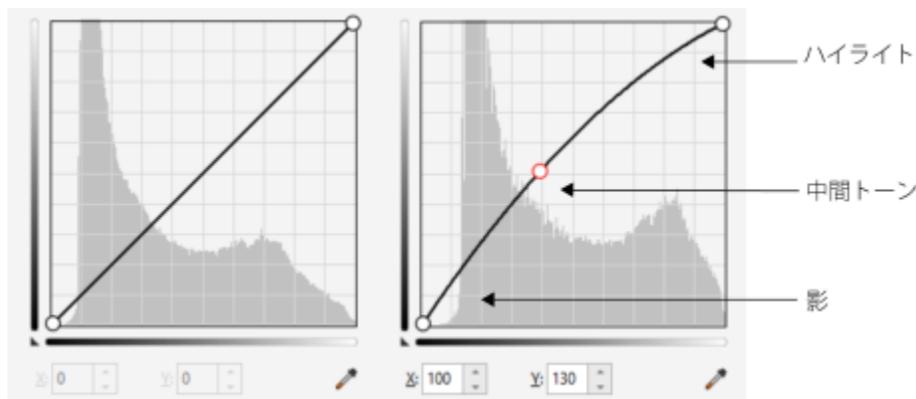
[影からカラーをサンプリング] ボタン  をクリックして影の領域をサンプリングするか、**[ハイライトからカラーをサンプリング]** ボタン  をクリックしてハイライトの領域をサンプリングします。



[調整] メニューから、**レベル** 調整にアクセスすることもできます。

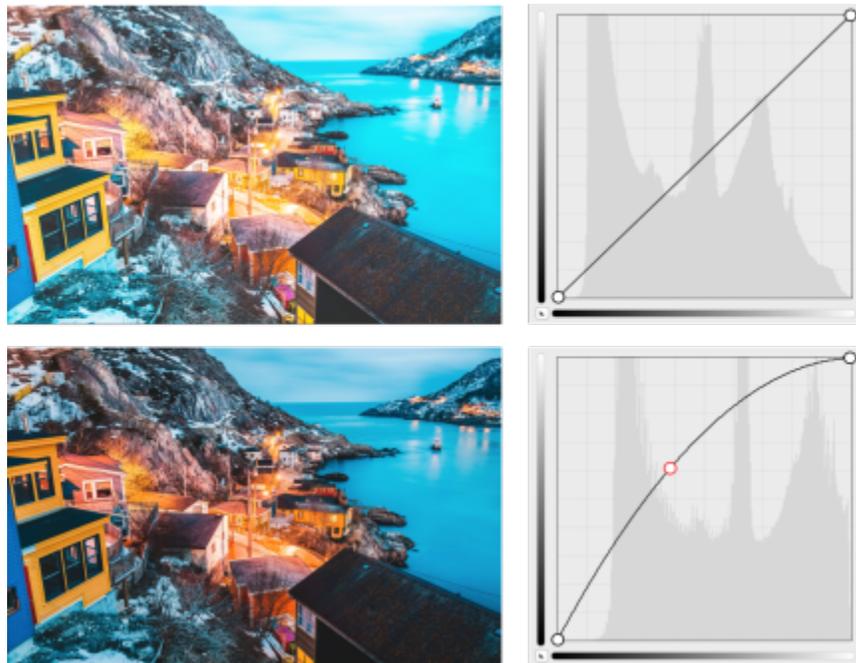
トーン カーブ

[トーン カーブ] フィルタでは、個々のカラー チャンネルまたはコンポジット チャンネル (すべてのチャンネルの組み合わせ) のいずれかを調整して、カラーとトーンを補正できます。個々のピクセル値は、グラフに表示されるトーン カーブに沿ってプロットされ、この曲線が影 (グラフの下部)、中間トーン (グラフの中央)、ハイライト (グラフの上部) のバランスを示します。グラフの x 座標はオリジナル イメージのトーン値または入力値を、グラフの y 座標は調整後のトーン値または出力値をそれぞれ表します。



トーン カーブは、イメージの影、中間トーン、およびハイライトのバランスを示します。
(左) トーン調整前のイメージのトーン カーブ。(右) この例ではトーン範囲の微調整として、ピクセル値を 100 から 130 に置き換えて、中間トーン領域を明るくしています。

問題のある領域を修正するには、トーン カーブにノードを追加し、カーブをドラッグします。イメージの特定の領域を調整する場合は、**カラー スポイト (イメージのトーンをサンプリング)** ツールを使用し、イメージ ウィンドウで領域を選択します。その上で、トーン カーブに表示されるノードをドラッグすると、求める効果が得られます。



オリジナルのイメージ (上)、トーン範囲調整後のイメージ (下)

ヒストグラムを使用すると、調整後のトーン範囲を表示して結果を確認できます。ヒストグラムについて詳しくは、173 ページの「ヒストグラム」を参照してください。

調整を微調整するには、**[オプション]** ボタン  をクリックして、**[カーブスタイル]** メニューからスタイルを選択します。たとえば、フリーハンドの線や直線セグメントを使用してカーブを再描画できます。



[調整] メニューから、または **Ctrl + T** を押して **[トーンカーブ]** フィルタにアクセスすることもできます。

サンプル&ターゲット

[サンプル&ターゲット] フィルタは、特定のイメージ領域をサンプリングすることにより、イメージのトーン範囲をシフトします。影、中間トーン、ハイライトの領域からサンプルを採取し、**カラーモデル**からカラーを選択して、ターゲットのトーン値を設定します。たとえば、トーンの範囲を高める場合は、影の部分からサンプルを採取してターゲットカラーを黒に設定し、次にハイライト部分からサンプルを採取してターゲットカラーを白に設定します。また、特定のカラーチャンネルのトーンの範囲をシフトすることもできます。トーンの範囲はヒストグラムとして表示されます。



この調整には、**[調整]** ドッキングウィンドウまたは **[調整]** メニューからアクセスできます。

均一化 (旧称 [ヒストグラムの均一化])

[均一化] フィルタは、イメージのトーン範囲を表示し、コンポジットチャンネルや個々のカラーチャンネルの影、中間トーン、ハイライトのバランスをプリセットのヒストグラムモデルに応じて再配分します。



この調整には、**[調整]** ドッキング ウィンドウまたは **[調整]** メニューからアクセスできます。

ガンマ

[ガンマ] フィルタでは、コントラストの低いイメージでも、影やハイライトに大きな影響を与えることなく細部が見えるようにできます。このフィルタを使用する場合、イメージのトーン補正は、周囲の領域に相対的なトーンの認識に基づいて行われます。たとえば、10 パーセントのグレーの円を黒い背景と白い背景の両方に置きます。まったく同じ輝度であるにもかかわらず、人間の目にとっては、黒い背景に置いた円の方が白い背景に置いた円より明るく感じられます。**[ガンマ]** フィルタはすべてのイメージ値に影響を与えますが、曲線ベースなので、変化は中間トーンに多く現れます。



この調整には、**[調整]** ドッキング ウィンドウまたは **[調整]** メニューからアクセスできます。

色相/彩度/明度

色相/彩度/明度 フィルタは、イメージまたは**チャンネル**の色相、彩度、および明度を変更します。色相の変更では、たとえば赤から青への変更のように、色かぶりそのものを変更します。色相の変更では、例えば赤から青への変更のように、色合いそのものを変更します。**彩度**の変更では、パステル カラーから原色まで、色の鮮やかさを変更します。明度の変更では、例えば最も暗い赤から最も明るい赤への変更のように、同一色でのカラーの明るさを変更します。



この調整には、**[調整]** ドッキング ウィンドウ、**[調整]** メニューから、または **Ctrl + Shift + U** を押してアクセスできます。

自然な彩度

[自然な彩度] フィルタでは、イメージにクリッピングや「ブローイング アウト」を起こさずに、RGB イメージの彩度を上げることができます。クリッピングは、イメージの領域が明るすぎる場合に発生し、その領域のカラー詳細が失われます。これは、イメージの彩度を無差別に増加すると発生する可能性があります。自然な彩度フィルタは、飽和度の低いカラーの彩度を、飽和度の高いカラーの彩度より増加することにより、彩度を比率によって調整します。このフィルタは、詳細な背景の前に人物が含まれるイメージの彩度を調整するのに役立ちます。たとえば、イメージ内の人物の肌の色合いに悪影響を与えずに、背景の細部の彩度を増加できます。



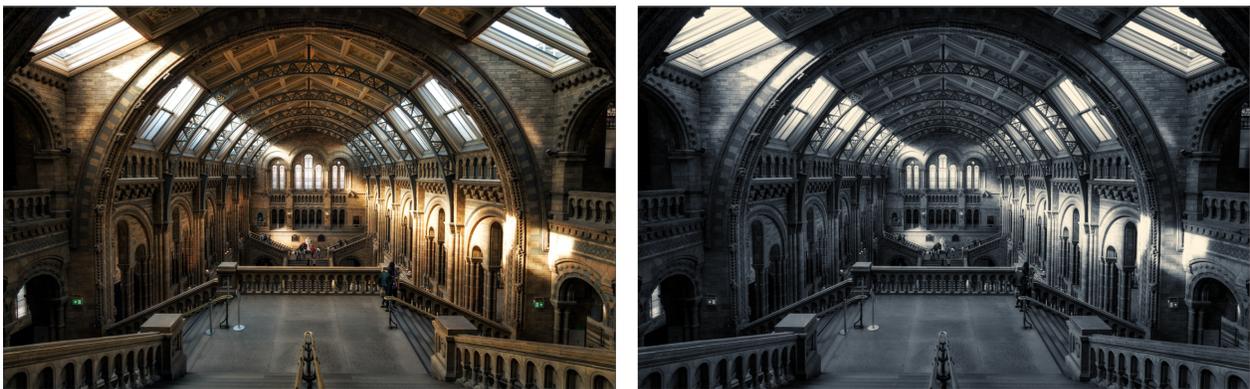
自然な彩度フィルタの適用前の写真 (左) と適用後の写真 (右)。



この調整には、**【調整】** ドッキング ウィンドウまたは **【調整】** メニューからアクセスできます。

モノクロ (旧称 **【グレースケール】**)

モノクロ フィルタでは、**カラー モード**を変更せずに、モノクロ イメージを作成できます。また、変換する際にイメージ内のグレースケールの強度を変更して、変換する個々のカラーを調整できます。また、分割トーン オプションを使用して、イメージのシャドウとハイライトを分離できます。これにより、各イメージ特性の色相と彩度を個別に調整できます。



【モノクロ】 フィルタの適用前の写真 (左) と適用後の写真 (右)。



この調整には、**【調整】** ドッキング ウィンドウまたは **【調整】** メニューからアクセスできます。

選択カラー

【選択カラー】 フィルタは、カラー スペクトラム (赤、イエロー、緑、シアン、青、マゼンタ) のコンポーネント プロセス カラー (CMYK 値) のパーセンテージを変更することで、カラーを変更します。このフィルタを使用して、イメージのグレースケール トーン コンポーネントにプロセス カラーを追加することもできます。選択カラーの変更では、カラー スペクトラムの各プライマリ カラーを構成するシアン、マゼンタ、イエロー、および黒のピクセルのパーセンテージを増減します。たとえば、赤スペクトラムのマゼンタの比率を減らすと、イエローにシフトします。逆に、赤スペクトラムのマゼンタの比率を増加させると、カラーがマゼンタ方向にシフトされ、全体に赤系のトーンが増加します。カラー変更の範囲は、主として選択した調整比率方式によって異なります。



この調整には、**【調整】** ドッキング ウィンドウまたは **【調整】** メニューからアクセスできます。

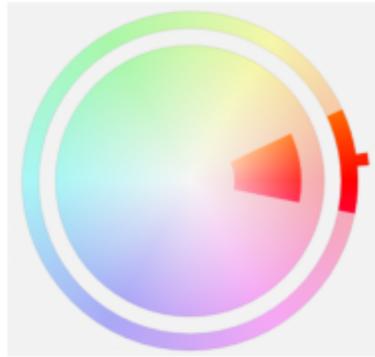
カラーの置き換え

【カラーの置き換え】 フィルタを使用すると、イメージ、編集領域、オブジェクトに含まれているカラーを置き換えられます。置き換えるカラーを選択すると、置き換え対象と似た色の範囲も自動的に選択されます。オリジナルのカラーと置き換えるカラーは、イメージまたはカラー ピッカーから選択できます。

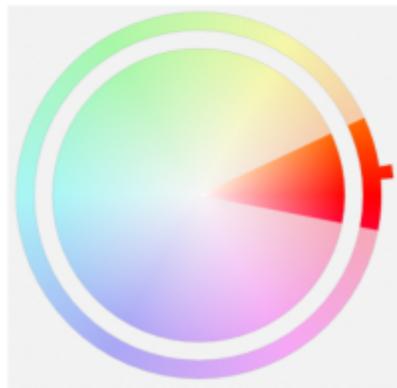


[カラーの置き換え] 調整が適用され、すべての赤が紫で置き換えられています。

選択範囲に対するカラーの追加または削除として、色相や彩度の範囲を調整できます。また、イメージに含まれている 1 色を選択して置き換えることもできます。カラーが唐突に変化することがないように、選択されているピクセルと選択されていないピクセルとの間の遷移を滑らかにすることができます。新しいカラーの色相、彩度、明度を設定することもできます。



イメージからオレンジが選択されました。



シャツのオレンジが青に置き換えられていますが、一部のオレンジとレッドが残っています(上)。彩度の範囲を調整して、これらのカラーを選択して置き換えます(下)。

カラーを置き換えるには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [調整] をクリックします。
- 2 [調整の追加] ボタン  をクリックし、[カラーの置き換え] をクリックします。

- 3 **[オリジナル]** 領域で、スポイト ツール  をクリックしてイメージから **シード カラー** をサンプリングするか、カラー ピッカーからカラーを選択します。
[範囲] コントロールに、選択したカラーの範囲が表示されます。
- 4 **[新規]** 領域で、スポイト ツールをクリックしてスクリーンからカラーをサンプリングするか、カラー ピッカーからカラーを選択します。
- 5 選択されたピクセルと選択されていないピクセルとの間の遷移を滑らかにするには、**[滑らか]** スライダを動かします。

可能な操作

選択した色相範囲を調整する

[色相の範囲] リングでカラー バンドのエッジのいずれかをポイントし、手のカーソルが表示されたら上下にドラッグします。

選択したカラーの色相範囲全体をシフトさせるには、**[色相の範囲]** リングでカラー バンドのハンドルをクリックし、リングに沿ってドラッグします。

注記: カラー バンドが狭い場合、選択したカラーと非常に近いピクセルだけが選択されて置き換えられます。カラー バンドが広い場合は、選択されて置き換えられるピクセルが増えます。



選択された色相範囲を調整する

選択に含まれる色相の影について彩度の範囲を調整する

[彩度の範囲] 円でカラー バンドの内エッジまたは外エッジをポイントし、ポインタが手になったらドラッグします。

1 色に置き換える

[単色] チェック ボックスをオンにします。

出力カラーの色相、彩度、明度を設定する

[色相]、**[彩度]**、**[明度]** スライダをそれぞれ調節します。



[調整] メニューから、この調整フィルタにアクセスすることもできます。

チャンネル ミキサー

カラー チャンネルを混合して、イメージのカラー バランスを調整できます。たとえば、イメージが赤っぽい場合は、RGB イメージの赤のチャンネルを調整して画質を修正します。チャンネルの混合について詳しくは、[188 ページの「カラー チャンネル」](#) を参照してください。



この調整には、**[調整]** ドッキング ウィンドウまたは **[調整]** メニューからアクセスできます。

カラー バランス

[カラー バランス] フィルタでは、互いに補完するプライマリの赤、緑、青 (RGB) のカラー値とセカンダリのシアン、マゼンタ、イエロー (CMY) のカラー値の組み合わせの間でカラーをシフトして、イメージ内のカラーのバランスを調整します。この方法は、色かぶりを補正する場合に便利です。たとえば、写真の赤を弱くする場合、カラー値を赤からシアンにシフトします。

カラー シフトをシャドウ、中間トーン、ハイライトに個別に適用し、さらに詳細なカラー調整が可能になります。たとえば、シャドウを青色に、ハイライトをオレンジ色に変更することができます。また、ニュートラル カラー スポイト ツールを使用して、ニュートラル グレーにする色を選択することができ、セクション内のピクセルからフィルタによりカラーが自動的に削除されます。



この調整には、**[調整]** ドッキング ウィンドウ、**[調整]** メニューから、または **Ctrl + Shift + B** を押してアクセスできます。

調整プリセットを適用、管理、作成する

非破壊的な調整プリセットを使用すると、イメージのカラーとトーンを簡単に調整できます。マルチフィルタ調整プリセットを適用し、作成できます。また、プリセットをカスタム カテゴリに含めたり、シンプルにデフォルトのモノクロ、カラー、トーンの各カテゴリに割り当てたりできます。

調整プリセットを適用する

[調整] ドッキング ウィンドウ

調整プリセットを管理する

[プリセット] ピッカーを使用すると、調整プリセットのリストを管理できます。たとえば、調整プリセットの名前を変更したり、リストから調整プリセットを削除したりできます。調整プリセットをホストしているフォルダが削除されたため、調整プリセットが機能しない場合は、別の場所を参照してリンクを復元することができます。

気に入った調整プリセットをお気に入りとしてマークしておく、簡単に見つけられます。また、調整プリセットのプロパティを表示したり変更したりできます。たとえば、調整プリセットの名前とカテゴリを変更できます。不要になった調整プリセットは削除できます。調整プリセットを含むフォルダのインデックスを再作成することもできます。これは、多数のプリセットを作成したり、それらを別のフォルダにコピーしたりする場合に便利です。

調整プリセットを作成する

1 つの調整や複数の調整を適用または変更したあと、カスタム プリセットを作成して、選択した言語で名前やカテゴリなどのメタデータを追加できます。プリセットは、拡張子 **.cdss** の特殊なファイル形式で保存され、適用した調整の情報が保存されます。

プリセットを適用するには

- 次のいずれかの操作を実行します。
 - 背景を選択する — プリセットをバックグラウンド レイヤに適用します。
 - 編集領域を定義する — プリセットをイメージ領域に適用します。
 - オブジェクトを選択する — プリセットをオブジェクトに適用します。
- [調整]** ドッキング ウィンドウで、**[プリセット]** ピッカーを開きます。
[調整] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[調整]** をクリックします。
- [コンテンツ ソースを選択]** リスト ボックスから、**[すべてのプリセット]** を選択して、プリセットのサムネイルをダブルクリックします。
[すべてのプリセット] の下のアイテムには、すべてのカテゴリで使用可能なすべてのプリセットが表示されます。

可能な操作

異なるプリセット カテゴリを選択する

[プリセット] ピッカーで、[コンテンツをフィルタリング] リスト ボックスから次のいずれかを選択します。

- 未分類
- すべてのカテゴリ
- モノクロ
- カラー
- トーン

プリセットのサムネールのサイズを調整する

[プリセット] ピッカーで、[サムネール サイズ] スライダを調節します。

調整プリセットを管理するには

- 1 [調整] ドッキング ウィンドウで、[プリセット] ピッカーを開きます。
- 2 [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで、オプションを選択します。[すべてのプリセット] の下のアイテムには、Corel が提供しているデフォルトの調整プリセットと、ユーザーが追加したカスタム調整プリセットが表示されます。
- 3 検索するには、[検索] ボックスにキーワードを入力し、**Enter** キーを押します。
- 4 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的

作業手順

プリセットにお気に入りとしてマークを付ける

サムネールを右クリックし、[お気に入り] をクリックします。

ローカル ライブラリで調整プリセットの名前を変更する

サムネールを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[プロパティ] ダイアログ ボックスで、次のいずれかを行います。

- [名前] ボックスに新しい名前を入力します。
- [カテゴリ] リスト ボックスからカテゴリを選択して、調整プリセットを分類します。

ローカル ライブラリから調整プリセットを削除する

サムネールを右クリックし、[削除] をクリックします。

[プリセット] ピッカーで調整プリセットのリストを更新するには

- 1 [調整] ドッキング ウィンドウで、[プリセット] ピッカーを開きます。
- 2 [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで、オプションを選択します。[すべてのプリセット] の下のアイテムには、Corel が提供しているデフォルトの調整プリセットと、ユーザーが追加したカスタム調整プリセットが表示されます。
- 3 [オプション] ボタン  をクリックし、次の表からいずれかのタスクを実行します。

目的

作業手順

[すべてのプリセット] ライブラリに含まれている全アイテムを参照または検索する

[再帰参照] をクリックします。

フォルダのインデックスを再作成する

[フォルダの再インデックス] をクリックします。

最近使用した 25 個のプリセットを表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[最近使用したファイル]** を選択します。

お気に入りのプリセットを表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[お気に入り]** を選択します。

プリセットの並べ替え

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで、**[すべてのコンテンツ]** からプリセットを選択するか、エイリアスを選択します。**[オプション]** ボタン  をクリックし、次のいずれかを選択します。

- **[名前で並べ替え]** では、プリセットが名前でアルファベット順に並べ替えられます。
- **[作成日で並べ替え]** では、プリセットが作成日の新しい順に並べ替えられます。
- **[最後の变更日期で並べ替え]** では、プリセットが変更日の新しい順に並べ替えられます。

[お気に入り] リストのプリセットは、お気に入りとしてマークされた日付の順に自動で並べ替えられ、**[お気に入り]** に追加された最も新しいプリセットが先頭に表示されます。

[最近使用したファイル] リストのプリセットは使用日の順に自動で並べ替えられ、最後に使用された塗りつぶしまたは透明が先頭に表示されます。

カスタム調整プリセットを作成するには

- 1 **[調整]** ドッキング ウィンドウで、**[プリセットの作成]** ボタン  をクリックします。
- 2 **[プリセットの作成]** ダイアログ ボックスで、**[名前]** ボックスに名前を入力して、**[カテゴリ]** リスト ボックスからカテゴリを選択して、**[保存]** をクリックします。



パーソナル ライブラリのプリセットは、デフォルトで **Documents¥Corel¥Corel Content¥Adjustment Presets** フォルダに保存されます。調整プリセットの保存先となるデフォルトの場所を変更できます。詳しくは、[118 ページの「コンテンツの場所を変更する」](#)。

ブラシ効果を使用してカラーとトーンを調整する

ブラシ効果を適用して、イメージの輝度、コントラスト、色相、または彩度を部分的に調整できます。たとえば、写真内の 1 つのオブジェクトを明るくする場合は、**輝度** ツールを使用して、周辺の領域に影響を与えずに目的のオブジェクトだけを明るくできます。

プリセット ブラシを選択するか、カスタム ブラシを作成します。詳しくは、[337 ページの「カスタム ブラシ」](#)。を参照してください。

ブラシ効果を使用してイメージのカラーとトーンを調整するには

- 1 オブジェクトまたはバックグラウンド イメージを選択します。
- 2 ツールボックスの **[効果]** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーで **[ブラシ]** ピッカーを開き、次のいずれかのブラシ カテゴリをクリックします。
 - **輝度** — イメージの明るさを変更します。

- **コントラスト**  - コントラストを増減します。
- **色相**  - すべての色相をカラーホイールに沿って [量] ボックスに指定した値だけシフトします。
- **色相変換**  - 元のカラーの輝度と彩度を保持しつつ、すべての色相を選択された色相に置き換えます。
- **スポンジ**  - カラーの彩度を増減します。
- **着色**  - 現在のペイントカラーを使用してイメージを着色します。
- **覆い焼き/焼き付け**  - イメージを明化 (露出オーバー) または暗化 (露出アンダー) します。[ブラシの種類] リストボックスで、覆い焼きまたは焼き付けプリセットブラシを選択できます。

- 4 [ブラシ] ピッカーからプリセットブラシを選択します。
ブラシをカスタマイズする場合は、プロパティバーで必要な項目を設定します。
- 5 イメージウィンドウ内でドラッグします。

可能な操作

複数回クリックすることなしに、ブラシツールの効果を増します。

[ブラシの設定] ドッキングウィンドウで、[ブラシストロークの属性] バーの [累積] ボタン  をクリックします。このオプションは、効果ツールの一部でのみ使用可能です。[ブラシの設定] ドッキングウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキングウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。

オブジェクトとバックグラウンドの両方に同時に効果を適用する

[ブラシの設定] ドッキングウィンドウで、[ダブの属性] バーの [結合のソース] ボタン  をクリックします。このオプションは、[累積] ボタンがオフになっている場合にのみ使用可能です。

カラーチャンネル

イメージのカラーチャンネルを直接変更して、イメージのカラーとトーンを調整できます。イメージ内のカラーチャンネルの数は、そのイメージに関連付けられたカラーモードのコンポーネントの数によって決まります。たとえば、モノクロ、グレースケール、2色トーン、およびパレットイメージには、カラーチャンネルが1つだけ含まれています。RGB イメージと Lab イメージには3つ、CMYK イメージには4つのカラーチャンネルが含まれています。これらのカラーモデルについての詳細は、201ページの「カラーモデル」を参照してください。追加のチャンネルを使用して、イメージ内のスポットカラーを維持できます。スポットカラーチャンネルについては、218ページの「スポットカラーチャンネル」を参照してください。

カラーチャンネルを表示/混合/編集する

カラーチャンネルは、イメージのカラーコンポーネントを表しますが、デフォルトでは、イメージウィンドウにグレースケールで表示されます。また、赤チャンネルは赤で、青チャンネルは青で着色されるという具合に、カラーチャンネルをそれぞれのトーンで表示することもできます。

カラーチャンネルを混合して、イメージのカラーバランスを調整できます。たとえば、イメージが赤っぽい場合は、RGB イメージの赤のチャンネルを調整して画質を修正します。

他のグレースケールイメージと同様にチャンネルを編集することができます。したがって、特定の領域の選択、ペイントと塗りつぶしの適用、特殊効果またはフィルタの追加、およびオブジェクトの切り取りと貼り付けをイメージのチャンネル内で直接行うことができます。

カラー チャンネルを使用してイメージを分割/結合する

イメージから一連の 8 ビット グレースケール イメージ ファイルに分割できます。このグレースケール イメージは、カラー モードの各カラー チャンネルに 1 つずつ作成されます。イメージを個別のチャンネル ファイルに分割すると、他のチャンネルに影響を与えずに 1 つのチャンネルを編集する、イメージのモードを変換する前にチャンネル情報を保存する、または、あるモードのチャンネルを他のモードに関連付けて編集することができます。たとえば、**彩度が過度に高い** RGB イメージを HSB モードに分割し、(S) チャンネルの彩度を暗くすれば、彩度を低減できます。イメージの編集が終わったら、チャンネルを結合して 1 つのイメージにします。イメージは、同じカラー値が適用されて自動的に結合されます。

イメージを分割して作成されるカラー チャンネルは次のとおりです。

分割モード	作成されるカラー チャンネル
RGB	赤 (R)、緑 (G)、青 (B)
CMYK	シアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、黒 (K)
HSB	色相 (H)、彩度 (S)、輝度 (B)
HLS	色相 (H)、明度 (L)、彩度 (S)
YIQ	光度 (Y)、2 種類の色度値 (I、Q)
Lab	光度 (L)、緑/マゼンタ (a)、青/イエロー (b)

計算を使用してチャンネルまたはイメージを結合する

イメージのチャンネル データを他のイメージのチャンネル データと結合することにより、既存イメージの修正または新規コンポジット イメージの作成ができます。**マージ モード**の計算は**ピクセル**上で行われ、指定したチャンネル、開いているイメージ、または新規ファイルに適用されます。計算を使用してイメージを補正する場合、1 つのイメージのチャンネルを結合するか、または 1 つのイメージを分割して作成した 2 つのイメージを結合することができます。異なるイメージを結合して、重なる効果を作成できます。マージ モードについて詳しくは、[343 ページの「マージ モード」](#)を参照してください。

カラー チャンネルを表示するには

- **[イメージ]** ▶ **[チャンネル]** をクリックします。



カラー チャンネルをそれぞれのカラーで表示できます。**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。**[表示]** をクリックして、**[スクリーン カラー チャンネルの着色]** チェック ボックスをオンにします。

カラー チャンネルを混合するには

- 1 **[調整]** ▶ **[チャンネル ミキサー]** をクリックします。
- 2 **[カラー モデル]** リスト ボックスから**カラー モード**を選択します。
- 3 **[出力チャンネル]** リスト ボックスから 1 つの出力**[チャンネル]**を選択します。
- 4 **[入力チャンネル]** のスライダを移動します。



カラーチャンネルの混合は、**[調整]** ドッキング ウィンドウで実行できます。詳しくは、170 ページの「調整を適用するには」を参照してください。

カラーチャンネルを編集するには

- 1 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウで、編集するチャンネルをクリックします。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[イメージ]** ▶ **[チャンネル]** をクリックします。
- 2 イメージを編集します。



[チャンネル] ドッキング ウィンドウの上部にあるコンポジットチャンネルをクリックすると、編集したイメージを表示できます。

カラーチャンネルを使用してイメージを分割するには

- **[イメージ]** ▶ **[チャンネルの分割]** をクリックし、**カラーモード** をクリックします。



CMYK および Lab カラーモードのイメージは、それぞれオリジナルのコンポーネントチャンネルにのみ分割されます。

カラーチャンネルを使用してイメージに結合するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[チャンネルの結合]** をクリックします。
- 2 **[モード]** で**カラーモード**のオプションを選択します。
- 3 **[チャンネル]** で**チャンネル**のオプションを選択し、**[イメージ]** リストボックスのファイル名をクリックして、チャンネルとファイルを関連付けます。
- 4 **[チャンネル]** のすべてのチャンネルを **[イメージ]** リストボックスのイメージと関連付けるまで、手順 3 を繰り返します。

計算を使用してカラーチャンネルまたはイメージを結合するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[計算]** をクリックします。
- 2 **[ソース 1]** の **[イメージ]** リストボックスからファイル名を選択します。
- 3 **[チャンネル]** リストボックスから**チャンネル**の種類を選択します。
- 4 **[ソース 2]** の **[イメージ]** リストボックスからファイル名を選択します。
- 5 **[チャンネル]** リストボックスから**チャンネル**の種類を選択します。
- 6 **[指定先]** の **[イメージ]** リストボックスからファイル名を、**[チャンネル]** リストボックスから**チャンネル**の種類を選択します。
- 7 **[方法]** のリストボックスから**マージモード**を選択します。
- 8 **[不透明度]** ボックスに値を入力します。



マージモードは、カラーの混合方法を決定します。マージモードについて詳しくは、343 ページの「マージモード」を参照してください。

イメージに**オブジェクト**が含まれる場合、**[計算]** はグレー表示されます。このため、イメージの計算を実行する前に、イメージ内のすべてのオブジェクトをバックグラウンドと結合しておく必要があります。



レンズ

レンズを使用すると、特殊効果、補正、調整を別個のオブジェクトレイヤに表示できます。一部のプログラムにおいて、レンズは調整レイヤとも呼ばれています。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 191 の「レンズを作成する」。
- ページ 192 の「レンズを編集する」。
- ページ 194 の「レンズをイメージバックグラウンドと結合する」。

レンズを作成する

レンズを使用すると、イメージに適用する調整や特殊効果を表示できます。レンズを作成すると、施した変更がイメージのピクセルには適用されず、レンズを通して画面上に表示されます。レンズはイメージのバックグラウンドの上にあるレイヤに別個のオブジェクトとして作成されるので、レンズとバックグラウンド イメージを個別に編集できます。目的の結果が得られたら、レンズをイメージのバックグラウンドと結合できます。イメージをエクスポートまたは印刷する場合、レンズの効果はエクスポートまたは印刷されるイメージに適用されます。

イメージ全体をカバーするレンズを作成することや、マスクの編集領域からレンズを作成することができます。レンズは、1つのイメージに対していくらかでも作成して、それぞれ固有の名前を付けることができます。複数のレンズを使用して、イメージの特定の領域に変更を順番に適用することもできます。

特殊効果の大半が、レンズとしても使用できます。レンズに効果を適用すると、レンズの下にあるすべてのオブジェクトの外観に影響が及ぶのに対し、オブジェクトに非破壊の効果を適用すると、選択したオブジェクトの外観のみに影響が及びます。特殊効果について詳しくは、347 ページの「特殊効果を適用する」を参照してください。



男性の写真は、暗めのイメージから切り出されたイメージ オブジェクトです。レンズが適用されてイメージ オブジェクトが明化されましたが、イメージ オブジェクトまたはバックグラウンドに永続的な変更はなされていません。

レンズを作成するには

- 1 次のいずれかの操作を実行します。
 - イメージを開く — イメージからレンズを作成します。
 - 編集領域を定義する — マスクからレンズを作成します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[作成]** ▶ **[新規レンズ]** をクリックします。
- 3 左側のリストで特殊効果のカテゴリを選択してから、右側のリストで効果をクリックします。
- 4 **[OK]** をクリックします。

ダイアログ ボックスが表示されたら、特殊効果 **フィルタ** の設定を調整します。



レンズを作成すると、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウでオブジェクト名の横にレンズ アイコン  が表示されます。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウで、**[新規レンズ]** ボタン  をクリックして、レンズを作成することもできます。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。

レンズを編集する

作成した**レンズ**は編集できます。たとえば、領域の追加や削除ができます。レンズに適用した特殊効果の設定を調整したり、レンズの**透明度**を変更したりして、イメージに適用する変更を微調整できます。

レンズは、**オブジェクト**を選択して変形する場合と同様に、選択して変形できます。オブジェクトの選択と変形について詳しくは、411 ページの「**オブジェクトを操作する**」および431 ページの「**オブジェクトを変形する**」を参照してください。また、**3D** および**歪曲**カテゴリから破壊的な効果を適用してレンズの形状を変更することもできます。破壊的な効果については詳しくは、352 ページの「**効果を破壊的に適用するには**」を参照してください。

レンズに領域を追加するには

- 1 **選択ツール**  をクリックします。
- 2 **レンズ**を選択します。
- 3 次のいずれかをクリックします。

- ペイント ツール 
- 長方形ツール 
- 楕円形ツール 
- 多角形ツール 
- 直線ツール 

- プロパティ バーで、ツールの属性を指定します。
プロパティ バーの **[新規オブジェクト]** ボタン  がオフになっていることを確認します。
- レンズを追加する領域をドラッグします。



領域をレンズに追加すると、フォアグラウンド カラーや塗りつぶしカラーのグレースケール値はレンズの不透明度に影響します。白はレンズに領域を追加し、黒はレンズ領域を透明にします。詳しくは、259 ページの「透明」を参照してください。

長方形ツール、楕円形ツール、多角形ツール、直線ツールは、デフォルトで新しいオブジェクトを作成します。

レンズから領域を削除するには

- 選択ツール  をクリックします。
- レンズを選択します。
- [消しゴム]** ツール  をクリックします。
- プロパティ バーで、消しゴム ツールの属性を指定します。
- レンズから削除する領域をドラッグします。

レンズに適用された効果の設定を編集するには

- 選択ツール  をクリックします。
- レンズを選択します。
- [オブジェクト]** ▶ **[レンズの編集]** をクリックします。
- 特殊効果フィルタの設定を調整します。



彩度の低減レンズまたは色反転レンズのプロパティは変更できません。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウでオブジェクト名の横のレンズ アイコン  をクリックし、特殊効果フィルタの設定を調整することでも、レンズに適用された効果の設定を編集できます。

レンズの透明度を変更するには

- 選択ツール  をクリックします。
- レンズを選択します。

3 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウの **[不透明度]** ボックスに値を入力します。

[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。



[不透明度] ボックスは、1 ビット モノクロ イメージでは使用できません。

破壊的な効果を使用してレンズの形状を変更するには

- 1 選択ツール  をクリックします。
- 2 **レンズ**を選択します。
- 3 **[効果]** をクリックし、**[3D]** および **[歪曲]** カテゴリから効果をクリックします。
- 4 特殊効果 **フィルタ** の設定を指定します。

レンズをイメージ バックグラウンドと結合する

レンズ調整と特殊効果をイメージの **ピクセル** に適用するには、レンズとイメージ バックグラウンドを結合します。レンズをイメージ バックグラウンドと結合すると、イメージのファイル サイズが減少し、イメージを非ネイティブのファイル形式で保存できます。イメージを Corel PHOTO-PAINT ファイルとして保存する場合は、レンズがイメージと共に保存され、結合の必要はありません。イメージ バックグラウンドと結合されたレンズは選択も変更もできません。

レンズをイメージ バックグラウンドと結合する際には、**マージ モード** を選択して結果を強調できます。マージ モードについては詳しくは、343 ページの「**マージ モード**」を参照してください。

レンズをイメージ バックグラウンドと結合するには

- 1 選択ツール  をクリックします。
- 2 **レンズ**を選択します。
- 3 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、**[マージ モード]** リスト ボックスからマージ モードを選択します。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。
- 4 **[オブジェクト]** ▶ **[結合]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **[選択オブジェクトのバックグラウンド結合]** — 選択したレンズをイメージ バックグラウンドと結合します。
 - **[全オブジェクトのバックグラウンド結合]** — 選択したレンズとその他すべての **オブジェクト** をイメージ バックグラウンドと結合します。



イメージ領域を変形する

液体ツールは、特定のイメージ領域を変形し、イメージの他の部分は変更せずに保存します。変形の効果は、微妙に、または明瞭にできます。液体ツールは、イメージのレタッチや芸術的な効果を生み出すために理想的なものです。

液体ツールは、ツールボックスおよび **[液体ツール]** ツールバーからアクセスできます (**[ウインドウ]** ▶ **[ツールバー]** ▶ **[液体ツール]**)。

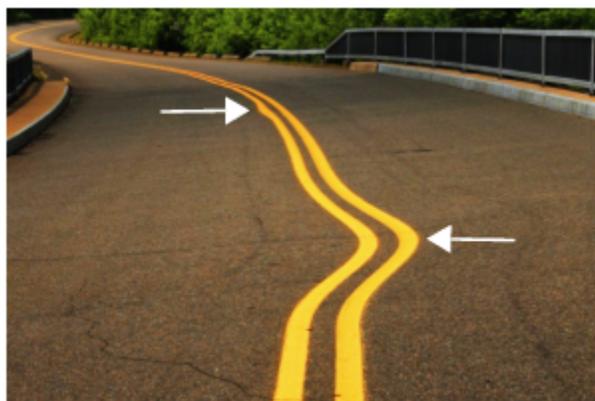
このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 195 の「イメージ領域を塗り付ける」。
- ページ 196 の「旋回効果を追加する」。
- ページ 197 の「ピクセルを引き付け/押し出して、イメージ領域を変形する」。

イメージ領域を塗り付ける

塗り付けツールは、特定のイメージ領域を塗り付け、イメージの他の部分は変更せずにそのまま保持します。ウェットペイントで領域をドラッグする効果に似ています。

塗り付け効果を制御するために、ペン先のサイズと適用する効果の大きさを設定できます。また、スタイラスペンの圧力を使用できます。塗り付け効果はペン先、または丸型にすることができます。



微妙な (上部)、およびより明瞭な (中間) 効果を施した塗り付けイメージ領域

イメージ領域を塗り付けるには

- 1 ツールボックスの塗り付けツール  をクリックします。
- 2 塗り付けする領域をドラッグします。

可能な操作

ブラシのペン先のサイズを設定する

プロパティ バーの **[ペン先のサイズ]** ボックスに値を入力します。

ブラシのペン先のサイズを変更するには、**Shift** キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることもできます。ペン先の中心に向かってドラッグすると半径が減少し、ペン先の中心から遠ざかる方向にドラッグすると半径が増加します。

塗り付け量を設定する

プロパティ バーの **[圧力]** ボックスに値を入力します。

Alt キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることにより、塗り付け量も調整できます。

丸型の塗り付けを作成する

プロパティ バーの **[スムーズ塗り付け]** ボタン  をクリックします。

ペン先塗り付けを作成する

プロパティ バーの **[ペン先塗り付け]** ボタン  をクリックします。

スタイラスペンの圧力を使用して塗り付け量を制御する

プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。



スムーズ塗り付けとペン先塗り付けの違いがはっきり分かるのは、**[圧力]** の値が高い場合のみです。

旋回効果を追加する

イメージ領域から旋回効果を作成できます。旋回効果をカスタマイズするには、ペン先のサイズ、効果を適用する速度、および旋回方向を変更します。デジタル ペンの圧力を使用して、旋回効果の強度を指定できます。



異なるペン先サイズの値と方向による旋回効果

旋回効果を追加するには

- 1 ツールボックスの旋回ツール  をクリックします。
- 2 イメージをクリックし、旋回が目的のサイズになるまでマウス ボタンを押したままにします。
旋回的位置と形状を変更するには、マウス ボタンを押しながらドラッグします。

可能な操作

ブラシのペン先のサイズを設定する

プロパティ バーの **[ペン先のサイズ]** ボックスに値を入力します。

ブラシのペン先のサイズを変更するには、**Shift** キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることもできます。ペン先の中心に向かってドラッグすると半径が減少し、ペン先の中心から遠ざかる方向にドラッグすると半径が増加します。

旋回効果の適用速度を設定する

プロパティ バーの **[比率]** ボックスに、1~100 の値を入力します。

Alt キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることにより、速度も調整できます。

旋回効果の方向を設定する

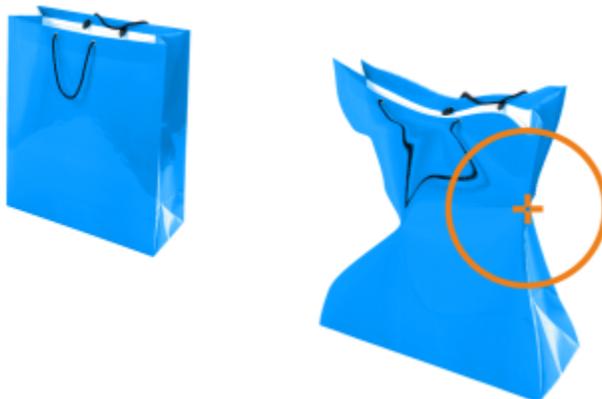
プロパティ バーで、**[反時計回りの旋回]** ボタン  または **[時計回りの旋回]** ボタン  をクリックします。

スタイラスペンの圧力を使用して旋回効果の強度を制御する

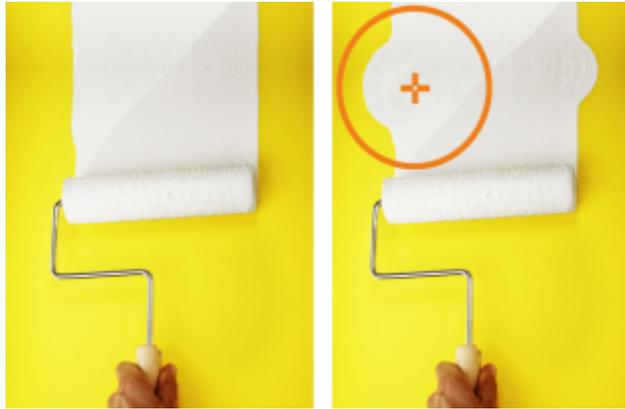
プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。

ピクセルを引き付け/押し出して、イメージ領域を変形する

引き付けおよび反発ツールは、ピクセルを引き付けたり、押し出したりしてイメージ領域を整形します。整形効果を制御するために、ブラシのペン先のサイズ、およびピクセルの引き付け速度や反発速度を変化させることができます。また、デジタル ペンの圧力を使用できます。



引き付けツールを使用したイメージ領域の変形



反発ツールを使用したイメージ領域の変形

ピクセルを引き付けて、または押し出してイメージ領域を変形するには

- 1 ツールボックスで、次のいずれかのツールをクリックします。
 - 引き付け 
 - 反発 
- 2 イメージをクリックして、マウス ボタンを押したままドラッグします。

可能な操作

ブラシのペン先のサイズを設定する

プロパティ バーの **[ペン先のサイズ]** ボックスに値を入力します。

ブラシのペン先のサイズを変更するには、**Shift** キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることもできます。ペン先の中心に向かってドラッグすると半径が減少し、ペン先の中心から遠ざかる方向にドラッグすると半径が増加します。

効果の速度を設定する

プロパティ バーの **[レート]** ボックスに値を入力します。

Alt キーを押しながらイメージ ウィンドウ内をドラッグすることにより、速度も調整できます。

スタイラスペンの圧力を使用して効果を制御する

プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。

カラー、塗りつぶし、および透明

カラー.....	201
カラー モード.....	221
カラー マネージメント.....	229
塗りつぶし.....	247
透明.....	259
塗りつぶしや透明を検索、管理、保存する.....	271



カラー

Corel PHOTO-PAINT では、多様な業界標準のカラーパレット、カラーミキサー、およびカラーモデルを使用して、カラーを選択し作成することができます。イメージパレットを使用したり、カスタムカラーパレットを作成および編集して、よく使用されるカラーを将来使用するために保存できます。

画面上のカラーパレットの外観をカスタマイズして変更することができます。カラーボックスの大きさ、行数、およびその他のプロパティを変更できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 201 の「カラーモデル」。
- ページ 203 の「カラー深度」。
- ページ 204 の「カラーを選択する」。
- ページ 210 の「イメージパレット」。
- ページ 212 の「カラーパレットを作成/編集する」。
- ページ 216 の「カラーパレットを表示または非表示にする」。
- ページ 217 の「カラーパレットプロパティを設定する」。
- ページ 218 の「スポットカラーチャンネル」。

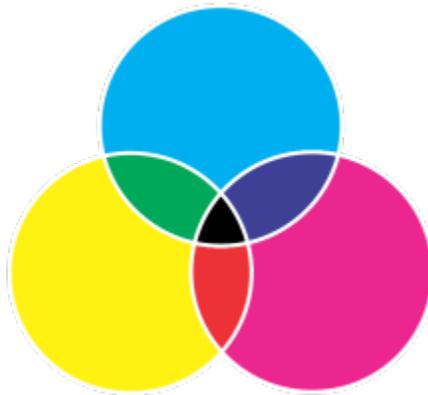
カラーモデル

カラーモデルは、カラーを定義する正確な方法を提供し、各モデルでは特定のカラーコンポーネントを使用してカラーを定義します。グラフィックの作成時には、次のカラーモデルから選択できます。

CMYK カラーモデル

CMYK カラーモデルは印刷に使用され、シアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、および黒 (K) のコンポーネントを使ってカラーを定義します。これらのコンポーネントの値は 0~100 の範囲となり、パーセントで表されます。

CMYK などの減算カラーモデルでは、カラー (すなわちインク) は白い用紙などの表面に加えられます。さらに、カラーは表面の輝度を「減じ」ます。各カラーコンポーネント (C、M、Y) の値が 100 の場合は、結果のカラーは黒になります。各コンポーネントの値が 0 の場合には、カラーは表面に付加されないため、表面自体の色 (この場合は、白い紙) になります。印刷のカラーモデルには黒 (K) が含まれています。これは、黒インクはより中立的であり、同量のシアン、マゼンタ、イエローを混ぜるより、より黒い発色が得られるためです。黒インクは特に文字を印刷する場合に、より鮮明な結果が得られます。また、黒インクは通常、カラーインクより安価です。

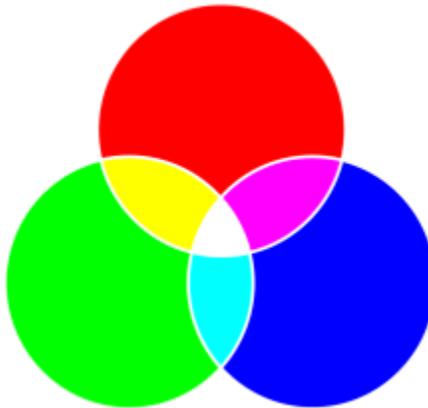


黒は、CMY の 3 色を最高の強度で混合すると生成されます。

RGB カラー モデル

RGB カラー モデルは赤 (R)、緑 (G)、青 (B) のコンポーネントを使用して、特定の色の赤、緑、青の光の量を定義します。24 ビット イメージでは、各コンポーネントは 0 ~ 255 の数値として表されます。48 ビット イメージなど、よりビット レートが高いイメージでは、値の範囲は大きくなります。これらコンポーネントの組み合わせは、1 つのカラーとして定義されます。

RGB などの加算型カラー モデルでは、カラーは透過光から生み出されます。そのため RGB はモニターで使用され、赤、青、緑の各光をさまざまに混合して、広範囲なカラーが再現されます。赤、青、緑の光がそれぞれの最大強度で混合されると、眼は生じた色を白として知覚します。理論的には、これらのカラーは赤、緑、青のままですが、モニター上のピクセルは密集しているため、眼には 3 つのカラーが識別できません。各コンポーネントの値が 0 の場合は、光が存在しないことを意味し、眼はカラーを黒として知覚します。



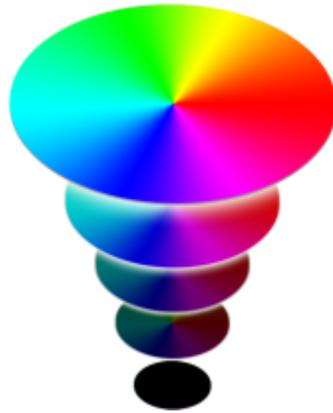
白は、RGB の 3 色を最大の強度で混合すると生成されます。

RGB は最も一般的に使用されるカラー モデルです。これは、広範囲なカラーを保存および表示できるためです。

HSB カラー モデル

HSB カラー モデルでは、色相 (H)、彩度 (S)、輝度 (B) のコンポーネントを使用してカラーを定義します。HSB は HSV (色相 (Hue)、彩度 (Saturation)、明度 (Value)) とも呼ばれます。色相はカラーの色素を定義し、標準カラー ホイール上の場所を示すために度数で表されます。たとえば、赤は 0 度、黄は 60 度、緑は 120 度、シアンは 180 度、青は 240 度、マゼンタは 300 度です。

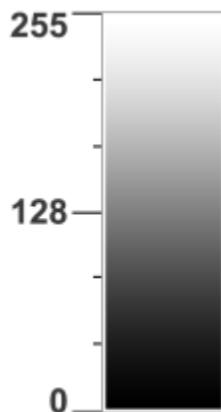
彩度は、カラーの鮮やかさまたは鈍さを表します。彩度の値は 0~100 の範囲となり、パーセントで表されます (値が大きくなると、カラーの鮮やかさが増します)。輝度はカラーでの白の量を表します。彩度の値と同様に、輝度の値は 0~100 の範囲となり、パーセントで表されます (値が大きくなると、カラーの輝度が増します)。



HSB カラー モデル

グレースケール カラー モデル

グレースケール カラー モデルでは、明度のみを使用してカラーを定義し、0 ~ 255 の範囲の値で表します。各グレースケール カラーには、RGB カラー モデルの赤、緑、青のコンポーネントと同等の値が含まれます。カラー フォトをグレースケールに変更すると、モノクロのフォトが生成されます。



グレースケール カラー モデル

カラー深度

カラー深度は、イメージに含めることのできる最大カラー数を指します。カラー深度は、イメージのビット深度 (ビットマップ内の各ピクセルのシェードまたはカラーを定義するバイナリ ビットの数) で決定されます。たとえば、ビット深度が 1 のピクセルは、黒と白の 2 値を持つことができます。ビット深度が大きいほど、イメージに取り込めるカラーが多くなり、カラー表現の精度が向上します。たとえば、8 ビット GIF イメージには 256 カラーまでしか取り込めないのに対し、24 ビット JPEG イメージには約 1600 万カラーを取り込むことが可能です。

RGB、グレースケールおよび CMYK イメージには通常、カラー チャンネルあたり 8 ビットのデータが含まれています。この理由から多くの場合、RGB イメージは 24 ビット RGB (8 ビット x 3 チャンネル) と呼ばれ、グレースケール イメージは 8 ビット グレースケール (8 ビット x チャンネル) と呼ばれ、CMYK イメージは 32 ビット CMYK (8 ビット x 4 チャンネル) と呼ばれています。

画面に表示されるイメージは、イメージに含まれるカラー数に関係なく、イメージが表示されるモニターでサポートされているカラー数の制限を受けます。たとえば、8 ビット モニタの場合、24 ビット イメージに表示できるカラー数が 256 カラーまでに制限されません。

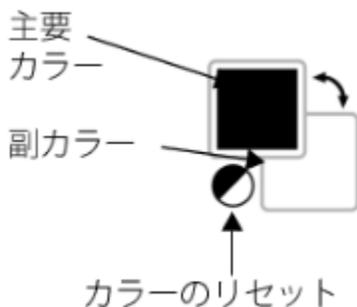
カラーを選択する

カラー コントロール、[カラー パレット](#)、カラー ビューア、カラーの調和、またはカラー ブレンドからカラーを選択するか、イメージのカラーをサンプリングすると、主要なカラーと二次的なカラーを選択できます。

選んだカラーを適用するには、247 ページの「標準塗りつぶし」、325 ページの「描画とペイント」、および411 ページの「オブジェクトを操作する」を参照してください。

カラー コントロール領域

カラー コントロール領域では、選択している主要なカラーと二次的なカラーを表示し、新しい色を選択できます。主要なカラーは、全ペイント ツールおよび最初に入力するテキストのカラーとして使用されます。副カラーは、**消しゴム** ツールを使用してバックグラウンド領域を削除する場合に表示されます。



デフォルトのカラー パレット

[カラー パレット](#)は、複数のカラー ボックスから構成されています。一部のプログラムでは、カラー パレットは「スウォッチ パレット」と呼ばれています。

Corel PHOTO-PAINT では、デフォルトのカラー パレットはイメージのカラー モードに基づきます。たとえば、CMYK イメージを開く場合は、CMYK パレットがイメージ ウィンドウに表示され、パレット イメージを開く場合は、RGB パレットがイメージ ウィンドウに表示されます。

デフォルトのカラー パレットを使用して主要なカラー、二次的なカラー、および塗りつぶしのカラーを選択できます。デフォルトのカラー パレットには、[RGB カラー モデル](#)のカラーがあります。

イメージ パレット

新規のイメージを作成すると、イメージ パレットと呼ばれる空のパレットが自動的に生成されます。将来の使用のためにこれを保存しておくと、使用するカラーを把握する上で役立ちます。詳しくは、210 ページの「[イメージ パレット](#)」を参照してください。

パレット ライブラリとカスタム カラー パレット

パレット ライブラリにあるカラー パレットは直接編集することはできません。これらの一部、たとえば、[PANTONE](#)、HKS Colors、および TRUMATCH などは、サードパーティのメーカーにより提供されています。メーカーのスワッチブック (色見本帳) を手元に置いておくと便利な場合があります。スワッチブックとは、各カラーがどのように印刷されるかを示すカラー サンプル集です。

パレット ライブラリにある一部のパレット — PANTONE、HKS Colors、TOYO、DIC、Focoltone および SpectraMaster など — は、[スポット カラー](#)のコレクションです。印刷する際にカラー分解を行う場合は、各スポット カラーごとに別個の刷版が必要であり、印刷コストに相当な影響を与える可能性があります。カラー分解を使用し、スポット カラーの使用を避けたい場合は、印刷する際にスポット カラーをプロセスカラーに変換できます。詳しくは、524 ページの「[カラー分解](#)」を参照してください。

カスタム カラー パレットには、スポット カラー パレットなど、パレット ライブラリのパレットを含む任意のカラー モデルのカラーを含めることができます。また、カスタム カラー パレットを保存して再利用することができます。カスタム カラー パレットの使用についての詳細は、212 ページの「[カラー パレットを作成/編集する](#)」を参照してください。

カラーをサンプリングする

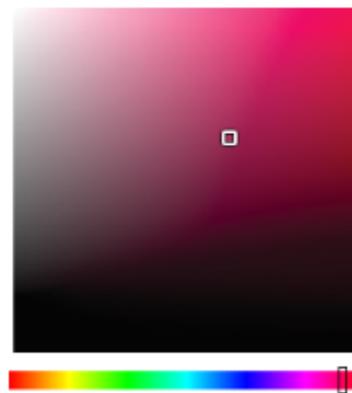
オブジェクトまたはイメージに含まれているカラーを使用する場合は、そのカラーをサンプリングして完全に同じ色を再現できます。デフォルトでは、イメージ ウィンドウの 1 つのピクセルをサンプリングできます。

フォトでは、均一カラーのように見える部分但实际上にはわずかにシェーディングやディザを含んでいることがあります。この場合、より大きなサンプル領域を指定して、複数のピクセルのカラーを平均化することができます。サンプル領域は、3 × 3 ピクセルに設定することができます。高解像度イメージの場合は、5 × 5 ピクセルに設定することもできます。選択した領域に含まれるピクセルからサンプリングすることもできます。

イメージ ウィンドウのさまざまなカラーをサンプリングして使用するために、カスタム カラー パレットに保存しておくことができます。カスタム カラー パレットについて詳しくは、212 ページの「カラー パレットを作成/編集する」を参照してください。

カラー ビューア

カラー ビューアは、1D または 3D 図形のいずれかを使用してカラーの範囲を表現します。デフォルトのカラー ビューアは HSB カラー モデルに基づきますが、このビューアを使用して、CMYK、CMY、または RGB カラーを選択できます。カラー モデルについて詳しくは、201 ページの「カラー モデル」を参照してください。



カラー ビューアの例

Web カラーを選択する

Web に書き出すドキュメントをデザインする場合は、Web カラーを使用できます。Corel PHOTO-PAINT では、RGB の 16 進数値 (例、#aa003f など) を使用して Web カラーを指定できます。

再現範囲外のカラー

プリンタの再現範囲外のカラーを選択した場合に、Corel PHOTO-PAINT でそのカラーをプリンタの再現範囲内の類似のカラーで置き換えることができます。

カラー コントロールを使用してカラーを選択するには

- 1 ツールボックスのカラー コントロールで、次のいずれかをダブルクリックします。
 - [主要] カラー ボックス 
 - [二次的] カラー ボックス 
- 2 カラー スライダを調整して、カラー 選択領域に表示されるカラー範囲を設定します。
- 3 カラー 選択領域をクリックしてカラーを選択します。

可能な操作

カラー ボックスをデフォルトのカラーに戻す

[カラーのリセット] アイコン  をクリックします。主要なカラーは黒、二次的なカラーは白に戻ります。

主要なカラーと二次的なカラーを切り替える

カラー コントロールの右上隅の矢印  をクリックします。



[カラー] ドッキング ウィンドウを使用して、主要カラーと副カラーを選択することもできます。[カラー] ドッキング ウィンドウを開くには、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [カラー] をクリックします。

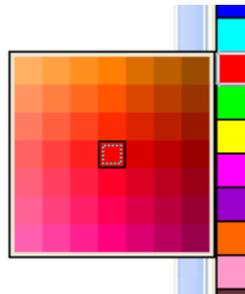
デフォルトのカラー パレットを使用して、カラーを選択するには

目的	作業手順
主要なカラーを選択する	カラー ボックスをクリックします。
二次的なカラーを選択する	Ctrl キーを押しながら、カラー ボックスをクリックします。
塗りつぶしカラーを選択する	カラー ボックスを右クリックします。



カラー ボックスにポインタを合わせると、カラーの名前が表示されます。

[カラー] ドッキング ウィンドウを使用して、腫瘍なカラーと二次的なカラーを選択することもできます。[カラー] ドッキング ウィンドウを開くには、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [カラー] をクリックします。



ポップアップ カラー パレットの例

カラー パレットを使用してカラーを選択するには

- 1 ツールボックスのカラー コントロールで、次のいずれかをダブルクリックします。
 - [主要] カラー ボックス 
 - [二次的] カラー ボックス 
- 2 [カラー パレット] オプションを有効にします。
- 3 [パレット] リスト ボックスからカラー パレットを選択します。

- 4 カラー スライダを調整して、カラー選択領域に表示されるカラー範囲を設定します。
- 5 カラー選択領域のカラーをクリックします。

可能な操作

カラーの入れ替え

[カラー] ドッキング ウィンドウで、[オプション] ▶ [カラーの入れ替え] をクリックします。[旧カラー] (現在の主要なカラーまたは二次的なカラー) と [新規カラー] (カラー選択領域で選択されたカラー) が入れ替わります。



カラーパレット上の各スポット カラー ボックスには、小さな白い四角形のマーク が付いています。

プリンタの再現範囲外のカラーを選択した場合に、Corel PHOTO-PAINT でそのカラーをプリンタの再現範囲内の類似のカラーで置き換えることができます。詳しくは、209 ページの「再現範囲外のカラーを再現可能なカラーに置き換えるには」を参照してください。カラー補正について詳しくは、229 ページの「カラー マネージメント」を参照してください。

イメージで使用するすべてのカラーには同じカラー モデルを使用してください。カラーの一貫性が保たれ、最終出力におけるカラーをより正確に予測できます。正確なカラーの再現について詳しくは、229 ページの「カラー マネージメント」を参照してください。



[カラー パレットを表示] ボタン  をクリックして、リスト ボックスからパレットを選択しても、[カラー] ドッキング ウィンドウのカラー パレットにアクセスできます。[カラー] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [カラー] をクリックします。

カラーをサンプリングするには

- 1 スポイト ツール  をクリックします。
- 2 イメージをクリックして、主要なカラーを選択します。
サンプルのデフォルトのサイズは 1 ピクセルです。

可能な操作

サンプルのサイズを大きくする

プロパティ バーの [スポイト 3 X 3] ボタン  をクリックします。

解像度が高いイメージで、サンプルのサイズを大きくする

プロパティ バーの [スポイト 5 X 5] ボタン  をクリックします。

選択した領域からカラーをサンプリングする

プロパティ バーの [サンプリングの選択] ボタン  をクリックし、イメージ ウィンドウでドラッグして領域を選択します。

二次的なカラーを選択する

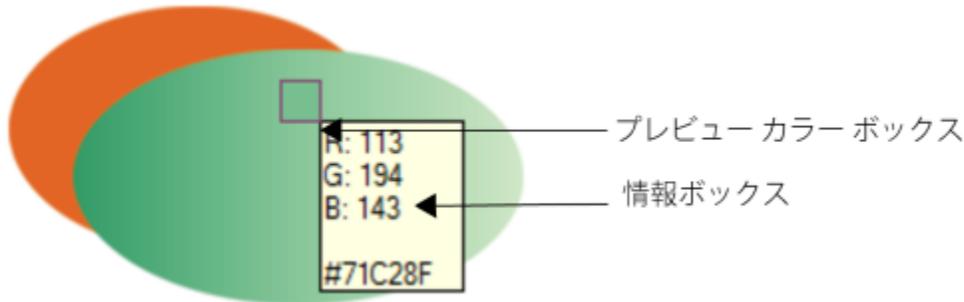
Ctrl を押しながら、イメージをクリックします。

塗りつぶしカラーを選択する

イメージを右クリックします。



イメージ ウィンドウでは、**スポイト** ツールとともにプレビュー カラー ボックスが表示され、情報ボックスの横にはカラー モデル コンポーネント値が表示されます。RGB カラーをサンプリングすると、情報ボックスにも 16 進数値が含まれます。



O キーを押して**スポイト** ツールを起動することもできます。その前に選択していたツールに戻るには、**スペース キー**を押してください。

[イメージ情報] ドッキング ウィンドウで、イメージに含まれるピクセルのカラー モデル コンポーネント値 (RGB イメージに含まれるピクセルの赤、緑、青の各コンポーネント値またはその 16 進数カラー値など) を参照することもできます。**[イメージ情報]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [情報]** をクリックします。

カラー ビューアを使用して塗りつぶしカラーを選択するには

- 1 ツールボックスのカラー コントロールで、次のいずれかをダブルクリックします。
 - **[主要] カラー ボックス** 
 - **[二次的] カラー ボックス** 
- 2 **[カラー モデル]** リスト ボックスからカラー モデルを選択します。
- 3 **[カラー ビューア]** リスト ボックスからカラー ビューアを選択します。
- 4 カラー スライダを調整します。
- 5 カラー 選択領域のカラーをクリックします。

可能な操作

イメージからカラーをサンプリングする

スポイト ツール  をクリックし、イメージまたはデスクトップをクリックします。

カラーの入れ替え

[カラー] ドッキング ウィンドウで **[オプション]** をクリックし、**[カラーの入れ替え]** を選択します。**[旧カラー]** (現在の主要なカラーまたは二次的なカラー) と **[新規カラー]** (カラー 選択領域で選択されたカラー) が入れ替わります。



プリンタの再現範囲外のカラーを選択した場合に、Corel PHOTO-PAINT でそのカラーをプリンタの再現範囲内の類似のカラーで置き換えることができます。詳しくは、209 ページの「再現範囲外のカラーを再現可能なカラーに置き換えるに

は」。を参照してください。カラー補正について詳しくは、229 ページの「カラー マネージメント」。を参照してください。

イメージで使用するすべてのカラーに同じカラー モデルを使用してください。カラーの一貫性が保たれ、最終出力におけるカラーをより正確に把握できます。最終出力では、描画で同じカラー モデルを使用することをお勧めします。



塗りつぶしカラーを選択するには、カラー コントロール領域で **[主要なカラー]** ボックス  をダブルクリックします。**[塗りつぶしの選択]** ダイアログ ボックスで **[標準塗りつぶし]** ボタン  をクリックし、**[編集]** をクリックします。

[オプション] ▶ **[カラーの入れ替え]** をクリックすると、**[旧カラー]** (現在の主要なカラーまたは二次的なカラー) と **[新規カラー]** (カラー選択領域で選択されたカラー) を入れ替えることができます。

また、**[カラー ビューアを表示]** ボタン  をクリックして、リスト ボックスからカラー モデルを選択すると、**[カラー]** ドッキング ウィンドウでカラー モデルにアクセスできます。**[カラー]** ドッキング ウィンドウ が開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [カラー]** をクリックします。

Web カラーを選ぶには

- 1 **[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [カラー]** をクリックします。
- 2 **[カラー]** ドッキング ウィンドウで、**[副]** カラー ボックス  または **[主要]** カラー ボックス  をクリックし、リストから **[デフォルト RGB パレット]** を選択します。
- 3 **[16 進値]** ボックスに値を入力または貼り付けます。
3 桁形式 (#fff) または 6 桁形式 (#ffffff) を使用するかどうかにかかわらず、最終値は 6 桁形式で表示されます。



16 進値の指定は、RGB カラーを使用している場合にのみ指定できます。

無効な 16 進値を入力した場合は、カラーは変わりません。

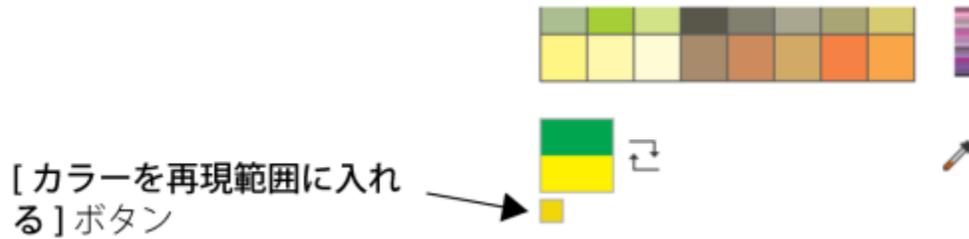
16 進カラー値は、ステータス バーに表示できます。



[主要カラー]、**[副カラー]**、または **[標準塗りつぶし]** ダイアログ ボックスからでも Web カラーを選択できます。また、これらのダイアログ ボックスで、非 RGB カラーの 16 進同等値の表示やコピーもできます。

再現範囲外のカラーを再現可能なカラーに置き換えるには

- 1 ツールボックスのカラー コントロールで、次のいずれかをダブルクリックします。
 - **[主要]** カラー ボックス 
 - **[二次的]** カラー ボックス 
- 2 カラーを選択します。
- 3 カラーが再現範囲外の場合は **[カラーを再現範囲に入れる]** ボタンが表示され、新たに選択されたカラーに似ていて、かつプリンタの再現範囲に入るカラーが示されます。ボタンをクリックします。
新しいカラーが置き換えられ、**[カラーを再現範囲に入れる]** ボタンは非表示になります。



イメージパレット

新しいイメージを作ると、イメージパレットと呼ばれる空のカラーパレットが開き、イメージウィンドウの左下隅にドッキングされます。イメージで何らかのカラーを使うたびに、そのカラーがイメージパレットに自動的に追加されていきます。ただし、イメージパレットに追加されるカラーを管理する場合は、自動更新を無効にして、カラーを手動で追加できます。

カラーを手動で追加する場合は、カラーをカラーパレット、そのイメージ、またはカラーピッカーから選択できます。また、カラーをインポートしたイメージやオブジェクトから追加することもできます。



オブジェクトをイメージパレットにドラッグしてカラーを追加します。

イメージパレットに含まれている望ましくないカラーや不要なカラーを消去するには、個別に削除するか、パレットを更新して使わないカラーを一度にまとめて削除します。

Corel PHOTO-PAINT の以前のバージョンで作成されたイメージを開いた場合、イメージパレットにはいずれのカラーも表示されません。ただし、イメージ全体、編集可能領域、または選択したオブジェクトからカラーを追加すると、簡単にイメージパレットを作成できます。

イメージパレットは非表示にもできます。

イメージパレットの表示/非表示を切り替えるには

- **[ウィンドウ] ▶ [カラーパレット] ▶ [イメージパレット]** をクリックします。
イメージパレットは、アプリケーションウィンドウの左下隅にあります。



イメージパレットを非表示にしても、カラーの自動追加は無効になりません。

イメージパレットへのカラーの自動追加を無効にするには

- イメージパレットの左上隅にあるフライアウトボタン  をクリックし、[パレット] ▶ [カラーの自動追加] をクリックします。



また、カラーの自動追加機能を無効にするには、[ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックし、表示されたダイアログボックスの左側のペインで [カラーパレット] をクリックし、[イメージパレットを自動的に更新] チェックボックスをオフにします。

イメージパレットにカラーを追加するには

目的	作業手順
イメージからすべてのカラーを追加する	イメージパレット左隅のフライアウトボタンをクリックし、[パレット] ▶ [イメージからカラーを追加] をクリックします。
イメージからすべてのカラーを追加する	イメージパレットで スポイト ツールをクリックし、イメージをクリックします。
イメージから複数のカラーを追加する	イメージパレットで スポイト ツールをクリックし、 Ctrl キーを押しながら、必要なカラーが追加されるまでイメージをクリックします。
ドラッグしてオブジェクトからカラーを追加する	オブジェクトをイメージパレットにドラッグします。
編集領域からカラーを追加する	編集領域 を定義します。イメージパレット左上隅のフライアウトボタンをクリックし、[パレット] ▶ [表示からカラーを追加] をクリックします。
1 つまたは複数のオブジェクトからカラーを追加する	1 つまたは複数のオブジェクトを選択します。イメージパレット左隅のフライアウトボタンをクリックし、[パレット] ▶ [オブジェクトからカラーを追加] をクリックします。



PostScript 塗りつぶしのカラーはサポートされていません。



スポイト ツールを選択解除するには、**Esc** キーを押します。

カラー ボックスを新しい位置にドラッグすると、カラー ボックスを移動できます。

イメージパレットからカラーを削除するには

- 1 イメージパレットでカラー ボックスをクリックします。
- 2 イメージパレット左隅のフライアウト ボタン  をクリックし、**[カラーの削除]** をクリックします。

使用されていないすべてのカラーをイメージパレットから削除するには

- イメージパレット左隅のフライアウト ボタン  をクリックし、**[パレット]** ▶ **[更新]** をクリックします。

カラーパレットを作成/編集する

カスタムカラーパレットは、ユーザーが保存したカラーまたはカラースタイルで構成されます。これらには、スポットカラーなどの任意のカラーモデルや、パレットライブラリにある任意のカラーパレットのカラーまたはカラースタイルを含めることができます。現在または将来のプロジェクトに必要なすべてのカラーまたはカラースタイルを保存するカスタムパレットを作成できます。

カラーパレットを他の人と簡単に共有できます。カラーパレットには、**[パレット]** ドッキングウィンドウの**[マイパレット]** フォルダからアクセスできます。

カスタムカラーパレットを作成するには、個々のカラーを選択するか、**オブジェクト**、**編集領域**、またはイメージ全体でカラーを使用します。また、カスタムスポットカラーをカスタムパレットに追加することも可能です。また、カスタムカラーパレットの編集、名前変更、削除が行えます。

カスタムカラーパレットは、.XML ファイルとして保存され、**Documents¥Corel¥Corel Content¥Palettes** フォルダに入ります。

カスタムカラーパレットをゼロから作成するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[カラーパレット]** ▶ **[パレットエディタ]** をクリックします。
- 2 **[新規パレット]** ボタンをクリックします。
- 3 ボックスにファイル名を入力します。
- 4 **[保存]** をクリックします。
- 5 **[パレットエディタ]** ダイアログボックスで、**[カラーの追加]** をクリックします。
- 6 **[カラーの選択]** ダイアログボックスで目的のカラーを選択して、**[OK]** をクリックします。

可能な操作

スポットカラーとしてカラーを処理する

[パレットエディタ] ダイアログボックスの**[選択したカラー]** 領域で、**[処理方法]** リストから**[スポット]** を選択します。

プロセスカラーとしてカラーを処理する

[パレットエディタ] ダイアログボックスの**[選択したカラー]** 領域で、**[処理方法]** リストから**[プロセス]** を選択します。

カラーの名前を変更する

[パレットエディタ] ダイアログボックスで、カラー選択領域でカラーをクリックし、**[名前]** ボックスに名前を入力します。



イメージをイメージパレットにドラッグすると、5つの主要なカラーのみが追加されます。PostScript 塗りつぶしのカラーはサポートされていません。

編集領域からカラーパレットを作成するには

- 1 編集領域を定義します。
- 2 [ウィンドウ] ▶ [カラーパレット] ▶ [表示からパレットを作成] をクリックします。
- 3 [パレットに名前を付けて保存]  をクリックします。
- 4 ファイル名を入力します。
- 5 [保存] をクリックします。



編集領域の定義について詳しくは、281ページの「編集領域を定義する」を参照してください。

イメージからカラーパレットを作成するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [カラーパレット] ▶ [ドキュメントからパレットを作成] をクリックします。
- 2 ファイル名を入力します。
- 3 [保存] をクリックします。

カスタムカラーパレットを編集するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [カラーパレット] ▶ [パレットエディタ] をクリックします。
- 2 リストボックスからパレットを選択します。
- 3 次の表のタスクを1つ実行します。

目的	作業手順
カラーを追加する	[カラーの追加] をクリックします。[カラーの選択] ダイアログボックスで、[モデル] タブをクリックします。カラー選択領域でカラーをクリックし、[パレットに追加] をクリックします。
スポットカラーとしてカラーを処理する	[パレットエディタ] ダイアログボックスの [選択したカラー] 領域で、[処理方法] リストから [スポット] を選択します。
プロセスカラーとしてカラーを処理する	[パレットエディタ] ダイアログボックスの [選択したカラー] 領域で、[処理方法] リストから [プロセス] を選択します。
カラーを変更する	カラー選択領域で、カラーをクリックし、[カラーの編集] をクリックします。[カラーの選択] ダイアログボックスのカラー選択領域で新しいカラーをクリックします。
カラーを削除する	カラー選択領域で、カラーをクリックし、[カラーの削除] をクリックします。

目的	作業手順
カラーを並べ替える	[カラーのソート] をクリックし、カラーを並べる方法を選択します。
カラーを移動する	カラー ボックスを新しい位置にドラッグします。
カラーの名前を変更する	カラー選択領域でカラーをクリックし、 [名前] ボックスに名前を入力します。



Shift キーまたは **Ctrl**キーを押しながら、削除するカラーをクリックし、さらに **[カラーの削除]** をクリックすると、複数のカラーを削除できます。

カスタム カラー パレットの前を変更するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[カラー パレット]** ▶ **[パレット]** をクリックします。
- 2 **[マイ パレット]** フォルダから、カスタム **パレット** を二度 クリックします。
- 3 新しい名前を入力して、**Enter**キーを押します。

カスタム カラー パレットを削除するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[カラー パレット]** ▶ **[パレット]** をクリックします。
- 2 **[マイ パレット]** フォルダから、カスタム **パレット** を 右クリックして、**[削除]** をクリックします。

カラー パレットの表示と整理

[パレット] ドッキング ウィンドウは、イメージ パレット、カラー スタイル パレットなどの使用可能なカラー パレットに素早くアクセスして、カスタム カラー パレットを作成できるドッキング ウィンドウです。**[パレット]** ドッキング ウィンドウ のカラー パレットは、**マイ パレット** および **パレット ライブラリ** の 2 つの主要フォルダで構成されています。

[マイ パレット] フォルダは、作成したすべてのカスタム パレットを保存するために使用できます。フォルダを追加して、異なるプロジェクトのカラー パレットを保存および整理できます。また、カラー パレットをコピーする、または別のフォルダに移動することができます。すべてのカラー パレットを開いて、その表示を制御できます。

[パレット] ドッキング ウィンドウの **[パレット ライブラリ]** フォルダには、プリセット カラー パレットのコレクションが入っており、そこからカラーを選択できます。パレット ライブラリにあるカラー パレットはいずれも編集できません。ただし、カラー パレットを **[パレット ライブラリ]** フォルダからコピーすると、カスタム カラー パレットを作成できます。詳しくは、[216 ページの「カラー パレットを表示または非表示にする」](#) を参照してください。

[パレット]を開くには

- **[ウィンドウ]** ▶ **[カラー パレット]** ▶ **[パレット]** をクリックします。

カスタム カラー パレットを切り取り/コピーするには

- 1 **[パレット]** ドッキング ウィンドウを開きます。

2 [マイパレット] フォルダで、カスタムパレット名の横のチェックボックスをオンにします。

カスタムカラーパレットをデフォルトのパレットとして設定する場合は、カスタムパレットフライアウトボタン  をクリックし、[デフォルトに設定] をクリックします。

カスタムカラーパレットを開くには

- 1 [パレット] ドッキングウィンドウを開きます。
- 2 [パレットを開く] ボタン  をクリックします。
- 3 カスタムカラーパレットが保存されているドライブとフォルダを選択します。
旧バージョンの Corel PHOTO-PAINT で作成されたカラーパレット (.cpl ファイル) を開く場合は、[ファイルの種類] リストボックスから [従来のカスタムパレット] を選択します。
- 4 カスタムパレットをクリックします。
- 5 [開く] をクリックします。



従来のカスタムパレット (.cpl) ファイルを開くと、自動的に XML 形式 (.xml) に変換されます。XML バージョンは Documents¥Corel¥Corel Content¥Palettes フォルダに保存されるほか、[パレット] ドッキングウィンドウの [マイパレット] フォルダにも表示されます。



カスタムカラーパレット (.xml) が [マイパレット] フォルダに保存された場合は、[ウィンドウ] ▶ [カラーパレット] をクリックし、リストからカスタムパレットを選択すると、開くことができます。

カスタムカラーパレットを入れるフォルダを作成するには

- 1 [パレット] ドッキングウィンドウを開きます。
- 2 [新規フォルダの作成] ボタン  をクリックします。新しいフォルダが [マイパレット] フォルダに表示されます。
- 3 新しい名前を入力して、Enter キーを押します。

カスタムカラーパレットを移動したい場合は、それを新しいフォルダにドラッグします。

カスタムカラーパレットを切り取り/コピーするには

- 1 [パレット] ドッキングウィンドウを開きます。
- 2 [マイパレット] フォルダでカスタムパレットを右クリックして、次のいずれかをクリックします。
 - 切り取り
 - コピー

カスタムパレットを他のフォルダに貼り付けたい場合は、フォルダを右クリックして、[貼り付け] をクリックします。

パレットライブラリから編集用にパレットをコピーするには

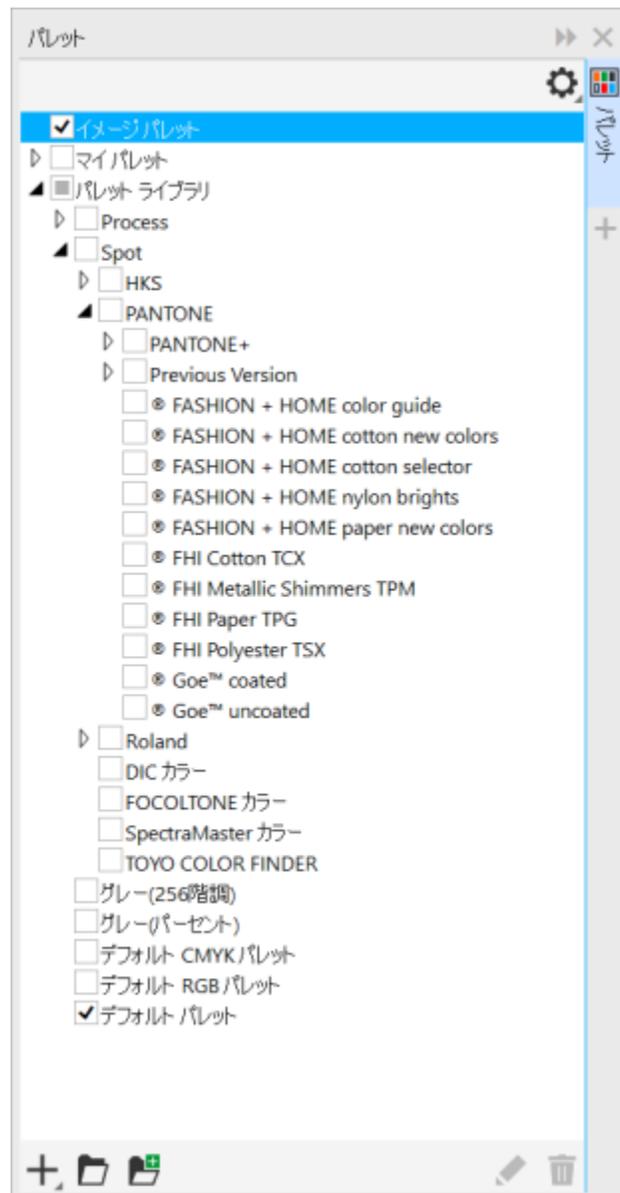
- [パレット] ドッキングウィンドウを開き、[パレットライブラリ] フォルダからパレットを [マイパレット] フォルダにドラッグします。

カラーパレットの編集可能なコピーが [マイパレット] フォルダに表示されます。

カラーパレットを表示または非表示にする

パレットライブラリにはカラーパレットのコレクションが収められています。デフォルトのカラーパレット(デフォルトのRGBおよびデフォルトのCMYKなど)の表示を制御できます。含まれている主なパレットライブラリは、プロセスカラーとスポットカラーです。

プロセスカラーライブラリには、デフォルトのRGB、CMYK、およびグレースケールの各カラーパレットがあります。さらに、「自然」などの特定のテーマを持ったプリセットカラーパレットがあります。スポットカラーライブラリには、HKS Colors、PANTONE、Focoltone、TOYO などサードパーティのメーカーによって提供されたカラーパレットが含まれています。印刷プロジェクトに特定の会社認定カラーが必要な場合に、これらのカラーパレットは非常に役立ちます。カラーパレットライブラリはロックされており、編集することはできません。



パレットライブラリ

パレット ライブラリのカラー パレットを表示するには

- 1 [パレット] ドッキング ウィンドウを開きます。
- 2 [パレット ライブラリ] フォルダで、カラー パレット名の横のチェック ボックスをオンにします。

スポットまたはプロセス カラー パレットを表示するには

- 1 [パレット] ドッキング ウィンドウを開きます。
- 2 [パレット ライブラリ] フォルダで、次のフォルダのいずれかをダブルクリックします。
 - スポット
 - プロセス
- 3 カラー パレット名の横にあるチェック ボックスをオンにします。

カラー パレット プロパティを設定する

カラー パレットはカスタマイズできます。

カラー パレットは、固定することも移動することもできます。カラー パレットをドッキングすると、カラー パレットはアプリケーション ウィンドウの端に接して配置されます。カラー パレットのドッキングを解除すると、カラー パレットはアプリケーション ウィンドウから離れてフロート表示され、任意の場所に移動できるようになります。

カラー ボックスでは、マウスの右ボタンの動作をコンテキスト メニューの表示か輪郭の色の設定のいずれかに設定できます。カラー ボックスの枠やサイズを調整することもできます。

カラー パレットをドッキング/ドッキング解除するには

- 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
カラー パレットをドッキングする	カラー パレットの枠の上部をクリックして、アプリケーション ウィンドウの枠に向かってドラッグします。 ツールバーの黒の細い輪郭が表示されます。
カラー パレットのドッキングを解除する	カラー パレットの点線枠をクリックしてドラッグし、アプリケーション ウィンドウの枠から離します。
ドッキングされているカラー パレットの行数を変更する	パレットで、フライアウト  ボタンをクリックし、[行] をクリックして、リストからオプションを選択します。

カラー ボックスでのマウスの右ボタンの機能を設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 表示されたダイアログ ボックスの左側のペインで、[カラー パレット] をクリックします。
- 3 次のいずれかのラジオ ボタンをオンにします。
 - コンテキスト メニュー
 - 輪郭カラーの設定



【輪郭カラーの設定】 オプションをオンにしても、**カラーパレット**のどこかで右マウスボタンを少なくとも1秒押し続けられ、コンテキストメニューを表示できます。

カラーボックスをカスタマイズするには

- 1 **【ツール】** ▶ **【オプション】** ▶ **【カスタマイズ】** をクリックします。
- 2 表示されたダイアログボックスの左側のペインで、**【カラーパレット】** をクリックします。
- 3 次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
 - **【幅広い枠】**
 - **【カラーボックス(大)】**



カラーパレットのフライアウトボタン  をクリックし、**【カラー名の表示】** をクリックすると、カラーボックスにカラー名を表示できます。

スポットカラーチャンネル

スポットカラーチャンネルを使用すると、スポットカラー情報を表示したり、編集してファイルに保存することができます。スポットカラーを使用するファイルをインポートする場合でも、Corel PHOTO-PAINT でスポットカラーを追加する場合でも、スポットカラーチャンネルによってファイルの出力時にカラー情報が維持されます。スポットカラーは、使用するスポットカラー、インクの適用先、密度などの情報を保持する8ビットのグレースケールチャンネルに格納されます。

新しいスポットカラーチャンネルを作成して色と名前を割り当て、コンテンツを追加できます。たとえば、チャンネルに図形をペイント/描画したり、効果を適用したり、コンテンツを貼り付けることができます。スポットカラーチャンネルに貼り付けた**オブジェクト**または**選択範囲**は、**編集領域**として追加されます。この編集領域を変更してから、スポットカラーチャンネルに適用することができます。編集領域の変更について詳しくは、[279 ページの「マスク」](#)を参照してください。

イメージをプレビューして、スポットカラーを下のカラーと混在させる(**オーバープリント**)か、下のカラーを覆うかを選択できます。これを使用して、不透明なインクや透明なインクをシミュレートできます。

また、既存のスポットカラーチャンネルのプロパティを選択、編集、変更することもできます。たとえば、スポットカラーチャンネルを含むイメージを開くときやインポートするときに、チャンネルのコンテンツを編集したり、チャンネルの名前を変更したり、チャンネルのスポットカラーを変更することができます。イメージを表示して、スポットカラーチャンネルのコンテンツを表示するか非表示にするか、チャンネルの順序を変更するかを選択することができます。スポットカラーチャンネルをイメージ間でコピーしたり、不要になったスポットカラーチャンネルを削除することができます。

新しいチャンネルの作成中や既存のチャンネルの編集中に、使用しているツールのカラーを変更して、チャンネルのコンテンツを追加または消去できます。たとえば、黒でペイントすると均一カラーが適用され、白でペイントするとカラーが消去され、グレーでペイントするとカラーの**着色**が適用されます。

編集を継続する場合は、作業内容を CPT ファイル形式で保存できます。また、印刷できる状態になったファイルは、PSD ファイル形式で保存することもできますし、DCS、PDF、EPS などのファイル形式でエクスポートすることもできます。

スポットカラーチャンネルを作成するには

- 1 **【チャンネル】** ドッキングウィンドウで、フライアウト矢印  をクリックし、**【新規スポットカラーチャンネル】** を選択します。
【チャンネル】 ドッキングウィンドウが開いていない場合は、**【ウィンドウ】** ▶ **【ドッキングウィンドウ】** ▶ **【チャンネル】** をクリックします。
- 2 **【新規スポットカラーチャンネル】** ダイアログボックスで、カラーピッカーから色を選択します。

- 3 チャンネルのスポット カラー名を使用しない場合は、**[名前]** ボックスにチャンネルの名前を入力します。
- 4 **[インクのプロパティ]** リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **均一** - インク濃度が 100 パーセント未満でなければ、下層のカラーはインク カラーに影響しません。
 - **透明** - 下層のカラーが透けて表示されます。このオプションを使用して、**オーバープリント**をプレビューできます。
- 5 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **空のチャンネル** - 空のチャンネルを作成します (インクは適用されません)。
 - **カラーで塗りつぶし** - インク カラーで塗りつぶしたチャンネルを作成します。
- 6 **[OK]** をクリックします。

新しいスポット カラー チャンネルが現行チャンネルの下の **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウに表示されます。新しいスポット カラー チャンネルが表示され、他のチャンネルは非表示になります。



[チャンネル] ドッキング ウィンドウの **[新規スポット カラー チャンネル]** ボタン  をクリックして、新しいチャンネルを作成することもできます。

Pantone Solid Coated パレットがデフォルトのカラー パレットです。ただし、**[その他]** をクリックして、**[カラーの選択]** ダイアログ ボックスの **[パレット]** リスト ボックスからパレットを選択することで、カラー ピッカーから別のパレットにアクセスすることもできます。

スポット カラー チャンネルを選択するには

- **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウの **[チャンネル]** リストで、スポット カラー チャンネルをクリックします。チャンネルが選択されると、チャンネルのサムネールの周囲に赤の輪郭が表示されます。

[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[チャンネル]** をクリックします。

スポット カラー チャンネルのプロパティを変更するには

- 1 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウの **[チャンネル]** リストから、**スポット カラー チャンネル**を選択します。
- 2 ドッキング ウィンドウの右上隅にあるフライアウト ボタン  をクリックし、**[チャンネルのプロパティ]** をクリックします。
- 3 **[スポット カラー チャンネルのプロパティ]** ダイアログ ボックスで、次のテーブルからタスクを実行します。

目的

スポット カラーを変更する	カラー ピッカーからカラーを選択します。
チャンネルの名前を変更する	[名前] ボックスに名前を入力します。
インク プロパティを変更する	[インクのプロパティ] リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 均一 - インク濃度が 100 パーセント未満でなければ、下層のカラーはインク カラーに影響しません。 • 透明 - 下層のカラーが透けて表示されます。このオプションを使用して、オーバープリントをプレビューできます。



[チャンネル] ドッキング ウィンドウのスポット カラー チャンネルをダブルクリックして、**[スポット カラー チャンネルのプロパティ]** ダイアログ ボックスにアクセスすることもできます。

スポット カラー チャンネルにコンテンツを貼り付けるには

- 1 **オブジェクト**または**選択範囲**を**クリップボード**にコピーします。
オブジェクトを別のイメージにコピーするには、コンテンツを貼り付けるイメージを開きます。
- 2 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウで、**スポット カラー チャンネル**を選択します。
- 3 **[編集]** ▶ **[形式を選択して貼り付け]** ▶ **[オブジェクトへ]** をクリックします。
コンテンツは、**マスク** (カラーの**オーバーレイ**または**選択範囲線**) で囲まれた**編集領域**として表示されます。領域を編集する場合は、ここで実行します。
領域に均一なインク密度を指定する場合は、**黒** (均一なスポット カラーの場合) を右クリックするか、**グレーの階調** (**着色**の場合) を右クリックし、**[塗りつぶし]** ツール  をクリックして、**編集領域**をクリックします。
- 4 **[マスク]** ▶ **[削除]** をクリックします。
貼り付けられたコンテンツが**スポット カラー チャンネル**に適用されます。



イメージ間で貼り付けられる**スポット カラー チャンネル**の外観は、イメージの寸法とイメージの**解像度**に影響されます。**スポット カラー チャンネル**のコピーと貼り付けで最適な結果を得るには、イメージの寸法および解像度が同じイメージ間で実行してください。

スポット カラー チャンネルの表示/非表示を切り替えるには

- **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウで、**スポット カラー チャンネル**の横にある**[目]**のアイコン  をクリックします。
チャンネル コンテンツが非表示の場合は、目が閉じた状態で表示されます。チャンネル コンテンツが表示の場合は、目が開いた状態で表示されます。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[チャンネル]** をクリックします。

スポット カラー チャンネルの順序を変更するには

- **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウの **[チャンネル]** リストで**スポット カラー チャンネル**をクリックし、新しい位置にドラッグします。

スポット カラー チャンネルをコピーするには

- 1 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウで、コピーする**スポット カラー チャンネル**を選択します。
- 2 **[編集]** ▶ **[コピー]** をクリックします。
- 3 **スポット カラー チャンネル**を貼り付けるイメージを開きます。
- 4 **[編集]** ▶ **[貼り付け]** をクリックします。

[チャンネル] ドッキング ウィンドウの **[チャンネル]** リストの下部に、**スポット カラー チャンネル**が表示されます。



イメージ間で貼り付けられる**スポット カラー チャンネル**の外観は、イメージの寸法とイメージの**解像度**に影響されます。**スポット カラー チャンネル**のコピーと貼り付けで最適な結果を得るには、イメージの寸法および解像度が同じイメージ間で実行してください。

スポット カラー チャンネルを削除するには

- 1 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウの **[チャンネル]** リストで、**スポット カラー チャンネル**をクリックします。
- 2 **[チャンネルの削除]** ボタン  をクリックします。



カラー モード

RGB、CMYK、またはグレースケールなどのカラー モードを変更すると、イメージのカラー構成やサイズが変わり、イメージの表示や印刷にも影響が生じる場合があります。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 221 の「カラー モードを変更する」。
- ページ 223 の「モノクロ カラー モード」。
- ページ 223 の「パレット カラー モード」。
- ページ 226 の「2 色トーン カラー モード」。

カラー モードを変更する

Corel PHOTO-PAINT では、イメージのカラーはカラー モードによって定義されます。コンピュータ モニタのイメージは RGB カラー モードで表示されるため、Corel PHOTO-PAINT のイメージもデフォルトでは RGB カラー モードで作成されます。イメージのカラー モードは、必要に応じて別のカラー モードに変換できます。たとえば、ハイエンド印刷用には CMYK カラー モードのイメージが推奨されます。また、World Wide Web 用には、RGB カラー モードの写真やパレット カラー モードの GIF イメージが推奨されます。

カラー モードは、コンポーネント カラーとビット深度で表されます。たとえば、RGB (24 ビット) カラー モードは、赤、緑、青のチャンネルで構成され、ビット深度は 24 ビットです。同様に、CMYK (32 ビット) カラー モードは、シアン、マゼンタ、イエロー、および黒のチャンネルで構成され、ビット深度は 32 ビットです。各チャンネルのビット深度は 8 ビットです。

CMYK カラー モードのイメージと RGB カラー モードのイメージとの違いを画面上では確認できない場合もありますが、両者のイメージ ファイルはまったくの別物です。RGB カラー スペースのカラーは、CMYK と比べて、可視スペクトラム、つまりカラー再現範囲が大きくなります。また、イメージの寸法が同じ場合、CMYK イメージの方が RGB イメージよりファイル サイズが大きくなりますが、CMYK イメージには、標準インクの印刷に必要なチャンネルが用意されています。

イメージを変換すると、カラー情報が失われることがあります。このため、編集済みのイメージを保存してから、別のカラー モードに変換するようにしてください。

カラー モードは、カラーをデジタルで表現、分類、および再現する際に使用される標準カラー モデルに基づいています。CMYK、RGB、HSB、およびグレースケール カラー モデルについて詳しくは、201 ページの「カラー モデル」を参照してください。

Corel PHOTO-PAINT は、次のカラー モードをサポートしています。

- モノクロ (1 ビット)
- 2 色トーン (8 ビット)
- RGB カラー (24 ビット)
- CMYK カラー (32 ビット)
- グレースケール (16 ビット)
- NTSC RGB (ビデオ)
- グレースケール (8 ビット)
- パレット(8 ビット)
- Lab カラー (24 ビット)
- マルチチャンネル
- RGB カラー (48 ビット)
- PAL RGB (ビデオ)

モノクロ、パレット、および 2 色トーンのカラー モードでは、変換オプションを指定することができます。詳しくは、を参照してください。

- 223 ページの「モノクロ カラー モード」
- 223 ページの「パレット カラー モード」
- 226 ページの「2 色トーン カラー モード」



RGB (オリジナル)



CMYK に変換



パレット カラー
モードに変換



マルチチャンネル
に変換



モノクロに変換



グレースケールに
変換

イメージのカラー モードを変更するには

- [イメージ] をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - [変換] [グレースケール (8 ビット)]
 - [変換] [RGB カラー (24 ビット)]
 - CMYK カラー (32 ビット) に変換

- [変換] ▶ [LAB カラー (24 ビット)]
- [変換] ▶ [マルチチャンネル]
- [変換] ▶ [グレースケール (16 ビット)]
- [変換] ▶ [RGB カラー (48 ビット)]
- [変換] ▶ [NTSC RGB]
- [変換] ▶ [PAL RGB]



イメージの現在のモードにより、変換できるモードが決まります。使用できないモードはグレーで表示されます。

[モノクロ (1 ビット)]、[パレット (8 ビット)]、および [2 色トーン (8 ビット)] カラー モードの場合は、変換オプションがあります。詳しくは、[を参照してください](#)。

- [223 ページの「モノクロ カラー モード」](#)
- [223 ページの「パレット カラー モード」](#)
- [226 ページの「2 色トーン カラー モード」](#)

モノクロ カラー モード

イメージのカラー モードを 1 ビット モノクロに変換することで、ファイル サイズを小さくしたり、アーティスティックな外観を作成したりすることができます。モノクロ カラー モード (一部のプログラムではビットマップ モードとしても知られる) は、グレースケール カラー モードとは異なります。モノクロ カラー モードのイメージでは、各ピクセルは常に黒または白ですが、グレースケールのイメージでは、黒と白の他に 254 階調のグレーが使用され、モノクロ写真効果の作成に適しています。写真のグレースケールへの変更について詳しくは、[222 ページの「イメージのカラー モードを変更するには」](#)。を参照してください。

イメージをモノクロ カラー モードに変換する場合は、しきい値、スクリーンの種類、強度などの設定を調整し、次の 7 種類のモノクロ変換から選択します。

- **ハーフトーン** - イメージ内のモノクロ ピクセルのパターンを変化させて、異なるグレー階調を生成します。スクリーンの種類、ハーフトーン の角度、単位あたりのライン数、および単位を選択できます。
- **ラインアート** - コントラストの強いモノクロ イメージを作成します。設定したしきい値よりもグレースケール値が低いカラーは黒に、高いカラーは白に変換されます。
- **配列** - グレー レベルを基に、モノクロ ピクセルの繰り返しの幾何学パターンを生成します。均一カラーが強調され、イメージのエッジがハードになります。チャートやグラフに表示するカラーなど、標準カラーに最適です。
- **ジャービス** - Jarvis アルゴリズムを個々のピクセルに適用します。写真のイメージに適したエラー拡散方式です。
- **シュトウツキ** - Stucki アルゴリズムを個々のピクセルに適用します。写真のイメージに適したエラー拡散方式です。
- **フロイド-シュタインベルク** - Floyd-Steinberg アルゴリズムを個々のピクセルに適用します。写真のイメージに適したエラー拡散方式です。
- **濃度-配分** - 計算を実行し、各ピクセルに結果を分配することによってテクスチャのような外観を作成します。

イメージをモノクロ カラー モードに変換するには

- 1 [イメージ] ▶ [モノクロ (1 ビット) に変換] をクリックします。
- 2 [変換方法] リスト ボックスから変換オプションを選択します。
- 3 必要な変換設定を指定します。

イメージの他の部分を表示する場合は、**プレビュー** ウィンドウの手の形のカーソルをドラッグします。

パレット カラー モード

パレット カラー モードは、インデックス カラー モードとも呼ばれ、Web 上の GIF イメージに多く使用される形式です。複雑なイメージをパレット カラー モードに変換すると、各ピクセルに固定カラー値が割り当てられます。これらの値は、コンパクトなカラー

テーブルまたはカラーパレットに保存されます。そのため、パレットイメージのデータは元のものより少なくなり、ファイルサイズも小さくなります。パレットカラーモードは、8ビットのモードで最大256色のカラーを使用してイメージを保存および表示します。

カラーパレットを選択/編集/保存する

イメージをパレットカラーモードに変更する場合は、定義済みまたはカスタマイズしたカラーパレットを使用し、個々のカラーを置き換えてパレットを編集します。[最適]パレットを選択した場合は、範囲感度カラーを指定してパレットを編集することもできます。イメージの変換に使用したカラーパレットは処理済みのカラーパレットと呼ばれ、保存して他のイメージで使用することができます。

カスタムカラーパレットの作成について詳しくは、201ページの「カラー」を参照してください。

ディザ

パレットイメージには、最大で256色までのカラーしか含めることができません。オリジナルイメージのカラーが多い場合は、ディザを使用して256色より多くのカラーを使用しているように見せることができます。ディザでは、さまざまなカラーのピクセルを散在させることにより、既存のパレットからカラーと階調を追加作成します。あるカラーのピクセルと別のカラーのピクセルの関係により、視覚上の混合効果が生じ、追加のカラーとして知覚されます。

ディザの効果を作成するには、一定またはランダムにカラーを配置します。配列ディザは、一定のドットパターンを使用してカラーブレンドのような効果を作成します。これにより、均一カラーが強調され、エッジがハードになります。エラー拡散は、エッジとカラーがソフトになるように、ピクセルをランダムに分散します。ジャービス、シュトゥッキ、およびフロイド-シュタインベルクは、エラー拡散方式の変換です。

作業中のイメージで使用しているカラーが少なく、形状も単純な場合は、ディザを使用する必要はありません。

カスタムカラーパレットのカラー範囲を設定する

最適化パレットを使用してイメージをパレットカラーモードに変更する場合は、シードカラー（ベースカラー）とそのシードカラーの範囲感度を選択します。シードカラーおよび設定範囲内にある類似カラーが、処理済みカラーパレットに含まれます。また、範囲感度の強さを指定することもできます。パレットには最大256色のカラーがあるため、シードカラーを強調することによって範囲感度から外れるカラーの数を少なくすることができます。

変換オプションを保存する

イメージ変換用のカラーパレットを選択し、ディザと範囲感度を設定した後で、選択したオプションを変換プリセットとして保存し、他のイメージで使用することができます。変換プリセットは、必要な数だけ追加または削除できます。追加したプリセットを後で削除することも可能です。

複数のイメージをパレットカラーモードに変換する

複数のイメージをパレットカラーモードに同時に変換することができます。バッチ変換を実行するには、変換するファイルを Corel PHOTO-PAINT で開いておく必要があります。バッチ処理に含まれるすべてのイメージが、指定したカラーパレットと変換オプションを使用して変換されます。

イメージをパレットカラーモードに変更するには

- 1 [イメージ] ▶ [パレット (8 ビット) に変換] をクリックします。
- 2 [オプション] タブをクリックします。
- 3 [パレット] リストボックスから、次のいずれかのカラーパレットを選択します。
 - 標準 - 赤、緑、および青の部分の割合が等しい256色のパレットを使用します。
 - 標準 VGA - 標準VGA 16色のカラーパレットを使用します。
 - 調整 - イメージ独自のカラーを使用し、イメージの個々のカラー（カラースペクトラム全体）を保持します。
 - 最適 - イメージに最も多く含まれるカラーを基にカラーパレットを作成します。範囲感度カラーを選択することもできます。
 - 黒のボディ - カラー温度に基づくカラーが含まれます。たとえば、黒は低い温度を表し、赤、オレンジ、イエロー、白などは高い温度を表します。
 - グレースケール - 黒(0)から白(255)までの256階調グレーを使用します。

- **システム** - Web-safe カラーおよび**グレースケール** カラーのパレットを使用します。
 - **Web-safe** - Web ブラウザに共通な 216 色のパレットを使用します。
- 4 **[ディザ]** リスト ボックスから**ディザ**のオプションを選択します。
 - 5 **[ディザの強度]** スライダを移動して、ディザの量を調整します。

可能な操作

変換オプションをプリセットとして保存する

[プリセットの追加]  をクリックし、**[プリセットの保存]** ボックスに名前を入力します。

処理済みのカラー パレットを編集する

[処理済みパレット] タブをクリックし、**[編集]** をクリックします。**[カラー テーブル]** ダイアログ ボックスでカラー パレットを編集します。

処理済みのカラー パレットを保存する

[処理済みパレット] タブをクリックし、**[保存]** をクリックします。処理済みカラー パレットを保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力します。



[配列ディザ] オプションは、エラー拡散 (**[ジャービス]**、**[シュトゥッキ]**、および **[フロイド-シュタインベルク]**) より素早く適用できますが、エラー拡散ほど細かく調整できません。



カスタム カラー パレットを選択するには、**[オプション]** タブをクリックし、**[パレット]** リスト ボックスから **[その他のパレット]** を選んで必要なカラー パレット ファイルを検索し、そのファイル名をダブルクリックします。

[オプション] タブの **[プリセット]** リスト ボックスでプリセットを選択して、プリセットの変換オプションをロードすることもできます。

カスタム カラー パレットのカラー範囲を設定するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[パレット (8 ビット) に変換]** をクリックします。
- 2 **[オプション]** タブをクリックします。
- 3 **[パレット]** リスト ボックスから、**[最適]** を選択します。
- 4 **[カラー範囲の感度]** チェック ボックスをオンにします。
- 5 **[カラー範囲の感度]** ピッカーをクリックし、**[スポイト]** ツール  をクリックしてからイメージのカラーをクリックします。
- 6 **[範囲の感度]** タブをクリックし、必要な設定を行います。
- 7 **範囲の感度**のスライダを調節します。

カラー パレットを表示するには、**[処理済みパレット]** タブをクリックします。

複数のファイルをパレット カラー モードに変換するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[パレット (8 ビット) に変換]** をクリックします。
- 2 **[バッチ]** タブをクリックします。
- 3 左側の列から変換するファイルを選択します。
- 4 **[追加]** をクリックします。



イメージをプレビューするには、**[プレビュー イメージ]** リスト ボックスからイメージを選択し、**[プレビュー]** をクリックします。

2 色トーン カラー モード

2 色トーン カラー モードは、特殊なカラー印刷で使用します。2 色トーン イメージは、1 色から 4 色のカラー インクを追加して補正されたグレースケール イメージです。2 色トーンには、次のような種類があります。

- **単色トーン** - 1 色のインクで塗られたグレースケール イメージです。
- **2 色トーン** - 2 色インクのグレースケール イメージです。ほとんどの場合、1 色は黒で、もう 1 色はカラーになります。
- **3 色トーン** - 3 色インクのグレースケール イメージです。ほとんどの場合、1 色は黒で、残りの 2 色は何らかのカラーになります。
- **4 色トーン** - 4 色インクのグレースケール イメージです。ほとんどの場合、1 色は黒で、残りの 3 色は何らかのカラーになります。

トーン カーブを調整する

イメージを 2 色トーン カラー モードに変換する場合、トーン カーブのグリッドは変換中に表示される動的なインク曲線を表します。水平面 (x 軸) には、グレースケール イメージの 256 階調 (0 が黒、255 が白) が表示されます。垂直面 (y 軸) には、対応するグレースケール値に適用されるインクの強度 (0~100%) が表示されます。

2 色トーン変換のインクを保存/ロードする

2 色トーンの種類を選択し、2 色トーン カラー モードへの変換に使用するインクのトーン カーブを調整した後で、他のイメージで使用するために、インク設定を保存し、ロードします。

オーバープリント カラーの表示方法を指定する

イメージを 2 色トーン カラー モードに変換する場合は、イメージを印刷する際にオーバープリントするカラーを指定することができます。オーバープリント カラーは、2 色以上のカラーが重なる場合に、インクが重なって着色されるカラーです。イメージを画面に表示すると、各カラーが順番に適用され、テキストからマスクを作成するような効果が作成されます。

重なるインク カラーをすべて表示することができます。各組み合わせには、オーバーラップによって生成されるカラーが関連付けられています。新しいオーバープリント カラーを選択して、重なり方を確認することもできます。

イメージを 2 色トーン カラー モードに変換するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[変換]** ▶ **[2 色トーン (8 ビット)]** をクリックします。
- 2 **[曲線]** タブをクリックします。
- 3 **[種類]** リスト ボックスから**2 色トーン**の種類を選択します。
- 4 **[種類]** ウィンドウでインクのカラーを選択し、**[編集]** をクリックします。
- 5 **[カラーの選択]** ダイアログ ボックスで目的のカラーを選択して、**[OK]** をクリックします。

カラーのトーン カーブを調整する場合は、グリッド上でインクのトーン カーブをクリックしてノードを作成し、そのノードをドラッグしてグリッド上のそのポイントでのカラーの量を調整できます。

可能な操作

グリッド上にすべてのインク トーン カーブを表示する

[すべて表示] チェック ボックスをオンにします。

インク設定を保存する

[保存] をクリックします。新しい設定でファイルを保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力します。

可能な操作

オーバープリント カラーの表示方法を指定する

[**オーバープリント**] タブをクリックし、[**オーバープリントの使用**] チェック ボックスをオンにします。編集するカラーを選択し、[**編集**] をクリックして新しいカラーを選びます。



[**曲線**] タブの [**ロード**] をクリックし、インク設定の保存場所を開き、ファイル名をダブルクリックしてインク設定をロードすることもできます。

オーバープリント カラーの表示方法を指定するには

- 1 [イメージ] ▶ [変換] ▶ [2 色トーン (8 ビット)] をクリックします。
- 2 [オーバープリント] タブをクリックします。
- 3 [オーバープリントの使用] チェック ボックスをオンにします。
- 4 編集するカラーを選択し、[編集] をクリックします。
- 5 [カラーの選択] ダイアログ ボックスの [モデル] リスト ボックスからカラー モデルを選択し、カラーをクリックして [OK] をクリックします。

新しいオーバープリント カラーをプレビューする場合は、[プレビュー] をクリックします。



カラー マネージメント

カラー マネージメントは、さまざまなソースのファイルを使用し、異なるデバイスでこれらのファイルを出力する際に、カラーの一致を確保する上で役立ちます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 229 の「カラー マネージメントについて」。
- ページ 233 の「カラー マネージメントを使用する」。
- ページ 234 の「カラー プロファイルのインストール、ロード、埋め込み」。
- ページ 236 の「カラー プロファイルを割り当てる」。
- ページ 237 の「カラーを他のカラー プロファイルに変換する」。
- ページ 237 の「カラー変換設定」。
- ページ 238 の「ソフト校正」。
- ページ 241 の「カラー マネージメントプリセット」。
- ページ 242 の「カラー マネージメントポリシー」。
- ページ 243 の「ドキュメントを開くときにカラーを管理する」。
- ページ 244 の「ファイルをインポートおよび貼り付ける際のカラーの管理」。
- ページ 244 の「印刷のカラーを管理する」。
- ページ 245 の「安全な CMYK ワークフローを使用する」。
- ページ 245 の「オンライン表示のカラーを管理する」。

カラー マネージメントについて

このセクションには、カラー マネージメントについてよくたずねられる質問の回答が記載されています。

- ページ 230 の「カラーが一致しません。なぜですか？」。
- ページ 230 の「カラー マネージメントとは何ですか？」。
- ページ 230 の「カラー マネージメントはなぜ必要ですか？」。
- ページ 231 の「カラー マネージメントを始めるにはどうすればいいですか？」。
- ページ 231 の「私のモニタは正確なカラーを表示していますか？」。
- ページ 231 の「カラー プロファイルを割り当てたり、カラーをカラー プロファイルに変換すべきですか？」。
- ページ 232 の「レンダリング方法とは？」。

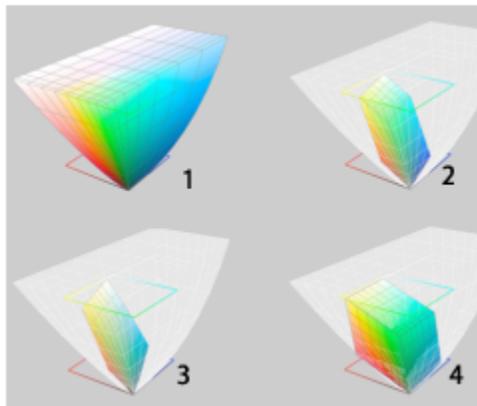
カラーが一致しません。なぜですか？

デジタル画像処理では、イメージをキャプチャし、修正し、印刷するために異なるツールが使用されます。一般的なワークフローでは、デジタルカメラを使用してイメージをキャプチャし、そのイメージをコンピュータにアップロードし、フォト編集アプリケーションでイメージを修正し、イメージを印刷します。これらのツールは、それぞれ異なるカラーの解釈方法を使用しています。さらに、各ツールには、独自の利用可能なカラーの範囲があります。これは、カラースペースと呼ばれ、各カラーが再現される方法を定義した一連の数値で構成されています。



ドキュメント ワークフローの例

つまり、カラーを定義したり、解釈する際に、各ツールは固有の言語を使用します。デジタルカメラのカラースペースにある、赤=0、緑=0、青=255の値を持った鮮やかな青のRGBカラーについて考えてみましょう。このカラーは、ご使用のモニタのカラースペースでは異なる色として表示される可能性があります。さらに、ご使用のプリンタのカラースペースには、このカラーに一致するものがない可能性があります。そのため、ドキュメントがワークフロー内を移動すると、この鮮やかな青色は変換の際に失われ、正確に再現されません。カラーマネージメントシステムは、出力したカラーが意図したものと一致するように、ワークフローにおけるカラーの伝達を向上するために用意されています。



カラーは、カラースペースにより定義されます。1.Lab カラースペース。2. Lab カラースペースに対して表示されるsRGB カラースペース。3.U.S. Web Coated (SWOP) v2 カラースペース。4.ProPhoto RGB カラースペース。

カラーマネージメントとは何ですか？

カラーマネージメントは、ドキュメントのソースや出力先に関係なくカラーの再現を予測し、コントロールできるプロセスです。ドキュメントの表示、変更、共有、別のファイル形式へのエクスポート、印刷などを行う際に、より正確なカラーの再現を確保します。

カラーマネージメントシステムは、カラーエンジンとも呼ばれ、カラープロファイルを使用してカラー値をあるソースから別のソースに変換します。たとえば、モニタに表示されているカラーを、プリンタが再現できるカラーに変換します。カラープロファイルは、ドキュメントの作成や編集に使用するモニタ、スキャナ、デジタルカメラ、プリンタ、アプリケーションなどのカラースペースを定義します。

カラーマネージメントはなぜ必要ですか？

ドキュメントが正確なカラー再現を必要とするなら、カラーマネージメントについてもっと知っておくと役立ちます。ワークフローの複雑さや、ドキュメントの最終出力先も重要な考慮事項となります。ドキュメントをオンラインで表示するだけなら、カラーマ

ネージメントはそれほど重要ではないかもしれませんが、しかし、ドキュメントを別のアプリケーションで開く予定の場合や、印刷や複数の出カタイプ用にドキュメントを作成する場合は、適切なカラー マネージメントが欠かせません。

カラー マネージメントを使用すると、以下を行うことができます。

- ワークフローの全体を通じて一貫性のあるカラーを再現できる。特に、他のアプリケーションで作成されたドキュメントを開く場合にも、一貫したカラー再現が可能である。
- 他の人とファイルを共有する場合に、一貫性のあるカラーを再現できる。
- 印刷所、デスクトップ プリンタ、Web などの最終出力先に送付する前に、カラーをプレビュー (または「ソフト構成」) できる。
- ドキュメントを異なる出力先に送る際に、調整や補正の必要性を減らすことができる。

カラー マネージメント システムは全く同一のカラー マッチングを提供しませんが、カラーの正確さを大幅に向上します。

カラー マネージメントを始めるにはどうすればいいですか？

次に、ワークフローにカラー マネージメントを追加するためのアドバイスを示します。

- ご使用のモニタがカラーを正しく表示していることを確認してください。詳しくは、231 ページの「私のモニタは正確なカラーを表示していますか?」。を参照してください。
- 使用する予定の入力装置や出力装置にカラー プロファイルをインストールします。詳しくは、234 ページの「カラー プロファイルのインストール、ロード、埋め込み」。を参照してください。
- Corel PHOTO-PAINT のカラー マネージメント機能に精通する。カラー マネージメントのデフォルト設定でも良好なカラー結果を得ることができますが、特定のワークフローに適したものになるようデフォルト設定を変更できます。詳しくは、233 ページの「カラー マネージメントを使用する」。を参照してください。
- ドキュメントの最終結果を画面でプレビューして、ドキュメントをソフト校正する。詳しくは、238 ページの「ソフト校正」。を参照してください。
- ファイルを保存やエクスポートする際にカラー プロファイルを埋め込む。これにより、ファイルが表示、変更、または複製された際にカラーの一貫性を確保することができます。詳しくは、234 ページの「カラー プロファイルのインストール、ロード、埋め込み」。を参照してください。

私のモニタは正確なカラーを表示していますか？

モニタのキャリブレーションとプロファイリングは、カラーの正確さを実現する上で不可欠な手順です。モニタのキャリブレーションを行う場合は、確立された正確さの基準に従ってカラーを表示するように、モニタを設定します。キャリブレーションを行ったら、モニタのカラー プロファイルを作成できます。これには、モニタがカラーを解釈する方法が記述されています。このカスタム カラー プロファイルは通常、プロファイリング ソフトウェアによりオペレーティング システムにインストールされるため、他のデバイスやアプリケーションが共有できます。キャリブレーションとプロファイリングはカラーの正確さを実現するために協力し以下を行います。モニタのキャリブレーションが不適切な場合は、プロファイルは役立ちません。

キャリブレーションおよびプロファイリングは複雑であり、通常は比色計や専用のソフトウェアなど、サードパーティのキャリブレーション デバイスが必要になります。さらに、不適切なキャリブレーションは有害無益なものとなる場合があります。カラー マネージメント技法や製品を調べると、モニタのキャリブレーションやカスタム カラー プロファイルについて、さらに知ることができます。また、ご使用になっているオペレーティング システムやモニタに付属のマニュアルを参照することもできます。

モニタが表示するカラーを知覚する方法もカラーの一致を管理する上で重要です。あなたの知覚は、ドキュメントを表示している環境に影響を受けます。適切な表示環境を作成する方法を以下に示します。

- 使用する部屋の光がムラなく一貫していることを確認します。たとえば、室内が日光で満たされている場合は、日除けを使用するか、可能であれば窓のない部屋で作業します。
- モニタの背景に灰色などの中間色を使用するか、グレースケール イメージを利用します。鮮やかな壁紙やスクリーンセーバーの使用を避けます。
- モニタでのカラー表示とぶつかり合う明るい衣服を着用しないでください。たとえば、白いシャツを着ていると、光がモニタに反射して、カラーの知覚が変わります。

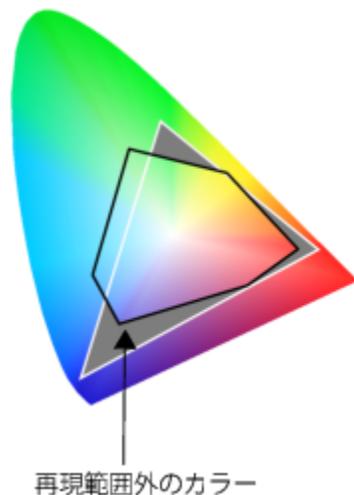
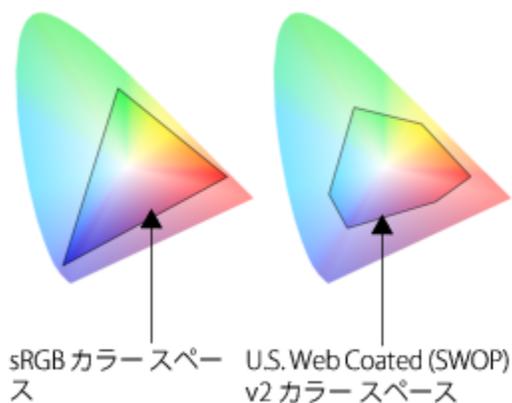
カラー プロファイルを割り当てたり、カラーをカラー プロファイルに変換すべきですか？

カラー プロファイルを割り当てても、ドキュメントのカラー値や数値は変わりません。その代わりに、アプリケーションはカラー プロファイルを使用してドキュメントのカラーを解釈します。ただし、カラーを別のカラー プロファイルに変換すると、ドキュメントのそのカラー値は変わります。

最適な方法は、ドキュメントを作成する際に適したカラー スペースを選択することであり、ワークフローを通じて同じカラー プロファイルを使用することです。ドキュメントの作業中に、カラー プロファイルを割り当てたり、カラーを他のカラー プロファイルに変換しないでください。詳しくは、236 ページの「カラー プロファイルを割り当てる」と237 ページの「カラーを他のカラー プロファイルに変換する」を参照してください。

レンダリング方法とは?

カラー マネージメント システムは、複数のデバイスに対してドキュメントのカラーを効果的に変換することができます。ただし、カラーのカラー スペースを別のカラー スペースに変換すると、カラー マネージメント システムは一部のカラーを一致できない場合があります。この変換エラーは、ソース内の一部のカラーが変更先のカラー スペースの範囲 (または再現範囲) に適合しない可能性がある場合に発生します。たとえば、モニタに表示された明るい赤と青は、プリンタが生成できるカラーの再現範囲外となる場合があります。これらの「再現範囲外の」カラーは、カラー マネージメント システムの解釈方法によっては、ドキュメントの表示を劇的に変化させます。各カラー マネージメント システムには、再現範囲外のカラーを解釈し、それらを変換先のカラー スペースの再現範囲にマッピングする 4 つの方法があります。これらの方法は「レンダリング方法」と呼ばれます。レンダリング方法の選択は、ドキュメントの画像に応じて異なります。



sRGB ドキュメント内のカラーの多くは、U.S. Web Coated (SWOP) v2 のカラー スペースに対して再現範囲外になる場合があります。再現範囲外のカラーは、レンダリング方法に応じて再現範囲にマッピングされます。

次のレンダリング方法を使用できます。

- **相対比色**レンダリング法は、2、3の再現範囲外の色を含んだロゴやその他のグラフィックに適しています。再現範囲外のソースカラーを変換先の最も近い再現範囲のカラーに一致させます。このレンダリング方法はホワイトポイントを移動させます。白い用紙に印刷する場合は、用紙の白色部分がドキュメントの白色領域を再現するために使用されます。したがって、このレンダリング方法は、ドキュメントを印刷する場合に適した選択肢となります。
- **絶対比色**レンダリング法は、非常に正確なカラーが必要なロゴやその他のグラフィックに適しています。ソースカラーに一致するカラーが見つからない場合は、考えられる最も近い一致が使用されます。**絶対比色**レンダリング法と**相対比色**レンダリング法は類似していますが、**絶対比色**レンダリング法では変換の際にホワイトポイントが保持され、用紙の白さに対して調整を行いません。このレンダリング方法は主に校正に使用されます。
- **知覚**レンダリング法は、再現範囲外の色を多く含んでいる写真やビットマップに適しています。変換先のカラー範囲内に収まるように再現範囲内のカラーを含むすべてのカラーを変更して、カラーの外観全体を保持します。このレンダリング方法では、最適な結果を生み出すためにカラー間の関係が維持されます。
- **彩度**レンダリング法は、チャートやグラフなどのビジネスグラフィックで濃度の高い均一カラーを生み出します。カラーは、他のレンダリング方法で生成されたものより精度が低下します。



再現範囲外の色数(緑のオーバーレイにより示される)は、レンダリング方法の選択に影響を与える場合があります。左:相対比色レンダリング法は、2、3の再現範囲外の色を含んだこの写真に適しています。右:知覚レンダリング法は、再現範囲外の色を多く含んだこの写真に適しています。

カラー マネージメントを使用する

Corel PHOTO-PAINT には、カラー マネージメントのデフォルト設定とドキュメントのカラー設定の 2 種類のカラー マネージメント設定があります。カラー マネージメントのデフォルト設定は、新規ドキュメントとカラー プロファイルを持っていないドキュメント(「タグなしドキュメント」とも呼ばれます)のカラーをコントロールします。旧バージョンの Corel PHOTO-PAINT で作成されたドキュメントは、タグなしで処理されます。ドキュメント カラー設定は、アクティブなドキュメントのカラーにのみ作用します。

カラー マネージメントのデフォルト設定

カラー マネージメントのデフォルト設定は、一致したカラーを生み出すために欠かせません。

- **プリセット** — カラー マネージメントについて初心者であり、特定の出力のデザインを作成する場合は、プリセットを選択することにより、デフォルトのカラー プロファイルやカラー変換設定などの適切なカラー マネージメント設定を使用することができます。例としては、北米の印刷サービス プロバイダにより印刷されるプロジェクトに適した**北米プリプレス**プリセットや、ヨーロッパで作成された Web プロジェクトに適した**ヨーロッパ Web**プリセットがあります。カラー マネージメントプリセットの詳細については、241 ページの「**カラー マネージメントプリセット**」を参照してください。
- **デフォルトのカラー プロファイル** — 新規およびタグなしドキュメントの RGB、CMYK、グレースケールのカラーを定義します。すべての新規ドキュメントが指定したカラー プロファイルを使用するように、これらの設定を変更することができます。一部のアプリケーションでは、デフォルトのカラー プロファイルは「作業領域プロファイル」と呼ばれます。
- **レンダリング方法** — 新規およびタグなしドキュメントで再現範囲外カラーのマッピング方法を選択できます。デフォルトのレンダリング方法が開いたドキュメントに適していない場合は、**[カラー マネージメント設定]**ダイアログ ボックスの**[ドキュメント]**タブでそれを変更できます。プロジェクトの適切なレンダリング方法を選ぶ方法については、232 ページの「**レンダリング方法とは?**」を参照してください。

- **カラー変換** — カラー プロファイルを別のカラー プロファイルに変換する際にカラーを一致させる方法をコントロールします。たとえば、カラー エンジンを変更したり、純粋な黒を RGB、CMYK、Lab、グレースケールのドキュメントに変換するオプションを指定できます。詳しくは、237 ページの「カラー変換設定」を参照してください。
- **開くポリシー** — 開いたファイルのカラーを管理します。カラー マネージメント ポリシーの詳細については、242 ページの「カラー マネージメント ポリシー」を参照してください。
- **インポートと貼り付けのポリシー** — アクティブなドキュメントにインポートまたは貼り付けるファイルで、カラーを管理します。カラー マネージメント ポリシーの詳細については、242 ページの「カラー マネージメント ポリシー」を参照してください。
- **スポット カラーの定義** — Lab、CMYK、または RGB のカラー値を使用してスポット カラーを表示できます。これらの代替カラー値は、スポット カラーをプロセス カラーに変換する場合にも使用されます。

ドキュメントのカラー設定

アクティブなドキュメントの現行カラー設定を表示および編集できます。ドキュメントのカラー スペースを決定する、ドキュメントに割り当てられたカラー プロファイルを確認できます。

開いたドキュメントに別のカラー プロファイルを割り当てることもできます。カラー プロファイルの割り当てについては、236 ページの「カラー プロファイルを割り当てる」を参照してください。ドキュメントのカラーを他のカラー プロファイルに変換する方法については、237 ページの「カラーを他のカラー プロファイルに変換する」を参照してください。

カラー マネージメントのデフォルト設定にアクセスするには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。

デフォルトのカラー プロファイルを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
 - 2 [デフォルト] タブをクリックします。
 - 3 次のリスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。
 - **RGB プロファイル** — 新規ドキュメントやタグなしドキュメントの RGB カラーについて説明します
 - **CMYK プロファイル** — 新規ドキュメントやタグなしドキュメントの CMYK カラーについて説明します
 - **グレースケール プロファイル** — 新規ドキュメントやタグなしドキュメントのグレースケール カラーについて説明します
- [レンダリング方法] リスト ボックスから別のレンダリング方法を選択できます。

ドキュメントのカラー設定にアクセスするには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] タブをクリックします。



[ドキュメント] タブは、LAB、NTSC、PAL、またはマルチチャンネル イメージに使用できません。これらのイメージは、[デフォルト] タブで指定されたカラー マネージメント オプションを使用します。



また、ドキュメントのカラー設定を [ドキュメントのプロパティ] ダイアログ ボックスに表示するには、[ファイル] ▶ [ドキュメントのプロパティ] をクリックします。

カラー プロファイルのインストール、ロード、埋め込み

カラーの正確さを確保するには、カラー マネージメント システムは、モニタ、インプット デバイス、外部モニタ、出力デバイス、およびドキュメント用に ICC 準拠のプロファイルが必要とします。

- モニタのカラー プロファイル - モニタがドキュメントのカラーを表示するのに使用するカラー スペースを定義します。Corel PHOTO-PAINT は、オペレーティング システムが割り当てるプライマリ モニタ プロファイルを使用します。モニタ プロファイルは、カラーの正確さにとって非常に重要です。詳しくは、231 ページの「私のモニタは正確なカラーを表示していますか?」を参照してください。
- 入力デバイスのカラー プロファイル - スキャナやデジタル カメラなどの入力デバイスにより使用されます。これらのカラー プロファイルは、特定の入力デバイスがキャプチャできるカラーを定義します。
- 表示のカラー プロファイル - オペレーティング システムでご使用のモニタに関連付けられていないモニタ プロファイルが含まれています。これらのカラー プロファイルは、ご使用のコンピュータに接続されていないモニタでドキュメントをソフト校正する場合に特に役立ちます。
- 出力デバイスのカラー プロファイル - デスクトップ プリンタや印刷機などの出力デバイスのカラー スペースを定義します。カラー マネージメント システムは、これらのプロファイルを使用してドキュメントのカラーを出力装置のカラーに正確にマッピングします。
- ドキュメントのカラー プロファイル - ドキュメントの RGB、CMYK、グレースケールのカラーを定義します。カラー プロファイルを持ったドキュメントは、「タグ付き」と呼ばれます。

カラー プロファイルを見つける

ご使用のアプリケーションには多数のカラー プロファイルがインストールされるか、プロファイリング ソフトウェアにより生成されます。モニタ、スキャナ、デジタル カメラ、プリンタのメーカーも、カラー プロファイルを供給します。さらに、以下のような Web サイトからカラー プロファイルにアクセスできます。

- <http://www.color.org/findprofile.xalter> - International Color Consortium (ICC: 国際カラー協会) のこの Web サイトでは、一般的に使用される標準的カラー プロファイルを見つけることができます。
- <http://www.eci.org/doku.php?id=en:downloads> - European Color Initiative (ECI) のこの Web サイトは、標準的な ISO プロファイルとともに、ヨーロッパ固有のプロファイルを提供しています。
- http://www.tftcentral.co.uk/articles/icc_profiles.htm - この Web サイトでは、カラー表示の一致に役立つさまざまな種類の LCD (液晶ディスプレイ) モニタ用 ICC プロファイルが用意されています。ただし、ご使用のワークフローでカラー精度が重要な場合は、すぐに利用できるモニタ プロファイルに依存せずに、ご使用のモニタのキャリブレーションとプロファイリングを行う必要があります。詳しくは、231 ページの「私のモニタは正確なカラーを表示していますか?」を参照してください。

カラー プロファイルのインストールとロード

必要なカラー プロファイルがない場合は、インストールするか、アプリケーション内にロードできます。カラー プロファイルをインストールすると、オペレーティング システムの**カラー** フォルダに入り、カラー プロファイルをロードすると、アプリケーションの**カラー** フォルダに入ります。CorelDRAW Graphics Suite では、両方の**カラー** フォルダからカラー プロファイルにアクセスできます。

カラー プロファイルを埋め込む

カラー プロファイルをサポートするファイル形式にドキュメントを保存またはエクスポートすると、デフォルトではカラー プロファイルが埋め込まれます。カラー プロファイルを埋め込むと、カラー プロファイルがドキュメントに添付され、ドキュメントを表示する人や印刷する人が使用した同じ色を共有できるようにします。

カラー プロファイルをインストールするには

- Windows エクスプローラで、カラー プロファイルを右クリックして、**[プロファイルのインストール]** をクリックします。

カラー プロファイルをロードするには

- 1 **[ツール]** ▶ **[カラー マネジメント]** をクリックします。
- 2 **[デフォルト]** タブをクリックします。
- 3 **[RGB プロファイル]**、**[CMYK プロファイル]**、**[グレースケール プロファイル]** リスト ボックスから **[カラー プロファイルのロード]** を選択します。
- 4 **[開く]** ダイアログ ボックスで、カラー プロファイルに移動します。



カラー プロファイルをロードすると、[カラー校正] ドッキング ウィンドウ、[印刷] ダイアログ ボックス、および [カラー マネジメント設定] ダイアログ ボックスの [ドキュメント] タブからもアクセスできます。

任意のカラー モードのカラー プロファイルは、[RGB プロファイル]、[CMYK プロファイル]、または [グレースケール プロファイル] リスト ボックスからロードすることができます。ただし、プロファイルをロードすると、それぞれのカラー モードのリスト ボックスからのみプロファイルにアクセスできます。たとえば、RGB カラー プロファイルを [CMYK プロファイル] リスト ボックスからロードできますが、そのプロファイルには [RGB プロファイル] リスト ボックスからのみアクセスできません。



また、カラー プロファイルを [カラー マネジメント設定] ダイアログ ボックスの [ドキュメント] タブからもロードできます。

カラー プロファイルを埋め込むには

- 1 [ファイル] をクリックして、次のコマンドのいずれかをクリックします。
 - 保存名
 - Web に ▶ エクスポート
- 2 表示されたダイアログ ボックスで、[カラー プロファイルの埋め込み] チェック ボックスをオンにします。



カラー プロファイル (特に CMYK のカラー プロファイル) を埋め込むと、ドキュメントのファイル サイズが増加します。

カラー プロファイルを割り当てる

カラー プロファイルが見つからないドキュメントを開いたり、インポートすると、デフォルトで、アプリケーションがカラー プロファイルをそのドキュメントに自動的に割り当てます。必要な出力先に適さないカラー プロファイルがドキュメントにある場合は、ドキュメントに異なるカラー プロファイルを割り当てることができます。たとえば、ドキュメントが Web での表示やデスクトップ プリンタでの印刷用の場合は、sRGB がドキュメントの RGB プロファイルであることを確認する必要があります。ドキュメントを印刷する予定の場合は、Adobe RGB (1998) プロファイルが適しています。これは、再現範囲がより大きく、RGB カラーを CMYK カラー スペースに変換したときに良好な結果が得られるためです。

異なるカラー プロファイルをドキュメントに割り当てると、カラー値を変更していない場合でもカラー表示が変化する可能性があります。



左: SWOP 2006_Coated3v2.icc カラー プロファイルがアクティブなドキュメントに割り当てられます。右: 「日本カラー 2002 新聞」 カラー プロファイルをドキュメントに割り当てると、カラーは彩度が大幅に低下します。

ドキュメントにカラー プロファイルを割り当てるには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] タブをクリックします。
- 3 [新規割り当て (色の外観を維持)] オプションをオンにします。
- 4 [RGB]、[CMYK]、または [グレースケール] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。

リスト ボックスの名称と使用できるカラー プロファイルのリストは、アクティブなドキュメントのカラー モードによって異なります。たとえば、RGB リスト ボックスは RGB イメージにのみ使用できます。

カラーを他のカラー プロファイルに変換する

ドキュメントのカラーをあるカラー プロファイルから別のカラー プロファイルに変換すると、ドキュメントのカラー値はレンダリング方法に応じて変わりますが、カラーの外観は保持されます。カラーを変換する主な目的は、ソースのカラー スペースのカラー外観を、出力先のカラー スペースのカラーにできる限り近づけることです。

複数カラーの変換は色の正確さを低下されるため、カラーの変換は 1 度だけすることをお勧めします。ドキュメントの準備が整い、最終出力に使用されるカラー プロファイルであることが確認されるまで待ちます。たとえば、Adobe RGB (1998) カラー スペースでデザインしたドキュメントを Web に掲載する場合は、ドキュメントのカラーを sRGB カラー スペースに変換できます。

カラーの変換に使用されるカラー マネージメント エンジンを選択できます。詳しくは、[237 ページの「カラー変換設定」](#)。を参照してください。

カラーを別のカラー プロファイルに変換するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] タブをクリックします。
- 3 [変換 (色の値を維持)] オプションをオンにします。
- 4 [RGB]、[CMYK]、または [グレースケール] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。
リスト ボックスの名称と使用できるカラー プロファイルのリストは、アクティブなイメージのカラー モードによって変わります。
- 5 [レンダリング方法] リスト ボックスから適切なレンダリング方法を選択します。使用できるレンダリング方法については、[232 ページの「レンダリング方法とは?」](#)。を参照してください。

カラー変換設定

[カラー プロファイル] を選択すると、デフォルト CMM である Microsoft Image Color Management (ICM) のカラー マネージメント モジュール (CMM) によって、デバイス間で可能な限り一致するカラーが使われます。カラー マネージメント モジュールは、「カラー エンジン」とも呼ばれています。

また、Adobe® CMM (コンピュータにインストールされている場合) を使用できます。

純粋なブラックとグレースケール カラーを処理する

カラー変換中に純粋なブラックを指定先のカラー スペースに保存できます。たとえば、RGB ドキュメントを CMYK カラー スペースに変換する場合は、純粋な RGB ブラック (R=0、G=0、B=0) は、純粋なブラック CMYK カラー (K=100) にマッピングされます。このオプションは、グレースケールのドキュメントやほとんどテキストばかりのドキュメントにお勧めします。カラー変換中に純粋なブラックを保存すると、ブラックが含まれる効果やグラデーションでブラックの均一エッジが作成される場合があります。

デフォルトでは、グレースケール カラーは、CMYK ブラック (K) チャンネルに変換されます。このプロセスは、すべてのグレースケール カラーがブラックの諧調として印刷されるようにして、印刷中にシアン、マゼンタ、イエローのインクが無駄にならないようにします。

カラー変換設定を選択するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 [カラー変換設定] 領域で、[カラー エンジン] リスト ボックスからカラー エンジンを選択します。

可能な操作

作業手順

ソースのカラー スペースの純粋なブラックを、指定先のカラー スペースの純粋なブラックとして保持する

[**純粋なブラックを保存**] チェック ボックスをオンにします。

変換中にグレースケール カラーを CMYK ブラックにマッピングする

[**グレーを CMYK ブラックにマッピング**] チェック ボックスをオンにします。

ソフト校正

ソフト校正は、特定のプリンタで再現された場合や特定のモニタで表示された場合のドキュメントの外観を画面上のプレビューで提供します。従来の印刷ワークフローで使用される「ハード校正」技法とは異なり、ソフト校正では、インクを用紙に使用することなく、最終結果を見ることができます。ドキュメントのカラー プロファイルが具体的なプリンタやモニタに適しているかどうかを確認して、好ましくない結果を避けることができます。



左上: RGB カラー プロファイルはドキュメントに割り当てられます。中央および右: 特定の CMYK プロファイルを割り当てると、印刷される出力の画面上でのシミュレーションが行えます。

デバイスによって生成される出力カラーをシミュレートするには、デバイスのカラー プロファイルを選ぶ必要があります。ドキュメントとデバイスのカラー スペースは異なるため、ドキュメントの一部のカラーはデバイスのカラー スペースの再現範囲に一致しない場合があります。再現範囲の警告をオンにすると、そのデバイスによって正確に再現できない画面カラーをプレビューできます。再現範囲の警告をオンにすると、シミュレートするデバイスのすべての再現範囲外のカラーがオーバーレイにより強調表示されます。再現範囲外のカラーのオーバーレイを変更できます。また、下のカラーが見えるように透明度を増すことができます。



カラー再現範囲の警告には、プリンタやモニタで正確に再現できないカラーが強調表示されます。

レンダリング方法を変更して、再現範囲外のカラーが校正プロファイルの再現範囲に入るように変更できます。詳しくは、232 ページの「レンダリング方法とは?」を参照してください。

ソフト校正の際に、ドキュメントの RGB、CMYK、グレースケールのカラー値を保存できます。たとえば、印刷機で印刷されるドキュメントをソフト校正する場合は、オリジナルドキュメントの CMYK カラー値をソフト校正で保持することができます。この場合は、すべてのカラーが画面上で更新されますが、ドキュメントの RGB およびグレースケールのカラー値だけがソフト校正で変更されます。CMYK カラー値を保存すると、最終出力で好ましくないカラー変換を防ぐことができます。

特定の出力でドキュメントを頻繁にソフト校正する必要がある場合は、カスタム校正プリセットを作成し、保存することができます。不要になったプリセットはいつでも削除できます。

ソフト校正は、JPEG、TIFF、Adobe Portable Document Format (PDF)、または Corel PHOTO-PAINT (CPT) ファイル形式にエクスポートして保存できます。また、校正を印刷することもできます。

デフォルトでは、新規ドキュメントを開始したり、ドキュメントを開くと、ソフト校正はオフになります。ただし、ソフト校正がデフォルトで常にオンになるようにできます。

ソフト校正をオン/オフにするには

- **[表示]** ▶ **[校正カラー]** をクリックします。



ソフト校正をオンにすると、ドキュメント ウィンドウのカラー、カラーパレット、ダイアログボックスのプレビューウィンドウの表示が変わります。

プリンタの出力をシミュレートすると、画面上のカラーの表示が鈍くなる場合があります。これは、すべてのカラーが、RGB カラー空間より小さい再現範囲を持った CMYK カラー空間に持ち込まれるためです。

ソフト校正設定を指定するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[カラー校正]** をクリックします。
- 2 次のタスクのいずれかを実行します。

目的

特定デバイスの出力をシミュレートする

特定のカラー値が変わらないようにする

作業手順

[環境のシミュレート] リストボックスから、デバイスのカラープロファイルを選びます。

[番号を保存] チェックボックスをオンにします。

目的

レンダリング方法を変更する

カラー再現範囲の警告をオンにする

カラー再現範囲外のオーバーレイのカラーを変更する

カラー再現範囲外のオーバーレイの透明度を変更する

カスタム校正プリセットを保存する

校正プリセットを選択する

プリセット校正を削除する



シミュレーションの精度は、モニタの画質、モニタと出力デバイスのカラー プロファイル、作業領域の環境光などの要因に依存します。

ソフト校正をエクスポートするには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [カラー校正]をクリックします。
- 2 [カラー校正] ドッキング ウィンドウで、[ソフト校正のエクスポート] ボタンをクリックします。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [ファイルの種類] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - JPG - JPEG ビットマップ
 - PDF - Adobe Portable Document Format
 - TIF - TIFF ビットマップ
 - CPT - Corel PHOTO-PAINTイメージ
- 5 表示されるダイアログ ボックスで設定を選びます。

作業手順

[環境のシミュレート] ボックスのカラー プロファイルに応じて、このチェック ボックスの CMYK、RGB、またはグレースケールのカラー値が保存されます。

[レンダリング方法] リスト ボックスからレンダリング方法を選択します。

[校正カラー] チェックボックスをオンにし、**[カラー再現範囲の警告]** 領域で **[カラー再現範囲外]** チェックボックスをオンにします。

[カラー再現範囲の警告] 領域で、カラー ピッカーからカラーを選びます。

[カラー再現範囲の警告] 領域で、**[透明]** ボックスに値を入力します。

この値は 1~100 の範囲で指定します。

希望する設定を選び、**[保存]** ボタン  をクリックして、**[プリセットとして保存]** ボックスに名前を入力します。

カラー再現範囲外の設定は校正プリセットに含まれません。

[プリセット校正] リスト ボックスから、プリセットを選択します。

[削除] ボタン  をクリックします。

校正を印刷するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [カラー校正] をクリックします。
- 2 [カラー校正] ドッキング ウィンドウで、[校正刷り] ボタンをクリックします。

デフォルトでソフト校正をオンにするには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 カテゴリのリストで、[表示] をクリックします。
- 3 [校正カラー] チェック ボックスをオンにします。

カラー マネージメント プリセット

アプリケーションにはカラー マネージメント プリセットが用意されており、デフォルトのカラー設定として新規ドキュメントおよびタグなしドキュメントに適用されます。ドキュメントが作成された地理的地域や最終出力の場所に最適なカラー マネージメント プリセットを選ぶことができます。

また、独自のプリセットを作成して選択した内容を [カラー マネジメント設定] ダイアログ ボックスの [デフォルト] タブに保持し、その設定を他のドキュメントに再利用できます。プリセットが不要になったら削除できます。

新規ドキュメントにカラー マネージメント プリセットを選択するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 [プリセット] リスト ボックスから、次のいずれかのカラー マネージメント プリセットを選択します。
 - **北米一般目的** — 北米の複数の出力タイプに使用されるデザインに適しています。
 - **ヨーロッパ一般目的** — ヨーロッパの複数の出力タイプに使用されるデザインに適しています。
 - **ヨーロッパプリプレス** — ヨーロッパのプリント サービス プロバイダにより印刷されるデザインに適しています。
 - **ヨーロッパ Web** — ヨーロッパで作成された Web デザインに適しています。
 - **日本一般目的** — 日本の複数の出力タイプに使用されるデザインに適しています。
 - **日本プリプレス** — 日本のプリント サービス プロバイダにより印刷されるデザインに適しています。
 - **日本 Web** — 日本で作成された Web デザインに適しています。
 - **[最小限のカラー マネージメント]** — ドキュメントを開き、インポートし、貼り付ける場合に、オリジナルの RGB、CMYK、グレースケールのカラー値を保持します。
 - **北米プリプレス** — 北米のプリント サービス プロバイダにより印刷されるデザインに適しています。
 - **北米 Web** — 北米で作成された Web デザインに適しています。
 - **カラー マネージメント オフをシミュレート** — Corel PHOTO-PAINT の旧バージョンで利用できる [カラー マネージメント オフ] プリセットのカラー変換結果を生み出します。
 - **CorelDRAW Graphics Suite X4 をシミュレート** — CorelDRAW Graphics Suite X4 に表示されるとおりにカラーを表示します。

カラー マネージメント プリセットを追加するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 デフォルトのカラー設定を変更します。
- 4 [プリセット] リスト ボックスの横にある [保存] ボタン  をクリックします。
- 5 [カラー マネージメント スタイルの保存] ダイアログ ボックスで、[スタイルの保存] ボックスに名前を入力します。

カラー マネージメント プリセットを削除するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 [プリセット] リスト ボックスから、プリセットを選択します。
- 4 [削除] ボタン  をクリックします。

カラー マネージメント ポリシー

カラー マネージメント ポリシーは、アプリケーションで開いて操作するドキュメントのカラーの管理方法を決定します。Corel PHOTO-PAINT では、開くドキュメント用に 1 つのカラー マネージメント ポリシーを作成し、アクティブなドキュメントにインポートおよび貼り付けるファイルとオブジェクト用に別のポリシーを設定できます。

ドキュメントを開くためのカラー マネージメント ポリシーは、開きたい各ファイルで使用される RGB、CMYK、およびグレースケールのカラー プロファイルを決定します。デフォルトでは、ファイルに埋め込まれたカラー プロファイルが使用されます。また、そのファイルにデフォルトのカラー プロファイルを割り当てたり、そのファイルのカラーをデフォルトのカラー プロファイルに変換することができます。

デフォルトでは、ファイルをインポートおよび貼り付けるためのカラー マネージメント ポリシーは、ファイルのカラーをドキュメントのカラー プロファイルに変換します。また、ドキュメントのカラー プロファイルをファイルに割り当てたり、アクティブなドキュメントのカラーをファイルに埋め込まれたカラー プロファイルに変換できます。

開くファイルやインポートするファイルは、カラー プロファイルが失われる場合や、デフォルトのカラー プロファイルと一致しないカラー プロファイルが含まれる場合があります。デフォルトでは、アプリケーションはカラー プロファイルの紛失や不一致についての警告しませんが、カラー マネージメントに良好な結果を生み出す選択を行わせます。ただし、ドキュメントのカラーを完全にコントロールしたい場合は、警告メッセージを有効にすることができます。

ドキュメントを開くためのカラー マネージメント ポリシーを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 [開く ポリシー] 領域で、[RGB] リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **埋め込みカラー プロファイルの使用** — ファイルに埋め込まれた RGB カラー プロファイルを保持します。ドキュメントの元の RGB カラーの外観と RGB カラー値が保持されるため、このオプションの使用を推奨します。
 - **デフォルトのカラー プロファイルの割り当て** — ドキュメントのカラーを定義するためにデフォルトのカラー プロファイルが使用されます。RGB カラー値は保持されますが、RGB カラーの外観は変わる場合があります。
 - **デフォルトのカラー プロファイルに変換** — カラーはデフォルトの RGB カラー プロファイルに変換されます。RGB カラーの外観は保持されますが、カラー値は変わる場合があります。
- 4 [ポリシーを開く] 領域の [CMYK] リスト ボックスから、ドキュメントの CMYK カラーを管理するオプションを選びます。オプションは、RGB カラーに使用できるオプションと同じです。
- 5 [開くポリシー] 領域の [グレースケール] リスト ボックスから、ドキュメントのグレースケール カラーを管理するオプションを選びます。オプションは、RGB カラーに使用できるオプションと同じです。

ファイルのインポートと貼り付け用のカラー マネージメント ポリシーを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [カラー マネジメント] をクリックします。
- 2 [デフォルト] タブをクリックします。
- 3 [インポートと貼り付けのポリシー] 領域で [RGB] リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **ドキュメントのカラー プロファイルに変換** — インポートまたは貼り付けたファイルの RGB カラーをアクティブなドキュメントの RGB カラー プロファイルに変換します。このオプションは、インポートしたファイルにドキュメントのカラー プロファイルと一致しないカラー プロファイルが含まれている場合に使用します。

- **ドキュメントのカラー プロファイルの割り当て** — ドキュメントの RGB カラー プロファイルをインポートまたは貼り付けたファイルに割り当てます。ファイルの RGB カラー値は保持されますが、カラーの外観は変わる場合があります。
 - **埋め込みカラー プロファイルの使用** — ファイルに埋め込まれた RGB カラー プロファイルを使用して、インポートまたは貼り付けたファイルの RGB カラー値と外観を保持します。このオプションはドキュメント カラーを、インポートしたファイルや貼り付けたファイルに埋め込まれたカラー プロファイルに変換します。
- 4 **[インポートと貼り付けのポリシー]** 領域の **[CMYK]** リスト ボックスから、インポートしたファイルまたは貼り付けたファイルの CMYK カラーを管理するオプションを選びます。オプションは、RGB カラーに使用できるオプションと同じです。
 - 5 **[インポートと貼り付けのポリシー]** 領域の **[グレースケール]** リスト ボックスから、インポートしたファイルまたは貼り付けたファイルのグレースケール カラーを管理するオプションを選びます。オプションは、RGB カラーに使用できるオプションと同じです。

カラー プロファイルの紛失や不一致の警告メッセージを有効にするには

- 1 **[ツール]** ▶ **[カラー マネジメント]** をクリックします。
- 2 **[デフォルト]** タブをクリックします。
- 3 **[開くポリシー]** および **[インポートと貼り付けのポリシー]** 領域で、次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - **カラー プロファイルの不一致に関する警告**
 - **カラー プロファイルの紛失に関する警告**

ドキュメントを開くときにカラーを管理する

ドキュメントを開くためのデフォルトのカラー マネジメント ポリシーは、開くすべてのタグ付きドキュメントのカラーを保持し、デフォルトのカラー プロファイルをタグなしドキュメントに割り当てます。

開くドキュメントにカラー プロファイルがない場合や、アプリケーションのデフォルトのカラー プロファイルと一致しないカラー プロファイルが含まれている場合は、Corel PHOTO-PAINT はカラー マネジメント ポリシーに基づいてカラー マネジメントの選択を行います。カラー マネジメントに精通している場合は、カラー プロファイルの紛失や不一致に関する警告を表示して、異なるカラー マネジメントのオプションを選択できます。警告を有効にする方法については、243 ページの「[カラー プロファイルの紛失や不一致の警告メッセージを有効にするには](#)」を参照してください。

カラー プロファイルがないドキュメントを開く

カラー プロファイルがないドキュメントを開く場合に次のオプションを使用して、カラー プロファイルの紛失に関する警告を有効にすることができます。

- **カラー プロファイルの割り当て** — カラー プロファイルをドキュメントに割り当てます。このオプションは、カラー値を保持しますが、カラーの外観は変わる場合があります。たとえば、RGB カラー プロファイルがドキュメントから紛失している場合は、デフォルトで、アプリケーションのデフォルトの RGB カラー プロファイルが割り当てられます。RGB カラー値は保持されますが、RGB カラーはデザインしたように表示されない場合があります。また、アプリケーションのデフォルトのカラー プロファイルとは異なるカラー プロファイルを割り当てすることもできます。ドキュメントの元のカラー スペースが分かっている、関連するカラー プロファイルをインストールする場合にのみ、このオプションの使用を推奨します。
- **デフォルトのカラー プロファイルに変換** — このオプションは **[カラー プロファイルの割り当て]** コントロールとともに使用して、割り当てられたカラー プロファイルのカラーをデフォルトのカラー プロファイルに変換します。カラーは割り当てられたカラー スペースのように表示されますが、そのカラー値は変わる場合があります。

カラー プロファイルが一致しないドキュメントを開く

ドキュメントにデフォルトのカラー プロファイルと一致しないカラー プロファイルがある場合は、次のいずれかのオプションを選択できます。

- **埋め込みカラー プロファイルの使用** — このオプションを選択すると、カラー値が保持され、意図したオリジナルのカラーが表示されます。
- **埋め込みカラー プロファイルを無視して、デフォルトのカラー プロファイルを使用** — デフォルトのカラー プロファイルを割り当てると、カラー値を保持しますが、カラーの外観は変わる場合があります。
- **埋め込みカラー プロファイルがデフォルトのカラー プロファイルに変換** — このオプションでは、埋め込まれたカラー プロファイルのカラーがデフォルトのカラー プロファイルに変換されます。カラーの外観は保持されますが、カラー値は変わる場合があります。既にワークフローに適したカラー マネジメント オプションを設定している場合は、このオプションをお勧めします。

たとえば、Web 用にグラフィックスを作成するため、アプリケーションのデフォルトのカラー スペースとして sRGB を選択したとします。このオプションをオンにすると、ドキュメントは sRGB カラー スペースを使用できるようになり、ドキュメントのカラーが色ずれのない、Web に適したものになります。

ファイルをインポートおよび貼り付ける際のカラーの管理

ファイルのインポートと貼り付け用のデフォルトのカラー プロファイルは、インポートしたり貼り付けたファイルのカラーをアクティブなドキュメントのカラー プロファイルに変換します。インポートしたファイルや貼り付けたファイルのカラー プロファイルが、アクティブなドキュメントのカラー プロファイルと一致しない場合は、カラー変換は行われません。カラー マネージメント ポリシーの詳細については、242 ページの「カラー マネージメント ポリシー」を参照してください。

ただし、プロファイルの紛失と不一致に関する警告を表示して、他のカラー マネージメント オプションを設定できます。警告を表示する方法については、243 ページの「カラー プロファイルの紛失や不一致の警告メッセージを有効にするには」を参照してください。

CorelDRAW (CDR) ファイルなどのベクトル グラフィックスをアクティブなドキュメントにインポートしたり、貼り付けると、ファイルは初めに、アクティブなドキュメントのカラー モードのビットマップに変換されます。たとえば、ドキュメントが RGB カラー モードの場合は、ファイルは RGB カラー モードのビットマップに変換されます。

カラー プロファイルが紛失したファイルをインポートおよび貼り付ける

ファイルのカラー プロファイルが紛失している場合は、そのファイルにカラー プロファイルを割り当ててから、そのカラーをドキュメントのカラー プロファイルに変換できます。ファイルのカラー値が変わります。次の例では、ベクトル グラフィックスのカラー プロファイルが紛失しているため、Corel PHOTO-PAINT はデフォルトのカラー プロファイルをそのファイルに割り当ててから、ファイルのカラーをドキュメントのカラー プロファイル (sRGB) に変換します。ただし、アプリケーションのデフォルトのカラー プロファイルとは異なる CMYK および RGB のカラー プロファイルを割り当てることができます。

カラー プロファイルが一致しないファイルをインポートおよび貼り付ける

ドキュメントのカラー プロファイルと一致しないカラー プロファイルがファイルに含まれている場合は、次のオプションが使用できます。

- **埋め込みカラー プロファイルを無視して、ドキュメントのカラー プロファイルを割り当てる** — カラー値は保持されますが、カラーの外観は変わる場合があります。
- **埋め込みカラー プロファイルからドキュメントのカラー プロファイルに変換** (デフォルトのオプション) — インポートしたファイルのカラーは、埋め込まれたカラー スペースからドキュメントのカラー スペースに変換されます。カラーの外観は保持されますが、カラー値は変わる場合があります。
- **ドキュメントのカラーを埋め込みカラー プロファイルに変換** — ドキュメントのカラーは、インポートされたファイルに埋め込まれたカラー プロファイルに変換されます。インポートまたは貼り付けたファイルのカラーの外観とカラー値は保持されます。

カラー プロファイルが紛失および一致しないファイルをインポートおよび貼り付ける

一部のファイルは、カラー プロファイルが紛失しているとともに、一致しないカラー プロファイルが含まれている可能性があります。このような場合は、紛失および不一致カラー プロファイル用のオプションが含まれたダイアログ ボックスが表示されます。

印刷のカラーを管理する

デフォルトでは、Corel PHOTO-PAINT は、ドキュメントがプリンタに送信されたときにカラー変換を行いません。プリンタはカラー値を受け取り、カラーを解釈します。ただし、プリンタに関連付けられたカラー プロファイルがオペレーティング システムにある場合は、Corel PHOTO-PAINT はそのカラー プロファイルを検出して、それを使ってドキュメントのカラーをプリンタのカラー スペースに変換します。

PostScript プリンタをお持ちの場合は、Corel PHOTO-PAINT または PostScript プリンタにより必要なカラー変換を実行できます。Corel PHOTO-PAINT がカラー変換を行う場合は、ドキュメントのカラーは割り当てられたカラー スペースから PostScript プリンタのカラー スペースに変換されます。プリンタ ドライバのカラー マネージメントを無効にする必要があることに注意してください。これを行わないと、印刷中にアプリケーションとプリンタの両方がカラー マネージメントを行い、ドキュメントのカラーは 2 回補正され、望まない色ずれが発生します。

PostScript プリンタでドキュメントのカラーを変換する場合は、プリンタ ドライバでカラー マネージメント機能をオンにする必要があります。このアドバンス設定法では、プリンタ カラー変換をサポートする PostScript プリンタおよび RIP エンジンのみが使用できます。この方法は、ファイル サイズが大きくなりますが、同じプリント ジョブを異なる印刷サービス プロバイダに送った場合に、カラーの一致を確保できる利点があります。

印刷のカラーの再現について詳しくは、514 ページの「[カラーを正確に印刷する](#)」を参照してください。

また、商業印刷用に作成した PDF ファイルでカラーを管理することができます。詳しくは、535 ページの「[PDF カラー マネジメント オプション](#)」を参照してください。

安全な CMYK ワークフローを使用する

場合によっては、プロジェクトで特定の CMYK カラー値を使用できます。信頼できるカラー再現を確保するには、これらの CMYK カラー値を色見本帳から取得することができます。これらの CMYK カラー値を印刷プロセス全体を通じて保持することにより、好ましくないカラーの変換を防ぐことができるとともに、オリジナル デザインに表示されるカラーの再現が可能になります。CMYK のカラー値を保持するワークフローは、「安全」な CMYK ワークフローと呼ばれます。

Corel PHOTO-PAINT では安全な CMYK ワークフローがサポートされています。デフォルトでは、CMYK のカラー値は開いたドキュメントやインポートまたは貼り付けたドキュメントに保持されます。また、デフォルトでは、CMYK のカラー値はドキュメントを印刷する際に保持されます。

場合によっては、安全な CMYK ワークフローを迂回して、ドキュメントを開いたり、ドキュメントをインポートまたは貼り付けたときに CMYK カラーの外観を保持することができます。このオプションは、デザインのオリジナルのカラーを画面上で見たい場合や、デスクトップ プリンタに出力されるコピーを表示したい場合に役立ちます。CMYK カラーの外観を保持するために、開いたドキュメントや、インポートしたり、貼り付けたドキュメントの CMYK カラーを変換するカラー マネージメント ポリシーを設定できます。さらに、PostScript プリンタに出力する場合は、**[印刷]** ダイアログ ボックスの **[カラー]** ページで **[CMYK 番号を保存]** チェック ボックスをオフにすると、CMYK カラーをプリンタのカラー プロファイルに変換できます。

オンライン表示のカラーを管理する

オンライン表示用のカラー管理は、印刷用のカラー管理よりさらに複雑になる可能性があります。Web 上のドキュメントやイメージは、さまざまなモニタで表示されますが、モニタはキャリブレーションされていないことがよくあります。さらに、ほとんどの Web ブラウザはカラー マネージメントをサポートしておらず、ファイルに埋め込まれたカラー プロファイルを無視します。

Web 専用のドキュメントをデザインする場合は、ドキュメントの RGB カラー プロファイルとして sRGB カラー プロファイルを使用し、RGB カラーを選択します。ドキュメントに異なるカラー プロファイルが含まれている場合は、Web で使用するドキュメントを保存する前に、ドキュメントのカラーを sRGB に変換する必要があります。

オンライン表示用の PDF ファイルを作成する場合は、Adobe Reader や Adobe Acrobat で一致したカラーを再現するため、ファイルにカラー プロファイルを埋め込むことができます。詳しくは、535 ページの「[PDF ファイルのエクスポートでのカラー マネージメント オプションを指定するには](#)」を参照してください。

オンラインで表示する予定の新規ドキュメントを開始する場合は、良好なカラー結果の実現に役立つプリセットを選ぶことができます。また、Corel PHOTO-PAINT には Web ドキュメントのカラー マネージメントプリセットが用意されています。カラー マネージメントプリセットを選択する方法については、241 ページの「[新規ドキュメントにカラー マネージメントプリセットを選択するには](#)」を参照してください。



塗りつぶし

Corel PHOTO-PAINT では、オブジェクト、編集領域、およびイメージを、カラー、パターン、テクスチャで塗りつぶすことができます。塗りつぶしの方法は、さまざまな種類から選択することもできますし、独自に作成することもできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 247 の「標準塗りつぶし」。
- ページ 248 の「グラデーション塗りつぶし」。
- ページ 252 の「ビットマップパターン塗りつぶし」。
- ページ 256 の「テクスチャ塗りつぶし」。

透明パターンを塗りつぶし領域に適用できます。詳しくは、259 ページの「透明」を参照してください。

標準塗りつぶし

標準塗りつぶしは、最も単純な塗りつぶしの種類です。イメージを均一カラーで塗りつぶします。標準塗りつぶしは、バックグラウンドまたは選択したオブジェクトに適用できます。

標準塗りつぶしを適用するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
オブジェクトを塗りつぶすには、まず、選択ツール  でオブジェクトを選択してから塗りつぶしを適用します。
- 2 プロパティ バーの[標準塗りつぶし]ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [塗りつぶしカラー] ピッカーからカラーを選択します。
- 4 イメージ内で、塗りつぶしを適用する場所をクリックします。

可能な操作

塗りつぶしの不透明度の値を指定する

プロパティ バーの [塗りつぶしの透明度] ボックスに値を入力します。値が大きいほど、透明になります。

可能な操作

隣接するピクセルのカラーの近似性に基づいて、塗りつぶされる領域を指定する

プロパティバーの**【許容範囲】**ボックスに値を入力します。値を100にすると、オブジェクト全体または領域全体が塗りつぶされます。

カラーの組み合わせ方法を変更する

プロパティバーの**【マージモード】**リストボックスからマージモードを選択します。



標準塗りつぶしのカラーは、イメージから選択するか、またはカラーモデル、ミキサー、固定パレットまたはカスタムパレットにアクセスすることによって選択することができます。カラーの選択について詳しくは、201ページの「カラー」を参照してください。

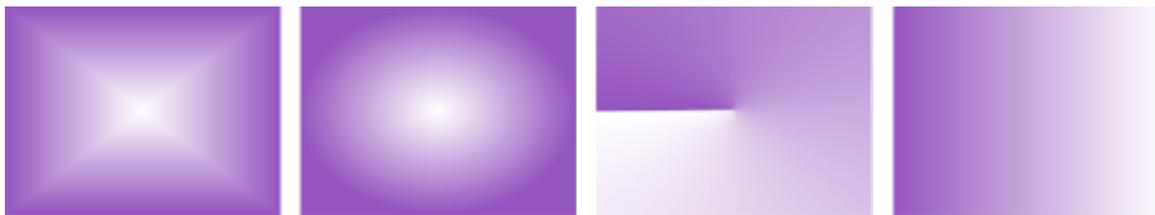
マージモードによって、フォアグラウンドカラーまたは塗りつぶしカラーとイメージのベースカラーのブレンド方法が異なります。マージモードにはブレンドの目的に応じてデフォルト（標準）が設定されていますが、変更することができます。マージモードについて詳しくは、343ページの「マージモード」を参照してください。



カラーパレットのカラーを右クリックして、塗りつぶしカラーを選択することもできます。

グラデーション塗りつぶし

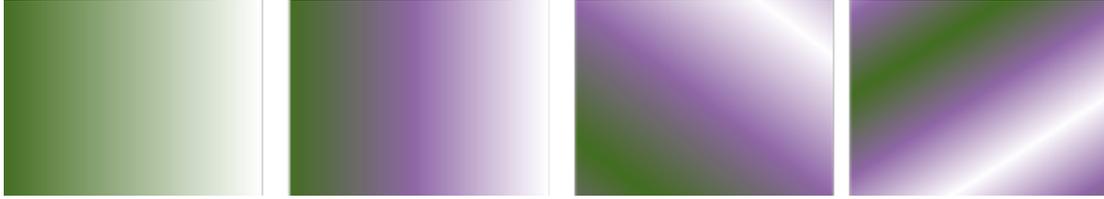
グラデーション塗りつぶしでは、線形、楕円形、円錐形、または長方形のパスに沿ってカラーが変化します。このグラデーション塗りつぶしを使用して、奥行きを与えることができます。グラデーション塗りつぶしは、インタラクティブ塗りつぶしとしても知られています。



標準塗りつぶしと、楕円形、円錐形、線形のグラデーション塗りつぶし

Corel PHOTO-PAINTには、利用可能なグラデーション塗りつぶしのコレクションが用意されています。利用可能なグラデーション塗りつぶしの参照、キーワードによる検索、お気に入りの塗りつぶしのマーク、塗りつぶしの並べ替えができます。詳しくは、271ページの「塗りつぶしや透明を検索および表示する」を参照してください。

グラデーション塗りつぶしは、必要に応じて変更したり、ゼロから独自に作成したりできます。グラデーション塗りつぶしでは、2色以上のカラーを使用でき、カラーが変化する場所を指定できます。塗りつぶしのカラーブレンドの方向、塗りつぶしの角度、中心点、中心などの塗りつぶし属性を指定できます。塗りつぶしのサイズ変更、スムーズ化、斜変形化、ミラー化、繰り返しもできます。



左から右へ: 線形グラデーション塗りつぶしが適用されたオブジェクト。塗りつぶしに別のカラーが追加された結果。塗りつぶしに繰り返しとミラー化が適用された結果。最後に、塗りつぶしが 50 度回転された結果。

作成したグラデーション塗りつぶしは、今後の使用に備えて保存できます。詳しくは、275 ページの「塗りつぶしや透明を保存する」を参照してください。

グラデーション塗りつぶしは、**インタラクティブ塗りつぶしツール**  を使用して適用することもできます。イメージ ウィンドウには、カラー変化を指定するグラデーション設定用矢印が表示されます。グラデーション塗りつぶしの各カラーは、グラデーション設定用矢印の四角形のノードで表されます。カラーの変更や追加、または個々のカラーの透明度の調整が可能です。また、イメージ ウィンドウでは、グラデーション塗りつぶしのサイズと方向を調整することもできます。

グラデーション塗りつぶしを適用するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
オブジェクトを塗りつぶすには、まず、**選択ツール**  でオブジェクトを選択してから塗りつぶしを適用します。
- 2 プロパティ バーの **[グラデーション塗りつぶし]** ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶし]** ピッカーを開き、塗りつぶしサムネールをダブルクリックします。
- 4 イメージ内で、塗りつぶしを適用する場所をクリックします。



マージ モードによって、フォアグラウンド カラーまたは塗りつぶしカラーとイメージのベース カラーのブレンド方法が異なります。マージ モードにはブレンドの目的に応じてデフォルト (標準) が設定されていますが、変更することができます。マージ モードについて詳しくは、343 ページの「マージ モード」を参照してください。

塗りつぶしを検索する方法については、272 ページの「塗りつぶしや透明の検索、絞り込み、並べ替えを行うには」を参照してください。

グラデーション塗りつぶしを作成するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[グラデーション塗りつぶし]** ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[塗りつぶしの編集]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかのボタンをクリックして、グラデーション塗りつぶしの種類を選択します。
 - **[線形グラデーション塗りつぶし]** 
 - **[楕円形グラデーション塗りつぶし]** 
 - **[円錐形グラデーション塗りつぶし]** 
 - **[長方形グラデーション塗りつぶし]** 
- 5 カラー バンド下で始点ノードをクリックして、**[ノード カラー]** ピッカーを開き、カラーを選択します。

- 6 カラーバンド下で終点ノードをクリックして、**[ノード カラー]** ピッカーを開き、カラーを選択します。
- 7 カラーバンド上の **[中心点]** スライダを調整して、2 色の中間点を設定します。

可能な操作

カラーを変更する

対応するノードをクリックして、**[ノード カラー]** ピッカーを開き、カラーを選択します。

中間カラーを追加する

ノードを追加するカラーバンドをダブルクリックします。新しいノードを選択して、**[ノード カラー]** ピッカーを開き、カラーを選択します。

中間カラーの位置を変更する

対応するノードをカラーバンド上の新しい位置までドラッグするか、**[ノードの位置]** ボックスに値を入力します。

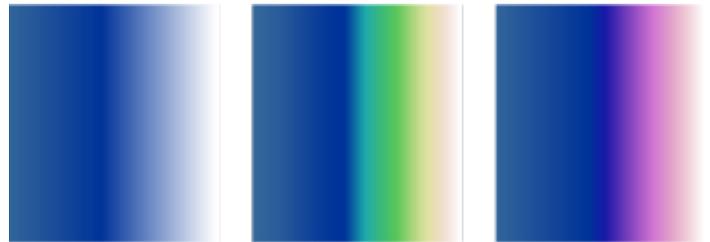
中間カラーを削除する

対応するノードをダブルクリックします。

2 つのノード間でのカラーのブレンド方法を指定する

2 つのノードまたはノード間の中心点を選択して、**[ブレンド方向]** ボタンをクリックし、リストからオプションを選択します。

- **[線形カラーブレンド]** - カラーホイール内で始点カラーから終点カラーに続く直線に沿ってカラーをブレンドします。
- **[時計回りカラーブレンド]** - カラーホイールを時計回りに回って、カラーをブレンドします。
- **[反時計回りカラーブレンド]** - カラーホイールを反時計方向に回って、カラーをブレンドします。



塗りつぶしをミラー化、繰り返し、または反転する

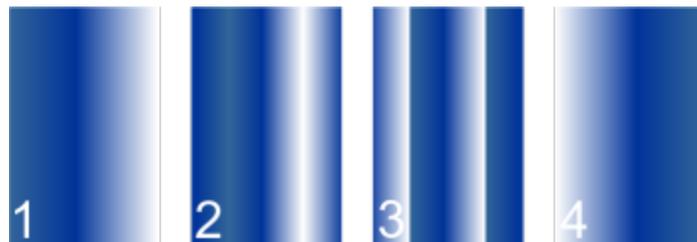
次のいずれかのボタンをクリックします。

- **繰り返しとミラー化** 
- **繰り返し** 
- **[逆転]** 

塗りつぶしをデフォルトの状態に復元するには、**[デフォルトのグラデーション塗りつぶし]**  をクリックします。

繰り返しとミラー化の効果は、塗りつぶしがオブジェクトより小さい場合にのみ現れます。次の図に示されているのは、デフォルトの塗りつぶし (1)、同じ塗りつぶしのサイズを変更した上で繰り返しおよびミラー化を適用した結果 (2)、サイズを変更して繰り返しを適用した塗りつぶし (3)、反転した塗りつぶし (4) です。

可能な操作



グラデーション塗りつぶしの表示または出力に使用するステップ数を指定する

[グラデーションのステップ] ボックスに値を入力します。値が大きいほど、カラー間の変化が滑らかになります。

特定の色から別の色にブレンドする速さを指定する

[アクセラレーション] スライダを調整します。

グラデーション塗りつぶしノード間のカラーの移り変わりを滑らかにする

[つなぎ目をなめらかにする] チェック ボックスをオンにします。

塗りつぶしの幅と高さをオブジェクトの幅と高さの比率に合わせて設定する

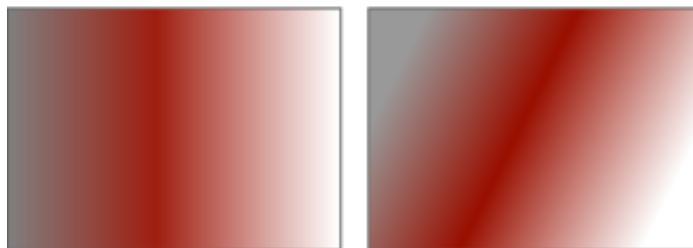
[塗りつぶし幅] ボックスと **[塗りつぶし高さ]** ボックスに値を入力します。

塗りつぶしの中心を上下左右に移動する

[X] ボックスと **[Y]** ボックスに値を入力します。

塗りつぶしを指定角度だけ傾ける

[斜変形] ボックスに値を入力します。



カラーの変化を時計回りまたは反時計回りに回転する

[回転] ボックスに値を入力します。

塗りつぶしが不均衡に傾斜または伸張して見えることを許容する

[自由スケールと斜変形] チェック ボックスをオンにします。



グラデーション塗りつぶしでは、最大 99 色まで使用できます。



ノードのカラーを変更するには、ノードをクリックし、[カラーパレット](#)でカラーをクリックします。

グラデーション塗りつぶしをインタラクティブに適用するには

- 1 ツールボックスの[インタラクティブ塗りつぶし]ツール  をクリックします。
オブジェクトを塗りつぶす場合、塗りつぶしを適用する前に、[選択]ツール  でオブジェクトを選択し、[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの [オブジェクト透明度のロック] ボタン  をクリックして、オブジェクトの形状と透明を保護する必要があります。
- 2 プロパティ バーの[グラデーション塗りつぶし] ボタンをクリックします。
- 3 イメージ ウィンドウ内をドラッグして、グラデーションの矢印を設定します。
- 4 カラー パレットからグラデーション矢印のカラー ノードに、カラー ボックスをドラッグします。黒い矢印は、カラー ボックスが正しい位置にあることを示します。

可能な操作

カラー変化の中心点を設定する	グラデーション矢印のスライダをドラッグします。
カラーを変更する	カラー パレットからグラデーション矢印のカラー ノードに、カラー ボックスをドラッグします。
カラーを追加する	カラー パレットからグラデーション矢印に沿った領域に、カラー ボックスをドラッグします。
カラーを削除する	カラー ノードを右クリックし、[削除] をクリックします。
カラーの透明度を設定する	カラー ノードをクリックし、プロパティ バーの [ノード透明] スライダを調節します。値が大きいほど、透明になります。
グラデーション塗りつぶしのサイズまたは方向を変更する	終点ノードをドラッグします。



マスクを作成して、イメージの一部にグラデーション塗りつぶしを含めることもできます。詳しくは、[279 ページの「マスク」](#)を参照してください。

ビットマップ パターン塗りつぶし

ビットマップ塗りつぶしは、ビットマップを使用してオブジェクトまたはイメージを塗りつぶします。領域は 1 つのビットマップで塗りつぶすことができます。たとえば、領域に小さめのビットマップをタイル状に並べたり繰り返し配置したりすることで、継ぎ目なく連続したパターンを作成できます。



ビットマップパターン塗りつぶしの例

塗りつぶしには複雑でないビットマップを使用するようにしてください。複雑なイメージは、システムメモリを大量に消費し、表示するまでに時間がかかるためです。ビットマップの複雑さは、そのサイズ、解像度、およびビット深度で決まります。

Corel PHOTO-PAINT には、利用可能なビットマップパターン塗りつぶしのコレクションが用意されています。利用可能なパターンの参照、キーワードによるパターンの検索、お気に入りのパターンのマーク、パターンの並べ替えができます。詳しくは、271 ページの「塗りつぶしや透明を検索および表示する」を参照してください。

必要に応じて、ビットマップパターンを変更することができます。たとえば、ビットマップパターンを斜変形化、回転、またはミラー化できます。また、インポートしたファイルから独自のパターンを作成することもできます。

作成した新しいパターンは、今後の使用に備えて保存できます。詳しくは、275 ページの「塗りつぶしや透明を保存する」を参照してください。

Corel PHOTO-PAINT では、写真をビットマップパターンに変換する iOS アプリケーションの Patterns で作成したビットマップパターンを開くことができます。Patterns と Corel PHOTO-PAINT のビットマップパターン効果では、継ぎ目なく連続したパターンを作成したり、タイルの端に沿ったピクセル設定、パターンの輝度、光度、カラーコントラストなどのパターンパラメータを調整したりできます。



ビットマップ塗りつぶしでは、さまざまなバックグラウンドとテクスチャを作成できます。

ビットマップパターン塗りつぶしを適用するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。

オブジェクトを塗りつぶすには、まず、選択ツール  でオブジェクトを選択してから塗りつぶしを適用します。

- 2 プロパティバーの [ビットマップパターン塗りつぶし] ボタン  をクリックします。

- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶし]** ピッカーを開き、塗りつぶしサムネールをダブルクリックします。
- 4 イメージ内で、塗りつぶしを適用する場所をクリックします。



マージモードによって、フォアグラウンド カラーまたは塗りつぶしカラーとイメージのベース カラーのブレンド方法が異なります。マージモードにはブレンドの目的に応じてデフォルト (標準) が設定されていますが、変更することができます。マージモードについて詳しくは、343 ページの「マージモード」を参照してください。

塗りつぶしを検索する方法については、272 ページの「塗りつぶしや透明の検索、絞り込み、並べ替えを行うには」を参照してください。

ビットマップ パターン塗りつぶしを変更するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ビットマップ パターン塗りつぶし]** ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[塗りつぶしの編集]** ダイアログ ボックスで、**[塗りつぶし]** ピッカーを開き、塗りつぶしを選択します。
- 5 次の表からいずれかの作業を実行します。

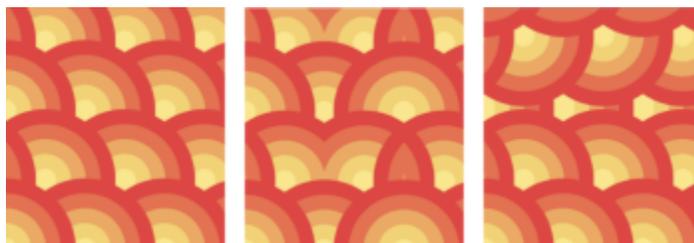
目的

代用ファイルが互いの鏡像になるようにタイルを配置する

作業手順

[タイルを水平方向にミラー化] ボタン  または **[タイルを垂直方向にミラー化]** ボタン  をクリックします。

次の図に、パターン塗りつぶし (左)、それを水平方向にミラー化した結果 (中央)、垂直方向にミラー化した結果 (右) を示します。



放射状または線形のシームレスなブレンドを作成する

[シームレス] 領域の **[放射状ブレンド]** ボタン  または **[直線ブレンド]** ボタン  をクリックし、スライダを調整します。

パターン タイルのエッジとその反対側のエッジのカラーの移り変わりをスムーズ化する

[エッジの一致] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。

パターンの輝度を増減する

[輝度] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。

目的

パターンのグレースケールのコントラストを増減する

パターンのカラー コントラストを増減する

パターンの幅と高さをオブジェクトの幅と高さの比率に合わせて設定する

パターン塗りつぶしの中心を上下左右に移動する

パターンを指定角度だけ傾ける、または回転する

行または列のオフセットをタイルの高さまたは幅の割合で指定する

作業手順

[光度] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。

[カラー] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。

[塗りつぶし幅] ボックスと **[塗りつぶし高さ]** ボックスに値を入力します。

次の図に、パターン タイルのサイズを大から小へ変化させた効果を示します。



[X] ボックスと **[Y]** ボックスに値を入力します。

[斜変形] ボックスまたは **[回転]** ボックスに値を入力します。

この図のベクトルパターン塗りつぶしは 15 度斜変形 (中央) および 15 度回転 (右) されています。



[行オフセット] ボタン  または **[列オフセット]** ボタン  をクリックし、**[% (タイル)]** ボックスに値を入力します。

この図は、列オフセットが 50% (中央) の場合と行オフセットが 50% (右) の場合です。

目的

作業手順



イメージをインポートしてパターン塗りつぶしを作成するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
- 2 プロパティバーの [ビットマップパターン塗りつぶし] ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティバーの [塗りつぶしの編集] ボタン  をクリックします。
- 4 [塗りつぶしの編集] ダイアログボックスで、[選択] ボタンをクリックします。
- 5 [インポート] ダイアログボックスで、使用するイメージを検索し、そのファイル名をダブルクリックします。

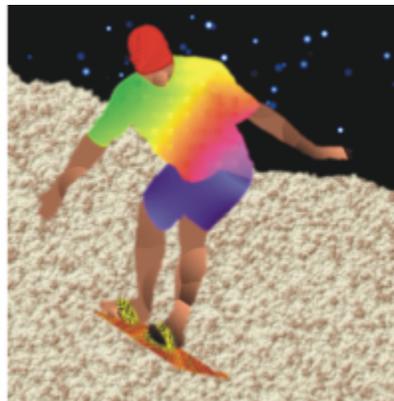


新しいビットマップ塗りつぶしが、[塗りつぶし] ピッカーに表示されます。

テクスチャ塗りつぶし

テクスチャ塗りつぶしは、3D パターンです。水、無機物、雲などの既存のテクスチャ塗りつぶしを使用するか、テクスチャを編集して独自のテクスチャ塗りつぶしを作成します。テクスチャ塗りつぶしには、ファイルをインポートできません。

テクスチャ塗りつぶしを編集する場合は、やわらかさ、濃度、輝度、カラーなどのパラメータを変更します。パラメータは、テクスチャごとに異なります。編集したテクスチャ塗りつぶしは、今後使用できるように保存できます。



テクスチャ塗りつぶしの外観を変更するには、テクスチャ塗りつぶしの属性を変更します。

テクスチャ塗りつぶしを適用するには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
オブジェクトを塗りつぶすには、まず、**選択** ツール  でオブジェクトを選択してから塗りつぶしを適用します。
- 2 プロパティバーの [テクスチャ塗りつぶし] ボタン  をクリックします。

- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[塗りつぶしの編集]** ダイアログ ボックスの **[テキストチャ ライブラリ]** リスト ボックスからテキストチャ ライブラリを選択します。
- 5 **[塗りつぶし]** ピッカーからテキストチャを選択します。
- 6 イメージ内で、塗りつぶしを適用する場所をクリックします。

可能な操作

テキストチャ塗りつぶしのパラメータを編集する

[塗りつぶしの編集] ダイアログ ボックスのテキストチャ パラメータのボックスに値を入力します。

パラメータは、テキストチャによって異なります。

選択したテキストチャの外観のさまざまな変化をプレビューで表示する

[ランダム化] ボタンをクリックします。ボタンをクリックするたびに、ロックしていないパラメータがランダムに変更されて、その変更結果が **プレビュー** ウィンドウに表示されます。

代用ファイルが互いの鏡像になるようにタイルを配置する

[変形] をクリックし、**[水平方向にミラー化]** ボタンまたは **[垂直方向にミラー化]** ボタンをクリックします。

塗りつぶしのサイズを変更する

[変形] をクリックし、**[塗りつぶし幅]** ボックスと **[塗りつぶし高さ]** ボックスに値を入力します。

塗りつぶしの中心を上下左右に移動する

[変形] をクリックし、**[X]** ボックスと **[Y]** ボックスに値を入力します。

塗りつぶしを指定角度だけ回転する

[変形] をクリックし、**[回転]** ボックスに値を入力します。

塗りつぶしを指定角度だけ傾ける

[変形] をクリックし、**[斜変形]** ボックスに値を入力します。

行または列のオフセットをタイルの幅または高さの割合で指定する

[変形] をクリックし、**[行オフセット]** ボタン または **[列オフセット]** ボタンをクリックします。**[% (タイル)]** ボックスに値を入力します。

テキストチャ塗りつぶしのビットマップの解像度を指定する

[テキストチャの解像度およびサイズ] をクリックし、**[ビットマップの解像度]** ボックスに値を入力します。

テキストチャ塗りつぶしを保存する

[テキストチャの保存] ボタン  をクリックして、**[テキストチャに名前を付けて保存]** ダイアログ ボックスの **[テキストチャ名]** ボックスに名前を入力します。**[ライブラリ名]** リスト ボックスからライブラリを選択します。

塗りつぶしの不透明度の値を指定する

プロパティ バーの **[塗りつぶしの透明度]** ボックスに値を入力します。値が大きいほど、透明になります。

可能な操作

隣接するピクセルのカラーの近似性に基づいて、塗りつぶされる領域を指定する

プロパティバーの **[許容範囲]** ボックスに値を入力します。値を 100 にすると、オブジェクト全体または領域全体が塗りつぶされます。

カラーの組み合わせ方法を変更する

プロパティバーの **[マージモード]** リストボックスからマージモードを選択します。



透明

オブジェクトの透明度を変更して、オブジェクトの下にあるイメージ要素を見えるようにすることができます。オブジェクトの透明度を変更すると、個々のピクセルのグレースケール値が変化します。

通常は、透明度を変更すると、その変更は元に戻せません。透明度の変更を単独で適用し、オブジェクトに影響を与えないようにするには、クリップマスクを使用します。詳しくは、441 ページの「クリップマスクを使用する」を参照してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 259 の「標準透明」。
- ページ 260 の「透明グラデーション」。
- ページ 263 の「ビットマップパターン透明」。
- ページ 266 の「透明テキスト」。
- ページ 268 の「ブラシストロークを使用した透明」。
- ページ 268 の「選択したカラーの透明度」。
- ページ 268 の「オブジェクトをブレンドする」。

標準透明

標準透明では、オブジェクトまたは編集領域のすべてのピクセルの透明度が均等に変更されます。標準透明を単一のオブジェクトまたは編集領域に適用できます。



標準透明がギターに適用されています。

標準透明を適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティバーの **[標準透明]** ボタン  をクリックします。
- 4 プロパティバーの **[透明度]** ボックスに値 (0~100) を入力します。



透明オブジェクトのグレースケール値は 0、不透明オブジェクトのグレースケール値は 255 です。

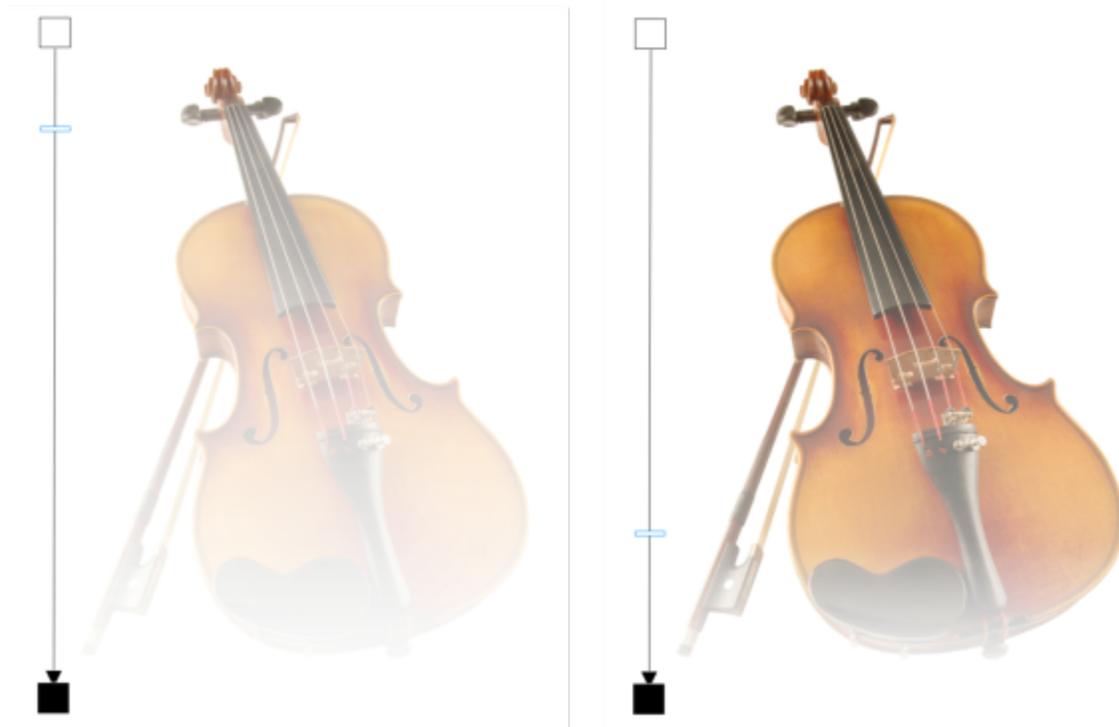
[透明度] ボックスは、モノクロ (1 ビット) イメージでは使用できません。



プロパティバーの **[透明度選択]** を開いて、プリセットの標準透明を選択することもできます。

透明グラデーション

透明グラデーションは、ある透明度値から別の透明度値にオブジェクトをフェードします。透明グラデーションでは、線形、楕円形、円錐形、長方形を選択できます。



線形透明グラデーションがバイオリンに適用され (左)、イメージ ウィンドウのスライダをドラッグして調整されています (右)。

このアプリケーションには、利用可能な透明グラデーションのコレクションが用意されています。利用可能な透明グラデーションの参照、キーワードによる検索、お気に入りの塗りつぶしのマーク、塗りつぶしの並べ替えができます。塗りつぶしパックを追加でダウンロードし、透明として使用することもできます。詳しくは、271 ページの「塗りつぶしや透明を検索および表示する」を参照してください。

ノードの追加/削除を行ったり、各ノードの透明度を指定したりすることによって、透明グラデーションを作成できます。また、透明グラデーションの逆転、ミラー化、サイズ変更、斜変形を実行したり、その他の変形を適用することもできます。

作成または編集した透明グラデーションは、今後の使用に備えて保存できます。詳しくは、275 ページの「塗りつぶしや透明を保存する」を参照してください。

透明グラデーションを適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度ツール**  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[透明グラデーション]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[透明度]** ピッカーを開き、使用するサムネールをダブルクリックします。



[透明度] ピッカーで透明を検索する方法については、272 ページの「塗りつぶしや透明の検索、絞り込み、並べ替えを行うには」を参照してください。

透明グラデーションを作成するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度ツール**  をクリックします。

- 3 プロパティ バーの **[透明グラデーション]** ボタン  をクリックします。
- 4 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **線形透明グラデーション** 
 - **楕円形透明グラデーション** 
 - **円錐形透明グラデーション** 
 - **長方形透明グラデーション** 
- 5 プロパティ バーの **[透明度の編集]** ボタン  をクリックします。
- 6 **[透明度の編集]** ダイアログ ボックスで、次の表に示すいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
始点の透明度を変更する	グレースケール バンドの下にある開始ノードをクリックして、 [ノードの透明度] ボックスに値を入力します。
終点の透明度を変更する	グレースケール バンドの下にある終了ノードをクリックして、 [ノードの透明度] ボックスに値を入力します。
始点と終点の透明度の中心点を設定する	グレースケール バンドの上の中心点スライダを調整して、透明度の中心点を設定します。
中間透明度を追加する	ノードを追加するグレースケール バンドをダブルクリックします。新規ノードを選択して、 [ノードの透明度] ボックスに値を入力します。
中間透明度の位置を変更する	対応するノードをグレースケール バンド上の新しい位置までドラッグするか、 [ノードの位置] ボックスに値を入力します。
中間透明度を削除する	対応するノードをダブルクリックします。
透明パターンをミラー化、繰り返し、逆転する	次のいずれかのボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> • 繰り返しとミラー化  • 繰り返し  • 透明度の逆転 
デフォルトの透明度に戻す	[デフォルトの透明度] ボタン  をクリックします。
透明グラデーションの表示または印刷に使用するステップ数を指定する	[デフォルトに設定] チェック ボックスをオンにして、グラデーションのステップのロックを解除し、 [ステップ] ボックスに値を指定します。
透明グラデーションが 1 つの透明度から別の透明度にブレンドする速さを指定します。	[集中化] ボックスに値を入力します。

目的

透明グラデーション ノード間の変わり目を滑らかにする

オブジェクトの幅と高さに対する割合で透明度の幅と高さを設定する

透明度の中心を上下左右に移動する

透明度を指定角度だけ傾ける

透明度を指定角度だけ回転する

透明度が不均衡に傾斜または伸長して見えることを許容する



カラーパレットからカラーをオブジェクトの透明ノード

換することもできます。

作業手順

[つなぎ目をなめらかにする] チェック ボックスをオンにします。

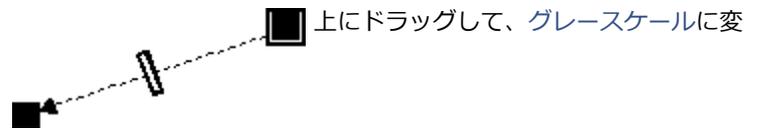
[透明度の幅] ボックスと **[透明度の高さ]** ボックスに値を入力します。

[X] ボックスと **[Y]** ボックスに値を入力します。

[斜変形] ボックスに値を入力します。

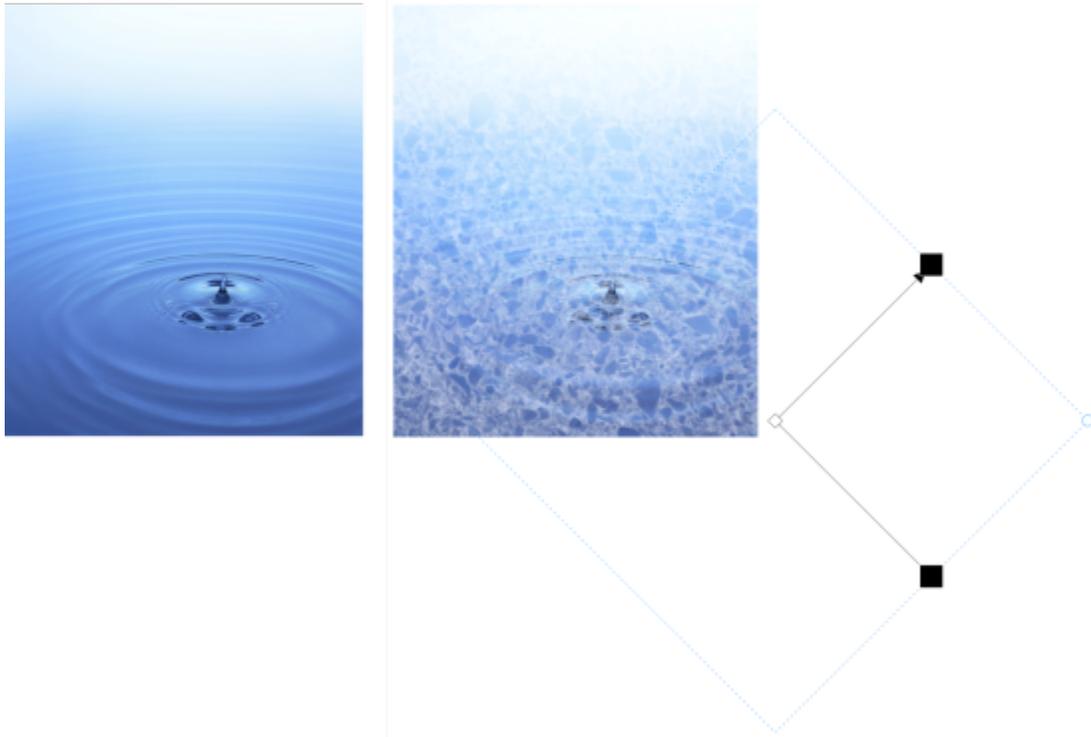
[回転] ボックスに値を入力します。

[自由スケールと斜変形] チェック ボックスをオンにします。



ビットマップ パターン透明

透明の作成にはビットマップ パターンを使用できます。パターン透明はパーソナル ライブラリや共有ライブラリから選択できます。利用可能な透明パターンの参照、キーワードによる検索、お気に入りの透明パターンのマーク、パターンの並べ替えができます。塗りつぶしパックを追加でダウンロードし、透明パターンとして使用することもできます。詳しくは、271 ページの「塗りつぶしや透明を検索および表示する」を参照してください。



ビットマップ パターンの透明がオブジェクトに適用されました (右)。

必要に応じて、ビットマップ パターンを変更することができます。たとえば、ビットマップ パターンを斜変形化、回転、またはミラー化できます。Corel PHOTO-PAINT では、継ぎ目なく連続したパターンを作成したり、タイルの端に沿ったピクセル設定、パターンの輝度、光度、カラー コントラストなどのパターン パラメータを調整したりできます。

インポートしたイメージからビットマップ パターンを作成することもできます。

作成または編集したビットマップ パターン透明は、後で使用できるように保存できます。詳しくは、275 ページの「塗りつぶしや透明を保存する」を参照してください。

ビットマップ パターン透明を適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [**ビットマップ パターン透明**] ボタン  をクリックします。
- 4 [**透明度**] ピッカーを開き、使用するサムネールをダブルクリックします。



[透明度] ピッカーで透明を検索する方法については、272 ページの「塗りつぶしや透明の検索、絞り込み、並べ替えを行うには」を参照してください。

ビットマップ パターン透明を修正または作成するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [**ビットマップ パターン透明**] ボタン  をクリックします。

- 4 プロパティ バーの **[透明度の編集]** ボタン  をクリックします。
- 5 **[透明度の編集]** ダイアログ ボックスで、**[透明度選択]** から透明パターンを選択します。
- 6 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
パターンのフォアグラウンド透明度を変更する	[フォアグラウンド透明度] スライダを調節します。
パターンのバックグラウンド透明度を変更する	[バックグラウンド透明度] スライダを調節します。
代用ファイルが互いの鏡像になるようにタイルを配置する	[水平方向にミラー化]  ボタンまたは [垂直方向にミラー化]  ボタンをクリックします。
放射状または線形のシームレスなブレンドを作成する	[シームレス] 領域で、 [放射状ブレンド] ボタン  または [直線ブレンド] ボタン  をクリックし、スライダを調節します。
パターン タイルのエッジとその反対側のエッジのカラーの移り変わりをスムーズ化する	[エッジの一致] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。
パターンの輝度を増減する	[輝度] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。
パターンのグレースケールのコントラストを増減する	[光度] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。
パターンのカラー コントラストを増減する	[カラー] チェック ボックスをオンにして、スライダを調整します。
パターンのサイズを変更する	[透明度の幅] ボックスまたは [透明度の高さ] ボックスに値を入力します。
パターン塗りつぶしの中心を上下左右に移動する	[X] ボックスと [Y] ボックスに値を入力します。
パターンを指定角度だけ傾ける	[斜変形] ボックスに値を入力します。
パターンを指定角度だけ回転する	[回転] ボックスに値を入力します。
行または列のオフセットをタイルの高さまたは幅の割合で指定する	[行オフセット] ボタン  または [列オフセット] ボタン  をクリックし、 [% (タイル)] ボックスに値を入力します。



オブジェクトの斜変形または回転ハンドルをドラッグして、パターンを斜変形、回転させることもできます。
プロパティバーのコントロールを使用することもできます。

インポートしたイメージからビットマップパターンを作成するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティバーの [**ビットマップパターン透明**] ボタン  をクリックします。
- 4 プロパティバーの [**透明度の編集**] ボタン  をクリックします。
- 5 [**透明度の編集**] ダイアログボックスで、[**選択**] をクリックします。
- 6 [**インポート**] ダイアログボックスで、使用するイメージを検索し、そのファイル名をダブルクリックします。

透明テクスチャ

テクスチャを使用して透明効果を作成できます。水、無機物、雲などの既存のテクスチャを使用するか、またはテクスチャを編集して独自の透明テクスチャを作成します。



透明テクスチャがオブジェクトに適用されています。

テクスチャを編集する場合は、やわらかさ、濃度、輝度、カラーなどのパラメータを変更します。パラメータは、テクスチャごとに異なります。テクスチャのタイルのミラー化、サイズ変更、オフセットなどのその他の変形を適用することも可能です。テクスチャを編集した後、今後使用するため保存することができます。

透明テキストを適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスで **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティバーの **[透明テキスト]** ボタン  をクリックします。
- 4 プロパティバーの **[透明度の編集]** ボタン  をクリックします。
- 5 **[透明度の編集]** ダイアログボックスの **[テキストライブラリ]** リストボックスからテキストライブラリを選択します。
- 6 **[塗りつぶし]** ピッカーからテキストを選択します。
- 7 次の表からいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
テキストのフォアグラウンド透明度を変更する	[フォアグラウンド透明度] スライダを調節します。
テキストのバックグラウンド透明度を変更する	[バックグラウンド透明度] スライダを調節します。
テキストパラメータを編集する	テキストパラメータボックスに値を入力します。 パラメータは、テキストによって異なります。
選択したテキストの外観のさまざまな変化をプレビューで表示する	[ランダム化] をクリックします。ボタンをクリックするたびに、ロックしていないパラメータがランダムに変更されて、その変更結果が プレビュー ウィンドウに表示されます。
代用ファイルが互いの鏡像になるようにタイルを配置する	[変形] をクリックし、 [水平方向にミラー化] ボタン  または [垂直方向にミラー化] ボタン  をクリックします。
テキストのタイルのサイズを変更する	[変形] をクリックし、 [透明度の幅] ボックスと [透明度の高さ] ボックスに値を入力します。
テキストの中心を上下左右に移動する	[変形] をクリックし、 [X] ボックスと [Y] ボックスに値を入力します。
テキストを指定角度で回転する	[変形] をクリックし、 [回転] ボックスに値を入力します。
テキストを指定角度で傾ける	[変形] をクリックし、 [斜変形] ボックスに値を入力します。
行または列のオフセットをタイルの幅または高さの割合で指定する	[変形] をクリックし、 [行オフセット] ボタン  または [列オフセット] ボタン  をクリックします。 [% (タイル)] ボックスに値を入力します。
テキストのビットマップ解像度を指定する	[テキストの解像度およびサイズ] 領域までスクロールし、 [ビットマップの解像度] ボックスに値を入力します。

目的

テキストチャを保存する

作業手順

[**テキストチャの保存**] ボタン  をクリックして、[**テキストチャに名前を付けて保存**] ダイアログ ボックスの [**テキストチャ名**] ボックスに名前を入力します。 [**ライブラリ名**] リスト ボックスからライブラリを選択します。

ブラシストロークを使用した透明

ブラシストロークを使用してオブジェクトの一部の透明度を変更できます。ブラシストロークのペン先の形やサイズ、不透明度を変更します。

ブラシストロークを使用して透明度を適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスの**オブジェクト透明ブラシ** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [**ペン先の形**] ピッカーを開き、形状をクリックします。
- 4 [**ペン先のサイズ**] ボックスに値を入力します。
- 5 [**不透明度**] ボックスに値を入力して、ブラシ ストロークの**透明**レベルを設定します。
- 6 オブジェクトの上をドラッグします。



角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで [**丸型のペン先**] ボタン  または [**角型のペン先**] ボタン  をクリックして簡単に選択できます。

選択したカラーの透明度

アクティブなオブジェクトで、特定のカラーまたはカラー範囲のすべてのピクセルを透明にすることができます。カラー選択範囲ノードを 1 つまたはすべて削除すれば、特定のカラーのピクセルは再び**不透明**になります。

オブジェクトに含まれる特定のカラーを透明にするには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスの**カラー透明** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [**許容範囲**] ボックスに値を入力して、**透明**になるカラーの範囲を指定します。
周囲のカラーを透明な**ピクセル**とブレンドする場合は、 [**スムーズ化**] ボックスに値を入力します。値が大きいほど、なめらかに変化します。
- 4 イメージ ウィンドウでカラーをクリックします。

オブジェクトをブレンドする

オブジェクトを、重ね順で下にある他のオブジェクトとブレンドするか、バックグラウンドとブレンドして、特殊な効果を作成することができます。設定を変化させると、イメージ ウィンドウの透明度効果を示すプレビューも変化します。

オブジェクトをブレンドするには

- 1 [**オブジェクト**] ##### 右クリックして [**オブジェクト プロパティ**] を選択します。

- 2 [オブジェクトのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[一般] タブをクリックします。
- 3 [ブレンド] リスト ボックスで、ブレンドするチャンネルを選択します。
- 4 [アクティブなオブジェクト] および[基礎コンポジット] のグラフで、次のいずれかのノードをドラッグします。
 - 最大値の増加 (左上のノード) - オブジェクト内にあるピクセルの最大グレースケール値の上限を指定します。
 - 最小値の増加 (左下のノード) - オブジェクト内にあるピクセルの最小グレースケール値の上限を指定します。
 - 最大値の減少 (右上のノード) - オブジェクト内にあるピクセルの最大グレースケール値の下限を指定します。
 - 最小値の減少 (右下のノード) - オブジェクト内にあるピクセルの最小グレースケール値の下限を指定します。

可能な操作

ブレンド方法を選択する

[マージ] リスト ボックスからマージ モードを選択します。

不透明度を調整する

[不透明度] スライダーをドラッグします。



[ブレンド] リスト ボックスの右のボックスには、選択したオブジェクトのピクセルのグレースケール値と透明度が表示されません。

ピクセルのグレースケール値は 0 (黒) から 255 (白) までの範囲で、ピクセルの不透明度は 0 (透明) から 100 (不透明) までの範囲で指定できます。指定した範囲に含まれないアクティブなオブジェクトのピクセルは隠れ、下になっているオブジェクトのピクセルが見えるようになります。



塗りつぶしや透明を検索、管理、保存する

ビットマップパターン、グラデーション塗りつぶし、透明グラデーションを使用する場合は、ローカルライブラリや共有ネットワークフォルダにアクセスし、塗りつぶしや透明パターンを参照、検索、保存することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 271 の「塗りつぶしや透明を検索および表示する」。
- ページ 273 の「塗りつぶしと透明を管理する」。
- ページ 275 の「塗りつぶしや透明を保存する」。

塗りつぶしや透明を検索および表示する

Corel PHOTO-PAINT では、使用しているコンピュータ、ポータブルメディアデバイス、ネットワークフォルダにあるベクトルパターン、ビットマップパターン、グラデーション塗りつぶしを使用、参照、検索できます。これらの塗りつぶしは、すべて透明パターンとしても使用できます。詳しくは、259 ページの「透明」を参照してください。

まず、Corel では **[塗りつぶし]** および **[透明]** ピッカーの **[すべてのコンテンツ]** にローカル塗りつぶしがあります。これらの塗りつぶしは、**Documents¥Corel¥Corel Content¥Fills** フォルダにあります。塗りつぶしのコレクションを拡充する場合は、**[追加]** ダイアログボックスで塗りつぶしパックを追加でダウンロードできます。

Documents¥Corel¥Corel Content¥Fills フォルダ以外のローカルフォルダに保存されている塗りつぶしとパターンにアクセスするには、**[塗りつぶし]** および **[透明]** ピッカーでこれらのフォルダへのリンクを作成できます。こうしたリンクはエイリアスと呼ばれています。エイリアスは他にも、共有ネットワーク上の場所や、USB フラッシュドライブやポータブルハードドライブのような 2 次ストレージデバイスに保存された塗りつぶしへのアクセスに使用できます。

また、お気に入りや最近使用した塗りつぶしや透明のリストを表示することもできます。

一度に検索および参照できるパック、フォルダ、リストは 1 つだけです。さらに、**[再帰表示]** オプションを有効にすることで、**[すべてのコンテンツ]** ライブラリ全体を参照および検索することもできます。

塗りつぶしが多く含まれるフォルダをコンピュータにコピーするときには、Windows によるフォルダのインデックス処理に時間がかかることがあります。このようなフォルダに含まれる塗りつぶしを短時間で表示、参照、検索できるようにするには、フォルダのインデックスを作り直す必要がある場合があります。

塗りつぶしや透明をより簡単に検索できるよう、抽象、自然などのカテゴリに基づいてフィルタを適用することができます。また、ローカルの塗りつぶしや透明を名前、作成日、変更日で並べ替えることもできます。

塗りつぶしについて詳しくは、247 ページの「塗りつぶし」を参照してください。

塗りつぶしや透明がサムネール イメージとして表示されます。サムネールの上にポインタを移動すると、ファイルの名前や場所を表示できます。サムネールのサイズを調整して、塗りつぶしや透明のプレビューをより速く簡単にできます。また、**[塗りつぶし]** ピッカーや **[透明度]** ピッカーのサイズを変更して、一度に表示されるサムネールの数を増やすこともできます。

塗りつぶしや透明の検索、絞り込み、並べ替えを行うには

- 1 ツールボックスで、**塗りつぶし** ツール  または **オブジェクトの透明度** ツール  をクリックします。
オブジェクトを塗りつぶすには、まず、**選択** ツール  でオブジェクトを選択してから塗りつぶしを適用します。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **[グラデーション塗りつぶし]**  または **[透明グラデーション]** 
 - **[ビットマップ パターン塗りつぶし]**  または **[ビットマップ パターン透明]** 
- 3 プロパティ バーの **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーを開きます。
- 4 **[コンテンツ ソースを選択]** リスト ボックスで、検索または参照するローカル パック、フォルダ、ネットワーク上の場所またはリストを選択します。**[すべてのコンテンツ]** の項目には、Corel 提供の塗りつぶしパックやユーザーが追加した塗りつぶしパックおよび塗りつぶしが表示されます。
検索するには、**[検索]** ボックスにキーワードを入力し、**Enter** キーを押します。

可能な操作

[すべてのコンテンツ] ライブラリに含まれている全アイテムを参照または検索する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[すべてのコンテンツ]** を選択します。**[オプション]** ボタン  をクリックし、**[再帰参照]** をクリックします。

フォルダのインデックスを再作成する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[すべてのコンテンツ]** またはエイリアスを選択します。**[オプション]** ボタン  をクリックし、**[フォルダの再インデックス]** をクリックします。

最近使用した 25 個の塗りつぶしやパターンを順に個表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[最近使用したファイル]** を選択します。

塗りつぶしや透明のお気に入りを表示する

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで **[お気に入り]** を選択します。塗りつぶしをお気に入りとしてマークする方法については、275 ページの「塗りつぶしと透明を管理するには」を参照してください。

塗りつぶしや透明を絞り込む

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで、**[すべてのコンテンツ]** からパックを選択するか、エイリアスを選択します。**[フィルタ]** リスト ボックスからカテゴリを選択します。

塗りつぶしや透明を並べ替える

[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで、**[すべてのコンテンツ]** からパックを選択するか、エイリアスを選択します。**[オプション]** ボタン  をクリックし、次のいずれかを選択します。

- **[名前で並べ替え]** では、塗りつぶしや透明が塗りつぶしの名前でアルファベット順に並べ替えられます。
- **[作成日で並べ替え]** では、塗りつぶしや透明が作成日の新しい順に並べ替えられます。

可能な操作

- **[最後の变更日期で並べ替え]** では、塗りつぶしや透明が変更日の新しい順に並べ替えられます。

[お気に入り] リストの塗りつぶしや透明は、お気に入りとしてマークされた日付の順に自動で並べ替えら、**[お気に入り]** に追加された最も新しい塗りつぶしまたは透明が先頭に表示されます。

[最近使用したファイル] リストの塗りつぶしや透明は使用日の順に自動で並べ替えられ、最後に使用された塗りつぶしまたは透明が先頭に表示されます。



この手順は、ビットマップパターン、グラデーション塗りつぶしと透明グラデーションにのみ適用されます。

塗りつぶしパックや透明パックを新たにダウンロードして追加するには

- 1 プロパティバーの **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーを開きます。
- 2 **[コンテンツソースを選択]** リストボックスを開き、**[新規追加]** をクリックします。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 **[追加]** ダイアログボックスで、必要な塗りつぶしパックをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を実行します。
 - **[購入]** をクリックし、画面の説明に従って、アイテムを購入します。
 - 製品またはサブスクリプションにアイテムがある場合は、**[ダウンロード]** をクリックします。

塗りつぶしや透明がある場所へのエイリアスを追加するには

- 1 プロパティバーの **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーを開きます。
- 2 **[コンテンツソースを選択]** リストボックスを開き、**[新規追加]** をクリックします。
- 3 **[エイリアスの作成]** をクリックします。
- 4 **[塗りつぶしライブラリの検索]** ダイアログボックスで、必要なフォルダまたは場所を参照します。
- 5 **[フォルダを選択]** をクリックします。

塗りつぶしまたは透明のファイル名と場所を表示するには

- **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーで、サムネールの上にマウスのポインタを置きます。

塗りつぶしや透明のサムネールのサイズを調整するには

- **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーで、**[サムネールサイズ]** スライダを調節します。

[塗りつぶし] ピッカーまたは [透明度] ピッカーのサイズを変更する

- **[塗りつぶし]** ピッカーまたは **[透明度]** ピッカーの右下隅をドラッグします。
右側をドラッグして幅を広げたり、下側をドラッグして高さを高くしたりできます。

塗りつぶしと透明を管理する

[塗りつぶし] ピッカーと **[透明度]** ピッカーでは、ローカルパックやエイリアス (ローカルフォルダ、ネットワークの場所、2 次ストレージデバイスへのリンク) のリストを管理できます。たとえば、ローカルパックやエイリアスの名前を変更したり、エイリアス

をリストから削除したりできます。塗りつぶしフォルダが削除されてエイリアスが機能しない場合は、別の場所を参照してリンクを復元することができます。

お気に入りの塗りつぶしや透明は、お気に入りとしてマークして簡単に見つけられるようにしておけます。また、塗りつぶしや透明のプロパティの表示や変更もできます。たとえば、名前や言語の変更、新しいタグの追加や既存のタグの削除が可能です。不要になった塗りつぶしや透明は削除できます。

[塗りつぶし] および [透明度] ピッカーの塗りつぶしパックのリストを更新するには

- 1 ツールボックスで、塗りつぶし ツール  またはオブジェクトの透明度ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - [グラデーション塗りつぶし]  または [透明グラデーション] 
 - [ビットマップ パターン塗りつぶし]  または [ビットマップ パターン透明] 
- 3 プロパティ バーの [塗りつぶし] ピッカーまたは [透明度] ピッカーを開きます。
- 4 [すべてのコンテンツ] の [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスから塗りつぶしパックを選択します。
- 5 [オプション] ボタン  をクリックし、次の表からいずれかのタスクを実行します。

目的	作業手順
塗りつぶしパックの名前を変更する	[名前の変更] をクリックし、[名前の変更] ダイアログ ボックスの [名前] ボックスに名前を入力します。
Windows エクスプローラで塗りつぶしパックを開く	[フォルダの場所を開く] をクリックします。
塗りつぶしパックを削除する	[フォルダの場所を開く] をクリックします。Windows エクスプローラでパックのあるフォルダを選択し、パックを右クリックして、[削除] をクリックします。 この操作により、塗りつぶしパックが削除され、[塗りつぶし] および [透明度] ピッカーのリストからも削除されます。

[塗りつぶし] および [透明度] ピッカーでエイリアスのリストを更新するには

- 1 ツールボックスで、塗りつぶし ツール  またはオブジェクトの透明度ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - [グラデーション塗りつぶし]  または [透明グラデーション] 
 - [ビットマップ パターン塗りつぶし]  または [ビットマップ パターン透明] 
- 3 プロパティ バーの [塗りつぶし] ピッカーまたは [透明度] ピッカーを開きます。
- 4 [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスからエイリアスを選択します。
- 5 [オプション] ボタン  をクリックし、次の表からいずれかのタスクを実行します。

目的	作業手順
移動したフォルダまたは名前が変更されたフォルダを参照する	[参照] をクリックし、塗りつぶしのあるフォルダへ移動します。

目的	作業手順
エイリアスの名前を変更する	[名前の変更] をクリックし、[名前の変更] ダイアログ ボックスの [名前] ボックスに名前を入力します。
リストからエイリアスを削除する	[削除] をクリックします。
Windows エクスプローラ でフォルダを開く	[フォルダの場所を開く] をクリックします。

塗りつぶしと透明を管理するには

- 1 ツールボックスで、塗りつぶし ツール  またはオブジェクトの透明度 ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - [グラデーション塗りつぶし]  または [透明グラデーション] 
 - [ビットマップ パターン塗りつぶし]  または [ビットマップ パターン透明] 
- 3 プロパティ バーの [塗りつぶし] ピッカーまたは [透明度] ピッカーを開きます。
- 4 次の表からいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
塗りつぶしまたはパターンにお気に入りとしてマークを付ける	サムネールを右クリックし、[お気に入り] をクリックします。
ローカル ライブラリの塗りつぶしまたはパターンの名前、またはそれに関連付けられているタグの名前を変更する	サムネールを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックスで、次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none"> • [言語] リスト ボックスで言語を選択します。 • [タイトル] ボックスに新しい名前を入力します。 • [カテゴリ] リスト ボックスからカテゴリを選択して、塗りつぶしまたはパターンを分類します。 • [タグ] ボックスでタグの追加または削除を行います。
ローカル ライブラリから塗りつぶしまたはパターンを削除する	サムネールを右クリックし、[削除] をクリックします。



この手順は、ビットマップ パターンおよびグラデーション塗りつぶしと透明グラデーションにのみ適用されます。

塗りつぶしや透明を保存する

作成または変更した塗りつぶしパターンや透明パターンは、保存して、選択した言語で名前やタグなどのメタデータを追加できます。塗りつぶしとパターンは、拡張子が .fill の特別なファイル形式で保存されます。このファイル形式では、塗りつぶしまたはパターンに適用した変形に関する情報が保持されます。

カスタムの塗りつぶしや透明を保存するには

- 1 ツールボックスで、塗りつぶし ツール  またはオブジェクトの透明度 ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - グラデーション塗りつぶし 
 - [透明グラデーション] 

- [ビットマップ パターン塗りつぶし] 
- [ビットマップ パターン透明] 

3 プロパティ バーの [塗りつぶしの編集] ボタン  または [透明度の編集] ボタン  をクリックします。

4 [塗りつぶしの編集] ダイアログ ボックスで、[新規として保存] ボタン  をクリックします。

このボタンは、グラデーションおよびビットマップ パターンの塗りつぶしと透明では使用できますが、テキストの塗りつぶしと透明では使用できません。

5 [カスタム [塗りつぶしの種類] の作成] ダイアログ ボックスで、リスト ボックスから言語を選択し、塗りつぶしまたはパターン の名前を入力します。次に、塗りつぶしまたはパターンに関連付けるタグを入力します。



パーソナル ライブラリの塗りつぶしやパターンは、デフォルトで **Documents¥Corel¥Corel Content¥Fills** フォルダに保存されます。塗りつぶしやパターンの保存先となるデフォルトの場所を変更できます。詳しくは、118 ページの「[コンテンツの場所を変更する](#)」を参照してください。



[塗りつぶし] または [透明度] ピッカーの [カスタム塗りつぶしを保存] ボタン  をクリックして塗りつぶしや透明を保存することもできます。塗りつぶしや透明は、[塗りつぶし] または [透明度] ピッカーの [コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスで選択された場所に保存されます。[コンテンツ ソースを選択] リスト ボックスから [最近使用したファイル] を選択した場合、塗りつぶしまたは透明は **Documents¥Corel¥Corel Content¥Fills** フォルダに保存されます。

マスクとパス

マスク.....	279
パス.....	305
アルファ チャンネルを使用したマスク.....	317



マスク

Corel PHOTO-PAINT では、**マスク**を使用して、イメージ内の編集領域を分離し、残りの領域が変更されないように保護することができます。マスクの**編集領域**と**保護領域**を組み合わせると、イメージを正確に修正することができます。一部のプログラムでは、編集領域は選択範囲とも呼ばれます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 279 の「保護領域と編集領域を区別する」。
- ページ 281 の「編集領域を定義する」。
- ページ 286 の「カラー情報を使用して編集領域を定義する」。
- ページ 289 の「編集領域を拡張/縮小する」。
- ページ 292 の「マスクを反転/削除する」。
- ページ 292 の「編集領域を移動/整列する」。
- ページ 294 の「編集領域を変形する」。
- ページ 298 の「編集領域のエッジを調整する」。
- ページ 300 の「マスクの透明度を調整する」。
- ページ 300 の「イメージをカットアウトする」。

クリップ マスクについて詳しくは、441 ページの「クリップ マスクを使用する」を参照してください。

保護領域と編集領域を区別する

マスクを使用すると、より精細にイメージを編集することができます。マスク機能は、イメージ上に配置したステンシルのような役割を果たします。保護領域では、下にあるイメージにペイントと効果が適用されません。一方、編集領域では、ペイントと効果がイメージに適用されます。イメージの編集領域を定義する際は、そのイメージの対応するマスクや保護領域も定義します。

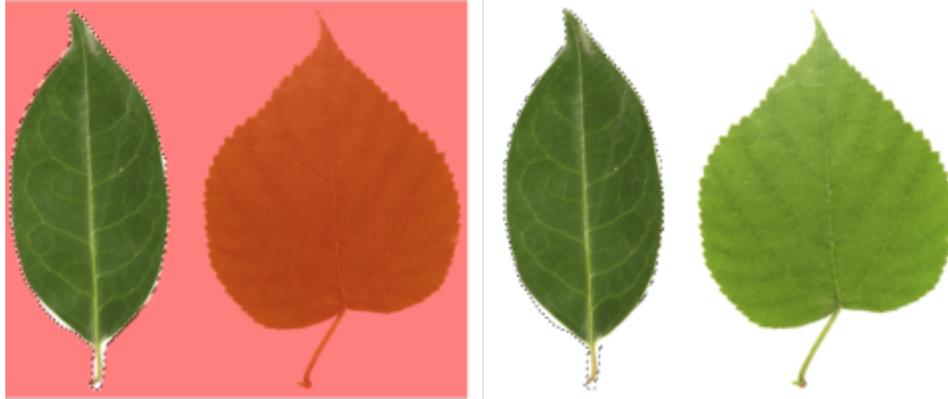
マスクのオーバーレイ

編集領域と保護領域を簡単に区別できるように、マスクのオーバーレイを保護領域上にもみ表示できます。マスクのオーバーレイは、赤色の透明シートです。領域のマスクの**透明度**を調整すると、これに応じてこの領域に表示されるマスクのオーバーレイの赤色の濃さが変化します。

マスクのオーバーレイは非表示にできます。また、編集領域内のイメージのカラーと区別しやすくするため、マスクのオーバーレイのカラーを変更することもできます。

マスクの選択範囲線

編集領域と保護領域の境界は、破線の輪郭で表示されます。この破線の輪郭はマスクの選択範囲線と呼ばれます。マスクの選択範囲線を表示できるのは、マスクのオーバーレイを非表示にした場合に限定されます。イメージのカラーと区別しやすくするため、マスクの選択範囲線のカラーを変更できます。



マスクのオーバーレイ (左側) またはマスクの選択範囲線 (右側) を表示できます。

マスクの選択範囲線の位置

編集領域にフェードが適用されたエッジがある場合、デフォルトでは、マスクの選択範囲線はフェードの最も外側のエッジに配置されます。ただし、しきい値を指定して、フェードが適用されたエッジの任意の場所にマスクの選択範囲線を配置することができます。たとえば、マスクの選択範囲線で 100 % 編集可能なピクセルだけを選択対象として囲み、保護領域とブレンドされているピクセルを除外することもできます。

マスクの選択範囲線の位置を調整しても、編集領域のサイズは変更されません。透明度が特定のレベルに達したところでマスクの選択範囲線が始まります。

マスクのオーバーレイの表示/非表示を切り替えるには

- [マスク] ▶ [マスクのオーバーレイ] をクリックします。

メニュー コマンド名の横にチェック マークが付いている場合、[マスクのオーバーレイ](#)が表示されていることを示します。

マスクのオーバーレイのカラーを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [マスクの着色] カラー ピッカーを開いて、カラーをクリックします。

マスクの選択範囲線の表示/非表示を切り替えるには

- [マスク] ▶ [マスクの選択範囲線] をクリックします。

メニュー コマンド名の横にチェック マークが付いている場合、マスクの[選択範囲線](#)が表示されていることを示します。



マスクのオーバーレイを使用しているとき、またはマスクの[透明度](#)を調整しているときは、[マスクの選択範囲線](#)は表示されません。

マスクの選択範囲線のカラーを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。

- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [マスクの選択範囲線] カラー ピッカーを開いて、カラーをクリックします。



マスクのオーバーレイを使用しているとき、またはマスクの透明度を調整しているときは、マスクの選択範囲線は表示されません。

編集領域のエッジにマスクの選択範囲線を配置するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [マスクのしきい値] ボックスに、しきい値となるグレースケール値を入力します。



ここで指定したしきい値は、値を変更するまで、作成するすべてのマスクに適用されます。

編集領域を定義する

イメージのカラー情報を使用せずに編集領域を定義するには、いくつかの方法があります。

長方形/楕円形の編集領域

イメージ内に長方形や楕円形の編集領域を定義することができます。



楕円形マスク ツールを使用して定義した円形領域。

テキスト、オブジェクト、またはクリップボードの内容を使用して定義される編集領域

オブジェクトを使用して、編集領域を定義することができます。1 つまたは複数のオブジェクトの形をした編集領域を作成する場合は、編集領域を編集する前に、オブジェクトを編集領域から移動して離す必要があります。

テキストを使用して、編集領域を定義することができます。文字を入力すると、指定したフォントとスタイルの特性を持つ編集領域が作成されます。既存のテキストから編集領域を作成することもできます。

クリップボードの情報を編集領域としてイメージ ウィンドウに貼り付けて、編集領域を定義できます。作成する領域はフロート状態の編集領域となります。この編集領域は、下にあるイメージ ピクセルを変更せずに編集および移動できます。

フリーハンド マスク ツールを使用して定義される編集領域

鉛筆で紙に描く要領で [フリーハンド マスク] ツールでイメージ領域の輪郭を描くか、またはイメージ上で異なるポイントをクリックし、これらの点を直線セグメントでつなぐことにより、編集領域を定義することができます。

ブラシを使用してペイントすることにより、編集領域を定義することもできます。

フリーハンド マスク ツールを使用して定義される編集領域

平面マスク ツールにより、輪郭フェードが適用された編集領域を平行線に沿って定義できます。平行線は、マスクに適用する効果の配置や角度を調整するため、移動または回転できます。

ボケぼかしなどのぼかし効果と組み合わせて、**平面マスク** ツールは、線の外側の領域をぼかしながら、道路、橋、その他の線形要素の線形領域に沿って写真の被写界深度を設定するのに役立ちます。ボケぼかし効果については、356 ページの「ボケぼかし効果」を参照してください。

枠の形をした編集領域

既存の編集領域のエッジから枠の形をした編集領域を定義することにより、イメージ内の部分の周りにカラー、テクスチャ、または特殊効果を適用することができます。新しいマスクの**選択範囲線**は、既存マスクの選択範囲線の片側に配置され、枠の形をした編集領域を定義します。

形状または領域のエッジに基づく編集領域

スマート選択マスク ツールを使用してペイントすることで、編集領域を形状または領域のエッジに基づいて定義できます。適用する選択範囲のストロークは、ペイントした領域の外側のエッジまで広がります。また、いずれかのマスク ツールで作成した選択範囲内で形状や領域のエッジを検出することもできます。

イメージ全体で構成される編集領域

イメージ全体を編集領域に定義することもできます。この機能は、マスクを必要とする特別効果を、イメージ全体に適用する場合に便利です。特殊効果については、347 ページの「特殊効果を適用する」を参照してください。

長方形または楕円形の編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスで、次のいずれかをクリックします。
 - **長方形マスクツール** 
 - **楕円形マスクツール** 
- 2 プロパティ バーで **[標準モード]** ボタン  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[スタイル]** リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - **標準** - 長方形または楕円形の**編集領域**を手動で定義します。
 - **固定サイズ** - 長方形または楕円形の編集領域の幅と高さを指定します。
 - **行** - イメージの幅と等しい長方形の編集領域を定義します。行の高さと、長方形の角を丸めるための値を指定できます。
 - **列** - イメージの高さと等しい長方形の編集領域を定義します。列の幅と、長方形の角を丸めるための値を指定できます。
- 4 イメージ ウィンドウ内でドラッグして編集領域を手動で定義するか、または指定したサイズや方向の編集領域をクリックして配置します。



[標準] マスク スタイルを使用する場合は、イメージ ウィンドウ内でドラッグを開始してから **Ctrl** キーを押すと、正方形または円形の編集領域を定義できます。

[標準] マスク スタイルを使用する場合は、イメージ ウィンドウ内でドラッグを開始してから **Shift** キーを押すと、編集領域を中心点から定義できます。

テキスト、オブジェクト、またはクリップボードの内容を使用して編集領域を定義するには

目的

テキストを使用して領域を定義する

オブジェクトを使用して領域を定義する

クリップボードの内容を使用して領域を定義する

作業手順

テキスト ツール  をクリックし、プロパティ バーでテキスト属性を指定します。プロパティ バーの **[マスクの作成]** ボタン  をクリックし、テキストを入力後ツールボックス内の任意の場所をクリックして、変更を適用します。

1 つまたは複数のオブジェクトを選択し、**[マスク]** ▶ **[作成]** ▶ **[オブジェクトからマスク]** をクリックします。

[編集] ▶ **[形式を選択して貼り付け]** ▶ **[オブジェクトへ]** をクリックします。



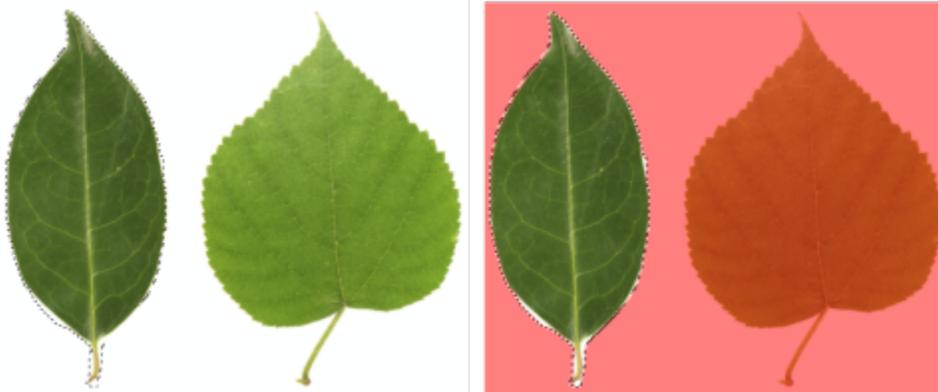
[マスク/オブジェクト] ツールバーの**[マスクの作成]** ボタンをクリックして、選択した 1 つまたは複数の**オブジェクト**から成る **編集領域**を定義することもできます。**[マスク/オブジェクト]** ツールバーが表示されていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ツールバー]** ▶ **[マスク/オブジェクト]** をクリックします。

フリーハンド マスク ツールを使用して編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスの**フリーハンド マスク** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで **[標準モード]** ボタン  をクリックします。
- 3 イメージ ウィンドウで各直線セグメントの始点と終点をクリックします。
- 4 輪郭を作成したら、マウス ボタンをダブルクリックします。



イメージ ウィンドウ内で**フリーハンド マスク** ツールをドラッグし、ダブルクリックして輪郭を完成させることにより、**編集領域**を定義することもできます。



フリーハンド マスク ツールを使用して定義した編集領域

平面マスク ツールを使用して編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスの **平面マスク** ツール  をクリックします。

イメージに平行線が表示されます。実線が編集領域全体を定義し、破線が編集領域の上部と下部に沿って輪郭フェードが適用された領域を定義します。

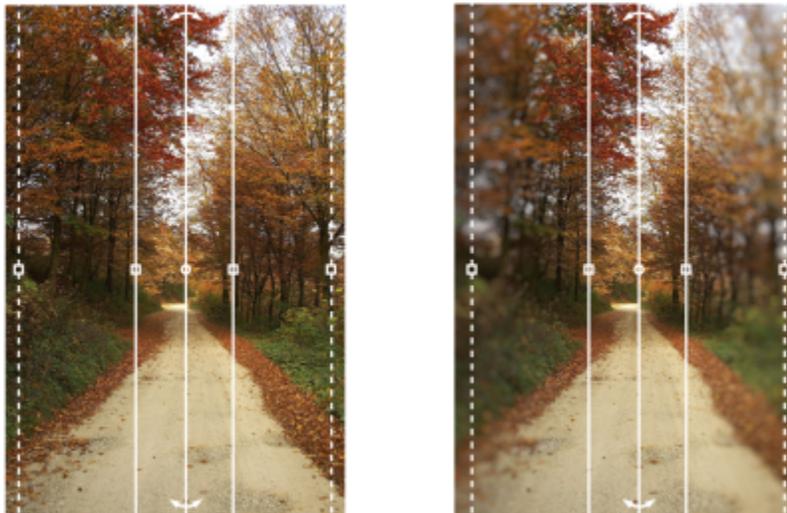
2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
編集領域全体のサイズを指定する	プロパティ バーの [範囲の選択] ボックスに値を入力します。
フェード領域のサイズを指定する	プロパティ バーの [フェードの範囲] ボックスに値を入力します。
編集領域を回転する	プロパティ バーの [回転の角度] ボックスに値を入力します。
編集領域を移動する	編集領域を別の場所にドラッグします。



編集領域および輪郭フェードが適用された領域を画面上に表示されるインタラクティブなハンドルをドラッグすることで調整することができます。編集領域は、回転ハンドルをドラッグすることで回転することもできます。

平面マスク ツールではさまざまなマスク モードを使用できます。マスク モードについて詳しくは、[289 ページの「編集領域を拡張/縮小する」](#)を参照してください。



ぼかし効果と組み合わせた平面マスクの例

編集領域をペイントで定義するには

- 1 ツールボックスの**ブラシ マスク** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バー上でツールの属性を指定します。
- 3 プロパティ バーで **[標準モード]** ボタン  をクリックします。
- 4 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



イメージ ウィンドウ内で **Alt** キーを押しながら、ペン先が必要なサイズになるまでドラッグして、**[ブラシ マスク]** ツールのブラシのペン先サイズを変更できます。

ブラシ マスク ツールを使用して、直線状のブラシ ストロークを適用するには、イメージ ウィンドウ内でドラッグを開始してから **Ctrl** キーを押します。**Ctrl** キーを押しながら **Shift** キーを押したり放したりすることで、水平方向のブラシ ストロークと垂直方向のブラシ ストロークを切り替えることができます。

枠の形をした編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスのマスク ツールをクリックします。
- 2 **編集領域**を定義します。
- 3 **[マスク]** ▶ **[輪郭のマスク]** ▶ **[枠]** をクリックします。
- 4 **[幅]** ボックスに値を入力します。
- 5 **[エッジ]** リスト ボックスからエッジの種類を選択します。



選択範囲のエッジをソフトにすると、選択された内容がバックグラウンドから浮き上がっているように見えるのを防ぐことができます。

編集領域を形状または領域のエッジに基づいて定義するには

- 1 ツールボックスで、**スマート選択マスク** ツール  をクリックします。
- 2 イメージで選択する形状または領域内をペイントします。
形状または領域のエッジが検出され、選択範囲がそのエッジまで広がります。
選択範囲内に形状や領域のエッジ外の領域がある場合は、プロパティ バーで **[減算]**  ボタンをクリックし、削除する領域をペイントすると、削除できます。詳しくは、291 ページの「[編集領域に追加または編集領域から削除するには](#)」を参照してください。



形状または領域のエッジに基づく編集領域の定義は、どのマスク ツールでもできます。編集領域を定義したら、**[マスク]** ▶ **[スマート選択をマスクに適用]** をクリックします。

デフォルトでアンチエイリアスはオンになっており、編集領域でエッジがギザギザにならないようになっています。アンチエイリアスをオフにするには、プロパティ バーの **[アンチエイリアス]** ボタン  をクリックします。

編集領域のエッジをフェードさせるには、プロパティ バーの **[マスクのフェード]** ボタン  をクリックし、**[フェード]** ダイアログ ボックスで設定を指定します。編集領域のフェードについて詳しくは、299 ページの「[編集領域のエッジに輪郭フェードを適用するには](#)」を参照してください。



スマート選択マスク ツールを使用して作成された、形状のエッジに基づく編集領域

イメージ全体を編集領域に定義するには

- [マスク] ▶ [イメージ全体の選択] をクリックします。



マスクの **オーバーレイ** が有効になっている場合、マスクの **選択範囲線** は表示されません。

カラー情報を使用して編集領域を定義する

イメージのカラー情報を使用して、**マスクの編集領域**と**保護領域**を定義することができます。カラー情報を使用するには、**シード カラー**と**カラーの許容範囲**の値を指定する必要があります。シード カラーとは、保護領域または編集領域の定義に使用するベース カラーです。カラーの許容範囲の値で、マスク内で使用できるシード カラーのカラー バリエーションの比率を定義します。つまり、カラーの許容範囲の値を大きくすると、保護領域または編集領域に追加されるカラーが多くなります。カラーの許容範囲は、カラーの近似性に基づいています。

標準カラーを使用した編集領域

標準カラーから成る編集領域や、標準カラーで囲まれた編集領域を定義することができます。領域が標準カラーで囲まれている場合は、大まかな輪郭を作成して編集する領域に合わせたり、標準カラーの間の境界に基づいて編集領域を定義したりすることができます。

イメージ全体での編集領域

カラー マスクを使用すると、イメージ全体で編集領域を定義することができます。カラー マスクにより、特定の領域ではなくイメージ全体のシード カラーを選択することができます。

カラーのしきい値によって、編集領域に含めるカラーの範囲をさらに微調整することができます。しきい値は、各シード カラーの**輝度**を評価し、編集領域にどの**ピクセル**を含めるかを決定します。カラーのしきい値を調整すると、編集領域のエッジのピクセルをソフト化またはシャープ化できます。カラー マスクのしきい値レベルを調整する場合は、**グレースケール**のプレビューを使用すると、マスクされた領域を黒、編集領域を白で表示することができます。



オリジナル イメージの青、緑、紫色のピクセル (左側) は、カラー マスクを使用して選択されています (右側)。

特定のカラー チャンネルでの編集領域

特定のカラー チャンネル内で編集領域を定義できます。カラーのイメージには、そのカラー モデルのカラーを構成する要素の数だけカラー チャンネルが割り当てられています。たとえば、RGB イメージは、赤のチャンネル、緑のチャンネル、および青のチャンネルから構成されます。イメージのカラー チャンネルを個別に表示すると、そのカラーの情報だけが表示されます。特定のカラー チャンネルだけを表示することにより、編集領域をより正確に定義できます。

標準カラーの編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスで、自由選択マスク ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで [標準モード] ボタン  をクリックします。
- 3 [許容範囲] ボックスに許容範囲の値を入力します。
- 4 イメージ内のカラーをクリックします。



単純なバックグラウンドのイメージに含まれる複雑なイメージの図形を編集する場合は、最初にバックグラウンドを標準カラーの編集領域として定義してから、マスクを反転させて図形を編集できるようにします。マスクの反転については、292 ページの「マスクを反転/削除する」を参照してください。

最初にクリックしたピクセルのカラーによって、シード カラーが設定されます。指定したカラーの許容範囲を持つすべての隣接ピクセルが、編集領域に含まれます。指定した許容範囲外のカラーを持つピクセルに到達するまで、編集領域が拡張されません。



自由選択マスク ツールを使用してオレンジ色のピクセルをクリックして選択された領域です。

標準カラーで囲まれた編集領域を定義するには

- 1 ツールボックスで、次のいずれかを選択します。
 - **投げ縄マスク** ツール  - イメージ領域の輪郭を大まかに設定し、この領域内で指定範囲にあるカラー周辺のマスクの選択範囲線を縮小します。最初のシード カラーを使用します。
 - **マグネティック マスク** ツール  - イメージ内のカラー間の境界に沿ってマスクの選択範囲線を設定します。複数のシード カラーを使用します。
- 2 プロパティ バーで **[標準モード]** ボタン  をクリックします。
- 3 **[許容範囲]** ボックスに許容範囲の値を入力します。
- 4 イメージ ウィンドウで、変更しないカラーをクリックし、異なるポイントをクリックして編集領域の輪郭を作成します。
- 5 輪郭を作成したら、マウス ボタンをダブルクリックします。



最初にクリックしたピクセルのカラーだけでシード カラーを設定するか、クリックしたすべてのピクセルのカラーでシード カラーを設定するかを選択できます。カラーの許容範囲は、変更されないカラーの範囲を表します。最初にクリックしたピクセルでシード カラーを設定する場合は、指定したカラーの許容範囲に到達するまで保護領域を拡張します。**投げ縄マスク** ツールを使用している場合は、作成した編集領域の輪郭は元の輪郭から縮小し、指定したカラーの許容範囲内にあるすべてのピクセルを元の輪郭から除外して作成される、不規則な形状になります。**マグネティック マスク** ツールを使用している場合は、クリックしたすべてのピクセルからシード カラーが設定されるため、クリックするたびに、指定したカラーの許容範囲に到達するまで保護領域を拡張します。カラーの許容範囲は、ポイント周囲の特定の領域内で、現在のシード カラーを基準にして測定されます。



イメージ ウィンドウ内でドラッグして、フリーハンド モードで輪郭を作成することもできます。**マグネティック マスク** ツールを使用している場合は、クリックの回数を多くして、複数のシード カラーおよび複数のアンカー ポイントを設定します。

イメージ全体で編集領域を定義するには

- 1 **[マスク]** ▶ **[カラー マスク]** をクリックします。
- 2 **[標準モード]** ボタン  をクリックします。
- 3 ポップアップ メニューから**[サンプル カラー]** を選択します。
- 4 **[スポイト]** ツール  をクリックし、イメージ ウィンドウで各シード カラーをクリックします。
- 5 **[プレビュー]** ボタン  をクリックします。
- 6 **[プレビュー]** ボタンの横のリスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **オーバーレイ** - 保護領域は、赤の透明シートで覆われます。
 - **グレースケール** - 保護領域を黒、編集領域を白で表示します。
 - **黒マット** - 保護領域は、黒の透明シートで覆われます。
 - **白マット** - 保護領域は、白の透明シートで覆われます。
 - **選択範囲線** - 編集領域の周囲に破線が表示されます。
- 7 **[許容範囲]** 領域で次のオプションのいずれかをオンにします。
 - **標準** - ピクセル間のカラーの近似性に基づいてカラーの許容範囲を決定します。
 - **HSB モード** - ピクセルの色相、彩度、および輝度レベルの近似性に基づいてカラーの許容範囲を決定します。
- 8 各シード カラーの横にあるボックスで、そのカラーのピクセルとその他のピクセル間で許容されるカラーの変化率を指定します。
- 9 **[しきい値]** で、**[しきい値]** スライダを調整し、次のいずれかのオプションを選択します。

- 黒 - 輝度がしきい値より高いピクセルをすべて保護領域に追加します。
- 白 - 輝度がしきい値より高いピクセルをすべて編集領域に追加します。



[カラー マスク] ダイアログ ボックスには前回のセッションで使用したカラーが表示されるので、**[リセット]** をクリックしてから、新規のカラー マスクを作成してください。

[マスク] メニューの **[マスクの選択範囲線の表示]** コマンドをオフにすると、**[選択範囲線]** の表示スタイルが使用できなくなります。



フライアウト ボタンをクリックし、**[許容範囲のデフォルト設定]** をクリックすると、カラー マスクのカラー許容範囲のデフォルト値を設定することができます。

また、**[スポイト]** ツールの横にあるリスト ボックスからプリセットのカラー (**[緑]** など) を選択し、デフォルトのシード カラーを指定しておくこともできます。

特定のカラー チャンネルで編集領域を定義するには

- 1 **[チャンネル]** ドッキング ウィンドウでカラー チャンネルの隣にあるチェック ボックスをオンにします。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [チャンネル]** をクリックします。
- 2 ツールボックスで、次のいずれかをクリックします。
 - 投げ縄マスク ツール 
 - 自由選択マスクツール 
- 3 イメージ内の領域を定義します。

編集領域を拡張/縮小する

編集領域にパーツを追加/削除できます。

デフォルトでは、編集領域を定義するたびに、前回定義した編集領域が置き換えられます。ただし、現在の編集領域を維持しながら形状を修正する場合は、次のマスク モードを使用することができます。

モード	説明
加算	編集領域に領域を追加します。編集領域に追加した領域は、保護領域から削除されます。
減算	編集領域から領域を削除します。編集領域から削除された領域は、保護領域に追加されます。
重なり	新しい領域が古い領域と重ならなければ、既存の編集領域に領域を追加します。重なった部分は編集領域から除外され、保護領域に追加されます。このマスク モードでは、既存の編集領域を拡張または縮小できるだけでなく、アクティブなマスクが存在しない場合に編集領域を定義することもできます。

選択したマスク モードは、モードを変更するまで有効です。さまざまなマスク モードの使用例を次に示します。



楕円形マスク ツールを標準モードで使用します。



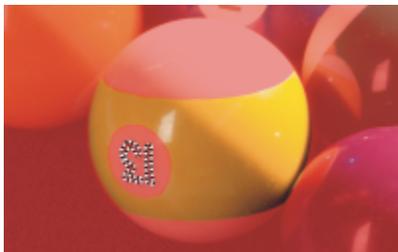
その結果、球全体が編集領域として定義されています。



楕円形マスク ツールとフリーハンド マスク ツールを 減算モードで使用します。



その結果、編集領域は、球の黄色の部分に定義されています。



自由選択マスク ツールを 加算 モードで使用します。



数字が、編集領域に追加されています。



楕円形マスク ツールを重なりモードで使用します。



重なっている部分 (黄色の部分と数字) が編集領域から削除され、白の領域が追加されています。

保護領域を削除する

編集領域内から保護領域を削除することができます。この機能は、編集領域が広いカラー マスクを修正する場合に便利です。

ピクセル数を指定する

編集領域を特定のピクセル数だけ拡張または縮小することができます。編集領域のエッジに特定数のピクセルを追加または削除します。

類似カラーのピクセルを追加する

編集領域にカラーが類似する隣接ピクセルを追加することができます。隣接するカラーが元の編集領域のカラーと類似しなくなるまで、編集領域が拡張されます。指定したカラーの許容範囲の値によって、元の編集領域のピクセルと隣接する保護領域のピクセルとの間で許容されるカラーの変化率が決まります。

また、編集領域に隣接しているかどうかにかかわらず、類似するカラーのピクセルをすべて編集領域に追加することもできます。指定したカラーの許容範囲の値によって、元の編集領域のピクセルと保護領域のピクセルとの間で許容されるカラーの変化率が決まります。

編集領域に追加または編集領域から削除するには

- 1 ツールボックスのマスク ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 加算 
 - 減算 
 - 重なり 
- 3 イメージ内でドラッグして、編集領域に追加する領域または編集領域から削除する領域を定義します。



ドラッグ操作を開始してから、**Ctrl** キーと **Shift** キーを押すと、追加または削除する領域の形状を制限できます。たとえば、**楕円形マスク** ツールを使用している場合は、**Ctrl** キーを押したままにすると形が円に制限され、**Ctrl + Shift** キーを押したままにすると円が中心から拡張されます。

編集領域から保護領域を削除するには

- **[マスク] ▶ [輪郭のマスク] ▶ [穴の除去]** をクリックします。

編集領域を拡張または縮小するには

目的	作業手順
編集領域を特定のピクセル数だけ拡張する	[マスク] ▶ [輪郭のマスク] ▶ [拡張] をクリックし、 [幅] ボックスに値を入力します。
編集領域を特定のピクセル数だけ縮小する	[マスク] ▶ [輪郭のマスク] ▶ [縮小] をクリックし、 [幅] ボックスに値を入力します。

カラーが類似する隣接ピクセルを編集領域に追加するには

- 1 ツールボックスで、**自由選択マスク** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[許容範囲]** ボックスに値を入力します。
- 3 **[マスク] ▶ [輪郭のマスク]** をクリックし、次のいずれかのメニュー コマンドをクリックします。
 - **増大** - カラーが類似するすべての隣接ピクセルを編集領域に含めて拡張します。
 - **類似** - イメージ全体のカラーが類似するすべてのピクセルを編集領域に含めて拡張します。

マスクを反転/削除する

マスクを反転すると、保護領域を編集領域にしたり、編集領域を保護領域にしたりすることができます。編集する領域を定義するよりも、保護するイメージ領域を定義した方が簡単な場合は、マスクを反転します。たとえば、単純なバックグラウンドのイメージに含まれる複雑な図形を編集する場合は、最初にバックグラウンドを編集領域として選択してからマスクを反転させた方が作業が簡単です。

不要になったマスクはイメージから削除できます。



まずバックグラウンドを選択し (左側)、マスクを反転させてボトルを編集領域として定義します (右側)。

マスクを反転するには

- [マスク] ▶ [反転] をクリックします。

マスクを削除するには

- [マスク] ▶ [削除] をクリックします。



マスクを削除すると、イメージ上でフロート状態だった編集領域が自動的にバックグラウンドに結合されます。

編集領域を移動/整列する

編集領域を中のイメージピクセルと一緒に、またはイメージピクセルを元の場所に残して、イメージ内の任意の場所に移動することができます。編集領域と領域内のイメージピクセルと一緒に移動する場合は、ピクセルをイメージから切り抜いて穴をバックグラウンドカラーで塗りつぶしたり、フロート状態の編集領域でピクセルをコピーしたりすることができます。

編集領域を1つまたは複数の選択オブジェクトに合わせて整列できます。また、イメージの中心やエッジに合わせて整列することもできます。編集領域を表示する位置によって、水平および垂直方向に整列するオプションを使用して位置を調整します。

編集領域をガイドラインやグリッドに合わせて整列することもできます。詳しくは、89ページの「ガイドライン、グリッド、ルーラー」を参照してください。

編集領域を移動するには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。
- 2 **編集領域** をイメージウィンドウ内の別の位置にドラッグします。



編集領域をカーソルキー移動することもできます。

編集領域と編集領域のイメージ ピクセルを移動するには

- 1 ツールボックスで、次のいずれかのツールをクリックします。
 - 長方形マスク ツール 
 - 楕円形マスクツール 
 - フリーハンド マスク ツール 
 - 投げ縄マスク ツール 
 - マグネティック マスクツール 
 - 自由選択マスクツール 
- 2 プロパティ バーの **[標準]** ボタン  をクリックします。
- 3 編集領域を別の場所にドラッグします。



編集領域が移動されると、下のイメージはバックグラウンド カラーに置き換えられます。同じ編集領域が再度移動されても、下のイメージはバックグラウンド カラーには置き換えられません。



Alt キーを押しながら編集領域をドラッグすると、編集領域のコピーを元の場所に残して移動することができます。

編集領域をカーソルキー移動することもできます。

編集領域をオブジェクトに合わせて整列するには

- 1 編集領域を整列する基準となるオブジェクトを選択します。
- 2 **[マスク]** ▶ **[整列]** をクリックします。
- 3 **[マスクの整列]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - アクティブなオブジェクト
 - 選択オブジェクト
- 4 次のチェック ボックスのいずれかをオンにして垂直方向の整列方法を指定します。
 - 上端
 - 中央
 - 下端
- 5 次のチェック ボックスのいずれかをオンにして水平方向の整列方法を指定します。
 - 左揃え
 - 中央
 - 右揃え

指定したオブジェクトに最も近いグリッドラインに対して編集領域を整列するには、**[グリッドに合わせる]** チェック ボックスをオンにします。

編集領域をイメージのエッジまたは中央に合わせて整列するには

- 1 ツールボックスのマスク ツールをクリックします。

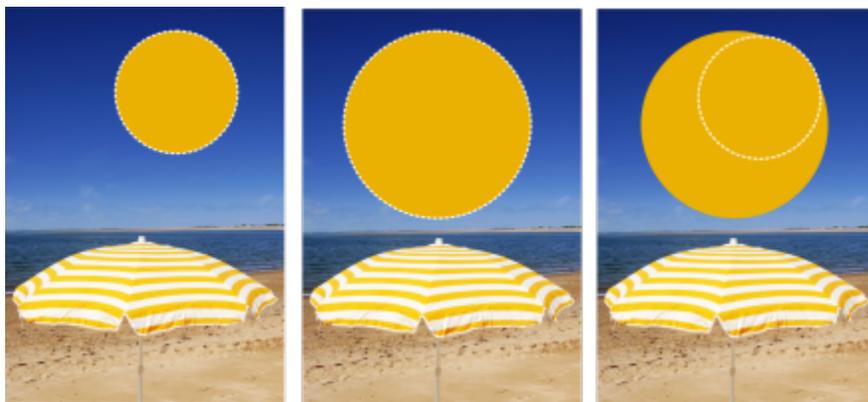
- 2 [マスク] ▶ [整列] をクリックします。
- 3 [ドキュメント] オプションをオンにします。
- 4 次のチェック ボックスのいずれかをオンにして垂直方向の整列方法を指定します。
 - 上端
 - 中央
 - 下端
- 5 次のチェック ボックスのいずれかをオンにして水平方向の整列方法を指定します。
 - 左揃え
 - 中央
 - 右揃え



[グリッドに合わせる] チェック ボックスをオンにして編集領域をイメージのエッジや中央に整列すると、編集領域は指定したエッジまたは中央に最も近いグリッドラインに合わせて整列します。

編集領域を変形する

マスクの編集領域の形状は、回転、スケール、サイズ変更、反転、歪曲、または遠近効果を適用して変形できます。編集領域を変形する前に、適用する変形がマスクの形状またはマスクされた領域のピクセルに影響を及ぼすかどうかを選択します。



マスク ピクセルを変形に含めた場合 (左) と、変形から除外した場合 (右)。

適用前に、複数の変形を実行できます。たとえば、マスクの編集領域にスケールと回転を施してから変更を確定させることができます。イメージ上の編集領域がフロート状態のときは、編集領域を下のイメージと自動的に結合してから変形が適用されます。

変形操作

説明

回転する

編集領域を回転します。

スケールする

編集領域を、元のサイズに対するパーセンテージでサイズを変更します。

サイズを変更する

編集領域の幅と高さを変更します。

変形操作

説明

斜変形する

編集領域を 1 つの方向に傾けます。一方の辺を固定したまま、反対側の辺を指定した方向に傾けます。対辺は常に平行になります。

歪曲する

編集領域を不均等に伸縮させます。

遠近効果を適用する

編集領域に遠近効果を適用して奥行き感を与えます。

編集領域のピクセルを変形に含めるには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ピクセルの変形]** ボタン  をクリックします。
- 3 編集領域は、回転、スケール、サイズ変更、反転、斜変形、歪曲、または遠近効果を適用して変形できます。



[ピクセルの変形] ボタン  を使用すると、マスク ピクセルを変形に含めたり、変形から除外したりできます。使用するモードを選択してから編集領域に変形を適用してください。1 つまたは複数の変形を実行した後でこのボタンをクリックすると、変更内容が確定されます。

編集領域を回転するには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。
編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。
- 2 プロパティ バーの **[回転]** ボタン  をクリックします。
編集領域の回転の中心を変更する場合は、編集領域内で回転の中心を目的の位置にドラッグします。
- 3 **マスクの選択範囲線**のコーナー ハンドルをドラッグします。
- 4 編集領域内をダブルクリックします。



プロパティ バーの **[回転の角度]** ボックスに値を入力し、**[適用]** をクリックすると、特定の角度で編集領域を回転できます。
プロパティ バーの **[回転の中心]** ボックスに値を入力して、**[適用]** をクリックすると、回転の中心 (ピボット ポイントともいう) を変更できます。

編集領域をスケールするには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。
編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。
- 2 プロパティ バーの **[スケール]** ボタンをクリックします。
- 3 **マスクの選択範囲線**のコーナー ハンドルをドラッグします。
- 4 編集領域内をダブルクリックします。

可能な操作

編集領域を正確にスケールする

プロパティ バーの **[スケール]** ボックスに値をパーセントで入力し、**[適用]** をクリックします。

幅と高さの比率を保存して、編集領域をスケールします。

プロパティ バーの **[縦横比の維持]** ボタン  をクリックします。

編集領域を中心からスケールする

Shift キーを押しながら、コーナー ハンドルをドラッグします。

編集領域をサイズ変更するには

1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。

編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。

2 プロパティ バーの**[配置/サイズ]** ボタン  をクリックします。

3 **マスクの選択範囲線**の中央のハンドルをドラッグします。

編集領域を均一にサイズ変更する場合は、マスクの**選択範囲線**のコーナー **ハンドル**をドラッグします。

4 編集領域内をダブルクリックします。

可能な操作

編集領域を正確にサイズ変更する

プロパティ バーの **[サイズ]** ボックスに値を入力して、**[適用]** をクリックします。

編集領域を中心からサイズ変更する

Shift キーを押しながら、中央の変形ハンドルをドラッグします。オブジェクトのサイズが中心から両方向に変化します。

編集領域を 100% ずつサイズ変更する

Ctrl キーを押しながら、変形ハンドルをドラッグします。

編集領域を反転するには

1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。

編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。

2 プロパティ バーの **[スケール]** ボタンをクリックします。

3 マスクの**選択範囲線**の中央の**ハンドル**をドラッグして、**編集領域**を横切り、反対側の辺の中央にあるハンドルを乗り越すように移動します。

4 編集領域内をダブルクリックします。



Ctrl キーを押しながら中央のハンドルをドラッグして、編集領域を横切って反対側の辺の中央のハンドルを乗り越すように移動すると、編集領域の形が対称的に反転されます。

編集領域を斜変形するには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。

編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。

- 2 プロパティ バーの**[斜変形]** ボタン  をクリックします。
- 3 マスクの**選択範囲線**の中央の**ハンドル**をドラッグします。
- 4 **編集領域内**をダブルクリックします。



プロパティ バーの **[斜変形の角度]** ボックスに値を入力して、**[適用]** をクリックして、編集領域を斜変形することもできます。

変形を確定する前に **Esc** キーを押すと、編集領域を元のサイズに戻すことができます。

編集領域を歪曲するには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。

編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。

- 2 プロパティ バーの **[歪曲]** ボタン  をクリックします。
- 3 マスクの**選択範囲線**の変形**ハンドル**をドラッグします。
- 4 **編集領域内**をダブルクリックします。



編集領域の歪曲に使用するハンドルが表示されるまで編集領域内をクリックし続けることにより、**マスクの変形** ツールを歪曲モードに設定することもできます。

変形を確定する前に **Esc** キーを押すと、編集領域を元のサイズに戻すことができます。

編集領域に遠近効果を適用するには

- 1 ツールボックスの**マスクの変形**ツール  をクリックします。

編集領域のピクセルを変形に含める場合は、プロパティ バーで **[ピクセルの変形]** ボタン  が押された状態になっていることを確認してください。

- 2 プロパティ バーの **[遠近効果]** ボタン  をクリックします。
- 3 マスクの**選択範囲線**の変形**ハンドル**をドラッグします。
- 4 **編集領域内**をダブルクリックします。



変形ハンドルが表示されるまで編集領域内をクリックし続けることにより、**マスクの変形** ツールを遠近効果 モードに設定することもできます。

変形を確定する前に **Esc** キーを押すと、編集領域を元のサイズに戻すことができます。

編集領域のエッジを調整する

保護領域と編集領域のエッジを調整して、これらの領域の境目をカスタマイズできます。

エッジからギザギザを除去する

アンチエイリアスを使用して、編集領域の曲線や斜線のギザギザを除去することができます。アンチエイリアスの適用により、編集領域のエッジの内側にある一部のピクセルを半透明にし、なめらかな輪郭を作成します。

フェード

フェードは、編集領域のエッジ沿いにあるピクセルの透明度を徐々に増やし、保護領域と編集領域の間のエッジをソフト化します。フェードを適用する領域の幅とフェードの方向を指定できます。これにより、マスクの選択範囲線を基準にして、どこをフェードするのかが決まります。フェード方向は、マスクの選択範囲線から、保護領域内、編集領域内、または両方の領域内に等距離でフェードしていきます。



左から右へ：編集領域のエッジにフェードを適用する前および後

エッジの透明度の制御

フェードを使用して保護領域と編集領域の間のエッジをソフト化しながら、マスクの選択範囲線のエッジでのソフト化のフェードオフの速度を制御できます。

シャープなエッジを適用する

しきい値を設定することにより、編集領域のエッジからフェードを除去し、新たにシャープなエッジを作成することができます。フェードが適用された編集領域のピクセルのグレースケール値は、0 (黒、完全な保護領域) ~255 (白、完全な編集領域) の間にあります。指定したしきい値により、フェードが適用されたエッジのどの部分にフェードを除去したエッジを作成するかが決まります。たとえば、しきい値を 110 に設定すると、編集領域内のグレースケール値が 110 未満のピクセルがすべて保護され、値が 110 以上のピクセルはすべて編集可能になります。

スムーズ化する

編集領域のエッジをなめらかにし、鋭い角度を除去することができます。スムーズ化すると、編集領域のエッジで指定した数のピクセルのグレースケール値が平均化されます。たとえば、半径の値を 10 に指定すると、エッジの左右それぞれ 10 ピクセルが調べられます。保護領域のピクセルより編集領域のピクセルの方が多い場合は編集領域を拡張し、保護領域のピクセルの方が多い場合は保護領域を拡張します。

スムーズ化は、複雑なカラー マスクを操作する場合に便利な機能です。たとえば、編集領域のエッジをスムーズ化すると、編集領域内に分離されている保護領域が除去されることがよくあります。

カラーまたはペイント効果を適用する

編集領域のエッジにカラーやペイント効果を適用し、編集領域と保護領域の境界を強調したり、ブレンドしたりすることができます。編集領域のエッジにカラーやペイント効果を再適用することもできます。ブラシ ストロークを繰り返すと、効果が強調されます。

編集領域のエッジからギザギザを除去するには

- 1 ツールボックスの**マスク** ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの**[アンチエイリアス]** ボタン  をクリックします。



楕円形、フリーハンド、投げ縄、自由選択、スマート選択マスクの各ツールを使用して**編集領域**を定義すると、**アンチエイリアス**がデフォルトでオンになります。

アンチエイリアスは、**長方形マスク** ツールでは使用できません。

編集領域のエッジに輪郭フェードを適用するには

- 1 **[マスク]** ▶ **[輪郭のマスク]** ▶ **[フェード]** をクリックします。
- 2 **[幅]** ボックスに値を入力します。
- 3 **[方向]** リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - **内側** - **編集領域**のエッジから内側に**フェード**を適用し、保護領域を編集領域にブレンドします。
 - **外側** - **編集領域**のエッジから外側に**フェード**を適用し、編集領域が**保護領域**と重なり合うようにブレンドします。
 - **中央** - **編集領域**のエッジの外側と内側で、同じ数のピクセルに**フェード**を適用します。
 - **平均** - **[幅]** ボックスで指定された領域のすべてのピクセルをサンプリングし、それぞれにカラー値の平均を割り当てます。
- 4 **[エッジ]** リスト ボックスからエッジの種類を選択します。

効果をプレビューする場合は、**[プレビュー]**  をクリックします。



プロパティ バーの **[マスクのフェード]** ボタン  をクリックして、**編集領域**のエッジに輪郭フェードを適用することもできます。

編集領域のエッジの透明度を調整するには

- 1 **[マスク]** ▶ **[輪郭のマスク]** ▶ **[エッジの透明度]** をクリックします。
- 2 **[フォールオフ]** スライダーを左に動かすと、**編集領域**のエッジの透明度が下がります。右に動かすと、**編集領域**のエッジの透明度が上がります。

効果をプレビューする場合は、**[プレビュー]**  をクリックします。

輪郭フェードが適用された編集領域のエッジにシャープなエッジを適用するには

- 1 **[マスク]** ▶ **[輪郭のマスク]** ▶ **[しきい値]** をクリックします。
- 2 **[レベル]** ボックスに値を入力します。

編集領域のエッジをスムーズ化するには

- 1 **[マスク]** ▶ **[輪郭のマスク]** ▶ **[スムーズ化]** をクリックします。
- 2 **[半径]** ボックスに値を入力します。

編集領域のエッジにカラーやペイント効果を適用するには

- 1 次のいずれかをクリックします。
 - ペイント ツール 
 - 効果ツール 
 - イメージスプレーツール 
 - 消しゴム ツール 
 - カラーの入れ替えブラシツール 
- 2 プロパティ バー上でツールの属性を設定します。
- 3 [マスク] ▶ [作成] ▶ [マスクからブラシストローク] をクリックします。
- 4 次のいずれかの位置をクリックします。
 - マスク枠の中央 - ストロークを編集領域のエッジの中心に配置します。
 - マスクの内側 - ストロークを編集領域のエッジの内側に配置します。
 - マスクの外側 - ストロークを編集領域のエッジの外側に配置します。



編集領域のエッジに沿ってカラーや効果を再適用するには、[編集] ▶ [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックし、[ブラシ ストロークの繰り返し] ダイアログ ボックスで [マスク上でブラシ ストロークを繰り返す] ボタン  をクリックします。

マスクの透明度を調整する

マスクの透明度を調整すると、イメージ内のピクセルを保護する程度を制御できます。マスクの選択範囲線の透明度を調整するときは、マスクのグレースケール表示を使用します。イメージに適用するカラーは、いずれも対応する階調で表示されます。このため、マスクに適用する階調が暗くなると、イメージに対するカラーや効果の影響が小さくなります。たとえば、ブラシを使用してグレースケール値が 127 (256 階調グレーの中間点の値) のカラーをイメージ領域に適用すると、その領域にどのような効果を適用しても 50% の影響しか受けません。

マスクのグレースケール表示を編集する場合は、カラー、オブジェクト、効果、または別のマスクを使用して、マスクの透明度を修正することができます。クリップボードからイメージを貼り付けることにより、マスクの透明度を変更することもできます。貼り付けたイメージのグレースケール値がマスクに適用されます。

マスクの透明度を調整するには

- 1 [マスク] ▶ [マスクにペイント] をクリックします。
- 2 マスクの透明度を変更する領域に、カラー、マスク、オブジェクト、または効果を適用します。
- 3 [マスク] ▶ [マスクにペイント] をクリックします。



グレーの階調を暗くすると、編集対象のピクセル数が減少します。

イメージをカットアウトする

カットアウト ラボを使用すると、イメージ領域を周囲のバックグラウンドからカットアウトできます。この機能を使用して、髪の毛やぼんやりしたエッジなどのエッジ細部を維持しながら、イメージ領域を分離できます。

イメージ領域をカットアウトするには、エッジをハイライトしてから、塗りつぶしを適用して領域の内部を定義します。結果を評価するには、バックグラウンドを削除するか、灰/白/黒のバックグラウンドの上でカットアウトをプレビューします。下に元のイメージを表示し、ハイライトと塗りつぶしを表示して、カットアウトをプレビューすることもできます。必要に応じて、エッジに沿って細部を追加または削除してカットアウトを修正できます。

操作を間違えた場合は、ハイライト/塗りつぶし領域の各部を消去してやり直すこともできますし、操作を元に戻したりやり直したり、元のイメージに戻したりすることもできます。

デフォルトで、カットアウトはオブジェクトとしてイメージ ウィンドウに置かれ、元のイメージは削除されます。カットアウトとオリジナルのイメージの両方を保存したり、カットアウトからクリップ マスクを作成したりすることもできます。



カットアウト ラボのワークフロー: (1) イメージ領域のエッジをハイライトする; (2) 内側に塗りつぶしを追加する。(3) カットアウトをプレビューし、必要に応じて修正する。(4) カットアウトをイメージ ウィンドウに移動する。(5 - オプション) カットアウトをバックグラウンド イメージの上に置く。

カットアウト ラボでは、一部のツールにオプションを設定できます。たとえば、**ハイライト** ツールのペン先のサイズを変更して、ハイライトの幅をカスタマイズできます。イメージ領域にハード エッジがある場合は、細い線を使用するとそのエッジをより正確に定義できます。逆に、イメージ領域にぼんやりしたエッジやかすんだエッジがあるため定義しにくい場合は、太い線を使用できます。ハイライトと塗りつぶしカラーを見やすく変更することもできます。

また、**ズーム イン**してイメージの細部を拡大したり、**ズーム アウト**してイメージの全体を表示したりすることもできます。**スクロール**すると、プレビュー ウィンドウに入りきらないイメージ領域を表示できます。

イメージ領域をカットアウトするには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[カットアウト ラボ]** をクリックします。
- 2 **ハイライト** ツール  をクリックします。
- 3 プレビュー ウィンドウで、カットアウトするイメージ領域のエッジに沿って線を描きます。その際、周囲のバックグラウンドと少し重なるように線を描きます。
- 4 **[内部塗りつぶし]** ツール  をクリックし、カットアウトする領域の内部をクリックします。
- 5 **[プレビュー]** をクリックします。
カットアウトを修正する場合は、**[細部追加]**  または **[細部削除]**  ツールをクリックし、エッジをドラッグします。
- 6 **[カットアウト結果]** 領域から、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **カットアウト** - カットアウトからオブジェクトを作成し、オリジナル イメージを破棄します。

- **カットアウトとオリジナル イメージ** - カットアウトからオブジェクトを作成し、オリジナル イメージを維持します。
- **クリップ マスクとしてカットアウト** - カットアウトから**クリップ マスク**を作成し、オリジナル イメージにクリップ マスクを添付します。クリップ マスクは、オブジェクトに添付するマスクで、オブジェクトに影響を永久的に与えることなく、その透明度を変更します。バックグラウンド イメージからカットアウトを作成すると、バックグラウンドはオブジェクトに変換されません。

可能な操作

ハイライトと塗りつぶしを消去する

消しゴム ツール  をクリックし、削除するハイライトと塗りつぶしの上をドラッグします。**消しゴム ツール**は、**[プレビュー]** をクリックする前に使用できます。

操作を元に戻す/やり直す

[元に戻す] ボタン  または **[やり直し]** ボタン  をクリックします。

元のイメージに戻す

[リセット] をクリックします。

プレビュー オプションを設定する

[プレビューの設定] で、次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。

- **ハイライトの表示** - カットアウトの周囲にハイライトを表示します。
- **塗りつぶしの表示** - カットアウトの内部の塗りつぶしを表示します。
- **オリジナル イメージの表示** - カットアウトの下に元のイメージを表示します。

[バックグラウンド] リスト ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。

- **なし** - カットアウトはモノクロ チェック パターンのバックグラウンドの上に表示されます。**[オリジナル イメージの表示]** チェック ボックスがオンの場合は、削除した領域が半透明のモノクロ チェック パターンの下に表示されます。
- **グレースケール** - カットアウトは灰色のバックグラウンドの上に表示されます。**[オリジナル イメージの表示]** チェック ボックスがオンの場合は、削除した領域が灰色で表示されます。
- **黒マット** - カットアウトは黒色のバックグラウンドの上に表示されます。**[オリジナル イメージの表示]** チェック ボックスがオンの場合は、削除した領域が黒色で表示されます。
- **白マット** - カットアウトは白色のバックグラウンドの上に表示されます。**[オリジナル イメージの表示]** チェック ボックスがオンの場合は、削除した領域が白色で表示されます。



カットアウト ラボは、RGB、CMYK、グレースケール、パレット、および Lab イメージをサポートしています。カットアウト ラボで使用する場合、グレースケール、パレット、および Lab のイメージは自動的に RGB または CMYK イメージに変換されるため、カラーがわずかにずれることがあります。**[カットアウト ラボ]** コマンドを適用または取り消すと、元のイメージ カラーに戻ります。

カットアウト ラボでツール オプションを設定するには

- 1 **[イメージ]** ▶ **[カットアウト ラボ]** をクリックします。

2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
ハイライト、消しゴム、細部追加、および細部削除ツールのペン先のサイズを設定する	[ペン先のサイズ] リスト ボックスからペン先のサイズを選択します。
ハイライト カラーを変更する	[ハイライト カラー] ピッカーからハイライト カラーを選択します。
塗りつぶしカラーを変更する	[塗りつぶしカラー] ピッカーから塗りつぶしカラーを選択します。



Shift キーを押しながらハイライト、消しゴム、細部追加、および細部削除ツールをドラッグすると、ツールのペン先のサイズをインタラクティブに変更できます。

カットアウト ラボでイメージを表示するには

- 1 [イメージ] ▶ [カットアウト ラボ] をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
ズーム イン/アウトする	ズーム イン ツール  、またはズームアウト ツール  を使用して、プレビュー ウィンドウでクリックします。
イメージを実寸で表示する	[100%] ボタン  をクリックします。
イメージをプレビュー ウィンドウに合わせる	[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。
イメージの別の領域にスクロールする	スクロール ツール  を使用して、表示する領域が見えるまでイメージをドラッグします。



パス

パスを使用して、イメージ内に正確な形状で曲線や輪郭を作成することができます。パスでは、[マスクの編集](#)、[テキストやブラシ ストロークの適用](#)、[パス内に含まれる不定形のイメージのエクスポート](#)などが可能です。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 305 の「パスを作成する」。
- ページ 307 の「パスを管理する」。
- ページ 309 の「パスを整形する」。
- ページ 311 の「パス ノードを追加/削除する」。
- ページ 312 の「パスを結合/分割する」。
- ページ 313 の「ノードの種類を変更する」。
- ページ 314 の「ブラシ ストロークをパスに適用する」。
- ページ 315 の「クリップ パス」。

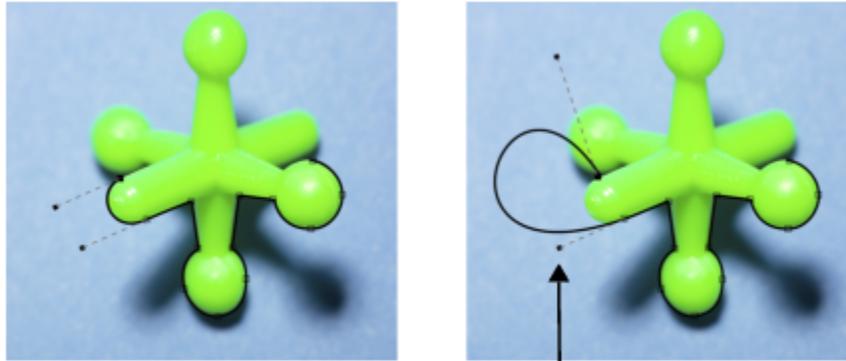
パスを作成する

パスとは、[ノード](#)と呼ばれる四角形の端点を接続した直線セグメントおよび曲線セグメントです。パスは、新規に作成、[マスクから作成](#)、または既存のパスから複製という 3 つの方法で作成します。イメージに複数のパスを作成できますが、一度に表示できるのは 1 つのパスだけです。

パスを描く

ベジェ パスおよびフリーハンドのパスを作成できます。パスを新規に作成すると、最初のパスが「パス 1」となり、その後作成されるパスには順番に番号が付けられます。

ベジェ パスは、イメージにノードを配置する方法で作成します。直線セグメントまたは曲線セグメントのノードが結合されます。コントロール ポイントは、曲線セグメントの方向とノードに対する角度を示します。作成したパスは、形状をより正確に編集できます。パスの整形について詳しくは、[309 ページの「パスを整形する」](#)を参照してください。



コントロールポイント

ベジェパスの例

フリーハンドパスは、鉛筆で線を引くのと同等の方法で作成します。パスを描き終わると、必要な数と種類のノードがパスに沿って自動的に挿入されます。

パスとマスクを変換する

マスクをパスに変換すると、さらに柔軟な編集が可能になります。マスクをパスに変換すると、編集領域と保護領域の間のエッジに沿ったパスが作成されます。パスは、パスの編集機能を使用して編集領域の形を修正できます。たとえば、イメージで複雑な形の建物の周囲にマスクを作成する場合、マスクをパスに変換してノードを配置し、建物の輪郭を正確に囲むことができます。その後で、もう一度マスクに戻します。

定義領域を選択、切り取り、またはコピーするには、パスをマスクに変換します。パスをマスクに変換すると、マスクツールを使用してその形状を修正できるようになります。

パスをマスクに変換すると、イメージ上のパスにマスクが追加されます。つまり、パスとマスクがともにイメージ上に配置されます。編集領域からオブジェクトを作成できます。このオブジェクトは、パスの位置に影響を及ぼすことなく移動することができます。詳しくは、412ページの「オブジェクトを作成する」を参照してください。

パスを複製する

パスを複製するときは、パスのコピーを作成します。複製したパスを変更しても、元のパスには影響を与えません。

ベジェパスを描くには

- 1 ツールボックスのパスツール  をクリックします。
- 2 プロパティバーの【ベジェ】ボタン  をクリックします。
- 3 最初のノードを置く位置をクリックします。
- 4 直線セグメントの終点にカーソルを置き、次のいずれかを実行します。
 - クリックして、直線のノードを配置します。
 - ドラッグして、曲線のコントロールポイントを設定します。
- 5 プロパティバーの【ベジェ】ボタン  をクリックして、パスを完成させます。



【パス】ドッキングウィンドウで【新規パス】ボタン  をクリックして新しいパスを追加することもできます。【パス】ドッキングウィンドウが開いていない場合は、【ウィンドウ】▶ドッキングウィンドウ▶【パス】をクリックします。

パスの開始ノードをクリックすると、閉じたパスを作成できます。

フリーハンド パスを描くには

- 1 ツールボックスのパス ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [フリーハンド] ボタン  をクリックします。
- 3 イメージ ウィンドウ内をドラッグして、パスを描きます。



[パス] ドッキング ウィンドウで [新規パス] ボタン  をクリックして新しいパスを追加することもできます。[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [パス] をクリックします。

マスクをパスに変換するには

- 1 編集領域を定義します。
- 2 [マスク] ▶ [作成] ▶ [マスクからのパス] をクリックします。
- 3 [なめらかさ] スライダを調整します。

小さい値を設定すると、ノードの数が増えるため、より正確な編集が可能です。大きい値を設定すると、ノードの数が減り、よりなめらかなパスになります。

パスをマスクに変換するには

- [マスク] ▶ [作成] ▶ [パスからのマスク] をクリックします。



開いたパスをマスクに変換すると、始点と終点のノードが自動的に接続されます。



複数のパスがある場合は、[パス] ドッキング ウィンドウでパスのサムネールをクリックし、変換するパスを選択します。[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [パス] をクリックします。

パスを複製するには

- 1 [パス] ドッキング ウィンドウでパスをクリックします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [パス] をクリックします。
- 2 [パス] ドッキング ウィンドウで [オプション] ボタン  をクリックし、[複製] をクリックします。



複製のパスは「コピー」という文字がパス名に追加されて [パス] ドッキング ウィンドウに表示されます。

パスを管理する

パスを保存/エクスポート/削除する

Corel PHOTO-PAINT のファイル形式 (CPT) でイメージを保存すると、そのイメージに含まれる 1 つ以上のパスも保存することができます。パスをエクスポートして、CorelDRAW (CDR) や Adobe Illustrator (AI) などの他のアプリケーションで使用することもできます。他の Corel PHOTO-PAINT イメージでパスを使用する場合は、Corel Presentation Exchange (CMX) ファイル形式にそのパスをエクスポートする必要があります。パスはいつでも削除できます。

パスおよびベクトル グラフィックをインポートする

Corel PHOTO-PAINT のイメージにパスをインポートすることができます。2 つ以上のパスを開いて、それらをイメージ ウィンドウで切り替えることができます。Corel PHOTO-PAINT では、別の描画アプリケーションから、**ベクトル グラフィック**をインポートすることもできます。ベクトル グラフィックをパスに変換すると、ベクトル上の各ポイントは**ノード**になります。CorelDRAW からテキストをインポートするには、まずテキストを曲線に変換する必要があります。

パスを表示する

デフォルトでは、パスは黒で表示されます。イメージでの作業時にパスを非表示にすることもできますし、パスのデフォルト カラーを変更して見やすくすることもできます。

パスをイメージとともに保存するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[名前を付けて保存]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスにイメージの名前を入力します。
- 4 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから **[Corel PHOTO-PAINT イメージ]** を選択します。



パスを他の Corel PHOTO-PAINT イメージや他のアプリケーションで使用するには、**パスをエクスポート**する必要があります。パスのエクスポートについて詳しくは、[308 ページの「パスをエクスポートするには」](#)。を参照してください。

パスをエクスポートするには

- 1 **[パス]** ドッキング ウィンドウで**パス**をクリックします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[パス]** をクリックします。
- 2 **[パス]** ドッキング ウィンドウで **[オプション]** ボタン  をクリックし、**[パスのエクスポート]** をクリックします。
- 3 パスを保存するフォルダを選択します。
- 4 **[ファイル名]** **[ファイルの種類]** リスト ボックスからファイルの種類を選びます。

パスを削除するには

- 1 **[パス]** ドッキング ウィンドウで**パス**をクリックします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[パス]** をクリックします。
- 2 **[パス]** ドッキング ウィンドウの **[現行パスの削除]** ボタン  をクリックします。

パスまたはベクトル グラフィックをインポートするには

- 1 **[パス]** ドッキング ウィンドウで**フライアウト** ボタンをクリックし、**[パスのインポート]** をクリックします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[パス]** をクリックします。
- 2 **パス**または**ベクトル グラフィック**が保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をダブルクリックします。



大きく複雑なベクトル イメージは、パスとしてインポートするとベクトル イメージに**ノード**が多くなりすぎるため、インポートには適していません。

パスを隠すには

- [パス] ドッキング ウィンドウで非表示にするパスの隣にあるチェック ボックスをオフにします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [パス] をクリックします。

デフォルトのパス カラーを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [パスのカラー]ピッカーを開いて、カラーをクリックします。

パスを整形する

ノード、セグメント、コントロール ポイントを選択および移動して、パスの形状を変更することができます。

ノードを選択する

ノードを移動/削除する、またはノードに関連するコントロール ポイントをドラッグするときは、まずノードを選択する必要があります。複数のノードを選択すると、1 つ以上のパス セグメントに同時に同じ操作を実行することができます。

パスのセグメントを移動する

パスのセグメントを移動するには、ノードをドラッグします。1 つのノードをドラッグすると、そのノードが属するセグメントが一緒に移動します。隣接する複数のノードをドラッグすると、それらのノード間のパス セグメントが形を維持したまま一緒に移動します。

パス セグメントを回転/斜変形する

パスを回転させると、回転の中心と呼ばれる中心点を軸にパスが回転します。パスを斜変形すると、パスの一方の辺を固定したまま、反対側の辺を傾けることができます。

パス セグメントのサイズを変更する

選択したパス セグメントの長さまたは幅を変更したり、選択したパス セグメントをスケールすることができます。パス セグメントをスケールする場合、比率が維持される場合と、サイズ変更に応じて歪曲される場合があります。

曲線のセグメントをコントロール ポイントを使用して整形し直す

曲線セグメント上で 1 つのノードを選択すると、そのノードから 2 つのコントロール ポイントが互いに反対方向に伸びます。このコントロール ポイントを再配置して、曲線オブジェクトの形状を変更できます。目的の形状にするためには、ノードの種類を変更することもあります。ノードの種類について詳しくは、313 ページの「ノードの種類を変更する」を参照してください。

パス ノードを選択するには

- 1 ツールボックスのパス ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [整形] ボタン  をクリックします。
- 3 ノードをクリックします。

可能な操作

複数のノードを選択する

Shift キーを押しながら、選択するノードをクリックします。

可能な操作

すべてのノードを選択する

Ctrl + Shift キーを押しながら、任意のノードをクリックします。



[整形] ボタン  をクリックし、ノードのグループを**選択範囲線**で**選択**すれば、複数のノードを選択できます。

ノードの選択を解除するには、**Shift** キーを押しながらノードをクリックします。

パス セグメントを移動するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス セグメント**のノードを選択します。
- 4 ノードを目的の位置にドラッグします。



パス セグメントを正確に移動するには、**矢印**キーを使用して選択したノードを**カーソル**キー移動するか、**Shift** キーを押しながら**矢印**キーを使用して選択したノードを**スーパー カーソル**キー移動します。

パス セグメントを回転させるには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス セグメント**のノードを選択します。
- 4 **[オブジェクト] ▶ [パスの編集] ▶ [ノードの回転/斜変形]** をクリックします。
- 5 **回転ハンドル**をドラッグします。



回転の中心を新しい位置にドラッグすることもできます。

パス セグメントを斜変形するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス セグメント**のノードを選択します。
- 4 **[オブジェクト] ▶ [パスの編集] ▶ [ノードの回転/斜変形]** をクリックします。
- 5 **斜変形ハンドル**をドラッグします。

パス セグメントのサイズを変更するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス セグメント**のノードを選択します。

- 4 [オブジェクト] ▶ [パスの編集] ▶ [ノードの伸縮/スケール] をクリックします。
- 5 選択ボックスで、次のいずれかの**ハンドル**をドラッグします。
 - 側面の選択ハンドル - 選択したパス セグメントを伸縮します。
 - コーナーの選択ハンドル - 選択したパス セグメントをスケールします。



プロパティ バーの **[伸縮モード]** ボタン  をクリックして、パス セグメントのサイズを変更することもできます。

コントロール ポイントで曲線を整形するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 曲線**ノード**を選択します。
- 4 **コントロール ポイント**をドラッグします。

パス ノードを追加/削除する

パスの**ノード**数を増減して、直線や曲線の**セグメント**をよりきめ細かく変更することができます。

ノードを追加/削除する

既存のセグメント、ノード、および**コントロール ポイント**を使用してもパスを思いどおりに整形できない場合は、パスにノードを追加することができます。ノードは 1 つずつ追加することも、また、複数同時に追加することもできます。ノードを追加するときは、直線セグメントのどこにノードを表示するかを選択できます。

ノードを削除する場合、ノードの位置によっては、パスの形状が変化することがあります。

パスをなめらかにする

マスクから作成したパスやフリーハンドで描いたパスには、形状を維持するために必要がないノードが含まれていることがあります。余分なノードがあると、パスがなめらかに見えません。このような不要なノードを、パス全体またはパスの部分から削除して、パスをなめらかにすることができます。

パスに単一のノードを追加するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス**上で**ノード**を追加する位置をクリックします。
- 4 プロパティ バーの**[ノードの追加]**ボタン  をクリックします。



ノードを選択し、プロパティ バーで **[ノードの追加]** ボタン  をクリックすると、パス **セグメント**の中間点にノードを追加できます。ノードは、選択したノードと、パス上でその 1 つ前にあたるノードとの間に追加されます。

パス セグメントにノードを追加する位置をダブルクリックして、ノードを追加することもできます。

パスからノードを削除するには

- 1 ツールボックスの**パス ツール**  をクリックします。

- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 ノードを選択します。
- 4 プロパティ バーにある **[ノードの削除]** ボタン  をクリックします。



ダブルクリックしてノードを削除することもできます。

パスをなめらかにするには

- 1 ツールボックスの **パス** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス**の領域を選択します。
- 4 プロパティ バーの **[スムーズ化]** ボックスに値を入力します。

1～100 までの値を入力することができます。小さい値を設定すると、パスの形状を維持するために必要がないノードが削除されます。大きい値を設定すると、より多くのノードが削除されますが、パスの形状は維持されます。

パスを結合/分割する

パス セグメントを結合または分割して、開いたパスや閉じたパスをイメージに作成できます。パス内のセグメントは、必ずノードを介して接続されます。このため、セグメントの結合と分割は、ノードが存在する位置でのみ実行できます。セグメントを分割する位置にノードがない場合は、その位置にノードを追加する必要があります。

開いたセグメントまたはサブパスの両端にあるノードを結合できます。たとえば、開いたパスの始点および終点のノードを結合すると、閉じたパスになります。**サブパス**を結合することもできます。

閉じたパスを開く、またはサブパスを作成する場合は、2つのノードの間の接続部分を分割します。パスを分割すると、分割されたセグメントの端に新しいノードが追加され、2つの**サブパス**を形成します。

パス ノードを結合するには

- 1 ツールボックスの **パス** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 **パス セグメント**または**サブパス**の開いた端にある2つのノードを選択します。
- 4 プロパティ バーの **[ノードの結合]** ボタン  をクリックします。



遠く離れている2つのノードを結合した場合、それらのノードは元の位置の中間で結合されます。

パスを分割するには

- 1 ツールボックスの **パス** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 ノードを選択します。
- 4 プロパティ バーにある **[ノードの分割]** ボタン  をクリックします。
- 5 ノードを**パス**の外にドラッグします。

ノードの種類を変更する

ノードの種類を変更すると、両側のセグメントの動き方が変わります。ノードの種類を変更しても、パスの形状がすぐには変化しないこともあります。ただし、コントロールポイントを移動して実際にパスを編集すると、形状が変化します。

ノードの種類を変更すると、セグメントを直線から曲線に変更したり、曲線から直線に変更したりすることができます。直線を曲線セグメントに変更した場合は、セグメントの端にあるノードを選択して、曲線のコントロールポイントを表示する必要があります。

曲線ノードには、スムーズ化、対称化、および尖化の3つのタイプがあります。対称化ノードでは、対称線をはさんで一方の側にあるノードの曲線を反対側にミラー化します。尖化ノードでは、曲線に鋭い角度を付けます。スムーズ化ノードでは、2つのセグメント間の移行をなめらかにします。



ノードの種類 (左から右へ) : 対称化、尖化、スムーズ化

パス セグメントを曲線/直線に変更するには

- 1 ツールボックスのパス ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 パス セグメントで 1 つ以上のノードを選択します。
- 4 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 直線化
 - 曲線化



パス セグメントを選択し、プロパティ バーの **[直線化]** または **[曲線化]** ボタンをクリックして、セグメントを曲線または直線に変更することもできます。

パス ノードの曲線の種類を変更するには

- 1 ツールボックスのパス ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[整形]** ボタン  をクリックします。
- 3 ノードを選択します。
- 4 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 対称曲線 
 - 曲線をシャープ化 
 - 曲線をスムーズ化 



スムーズ化ノードを持つ直線セグメントに曲線セグメントを接続した場合、曲線セグメントのコントロールポイントは直線セグメントの延長線上でのみ移動できます。

直線セグメントに接続している曲線ノードは、[スムーズ化]ノードまたは[尖化]ノードになります。

ブラシ ストロークをパスに適用する

パスに沿ってペイントし、イメージに正確にブラシ ストロークを適用することができます。ブラシ ストロークの適用については詳しくは、329 ページの「[ブラシストローク](#)」を参照してください。

パスに沿ったブラシ ストロークを保存して、繰り返すことができます。保存したブラシ ストロークを編集して新しい効果を作成するには、ブラシ ストロークのサイズ、数、角度、カラーを調整します。

ブラシ ストロークをパスに沿って適用するには

1 ツールボックスのパス ツール  をクリックします。

2 [パス](#)を選択します。

3 次のいずれかをクリックします。

- [ペイント ツール](#) 
- [効果ツール](#) 
- [クローン ツール](#) 
- [イメージ スプレー ツール](#) 
- [消しゴム ツール](#) 
- [カラーの入れ替えブラシツール](#) 

4 プロパティ バーで、ツールの属性を設定します。

5 [\[オブジェクト\] > \[パスの編集\] > \[パスにブラシ ストロークを適用\]](#) をクリックします。

ブラシ ストロークを再適用する場合は、[\[編集\] > \[ブラシ ストロークの繰り返し\]](#) をクリックします。



[\[オブジェクト\] > \[パスの編集\] > \[パスのブラシ ストロークを逆転\]](#) をクリックして、ストロークの方向を反転させることができます。

パスの特定の部分だけをペイントする場合は、その領域を [マスク](#) ツールで選択します。マスクについては詳しくは、281 ページの「[編集領域を定義する](#)」を参照してください。

保存したブラシ ストロークをパスに沿って繰り返すには

1 次のいずれかをクリックします。

- [ペイント ツール](#) 
- [効果ツール](#) 
- [クローン ツール](#) 
- [イメージ スプレー ツール](#) 
- [消しゴム ツール](#) 

• カラーの入れ替えブラシツール 

- 2 プロパティ バーで、ツールの属性を設定します。
- 3 **[編集]** ▶ **[ブラシ ストロークの繰り返し]** をクリックします。
- 4 **[ブラシ ストロークの繰り返し]** ダイアログ ボックスの**[ブラシ ストローク]** リスト ボックスから、ブラシ ストロークを選択します。
- 5 必要に応じて属性を変更します。
- 6 **[パスに沿ってブラシ ストロークを繰り返す]** ボタン  をクリックします。



ブラシ ストロークのパスをロードするには、**[ブラシ ストローク]** リスト ボックスの上にあるフライアウト矢印をクリックし、**[パスをブラシ ストロークとしてロード]** をクリックします。パス ファイルが保存されているフォルダを選択し、ファイル名をダブルクリックしてから、**[ブラシ ストロークの繰り返し]** ダイアログ ボックスで属性を修正します。

クリップ パス

クリッピング パスを使用すると、パスで選択された領域を輪郭で囲むことで、長方形でないイメージを作成できます。このイメージを他のアプリケーションで表示すると、パスで選択した領域以外の部分がすべて透明になります。たとえば、テーブルの上に花びんが置かれている Corel PHOTO-PAINT イメージがある場合、花びんの周囲にクリッピング パスを作成して、花びんのイメージ領域を別のアプリケーションにエクスポートすることができます。クリッピング パスを使用しない場合、イメージ全体が正方形または長方形のフレームに囲まれ、花びんの領域の形状は失われます。

他のアプリケーションにクリッピング パスを送るには、パスの内容を Encapsulated PostScript (EPS) ファイルとしてエクスポートする必要があります。

クリッピング パスを作成するには

- 1 イメージ領域の周囲にパスを作成します。
- 2 **[パス]** ドッキング ウィンドウでフライアウト ボタンをクリックし、**[クリッピング パスとして設定]** をクリックします。
[パス] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[パス]** をクリックします。



[パス] ドッキング ウィンドウのパス ファイル名の横に、**[クリップ パス]** アイコンが表示されます。

クリッピング パスを EPS ファイルとして保存するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[名前を付けて保存]** をクリックします。
- 2 クリッピング パスを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 4 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから **[Encapsulated PostScript]** を選択します。
- 5 **[保存]** をクリックします。
[EPS へのエクスポート] ダイアログ ボックスが開きます。
- 6 **[クリップ]** の**[クリップ先]** チェック ボックスをオンにします。
- 7 **[クリップ パス]** オプションをオンにします。
- 8 **[平坦度]** ボックスに値を入力します。
- 9 **[クリッピング領域に対してイメージを切り抜き]** チェック ボックスをオンにします。



[クリッピング領域に対してイメージを切り抜き] チェック ボックスをオフにすると、**パス**とともにイメージ全体を保存できます。ただし、PostScript プリンタで印刷されるのは、クリッピング パスで囲まれた部分だけです。



アルファ チャンネルを使用したマスク

アルファ チャンネルを使用すると、単一のイメージで複数のマスクを使用して作業できます。一度にイメージに適用できるマスクは 1 つだけなので、マスクをアルファ チャンネルに保存すると、イメージをあるマスクで編集してから、別のマスクをロードしてイメージをさらに編集することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 317 の「アルファ チャンネルを作成および編集する」。
- ページ 318 の「マスクおよびアルファ チャンネルを保存する」。
- ページ 319 の「マスクおよびアルファ チャンネルをロードする」。
- ページ 321 の「アルファ チャンネルを管理する」。

アルファ チャンネルを作成および編集する

Corel PHOTO-PAINT アプリケーションでマスクを作成すると、新しいチャンネルに現在のマスクとして表示されます。新しいマスクを作成するたびに、それが現在のマスクになります。これに対し、アルファ チャンネルを作成すると、イメージに複数のマスクを保存できます。現在のマスクからアルファ チャンネルを作成して現在のマスクの編集領域や保護領域をコピーすることや、空のアルファ チャンネルを作成することができます。空のアルファ チャンネルは不透明度が均一であり、したがって編集領域は含まれていません。

アルファ チャンネルに保存されているマスクを編集するには、現在のマスクをアルファ チャンネルに追加します。この操作によって、現在のマスクの編集領域がそのアルファ チャンネルに追加され、アルファ チャンネルの編集領域が広がります。

アルファ チャンネルに保存されているマスクも、[マスクにペイント] というマスク モードでマスクを編集する場合と同じ要領で編集できます。[マスクにペイント] モードでのマスクの編集について詳しくは、300 ページの「マスクの透明度を調整する」を参照してください。



アルファ チャンネル (1)、現在のマスクとともに表示された場合のアルファ チャンネル (2)、アルファ チャンネルへのマスクの追加 (3)

現在のマスクからアルファ チャンネルを作成するには

- [マスク] ▶ [保存] ▶ [チャンネルとして保存] をクリックします。



この手順を使用して、現在のマスクをイメージのアルファ チャンネルに保存できます。

空のアルファ チャンネルを作成するには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウの [新規アルファ チャンネル] ボタン  をクリックします。

[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。

- 2 [新規アルファ チャンネル] ダイアログ ボックスの [名前] ボックスにチャンネルの名前を入力します。
- 3 マスク オーバーレイのカラーをクリックします。
- 4 [不透明度] ボックスに値を入力して、オーバーレイ カラーの不透明度を設定します。
マスク オーバーレイを反転するには、[オーバーレイの反転] チェック ボックスをオンにします。
- 5 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [黒の塗りつぶし] — 編集領域を含まないアルファ チャンネルを作成します。
 - [白の塗りつぶし] — 保護領域を含まないアルファ チャンネルを作成します。

現在のマスクをアルファ チャンネルに追加するには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、アルファ チャンネルをクリックします。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 2 [現行チャンネルに保存] ボタン  をクリックします。

マスクおよびアルファ チャンネルを保存する

イメージでアクティブになるマスクは 1 つだけなので、新しいマスクを作成すると、そのマスクが現在のマスクになります。それに対し、マスクを作成する前に、現在のマスクをイメージのアルファ チャンネルに保存すれば、マスクを再利用できます。Corel PHOTO-PAINT (CPT) や TIFF など、マスク情報をサポートするファイル形式でイメージを保存すると、現在のマスクとすべてのアルファ チャンネルがイメージと一緒に保存されます。

現在のマスクまたはアルファ チャンネルは、ディスクに別ファイルとして保存することもできます。マスクやアルファ チャンネルを保存すると、マスクを他のイメージで使用できます。この機能は、マスク情報をサポートしていないファイル形式でイメージを保存しつつ、そのイメージの編集に使用したマスクのコピーを保持したい場合に、とりわけ便利です。カラー マスクも、別ファイルとして

ディスクに保存できます。カラーマスクについて詳しくは、286 ページの「カラー情報を使用して編集領域を定義する」を参照してください。

現在のマスクをイメージのアルファ チャンネルに保存するには

- 1 [マスク] ▶ [保存] ▶ [チャンネルとして保存] をクリックします。
- 2 新規または既存のアルファ チャンネルの名前を [名前] ボックスに入力します。

マスクをディスクに保存するには

- 1 [マスク] ▶ [保存] ▶ [マスクをディスクに保存] をクリックします。
- 2 マスクを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [ファイルの種類] リスト ボックスからファイルの種類を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

アルファ チャンネルをディスクに保存するには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、アルファ チャンネルをクリックします。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 2 [フライアウト] ボタン  をクリックし、[保存名] をクリックします。
- 3 [アルファ チャンネルをディスクに保存] ダイアログ ボックスで、アルファ チャンネルを保存するフォルダを選択します。
- 4 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 5 [ファイルの種類] リスト ボックスからファイルの種類を選択します。
- 6 [保存] をクリックします。

カラー マスクをディスクに保存するには

- 1 [マスク] ▶ [カラー マスク] をクリックします。
- 2 カラー マスクを作成します。
- 3 フライアウト ボタンをクリックし、[カラー マスクの保存] をクリックします。
- 4 カラー マスクを保存するフォルダを選択します。
- 5 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 6 [保存] をクリックします。

マスクおよびアルファ チャンネルをロードする

アルファ チャンネルに保存したマスクをロードすることで、イメージの現在のマスクを修正することができます。

イメージのアルファ チャンネルに保存してあるマスクをロードする場合は、マスクの適用に使用するマスク モードを選択できます。選択したマスク モードに応じて、保存したマスクが現在のマスクになるか、または現在のマスクに結合されます。

また、ディスクからマスクまたはカラー マスクをロードして、現在のマスクに置き換えることもできます。特定のイメージ領域またはイメージ全体にマスクを適用することが可能です。

ディスクからアルファ チャンネルをロードすると、アルファ チャンネルに保存されているマスクを現在のイメージに適用できます。

アルファ チャンネルからマスクをロードするには

- 1 ツールボックスのマスク ツールをクリックします。

- 2 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、[チャンネル] リストからアルファ チャンネルを選択します。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 3 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 標準モード 
 - 加算モード 
 - 減算モード 
 - 重なりモード 
- 4 [マスク] ▶ [作成] ▶ [チャンネルをマスクに] をクリックします。

ディスクからマスクをロードするには

- 1 [マスク] ▶ [ロード] ▶ [ディスクからロード] をクリックします。
- 2 ファイル名をクリックします。
マスクのサムネールを表示できます。
- 3 [開く] をクリックします。
- 4 イメージ ウィンドウ内をドラッグして、マスクを適用する領域を定義します。



マスクをイメージ全体に適用するには、イメージ ウィンドウ内をクリックします。マスクの作成に使用されたイメージとアクティブなイメージとで寸法が異なる場合、マスクはアクティブなイメージに合わせて伸縮します。

ディスクからカラー マスクをロードするには

- 1 [マスク] ▶ [カラー マスク] をクリックします。
- 2 フライアウト ボタンをクリックし、[カラー マスクを開く] をクリックします。
- 3 [開く] ダイアログ ボックスで、カラーマスクが保存されているフォルダを選択します。
- 4 ファイル名をダブルクリックします。



現在のカラー マスクを保存せずにカラー マスクをロードすると、現在のカラー マスクは失われます。

ディスクからアルファ チャンネルをロードするには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、フライアウト ボタンをクリックし、[開く] をクリックします。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 2 [ディスクからアルファ チャンネルをロード] ダイアログ ボックスでアルファ チャンネルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をダブルクリックします。



アクティブなイメージと寸法の異なるイメージで作成したマスクをロードする場合、マスクはアクティブなイメージ全体に合わせて伸縮しますが、マスクの縦横比が変わることがあります。

アルファ チャンネルを管理する

表示するアルファ チャンネルと、その表示方法を指定できます。たとえば、イメージ ウィンドウに単独のアルファ チャンネルを表示すること、または他のアルファ チャンネルやカラー チャンネルと組み合わせて表示することができます。アルファ チャンネルを 1 チャンネルだけ表示すると、イメージはグレースケール イメージとして表示されます。アルファ チャンネルを 1 チャンネル以上のカラー チャンネルとともに表示した場合、アルファ チャンネルの保護領域は、さまざまな不透明度を持つ着色されたマスク オーバーレイで覆われます。マスクのオーバーレイは、アルファ チャンネルとカラー チャンネルを表示しているときだけ表示されます。

また、不要になったアルファ チャンネルを削除して、イメージのファイル サイズを縮小することもできます。アルファ チャンネルのプロパティを修正できます。たとえば、マスクのオーバーレイの名前、カラー、不透明度を変更することや、マスクのオーバーレイがマスクの保護領域と編集領域のどちらを覆うかを変更することができます。

アルファ チャンネルを表示するには

- [チャンネル] ドッキング ウィンドウでアルファ チャンネルの横にあるチェック ボックスをクリックします。

[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。



リストでのアルファ チャンネルの順序を変更する場合は、アルファ チャンネルを新しい位置へドラッグします。

アルファ チャンネルを削除するには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、[チャンネル] リストからアルファ チャンネルを選択します。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 2 [チャンネルの削除] ボタン  をクリックします。

アルファ チャンネルのプロパティを変更するには

- 1 [チャンネル] ドッキング ウィンドウで、[チャンネル] リストからアルファ チャンネルを選択します。
[チャンネル] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [チャンネル] または [イメージ] ▶ [チャンネル] をクリックします。
- 2 フライアウト ボタンをクリックし、[チャンネルのプロパティ] をクリックします。
- 3 [チャンネルのプロパティ] ダイアログ ボックスで、必要なプロパティを変更します。

ペイントと特殊効果

描画とペイント.....	325
特殊効果を適用する.....	347
特殊効果のカテゴリ.....	361



描画とペイント

Corel PHOTO-PAINT では、さまざまな整形ツールとペイント ツールを使用して、イメージを作成したり、既存イメージを修正したりすることができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 325 の「図形と線」。
- ページ 329 の「ブラシストローク」。
- ページ 332 の「イメージをスプレーする」。
- ページ 334 の「対称パターンおよび軌道」。
- ページ 336 の「ブラシ ストロークを繰り返す」。
- ページ 337 の「カスタム ブラシ」。
- ページ 339 の「圧力感知ペンとデバイス」。
- ページ 343 の「マージ モード」。

図形と線

イメージに正方形、長方形、円、楕円、多角形などの図形を追加することができます。スカルップ、面取り、および丸型の角の長方形や正方形を追加することもできます。デフォルトでは、図形は新規**オブジェクト**として追加されます。図形は輪郭だけを描くことも、カラーで塗りつぶすこともできます。また、独立した編集可能なオブジェクトとして**レンダリング**することも可能です。オブジェクトについて詳しくは、412 ページの「オブジェクトを作成する」を参照してください。

また、イメージに線を追加することもできます。線を追加する場合は、線の幅と**透明度**、およびセグメントの結合方法を指定できます。現在の主要カラーが線のカラーになります。

長方形や正方形を描くには

- 1 ツールボックスの[長方形] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 標準塗りつぶし 
 - グラデーション塗りつぶし 
 - ビットマップ塗りつぶし 
 - テクスチャ塗りつぶし 

3 **[塗りつぶし]** ピッカーから塗りつぶしを選択します。

塗りつぶしを編集するには、プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。

4 長方形が目的のサイズになるまで、イメージ ウィンドウ内をドラッグします。

正方形を描くには、**Ctrl**キーを押しながらドラッグします。

可能な操作

塗りつぶしを無効にする

プロパティ バーの **[塗りつぶしなし]** ボタン  をクリックします。

輪郭を適用する

プロパティ バーの **[輪郭の幅]** ボックスに値を入力し、輪郭の幅をピクセル単位で指定します。

輪郭のカラーを変更する

プロパティ バーの **[輪郭の色]** ボタン  をクリックします。

透明度を変更する

プロパティ バーの **[透明]** ボックスに値を入力します。



現在の塗りつぶしは、ツールボックスのカラー コントロールに表示されます。塗りつぶしについて詳しくは、[247 ページの「塗りつぶし」](#)。を参照してください。

丸型、スカルップ、面取りの角の長方形や正方形を描くには

1 ツールボックスの**[長方形]** ツール  をクリックします。

2 プロパティ バーの次のいずれかのオプションをクリックします。

- **丸型の角**  – 角を曲線にします。
- **スカルップの角**  – 曲線の刻み目があるエッジを持った角に置き換えます。
- **面取りコーナー**  – 平らなエッジの角に置き換えます。

3 プロパティ バーの **[角の半径]** ボックスに値を入力します。

4 長方形が目的のサイズになるまで、イメージ ウィンドウ内をドラッグします。

正方形を描くには、**Ctrl**キーを押しながらドラッグします。

楕円形または円を描くには

1 ツールボックスの **[楕円形]** ツール  をクリックします。

2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。

- **標準塗りつぶし** 
- **グラデーション塗りつぶし** 
- **ビットマップ塗りつぶし** 
- **テキストチャ塗りつぶし** 

3 **[塗りつぶし]** ピッカーから塗りつぶしを選択します。

塗りつぶしを編集するには、プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。

4 長方形または楕円が目的のサイズになるまで、イメージ ウィンドウ内をドラッグします。

円を描くには、**Ctrl** キーを押しながらドラッグします。

可能な操作

塗りつぶしを無効にする

プロパティ バーの **[塗りつぶしなし]** ボタン  をクリックします。

輪郭を適用する

プロパティ バーの **[輪郭の幅]** ボックスに値を入力し、輪郭の幅をピクセル単位で指定します。

輪郭のカラーを変更する

プロパティ バーの **[輪郭の色]** ボタン  をクリックします。

透明度を変更する

プロパティ バーの **[透明]** ボックスに値を入力します。



現在の塗りつぶしは、ツールボックスのカラー コントロールに表示されます。塗りつぶしについて詳しくは、[247 ページの「塗りつぶし」](#)。を参照してください。



円を描くには、**Ctrl** キーを押しながら **[楕円形]** ツールを使用してドラッグします。

多角形を描くには

1 ツールボックスの **[多角形]** ツール  をクリックします。

2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。

- **標準塗りつぶし** 
- **グラデーション塗りつぶし** 
- **ビットマップ塗りつぶし** 
- **テキストチャ塗りつぶし** 

3 **[塗りつぶし]** ピッカーから塗りつぶしを選択します。

塗りつぶしを編集するには、プロパティ バーの **[塗りつぶしの編集]** ボタン  をクリックします。

4 多角形のアンカー ポイントの設定位置をクリックし、最後のアンカー ポイントの設定位置でダブルクリックします。

可能な操作

塗りつぶしを無効にする

プロパティ バーの **[塗りつぶしなし]** ボタン  をクリックします。

多角形に輪郭を適用する

プロパティ バーの **[輪郭の幅]** ボックスに値を入力し、輪郭の幅をピクセル単位で指定します。

可能な操作

輪郭のカラーを変更する

プロパティ バーの **[輪郭の色]** ボタンをクリックします。

輪郭セグメントの結合方法を変更する

プロパティ バーの **[図形の結合]** リスト ボックスから結合タイプを選択します。

透明度を変更する

プロパティ バーの **[透明]** ボックスに値を入力します。



Ctrl キーを押しながら **[多角形]** ツール  をドラッグすると、45 度の角度を作成することができます。

線を描くには

- 1 ツールボックスの **直線** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[輪郭の幅]** ボックスに値を入力します。
- 3 プロパティ バーの **[線の色]** ボタンをクリックし、カラーを選択します。
- 4 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **マイター角**  — 直線セグメントの結合部分に尖った角を作成します。
 - **丸型の角**  — 丸型の角のある線を作成します。
 - **ベベル付き角**  — 平坦な角のある線を作成します。
 - **切り落とし角**  — 尖った、ノッチの付いた角を作成します。
- 5 イメージ ウィンドウ内でドラッグして単一の直線セグメントを描画します。

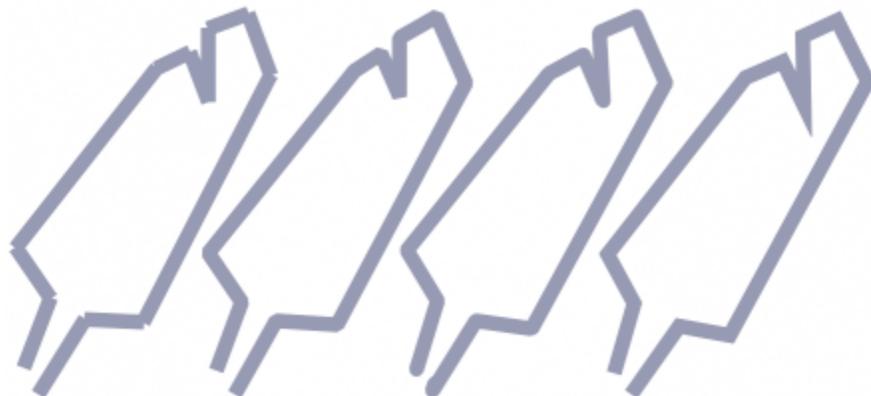
可能な操作

複数セグメントを持つ線を描く

イメージ ウィンドウで、各セグメントの開始点と終了点をクリックし、線の最後でダブルクリックします。

透明度を変更する

プロパティ バーの **[透明]** ボックスに値を入力します。



線の結合方法は、切り落とし角、ベベル付き角、丸型の角、またはマイター角のいずれかです。

ブラシストローク

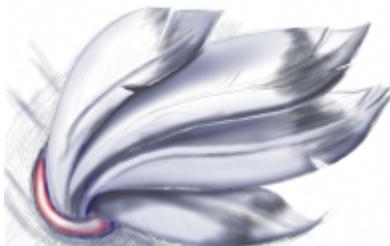
ペイント ツールでは、さまざまなペイント材料および描画材料を模倣することができます。たとえば、水彩、パステル、フェルト ペンなどのブラシ ストロークを使用できます。デフォルトでは、ブラシ ストロークはアクティブなオブジェクト、またはバックグラウンドに追加されます。また、ブラシ ストロークは個別のオブジェクトとしてレンダリングすることもできます。オブジェクトについて詳しくは、412 ページの「オブジェクトを作成する」を参照してください。

プリセットのブラシの種類

ペイントしたイメージ



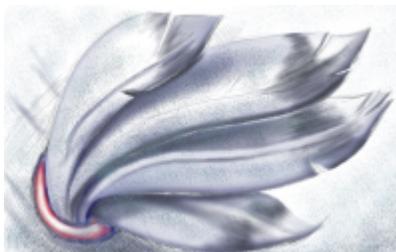
エアブラシ



[エアブラシ]でシェードしていません。



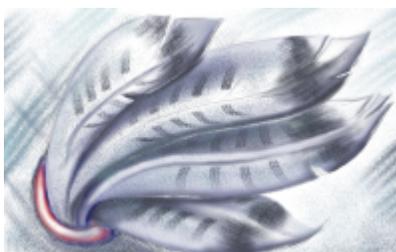
スプレー缶



カラーを散らせて、テクスチャ感を出しています。



[らくだの毛] ブラシ



[らくだの毛] ブラシを使用して、装飾的に仕上げています。

プリセット ブラシを選択する

選択したペイント ツールとブラシの種類によって、イメージに表示されるブラシ ストロークが決まります。プリセット ブラシでペイントする場合は、ペイント ツールのブラシ属性はあらかじめ設定されています。すべてのブラシ カテゴリとプリセット ブラシが表示される [ブラシ] ピッカーからプリセット ブラシを選択できます。また、[ブラシ] ピッカーでは、ペン先とブラシストロークのプレビューが用意されており、最近使用した 5 つのブラシが表示されます。



[ブラシ] ピッカーでは、ブラシ カテゴリにまとめられているプリセット ブラシをプレビューおよび選択できます。

プリセット ブラシを選択したら、必要に応じて、そのサイズ、形状、透明度、およびフェードを変更できます。ペンまたはスタイラスを使用すると、その筆圧、傾斜、方向、および回転を使用して、ブラシストロークの外観を変えることができます。詳しくは、339 ページの「圧力感知ペンとデバイス」を参照してください。

カラーおよび塗りつぶしを使用してペイントする

ブラシストロークのカラーには現在の主要カラーが使用されます。これは、カラー コントロール領域に表示されます。カラー パレットのカラー ボックスをクリックして、主要カラーを選択できます。カラーの選択について詳しくは、204 ページの「カラーを選択する」を参照してください。

カラーでペイントするだけでなく、塗りつぶしでペイントすることにより、イメージにテクスチャを適用できます。また、パスにブラシストロークを適用することもできます。詳しくは、314 ページの「ブラシストロークをパスに適用する」を参照してください。

カラーをブレンドする

マージ モードはフォアグラウンド カラーと下のカラーをブレンドする方法をコントロールします。マージ モードによって、これらのカラーをさまざまな方法で結合し、新しいカラーと効果を作成することができます。マージ モードについて詳しくは、343 ページの「マージ モード」を参照してください。

プリセット ブラシでペイントするには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
ブラシをプレビューするには、ブラシをクリックします。
- 3 ツールボックスのカラー コントロール領域で、[主要] カラー ボックスをダブルクリックし、カラーを選択します。
- 4 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。

ブラシの移動を水平方向または垂直方向に制限する場合は、**Ctrl** キーを押しながらドラッグします。移動方向を変える場合は、**Shift** キーを押しながらドラッグします。

可能な操作

ブラシ カテゴリでデフォルトのプリセット ブラシを選択する	ブラシ カテゴリをダブルクリックします。
ブラシの形状を変更する	プロパティ バーの [ペン先の形] ピッカーからブラシの形を選択します。
ブラシのサイズを変更する	プロパティ バーの [ペン先のサイズ] ボックスに値を入力します。
透明度を変更する	プロパティ バーの [透明] ボックスに値を入力します。 ブラシストロークの透明度をインタラクティブに調整するには、 Alt キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにし、透明度スライダを表示します。
フェードを変更する	プロパティ バーの [フェード] ボックスに値を入力します。 フェードをインタラクティブに変更するには、 Ctrl + Alt キーを押しながら、マウス ボタンを押したままイメージ ウィンドウをクリックして、フェード スライダを表示します。



プロパティ バーには、プリセット ブラシの属性を変更するためのオプションがあります。属性を変更すると、ブラシの名前が**[カスタム アート ブラシ]**に変わります。カスタム ブラシについては、[337 ページの「カスタム ブラシ」](#)を参照してください。



[アート メディア] ドッキング ウィンドウのブラシ ストローク サンプルをクリックしてプリセット ブラシを選択することもできます。**[アート メディア]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [アート メディア]**をクリックします。

角型または丸型のブラシ形状は、プロパティ バーで**[丸型のペン先]**ボタン  または**[角型のペン先]**ボタン  をクリックして簡単に選択できます。

イメージからサンプリングしたカラーでペイントするには

- 1 スポイト ツール  をクリックします。
- 2 イメージ ウィンドウでカラーをクリックします。
- 3 ツールボックスのクローン ツール  をクリックします。
- 4 プロパティ バーの **[ブラシ]** ピッカーを開き、**[塗りつぶしからクローン]** ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 5 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。

塗りつぶしでペイントするには

- 1 ツールボックスの塗りつぶしツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、塗りつぶしの種類を選択します。

- 3 ツールボックスの**クローン** ツール  をクリックします。
- 4 プロパティ バーの **[ブラシ]** ピッカーを開き、**ブラシ** カテゴリを選択し、**ブラシ**を選択します。
- 5 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



すべての種類の塗りつぶしでペイントできます。塗りつぶしについて詳しくは、[247 ページの「塗りつぶし」](#)。を参照してください。

マージ モードを変更するには

- 1 ツールボックスの**ペイント** ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの**[マージ モード]** リスト ボックスから**マージ モード**を選択します。



マージ モードについて詳しくは、[343 ページの「マージ モード」](#)。を参照してください。

イメージをスプレーする

ブラシの代わりに、小さなスケールのフルカラー **ビットマップ**でペイントすることができます。たとえば、空に雲を、または地面に葉をスプレーして、風景のイメージを向上できます。

Corel PHOTO-PAINT には、さまざまなイメージが用意されており、それらを使用してスプレーリストを作成します。プリセット スプレーリストをロードし、プリセットを編集することができます。また、イメージ リストのイメージを保存して、スプレーリストを作成することもできます。ソース イメージはいつでも編集できます。



この例では、バラの周囲に蝶がスプレーされています。

イメージをスプレーするには

- 1 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ブラシの種類]** リスト ボックスからプリセット イメージ リストを選択します。
- 3 プロパティ バーの**[サイズ]**ボックスに値を入力します。
- 4 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。

可能な操作

スプレーリスト イメージの出現頻度を選択する

プロパティ バーの**[イメージの順序]**リスト ボックスからオプションを作成します。

スプレーリスト イメージの透明度を変更する

プロパティ バーの **[透明]** ボックスに値を入力します。

ブラシストロークの透明度をインタラクティブに調整するには、**Alt** キーを押しながら、イメージ ウィンドウをクリックしてマウス ボタンを押したままにし、透明度スライダを表示します。

ブラシの 1 回のダブでスプレーされるイメージの数を指定する

プロパティ バーの**[イメージ数/ダブ]**ボックスに値を入力します。

ブラシ ストロークの長さに沿ってダブが広がる間隔を指定する

プロパティ バーの**[イメージ間隔]**ボックスに値を入力します。

ブラシ ストロークの幅に沿ってダブが広がる間隔を指定する

プロパティ バーの**[スプレッド]**ボックスに値を入力します。

ブラシ ストロークでペイントをフェードする比率を変更する

プロパティ バーの **[フェードアウト]** ボックスに値を入力します。負の値を指定するとフェード インし、正の値を指定するとフェードアウトします。

イメージ リストをロードするには

- 1 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[参照]** ボタン  をクリックします。
- 3 イメージ リストが保存されているフォルダを選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。

スプレーリストを作成するには

- 1 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ブラシの種類]** リスト ボックスからプリセット イメージ リストを選択します。
- 3 プロパティ バーの **[スプレーリストの作成]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[スプレーリストの作成]** ダイアログ ボックスで、スプレーリストの内容を指定します。

選択したオブジェクトからイメージ リストを作成するには

- 1 [選択] ツールで、ソース イメージとして使用する**オブジェクト**を選択します。
- 2 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーで、[イメージ リストとして保存] ボタン  をクリックして、[オブジェクトをイメージ リストとして保存] をクリックします。
- 4 イメージ リストを保存するフォルダを選択します。
- 5 [ファイル名] ボックスでファイル名を入力します。

イメージからイメージ リストを作成するには

- 1 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、[イメージ リストとして保存] ボタン  をクリックして、[ドキュメントをイメージ リストとして保存] をクリックします。
- 3 次のいずれかのボックスに値を入力します。
 - **イメージ数/行** - イメージ リストの横のタイル数を指定します。
 - **イメージ数/列** - イメージ リストの縦のタイル数を指定します。
 - **イメージの数** - リストに含めるイメージ数を指定します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 イメージ リストを保存するフォルダを選択します。
- 6 [ファイル名] ボックスでファイル名を入力します。

ソース イメージを編集するには

- 1 ツールボックスの**イメージ スプレー** ツール  をクリックします。
- 2 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウのフライアウト ボタン  をクリックし、[現行イメージ リストの編集] をクリックします。
[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 3 ソース イメージを編集します。
最後に保存したイメージ リストを上書きするには、[ファイル] ▶ [名前を付けて保存] をクリックし、[イメージをディスクに保存] ダイアログ ボックスで [保存] をクリックします。



イメージ リストの編集後は、そのイメージ リストを[イメージ スプレー] ツールに再ロードして変更を反映する必要があります。

対称パターンおよび軌道

Corel PHOTO-PAINT には、対称パターンおよび軌道パターンを作成するためのツールがあります。

対称パターンを使用してペイントする

対称パターンを使用してイメージをペイントするには、放射状ブラシまたはミラー ブラシの対称モードを使用します。放射モードでペイントする場合は、衛星ポイントと呼ばれる衛星ブラシのペン先で、中心点の周囲にブラシ ストロークを作成します。ミラー モードでは、水平面、垂直面、またはその両方に同一のブラシ ストロークを作成します。

対称パターンを使用してペイントするには、次のツールを使用します。

ブラシ ツール



ペイント ツール



イメージ スプレー ツール



ブラシを元に戻すツール



カラーの入れ替えブラシ ツール

補正ツール



クローン ツール



修復クローン ツール

その他のツール



効果ツール



消しゴム ツール

軌道を使用してペイントする

軌道を使用してイメージをペイントすると、らせん状のストローク効果を作成できます。軌道は、中心点を周回する円状のパスです。軌道を使用したペイントでは、らせん、さや、輪などの形状でペイントできます。たとえば、1つのらせんを描き、渦巻きのサイズと間隔を調整します。また、渦巻きのサイズを変更してさやと呼ばれる曲線セグメントを作成したり、軌道の数を増やして輪を作成したりすることもできます。

対称パターンを使用してペイントするには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [対称バー] をクリックします。
- 4 [対称]バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 放射状対称  — ブラシのペン先の半径に沿って定間隔で衛星ポイントを追加します。[放射状ポイント] ボックスに値を入力して、衛星ポイントの数を指定します。
 - ミラー対称  — イメージの水平面または垂直面に同一のストロークを作成します。[水平ミラー] ボタン  または [垂直ミラー] ボタン 、あるいはその両方をクリックします。
- 5 [対称点の設定] ボタン  をクリックし、イメージをクリックして対称の中心点を設定します。
- 6 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



ブラシの対称モードをオフにするには、[対称] バーの [対称なし] ボタン  をクリックします。

軌道を使用してペイントするには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 プロパティ バーの [軌道] ボタン  をクリックします。
- 4 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウの [軌道] バーをクリックします。
[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 5 次のいずれかのボックスに値を入力します。
 - **軌道の数** - ブラシ ストロークの中心周辺に分布する軌道の数を指定します。1~128 の値を指定します。らせんには小さな値を使用し、リングには大きな値を使用します。
 - **半径** - ブラシ ストロークの中心から軌道までの距離を指定します。1~999 の値を指定します。小さなペン先には大きい値が必要です。
 - **回転速度** - 軌道がブラシ ストロークの周囲を回転させる速度を指定します。0~100 の値を指定します。値が大きいほど、コイルが近くなります。
 - **増大速度** - 軌道がブラシ ストロークの中心に向かって移動する速度を指定します。0~100 の値を指定します。値が大きいほど、サイズの変化の密度が濃くなります。
 - **増大値** - ブラシ ストロークの中心に軌道を近づける距離を指定します。0~100 の値を指定します。値が大きいほど、サイズの変化が大きくなり、さやが作成されます。
- 6 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



軌道の中心の表示/非表示を切り替えるには、[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウの [軌道] バーにある [中心点を含む] ボタン  をクリックします。

ブラシ ストロークを繰り返す

ブラシ ストロークを保存して、同じイメージまたは別のイメージに再び使用することができます。パスまたはマスクの境界に沿ってブラシ ストロークを繰り返すこともできます。ブラシ ストロークのパスへの適用について詳しくは、[314 ページの「ブラシ ストロークをパスに適用する」](#)を参照してください。

保存したブラシ ストロークを編集して新しい効果を作成するには、ブラシ ストロークのサイズ、数、角度、カラーなどの属性を調整します。

ブラシ ストロークを保存するには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [編集] ▶ [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックします。
- 4 [ブラシ ストロークの繰り返し] ダイアログ ボックスで、[ブラシ ストローク] フライアウト矢印をクリックし、[最後のブラシ ストロークを追加] をクリックします。
- 5 ブラシ ストロークを保存するフォルダを選択します。
- 6 [ファイル名] ボックスでファイル名を入力します。

保存したブラシ ストロークを適用するには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [編集] ▶ [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックします。
同じようなメニュー アイテムが 2 つある場合、2 番目に表示される [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックします。
- 4 [ブラシ ストローク] リスト ボックスからブラシ ストロークを選択します。
- 5 イメージ ウィンドウをクリックしてブラシ ストロークを適用します。
複数のブラシ ストロークを適用する場合は、繰り返しクリックします。

保存したブラシ ストロークを編集するには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [編集] ▶ [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックします。
同じようなメニュー アイテムが 2 つある場合、2 番目に表示される [ブラシ ストロークの繰り返し] をクリックします。
- 4 [ブラシ ストロークの繰り返し] ダイアログ ボックスの [ブラシ ストローク] リスト ボックスから、保存したブラシ ストロークを選択します。
- 5 [ブラシ ストロークの繰り返し] ダイアログ ボックスで属性を変更します。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックしてブラシ ストロークを適用します。

カスタム ブラシ

ブラシの属性を変更してカスタム ブラシを作成することができます。作成したカスタム ブラシは、保存して再使用することができます。

ペン先のプロパティ

ブラシの形状は、ブラシのペン先によって決まります。プリセットのペン先の形状を修正するか、または編集領域からペン先を作成して保存します。調整することができるペン先の属性には、次のものがあります。

- **透明** - ペン先の透明レベルを指定します。
- **回転/方向** - ペン先の回転角度を指定します。0~360 度の値を指定できます。ペン方向が有効な場合、この値は回転の開始角度を決定します。ペンまたはスタイラスを回転するにつれて、値が開始角度に追加され、ブラシのペン先の全体的な回転が決定されます。
- **平坦度** - ペン先を平坦化する場合の量を指定します。デフォルトの値は 0 で、ブラシのペン先は平坦化されません。ペンの傾斜が有効な場合、平坦度の値はペン先の平坦度の初期値を決定します。ペンの傾斜に応じて、ペン先の平坦度が変わります。
- **伸長** - ブラシのペン先の長さを指定します。伸長の長さとして、1~999 の値を指定できます。デフォルトの値は 0 で、伸長は無効です。ブラシのペン先が伸長する方向は、[回転/方向] ボックスの値、およびスタイラスの方向と回転の値によって決定されます。たとえば、[回転/方向] ボックスの値を 0 に設定すると、ブラシのペン先はまっすぐ縦方向に延長されます。伸長のみ、または平坦度のみの使用は可能ですが、同時に使用することはできません。
- **ソフト エッジ** - ペン先のエッジの透明度と幅を指定します。

ブラシ ストロークの属性

変更することができるストロークの属性には、次のものがあります。

- **スムーズ化** - マウスを素早く動かした場合にストロークをスムーズ化する値を指定します。値が大きいほど丸い曲線になります。
- **フェードアウト** - ブラシ ストロークのフェードアウト効果の強度を指定します。値が大きいほど、ブラシ ストロークが短くなり、早く消えます。マイナスの値を指定すると、フェードイン効果になります。

ダブの属性

調整することができるダブの属性には、次のものがあります。

- **ダブの数** - ブラシ ストロークのダブの数を指定します。
- **間隔** - ブラシ ストロークの長さに沿ってダブが広がる間隔を指定します。1 を指定すると実線になります。値が大きいほどダブ間隔が広がります。
- **スプレッド** - ブラシ ストロークの幅に沿ってダブが広がる間隔を指定します。値が大きいほど、ブラシ ストロークが太くなります。
- **色相** - ブラシ ストロークの色相の変化を指定します。
- **彩度** - ブラシ ストロークの彩度の変化を指定します。
- **明度** - ブラシ ストロークの明度の変化を指定します。

ブラシのテクスチャ

プリセット ブラシ テクスチャをロードすると、デザインの選択の幅がさらに広がります。調整することができるテクスチャの属性には、次のものがあります。

- **ブラシのテクスチャ** - ブラシ ストロークに適用するテクスチャの量を指定します。
- **エッジのテクスチャ** - ブラシ ストロークのエッジに適用するテクスチャの量を指定します。[エッジのテクスチャ]ボックスは、ペン先にソフト エッジがある場合のみ使用できます。
- **ブリード** - ブラシ ストロークをどの程度まで薄くするかを指定します。[カラーの一様性]で値を指定した場合、ブラシ ストローク全体にペイントの跡が残ります。
- **カラーの一様性** - ブリードの値を指定したブラシ ストロークで、ペイント カラーの跡をどの程度まで残すかを指定します。

カラーの変化

変更することができるカラーの属性には、次のものがあります。

- **色相の範囲** - ブラシ ストロークの色相が変化する量を指定します。
- **色相の速度** - 色相値が変化する速度を指定します。
- **彩度の範囲** - ブラシ ストロークの彩度が変化する量を指定します。
- **彩度の速度** - 彩度値が変化する速度を指定します。
- **明度の範囲** - ブラシ ストロークの明度が変化する量を指定します。
- **明度の速度** - 明度値が変化する速度を指定します。

カスタム ブラシを作成するには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 プロパティ バーの [ブラシの種類] リスト ボックスからプリセットのブラシを選択します。
- 4 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで [サイズ] スライダを調整します。
[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 5 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、次のバーのロールダウン矢印をクリックして、任意の属性に値を指定します。
 - ペン先のプロパティ
 - ブラシ ストロークの属性
 - ダブの属性
 - ブラシのテクスチャ
 - カラーの変化

可能な操作

ペン先の形ピッカーにカスタム ペン先を追加する

[ペン先のプロパティ] バーの [ペン先のオプション] ボタン  をクリックし、[現在のペン先を追加] をクリックします。

カスタム ブラシを保存する

[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウのフライアウト矢印  をクリックし、[ブラシの保存] をクリックします。[ブラシの保存] ダイアログ ボックスでファイル名を入力します。

編集領域からブラシのペン先を作成するには

- 1 編集領域を定義します。
- 2 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 4 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、[ペン先のプロパティ] バーの [ペン先のオプション] ボタン  をクリックします。
[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 5 [マスクの内容から作成] をクリックします。
- 6 [ペン先のサイズ] ボックスに値を入力します。

プリセット ブラシ テクスチャをロードするには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、[ブラシのテクスチャ] バーの [テクスチャのロード] ボタン  をクリックします。
[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 4 テクスチャを選択するか、[詳細] をクリックして、該当するテクスチャ ファイルを選択します。
- 5 ファイル名をダブルクリックします。
- 6 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、[ブラシのテクスチャ] バーのロールダウン矢印をクリックし、次のボックスに 0~100 の値を入力します。
 - **ブラシのテクスチャ** - ブラシ ストロークに適用するテクスチャの量を調整します。
 - **エッジのテクスチャ** - ブラシ ストロークのエッジに適用するテクスチャの量を調整します。

圧力感知ペンとデバイス

Corel PHOTO-PAINT の効果、補正、ペイント、および消しゴムの各ツールで、圧力感知ペンまたはスタイラスの筆圧、傾斜、方向、および回転の機能を使用できます。ペンの傾斜およびペン方向の機能は、スタイラスまたはペンがこれらの機能をサポートする場合のみ使用できることに注意してください。

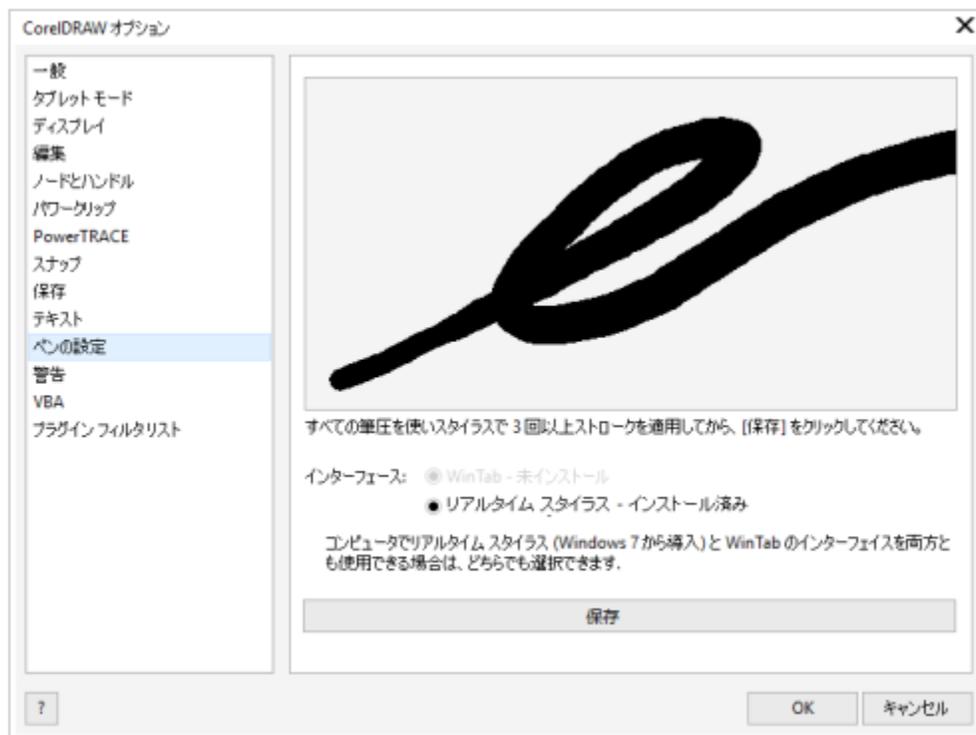
また、Corel PHOTO-PAINT の液体ツールも筆圧機能をサポートします。

筆圧とペンの設定

ペン タブレット上でのペンの圧力によって、ブラシ ストロークのサイズ、不透明度などの属性が決まります。

圧力感知スタイラスやペン タブレットを使用するときは、加える筆圧の量によってストロークが制御されます。人によってストロークの強さや筆圧のレベルが異なるため、ペンの設定を指定することによって、ストロークの強さに合わせてアプリケーションを設定す

ることができます。タッチが軽い場合は、適切なペン設定を行うことは特に有用です。ストロークが軽くて跡が残らない場合に、ペンの設定を調整すると、特定のツールの感度を上げることができます。ブラシストロークの幅を急に変更すると、【オプション】ダイアログボックスの【ペンの設定】ページでペンの設定を調整する必要があることが示されます。ペンの設定はプリセットとして保存し、後で使うことができます。



ストロークの強さに合わせてペンの設定を調整できます。

傾斜、方向、および回転

ペンの傾斜機能を使用すると、ペン先の平坦度や他のブラシ属性を変えることができます。ペン方向機能を使用すると、スタイラスを傾斜させる方向によって、ペン先の回転や他のブラシ属性を変えることができます。ペンの回転機能を使用すると、スタイラスの長軸の方向によって、ペン先の回転や他のブラシ属性を変えることができます。

リアルタイム スタイラス (RTS) と WinTab

RTS 対応のペン タブレットまたはデバイスの筆圧と傾斜を最大限に利用して、ブラシストロークを制御できます。Corel PHOTO-PAINT では、RTS インタフェースがサポートされています。Wacom 対応のグラフィック タブレットまたはデバイスをお持ちの場合は、さらに WinTab インタフェースを使用して最適な結果を得ることができます。

ペンへのツールの割り当て

ペン タブレットで利用できる圧力感知ペンと消しゴムに、異なるツールを割り当てることができます。また、圧力の範囲、透明度、色相、彩度、明度、ブリードなどのペン属性も設定できます。圧力感知ペンの属性には、比率で設定するものと、角度で設定するものがありますが、サイズはピクセル数で設定します。正の値を設定すると、ペン圧を加えたときにブラシ ツールの効果がより強くなります。負の値を設定すると、ペン圧を加えたときのブラシ ツールの効果が弱まります。

カスタム ブラシを保存するときに圧力感知ペンの属性を保存しておく、後で使用することができます。カスタム ブラシについては、337 ページの「カスタム ブラシ」を参照してください。

ペン機能のオン/オフを切り替える

ペンまたはスタイラスの筆圧、傾斜、方向、および回転の機能を無効にすると、これらの機能はブラシストロークの外観に影響を及ぼさなくなります。アプリケーションでは代わりに、ブラシ属性の設定には固定値が使用されます。



コントロール (左から右へ): 筆圧、ペンの傾斜、ペン方向、ペンの回転。ペン コントロールは、これらの機能をサポートするブラシ ツールを使用する際に、プロパティ バーからアクセスできます。

ペンの設定を調整するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [ペンの設定] をクリックします。
- 3 圧力の範囲をすべて使うと、3 種類のストロークが適用されます。

設定をプリセットとして保存するには、[保存] をクリックします。

圧力感知ペンにツールを割り当てるには、[各尖筆用に最後に使用したツールを保存] チェック ボックスをオンにします。[OK] をクリックし、圧力感知ペンに対応したペイント ツールをクリックします。([各尖筆用に最後に使用したツールを保存] チェック ボックスは WinTab タブレット オプションでのみ利用できます。)



Corel PHOTO-PAINT では、多くの圧力感知ペンが自動的に設定されます。

ペン タブレット インタフェースを選択するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [ペンの設定] をクリックします。
- 3 次のいずれかのタブレット オプションを選択します。
 - WinTab — Wacom 対応のペン タブレットまたはデバイスに推奨
 - リアルタイム スタイラス — RTS インタフェースを使用するペン タブレットまたはデバイスに推奨

圧力感知ペンの消しゴムにツールを割り当てるには

- 1 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、[ペンの設定]バーの[消しゴムのオプション]ボタン  をクリックします。

[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。

- 2 ツールをクリックします。

圧力感知のペンまたはスタイラスの属性を設定するには

- 1 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの [ブラシ] ピッカーを開き、ブラシ カテゴリを選択し、ブラシを選択します。
- 3 [ブラシの設定] ドッキング ウィンドウで、[ペンの設定]バーのフライアウト矢印をクリックします。

[ブラシの設定] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ブラシの設定] をクリックします。
- 4 次のいずれかのボックスに値を入力します。
 - 圧力の範囲 — 圧力を指定できます。-999~999 の値を指定します。
 - 不透明度 - ブラシ ストロークの不透明度を調整します。ツールの透明度が 0 または既に最大値になっている場合は、正の値であっても負の値であっても影響がありません。-99~100 の値を指定します。
 - ソフト エッジ - ブラシ ストロークの透明のエッジの幅を指定します。-99~100 の値を指定します。
 - 色相 - カラー ホイールでペイント カラーの色相を、指定した角度だけシフトします。
 - 彩度 - ペイント カラーの彩度の最大変化量を表します。-100~100 の値を指定します。
 - 明度 - ペイント カラーの明度の最大変化量を表します。-100~100 の値を指定します。
 - テクスチャ - 現在のペイント ツールで表示されるテクスチャの量を指定します。-100~100 の値を指定します。

- **ブリード** - ブラシ ストロークの滲む度合いを指定します。-100~100 の値を指定します。
- **カラーの一様性** - **ブリード**値と連携して、ブラシ ストローク全体に残るペイントの跡を調整します。-100~100 の値を指定します。

5 タブレットに適用する圧力を変えながらペンをドラッグして、属性をテストします。



傾斜、方向、および回転をサポートするスタイラスまたはペンでは、これらの機能はブラシ属性を変えるのに役立ちます。

筆圧のオン/オフを切り替えるには

- 1 ツールボックスのブラシ ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[筆圧]** ボタン  をクリックします。



オンにすると、筆圧機能を使用してブラシのペン先のサイズを変えることができます。最大サイズが、プロパティ バーの **[ペン先のサイズ]** ボックスに設定されます。

ペンの傾斜のオン/オフを切り替えるには

- 1 ツールボックスのブラシ ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ペンの傾斜]** ボタン  をクリックします。



オンにすると、ペンの傾斜機能を使用してブラシのペン先の平坦度を変えることができます。平坦度の初期値を、**[ブラシの設定]** ドッキング ウィンドウの **[ペン先のプロパティ]** セクションで設定できます。詳しくは、[337 ページ](#)の「**ペン先のプロパティ**」。を参照してください。

ペン方向のオン/オフを切り替えるには

- 1 ツールボックスのブラシ ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ペン方向]** ボタン  をクリックします。



オンにすると、ペン方向機能を使用してブラシのペン先の回転を変えることができます。回転の開始角度を、**[ブラシの設定]** ドッキング ウィンドウの **[ペン先のプロパティ]** セクションで設定できます。詳しくは、[337 ページ](#)の「**ペン先のプロパティ**」。を参照してください。

ペンの回転のオン/オフを切り替えるには

- 1 ツールボックスのブラシ ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[ペンの回転]** ボタン  をクリックします。



オンにすると、ペンの回転機能を使用してブラシのペン先の回転を変えることができます。回転の開始角度を、**[ブラシの設定]** ドッキング ウィンドウの **[ペン先のプロパティ]** セクションで設定できます。詳しくは、[337 ページ](#)の「**ペン先のプロパティ**」。を参照してください。

マージモード

コンピュータでは、カラーは数値として扱われます。マージモードでは、これらのカラー値を使用して数学的な計算を実行します。マージモードは、イメージに含まれるソースカラーとベースカラーを結合して、混合カラーと呼ばれる新しいカラーや効果を生じます。一部のプログラムでは、マージモードは描画モードとも呼ばれます。

ペイントツールでは、マージモードによってブラシストロークとイメージの結合方法を指定します。オブジェクトでは、マージモードによって、オブジェクトのカラーと、オブジェクトの背後にあるバックグラウンドまたは下にあるオブジェクトとの結合方法を指定します。

マージモード



[標準] マージモードでは、ベースカラーをソースカラーで置き換えます。これが、デフォルトのマージモードです。



[追加] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値を加算します。



[減算] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値を加算し、その合計から 255 を減算します。このマージモードではカラーチャンネルを減算処理するので、ベースカラーより明るい混合カラーが生成されることはありません。たとえば、白の上に青をペイントすると、結果は青になり、黒の上に青をペイントすると黒になります。



[差分] マージモードでは、ベースカラー値からソースカラー値を減算し、その結果の絶対値を適用します。現在のソースカラー値が 0 の場合は、ベースカラーは変わりません。



[乗算] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値を乗算し、その結果を 255 で除算します。白でペイントしない限り、最終的な結果は、常にオリジナルのベースカラーより暗くなります。黒を乗算した場合、結果は常に黒になります。どのカラーに白を乗算しても、作成されるカラーは結合前と変わりません。



[除算] マージモードでは、ベースカラー値をソースカラー値で除算し、その結果を 255 以下にします。



[明化] マージモードでは、ソースカラーがベースカラーより明るい場合は、ベースカラーをソースカラーで置き換えます。

マージモード



[暗化] マージモードでは、ソースカラーがベースカラーより暗い場合は、ベースカラーにソースカラーを適用します。



[テクスチャ化] マージモードでは、ソースカラーをグレースケールに変換し、そのグレースケール値をベースカラー値で乗算します。



[カラー] マージモードでは、ソースカラーの色相と彩度、およびベースカラーの明度に基づいてカラーを生成します。これは、**[明度]** マージモードの逆です。



[色相] マージモードでは、ソースカラーの色相、およびベースカラーの彩度と明度に基づいてカラーを生成します。



[彩度] マージモードでは、ソースカラーの彩度、およびベースカラーの明度と色相に基づいてカラーを生成します。



[明度] マージモードでは、ソースカラーの明度、およびベースカラーの色相と彩度に基づいてカラーを生成します。これは**[カラー]** マージモードの逆です。



[反転] マージモードでは、ソースカラーの補色に基づいてカラーを生成します。これは、現在のソースカラー値を反転し、その値をベースカラーに適用します。ソースカラー値が 127 の場合は、127 がカラーホイールの中間値であるため、カラーは変わりません。



[論理 AND] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値にブール代数論理式「AND」を適用します。



[論理 OR] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値にブール代数論理式「OR」を適用します。



[論理 XOR] マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値にブール代数論理式「XOR (排他的論理和)」を適用します。



[背面] マージモードでは、イメージの透明領域にソースカラーを適用します。35 mm ネガの硝酸銀が塗られていない透明な部分を通して見るような効果を作ります。

マージモード



[スクリーン]マージモードでは、ソースカラー値とベースカラー値を反転して乗算し、結果をさらに反転します。常にベースカラーより明るいカラーを生成します。



[オーバーレイ]マージモードでは、ベースカラー値に従って、ソースカラーを乗算するかスクリーニングします。



[ソフト ライト]マージモードでは、ぼんやりした散光でベースカラーを照らしたようなカラーを生成します。



[ハード ライト]マージモードでは、ベースカラーをスポットライトで直接照らしたようなカラーを生成します。



[カラー覆い焼き]マージモードでは、露出を下げてイメージ領域を明るくする「覆い焼き」という写真技術をシミュレートします。



[カラー焼き付け]マージモードでは、露出を上げてイメージ領域を暗くする「焼き付け」という写真技術をシミュレートします。



[赤]マージモードでは、ソースカラーを RGB イメージの赤チャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージが RGB イメージの場合にのみ使用できます。



[緑]マージモードでは、ソースカラーを RGB イメージの緑チャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージが RGB イメージの場合にのみ使用できます。



[青]マージモードでは、ソースカラーを RGB イメージの青チャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージが RGB イメージの場合にのみ使用できます。



[シアン]マージモードでは、ソースカラーを CMYK イメージのシアンチャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージが CMYK イメージの場合にのみ使用できます。

マージモード



[マゼンタ]マージモードでは、ソースカラーをCMYKイメージのマゼンタチャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージがCMYKイメージの場合にのみ使用できます。



[イエロー]マージモードでは、ソースカラーをCMYKイメージのイエローチャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージがCMYKイメージの場合にのみ使用できます。



[黒]マージモードでは、ソースカラーをCMYKイメージの黒チャンネルに適用して、カラーを生成します。このマージモードは、アクティブなイメージがCMYKイメージの場合にのみ使用できます。

また、グループ化されたオブジェクトには**[パススルー]**マージモードを使用できます。**[パススルー]**マージモードでは、グループ内の個々のオブジェクトのマージモードが、カラーとその下のオブジェクトとのブレンド方法に影響します。詳しくは、427ページの「[選択したグループのマージモード](#)」を参照してください。



特殊効果を適用する

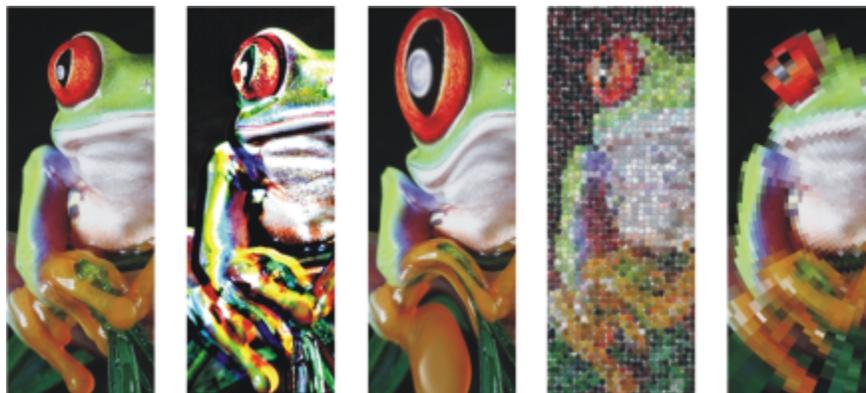
Corel PHOTO-PAINT では、特殊効果フィルタを使用して、イメージにさまざまな非破壊的な変形を適用することができます。たとえば、デッサン、絵画、エッチング、または抽象派絵画のような外観に変換できます。

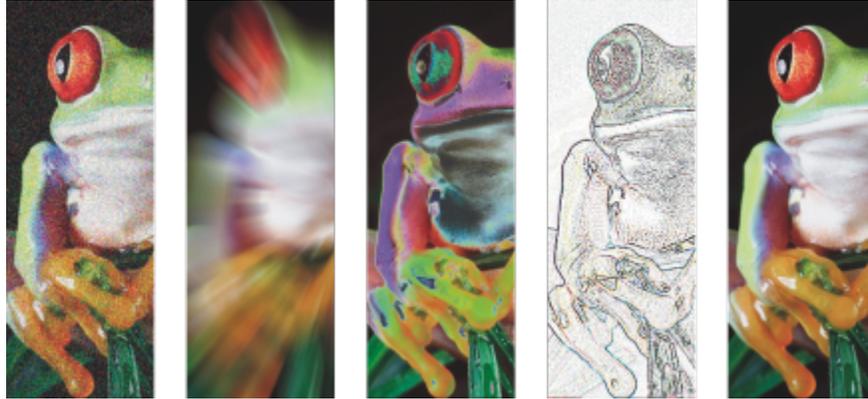
このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 347 の「特殊効果を操作する」。
- ページ 355 の「プリセット スタイル」。
- ページ 355 の「カラー/トーン効果」。
- ページ 356 の「ベベル効果」。
- ページ 356 の「ボケぼかし効果」。
- ページ 358 の「レンズ フレア効果」。
- ページ 358 の「照明効果」。
- ページ 359 の「フォト フレーム」。
- ページ 360 の「プラグインを管理する」。

特殊効果を操作する

Corel PHOTO-PAINT では、特殊効果を使用してイメージの外観に変化を付けることができます。効果は、イメージ全体に適用することも、マスクやレンズを使用してイメージの一部にだけ適用することもできます。





イメージに適用された効果の例。上段 (左から右へ) オリジナルのイメージ、エンボス効果、立体派芸術効果、モザイク クリエイティブ効果、ピクセレート歪曲効果、下段 (左から右へ) ノイズの追加効果、ズーム フェード効果、ソラリゼーション カラー変換効果、エッジ検出等高線効果、シャープ化効果

効果のカテゴリ

効果は以下のカテゴリにまとめられています。

カテゴリ

説明

3D 効果

イメージに奥行きを付けます。この効果には、361 ページの「3-D 回転」、362 ページの「ベベル効果」、362 ページの「シリンドラー」、363 ページの「エンボス」、363 ページの「ガラス」、363 ページの「ページ カール」、364 ページの「ピンチ/パンチ」、364 ページの「球体」、365 ページの「ボス」、365 ページの「ジグザグ」。などがあります

アート ストローク

手描きのような効果を付けます。この効果には、365 ページの「木炭」、366 ページの「コンテ クレヨン」、366 ページの「クレヨン」、367 ページの「立体派」、367 ページの「水遊び」、367 ページの「印象派」、368 ページの「パレット ナイフ」、368 ページの「パステル」、369 ページの「ペンとインク」、369 ページの「点描派」、369 ページの「スクラッチボード」、370 ページの「スケッチ パッド」、370 ページの「水彩画」、371 ページの「すかし模様」、371 ページの「エンボス紙」。があります

フェード

イメージをにじませて、動き、染み、段階的な変化をシミュレートします。この効果には、371 ページの「フェードの調整」、372 ページの「特定方向のスムーズ化」、372 ページの「フェード」、373 ページの「ガウス フェード」、373 ページの「ギザギザ」、374 ページの「ローパス」、374 ページの「モーション フェード」、375 ページの「放射状フェード」、375 ページの「スマート フェード」、375 ページの「ボケぼかし」、376 ページの「スムーズ化」、376 ページの「ソフト化」、377 ページの「ズーム」。などがあります。

カテゴリ

説明

カメラ

各種のカメラ レンズによる効果をシミュレートできます。この効果には、377 ページの「カラー化」、378 ページの「拡散」、379 ページの「フォト フィルタ」、378 ページの「レンズ フレア」、379 ページの「照明効果」、379 ページの「セピア調」、380 ページの「スポット フィルタ」、380 ページの「タイム マシン」などがあります。タイムマシン効果は、写真が過去に撮影されて当時の技法で現像されたとしたらどのように見えるかを再現します。

カラー変換

カラーの入れ替えや減色によって写真のような効果を付けます。この効果には、381 ページの「ビット プレーン」、381 ページの「ハーフトーン」、382 ページの「サイケデリック」、382 ページの「ソラリゼーション」。などがあります。

等高線

イメージのエッジを強調して目立たせます。この効果には、383 ページの「エッジ検出」、383 ページの「エッジの検索」、384 ページの「トレース等高線」、384 ページの「部分的均一化」。などがあります。

クリエイティブ

イメージにさまざまなテクスチャや図形を適用します。この効果には、385 ページの「アート スタイル」、387 ページの「クリスタル」、387 ページの「編物」、387 ページの「フレーム」、388 ページの「ガラスブロック」、388 ページの「モザイク」、389 ページの「分散」、389 ページの「曇りガラス」、389 ページの「スタンドグラス」、390 ページの「ビネット」、390 ページの「たつ巻き」。があります。

カスタム

さまざまな効果をイメージに適用することができます。たとえば、テクスチャやパターンをイメージに追加することができます (バンブマップ効果)。この効果には、391 ページの「バンドパス」、391 ページの「バンブ マップ」、391 ページの「ユーザー定義」。などがあります。

歪曲

イメージの表面を歪ませます。この効果には、392 ページの「ブロック」、392 ページの「置き換え」、393 ページの「メッシュワープ」、393 ページの「オフセット」、394 ページの「ピクセレート」、394 ページの「波」、394 ページの「斜変形」、395 ページの「うず巻き」、395 ページの「タイル」、396 ページの「ウェットペイント」、396 ページの「水中」、396 ページの「風」。などがあります。

ノイズ

イメージのきめの細かさを修正します。この効果には、399 ページの「ノイズの調整」、397 ページの「ノイズの追加」、397 ページの「3D ステレオ ノイズ」、398 ページの「最大」、398 ページの「標準」、399 ページの「最

カテゴリ

説明

小」、399 ページの「モアレの除去」、400 ページの「ノイズの除去」があります。

シャープ化

シャープ化の効果を追加して、エッジに焦点を当て目立たせません。この効果には、400 ページの「アンシャープ調整」、401 ページの「特定方向のシャープ化」、401 ページの「ハイパス」、402 ページの「シャープ化」、402 ページの「アンシャープ マスク」などがあります。

テクスチャ

敷石、象皮、プラスチック、浮き彫りなどのさまざまな表面をシミュレートすることにより、テクスチャをイメージに追加できます。この効果には、403 ページの「レンガ」、403 ページの「泡」、403 ページの「キャンバス」、404 ページの「敷石」、404 ページの「象皮」、405 ページの「エッチング」、405 ページの「プラスチック」、405 ページの「しっくい」、406 ページの「浮き彫り」、406 ページの「網戸」、407 ページの「石」、407 ページの「下地」などがあります。

プラグイン

Corel PHOTO-PAINTでサードパーティ製フィルタを使って、ビットマップに効果を適用できます。インストールされているプラグインは、**[効果]**メニューの一番下に表示されます。

いくつかの効果は、RGB イメージのみをサポートしています。イメージがサポート対象外のカラーモードの場合、アプリケーションがイメージを RGB (24 ビット) モードに変換します。

このアプリケーションに用意されている効果について詳しくは、361 ページの「特殊効果のカテゴリ」を参照してください。

非破壊的な編集

Corel PHOTO-PAINT では効果を非破壊的に適用できます。効果を非破壊的に適用した場合は、オリジナルのイメージに影響が及びません。Corel PHOTO-PAINT は変更内容を別個に保存します。そのため、変更内容の編集や削除、表示/非表示の切り替え、オリジナルのオブジェクトやイメージの復元がいつでも可能です。**[効果]**メニュー、**[効果]**ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[効果]**) または **[オブジェクト]**ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[オブジェクト]**) の **[効果の追加]** ボタン  から効果を適用できます。

効果をカスタマイズする

効果は、適用前にカスタマイズできます。たとえば、ビネット効果を使用してイメージにフレームを付ける場合、オフセット値を増加してサイズを縮小する、フェード値を減少して**不透明度**を低下させる、などの調整が可能です。水彩画効果では、ブラシのサイズを細くするとより詳細なイメージを描くことができ、太くするとより抽象的な効果が得られます。

いずれの効果のダイアログ ボックスにもプレビュー ウィンドウがあります。特殊効果設定を調整しながら、デザインをリアルタイムでプレビューできます。新しい領域へのスクロール、ズーム インやズーム アウトができるほか、プレビュー ウィンドウでのアートワークの表示方法を選択でき、施した調整を評価できます。デフォルトでは、効果の設定変更に合わせて、描画ウィンドウにイメージのライブ プレビューが表示されます。



適用前と適用後のフル (上段) と分割 (下段) のプレビューは、編集内容を追って各種設定がイメージに与える影響を理解するのにとりわけ便利です。

非破壊編集の中心となるのが **【効果】** ドッキング ウィンドウで、他の要素に悪影響を与えることなく編集して、さまざまな処理をいくらかでも試せます。効果の表示/非表示を切り替えたり、適用済みの効果を編集したり、同じオブジェクトに複数の特殊効果を適用したりできます。さらに、適用済みの特殊効果の順序を変更したり、特定の特殊効果を削除したりできます。効果は累積的で、何か効果を適用するたびに、直前の効果の上に重ねられます。**【効果】** ドッキング ウィンドウで、最後に追加された効果がリストの先頭になり、新しい順に表示されます。マスクを作成し、新たに定義された編集領域に調整を適用することで、効果の適用範囲を変更できます。また、対象となった領域をもとにマスクを作成し、他の効果を適用する際に再利用することもできます。効果を平坦化して変化を永続的に適用することもできます。

特殊効果をイメージ領域に適用するには

編集領域を定義して、イメージの特定の領域に特殊効果を適用することができます。編集領域について詳しくは、[279 ページの「マスク」](#)。を参照してください。

レンズを使用して特殊効果をイメージの一部に適用することも可能です。レンズを使用すると、変更はイメージには適用されず、レンズを通した画面上に表示されます。特殊効果の大半が、レンズとしても使用できます。オブジェクトに非破壊効果を適用すると、選択したオブジェクトの外観のみに影響が及ぶのに対し、効果をレンズに適用すると、レンズの下にあるすべてのオブジェクトの外観に影響が及びます。レンズについて詳しくは、[191 ページの「レンズを作成する」](#)。を参照してください。

特殊効果を繰り返す/フェードする

効果を破壊的に適用した場合、同じ操作を繰り返して効果の強度を高めたり、効果にフェードを適用して強度を弱めたりできます。操作の繰り返しとフェードについて詳しくは、[97 ページの「操作を元に戻す/やり直す/繰り返す/フェードする」](#)。を参照してください

非破壊的な編集の場合、オブジェクトに同じ効果を 2 度適用することはできません。

マージモードを使用する

効果をイメージにマージする度合いを定義できます。マージモードについて詳しくは、343 ページの「マージモード」を参照してください。

特殊効果の操作を追跡/記録/自動化する

Corel PHOTO-PAINT を使用すると、特殊効果の操作を追跡、記録、自動化できます。詳しくは、595 ページの「マクロとスクリプトを使用してタスクを自動化する」を参照してください。

効果を破壊的に適用するには

- 1 次のいずれかの操作を実行します。
 - イメージを開く — 効果をイメージに適用します。
 - 編集領域を定義する — 効果をイメージ領域に適用します。
 - オブジェクトを選択する — 効果をオブジェクトに適用します。
- 2 **[効果]** をクリックし、特殊効果のカテゴリを選択して、適用する効果をクリックします。
- 3 特殊効果 **フィルタ** の設定を調整します。

イメージに 1 つまたは複数のオブジェクトが含まれる場合、特殊効果はバックグラウンドまたは選択したオブジェクトだけに適用されます。



デフォルトでは、効果の設定を変更すると、調整後のイメージがイメージ ウィンドウに表示されます。ライブ プレビューを無効にするには、**[プレビュー]** チェック ボックスをオフにします。

特殊効果の中には、オブジェクトの形状に変化を与えるものもあります。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウの **[透明度のロック]** ボタン  をオンにすると、特殊効果を適用してもオリジナルの形状を維持できます。オリジナルの形状と新しい形状を比べても変わらない部分は、黒で表示されます。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。

効果を非破壊的に適用するには

- 1 次のいずれかの操作を実行します。
 - 背景を選択する — 効果をバックグラウンド レイヤに適用します。
 - 編集領域を定義する — 効果をイメージ領域に適用します。
 - オブジェクトを選択する — 効果をオブジェクトに適用します。
- 2 **[ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [効果]** をクリックします。
- 3 **[効果の追加]** ボタン  をクリックし、特殊効果のカテゴリを選択して、適用する効果をクリックします。
- 4 特殊効果 **フィルタ** の設定を調整します。



オブジェクトに同じ効果を 2 度適用することはできません。

非破壊効果を追加すると、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウでオブジェクト名の横に **[効果の表示/非表示]** アイコン  が表示されます。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [オブジェクト]) の [効果の追加] ボタン  をクリックし、効果カテゴリを選択し、効果をクリックすることでも、効果を非破壊的に適用できます。

デフォルトでは、効果の設定を変更すると、調整後のイメージがイメージ ウィンドウに表示されます。ライブ プレビューを無効にするには、[プレビュー] チェック ボックスをオフにします。

特殊効果の中には、オブジェクトの形状に変化を与えるものもあります。[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの [オブジェクト 透明度のロック] ボタン  をオンにすると、特殊効果を適用してもオリジナルの形状を維持できます。オリジナルの形状と新しい形状を比べても変わらない部分は、黒で表示されます。[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。

デザインをプレビューしながら効果の設定を調整するには

- 1 特殊効果のダイアログ ボックスで [プレビュー] ボタン  をクリックします。
- 2 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
イメージの別の領域にスクロールする	スクロール ツール  を使用して、表示する領域が見えるまでイメージをドラッグします。
ズーム イン/アウトする	ズーム イン ツール  、またはズーム アウト ツール  を使用して、プレビュー ウィンドウでクリックします。
イメージをプレビュー ウィンドウに合わせる	[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。
適用後のイメージを単一ペインで表示する	[フル プレビュー] ボタン  をクリックします。
オリジナルのイメージと適用後のイメージを別のペインに表示する	[適用前後のフル プレビュー] ボタン  をクリックします。
オリジナルのイメージと適用後のイメージを同じペインに表示する	[適用前後の分割プレビュー] ボタン  をクリックし、ウィンドウ中央の分割線を左右にドラッグします。

非破壊効果を使用するには

- 1 非破壊効果が適用されているオブジェクトを選択します。
- 2 [効果] ドッキング ウィンドウ ([ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [効果]) を開きます。
- 3 次の表のタスクを 1 つ実行します。

目的	作業手順
効果を表示/非表示にする	表示するまたは非表示にする効果の [表示/非表示] アイコン  をクリックします。

目的

さらに効果を適用する

適用された効果を編集する

適用された効果の順番を変更する

効果を削除する

効果の適用範囲を変更する

効果の適用先となる領域からマスクを作成する

効果を平坦化して変更を永続的に適用する

作業手順

ヒント: 複数の効果を表示または非表示にするには、効果を選択し、**[効果の表示/非表示]** アイコン  をクリックします。

[効果の追加] ボタン  をクリックし、メニューから効果を選択します。

効果を選択し、**[編集]** アイコン  をクリックします。

効果をクリックし、リストの新しい位置にドラッグします。

効果を選択し、**[削除]** ボタン  をクリックします。

マスク ツールを使用して、調整の適用先となる編集領域を定義します。**[効果]** ドッキング ウィンドウで効果を右クリックし、**[マスクに適用]** をクリックします。

[効果] ドッキング ウィンドウで効果を右クリックし、**[効果からマスクを作成]** をクリックします。

[平坦化効果] ボタン  をクリックします。

注記: 特殊効果が適用されている複数のオブジェクトを選択した場合、このボタンをクリックすると最初に選択されたオブジェクトの効果だけが平坦化されます。



[効果] ドッキング ウィンドウの **[表示/非表示]** アイコン  をクリックすると、個々の効果の表示が変化するのに対し、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウの **[効果の表示/非表示]** アイコン  をクリックすると、1つのオブジェクトに適用されているすべてのオブジェクトの表示が変化し、**[効果]** ドッキング ウィンドウで個々の効果の表示が設定されても上書きされます。



また、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[オブジェクト]**) の **[効果の表示/非表示]** トグル アイコン  をクリックして、効果の表示と非表示を切り替えることもできます。複数のオブジェクトで効果を表示または非表示にするには、オブジェクトを選択し、**[効果の表示/非表示]** トグル アイコン  をクリックします。

ロックされたオブジェクトの効果の表示と非表示を切り替えることができます。

最後に適用された破壊効果を繰り返すには

- **[効果]** ▶ **[繰り返し]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **繰り返し <最後の効果>** - 最後に適用した効果を適用します。
 - **<最後の効果> 全表示オブジェクトに適用** - 最後に適用した効果を、イメージ内のすべての表示要素に適用します。
 - **<最後の効果> 全選択オブジェクトに適用** - 最後に適用した効果を、イメージ内のすべての選択オブジェクトに適用します。

プリセット スタイル

一部の特殊効果にはプリセット スタイルがあります。さまざまなプリセット スタイルを適用できます。また、目的の効果が得られるように設定を修正することも可能です。目的の効果が得られたら、カスタマイズ設定をプリセット スタイルとして保存し、他のイメージに適用できます。不要になったプリセット スタイルは削除できます。

プリセット スタイルのある特殊効果を以下の表に示します。

- ボス
- レンズ フレア
- 照明効果
- スポット フィルタ
- ガラス
- フレーム
- バンプ マップ
- メッシュ ワープ
- 水中
- ベベル効果

プリセット スタイルを適用するには

- 1 **[効果]**をクリックし、特殊効果のカテゴリを選択して、プリセット スタイルのある効果をクリックします。
- 2 **[スタイル]**または**[プリセット]**リスト ボックスからプリセット スタイルを選択します。

カスタム プリセット スタイルを作成するには

- 1 **[効果]**をクリックし、特殊効果のカテゴリを選択して、プリセット スタイルのある効果をクリックします。
既存のプリセット スタイルを元にしてカスタム プリセット スタイルを作成するには、**[スタイル]**または**[プリセット]**リスト ボックスからプリセット スタイルを選択します。
- 2 特殊効果の設定を調整します。
- 3 **[プリセットの追加]**ボタン  をクリックします。
- 4 ダイアログ ボックスに名前を入力します。

カスタム プリセット スタイルを削除するには

- 1 **[効果]**をクリックし、特殊効果のカテゴリを選択して、プリセット スタイルのある効果をクリックします。
- 2 **[スタイル]**または**[プリセット]**リスト ボックスからプリセット スタイルを選択します。
- 3 **[プリセットの削除]**ボタン  をクリックします。



デフォルトのプリセット スタイルまたは最後に使用したプリセット スタイルは削除できません。

カラー/トーン効果

イメージのカラーとトーンを変換して、特殊効果を作成できます。たとえば、写真のネガのように見えるイメージや平坦なイメージを作成できます。

カラー/トーン効果を適用するには

- **[イメージ]** ▶ **[変形]** をクリックし、次の効果のいずれかをクリックします。
 - **反転** - イメージのカラーを反転します。イメージを反転すると、写真のネガのようなイメージが作成されます。

- **ポストライズ** - イメージのトーン数を減らします。この処理を実行すると、トーンのグラデーションが減少し、均一なカラーの領域が大きくなります。
- **しきい値 - 輝度**をしきい値として指定します。指定したしきい値オプションに応じて、しきい値以上または以下の輝度を持つピクセルが白か黒で表示されます。

ダイアログ ボックスが表示されたら、効果の設定を調整します。



[インターレース補間]効果は、イメージから線を除去できる変形効果です。**[インターレース補間]** 効果について詳しくは、149 ページの「[スキャンしたイメージの画質を向上させる](#)」を参照してください。

ベベル効果

ベベル効果は、**編集領域**に沿って傾斜のついたエッジを付け、表面が膨らんだような形にします。たとえば、ベベル効果を使用すると、テキストに奥行き感を与えたり、Web で使用する 3D ボタンを作成したりすることができます。また、照明の角度、方向、およびカラーを変更したり、ベベル エッジに沿ってテクスチャを適用したりすることもできます。プリセット スタイルを使用するか、またはプリセット スタイルをカスタマイズしてプリセット リストに保存できます。

ベベルを適用するには

- 1 **編集領域**を選択します。
- 2 **[効果]** ▶ **[3D 効果]** ▶ **[ベベル効果]** をクリックします。
- 3 **[ベベル]** タブをクリックし、次のスライダを調整します。
 - **幅** - ベベルの幅をピクセル数で指定します。
 - **高さ** - ベベルの奥行きを指定します。高さとの設定により、ベベルの角度が決定します。
 - **なめらかさ** - ベベル エッジの丸み具合を指定します。値を増やすと、エッジがより丸くなります。
- 4 **[照明]** タブをクリックし、必要な設定を行います。

可能な操作

照明のカラーを変更する

[カラー] ピッカーを開き、カラーをクリックします。

ベベル エッジにテクスチャを適用する

[テクスチャ] ピッカーを開き、テクスチャをクリックします。

ベベルの内側部分に照明を当て、テクスチャを設定する

[内部の保護] チェック ボックスをオフにします。

ボケぼかし効果

ボケぼかし効果は、**編集領域外**に適用されたぼかしの量を制御したり、フォーカス エリアとぼかし領域の境界を調整できます。円形および六角形の絞りを選択することもできます。絞りはフォーカス ピントの合っていない領域に表示される明暗のパターンに影響します。この効果は、暗いバックグラウンドにある照明の小さな点に最も効果的です。たとえば、ピントの合っていない照明をカメラレンズが扱う方法をシミュレートするのに使用します。

この効果は、**平面マスク** ツールと組み合わせても効果的に使用できます。詳しくは、282 ページの「[フリーハンド マスク ツールを使用して定義される編集領域](#)」を参照してください。



ボケぼかし効果は、中央にフォーカス エリアを定義し、写真の残りの部分をピントが合っていないままにするよう使用されていました。

ボケぼかし効果を適用するには

- 1 マスク ツールを使用して、フォーカスしたままにするイメージの領域を選択します。
- 2 [効果] ▶ [ぼかし] ▶ [ボケぼかし] をクリックします。
- 3 [ボケぼかし] ダイアログ ボックスで、次の表に示すいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
選択領域を反転する	[マスクの反転] チェック ボックスをオンにします。
ピントの合っていない領域のぼかしの量を調整する	[ぼかしの量] スライダを移動します。 スライダを右に動かすとぼかしが増え、左に動かすとぼかしが減少します。
ぼかし領域の絞りを指定する	[絞りの形状] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">●円形●六角形
フォーカス エリアとぼかし領域の境界を調整する	[フェードのエッジ] スライダを移動します。 スライダを右に動かすと、フェードが増え、左に動かすとフェードが減少します。
フォーカス エリアのサイズを微調整する	[フォーカス範囲] スライダを左に動かすと、フォーカス エリアが縮小し、右に動かすとフォーカス エリアが選択範囲のエッジまで拡大します。



フォーカスする領域よりも少し大きく選択し、その後、**[フォーカス範囲]** スライダーを使用して選択範囲のエッジを微調整します。

レンズ フレア効果

カメラを直接強い光源に向けて撮影したときに現れるフレア (光の輪) を RGB イメージに表現します。たとえば、表面に日光の反射を表現したり、星雲や銀河を使った宇宙シーンを描いたりすることができます。レンズ フレア効果には、次のようなさまざまな設定項目があります。

- フレア — 反射光の一番明るい部分。
- 光輪 — フレアの周りに現れる光の輪。
- 残像 — フレアから遠ざかるに従って小さくなる光の輪。
- 光線 — フレアから放射状に延びる光線。
- アナモルフィック ライト — フレアを通り抜ける一条の光線。

以上の各設定項目で、位置、サイズ、**輝度**、カラーを設定できます。より自然に見えるように、**ノイズ**を入れることもできます。

レンズ フレアを適用するには

- 1 イメージ、**編集領域**、または**オブジェクト**を選択します。
- 2 **[効果]** ▶ **[カメラ]** ▶ **[レンズ フレア]** をクリックします。
- 3 **[フレア]** タブをクリックし、必要なプロパティを設定します。
光輪または残像を修正するには、リスト ボックスから**[光輪]**または **[残像]**を選択し、必要な設定を修正します。
- 4 **[光線]** タブをクリックし、必要なプロパティを設定します。
アナモルフィック ライトを修正するには、リスト ボックスから**[アナモルフィック ライト]**を選択し、必要な設定を修正します。

照明効果

RGB または**グレースケール** イメージに光源を追加して、スポットライト、投光照明、太陽光などが当たっているような効果を表現します。光源の種類と数、強度、およびカラーを指定できます。また、プリセットを適用したり**カラー チャンネル**情報を修正したりすることで、エンボス加工のレリーフを作成することもできます。プリセットの光源やテクスチャ スタイルを使用したり、プリセットスタイルをカスタマイズしてプリセット リストに保存したりすることができます。

照明効果を適用するには

- 1 **[効果]** ▶ **[カメラ]** ▶ **[照明効果]** をクリックします。
- 2 **[照明ソース]** タブをクリックします。
- 3 **[種類]** の**[スポットライト]** をオンにします。
- 4 プレビュー ウィンドウで、**光源セレクト**  をドラッグして、照明の位置と方向を設定します。
- 5 **[角度]** ボックスに値を入力して、イメージに当たる照明の角度を設定します。
- 6 次のスライダーのいずれかを調整します。
 - **輝度** — 光源の強度を設定します。
 - **絞りの設定** — 光ビームの幅を設定します。値を高くするほど光ビームの幅が広がり、拡散します。
 - **エッジ** — 光ビームのエッジに沿って、光の拡散具合を設定します。
 - **不透明度** — 光の密度を設定します。
- 7 **[雰囲気]** タブをクリックし、**[輝度]** スライダーを移動してイメージ全体の**輝度**を調整します。

可能な操作

照明のカラーを変更する

[**カラー**]ピッカーをクリックして、カラー ボックスをクリックします。

最後に適用した照明と同じプロパティの照明を追加する

[**照明の追加**]ボタン  をクリックします。

最後に適用した照明を削除する

[**照明の削除**]ボタン  をクリックします。

光源セレクタの表示/非表示を切り替える

[**光源の表示/非表示**] ボタン  をクリックします。

プリセットを使用して、3D テクスチャを追加する

[**プリセット**]タブをクリックして、イメージにテクスチャを追加するプリセットを選択します。次に、[**イメージ テクスチャ**]タブをクリックして必要なプロパティを設定します。

カラー チャンネルを使用して、3D テクスチャを追加する

[**イメージ テクスチャ**]タブをクリックして、[**チャンネル**]リストボックスからカラー チャンネルを選択し、必要な設定変更を行います。

フォト フレーム

フォトやその他のイメージをフレームに入れるには、プリセット フォト フレームを追加します。

2 つ以上のフレームを 1 つのイメージの上に重ねることができます。さらに、プリセット フレームのカラー、不透明度、エッジ、および整列を変更して、プリセット フレームをカスタマイズできます。カスタマイズしたフォト フレームは、将来使用できるようにプリセットとして保存できます。詳しくは、[355 ページの「カスタム プリセット スタイルを作成するには」](#)。を参照してください。

フォト フレームを追加するには

- 1 [**効果**] ▶ [**静物**] ▶ [**フレーム**] をクリックします。
- 2 [**フレーム**] ダイアログ ボックスでフレーム ピッカーを開いて、フレームを選択します。
フォト フレームのファイル名と場所が、フレーム選択ボックスの横にある [**フレームの表示と選択**] ボックスに表示されます。

可能な操作

他のフォト フレームにアクセスする

[**フレーム**] ダイアログ ボックスでフレーム選択ボックスを開き、[**詳細**] をクリックします。

フォト フレームをカスタマイズする

[**フレーム**] ダイアログ ボックスの [**修正**] タブをクリックし、目的の設定を選択します。

フレームを重ねる

[**フレームの表示と選択**] ボックスの空の行をクリックし、フレーム選択ボックスからフレームを選択します。

フレームを表示する/非表示にする

[**目**] のアイコンをクリックします。

可能な操作

[フレームの表示と選択] ボックスからフレームを削除する フレームをクリックし、[削除] ボタンをクリックします。

プラグインを管理する

プラグインを使用すると、Corel PHOTO-PAINT でイメージの編集に使用できる機能と効果が追加されます。特殊効果用のプラグイン フィルタでは、プリセットの指定値に従ってイメージ情報を処理してイメージを変更します。

Corel PHOTO-PAINT の起動時に、プラグイン フォルダ内にあるプラグインが自動検出されて読み込まれます。他のプラグインをプラグイン フォルダに追加することも、他の場所にインストールしたプラグインを追加することもできます。ただし、サードパーティ製のプラグインについては、読み取り権と書き込み権のあるフォルダにインストールしてください。不要なプラグインをオフにできません。

別の場所からプラグインをインストールするには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [プラグイン] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックします。
- 4 プラグインが保存されているフォルダを選択します。
- 5 アプリケーションを再起動します。
プラグインは [効果] メニューに表示されます。

プラグインをオフにするには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [プラグイン] をクリックします。
- 3 オフにするプラグインの横のチェック ボックスをオフにします。



プラグインをオフにして、プラグイン リストから削除するには、そのプラグインをクリックしてハイライト表示し、[削除] ボタンをクリックします。



特殊効果のカテゴリ

この章では、このアプリケーションに用意されている特殊効果について説明し、各効果のサンプル イメージを示します。特殊効果は以下のカテゴリにまとめられています。

- ページ 361 の「3-D」。
- ページ 365 の「アートストローク」。
- ページ 371 の「フェード」。
- ページ 377 の「カメラ」。
- ページ 381 の「カラー変換」。
- ページ 383 の「等高線」。
- ページ 385 の「クリエイティブ」。
- ページ 391 の「カスタム」。
- ページ 392 の「歪曲」。
- ページ 397 の「ノイズ」。
- ページ 400 の「シャープ化」。
- ページ 402 の「テクスチャ」。

シャープ化特殊効果については、157 ページの「イメージをシャープ化する」を参照してください。また、モアレの除去とノイズの除去については、149 ページの「スキャンしたイメージの画質を向上させる」を参照してください。

特殊効果の適用については、347 ページの「特殊効果を適用する」を参照してください。

3-D

3D 効果を適用して、イメージに奥行きを与えることができます。

3-D 回転

3-D 回転効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [3D 回転]) では、インタラクティブな 3D モデルを調整してイメージを回転させることができます。イメージを回転させたり位置を変えたりするには、[3D 回転] ダイアログ ボックスでインタラクティブな 3D モデルをクリックしてドラッグします。イメージが常にイメージ ウィンドウの範囲内に収まるようにするには、[ベスト フィット] チェックボックスをオンにします。



オリジナル



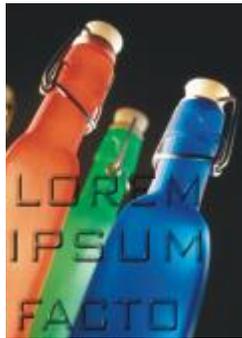
3-D 回転

ベベル効果

ベベル効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [ベベル効果]) では、編集領域に沿って傾斜の付いたエッジを付けて、表面が膨らんだような形にできます。詳しくは、356 ページの「ベベル効果」を参照してください。



オリジナル



ベベル

シリンダー

シリンダー効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [シリンダー]) は、イメージをシリンダーの形に整形します。



オリジナル



シリンダー

エンボス

エンボス効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [エンボス]) は、イメージをレリーフに変換して、平らな表面に凹凸感を表現します。エンボスのカラーと奥行き、および光源の方向をコントロールできます。コントラストが中～高のイメージに最も効果的です。**[深さ]**には、レリーフの凹凸の深さを設定します。**[レベル]**には、効果の強さを設定します。**[方向ダイヤル]**では、光源の向きを指定できます。**[元のカラー]**を指定すると、イメージのエンボスに元のカラーが使用されます。**[グレー]**を指定すると、イメージのエンボスにグレーが使用され、ハイライト部が穏やかにエンボス加工されます。**[ブラック]**を指定すると、イメージのエンボスに黒が使用され、ハイライト部が高いコントラストでエンボス加工されます。**[その他]**を指定すると、イメージのエンボスに**[その他]** カラーピッカーから選択したカラーが使用されます。



オリジナル



エンボス

ガラス

ガラス効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [ガラス]) は、編集領域の表面を、立体感のあるガラスのような面にします。ベベル (奥行き感を与える斜めの領域) の幅、ベベルのエッジのシャープ度、およびベベルのエッジを照らす照明の角度を指定できます。ベベルを照らす照明は、**輝度**、**方向**、および**角度**を設定できます。**ガラス**効果では、プリセットスタイルの適用とカスタムプリセットスタイルの作成が可能です。



オリジナル



ガラス

ページカール

ページカール効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [ページカール]) は、イメージのコーナーが巻いているような効果を出します。コーナーを選択して、カールの方向、**透明度**、および**サイズ**を指定します。カールのカラーや、イメージをカールさせたときに見えるバックグラウンドも選択できます。サムネールをクリックして、ページカールの位置を指定します。ページカールの垂直または水平方向を選択します。**[不透明]** オプションを指定するとカールの作成に均一カラーが使用され、**[透明]** オプションを使用するとカールを透かして下のイメージが表示されます。**[カール]** カラーピッカーでは、カールのカラーを選択できます。**[バックグラウンド]** カラーピッ

カーでは、イメージを用紙からカールさせると現れるバックグラウンドのカラーを選択できます。**[幅 %]** および **[高さ %]** スライダーでは、カールの大きさを設定できます。



オリジナル



ページカール

ピンチ/パンチ

ピンチ/パンチ効果 (**[効果]** ▶ **[3D 効果]** ▶ **[ピンチ/パンチ]**) は、へこみや打ち出しのような効果を表現します。中心点を設定して、効果を適用する位置を決めます。



オリジナル



ピンチ/パンチ

球体

球体効果 (**[効果]** ▶ **[3D 効果]** ▶ **[球体]**) は、球体の内側や外側にイメージを貼り付けます。中心点を設定し、どのように貼り付けるかをコントロールすることができます。正の値を指定すると、イメージの中心のピクセルがエッジの方向に拡張され、球状になります。負の値を指定するとピクセルが中心の方向に圧縮され、くぼんだ形になります。



オリジナル

球体

ボス

ボス効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [ボス]) は、マスクのエッジに沿ってイメージ領域を浮き上がらせます。浮き上がったエッジの幅、高さ、およびスムーズ化度と、光源の輝度、シャープ度、方向および角度を指定できます。**[ボス]**効果では、プリセットスタイルの適用とカスタムプリセットスタイルの作成が可能です。



オリジナル



ボス

ジグザグ

ジグザグ効果 ([効果] ▶ [3D 効果] ▶ [ジグザグ]) は、直線と角度のジグザグ模様 (波形) を作り出し、イメージを中心点から外側に向かってひねるように変形します。波の種類を選択し、波の数と強度を指定することができます。



オリジナル



ジグザグ

アート ストローク

アート ストローク特殊効果を使用すると、手で描いたような外観のイメージを作成できます。イメージがパステル画、スポンジペインティング、水彩画に変わり、またバックグラウンドにテクスチャが生成されます。

木炭

木炭効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [木炭]) は、モノクロの木炭画のようなイメージを作成します。



オリジナル



木炭

コンテクレヨン

コンテクレヨン効果 ([効果] ▶ [アートストローク] ▶ [コンテクレヨン]) は、コンテクレヨンを使用して作成されたようなテクスチャを作成します。クレヨンのカラー、クレヨンタッチの強さ、およびテクスチャのきめの程度を指定できます。



オリジナル



コンテクレヨン

クレヨン

クレヨン効果 ([効果] ▶ [アートストローク] ▶ [クレヨン]) は、クレヨン画のようなイメージを作成します。クレヨンタッチの強さを指定したり、イメージ要素の周りに暗い枠を作成したりできます。



オリジナル



クレヨン

立体派

立体派効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [立体派]) は、類似した色のピクセルを集めて四角形にすることで、立体派の絵画のようなイメージを作成します。四角形のサイズ、イメージ内の光の量、および用紙カラーを指定できます。



オリジナル



立体派

水遊び

水遊び効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [水遊び]) は、画筆をはたいて描いたようなピクセルを作成します。ブラシ ストロークはさまざまな種類から選択して、そのサイズを指定できます。



オリジナル



水遊び

印象派

印象派効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [印象派]) は、印象派絵画のようなイメージを作成します。カラーのダブやブラシ ストロークをカスタマイズすることができます。また、イメージ内の光の量を指定できます。



オリジナル



印象派

パレットナイフ

パレットナイフ効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [パレットナイフ]) は、キャンバス上にパレット ナイフで絵の具を広げたような効果を表現します。染み付けの量や、ブラシ ストロークのサイズと方向を指定できます。



オリジナル



パレットナイフ

パステル

パステル効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [パステル]) は、パステル画のようなイメージを作成します。ブラシ ストロークのサイズとカラー バリエーションを指定できます。



オリジナル



パステル

ペンとインク

ペンとインク効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [ペンとインク]) は、クロスハッチ法または点画法によるペン画のようなイメージを作成します。



オリジナル



ペンとインク

点描派

点描派効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [点描派]) は、イメージのメイン カラーを分析して、小さな点に変換します。点のサイズやイメージ内の光の量を指定できます。



オリジナル



点描派

スクラッチボード

スクラッチボード効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [スクラッチボード]) は、黒の面をこすって白などのカラーを見えるようにし、素描画のようなイメージを作成します。ペイントの濃度やブラシ ストロークのサイズを指定できます。



オリジナル



スクラッチボード

スケッチ パッド

スケッチ パッド効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [スケッチ パッド]) は、鉛筆で描いたスケッチ画のようなイメージを作成します。



オリジナル



スケッチ パッド

水彩画

水彩画効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [水彩画]) は、水彩画のようなイメージを作成します。ブラシのサイズ、粒状のレベル、およびイメージの輝度を指定できます。カラーの強度を指定して、カラーをブレンドする度合いを指定することもできます。



オリジナル



水彩画

すかし模様

すかし模様効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [すかし模様]) は、カラー マーカーで作成した抽象的なスケッチのようなイメージを作成します。ペイント モードを変更すると、ブラシ ストロークが変わります。ブラシ ストロークのサイズとカラー バリエーションを指定できます。



オリジナル



すかし模様

エンボス紙

エンボス紙効果 ([効果] ▶ [アート ストローク] ▶ [エンボス紙]) は、エンボス紙に描いた絵画のようなイメージを表現します。モノクロのイメージを作成することができ、またイメージの元のカラーを維持することもできます。



オリジナル



エンボス紙

フェード

フェード特殊効果によってイメージのピクセルを変更して、エッジのソフト化、エッジのスムーズ化、エッジのブレンド、モーション効果の作成を行います。

フェードの調整

フェードの調整効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [フェードの調整]) では、サムネールで表される 4 つのフェード効果をイメージに適用できます。編集しながらフェード効果を調節して、フォーカスをソフトまたはシャープにしたイメージをプレビューできます。[フェードの調整] フィルタでは、イメージの画質を向上して視覚的な効果を作成できます。



オリジナル



フェードの調整

特定方向のスムーズ化

特定方向のスムーズ化効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [特定方向のスムーズ化]) は、エッジの細部とテクスチャを保ったままで、イメージ内の徐々に変化する部分をスムーズにします。このフィルタでは、焦点を歪めずにイメージのエッジや表面をわずかにぼかすことができます。



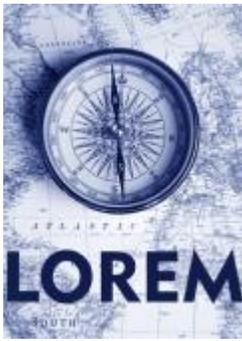
オリジナル



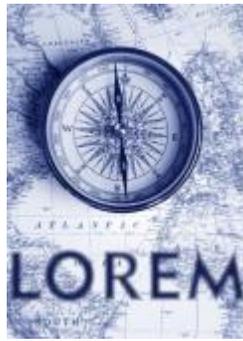
特定方向のスムーズ化

フェード

フェード効果 ([オブジェクト] ▶ [フェード]) は、オブジェクトのエッジに向けて透明度を徐々に高め、オブジェクトをバックグラウンドにすっかり溶け込ませます。フェードを適用するときは、フェード幅と透明グラデーションの種類 (エッジの種類) を選択できます。エッジの透明度は、フェード部分の始まりから終わりまでを均等な増分で変化させることも (**線形エッジ**)、フェードのかかるエッジの始まりは増分を小さくして、中間部で増分を増やし、また終わりで増分を小さくすることもできます (**曲線エッジ**)。



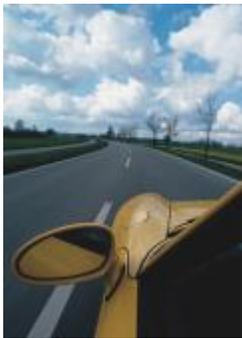
オリジナル



フェード

ガウス フェード

ガウス フェード効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ガウス フェード]) は、ガウス分布に基づいてイメージの焦点をフェードさせながら、かすみのような効果を生み出します。ベル型の曲線に基づいて、ピクセル情報が外向きに拡散されます。この効果により、シャープなエッジを持つビットマップの画質が向上する可能性があります。[半径] スライダーを調節して、効果の強さを調整します。**ガウス フェード**効果では、パレットおよびモノクロを除くすべてのカラー モードがサポートされています。



オリジナル



ガウス フェード

ギザギザ

ギザギザ効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ギザギザ]) は、イメージ内のカラーを分散させて、歪みを最小に抑えながらソフトなフェード効果を適用します。ライン アートやコントラストが強いイメージに見られるギザギザのエッジを除去するのに効果的です。[ギザギザ]効果は、プリセットのレンズの種類としても使用できます。



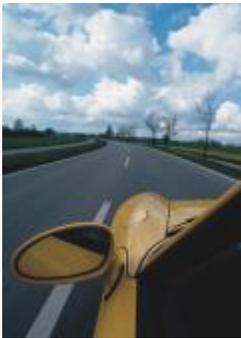
オリジナル



ギザギザ

ローパス

ローパス効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ローパス]) は、イメージから鮮明なエッジと細部を除去して、なめらかなグラデーションと低密度の領域を残します。設定値が高いほど細部が除去されます。



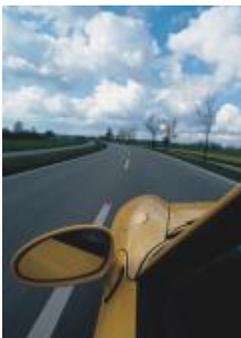
オリジナル



ローパス

モーションフェード

モーションフェード効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [モーションフェード]) は、動きのあるイメージを作成します。移動方向を指定することができます。



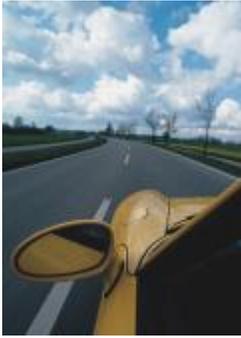
オリジナル



モーションフェード

放射状フェード

放射状フェード効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [放射状フェード]) は、指定した中心点を回りながらフェードする効果、または指定した中心点から放射状にフェードする効果をイメージに適用します。



オリジナル



放射状フェード

ボケぼかし

ボケぼかし効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ボケぼかし]) では、編集領域外に適用されたぼかしの量を制御したり、フォーカス エリアとぼかし領域の境界を調整したりできます。詳しくは、356 ページの「ボケぼかし効果」を参照してください。



オリジナル



ボケぼかし

スマート フェード

スマート フェード効果 ([効果] ▶ [ぼかし] ▶ [スマート フェード]) は、望ましくないアーチファクトやノイズをイメージから除去します。



オリジナル



スマートフェード

スムーズ化

スムーズ化効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [スムーズ化]) は、隣接するピクセルの差を小さくし、細部を失うことなくイメージをスムーズにします。特に、パレットモードのイメージを、RGBモードに変換する際に生成されるディザを除去するのに便利です。[スムーズ化]効果の方が[ソフト化]効果よりはっきりした効果が現れます。スムーズ化効果は、プリセットのレンズの一種として使用できます。



オリジナル



スムーズ化

ソフト化

ソフト化効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ソフト化]) は、イメージの細部を失わずに、目立つエッジをなめらかにします。[スムーズ化]効果と[ソフト化]効果の違いは微妙であり、イメージを高解像度で表示するとはっきりします。[ソフト化]効果は、プリセットのレンズの種類としても使用できます。



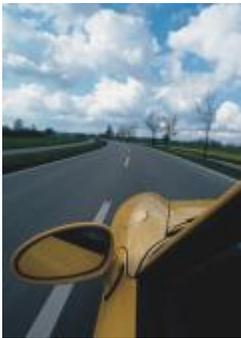
オリジナル



ソフト化

ズーム

ズーム効果 ([効果] ▶ [フェード] ▶ [ズーム]) は、中心点から外側に向けてイメージのピクセルをフェードします。中心点に近いピクセルほど、フェードの程度は小さくなります。



オリジナル



ズーム

カメラ

カメラ特殊効果を使用すると、スポットフィルタや拡散フィルタなど、写真のフィルタを通したような効果を作成できます。太陽光線やスポットライトなど、照明効果を与えることもできます。

カラー化

カラー化効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [カラー化]) では、イメージのすべてのカラーを単一カラー (色相) に置換して、2色トーンイメージを作成できます。カラーの彩度や鮮やかさを調整できます。彩度が100%のカラーには白が含まれません。彩度が0%のカラーはグレー階調に対応します。この効果により、さまざまな単一カラーイメージを作成できます。たとえば、茶色がかかった色相でセピア効果を作成し、古い写真のカラーを表現できます。



オリジナル



カラー化

拡散

拡散効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [拡散]) は、イメージのピクセルを拡散して空白スペースを埋め、ノイズを除去して、イメージをソフトにします。その結果、ぼかしフィルタで被写体を撮影したときのような、ソフトフォーカス効果が作成されます。拡散効果はスムーズにすることもぼかすこともできます。



オリジナル



拡散

レンズフレア

レンズフレア効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [レンズフレア]) は、カメラを強い光源に直接向けて撮影したときに現れるようなフレア (光の輪) を、RGB イメージに作成します。



オリジナル



レンズフレア

照明効果

照明効果効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [照明効果]) では、RGB またはグレースケール イメージに光源を追加して、スポットライト、投光照明、太陽光などが当たっているような効果を表現できます。さらにテクスチャを追加して、エンボス加工のレリーフを作成することもできます。また、プリセットの光源やテクスチャ スタイルを使用したり、プリセット スタイルをカスタマイズしてプリセット リストに保存したりすることもできます。



オリジナル



照明効果

フォト フィルタ

写真フィルタ効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [写真フィルタ]) では、色付きフィルタが配置されたカメラ レンズの効果をシミュレートできます。フィルタの色を選択して、色の濃淡と輝度調整することができます。



オリジナル



フォト フィルタ

セピア調

セピア調効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [セピア調]) は、セピア フィルムで撮影した場合の写真の見え方をシミュレートします。セピア調のイメージは、トーンがグレーの代わりに茶色になっていることを除いて、白黒写真 (グレースケール写真としても知られる) に似ています。



オリジナル



セピア調

スポット フィルタ

スポット フィルタ効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [スポット フィルタ]) は、イメージで目立たせる部分を決め、周りの景色をぼかします。ガウス フェードを適用して、写真撮影のときの被写界深度を表現できます。フォーカス位置とフォーカス範囲を設定し、エッジとぼかす度合いを決め、周りの景色の光線を少なくすることができます。プリセットスタイルを使用するか、またはプリセットスタイルをカスタマイズしてプリセットリストに保存できます。



オリジナル



スポット フィルタ

タイム マシン

タイム マシン効果 ([効果] ▶ [カメラ] ▶ [タイム マシン]) では、写真が過去に撮影され、当時の写真技法で現像されたとしたらどのように見えるかを再現できます。1839 年から 1960 年代までの 7 つのスタイルを選択することができます。



オリジナル

タイムマシン



タイムマシン効果は、過去の写真スタイルを再現します。

カラー変換

カラー変換特殊効果では、カラーを変更することによってイメージが大幅に変わります。

ビットプレーン

ビットプレーン効果 ([効果] ▶ [カラー変換] ▶ [ビットプレーン]) は、イメージを RGB 基本カラー コンポーネントに変換し、均一カラーでトーン変化を表示します。カラー コンポーネントのトーン値は、個別に調整することも、グループ単位で調整することもできます。



オリジナル



ビットプレーン

ハーフトーン

ハーフトーン効果 ([効果] ▶ [カラー変換] ▶ [ハーフトーン]) は、ハーフトーン カラーのようなイメージを表現します。カラーハーフトーンとは、連続階調イメージをさまざまなサイズの一連のドットに変換したイメージで、異なるトーンを表します。最大ドットサイズの指定やカラーパターンの変更が可能です。[最大ドット径] スライダを調節して、ハーフトーンドットの最大径を設定します。[シアン]、[マゼンタ]、[イエロー]、[ブラック] の各スライダでは、シアン、マゼンタ、イエロー、黒のカラースクリーンの角度を指定します。



オリジナル



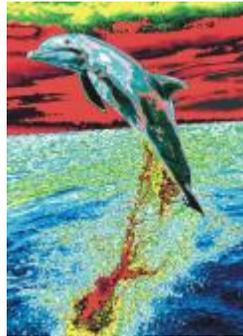
ハーフトーン

サイケデリック

サイケデリック効果 ([効果] ▶ [カラー変換] ▶ [サイケデリック]) は、イメージ内のカラーを、オレンジ、ホットピンク、シアン、ライムグリーンなどの明るく刺激的なカラーに変換します。[サイケデリック]効果は、プリセットの**レンズ**の種類としても使用できます。



オリジナル



サイケデリック

ソラリゼーション

ソラリゼーション効果 ([効果] ▶ [カラー変換] ▶ [ソラリゼーション]) は、イメージのトーンを反転することでイメージのカラーを変換します。[ソラリゼーション]効果は、プリセットの**レンズ**の種類としても使用できます。



オリジナル



ソラリゼーション

等高線

等高線特殊効果は、イメージ内のオブジェクト、アイテム、編集領域のエッジを検出して強調します。エッジ検出レベル、検出するエッジの種類やカラーを調整することができます。

エッジ検出

エッジ検出効果（[効果] ▶ [等高線] ▶ [エッジ検出]）は、イメージ内のアイテムのエッジを検出し、それをバックグラウンド上の単色の線に変換します。輪郭の強度とバックグラウンドカラーを指定して、この効果をカスタマイズすることができます。[白]、[ブラック]、[その他] ボタンで、バックグラウンド用に白、黒、その他のカラーをそれぞれ選択できます。[感度] スライダーでは、効果の強さを調節できます。



オリジナル



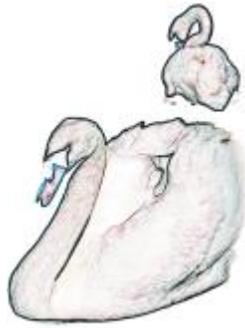
エッジ検出

エッジの検索

エッジの検索効果（[効果] ▶ [等高線] ▶ [エッジの検索]）は、イメージ内のエッジを検索し、それをソフトな線または実線に変換します。エッジをソフトな線に変換すると、なめらかなぼんやりした輪郭になります。エッジを実線に変換すると、シャープではっきりした輪郭になります。[エッジの検索] フィルタは、テキストを含むコントラストの強いイメージで特に効果的です。



オリジナル



エッジの検索

トレース等高線

トレース等高線効果 ([効果] ▶ [等高線] ▶ [トレース等高線]) は、16色パレットを使用してイメージ要素のエッジを強調します。トレース等高線では、強調するエッジのピクセルを指定できます。



オリジナル



トレース等高線

部分的均一化

[部分的均一化] 効果 ([効果] ▶ [等高線] ▶ [部分的均一化]) は、イメージのエッジ付近のコントラストを強調して、明るい部分と暗い部分の細部を鮮明にします。隣接するピクセルを使用して、様式化した効果を作成します。



オリジナル



部分的均一化

クリエイティブ

クリエイティブ特殊効果では、さまざまな形状やテクスチャを使用して、イメージを抽象芸術に変換します。新しいものを生み出すための土台となるクリスタル、編物、ガラス、フレーム、水中などのアイテムを使用します。

アートスタイル

アートスタイル効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [アートスタイル]) は、ニューラル ネット テクノロジーを使用して、あるイメージのスタイルを別のイメージのコンテンツに転送します。テクスチャ、パターン、カラフル モザイク、著名な画家の絵画などさまざまなソース スタイル イメージの分析に基づいて、AI プリセットがイメージの意味内容を解釈し、イメージにスタイルを転送し、テクスチャ、カラー、視覚パターン、参照イメージの美的側面をシミュレートしたスタイルが適用されたイメージを作成します。プリセットを試して、アプリケーションで使用可能なスタイルのコレクションとメディアを適切に評価します。効果の強度を変えて、効果の程度を調整できます。強度を上げると、効果が大きくなります。詳細レベルも制御できます。値を高くするとエッジがシャープになりイメージが詳細になりますが、ファイル サイズが大きくなり、処理に時間がかかります。選択したスタイルのプリセットと作品の意図に応じて詳細レベルを選択します。



オリジナル



滑らかなアクリル



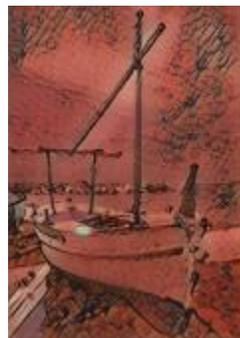
粒状



グラフアイト



ピンク パステル



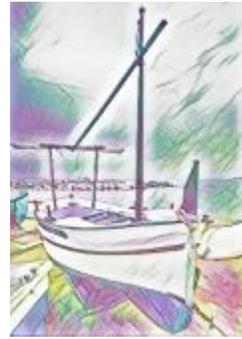
シエンナ



パステル モザイク



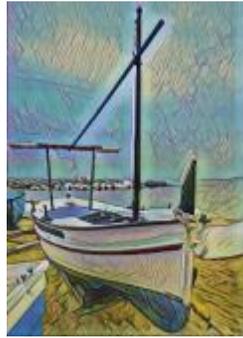
後期印象派



ソフトパステル



ネオン



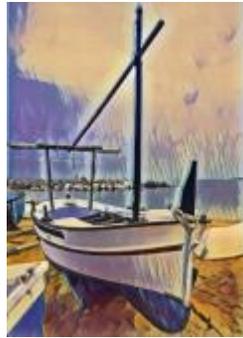
太いエッジ



染み込んだアクリル



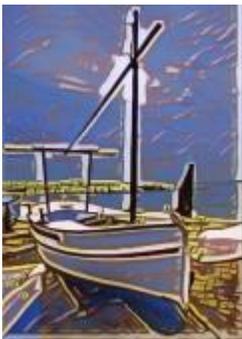
波



サンセット



ラバランプ



木版画



ウォーム テクス
チャ



木版

クリスタル

クリスタル効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [クリスタル]) は、クリスタルで作成したようなイメージにします。クリスタルのサイズを指定して効果をコントロールできます。値を低くするほどクリスタルは小さくなり、変換の程度もわずかになります。値を高くするほどクリスタルが大きくなり、より抽象的な効果が作成されます。



オリジナル



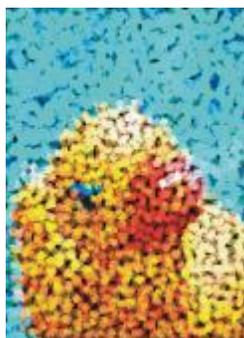
クリスタル

編物

編物効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [編物]) は、針編みレース、じゅうたんの模様、キルト、紐、リボン、ティッシュ コラージュなど、編物で作成したようなイメージを作成します。編物のサイズと角度や輝度を指定できます。



オリジナル



編物

フレーム

フレーム効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [フレーム]) では、プリセット フレーム、他のイメージ、またはマスクで定義した領域を使用して、イメージにフレームを装飾します。フレームのカラー、不透明度、向き、整列を変更したり、カスタマイズした設定をプリセット スタイルとして保存したりできます。プリセット フレーム設定を更新、ロード、削除することもできます。フレームをカスタマイズするには、[変更] タブをクリックします。[不透明度] には、フレームの不透明度を設定します。[フェード] は、フレームのエッジとコンテンツをフェードさせます。[水平方向] および [垂直方向] には、フレームの水平サイズと垂直サイズを設定します。[ダイヤルの回転] では、フレームの回転角を指定できます。[水平方向に反転] および [垂直方向に反転] は、フレームをそれぞれ水平および垂直方向にミラー化します。[整列] では、フレームの中心点をビットマップから選択できます。[再センタリング] は、ビットマップ上でフレームを中央に配置します。フレームのカラーを変更し、ブレンドの設定を選択する場合は、オブジェクトをすべてバックグラウンドとマージする必要があります。[プリセットの保存] ボタンを使用すると、カスタマイズしたフレーム設定をプリセットとして保存できます。



オリジナル



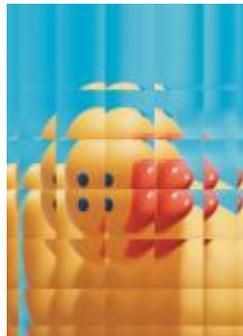
フレーム

ガラスブロック

ガラスブロック効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [ガラスブロック]) は、厚いガラスブロックを通してイメージを見たような効果を作成します。ガラスブロックのサイズを指定して効果をコントロールできます。



オリジナル



ガラスブロック

モザイク

モザイク効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [モザイク]) は、イメージを不揃いの楕円形に分解して、モザイクのような見た目になります。分解するサイズとバックグラウンドカラーを指定できます。モザイクにフレームを付けることもできます。



オリジナル

モザイク

分散

分散効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [分散]) は、ピクセルを分散させてイメージを歪めます。分散させる方向を指定できます。**[分散]**効果は、プリセットのレンズの種類としても使用できます。



オリジナル



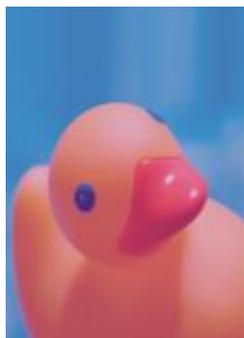
分散

曇りガラス

曇りガラス効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [曇りガラス]) は、イメージに透明なカラーの色かぶりを適用します。曇りガラスのカラー、色かぶりの不透明度、およびフェードの量を指定できます。



オリジナル



曇りガラス

ステンドグラス

ステンドグラス効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [ステンドグラス]) は、イメージをステンドグラスのアートワークに変換します。ガラス片のサイズを調整してはんだを作成することができます。



オリジナル



ステンドグラス

ビネット

ビネット効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [ビネット]) では、イメージの周りに、楕円、円、長方形または正方形のフレームを追加できます。効果のカラーとフェード値を指定できます。**[フェード]** スライダでは、フレームとビットマップの間の移り変わりを設定します。オフセットは、イメージの中心からフレームの内側の輪郭までの距離です。オフセットを大きくするほど (イメージの中心からの距離が長くなるほど)、フレームは細くなります。



オリジナル



ビネット

たつ巻き

たつ巻き効果 ([効果] ▶ [クリエイティブ] ▶ [たつ巻き]) は、イメージ内に指定した中心点を基準にうず巻き効果を適用します。うず巻きの内側と外側のピクセルの方向を指定できます。



カスタム

カスタム特殊効果では、幅広いイメージ変換効果を利用できます。アート メディアの絵画を作成する、カスタマイズしたイメージをイメージを重ねる、また、フェード、シャープ化、およびエッジ検出効果を使用することができます。

バンドパス

バンドパス効果 ([効果] ▶ [カスタム] ▶ [バンドパス]) は、イメージ上のシャープな領域とスムーズな領域を調整します。シャープな領域とは、カラー、エッジ、ノイズなどが急に变化する領域です。スムーズな領域は、領域がなめらかに変化します。



オリジナル (左)、バンドパス効果の適用後 (右)

バンプマップ

バンプマップ効果 ([効果] ▶ [カスタム] ▶ [バンプマップ]) は、バンプマップイメージのピクセル値に基づいて、オリジナルのイメージの表面にレリーフを付けて、イメージにテクスチャやパターンを追加します。バンプマップイメージのピクセル値は、表面の高さを表現します。プリセットバンプマップを使用することも、カスタムバンプマップイメージをロードすることもできます。効果の表面と照明のプロパティを指定できます。



オリジナル (左)、バンプマップ効果の適用後 (右)

ユーザー定義

ユーザー定義効果 ([効果] ▶ [カスタム] ▶ [ユーザー定義]) では、隣接するピクセルのカラー値に基づいて各ピクセルに新しく色の値を定義して、フェード、シャープ化、エッジ検出などの特殊効果を適用できます。グリッドに値を入力すると、現在のピクセルを数値で定義できます。グリッドの中央のボックスは、現在のピクセルを表し、その周りのボックスは隣接するピクセルを表します。

グリッドの中央のボックスに入力した値と現在のピクセルの元のカラー値を乗算します。計算結果の値 (現在のピクセルの新しいカラー値) は、さらに修正することができます。これには、現在のピクセルの値を増減して、隣接するピクセルによる影響度を選択します。たとえば中央ピクセルの周りのすべてのボックスに 0 と入力すると、ピクセル値は隣接するピクセルからいかなる影響も受けません。この場合、中央ボックスに入力した値だけが有効になります。グリッドに入力したそれぞれの値は、イメージ内の対応するピクセルと乗算され、その合計値が新しい値として現在のピクセルに適用されます。それから新しいピクセル値を、指定した除数の値で除算します。除数の値と中央ボックスに入力した値が同じ場合は、両方の値が相殺され、隣接するピクセルの値によって新しいピクセル値が計算されます。グリッド内の数値計算の結果、ピクセルの最終的なカラー値 (1~255) を表します。



オリジナル (左)、ユーザー定義効果の適用後 (右)

歪曲

歪曲特殊効果は、奥行きを加えないでイメージの外観を変えます。

ブロック

ブロック効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [ブロック]) は、イメージを無秩序なブロック片に分解します。ブロックのサイズ、断片の間隔、および効果適用時に見えるバックグラウンドのカラーを指定できます。



オリジナル



ブロック

置き換え

置き換え効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [置き換え]) は、置き換えマップと呼ばれるセカンダリ イメージの値に従って、アクティブなイメージをシフトします。置き換えマップの値は、形式、カラー、またはワープ パターンでイメージに適用されます。



オリジナル



置き換え

メッシュ ワープ

メッシュ ワープ効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [メッシュ ワープ]) では、上に重ねたグリッドのノードを移動して、イメージを歪曲します。グリッドラインの数を最大 10 まで増やすことでグリッドのノード数を増やすことができます。グリッドのノード数を増やすと、イメージの細部を微調整できます。また、カスタム メッシュ ワープ スタイルを作成して保存することも可能です。



オリジナル



メッシュ ワープ

オフセット

オフセット効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [オフセット]) は、指定したパラメータに従ってイメージを移動し、イメージの位置を変更します。イメージがオフセットされると、イメージの元の位置に空白の領域ができます。イメージのタイルを並べる、イメージを引き伸ばす、またはカラーを適用することによって空白の部分を塗りつぶすことができます。



オリジナル

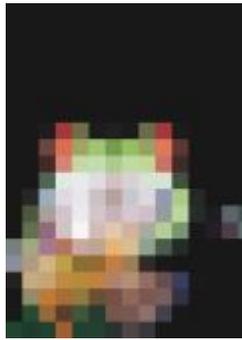
オフセット

ピクセレート

ピクセレート効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [ピクセレート]) は、イメージを正方形、長方形、または円形のセルに分解します。[ピクセレート]効果は、プリセットのレンズの種類としても使用できます。



オリジナル



ピクセレート

波

波効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [波]) は、1 つまたは複数の波を使用してイメージを歪めます。最初の波の強さをコントロールしてイメージのワープを設定したり、縦の波を追加して歪みをさらに大きくしたりできます。



オリジナル



波

斜変形

斜変形効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [斜変形]) は、イメージの形状を線セグメントの形にマッピングします。



オリジナル



斜変形

うず巻き

うず巻き効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [うず巻き]) は、回転方向、回転数、および角度を指定して、イメージにらせん状のうず巻きを作成します。



オリジナル



うず巻き

タイル

タイル効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [タイル]) は、イメージのサイズを縮小し、一連のタイルとしてグリッド上に表示します。タイル効果をフラッド塗りつぶしと組み合わせて使用すると、バックグラウンドや Web ページの壁紙効果を作成することができます。



オリジナル



タイル

ウェットペイント

ウェットペイント効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [ウェットペイント]) は、イメージにペンキ塗り立てのような効果を適用します。しずくのサイズや、適用されるカラー範囲を指定できます。



オリジナル



ウェットペイント

水中

水中効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [水中]) は、イメージ上で液体がうずを巻いているようなパターンを作成します。プリセットの水中スタイルを使用するか、水中効果の塗り付けの長さ、間隔、ツイスト、縞模様の詳細を設定して、カスタムスタイルを作成できます。カスタムの水中スタイルを保存することもできます。



オリジナル



水中

風

風効果 ([効果] ▶ [歪曲] ▶ [風]) は、イメージを特定の方向にフェードして、イメージが風に吹かれているような効果を作成します。フェードの強度と方向や、効果の透明度を指定できます。



オリジナル



風

ノイズ

ビットマップの編集におけるノイズとは、テレビ画面のノイズのようにイメージ内に混在したランダムな色のピクセルを意味します。ノイズ特殊効果では、ノイズを作成、調整、または除去することができます。

ノイズの追加

ノイズの追加効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [ノイズの追加]) は、平面的なイメージやブレンドしすぎたイメージにザラザラした質感を作り出します。イメージに追加するノイズの種類と量を指定できます。[ノイズの追加]効果は、プリセットの**レンズ**の種類としても使用できます。



オリジナル



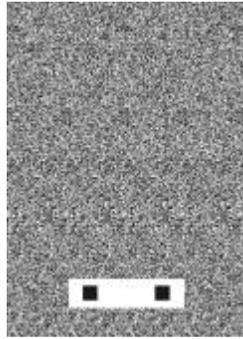
ノイズの追加

3D ステレオ ノイズ

3D ステレオ ノイズ効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [3D ステレオ ノイズ]) は、**ディザ**を適用したノイズパターンを作成し、特定の方法で見た場合に立体的に見えるイメージを作成します。この効果は、コントラストの強いラインアートや**グレースケール**イメージに特に効果的です。この効果は、わかりにくい場合があります。



オリジナル



3D ステレオ ノイズ

最大

最大効果 ([ビットマップ] ▶ [ノイズ] ▶ [最大]) は、ピクセルのカラー値を、隣接する各ピクセルの最大カラー値に基づいて調整して、ノイズを除去します。この効果を繰り返し適用すると、微妙にフェードしたような効果が作成されます。



オリジナル



最大

標準

標準効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [標準]) は、隣接する各ピクセルの中間カラー値に基づいてピクセルのカラー値を調整することで、イメージのノイズと細部を除去します。



オリジナル



標準

最小

この効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [最小]) は、ピクセルのカラー値を、隣接する各ピクセルの最小カラー値に基づいて調整して、ノイズを除去します。



オリジナル



最小

ノイズの調整

ノイズの調整効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [ノイズの調整]) では、9つのノイズ効果のいずれかを適用できます。各効果はサムネイルで表示され、効果を適用したイメージをプレビューすることができます。



オリジナル



ノイズの調整

モアレの除去

モアレの除去効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [モアレの除去]) では、イメージからモアレを除去できます。モアレパターンは、同じイメージ内で密度の異なる2つのハーフトーンスクリーンが重なったときに生成される波型のパターンです。



オリジナル



モアレの除去

ノイズの除去

ノイズの除去効果 ([効果] ▶ [ノイズ] ▶ [ノイズの除去]) では、スキャンされたイメージからノイズを除去できます。ノイズは、スキャンやビデオ キャプチャによって生成される小さな斑点です。



オリジナル



ノイズの除去

シャープ化

イメージのシャープ化によって、コントラストを高め、エッジの画質を向上させ、シェーディングを減少させます。通常、シャープ化は、イメージのカラーやトーンを変更した後や、リサンプルやサイズ変更を行った後に実施します。シャープ化特殊効果について詳しくは、157 ページの「イメージをシャープ化する」を参照してください。

アンシャープ調整

アンシャープ調整効果 ([効果] ▶ [シャープ化] ▶ [アンシャープ調整]) では、隣接するピクセルの値を分析して、エッジの細部を強調できます。このフィルタでは、イメージの細部はほとんど保持され、高解像度のイメージで効果がはっきりします。



オリジナル



アンシャープ調整

特定方向のシャープ化

特定方向のシャープ化効果 ([効果] ▶ [シャープ化] ▶ [特定方向のシャープ化]) では、粒状効果を出さずにイメージのエッジを強調できます。



オリジナル



特定方向のシャープ化

ハイパス

ハイパス効果 ([効果] ▶ [シャープ化] ▶ [ハイパス]) では、イメージの細部とシェーディングを除去し、ハイライト部分と明るい部分を強調して、明るい印象のイメージにできます。ただし、このフィルタは、イメージのカラーとトーンにも適用されます。



オリジナル



ハイパス

シャープ化

シャープ化効果 ([効果] ▶ [シャープ化] ▶ [シャープ化]) では、イメージ内の輪郭がぼやけた部分を対象に、隣接する各ピクセルとの間のコントラストを高めて、イメージのエッジを強調できます。[エッジ レベル (%)] スライダを調節して、エッジの細部を強調する度合いを設定します。[しきい値] には、隣接するトーン値との差がいくつになったらこの効果を適用するかを指定します。これは、滑らかな領域に小さな斑点ができないようにするために重要です。値が小さいほど、除外される領域が少なくなり、シャープ化の効果が強められます。値が大きいほど、低コントラストの領域が除外されます。色相が大幅にシフトしないようにするには、[カラーを保持] をオンにします。



オリジナル



シャープ化

アンシャープ マスク

アンシャープ マスク効果 ([効果] ▶ [シャープ化] ▶ [アンシャープ マスク]) では、イメージ内の輪郭がぼやけた部分を対象に、低周波数領域を削除せずにエッジの細部を強調します。[パーセンテージ] には、シャープ化効果の強さを設定します。[半径] には、一度に評価されるピクセルの量を設定します。[しきい値] には、影響を受けるピクセルの数を設定します。



オリジナル



アンシャープ マスク

テクスチャ

テクスチャ特殊効果では、さまざまな形と面を使用して、イメージにテクスチャを追加します。レンガ、泡、キャンバス、象皮、プラスチック、石などを使用したり、エッチングや下地に変換したりできます。また、しつこい壁に描かれたイメージや、網戸を通して見たときのようなイメージを作成できます。

レンガ

レンガ効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [レンガ]) は、ピクセルを連結した一連のセルにグループ化し、レンガの壁に描かれたイメージのように表現します。レンガのサイズとレンガ パターンの密度を指定できます。



オリジナル



レンガ

泡

泡効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [泡]) は、イメージ上に泡を作成します。泡のサイズや、泡で覆うイメージの量を指定できます。



オリジナル



泡

キャンバス

キャンバス効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [キャンバス]) は、別のイメージをキャンバスとして使用して、イメージの表面にテクスチャを追加します。プリセットのキャンバス マップを選択できます。また、任意のイメージをキャンバス マップとしてロードすることも可能です。コントラストが中程度以上のイメージに適用すると、最高の結果が得られます。



オリジナル



キャンバス

敷石

敷石効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [敷石]) は、敷石で作成したようなイメージにします。敷石のサイズ、間隔、および粒子の質感を指定できます。



オリジナル



敷石

象皮

象皮効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [象皮]) は、波状のオーバーレイを作成して、しわの効果を適用します。象皮の年 (100 歳まで) とカラーを指定できます。



オリジナル



象皮

エッチング

エッチング効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [エッチング]) は、イメージをエッチングに変換します。エッチングの深さ、細部の量、照明の方向、金属面のカラーをコントロールできます。



オリジナル



エッチング

プラスチック

プラスチック効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [プラスチック]) は、プラスチックで作成したようなイメージにします。イメージの奥行きや、プラスチックを照らす光のカラーと角度を指定できます。光の角度をカスタマイズすることもできます。[ハイライト]には、イメージ アクセントの明るさを設定します。[深さ]には、プラスチックのシェーディングの深さを設定します。[スムーズ度]には、イメージの細部の量を設定します。[光の方向] ダイアルでは、光源の向きを設定できます。カラー ピッカーを使用すると、光の色を選択できます。



オリジナル



プラスチック

しっくい

しっくい効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [しっくい]) は、イメージがしっくい壁に描かれたように見えるように、ピクセルを配分します。



オリジナル



しっくい

浮き彫り

浮き彫り効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [浮き彫り]) は、イメージを浮き彫りに変換します。浮き彫りのスムーズ度、浮き彫りの細部の量、照明の方向、表面のカラーを設定できます。



オリジナル



浮き彫り

網戸

網戸効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [網戸]) は、網戸を通してイメージを見たような効果を作成します。網目の細部と輝度、イメージのソフト度や、イメージをカラーにするかモノクロにするかを指定できます。



オリジナル



網戸

石

石効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [石]) イメージに石のテクスチャを追加します。細部の量、パターンの密度、およびイメージを照らす照明の角度を指定できます。プリセットの石効果を適用できます。また、カスタムの石スタイルを作成してプリセットとして保存することも可能です。



オリジナル



石

下地

下地効果 ([効果] ▶ [テクスチャ] ▶ [下地]) は、キャンバスに絵の具を重ねて描いた絵のような効果を作成します。オリジナルのイメージをペイントする程度、およびイメージの輝度を調整できます。



オリジナル



下地

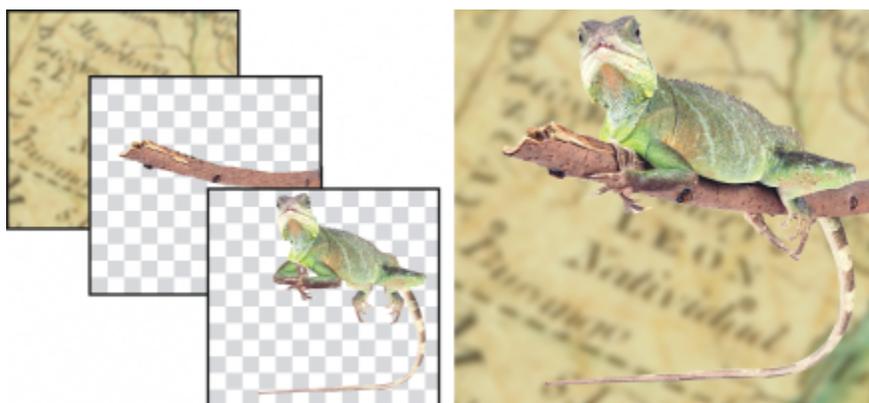
オブジェクト

オブジェクトを操作する.....	411
オブジェクトを修正する.....	431
オブジェクトのリンクと埋め込み.....	445



オブジェクトを操作する

オブジェクトを使用すると、イメージの編集能力が向上します。オブジェクトとは、バックグラウンドから独立して操作できるイメージ要素のことです。オブジェクトは、互いに透明なレイヤとして重なり合っています。バックグラウンドが一番下のレイヤとなり、新しく作成されたオブジェクトが一番上に重ねられます。たとえば、何か写真を開くと、それがバックグラウンドになります。この写真の上には、図形、ブラシストローク、スプレー イメージなどのさまざまなオブジェクトを追加できます。



オブジェクトは、互いに重ね合うことのできるテキストからマスクを作成するようなものです。このイメージは、バックグラウンドと2つの写真オブジェクトによって構成されています。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 412 の「オブジェクトを作成する」。
- ページ 414 の「オブジェクトのプロパティを変更/表示する」。
- ページ 414 の「オブジェクトを選択する」。
- ページ 416 の「オブジェクトを移動/コピー/削除する」。
- ページ 418 の「オブジェクトを表示およびアレンジする」。
- ページ 420 の「オブジェクトを整列/配置する」。
- ページ 422 の「整列ガイド」。
- ページ 424 の「オブジェクトをロックする」。
- ページ 425 の「オブジェクトをグループ化/結合する」。
- ページ 427 の「選択したグループのマージモード」。
- ページ 428 の「クリッピンググループを使用する」。

オブジェクトを作成する

Corel PHOTO-PAINT では、次のものを使用してオブジェクトを作成できます。

- ブラシストローク
- 整形
- バックグラウンド
- 編集領域

ブラシストロークを適用したり、図形を作成したりして、オブジェクトを新規に作成することができます。また、ブラシストロークや図形を既存のオブジェクトに追加することもできます。ブラシストロークの適用と図形の作成について詳しくは、325 ページの「描画とペイント」を参照してください。

イメージのバックグラウンド全体を使用してオブジェクトを作成することもできます。バックグラウンドは、オブジェクトに変換されない限り、重ね順での編集や移動はできません。

その他、イメージのバックグラウンドや他のオブジェクトに編集領域を定義するという方法もあります。編集領域からオブジェクトを作成すると、その領域内の表示要素だけがオブジェクトに含まれます。他のオブジェクトによって隠されてしまい、見ることのできないオブジェクトは、編集領域に含まれません。編集領域の定義について詳しくは、281 ページの「編集領域を定義する」を参照してください。



イメージのバックグラウンドの一部を使用してオブジェクトを作成できます。編集領域の定義、選択範囲のコピーや移動は、このように行われます。

イメージ内のすべてのオブジェクトは、同じ解像度とカラーモードになります。オブジェクトをファイルに追加するに従って、ファイルサイズとメモリ所要量が増加します。ファイルサイズを縮小するには、オブジェクトを結合してイメージを平坦化します。オブジェクトの結合について詳しくは、425 ページの「オブジェクトをグループ化/結合する」を参照してください。

オブジェクトを維持したままイメージを保存するには、Corel PHOTO-PAINT (CPT) 固有のファイル形式で保存する必要があります。イメージの保存について詳しくは、103 ページの「イメージを保存する」を参照してください。

ブラシ ツールでオブジェクトを作成するには

- 1 [オブジェクト] ▶ [作成] ▶ [新規オブジェクト] をクリックします。
- 2 ツールボックスの [ペイント] ツール  をクリックします。
- 3 プロパティバーで属性を設定します。
- 4 イメージ ウィンドウ内でドラッグしてブラシストロークを作成します。



[オブジェクト] メニューの **[オブジェクトの選択範囲線を表示]** をオンにすると、新しいオブジェクトの周囲に、**選択範囲線**と呼ばれる破線の輪郭が表示されます。

ブラシ ストロークおよびスプレーされたイメージは、すべてデフォルトでアクティブなオブジェクトに追加されます。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウで、**[新規オブジェクト]** ボタン  をクリックして、オブジェクトを作成することもできます。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。

整形ツールでオブジェクトを作成するには

- 1 ツールボックスの整形ツールをクリックします。
- 2 プロパティ バーで属性を設定します。
- 3 イメージ ウィンドウ内でドラッグして図形を作成します。



[オブジェクト] メニューの **[オブジェクトの選択範囲線を表示]** をオンにすると、新しいオブジェクトの周囲に、**選択範囲線**と呼ばれる破線の輪郭が表示されます。

新しいオブジェクトを作成する代わりに、アクティブなオブジェクトに図形を追加する場合は、プロパティ バーの **[新規オブジェクト]** ボタン  をオフにします。

イメージのバックグラウンド全体からオブジェクトを作成するには

- **[オブジェクト] ▶ [作成] ▶ [バックグラウンドから]** をクリックします。

編集領域からオブジェクトを作成するには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、バックグラウンドまたは**オブジェクト**のサムネールをクリックします。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。
- 2 **編集領域**を定義します。
- 3 **[オブジェクト] ▶ [作成] ▶ [マスクからコピー]** をクリックします。



オブジェクトを作成するときにイメージの編集領域を削除する場合は、**[オブジェクト] ▶ [作成] ▶ [マスクから切り取り]** をクリックします。

編集領域内のすべての表示要素を使用してオブジェクトを作成するには

- 1 **編集領域**を定義します。
- 2 **[編集] ▶ [表示オブジェクトのコピー]** をクリックします。
- 3 **[編集] ▶ [貼り付け]** をクリックします。

オブジェクトのプロパティを変更/表示する

オブジェクトの名前やプロパティを変更できます。オブジェクトを作成する場合、オブジェクトには、Object 2 などのデフォルトの名前が与えられます。設定を指定しない場合、オブジェクトにはデフォルトの設定が適用されます。一部のプログラムでは、オブジェクトのプロパティはレイヤ オプションとも呼ばれます。

オブジェクトについては、[不透明度](#)を変更できるほか、[マージ モード](#)を選択したり、下にあるオブジェクトやバックグラウンド イメージとのブレンド方法を変更したりすることができます。マージ モードについて詳しくは、[343 ページの「マージ モード」](#)を参照してください。

イメージ ウィンドウのオブジェクトにマウス カーソルを置くと、名前、不透明度、サイズ、マージ モードなど、オブジェクトに関する情報を表示することができます。

オブジェクトのプロパティを変更するには

- 1 ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。
- 2 イメージ ウィンドウで**オブジェクト**を選択します。
- 3 オブジェクトを右クリックし、**[オブジェクトのプロパティ]**を選択します。
- 4 **[一般]** タブをクリックします。
- 5 **[名前]** ボックスに新しい名前を入力します。

可能な操作

オブジェクトの不透明度を変更する

[不透明度] スライダを調整します。

マージ モードを選択する

[マージ モード] リスト ボックスからマージ モードを選択します。

下にあるオブジェクトやバックグラウンドとのブレンド方法を変更する

[ブレンド] の設定を変更します。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウでオブジェクトの名前をダブルクリックして、名前を変更することもできます。

[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの **[マージ モード]** リスト ボックスでオブジェクト グループのマージ モードを変更できます。

オブジェクト情報を表示するには

- イメージ ウィンドウでオブジェクトにマウス カーソルを置きます。
情報が表示されない場合、**[表示]** ▶ **[オブジェクトのヒント]** をクリックしてコマンドを有効にします。

オブジェクトを選択する

オブジェクトを変更する場合は、あらかじめオブジェクトを選択しておく必要があります。1 つのオブジェクト、覆われたオブジェクト、複数のオブジェクト、すべてのオブジェクト、または複数のオブジェクトのグループをそれぞれ選択することができます。1 つのオブジェクトを選択すると、そのオブジェクトは 8 つの変形ハンドルを持つ選択ボックスで囲まれます。複数のオブジェクトを選択した場合は、それらのオブジェクトがすべて単一の選択ボックスで囲まれます。

複数のオブジェクトを選択すると、1つのオブジェクトのみがアクティブになります。アクティブなオブジェクトは、**選択範囲線**と呼ばれる破線の輪郭で囲まれます。塗りつぶしたり特殊効果を適用したりして、アクティブなオブジェクトを編集します。

選択オブジェクトを変更したら、オブジェクトの選択を解除します。



左側では、イメージ内のオブジェクトが1つ選択されています。右側では、選択ボックスによって、複数のオブジェクトが選択されていることがわかります。

オブジェクトを選択するには

選択の対象

1つのオブジェクト

作業手順

ツールボックスの**選択ツール**  をクリックしてオブジェクトをクリックします。

イメージ内のすべてのオブジェクト

[オブジェクト] ▶ **[すべてのオブジェクトを選択]** をクリックします。

別のオブジェクトで覆われたオブジェクト

ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。**Alt** キーを押しながら、覆われたオブジェクトの選択ボックスが表示されるまでクリックします。このショートカット キーを使用すると、各レイヤ上のオブジェクトを順番に選択できます。

複数のオブジェクト

ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。1つのオブジェクトを選択し、**Shift** キーを押しながら他のオブジェクトをクリックします。

複数のオブジェクトのグループ

ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。1つのグループ内のオブジェクトをクリックし、**Shift** キーを押しながら選択する各グループのオブジェクトをクリックします。



[オブジェクト] メニューの [オブジェクトの選択範囲線を表示] をオンにすると、アクティブなオブジェクトの周囲に、**選択範囲線**と呼ばれる破線の輪郭が表示されます。

バックグラウンドを選択してから [オブジェクト] ▶ [すべてのオブジェクトを選択] をクリックすると、バックグラウンドも選択範囲に追加され、すべてのオブジェクトとバックグラウンドが選択された状態になります。オブジェクトを選択してから [オブジェクト] ▶ [すべてのオブジェクトを選択] をクリックした場合、バックグラウンドは選択範囲に含まれません。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウのサムネイルをクリックして、オブジェクトを選択することもできます。[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。

次のショートカット キーを使用して、[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの重ね順にオブジェクトを選択することもできます。**Shift + N** キーを押すと現在のオブジェクトの 1 つ上のオブジェクト、**Shift + P** キーを押すと現在のオブジェクトの 1 つ下のオブジェクト、**Shift + T** キーを押すと重ね順の一番上のオブジェクト、**Shift + B** キーを押すとバックグラウンドオブジェクトまたは重ね順の一番下のオブジェクトがそれぞれ選択されます。

オブジェクトの選択を解除するには

選択解除の対象

作業手順

1 つのオブジェクト

ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。オブジェクトの選択ボックスの外側で、任意の場所をクリックします。

複数のオブジェクト

選択ツール  をクリックし、**Shift** キーを押しながら、選択解除するイメージ ウィンドウの各オブジェクトをクリックします。

すべてのオブジェクト

選択 ツール  をクリックし、バックグラウンドをクリックします。



選択を解除しても、アクティブ **オブジェクト** はアクティブな状態にあります。

バックグラウンドが選択範囲に含まれている場合は、イメージ ウィンドウのバックグラウンドをクリックしても、すべてのオブジェクトを選択解除することはできません。

オブジェクトを移動/コピー/削除する

Corel PHOTO-PAINT では、**オブジェクト** またはオブジェクトの一部を、同じイメージ ウィンドウ内の別の位置または別のイメージ ウィンドウに移動することができます。また、オブジェクトまたはオブジェクトの一部をコピーして、イメージに貼り付けることもできます。イメージ ウィンドウ間でコピーと貼り付けを行う場合は、1 つのウィンドウから別のウィンドウにオブジェクトをドラッグ & ドロップします。

イメージの一部を移動/コピーする場合、まずイメージ上の対象部分に**編集領域**を定義します。オブジェクトを移動/コピーして、編集領域内に入れることもできます。編集領域の定義について詳しくは、281 ページの「**編集領域を定義する**」を参照してください。

不要になったオブジェクトは削除できます。



選択したフォト オブジェクトを、左上から右下へと移動します。

オブジェクトを移動するには

目的	作業手順
オブジェクトを同じイメージ ウィンドウ内で移動、または別のイメージ ウィンドウに移動する	オブジェクトを選択し、目的の場所にドラッグします。
オブジェクトをプリセットの増分でカーソルキー移動する	オブジェクトを選択し、 矢印 キーを押します。
オブジェクトをイメージ ウィンドウを基準として正確な位置に移動する	オブジェクトを選択します。プロパティ バーの [配置/サイズ] ボタン  をクリックし、プロパティ バーの [配置] ボックスに値を入力して、 [適用] をクリックします。



カーソルキー移動の値の設定について詳しくは、71 ページの「作業領域オプション」を参照してください。

オブジェクトの一部を移動するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクト内に**編集領域**を定義します。
- 3 **[編集]** ▶ **[切り取り]** をクリックします。
- 4 **[編集]** ▶ **[貼り付け]** をクリックします。

オブジェクトをコピーするには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **[編集]** ▶ **[コピー]** をクリックします。
- 3 **[編集]** ▶ **[貼り付け]** をクリックします。



同じウィンドウ内にオブジェクトを貼り付けると、オリジナルの上にコピーが重ねて配置されます。



Ctrl+ C キーを使用してオブジェクトをコピーし、Ctrl+ V キーを使用して貼り付けることもできます。
選択したオブジェクトを同じイメージ ウィンドウ内でコピーするには、[編集] ▶ [複製] をクリックします。

オブジェクトを編集領域内にコピーまたは移動するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [編集] をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - コピー
 - 切り取り
- 3 編集領域を定義します。
- 4 [編集] ▶ [形式を選択して貼り付け] ▶ [マスクへ] をクリックします。

オブジェクトを削除するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [編集] ▶ [削除] をクリックします。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの[削除] ボタン  をクリックして、選択したオブジェクトを削除することもできます。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。

オブジェクトを表示およびアレンジする

オブジェクトを非表示にして、オブジェクトの重ね順を変更することができます。

オブジェクトの表示/非表示を切り替える

デフォルトでは、オブジェクトはすべてイメージ ウィンドウに表示されます。ただし、オブジェクトを隠して一時的に非表示にすることもできます。

オブジェクトの重ね順を変更する

イメージに複数のオブジェクトを作成すると、オブジェクトは作成した順に、新しいものが上に重ねられます。したがって、最後に作成したオブジェクトが一番上になりますが、イメージのバックグラウンドは常に一番下です。イメージ ウィンドウでオブジェクトを移動して、重ね順で下になっているオブジェクトを覆うことができます。オブジェクトは、常に重ね順で上になっているオブジェクトに隠れて表示されます。オブジェクトの重ね順を変更すると、隠れていたオブジェクトが現れたり、一番上のオブジェクトが他のオブジェクトの下になったりします。



重ね順を変更すると、ボックスの後ろにバイクが配置されます。

オブジェクトの表示/非表示を切り替えるには

- **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、**オブジェクト**のサムネールの横にある**[非表示/表示]**のアイコン  をクリックします。

[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。



オブジェクトが非表示になっている場合は、**[非表示/表示]**のアイコン  は表示されません。



バックグラウンドを非表示にすると、チェックの透明グリッドが表示されます。透明グリッドをカスタマイズするには、**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。**[表示]** をクリックし、**[透明グリッド]** 領域で必要な属性を変更します。

オブジェクトの重ね順を変更するには

- 1 **オブジェクト** を選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[重ね順]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **最前面** — 選択したオブジェクトをイメージの最前面に配置します。
 - **最背面** — 選択したオブジェクトをイメージの最背面に配置します。
 - **1 つ前面** — 選択したオブジェクトを重ねているオブジェクトの 1 つ上に配置します。
 - **1 つ背面** — 選択したオブジェクトを重ねているオブジェクトの 1 つ下に配置します。
 - **順序の逆転** — 選択したオブジェクトどうしの重ね順を逆転します。このコマンドは、複数のオブジェクトを選択した場合のみ使用できます。



イメージのバックグラウンドは常に重ね順の一番下になるため、バックグラウンドの下にオブジェクトを配置することはできません。

グループ化した複数のオブジェクトは、重ね順の中で同じレベルにあるものと見なされます。このため、グループ内の個々のオブジェクトの間に他のオブジェクトを配置することはできません。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウのサムネールを目的の位置にドラッグして、オブジェクトの重ね順を変更することもできます。[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]をクリックします。

ショートカット キーを使用してオブジェクトの重ね順を変更することもできます。オブジェクトは、**Shift + Page up** キーを押すと最前面に、**Shift + Page down** キーを押すと再背面 (バックグラウンドより上) に、**Ctrl+ Page up** キーを押すと 1 つ前面に、**Ctrl+ Page down** を押すと 1 つ背面に、それぞれ移動できます。

オブジェクトを整列/配置する

イメージ要素に対して、オブジェクトを整列、またはイメージ全体にオブジェクトを配置することができます。

オブジェクトを整列するには、互いに整列、イメージの中央に整列、イメージのエッジに整列、またはグリッドとガイドラインに整列する方法があります。オブジェクトをグリッドおよびガイドラインに整列する方法について詳しくは、89 ページの「ガイドライン、グリッド、ルーラー」。を参照してください。

整列ガイドを使用して、オブジェクトをインタラクティブに整列することもできます。詳しくは、422 ページの「整列ガイド」。を参照してください。

オブジェクトを配置すると、オブジェクトの幅、高さ、中心点に基づいて、オブジェクト間に自動的に間隔が設けられます。オブジェクトの中心点または選択した端 (上端、右端など) が一定間隔で表示されるようにオブジェクトを配置できます。オブジェクト同士の間隔が等しくなるように配置することもできます。オブジェクトは、複数オブジェクトを囲む範囲ボックス内に配置することも、イメージ全体に対して配置することもできます。また、間の距離を指定してオブジェクトを配置することもできます。オブジェクトを、水平方向、垂直方向、またはその両方に配置することが可能です。

[オブジェクト] ▶ [整列/配置] メニューから直接アクセスできる整列コマンドもあります。すべての整列/配置オプションには、[整列/配置] ドッキング ウィンドウ ([オブジェクト] ▶ [整列/配置] ▶ [整列/配置]) からアクセスすることができます。

オブジェクトを整列するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [整列/配置] ▶ [整列/配置] をクリックします。
- 3 [整列/配置] ドッキング ウィンドウの [整列の基点] 領域で、次の表のいずれかのタスクを実行して基準ポイントを選択します。

目的	作業手順
オブジェクトを、指定したオブジェクトと整列する	[選択したオブジェクト] ボタン  をクリックします。 オブジェクトを 1 つずつ選択した場合は、最後に選択したオブジェクトが他のオブジェクトを配置するための基準になります。整列するオブジェクトを選択範囲線で選択した場合は、選択範囲の左上隅にあるオブジェクトが基準として使用されません。
オブジェクトをドキュメントのエッジに整列する	[ドキュメントのエッジ] ボタン  をクリックします。
オブジェクトをドキュメントの中心に整列する	[ドキュメントの中心] ボタン  をクリックします。
オブジェクトを最も近いグリッド線に整列する	[グリッド] ボタン  をクリックします。

4 次のいずれかのボタンをクリックして、オブジェクトのエッジまたは中心を基準に整列させます。

- **左揃え**  - 複数のオブジェクトの左端を揃えます。
- **左右中央揃え**  - 複数のオブジェクトの中心を垂直軸上に整列します。
- **右揃え**  - 複数のオブジェクトの右端を揃えます。
- **上揃え**  - 複数のオブジェクトの上端を揃えます。
- **上下中央揃え**  - 複数のオブジェクトの中心を水平軸上に整列します。
- **下揃え**  - 複数のオブジェクトの下端を揃えます。

オブジェクトを配置するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[整列/配置]** ▶ **[整列/配置]** をクリックします。
- 3 オブジェクトを配置する領域を選択するには、**[整列/配置]** ドッキング ウィンドウの **[配置先]** 領域にある次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **選択したオブジェクト**  - オブジェクトを囲む範囲ボックスの領域全体にオブジェクトを配置します。
 - **ドキュメントの端**  - ドキュメント全体にオブジェクトを配置します。
- 4 複数のオブジェクトを水平方向に配置するには、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **左側に配置**  - 複数のオブジェクトの左端を均等な間隔で配置します。
 - **中心を水平に配置**  - 複数のオブジェクトの中心点を水平軸上に均等な間隔で配置します。
 - **右側に配置**  - 複数のオブジェクトの右端を均等な間隔で配置します。
 - **間隔を水平に配置**  - 水平軸上に、複数のオブジェクトの間隔が均等になるように配置します。
- 5 複数のオブジェクトを垂直方向に配置するには、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **上部に配置**  - 複数のオブジェクトの上端を均等な間隔で配置します。
 - **中心を垂直に配置**  - 複数のオブジェクトの中心点を垂直軸上に均等な間隔で配置します。
 - **下部に配置**  - 複数のオブジェクトの下端を均等な間隔で配置します。
 - **間隔を垂直に配置**  - 垂直軸上に、複数のオブジェクトの間隔が均等になるように配置します。



オブジェクトを配置するには、複数のオブジェクトを選択しておく必要があります。

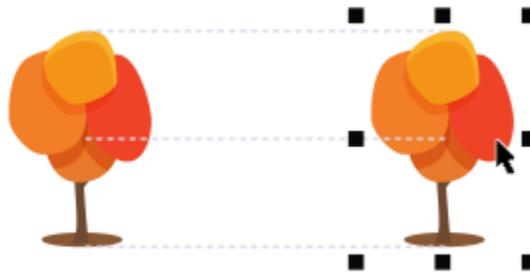
指定した距離でオブジェクトを配置するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[整列/配置]** ▶ **[整列/配置]** をクリックします。
- 3 **[整列/配置]** ドッキング ウィンドウの **[配置先]** 領域で、**[オブジェクトの間隔]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[H]** ボックスと **[V]** ボックスに値を入力します。
- 5 オブジェクトを左右均等に配置するには、いずれかの左右均等配置のボタンをクリックします。
- 6 オブジェクトを上下均等に配置するには、いずれかの上下均等配置ボタンをクリックします。

整列ガイド

整列ガイドを使用して、オブジェクトをインタラクティブに整列することができます。整列ガイドは一時的なガイドラインで、オブジェクトを作成、サイズ変更、移動するときに、近くのオブジェクトに整列させることができます。

整列ガイドは、オブジェクトのエッジを別のオブジェクトの中心に整列 (エッジと中心) もできます。さらに、オブジェクトのエッジを別のオブジェクトの中心に整列 (エッジと中心) もできます。



オブジェクトの移動時に表示される整列ガイド

あるオブジェクトを、別のオブジェクトのエッジから一定距離に整列する場合、整列ガイドのマージンを設定できます。マージンを指定した後、エッジガイドの表示方法を選択できます。マージンに沿って、またはマージンとオブジェクトのエッジの両方に沿って表示できます。また、マージン整列ガイドを使って、オブジェクトと別のオブジェクトとの間にインセットおよびオフセットできます。

デフォルトでは整列ガイドはオフです。整列ガイドのオン/オフの切り替え、または整列ガイドのデフォルト設定の修正は簡単に行えます。整列ガイドをグループ内の個々のオブジェクトについて表示するか、グループ全体の範囲ボックスについて表示するかを選択できます。

整列ガイドのオン/オフを切り替えるには

- [表示] ▶ [整列ガイド] をクリックします。



整列ガイドがオンになっているときは、[整列ガイド] コマンドの横にチェックマークが表示されます。



また、**Shift + Alt + A** キーを押して整列ガイドをオンにすることもできます。

整列ガイドの設定を変更するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ライブ ガイド] をクリックします。
- 2 次のタスクのいずれかを実行します。

目的	作業手順
整列ガイドのオン/オフを切り替える	[整列ガイドの有効化] チェック ボックスをオンまたはオフにします。
整列ガイドの色を変更する	線の色ピッカーを開いて、色を選択します。

目的

整列ガイドの線のスタイルを変更する

オブジェクトの端と別のオブジェクトの端に整列するようにガイドを設定する

オブジェクトの端が別のオブジェクトの中心に整列するようにガイドを設定する

グループ内の個々のオブジェクトを整列させるガイドを設定する

マージン整列ガイドを追加するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [ライブ ガイド] をクリックします。
- 2 次のタスクのいずれかを実行します。

目的

マージン整列ガイドを追加する

マージンの線の色を変更する

マージンの線のスタイルを変更する

水平方向のマージンを設定する

垂直方向のマージンを設定する

作業手順

線のスタイル ピッカーを開いて、線のスタイルを選択します。

[**オブジェクトの端**] ボタン  をクリックします。

[**オブジェクトの中心**] ボタン  をクリックします。

[**グループ内の個々のオブジェクト**] ボタン  をクリックします。

作業手順

[**マージン**] チェック ボックスをオンにします。

マージンの線の色 ピッカーを開いて、色を選択します。

マージンの線のスタイル ピッカーを開いて、線のスタイルを選択します。

[**水平方向のマージン**] ボックスで値を入力し、[**水平方向のマージン**] ボタンをクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

- **水平方向にオフセット**  — オブジェクトの周囲に指定された距離のマージンを作成します。
- **水平方向にインセット**  — オブジェクト内に指定された距離のマージンを作成します。
- **水平方向にオフセットとインセット**  — オブジェクト内と周囲に指定された距離のマージンを作成します。

[**垂直方向のマージン**] ボックスで値を入力し、[**垂直方向のマージン**] ボタンをクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

- **垂直方向にオフセット**  — オブジェクトの周囲に指定された距離のマージンを作成します。
- **垂直方向にインセット**  — オブジェクト内に指定された距離のマージンを作成します。
- **垂直方向にオフセットとインセット**  — オブジェクト内と周囲に指定された距離のマージンを作成します。

目的

垂直方向と水平方向のマージンの比率をロックする

マージン整列ガイドだけ表示する

水平方向のマージンを無効にする

垂直方向のマージンを無効にする

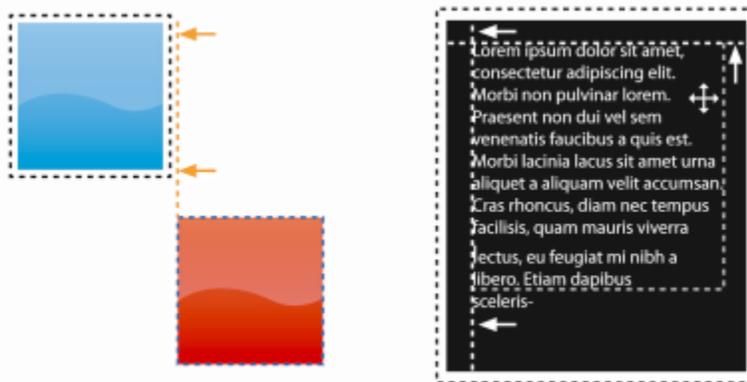
作業手順

[比率をロック] ボタン  をクリックします。

[オブジェクトのエッジ] ボタン  および [オブジェクトの中心] ボタン  を無効にします。

[水平方向のマージン] ボタンをクリックして、[水平方向のマージンを無効化]  を選択します。

[垂直方向のマージン] ボタンをクリックして、[垂直方向のマージンを無効化]  を選択します。



マージン整列ガイドをオフセット (左) またはインセット (右) できます。

オブジェクトをロックする

オブジェクトをロックすると、オブジェクトに対して移動、サイズ変更、変形、塗りつぶし、選択などの変更を誤って行うことを防ぐことができます。そうでない場合はオブジェクトが変更されます。1つのオブジェクト、複数のオブジェクト、またはグループ化したオブジェクトをロックできます。ロックしたオブジェクトを変更するには、まずオブジェクトをロック解除する必要があります。一度に1つのオブジェクトをロック解除することも、ロックされているすべてのオブジェクトを一度にロック解除することもできます。

オブジェクトをロックするには

- 1 選択ツールを使用して、**オブジェクト**を選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [ロック] をクリックします。

可能な操作

複数のオブジェクトをロックする

選択ツールを使って、**Shift** キーを押しながら複数のオブジェクトをクリックします。[オブジェクト] ▶ [ロック] をクリックします。

可能な操作

オブジェクト グループをロックする

選択ツールを使用してオブジェクト グループをクリックし、**[オブジェクト]** ▶ **[ロック]** をクリックします。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウ でオブジェクト サムネールの横に表示される **[ロック]** アイコン  をクリックしてオブジェクトをロックすることもできます。



オブジェクトが非表示になっている場合は、**[ロック]** アイコン  は表示されません。

オブジェクトをロック解除するには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウでロックされている**オブジェクト**やオブジェクト グループをクリックします。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが表示されていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。
- 2 オブジェクトやオブジェクト グループのサムネールの横にある **[ロック]** アイコン  をクリックします。

オブジェクトをグループ化/結合する

複数の**オブジェクト**をグループ化して、1つの単位として扱うことができます。グループ化したオブジェクトは、ひとまとまりとして、移動、削除、変形できます。グループ内の非表示オブジェクトも、表示オブジェクトと一緒に変形されます。

既存のグループにオブジェクトを追加したり、既存のグループから削除することができます。オブジェクトのグループを入れ子にして、既存のオブジェクト内のオブジェクトをグループ化することもできます。個々にそれらを編集する場合は、オブジェクトのグループを解除することもできます。



グループ化したオブジェクトは、まとめて移動または変形できます。この例では、ボールとボックスがグループ化され、グループとしてサイズ変更されます。

オブジェクトを結合すると、それらのオブジェクトを永久的にグループ化することになります。複数のオブジェクトを1つに結合することもできますし、オブジェクトをバックグラウンドに結合することもできます。結合されたオブジェクトは、個別に編集することができません。また、オブジェクトを結合すると、イメージのファイル サイズを縮小することができます。

オブジェクトをグループ化するには

- 1 イメージ ウィンドウで複数の**オブジェクト**を選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[グループ化]** ▶ **[グループ化]** をクリックします。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウのオブジェクトをグループ化するには、**Ctrl** を押しながらグループにするオブジェクトを選択し、[新規グループ] ボタン  をクリックします。

既存のグループにオブジェクトを追加するには

- 1 イメージ ウィンドウでグループ内のオブジェクトを選択します。
- 2 **Shift** キーを押しながら、追加するオブジェクトをクリックします。
- 3 [オブジェクト] ▶ [グループ化] ▶ [グループ化] をクリックします。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウで既存のグループのオブジェクトを追加するには、オブジェクトを選択してそれをグループにドラッグします。

オブジェクトのグループからオブジェクトを削除するには

- 1 [オブジェクト] ドッキング ウィンドウを開きます。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが表示されていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。
- 2 [グループ矢印ボタン] をクリックして、グループ リストを展開します。
- 3 グループ リストから、削除するオブジェクトを選択します。
- 4 それをグループの外にドラッグします。

オブジェクトのグループを入れ子にするには

- 1 [オブジェクト] ドッキング ウィンドウのグループ矢印ボタンをクリックして、グループ リストを展開します
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが表示されていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。
- 2 **Ctrl** キーを押しながら、グループ内で入れ子にするオブジェクトを選択します。
- 3 [新規グループ] ボタン  をクリックします。

オブジェクトのグループを解除するには

- 1 イメージ ウィンドウでオブジェクトのグループをクリックします。
- 2 [オブジェクト] ▶ [グループ] ▶ [グループ解除] をクリックします。

オブジェクトを結合するには

結合対象

複数のオブジェクトを 1 つのオブジェクトに結合する

1 つ以上のオブジェクトをバックグラウンドと結合する

作業手順

オブジェクトを選択し、[オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [オブジェクトの結合] をクリックします。

1 つ以上のオブジェクトを選択し、[オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [選択オブジェクトのバックグラウンド結合] をクリックします。

結合対象

すべてのオブジェクトをバックグラウンドと結合する

作業手順

[オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [全オブジェクトのバックグラウンド結合] をクリックします。



バックグラウンドに結合したオブジェクトは、バックグラウンド レイヤの一部となるため、個々のオブジェクトとして編集することができなくなります。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウのオブジェクトを結合するには、**Ctrl** を押しながら結合するオブジェクトを選択し、[選択したオブジェクトの結合] ボタン  をクリックします。

マージ モードと透明度レベルを設定してからオブジェクトを結合する場合は、[オブジェクト] ドッキング ウィンドウの[マージ モード] リスト ボックスと[不透明度] ボックスの設定を修正します。[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。

選択したグループのマージ モード

オブジェクトをグループ化すると、新しいグループにはパススルー マージ モードが自動的に割り当てられます。パススルー モードの場合、グループには独自のマージ プロパティは設定されません。グループおよびその下のオブジェクトのオブジェクト カラーは、グループ内のマージ モードの影響を受けます。調整レンズなどの効果がグループに適用されている場合は、この効果が下のオブジェクトまたはバックグラウンドのカラーに影響します。

グループのマージ モードを変更して、さまざまなブレンド効果を出すことができます。マージ モードについて詳しくは、343 ページの「マージ モード」を参照してください。



オリジナルのイメージ (左) 内のオブジェクトはグループ化されています。グループ (右) にはレンズ効果が適用されています。グループにパススルー モードが適用されたため、グループ背面のグレーのバックグラウンドもレンズによって変化しました。

グループのマージ モードを選択するには

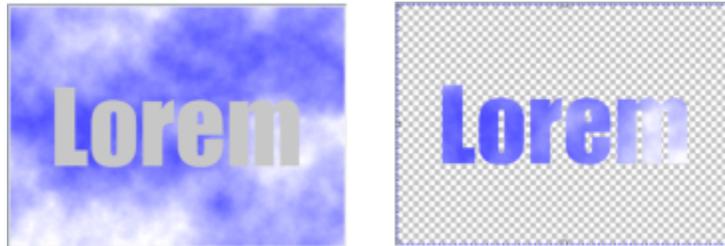
- 1 [オブジェクト] ドッキング ウィンドウで、グループをクリックします。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト] をクリックします。
- 2 [マージ モード] リスト ボックスからマージ モードを選択します。



Group properties ダイアログ ボックスから、グループ化したオブジェクトのマージ モードを選択して、透明度を調整することもできます。

クリッピング グループを使用する

クリッピング グループを使用してオブジェクトの特性を結合する場合は、1 つ以上のオブジェクトのイメージ要素を別のオブジェクトの形状に配置します。これにより、子オブジェクトの特性が親オブジェクトの形状に挿入されます。たとえば、親オブジェクトがテキストで、子オブジェクトが空のピクチャの場合、結果は色と空のテクスチャのあるテキストになります。あるオブジェクトに対して、重ね順で下にあるオブジェクトが親になります。子オブジェクトが親よりも下に配置されることはありません。



クリッピング グループでは、任意のオブジェクトの特性を借りてそれらを別のオブジェクトに適用します。この例では、テキスト (親オブジェクト) には色と空のテクスチャ (子オブジェクト) があります。

また、バックグラウンド イメージをオブジェクトに変換して、バックグラウンドを含むクリッピング グループを作成することもできます。クリッピング グループはいつでも元に戻すことができます。

クリッピング グループを作成するには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、子オブジェクトをリストの親オブジェクト上にドラッグします。
- 2 イメージ ウィンドウで子オブジェクトを選択し、親オブジェクトの上にドラッグします。
- 3 リスト内の子オブジェクトをクリックします。
- 4 **[クリッピング グループの作成]** ボタン  をクリックします。



親オブジェクトの境界の中にある子オブジェクトの領域だけが表示されます。子オブジェクトのオブジェクトの**選択範囲線**のみが、親オブジェクトの境界の外にある領域に表示されます。

バックグラウンド イメージを含むクリッピング グループを作成するには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、バックグラウンドをクリックします。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[作成]** ▶ **[バックグラウンドから]** をクリックします。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウで、オブジェクトとしてバックグラウンドが表示されます。
- 3 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、子オブジェクトとなるバックグラウンド オブジェクトを、リスト内で親オブジェクトより上にドラッグします。
- 4 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウのリストで、バックグラウンド オブジェクトをクリックします。
- 5 **[クリッピング グループの作成]** ボタン  をクリックします。

クリッピング グループを解除するには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、クリッピング グループに含まれている子オブジェクトをクリックします。

オブジェクトがクリッピンググループに属している場合は、クリッピンググループシンボルがオブジェクト名の左に表示します。

2 **[クリッピンググループの作成]** ボタン  をクリックしてクリッピンググループを元に戻します。



オブジェクトを修正する

オブジェクトは、互いにレイヤとして重なり合うことができる独立したイメージ要素です。オブジェクトのエッジを変更、またはドロップシャドウを追加して、オブジェクトを変形することができます。イメージ内の他のオブジェクトやバックグラウンドに影響を与えることなく、それぞれのオブジェクトを変更することが可能です。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 431 の「オブジェクトを変形する」。
- ページ 436 の「オブジェクトを切り抜く」。
- ページ 436 の「オブジェクトのエッジを変更する」。
- ページ 438 の「ドロップシャドウを追加する」。
- ページ 441 の「クリップマスクを使用する」。
- ページ 443 の「オブジェクトを取り囲んでいる領域を保護する」。

オブジェクトを変形する

次のいずれかの変形方法でオブジェクトの外観を変更することができます。

変形操作	説明
サイズを変更する	オブジェクトの幅と高さを変更します。
スケールする	オブジェクトの元のサイズに対するパーセンテージでスケールを変更します。
回転する	オブジェクトを、その回転の中心を中心として回します。
反転（ミラー化）する	オブジェクトの水平方向または垂直方向の鏡像を作成します。
斜変形する	オブジェクトを一方に傾けます。
歪曲する	オブジェクトを不均等に伸縮します。

変形操作

説明

遠近効果を適用する

オブジェクトに奥行きがあるような効果を作成します。

イメージ ウィンドウで自由に変形を適用するか、手動で設定を調整してより正確に変形を行います。

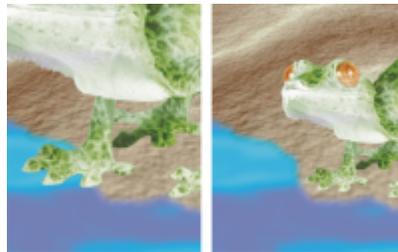
1 つのオブジェクト、または同時に複数のオブジェクトに変形を適用することができます。

変形操作

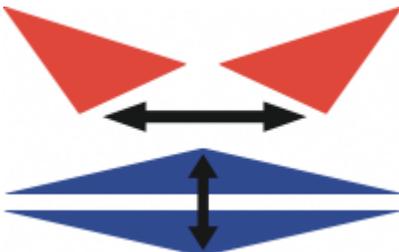
イメージ内のオブジェクトに適用



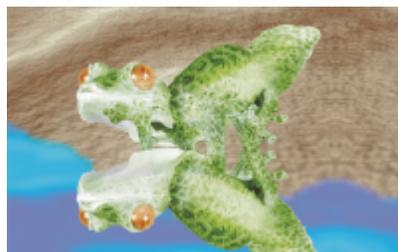
サイズ変更/スケールする



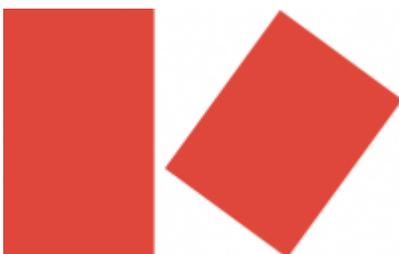
バックグラウンド イメージに合わせてスケール ダウンしたフォト オブジェクト



反転する



反射を作成するために反転したオブジェクト



回転する



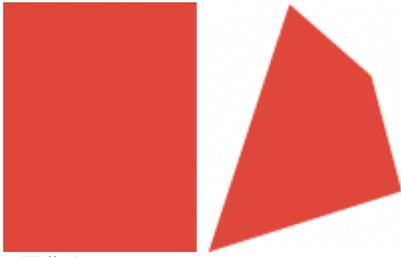
回転した反射



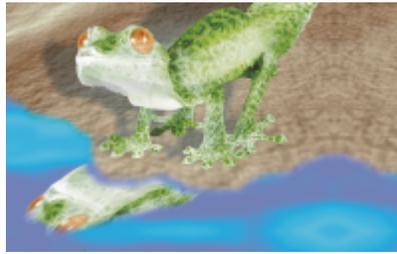
斜変形する



実角度を作成するために斜変形した
反射



歪曲する



光源の方向を示すために歪曲した
シャドウ



遠近効果



追加および変更された第 2 のシャド
ウ

オブジェクトのサイズを変更するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティ バーの[配置/サイズ] ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスのいずれかのハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。
- 4 プロパティ バーの [適用] をクリックします。



中心点を基準にオブジェクトのサイズを変更するには、**Shift** キーを押しながらいずれかのハンドルをドラッグします。

[サイズ] ボックスに値を入力し、プロパティ バーの [適用] ボタンをクリックして、選択したオブジェクトのサイズを変更することもできます。

オブジェクトのスケールを設定するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティ バーの [スケール] ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスのコーナー ハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。
- 4 プロパティ バーの [適用] をクリックします。

可能な操作

オブジェクトを正確にスケールする

プロパティ バーの [スケール] ボックスに値をパーセントで入力し、[適用] をクリックします。

可能な操作

縦横比を維持しながらオブジェクトをスケールする

プロパティ バーの **[縦横比の維持]** ボタン  をクリックします。

オブジェクトを中心からスケールする

Shift キーを押しながら、コーナー ハンドルをドラッグします。



オブジェクトを、スケール、斜変形、回転すると、エッジがギザギザになることがあります。このため、これらの変形モードでは、**アンチエイリアス**がデフォルトでオンになっています。

オブジェクトを回転するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティ バーの **[回転]** ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスの回転ハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。
- 4 プロパティ バーの **[適用]** をクリックします。

可能な操作

オブジェクトを、指定した角度で回転する

プロパティ バーの **[回転の角度]** ボックスに値を入力して、**[適用]** をクリックします。

15 度ずつ回転する

キーを押しながら、コーナー ハンドルをドラッグします。

回転の中心点を変更する

オブジェクトの回転の中心を目的の位置にドラッグするか、プロパティ バーの **[回転の中心]** ボックスに値を入力します。



オブジェクトを、スケール、斜変形、回転すると、エッジがギザギザになることがあります。このため、これらの変形モードでは、**アンチエイリアス**がデフォルトでオンになっています。



オブジェクトを 2 回クリックして、回転モードに切り替えることもできます。選択された変形モードに応じてオブジェクトの周囲の**ハンドル**が変わるので、アクティブな変形モードを確認することができます。

オブジェクトを反転するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **Ctrl** キーを押しながら、選択ボックスの中央のハンドルを、オブジェクトを横切って反対側にある中央の**ハンドル**までドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。
- 3 プロパティ バーの **[適用]** をクリックします。



Ctrl キーを押さずに、選択ボックスの中央のハンドルを、反対側にある中央のハンドルまでドラッグすると、選択オブジェクトを非対称な形で反転することができます。

【オブジェクト】 ▶ 【ミラー化】 ▶ 【水平方向】 または 【オブジェクト】 ▶ 【ミラー化】 ▶ 【垂直方向】 をクリックして、選択したオブジェクトを反転させることもできます。

オブジェクトを斜変形するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティバーの【斜変形】ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスの斜変形ハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。
- 4 プロパティバーの【適用】をクリックします。



オブジェクトを、スケール、斜変形、回転すると、エッジがギザギザになることがあります。このため、これらの変形モードでは、アンチエイリアスがデフォルトでオンになっています。



プロパティバーの【斜変形の角度】ボックスに値を入力し、【適用】をクリックして、オブジェクトを斜変形することもできます。

オブジェクトを歪曲するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティバーの【歪曲】ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスの歪曲ハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。



オブジェクトを 2 回クリックして、歪曲モードに切り替えることもできます。選択された変形モードに応じてオブジェクトの周囲のハンドルが変わるので、アクティブな変形モードを確認することができます。

オブジェクトに遠近効果を適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 プロパティバーの【遠近効果】ボタン  をクリックします。
- 3 範囲ボックスの遠近ハンドルをドラッグします。
変形を取り消す場合は、オブジェクトの外側をダブルクリックします。



オブジェクトを 3 回クリックして、遠近効果モードに切り替えることもできます。選択された変形モードに応じてオブジェクトの周囲のハンドルが変わるので、アクティブな変形モードを確認することができます。

オブジェクトを切り抜く

オブジェクトを切り抜いて不要な領域を削除するか、その形状を変更することができます。マスク ツールを使用して、保持するオブジェクトの編集領域を選択して、その他の部分を破棄することができます。詳しくは、281 ページの「編集領域を定義する」を参照してください。

オブジェクトを切り抜くには

- 1 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、バックグラウンドまたはオブジェクトのサムネールをクリックします。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。
- 2 選択したオブジェクトに編集領域を定義します。
- 3 **[オブジェクト] ▶ [マスクに合わせてオブジェクトを切り抜く]** をクリックします。

オブジェクトのエッジを変更する

エッジの特性を変更して、オブジェクトの外観を調整することができます。フェード、フリンジの削除、白黒のエッジの削除を適用すると、オブジェクトのエッジをバックグラウンドとブレンドできます。イメージ内の特定のオブジェクトを強調するには、オブジェクトのエッジをシャープにします。また、オブジェクトの選択範囲線をカスタマイズすることもできます。

フェード

フェードは、エッジのピクセルの透明度を少しずつ増やしながらオブジェクトのエッジをぼかします。フェードを適用するときは、フェード幅と透明グラデーションの種類 (エッジの種類) を選択できます。



右側のオブジェクトのエッジには、フェードが適用されています。

フリンジ削除

編集領域からオブジェクトを作成すると、エッジ沿いに意図しないカラーのピクセルが現れることがあります。この現象が特に発生しやすいのは、編集領域が輝度またはカラーの異なるピクセルで囲まれている場合です。フリンジ削除は、調和しないピクセルのカラーをオブジェクト内のカラーで置き換えて、オブジェクトをバックグラウンドとブレンドします。

白または黒のオブジェクトのエッジを削除する

エッジに沿ったピクセルを透明または不透明にすることにより、輪郭をフェードしたオブジェクトから白または黒のエッジを削除できます。

シャープ化

シャープ化は、オブジェクトのエッジを明確にします。シャープ化は、オブジェクトのエッジに沿ったピクセルにグレースケールのしきい値を指定して行います。しきい値未満のピクセルは透明になり、しきい値以内のピクセルは不透明になるため、エッジがシャープになります。



右側のオブジェクトは、エッジが明確になるようにシャープ化されています。

オブジェクトの選択範囲線の外観を変更する

オブジェクトの選択範囲線の外観をカスタマイズするには、そのカラーとしきい値を変更します。選択範囲線のしきい値を変更すると、アクティブなオブジェクトの境界の位置が変わります。また、選択範囲線のカラーを変更して、イメージのバックグラウンドとオブジェクトを区別しやすくすることもできます。

選択範囲線は非表示にすることも可能です。

オブジェクトのエッジにフェードを適用するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[フェード]** をクリックします。
- 3 **[幅]** ボックスに値を入力します。
- 4 次のいずれかのオプションを有効にして、使用する透明グラデーションを指定します。
 - **線形** - フェード部分の始点から終点まで、均等に**透明度**を変化させます。
 - **曲線** - フェードしたエッジの始点部分の透明度は小さく、中心部分の透明度は大きく、終点部分の透明度は小さくなります。

この効果は破壊的に適用されます。

ダイアログ ボックスで効果をプレビューするには、**[プレビュー]** ボタン  をクリックします。



オブジェクトのエッジを非破壊的にフェードさせるには、オブジェクトを選択し、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウ (**[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[オブジェクト]**) で **[効果の追加]** ボタン  をクリックし、**[ぼかし]**、**[フェード]** の順にクリックします。

プロパティ バーの **[マスクのフェード]** ボタン  をクリックして、編集領域のエッジに輪郭フェードを適用することもできます。

オブジェクトからフリンジを削除するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[つや消し]** ▶ **[フリンジ削除]** をクリックします。

3 [幅] ボックスに値を入力します。

フリンジ削除の値を大きくすると、オブジェクトのエッジとバックグラウンドの境目がより緩やかに変化します。

オブジェクトから黒や白のエッジを削除するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [つや消し] をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - 黒いくすみの除去 - エッジのピクセルをより透明にします。
 - 白いくすみの除去 - エッジのピクセルをより不透明にします。

オブジェクトのエッジをシャープ化するには

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [つや消し] ▶ [しきい値] をクリックします。
- 3 [レベル] ボックスに、1 ~ 255 の値を入力します。

値を大きくすると、つや消しに含まれる半透明ピクセルの数が少なくなります。

オブジェクトの選択範囲線を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT] をクリックします。
- 2 [表示] をクリックします。
- 3 [オブジェクトのしきい値] ボックスに、1 ~ f255 のしきい値を入力します。

しきい値が小さくなると、オブジェクトのより多くのピクセルが囲まれます。
- 4 [オブジェクトの選択範囲線] カラー ピッカーを開いて、カラーをクリックします。



オブジェクトの選択範囲線のしきい値を変更すると、選択範囲線で囲まれた領域が変化しますが、オブジェクトそのものは変化しません。完全に不透明ではないピクセルは、オブジェクトの一部であっても、選択範囲線の外側に配置される場合があります。

オブジェクトの選択範囲線を非表示にするには

- [オブジェクト] ▶ [オブジェクトの選択範囲線] をクリックします。



標準ツールバーの [オブジェクトの選択範囲線] ボタン  をクリックして、オブジェクトの選択範囲線の表示/非表示を切り替えることもできます。標準ツールバーが表示されていない場合は、[ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [標準] をクリックします。

ドロップ シャドウを追加する

ドロップ シャドウには、光沢、平面、および遠近感の 3 つのタイプがあります。光沢のあるドロップ シャドウは、オブジェクトの水平方向および垂直方向に集中するシャドウを付け、オブジェクトに正面から光源が当たっているように見せます。平面的なドロップ シャドウは、特定方向から光源が当たっているように見せるため、シャドウはずれて表示されます。遠近感のあるドロップ シャドウでは、立体的な奥行きのあるシャドウを作成します。ドロップ シャドウは、テキストを含むすべてのオブジェクトに追加することができます。



左のオブジェクトには平面的なドロップ シャドウが適用され、右のオブジェクトには遠近感のあるドロップ シャドウが適用されています。

ドロップ シャドウは、イメージ ウィンドウ内で作成および調整できます。イメージ ウィンドウで、ドロップ シャドウのカラー、位置、方向、および透明度を直接変更することも可能です。

プリセットのドロップ シャドウを適用することもできます。プリセットを適用する場合、修正してカスタム ドロップ シャドウを作成することができます。たとえば、オブジェクトから伸びるシャドウの方向と距離、シャドウのカラーと不透明度などを変更できます。デフォルトでは、ドロップ シャドウのエッジには四角のフェードが適用されています。これをガウス フェードなど別の種類のフェードに変更して、より写実的なドロップ シャドウを作成することができます。また、カスタム ドロップ シャドウをコピーする、またはドロップ シャドウをプリセットとして保存することも可能です。

ドロップ シャドウが適用されているオブジェクトの形状や透明度を変更すると、ドロップ シャドウも自動的に変更されます。

ドロップ シャドウは、いつでも削除できます。

平面的なドロップ シャドウ、または遠近感のあるドロップ シャドウを追加するには

- 1 ツールボックスのドロップ シャドウ ツール  をクリックします。
- 2 オブジェクトを選択します。
平面的なドロップ シャドウを作成する場合は、オブジェクトの中心からドラッグします。
遠近感のあるドロップ シャドウを作成する場合は、オブジェクトの端からドラッグします。

可能な操作

ドロップ シャドウのカラーを変更する	カラー パレットからドロップ シャドウ矢印の終点ノードに、カラー ボックスをドラッグします。
ドロップ シャドウを移動する	ドロップ シャドウ矢印の終点ノードをドラッグします。
平面的なドロップ シャドウをオブジェクトの中央から反転するか、遠近ドロップ シャドウをオブジェクトの縁方向へ反転します。	ドロップ シャドウ矢印の始点ノードをドラッグします。
ドロップ シャドウの方向やオフセットを変更する	ドロップ シャドウ矢印の先端をドラッグします。
ドロップ シャドウの不透明度を調整する	ドロップ シャドウ矢印にある三角の[透明] ハンドルをドラッグします。

可能な操作

エッジのフェードを調整する

ドロップ シャドウ矢印にある三角の**[フェード]** ハンドルをドラッグします。デフォルトでは四角のフェードが使用されますが、プロパティ バーの **[フェードのエッジ]** ピッカー  から別の種類のフェードを選択することができます。たとえば、ガウス フェードを使用すると、写実的なドロップ シャドウが作成されます。

ドロップ シャドウを追加するには

- 1 ツールボックスの**ドロップ シャドウ** ツール  をクリックします。
- 2 **オブジェクト**を選択します。
- 3 プロパティ バーの **[プリセット]** リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - **グロウ (大)**
 - **グロウ (中)**
 - **グロウ (小)**

可能な操作

ドロップ シャドウのカラーを変更する

カラー パレットからドロップ シャドウ矢印の終点ノードに、カラー ボックスをドラッグします。

ドロップ シャドウの不透明度を調整する

ドロップ シャドウ矢印にある三角の**[透明]** ハンドルをドラッグします。

エッジのフェードを調整する

ドロップ シャドウ矢印にある三角の**[フェード]** ハンドルをドラッグします。デフォルトでは四角のフェードが使用されますが、プロパティ バーの **[フェードのエッジ]** ピッカー  から別の種類のフェードを選択することができます。たとえば、ガウス フェードを使用すると、写実的なドロップ シャドウが作成されます。

プリセットまたはカスタム ドロップ シャドウを追加するには

- 1 ツールボックスの**ドロップ シャドウ** ツール  をクリックします。
- 2 **オブジェクト**を選択します。
- 3 プロパティ バーの **[プリセット]** リスト ボックスからプリセットを選択します。
プロパティ バーの値を変更してプリセットを修正すると、プリセット名はプロパティ バーの**[プリセット]** リスト ボックスで **[カスタム]** に変わります。
- 4 プロパティ バーの**[影の色]** ピッカーを開き、カラーをクリックします。
- 5 プロパティ バーで、次のいずれかのボックスに値を入力します。
 - **影の方向** - オブジェクトに対するシャドウの角度を指定します。
 - **影のオフセット** - オブジェクトの原点から伸びるシャドウの長さを指定します。
 - **影のフェード** - オブジェクトが遠ざかるにつれてシャドウがフェードするパーセンテージを指定します。
 - **影の伸縮値** - 遠近感のあるシャドウの長さを指定します。

- **影の透明度** - シャドウの透明度を指定します。
- **影のフェード** - シャドウの輪郭をフェードしてソフト エッジを作成する際のエッジのピクセル数を指定します。デフォルトでは四角のフェードが使用されますが、プロパティ バーの **[フェードのエッジ]** ピッカー  から別の種類のフェードを選択することができます。たとえば、写実的なドロップ シャドウを作成する場合は、ガウス フェードを選択します。また、**[フェードの方向]** ピッカー  から、フェードするピクセルの方向を指定することもできます。

可能な操作

カスタム ドロップ シャドウをプリセットとして保存する

プロパティ バーの**[プリセットの追加]** ボタン  をクリックし、**[プリセットとして保存]** ボックスにドロップ シャドウの名前を入力します。

オフセットおよびオフセットのフェード幅を、ドロップ シャドウのサイズに対するパーセンテージで指定する

[プリセットとして保存] ダイアログ ボックスの**[影の相対値]** チェック ボックスをオンにします。



プリセットを選択した後は、ドロップ シャドウ矢印のノードや三角のハンドルを調整して、ドロップ シャドウの属性の多くを変更することができます。

ドロップ シャドウをコピーするには

- 1 ドロップ シャドウを適用するオブジェクトを選択します。
- 2 ツールボックスの**ドロップ シャドウ ツール**  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの**[影のプロパティのコピー]** ボタン  をクリックします。
- 4 コピーするドロップ シャドウのプロパティを持つオブジェクトをクリックします。

ドロップ シャドウを削除するには

- 1 ツールボックスの**ドロップ シャドウ ツール**  をクリックします。
- 2 ドロップ シャドウが適用されているオブジェクトを選択します。
- 3 **Delete** キーを押します。



プロパティ バーの**[プリセット]** リスト ボックスから **[なし]** を選択して、ドロップ シャドウを削除することもできます。

クリップ マスクを使用する

クリップ マスクは、オブジェクトに添付されるマスクで、オブジェクトに影響を与えることなく透明度を変更できます。オブジェクトを表示するクリップ マスクを作成して、オブジェクトの特定領域に透明を適用することができます。たとえば、オブジェクトを通してイメージ背景を見えるようにする場合。逆に、オブジェクトを非表示にするクリップ マスクを作成して、オブジェクトの部分だけを徐々に見えるように透明を適用することができます。さらにオブジェクト透明をクリップ マスクに変換して、透明効果を変更または削除することができます。



グレースケール (左) が色の付いたオブジェクト (中央) 上に重ねられ、グレースケール オブジェクトから作成されたクリップ マスク (左)。クリップ マスクを選択した状態で、ペイント ツールを使用して色を付けた蝶の羽 (右)。

さらに、**クリップ マスク**を作成するために**編集領域**を定義して、オブジェクトの不必要な部分を条件に従って削除することができます。編集領域については詳しくは、281 ページの「**編集領域を定義する**」を参照してください。

クリップ マスクが完了したら、クリップ マスクをオブジェクトに結合してオブジェクトに変更を完全に適用することができます。

オブジェクトが見えるようにクリップ マスクを無効にしたり、クリップ マスクの維持または削除することもできます。

クリップ マスクをオブジェクト グループに適用することもできます。

クリップ マスクを使用してオブジェクトまたはオブジェクト グループの透明度を変更するには

- 1 オブジェクトまたはオブジェクト グループを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[作成]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **全オブジェクト表示マスク** - オブジェクト全体またはオブジェクト グループを表示する**クリップ マスク**を作成します。
 - **全オブジェクト非表示マスク** - オブジェクトまたはオブジェクト グループを完全に透明にする**クリップ マスク**を作成します。
- 3 ツールボックスの **[ペイント]** ツール  をクリックします。
- 4 カラー パレットのカラーをクリックします。
透明度を低くするには明るい灰色など明るい色を選択します。透明度を増加するには黒などの暗い色を選択します。
- 5 イメージ ウィンドウ内でドラッグします。



変更できるのは、アクティブなクリップ マスクのみです。アクティブなクリップ マスクには、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウのサムネールの周囲に赤い境界線が表示されます。



また、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで **[クリップ マスクの作成]** ボタン  をクリックすると、オブジェクト全体またはオブジェクト グループを表示する**クリップ マスク**を作成できます。

クリップ マスクをオブジェクト グループに適用する場合は、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで各オブジェクトを選択して移動することで、クリップ マスク領域での個々のオブジェクトの表示を変更できます。

オブジェクト透明からクリップ マスクを作成するには

- 1 透明がある**オブジェクト**またはオブジェクト グループを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[作成]** ▶ **[オブジェクト透明から]** をクリックします。

クリップ マスクを使用して編集領域を削除するには

- 1 **オブジェクト**またはオブジェクト グループを選択します。
- 2 ツールボックスの**マスク ツール**をクリックします。
- 3 イメージ ウィンドウで**編集領域**を定義します。
- 4 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[作成]** をクリックし、次のいずれかをクリックします。
 - **マスクから** - 編集領域を囲んでいる領域を非表示にします
 - **反転マスクから** - 編集領域を非表示にして、それを囲んでいる領域のみを表示します



また、**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで **[クリップ マスクの作成]** ボタン  をクリックすると、オブジェクト全体またはオブジェクト グループを表示するクリップ マスクを作成できます。

クリップ マスクをオブジェクトまたはオブジェクト グループに結合するには

- 1 クリップ マスクがある**オブジェクト**またはオブジェクト グループを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[結合]** をクリックします。

クリップ マスクを無効にするには

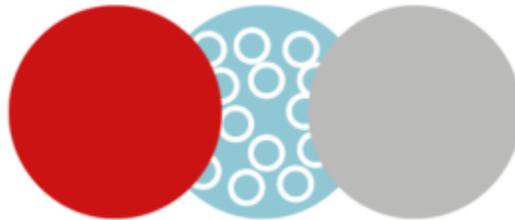
- 1 クリップ マスクがある**オブジェクト**またはオブジェクト グループを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[使用不可]** をクリックします。

クリップ マスクを削除するには

- 1 クリップ マスクがある**オブジェクト**またはオブジェクト グループを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[クリップ マスク]** ▶ **[削除]** をクリックします。

オブジェクトを取り囲んでいる領域を保護する

オブジェクトを取り囲む領域を保護して、選択したオブジェクトのみへ変更ができるようにします。たとえば、オブジェクトの枠からはみ出したストロークを適用しないでオブジェクトへブラシストロークを適用することができます。



青の円を取り囲んでいる領域が保護されています。結果として、白のバブル ブラシストロークは赤とグレーの円には適用されません。

オブジェクトを取り囲んでいる領域を保護するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **ドッキング ウィンドウ** ▶ **[オブジェクト]** をクリックします。
- 2 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、オブジェクトをクリックします。
- 3 **[透明度のロック]** ボタン  をクリックします。



オブジェクトのリンクと埋め込み

オブジェクトのリンクと埋め込み (OLE) は、アプリケーション間で情報を交換するための技術です。OLE を使用して、ソース アプリケーションと呼ばれるアプリケーションから選択した**オブジェクト**やファイル全体を、ターゲット アプリケーションと呼ばれる別のアプリケーションに配置できます。

情報を交換するすべてのアプリケーションが OLE をサポートしている限り、オブジェクトやファイルを自由に移動できます。リンクするとファイルのサイズが大きくなりますが、複数のファイルで、1 つのオブジェクトやファイルを使用したい場合には便利です。オブジェクトやファイルのすべてのインスタンスを変更したい場合は、ソース アプリケーションでそのオブジェクトを変更するだけです。また、ターゲット アプリケーションが、ソース アプリケーションで作成されたファイルを直接サポートしていない場合にも、リンクは便利な機能となります。埋め込みは、すべてのオブジェクトを 1 つのファイルに含める場合に便利です。埋め込みオブジェクトはソース ファイルへリンクされないため、目的のアプリケーションでファイル サイズが小さくなります。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 445 の「[リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを別のアプリケーションに挿入する](#)」。
- ページ 446 の「[リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを編集する](#)」。

リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを別のアプリケーションに挿入する

Corel PHOTO-PAINT では、OLE **オブジェクト**を作成して他のアプリケーションに挿入できます。オブジェクトをリンクするには、Corel PHOTO-PAINT のオブジェクトをコピーし、それを別のアプリケーションに貼り付けます。また、Corel PHOTO-PAINT のオブジェクトを別のアプリケーションに OLE オブジェクトとして埋め込むこともできます。

リンク オブジェクトを挿入するには

- 1 Corel PHOTO-PAINT で **オブジェクト**を選択します。
そのファイルを保存します。
- 2 **[編集]** ▶ **[コピー]** をクリックします。
- 3 挿入先のアプリケーションで、**[編集]** ▶ **[形式を選択して貼り付け]** をクリックします。
- 4 **[リンク貼り付け]** オプションをオンにします。

埋め込みオブジェクトを挿入するには

- 1 Corel PHOTO-PAINT で **オブジェクト**を選択します。
- 2 選択したオブジェクトを、埋め込み先のアプリケーション ウィンドウにドラッグします。



ドラッグによって埋め込みオブジェクトを挿入するときは、Corel PHOTO-PAINT と埋め込み先アプリケーションの両方のアプリケーション ウィンドウが表示されている必要があります。

1 つのアプリケーションから別のアプリケーションにオブジェクトをドラッグすると、オブジェクトは、元のアプリケーションから削除され、埋め込み先アプリケーションに配置されます。Corel PHOTO-PAINT にオブジェクトのコピーを残す場合は、**Ctrl + Shift** キーを押しながらドラッグします。

リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを編集する

Corel PHOTO-PAINT で作成し、別のアプリケーションに OLE オブジェクトとしてリンクまたは埋め込まれたオブジェクトを、編集することができます。リンク オブジェクトを編集するには、Corel PHOTO-PAINT のソース ファイルを編集します。ソース ファイルに加えた変更は、リンク オブジェクトに自動的に適用されます。

リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを編集するには

- 1 リンク、または埋め込みオブジェクトをダブルクリックして、Corel PHOTO-PAINT を起動します。
- 2 オブジェクトを編集します。
- 3 変更内容を保存します。
- 4 Corel PHOTO-PAINT を閉じます。
- 5 アクティブなアプリケーションに戻り、編集結果を確認します。



Corel PHOTO-PAINT を起動し、ファイルを直接開いて、リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを編集することもできます。

テキスト

テキストを作成/フォーマットする.....	449
フォントを管理する.....	469
異なる言語のテキスト.....	477



テキストを作成/フォーマットする

Corel PHOTO-PAINT では、テキストをイメージに追加し、さまざまなテキスト効果を作成することができます。また、テキストの移動、編集、フォーマットを行うことも可能です。パスにテキストを結合すると、まっすぐでない線に沿ってテキストを配置することができます。任意のソースからフォントをキャプチャして指定できるので、自作のアートワークでこれを再利用できます。アジア言語のオペレーティング システムを使用している場合は、Corel PHOTO-PAINT に用意されているアジア言語テキストにフォーマットを設定する機能を利用することができます。詳しくは、478 ページの「アジア系および中東系言語テキスト」を参照してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 449 の「テキストを追加/選択する」。
- ページ 451 の「テキストにカラーを追加する」。
- ページ 452 の「テキストのフォーマット」。
- ページ 454 の「OpenType の機能」。
- ページ 458 の「可変フォント」。
- ページ 460 の「特殊文字、シンボル、グリフの挿入」。
- ページ 463 の「テキストをカーニング/シフト/回転する」。
- ページ 464 の「テキストを配置する」。
- ページ 464 の「行、文字、および単語の間隔を調整する」。
- ページ 465 の「アンチエイリアス テキスト」。
- ページ 465 の「テキストをパスに結合する」。
- ページ 467 の「レガシー テキスト」。

テキストを追加/選択する

テキストを追加してイメージを補正できます。テキストのフォント、サイズ、文字揃え、および文字の間隔と行間隔を指定します。



テキスト ツールで作成したテキスト

テキストは、デフォルトでは**オブジェクト**として作成されます。このため、移動、サイズ変更、スケール、回転、反転、斜変形、歪曲、および遠近効果の適用が可能です。テキスト文字を追加、削除、または編集した場合には、歪曲または遠近効果は失われます。オブジェクトの操作については、411 ページの「**オブジェクトを操作する**」を参照してください。テキストは、**マスクの編集領域**としてもレンダリングできます。編集領域の作成については、281 ページの「**編集領域を定義する**」を参照してください。

塗りつぶしやペイントでテキストのカラーを変更することもできます。さらに、**パターン**や**テクスチャ**でもテキストを塗りつぶすことができます。

テキストのカーニング、シフト、回転もできます。詳しくは、463 ページの「**テキストをカーニング/シフト/回転する**」を参照してください。

テキストを追加するには

- 1 **テキスト ツール**  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの**[フォント名]** リスト ボックスから、**フォント**を選択します。
- 3 プロパティ バーの**[フォント サイズ]** リスト ボックスから、フォントの**サイズ**を選択します。
- 4 イメージ ウィンドウ内をクリックして、テキストを入力します。



編集領域としてテキストを**レンダリング**するには、**テキスト ツール**  を使用してテキストを選択し、プロパティ バーの**[マスクの作成]** ボタン  をクリックします。これにより、効果を適用できるテキストの形をした**編集領域**が作成されます。

修正するテキストを選択するには

- 1 **テキスト ツール**  をクリックします。
- 2 ポインタがカーソルに変化するまで、テキストにマウスのポインタを合わせます。
- 3 テキストを選択します。

テキストにカラーを追加する

テキストの塗りつぶしと輪郭の両方のカラーを即座に変更できます。テキストの塗りつぶし、輪郭、およびバックグラウンドのカラーを変更できます。また、テキストをペイントして、テキストの外観を変えることもできます。これにより、テキストにさまざまな効果を追加できます。

Lorem Ipsum

パターンやテクスチャでテキストを塗りつぶすことが可能

テキストのカラーを変更するには

- 1 テキスト ツール  をクリックします。
- 2 ポインタがカーソルに変化するまで、テキストにマウスのポインタを合わせます。
- 3 テキストを選択します。
- 4 カラー コントロール領域で、**[主要]** カラー ボックス  をダブルクリックし、カラーを選択します。

テキストをペイントするには

- 1 ツールボックスで**選択**ツール  をクリックします。
- 2 テキスト オブジェクトを選択します。
- 3 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[オブジェクトとしてレンダリング]** をクリックします。
- 4 カラー コントロール領域で、**[主要]** カラー ボックス  をダブルクリックし、カラーを選択します。
- 5 ツールボックスの **[ペイント]** ツール  をクリックします。
- 6 プロパティ バーでツールの設定を指定します。
- 7 オブジェクトの上をドラッグします。



ペイントする前に、テキストが正しいことを確認します。テキスト文字の追加、削除、または編集により、ペイント効果が失われるからです。

テキストを塗りつぶすには

- 1 ツールボックスで**選択**ツール  をクリックします。
- 2 テキスト オブジェクトを選択します。
- 3 ツールボックスの**塗りつぶし**ツール  をクリックします。
- 4 プロパティ バーでツールの設定を指定します。
- 5 **塗りつぶす**文字をクリックします。

文字に直接クリックする必要があります。 そうしないと塗りつぶしがイメージ全体に適用されます。 **[編集]** ▶ **[フラッド塗りつぶしを元に戻す]** をクリックして、不要な塗りつぶしを元に戻すことができます。



ペイントする前に、テキストが正しいことを確認します。テキスト文字の追加、削除、または編集により、ペイント効果が失われるからです。



テキスト文字を素早くズームするには、ツールボックスの**ズーム** ツール  をクリックし、イメージ内をドラッグしてテキスト文字を囲みます。

編集領域としてテキストをレンダリングするには、**テキスト** ツール  を使用してテキスト **オブジェクト** を選択し、プロパティバーの **[マスクの作成]** ボタン  をクリックします。これにより、塗りつぶしを適用できるテキストの形をした編集領域が作成されます。

テキストのフォーマット

Corel PHOTO-PAINT では、テキストをフォーマットして外観を補正することができます。スタイルやサイズなどの**フォント**の属性を変更し、下線、取り消し線、または上線をテキストに付けることができます。また、文字を上付き文字や下付き文字として表示することにより、文字の位置と外観を変更できます。これは、科学的表記を使用する描画で便利です。さらに、テキストの大文字/小文字を切り替えることもできます。

上付き文字、下付き文字、または大文字/小文字をサポートする OpenType フォントを選択した場合、OpenType 機能を適用できます。ただし、これらの機能をサポートしないフォント (OpenType フォントを含む) を選択した場合は、文字の合成バージョンを適用できます。この合成バージョンは、Corel PHOTO-PAINT がデフォルトのフォント文字の特徴を変更することにより生成します。詳しくは、454 ページの「[OpenType の機能](#)」を参照してください。

さらに、選択した文字に下線、取り消し線、および上線を引くこともできます。

フォント属性を変更するには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウで、次のテーブルのいずれかのタスクを実行します。

目的	作業手順
書体を選択する	[フォント] リスト ボックスから書体を選択します。
フォント サイズを設定する	[フォント サイズ] ボックスに値を入力します。
フォント スタイルを変更する	[フォント スタイル] リスト ボックスからオプションを選択します。



プロパティバーの **[フォント名]** リスト ボックスから、書体を選択することもできます。

プロパティバーの**[太字]**  ボタンや**[斜体]**  ボタンをクリックして、選択したテキストのフォントのスタイルを変更することもできます。

テキストに下線、取り消し線、上線を付けるには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウで、**[アドバンス設定]** 矢印をクリックして追加のオプションを表示します。
- 4 次の表からいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
テキストに下線を引く	[下線] ボタンをクリックし、リストからオプションを選択します。
テキストに取り消し線を引く	[取り消し線] リスト ボックスからオプションを選択します。
テキストに上線を引く	[上線] リスト ボックスからオプションを選択します。



プロパティ バーの**[下線]**  ボタンをクリックして、選択したテキストに一重下線を付けることもできます。

テキストを上付きまたは下付きにするには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウ で **[配置]** ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **なし** - リスト内のすべての機能をオフにします。
 - **上付き (自動)** - フォントがサポートする場合は、OpenType 機能を適用します。フォントが上付きをサポートしない場合は、合成バージョンを適用します。
 - **下付き (自動)** - フォントがサポートする場合は、OpenType 機能を適用します。フォントが下付きをサポートしない場合は、合成バージョンを適用します。
 - **上付き (合成)** - 合成バージョンの上付きの外観を適用します。Corel PHOTO-PAINT の旧バージョンと同じ表示になります。
 - **下付き (合成)** - 合成バージョンの下付きの外観を適用します。Corel PHOTO-PAINT の旧バージョンと同じ表示になります。



一部の OpenType フォントは、未サポートの機能をサポートするように表示されることがあります。たとえば、上付きと下付きのオプションが使用できるように表示されることがありますが、実際には使用できません。これらの OpenType フォントのいずれかを適用した場合、Corel PHOTO-PAINT では、合成バージョンの上付きと下付きを処理することができません。

テキストの大文字と小文字を切り替えるには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウの **[テキスト]** 領域で **[Caps]** ボタンをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **なし** - リスト内のすべての機能をオフにします。
 - **大文字** - 小文字を大文字に置き換えます。
 - **タイトル大文字** - フォントがサポートする場合は、OpenType バージョンの外観を適用します。
 - **小型大文字 (自動)** - フォントがサポートする場合は、OpenType バージョンの外観を適用します。

- **すべて小型大文字** - 文字を、縮小バージョンの大文字に置き換えます。
- **大文字から小型大文字へ** - フォントがサポートする場合は、OpenType バージョンの外観を適用します。
- **小型大文字 (合成)** - 合成バージョンの**小型大文字**を適用します。Corel PHOTO-PAINT の旧バージョンと同じ表示になります。



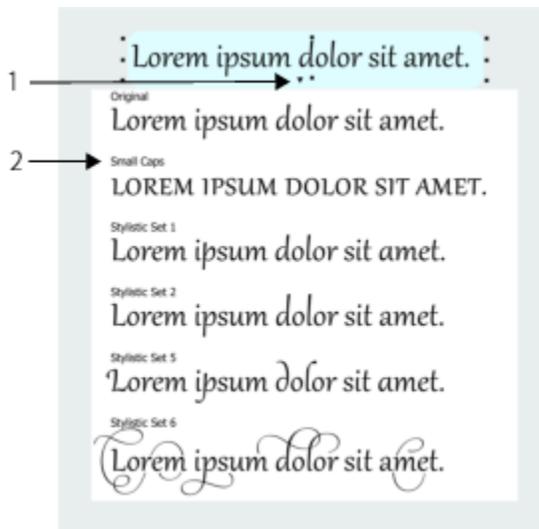
大文字/小文字のスタイルをサポートする OpenType フォント以外のフォントを選択した場合は、Corel PHOTO-PAINT により小文字の合成バージョンが表示されます。

一部の OpenType フォントは、未サポートの機能をサポートするように表示されることがあります。

OpenType の機能

Corel PHOTO-PAINT は OpenType フォントをサポートするので、OpenType フォントの高度なタイポグラフィ機能を活用できます。OpenType の機能では、個々の文字、または一連の文字について、別の外観 (**グリフ**とも呼ばれる) を選択できます。たとえば、数字、分数、または合字のセットについて、別のグリフを選択できます。

OpenType のコマンドとオプションには、**[テキスト]** ドッキング ウィンドウからアクセスできます。また、インタラクティブな OpenType のオプションをオンにして、適用できる OpenType の機能を Corel PHOTO-PAINT に表示することもできます。OpenType の機能が利用できる場合、テキストを選択すると、テキストの下にインジケータの矢印が表示されます。インジケータをクリックして、選択したテキストで利用できる一般的な OpenType の機能リストにアクセスできます。



[インタラクティブ OpenType] インジケータの矢印 (1) をクリックすると、選択したテキストで利用できる一般的な OpenType の機能リストが展開表示される

OpenType フォントの仕様は、Adobe と Microsoft が共同で作成しました。Unicode に基づく OpenType フォントは、古いフォントのテクノロジーの機能を拡張したものです。OpenType の最も優れたメリットは次のとおりです。

- プラットフォーム間のサポート (Windows と Mac OS)
- よりよい言語サポートと先進のタイポグラフィ機能を提供する拡張文字セット
- タイプ 1 (PostScript) と TrueType のフォントの共存
- 大きいグリフの制限 (64k) をサポート

OpenType features

次の表に、Corel PHOTO-PAINT で適用できる OpenType の機能 (機能がフォントに含まれている場合) を示します。

さらに、Corel PHOTO-PAINT は、大文字/小文字の変更機能と OpenType の配置機能の一部について、合成バージョンも装備しています。たとえば、フォントが小型大文字のような機能をサポートしない場合、Corel PHOTO-PAINT はフォントを拡大/縮小して、独自バージョンのグリフを生成します。

OpenType の機能	説明	例
大文字/小文字	テキストの大文字/小文字を変更します。題名と頭字語の挿入に便利です。	LOREM loREM
配置	文字を上付きまたは下付きで表示します。これは脚注や算術記号の挿入に便利です。上付きと下付きをサポートしない OpenType フォント、または OpenType 以外のフォントを選択した場合、合成グリフを適用できます。	Lore ^m
数字のスタイル	数字の外観を制御する機能があります。	下の例を参照
数字のスタイル - プロポーショナル ライニング	数字を異なる幅で表示します。これは、本文テキストに数字を挿入するのに最適です。ただし、数字の高さは一定で、通常は大文字の高さと同じです。	123
数字のスタイル - 表形式ライニング	幅、間隔、および高さを等しくして数字を表示します。これはテキストの整列とテーブル内のテキスト表示に便利です。	123
数字のスタイル - プロポーショナル旧スタイル	異なる幅と高さで数字を表示します。このスタイルは、大文字と小文字が混在するテキストと数字を調和させるのに最適です。	123
数字のスタイル - 表形式旧スタイル	等幅、異なる高さで数字を表示します。	123
分数	数字をスラッシュで区切って分数として表示します。使用できる分数の個数は、フォントによって異なります。分数として表示する数字にのみ、この機能を適用してください。	下の例を参照
分数 - 分子	456/ のように、分子を分数のグリフとして表示します。これは、456/789 のように、一般的でない分数を表示するのに便利です。一般的でない分数を表示するに	⁹⁹ /100

OpenType の機能

説明

例

は、分子の機能を分母の機能と組み合わせます。

分数 - 分母

/789 のように、分母を分数のグリフとして表示します。これは、456/789 のように、一般的でない分数を表示するのに便利です。一般的でない分数を表示するには、分母の機能を分子の機能と組み合わせます。

99/100

分数 - 分数

一般的な分数を分数のグリフとして表示します。

99/100

分数 - 代替分数

分数を、斜線やスラッシュの代わりに水平の分割線を使用して表示します。

序数

序数を、数字と上付きの後置き説明を使用して表示します。たとえば、「第 1」を 1st、「第 2」を 2nd と表示できます。序数として表示するテキストにのみ、この機能を適用してください。

1st

スラッシュ ゼロ

ゼロを、スラッシュを付けて表示します。これにより、文字「O」と簡単に区別できます。この機能は、財務レポートに数字を表示するのに便利です。

Ø

飾り文字

文字を、フォントのモチーフに合わせてフォント デザイナーが作成した飾り文字に置き換えます。

スタイル代替字形

文字に代替デザインを適用します。

rrr

スタイル セット

選択したテキストに代替デザインを適用します。

Lor Lor

スワッシュ字形の変形

カリグラフィタイプの装飾文字を挿入します。

KK

OpenType の機能

コンテキスト代替

説明

周囲の文字に基づいて、1 文字または一連の文字に代替デザインを適用し、テキストを微調整できます。たとえば、この機能をスクリプトベースのテキストに適用して、より自然に流れるようにすることができます。

例

利用できません

大文字と小文字を区別するフォーム

句読点の位置をシフトして、大文字にしたテキストや並べた数字と揃えます。

利用できません

標準合字

2 文字 (または一連の文字) を、合字と呼ばれるグリフ 1 文字に置き換えます。多くの OpenType フォントには、fi、fl、ff、ffi、および ffl の標準合字があります。標準合字の目的は、テキストの判読性を向上させることです。

ff ff

随意合字

非標準の文字の組み合わせを合字に置き換えます。随意合字は装飾文字としてデザインされ、多くの OpenType フォントではサポートされていません。

st st

コンテキスト合字

周囲の文字に最も調和するグリフを挿入します。コンテキスト合字は、合字で表されている複数の文字の結合状態を向上させることで、判読性が高くなるようにデザインされています。

利用できません

歴史的合字

2 文字 (または一連の文字) を、歴史的な用法に基づく合字に置き換えます。歴史的合字は飾り文字としてデザインされ、多くの OpenType フォントではサポートされていません。一般的に使用されている歴史的合字は、sh、si、sl、ss、st など、別の文字と組み合わせられる文字です。

利用できません

歴史的形式

現代の文字を、歴史的な文書で一般的に使用されていた文字に置き換えます。歴史的形式は、歴史的なテキストの再作成に便利です。

利用できません

OpenType の機能をテキストに適用するには

- 1 **テキスト** ツール **A** を使用して、1 文字または一連の文字を選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウで、OpenType 機能のボタンをクリックし、該当する場合はリストから機能を選択します。



一部の OpenType フォントは、未サポートの機能をサポートするように表示されることがあります。

画面上の OpenType 機能インジケータを有効にするには

- ツールボックスの**テキスト** ツール **A** をクリックし、プロパティ バーの **[インタラクティブ OpenType]** ボタン **O** をクリックします。
選択したテキストについて OpenType の機能が利用できる場合、テキストの下に矢印 ▼ が表示されます。

可能な操作

一般的な OpenType の機能リストを画面上に表示する

テキストの下にある矢印 ▼ をクリックします。

選択したテキストに OpenType 機能を適用する

OpenType 機能リストのオプションにカーソルを合わせて、オプションをクリックします。

可変フォント

Corel PHOTO-PAINT は OpenType の可変フォントをサポートしています。可変フォントの場合、単一のフォント ファイルにフォント ファミリをすべて含めることができ、ウェイト、幅、スタイルを多彩に組み合わせて使用できます。

可変フォントのさまざまなプロパティは、バリエーションの軸と呼ばれています。可変フォントは、1 つまたは複数の幅、ウェイト、スラントなどの軸に沿って変更したり、フォント デザイナーが指定したカスタム軸に沿って変更したりできます。軸に沿った名前付きのデザイン バリエーションは、インスタンスと呼ばれています。たとえば、Gingham という可変フォントは、ウェイトと幅という 2 つの軸に沿って変わります。このフォントには、Light、Light Condensed Regular、Bold、Condensed Bold、Condensed Light、Condensed Regular、Wide Bold など、さまざまなウェイトと幅の名前付きインスタンスがあります。ウェイト軸では Light と Bold が、幅の軸では Condensed と Wide が、それぞれ軸上で対極の位置にあります。

>Lorem Ipsum
Lorem Ipsum
Lorem Ipsum
Lorem Ipsum
Lorem Ipsum
Lorem Ipsum

この図は、Gingham 可変フォントのいくつかのインスタンスを示しています。

幅広いスタイル バリエーションを実現するには、可変フォント インスタンスの使用可能なプロパティ (軸) を調整します。

可変フォントかどうかはアイコンで見分けられます。可変フォントを手早く探すには、フィルタを使用します。詳しくは、472 ページの「[フォントをフィルタするには](#)」を参照してください。



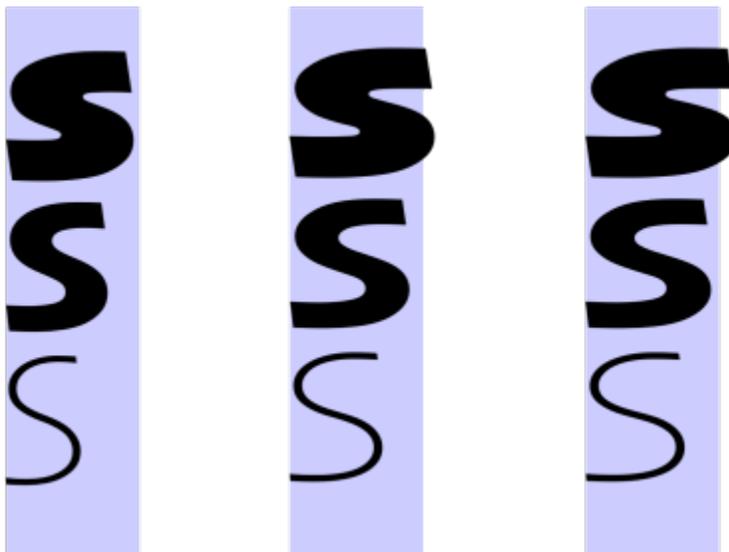
可変フォントかどうかはアイコンで見分けられます。



可変フォントは、OpenType Font Variations メカニズムを使用する OpenType バージョン 1.8 フォントです。

可変フォントのプロパティを調整するには

- 1 テキスト ツール **A** を使用して、1 文字またはテキスト ブロックを選択します。
- 2 プロパティ バーの **[可変フォント]** ボタン **AA** をクリックし、使用可能なフォント プロパティを調整します。



可変フォントの幅 (左右) および ウェイト (上下) の 2 軸に沿った調整。



[可変フォント] ボタン **AA** には、**[テキスト]** ドッキング ウィンドウ (**[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]**) からでもアクセスできます。

特殊文字、シンボル、グリフの挿入

[グリフ] ドッキング ウィンドウでは、OpenType フォントの特殊文字、シンボル、グリフ (個別の文字の変形または文字の組み合わせ) を簡単に検索と挿入することができます。

フィルタ

フォントに含まれるすべての文字、シンボル、グリフがデフォルトで表示されますが、文字サブセットをフィルタして必要な文字だけを表示できます。たとえば、通貨のシンボルや数字だけの表示や、キリル語の文字やシンボルだけの表示が可能です。

フォントに含まれる文字は以下のカテゴリで構成されています。

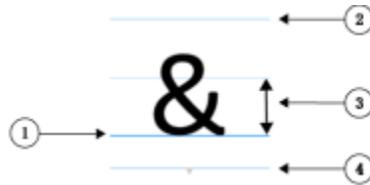
- **[共通]** - 矢印、通貨記号、数学記号、数字、句読点、セパレータ、CJK シンボルおよび句読点 (アジア言語のスキプトで使用) があります
- **[文字]** - 選択したフォントがサポートするスキプト (ラテン語、ギリシャ語、キリル語、平仮名および片仮名、漢字、アラビア語、ヘブライ語の文字など) があります
- **[OpenType]** - 選択したフォントによって提供されている OpenType 機能 (標準合字、随意合字、分数、注記の代替字形など) があります OpenType 機能について詳しくは、次を参照してください: [454 ページの「OpenType の機能」](#)。

OpenType フォント

[グリフ] ドッキング ウィンドウは、OpenType フォントによって提供されている OpenType 機能の表示と適用に最適です。デフォルトでは、個別の文字のグリフがグループ化されて表示されている文字のリストが表示されます。または、一目で利用できるグリフがわかるように、長いリストを表示することもできます。

文字の位置を表示する

選択したそれぞれの文字は青い線の組み合わせに表示され、テキストのベースラインを基準とした文字の位置をプレビューできます。



1) テキストのベースライン

2) アセンダー ライン

3) フォントの x 高さ

4) デセNDER ライン

最近使用した特殊文字

最近使用した特殊文字のリストを使用して、よく使用する文字をコピーできます。リストには、最近使用した文字のフォント属性と適用した OpenType の機能が保持されます。使用しなくなった文字を削除してリストを管理できます。

特殊文字、シンボル、グリフを追加するには

1 **テキスト** ツール **A** で、特殊文字を埋め込む場所をクリックします。

2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[グリフ]** をクリックします。

3 **[グリフ]** ドッキング ウィンドウで、**[フォント リスト]** ボックスからフォントを選択します。

4 **[文字とグリフ]** リストにある文字をダブルクリックします。

挿入する文字が見つからない場合は、**[文字フィルタ]** リスト ボックスを開き、**[すべてのフォント]** のチェック ボックスをオンにします。

可能な操作

文字をドラッグする

ピック ツール  を使用して、ドキュメント ウィンドウに文字をドラッグします。

文字をコピーする

[文字とグリフ] リストにある文字をクリックして、**[コピー]** をクリックします。

選択した文字の情報を表示する

[文字とグリフ] リストの下にある矢印ボタン  をクリックして、属性を表示します。属性には、文字の名前、ID、ユニコード番号、文字を挿入するためのキーボード ショートカット、OpenType 機能の名前、および特定の言語でのみ適切に表示できるグリフの言語があります。

ズーム イン/アウトする

[サイズ変更] スライダを調整します。

プリセットの増分でズーム イン/アウトするには、**[サイズ変更]** スライダの左右にあるズーム ボタンをクリックします。

Alt コードを使用して特殊文字に移動する

[文字とグリフ] リストでクリックして、**Alt** を押しながら必要な文字の Alt コードを入力します。

文字に移動する

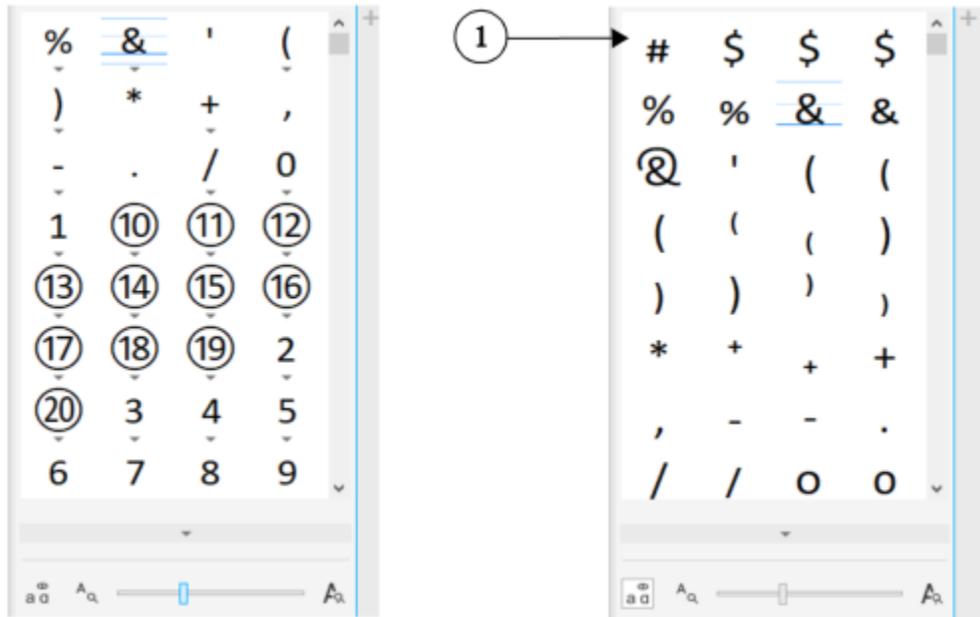
キーボードで対応するキーを押します。

特殊文字、シンボル、グリフをフィルタするには

- 1 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[グリフ]** をクリックします。
- 2 **[グリフ]** ドッキング ウィンドウで、**[フォント リスト]** ボックスからフォントを選択します。
- 3 **[文字フィルタ]** リスト ボックスを開き、表示する文字サブセットのチェック ボックスをオンにします。
- 4 **[閉じる]** をクリックします。

OpenType 機能のグリフを表示するには

- 1 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[グリフ]** をクリックします。
- 2 **[グリフ]** ドッキング ウィンドウで、**[フォント リスト]** ボックスから OpenType フォントを選択します。
- 3 **[文字フィルタ]** リスト ボックスを開き、**[OpenType]** 領域で、利用できる OpenType 機能のチェック ボックスのいずれかをオンにします。
- 4 次のいずれかの操作を実行します。
 - グループ化されたグリフが含まれるリストを表示するには、**[すべてのグリフを表示]** ボタン  が押されていない状態にしてください。グループ内のすべてのグリフを表示するには、文字をクリックしてから OpenType 機能インジケータをクリックします。グリフをクリックして、**[文字とグリフ]** リストに表示します。
 - すべてのグリフが含まれる展開済みのリストを表示するには、**[すべてのグリフを表示]** ボタン  をクリックします。



左: 個別の文字の下にあるグレーのインジケータには、利用できるその他のグリフが表示されています。右: [すべてのグリフを表示] ボタン (1) が押されていると、一目で利用できるグリフがわかります。



グループ化されたグリフの表示



[すべてのグリフを表示] ボタンは、OpenType 機能がサポートされていないフォントでは使用できません。

OpenType 機能によって提供されている一部のグリフは、表示されるコンテキストにより異なり、**[グリフ]** ドッキング ウィンドウで表示できません。**[インタラクティブ OpenType]** オプションを使用して、このようなグリフをドキュメント ウィンドウに表示したり挿入できます。詳しくは、次を参照してください: 458 ページの「画面上の OpenType 機能インジケータを有効にするには」。

最近使用した特殊文字のリストを使用するには

- 1 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[グリフ]** をクリックします。
- 2 最近使用した特殊文字のリストで、次の表の操作を行います。

目的

文字のフォントと OpenType 属性を表示する

作業手順

文字にポインタを合わせます。

目的

リストから文字をコピーする

リストから文字を削除する

作業手順

文字を右クリックし、**[コピー]** をクリックします。

文字を右クリックし、**[削除]** または **[すべて削除]** をクリックします。

テキストをカーニング/シフト/回転する

テキストを**カーニング**して、選択した一連テキストに含まれる個々の文字の間隔を調整できます。カーニングとは、2つの文字の位置調べて、それらの間隔を均一に調整します。例えば、カーニングは、一般に2つの文字の間隔を通常よりも狭くする場合に使用します。例えば、WA、AW、TA、VAなどに使用します。これらの2つの文字は「カーニングペア」と呼ばれます。カーニングを行うと、文字の配置がバランスよく調整されるので読みやすくなります。特に、フォントサイズが大きい場合に有効です。

文字を垂直方向または水平方向にシフトして、テキストの外観を修正できます。これにより、選択した文字の位置が、周囲の文字を基準に変化します。また、回転角度を指定して、文字を回転することもできます。

テキストをカーニングするには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウの **[カーニング範囲]** ボックスに値を入力します。

文字をシフトするには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウで矢印ボタン  をクリックして追加の文字オプションを表示します。
- 4 次の表のタスクを1つ実行します。

目的

文字を水平方向にシフトする

文字を垂直方向にシフトする

作業手順

[水平文字オフセット] ボックスに値を入力します。

[垂直文字オフセット] ボックスに値を入力します。



水平方向に正の値を指定すると文字が右に、負の値を指定すると左に移動します。垂直方向に正の値を指定すると文字が上に、負の値を指定すると下に移動します。

テキストを回転するには

- 1 **テキスト** ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウで矢印ボタン  をクリックして追加の文字オプションを表示します。
- 4 **[文字角度]** ボックスに値を入力します。

テキストを配置する

テキスト オブジェクトを水平方向に整列すると、範囲ボックスを基準としてテキストが整列されます。文字を横方向にシフトしていない場合に、左右の配置を何も指定しないと、左揃えと同じになります。

テキストの整列を修正するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 プロパティ バーの **[水平方向の配置]** ボタンをクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。
 - なし - デフォルトの整列設定を適用します。
 - 左揃え - テキスト フレームまたはアート テキストの範囲ボックスの左側にテキストを整列します。
 - 中央揃え - テキスト フレームの中央にテキストを配置します。
 - [右揃え] - テキスト フレームおよびアート テキストの範囲ボックスの右側にテキストを整列します。
 - 両端揃え - 最後の行を除いて、テキスト フレームの左側と右側にテキストを整列します。
 - 均等割付 - 最後の行も含めて、テキスト フレームの左側と右側にテキストを整列します。



また、**[テキスト]** ドッキング ウィンドウの整列ボタンをクリックして、テキストを整列することもできます。

行、文字、および単語の間隔を調整する

テキストの行の間隔 (「**行間隔**」とも呼ばれる) を変更できます。アート テキストの行間隔を変更すると、改行で区切られたテキスト 行の間隔にのみ適用されます。

テキスト ブロックの文字の間隔を変更できます。たとえば、テキスト ブロックを両端揃えすると、文字の間隔が広くなりすぎることがあり、視覚的なバランスが悪くなります。判読性を向上するために、文字の間隔を狭くできます。また、単語間の間隔を調整することもできます。

行間隔を調整するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウの **[垂直方向の間隔の単位]** リスト ボックスから次のいずれかの測定単位オプションを選択します。
 - 文字の高さの % - 文字の高さに対するパーセント値を使用できます。
 - ポイント - ポイントを使用できます。
 - % (ポイント サイズ) - 文字のポイント サイズに対するパーセント値を使用できます。
- 4 **[行間隔]** ボックスに値を入力します。

文字の間隔を調整するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]** をクリックします。
- 3 **[テキスト]** ドッキング ウィンドウの **[文字の間隔]** ボックスに値を入力します。

単語の間隔を調整するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。

- 2 [オブジェクト] ▶ [テキスト] ▶ [テキスト] をクリックします。
- 3 [テキスト] ドッキング ウィンドウの [単語の間隔] ボックスに値を入力します。

アンチエイリアス テキスト

アンチエイリアスを使用して、テキストの外観をスムーズにすることができます。アンチエイリアスは、画面上のテキスト、特に小さなフォント サイズを使用するテキストを読みやすいように改善します。デフォルトでは、イメージにテキストを追加するとアンチエイリアスを適用します。また、テキストのアンチエイリアスを削除することができます。

アンチエイリアスをテキストに適用するには

- 1 [テキスト] ツール  でテキストを選択します。
- 2 プロパティ バーの [テキストのアンチエイリアス] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ソフト - テキストの外観をソフトにします。ただし、フォントの形状はそのまま維持します。
 - ハード - 非常に明確で鮮明なテキストを作成します。

アンチエイリアスをテキストから削除するには

- 1 [テキスト] ツール  でテキストを選択します。
- 2 プロパティ バーの [テキストのアンチエイリアス] リスト ボックスから、なしを選択します。

テキストをパスに結合する

パスを作成した後、テキストをそのパスに結合して、線や図形に沿ってテキストを配置することができます。パスにテキストを結合すると、パスを基準にテキストの位置を調整することができます。たとえば、パスの内側または外側にテキストを配置したり、テキストからパスまでの距離を調整したりすることができます。

テキストをオブジェクトとしてレンダリングし、テキストをパスから独立させることができます。この場合、テキストは結合されていたパスの形状を維持します。また、パスの形状を維持せずに、パスから独立したテキストとして直線化することもできます。パスの作成について詳しくは、305 ページの「パスを作成する」を参照してください。

パスにテキストを結合するには

- 1 ツールボックスで選択ツール  をクリックします。
- 2 テキストを選択します。
- 3 [オブジェクト] ▶ [テキスト] ▶ [テキストのパス結合] をクリックします。
- 4 テキストを開始する位置で、パスをクリックします。



テキスト ツール  をクリックし、パス上のテキストを開始する位置でマウスをクリックして、テキストをパスに結合することもできます。ポインタをパス上に移動すると、ポインタの形状が変化します。これは、クリックして入力できる状態を示しています。



パスに沿ってテキストを作成することができます。

パス上のテキストの位置を調整するには

- 1 [テキスト] ツール  でテキストを選択します。
- 2 プロパティ バーで次のリスト ボックスから設定を 1 つ選択します。
 - **テキストの方向** - テキストの方向を設定します。
 - **パスと垂直に配置** - テキストの垂直方向の位置を設定します。
 - **テキストの配置** - テキストの配置を設定します。
 - **パスとの間隔** - テキストとパスの距離を設定します。
 - **オフセット** - テキストの水平方向の位置を設定します。

テキストをパスの反対側に移動する場合は、プロパティ バーの[反対側に配置]  ボタンをクリックします。



また、**選択ツール**  を使用してテキストを選択し、プロパティ バーからモードを選択し、イメージ ウィンドウで**選択ハンドル**をドラッグしてテキストを調整することもできます。

テキストをオブジェクトとしてレンダリングするには

- 1 ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。
- 2 テキストを選択します。
- 3 [オブジェクト] ▶ [テキスト] ▶ [オブジェクトとしてレンダリング] をクリックします。



編集領域としてテキストをレンダリングするには、**テキスト** ツール  を使用して**テキストオブジェクト**を選択し、プロパティ バーの [マスクの作成] ボタン  をクリックします。これにより、テキストの形をした修正可能な編集領域が作成されます。

テキストを直線化するには

- 1 ツールボックスで**選択ツール**  をクリックします。
- 2 テキストを選択します。
- 3 **[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキストの直線化]** をクリックします。

レガシー テキスト

Corel PHOTO-PAINT X5 など、以前のバージョンの Corel PHOTO-PAINT OpenType を適用する前に、従来のテキストを更新する必要があります。詳しくは、[454 ページの「OpenType の機能」](#)。を参照してください。

レガシー テキストを更新するには

- 1 レガシー テキストを含むドキュメントを開きます。
イメージ ウィンドウの上部に、**更新ツールバー**が表示されます。
- 2 **[更新]** をクリックします。
更新を元に戻すには、**更新ツールバー**の **[元に戻す]** をクリックします。ただし、更新したテキストの変更後は、このオプションは利用できません。



また、**[テキスト]** ドッキング ウィンドウの **[更新]** ボタンをクリックして、従来のテキストを更新することもできます。



フォントを管理する

Corel PHOTO-PAINT では、**フォント**を管理およびプレビューできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 469 の「**フォントを表示する**」。
- ページ 471 の「**フォントをフィルタする**」。
- ページ 472 の「**フォントを検索する**」。
- ページ 473 の「**さらに多くのフォントを取得する**」。
- ページ 474 の「**フォントを選択する**」。
- ページ 476 の「**Corel Font Manager**」。

フォントを表示する

[**フォント**] リスト ボックス内から**フォント リスト**をカスタマイズして、**フォント**を見つけやすくすることができます。例えば、[**フォント リスト**] ボックスに表示される**フォント名**の**サイズ**を変更することができます。ファミリーでグループ化された**フォント**や**フラット リスト**としてグループ化された**フォント**を表示することができます。非ラテン語**フォント**がインストールされている場合は、ラテン語またはネイティブ言語で名前を表示することができます。また、最近使用した**フォント**を**フォント リスト**の一番上に表示/非表示にし、最近使用した**フォント**の表示数を指定することもできます。

デフォルトでは、**フォント名**では対応する**フォント**が使用されますが、同じ**フォント**を使用することによってすべての**フォント名**を表示することができます。

Corel PHOTO-PAINT では、**フォント リスト** ボックスまたは描画ウィンドウの一番下にある [**プレビュー**] 領域で**フォント**をプレビューすることができます。また、太字や斜体など、使用できる**フォント**のスタイルをプレビューすることもできます。

[**フォント**] リストの領域の**サイズ**を変更するには、高さと幅を調整するか、プレビュー領域を非表示にします。

フォント リストをカスタマイズするには

- 1 ツールボックスで**テキスト** ツールをクリックし、プロパティ バーの [**フォント リスト**] ボックスを開きます。
- 2 **フォント名**の**サイズ**を変更するには、[**サイズ変更**] スライダを移動します。
- 3 [**フォントのオプション**] ボタン  をクリックし、次の表からいずれかのタスクを実行します。

目的	作業手順
ファミリーでグループ化されたフォント リストやフラット リストとしてグループ化されたフォント リストを表示する	[ファミリーでグループ化] をクリックして、コマンドを有効または無効にします。
ラテン語またはネイティブ言語で非ラテン語フォント名を表示する	[ラテン名の表示] をクリックして、コマンドを有効または無効にします。 このオプションは、キリル語フォント、アラビア語フォント、およびアジア言語フォントを使用するときに便利です。
同じフォントを使用することによってフォント名を表示する	[フォントを使用してフォント名を表示する] をクリックして、コマンドを無効にします。
最近使用したフォントの表示/非表示を切り替える	[最近使用したフォントを表示] をクリックして、コマンドを有効または無効にします。
表示する最近使用したフォントの数を指定する	[フォント リスト] [オプション] をクリックし、表示されたダイアログ ボックスの [フォント] ページで、 [表示する最近使用したフォントの数] ボックスに値を入力します。 最近使用したフォントは、20 種類まで表示できます。

フォントをプレビューするには

- 1 ツールボックスで**テキスト** ツール  をクリックします。

ドキュメント ウィンドウでフォントをプレビューする場合は、目的のテキストを選択します。

- 2 プロパティ バーの**[フォント リスト]** ボックスをクリックします。

指定されたフォントでフォント名が表示されます。

特定のフォントが適用された選択テキストをプレビューするには、**[フォント リスト]** ボックス内のフォント名にマウス ポインタを合わせます。



シンボル フォントの名前は、デフォルトのユーザー インタフェース フォントで表示されます。シンボル フォント名の右側とプレビュー領域にシンボル フォントのサンプルが表示されます。



太字や斜体など、他のスタイルを持つフォントの場合は、フォント名の横にあるフライアウト矢印  をポイントして、フォントのスタイルをプレビューできます。

[フォント] リストの領域のサイズを変更するには

- 1 ツールボックスで**テキスト** ツールをクリックし、プロパティ バーの **[フォント]** リスト ボックスを開きます。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - プレビュー領域を非表示にするには、**[プレビューを非表示]** ボタン  をクリックします。
 - **[フォント]** リスト領域の幅を調整するには、垂直グラブ領域 (右端) にマウス カーソルを置き、2 方向矢印が表示されるまでドラッグします。

- 高さを調整するには、水平グラブ領域 (**[サイズ変更]** スライダの下) にマウス カーソルを置き、2 方向矢印が表示されるまでドラッグします。

フォントをフィルタする

フィルタを使用すると、特定の要件に合ったフォントのみを表示することができます。たとえば、ドキュメントで使用されているフォントだけ、あるいはシンボル フォントのみを表示することができます。フォント テクノロジー、ウェイト、幅、スタイル、サポートされている言語、OpenType 機能などに基づいてフォントをフィルタすることができます。また、1 つあるいは複数のフィルタを同時に適用することができます。

次の表に、使用できるフォント フィルタ カテゴリおよびフィルタを示します。

フォント フィルタ カテゴリ

説明

ドキュメントのフォント

ドキュメントで使用されているフォントのみを表示できます。

フォント ステータス

インストール済み、未インストール、保護されたシステム フォントなどのフォントのステータスに基づいてフォントをフィルタします。

埋め込み権限

フォントの埋め込み、インストール、プレビューの可否などの埋め込み権限に基づいて、フォントにフィルタを適用できます。使用できるフィルタは、編集可能、インストール可能、埋め込みなし、印刷プレビューです。

特定の権限を持つフォントがない場合、対応するフィルタは表示されません。たとえば、どのフォントもドキュメントに埋め込める場合、**[埋め込みなし]** フィルタは表示されません。

フォント テクノロジー

[OpenType - TrueType]、[OpenType - PostScript]、[TrueType]、[Type 1]、可変フォント (OpenType フォントバージョン) など、フォント テクノロジーに基づいてフォントをフィルタできます。

お使いのコンピュータで使用できないテクノロジーを使用したフォントは、フィルタのリストに表示されません。

ウェイト

[細字]、[標準]、[太字] など、ウェイトに基づいてフォントを表示できます。

[幅]

[狭い]、[標準]、[広い] など、幅に基づいてフォントを表示できます。

スタイル

[Decorative]、[Display]、[Monospaced]、[Sans Serif]、[Script]、[Serif]、[Symbol] など、スタイルに基づいてフォントを表示できます。

文字範囲

言語またはスクリプトに基づいてフォントをフィルタできます。このグループのフィルタには、[アラビア語]、[中国語 簡体字]、[中国語 繁体字]、[キリル]、[デバナージャリ]、[ギリ

フォント フィルタ カテゴリ

説明

シャ]、[ヘブライ語]、[日本語]、[韓国語]、[ラテン]、[トルコ語] があります。

OpenType

[大文字の間隔]、[大文字と小文字を区別するフォーム] など、特定の OpenType 機能を持つフォントを表示できます。

フォントをフィルタするには

- 1 ツールボックスで**テキスト** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[フォント]** リスト ボックスを開き、**[フィルタの表示]** ボタン  をクリックします。
- 3 いずれかのフィルタ チェック ボックスをオンにします。

可能な操作

すべてのフィルタを消去する

[フィルタの消去] をクリックします。

フィルタ リストを閉じる

[フィルタを非表示] ボタン  をクリックします。



フィルタできるのは、コンピュータにインストールされているフォントだけです。

フォントを検索する

[フォント リスト] ボックスでは、キーワードを使用してローカル フォントを検索できます。キーワードには、フォント名やフォント テクノロジーなど、フォントに含まれるメタデータを使用できます。

フォント名または別のキーワードを入力し始めると、関連するフォントのリストが表示されます。このリストは、入力すると自動的に更新されます。検索を絞り込むために、2 つ以上のキーワードを入力できます。たとえば、使用可能な太字の Arial フォントをすべて検索するには、**[フォント]** リスト ボックスに「**Arial bold**」と入力します。

キーワードを使用してフォントを検索するには

- 1 ツールボックスで**テキスト** ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで **[フォント]** リスト ボックスを開き、フォント名やフォント テクノロジーなどのキーワードを入力します。
- 3 検索を絞り込むには、最初のキーワードを入力した後、スペース バーを押し、もう 1 つのキーワードを入力します。



次の表に、カテゴリ別にまとめた使用可能な検索キーワードを示します。

カテゴリ

キーワード

ドキュメントのフォント

ドキュメントのフォント

フォント テクノロジー

OpenType - TrueType、OpenType - PostScript、TrueType、Type 1

カテゴリ

キーワード

ウェイト

超極細、極細、細字、標準、中、中太、太字、極太、超極太

[幅]

極めて狭い、より狭い、狭い、やや狭い、標準、やや広い、広い、より広い、極めて広い

スタイル

Decorative、Display、Monospaced、Sans
Serif、Script、Serif、Symbol

文字範囲

アラビア語、アルメニア、中国語 簡体字、中国語 繁体字、コプト語、キリル、デバナージャリ、ディベヒ語、グルジア、ギリシャ、グジャラート、ヘブライ語、平仮名、日本語、カナラ、片仮名、韓国語、ラテン、ロシア語、シリア語、タミル、テルグ、タイ、トルコ語、ベトナム語

製造元

Ale/Paul、Bitstream、Cultivated/
Mind、DynaComware、Font
Fabric、Fontlab、Fontographer、ITC、Linotype、Mark
Simonson、Monotype、Typodermic、RW++

埋め込み権限

編集可能、インストール可能、埋め込みなし、印刷レビュー、制限あり

OpenType

すべて小型大文字、注記の代替字形、代替半角、縦書き半角の代替メトリックス、縦書き用の代替メトリックス、代替分数、大文字間隔、大文字と小文字を区別するフォーム、中央配置CJK句読点、文字バリエーション、コンテキスト代替、コンテキスト合字、分母、随意合字、エキスパート字形、小数、半角、歴史的字形、歴史的合字、補助漢字字形、横書きかなの代替、JIS2004 字形、JIS78 字形、JIS83 字形、JIS90 字形、カーニング、ライニング数字、ローカル字形、NLC 漢字、分子、序数、飾り文字、プロポーショナルかな、プロポーショナルライニング、プロポーショナル オールドスタイル、プロポーショナル幅、1/4 角、科学式の下付き文字、簡体字形、スラッシュ ゼロ、スモール キャップ、大文字から小型大文字へ、標準合字、スタイル代替字形、スタイル セット、下付き文字、上付き文字、スワッシュ字形の変形、表形式、表形式オールドスタイル、1/3 角、タイトル、繁体字形、人名漢字表許容字形、縦書きの代替字形と回転

さらに多くのフォントを取得する

Corel PHOTO-PAINT および Corel Font Manager の **[フォント リスト]** ボックス内からその他のフォントをダウンロードできます。これらのフォントは、通常、フォント パックにグループ化されます。フォント パックには、無料のものと有料のものがあります。フォント パックやそれらの含まれるフォント情報へのアクセスや、フォント サンプルの確認を行うことができます。

フォントの保存先となるデフォルトの場所は変更できます。詳しくは、[118 ページの「コンテンツの場所を変更する」](#)。を参照してください。

フォント パックを取得するには

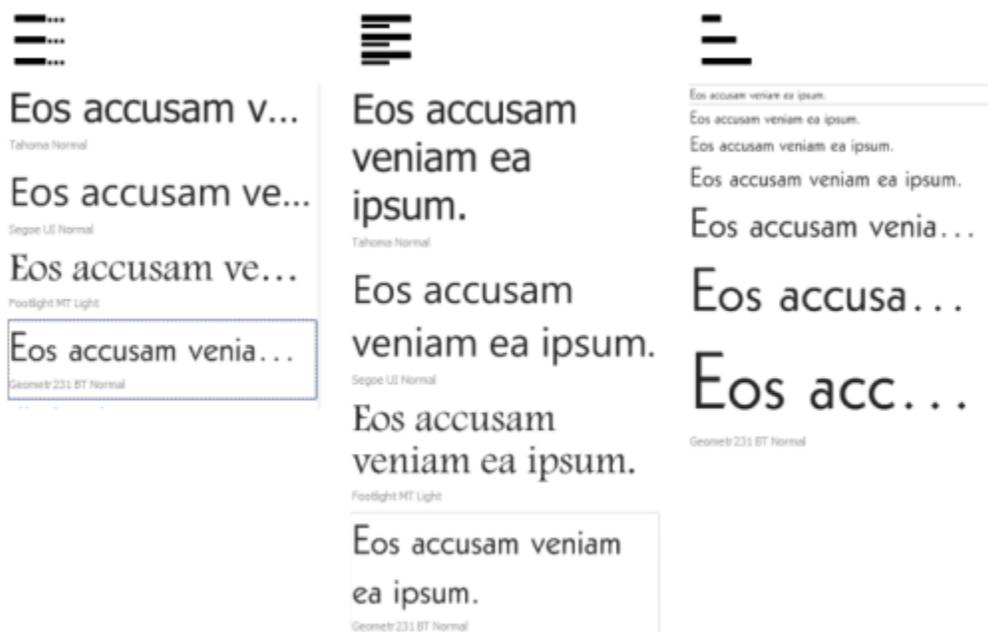
- 1 ツールボックスで**テキスト** ツール **A** をクリックします。
- 2 プロパティ バーの **[フォント]** リスト ボックスを開きます。
- 3 **[追加]** ボタン  をクリックします。
- 4 **[追加]** ダイアログ ボックスで、フォント パックをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を実行します。
 - **[購入]** をクリックし、画面の説明に従って、フォント パックを購入します。
 - フォント パックが無料の場合は、**[ダウンロード]** をクリックします。ダウンロードしたフォント パックは、**[フォント リスト]** ボックスに表示されます。また、**[マイ コレクション]** の下にある **[フィルタ]** リストにも表示されます。

フォントを選択する

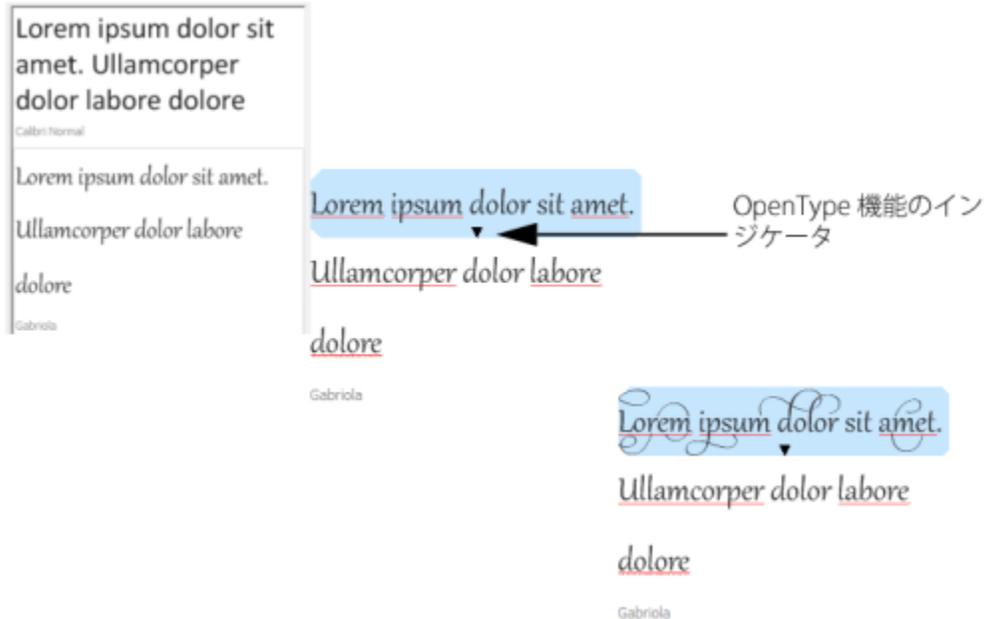
フォント サンプラーでは、同じサンプル テキストにさまざまなフォントやサイズを適用して表示し、プロジェクトに最適なフォントを選択できます。

プリセットのサンプル テキストのプレビューや、テキストの入力、貼り付けも可能です。また、サンプル テキストを単一行または複数行で表示したり、1 行ごとにフォント サイズを大きくして表示することもできます。

サンプル テキストに OpenType フォントが指定されている場合は、使用可能な OpenType 機能を表示して、その機能をサンプル テキストに適用することができます。



(左から右へ)単一行、複数行、滝



サンプルテキストに OpenType フォントが指定されている場合は、テキストを選択して OpenType 機能のインジケータを表示し、OpenType 機能を適用することができます。この例では、選択したテキストにスタイルセットを適用しています。

サンプルテキストをコンテキスト内で表示するには、そのテキストを描画ウィンドウ内の任意の場所に貼り付けます。

フォント サンプラーでフォントをプレビューするには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [フォント サンプラー] をクリックします。
- 2 サンプルのフォントを変更するには、サンプルをクリックして、[フォント リスト] ボックスからフォントを選択します。
サンプル全体のテキストを変更する場合は、サンプルをダブルクリックして、**Ctrl+A** キーを押し、テキストが選択された状態で新しいテキストを入力します。
- 3 表示オプションを選択するには、次のボタンのいずれかをクリックします。
 - 単一行  - サンプル テキストを単一行で表示します。
 - 複数行  - サンプル テキストを複数行で表示します。
 - 滝  - 選択したサンプル テキストをサイズが増加する単一行で表示します。
- 4 サンプル テキストのサイズを変更するには、**ズーム** スライダを調整します。
プリセットの増分でテキスト サイズを変更する場合は、[ズーム] スライダの横にある [ズーム] ボタンをクリックします。

可能な操作

サンプル テキストを追加する

ドキュメント内にサンプル テキストを貼り付ける

サンプル テキストをクリックして、[コピー] をクリックします。テキスト ツール  を使用して、サンプル テキストを配置したい場所をし、[貼り付け] をクリックします。

また、ドキュメント ウィンドウにサンプル テキストをドラッグすることもできます。

可能な操作

サンプル テキストを削除する

サンプル テキスト内にテキストを貼り付ける

サンプル テキストをクリックして、**Ctrl+V** キーを押します。

サンプル テキストの順番を変更する

リスト内の目的の位置にサンプル テキストをドラッグします。

Corel Font Manager

Corel Font Manager は、CorelDRAW Graphics Suite に含まれているスタンドアロンのフォント管理アプリケーションです。Corel Font Manager を使用すると、タイポグラフィ ワークフローのあらゆる面を管理できるツールを使用して、書体やフォント コレクションを簡単に操作、整理、確認できます。ローカル フォントの検索やプレビュー、フォントのインストールとアンインストール、不要になったフォントの削除を行うことができます。詳しくは、Corel Font Manager のヘルプを参照してください。

Corel Font Manager を起動するには

- 標準ツールバーの **[アプリケーションの起動]** ボタンをクリックし、Corel Font Manager をクリックします。

Corel Font Manager ヘルプにアクセスするには

- Corel Font Manager で、タイトル バーの **[ヘルプ]** ボタンをクリックします。



異なる言語のテキスト

Corel PHOTO-PAINT では、異なる言語でテキストを操作できます。たとえば、アジア言語のオペレーティング システムを使用している場合は、Corel PHOTO-PAINT に用意されているテキストのフォーマット設定機能を利用することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 477 の「エンコード設定を修正する」。
- ページ 478 の「アジア系および中東系言語テキスト」。
- ページ 479 の「アジア言語テキストに対する OpenType のサポート」。

エンコード設定を修正する

Corel PHOTO-PAINT では、ドキュメントに追加されたテキストはすべて Unicode でエンコードされ、Unicode がテキストの文字セットを決定します。テキストを含むイメージを開くときやインポートするときには、Corel PHOTO-PAINT により、ファイルで使用されているエンコード システムが Unicode に変換されます。たとえば、特定のコード ページ (949 ANSI/OEM - 韓国語など) を使用する 8 ビット ANSI テキストが含まれている古いドキュメントを Corel PHOTO-PAINT にインポートすると、コード ページ 949 は Unicode に変換されます。ただし、コード ページが指定されていない場合、イメージを開くときに Corel PHOTO-PAINT がデフォルトのコード ページを使用するので、一部のテキストが正確に表示されないことがあります。テキストを正しく表示するには、影響を受けたテキストを選択し、適切なコード ページを使用して Unicode に再変換します。

エンコード設定は、オブジェクトやオブジェクト データ マネージャのドッキング ウィンドウにあるキーワード、ファイル名、テキスト エントリなど、描画ウィンドウ外に表示されるテキストには影響しません。これらのテキストに正しい文字を設定するには、[開く] ダイアログ ボックスまたは [インポート] ダイアログ ボックスのコード ページ設定を使用する必要があります。コード ページ設定の使用について詳しくは、73 ページの「イメージを開く」を参照してください。

テキストを任意の言語で正しく表示するには

- 1 テキストを選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [テキスト] ▶ [エンコード] をクリックします。
- 3 [テキストのエンコード] ダイアログ ボックスで、[その他のエンコード] オプションを選択します。
- 4 [その他のエンコーディング] リスト ボックスから、テキストを判読可能にするエンコード設定を選択します。

プレビュー ウィンドウに、現在のエンコード設定でテキストが表示されます。

アジア系および中東系言語テキスト

アジア言語テキストまたは中東言語テキストをサポートするオペレーティング システムを使用している場合、または IME がある場合は、これらのテキストを入力できます。また、アジア言語テキストおよび中東言語テキストのフォントのプロパティを変更することもできます。変更内容をアジア言語テキストおよび中東言語テキストに制限するには、適切なスクリプトの種類を選択します。たとえば、英語のテキストと日本語のテキストを持つドキュメントで日本語テキストのフォント サイズを変更するには、アジア言語のスクリプトの種類を選択し、目的の変更を行います。これは、日本語テキストにのみ新しいフォント サイズを適用します。英語テキストのサイズは影響を受けません。

また、1 つのテキスト オブジェクト内に日本語テキストと欧文テキストを混在させることができ、2 種類の単語の間隔を設定することができます。たとえば、1 つのテキスト オブジェクト内に表示される日本語テキストと英語テキストとの間隔を指定できます。アジア言語のオペレーティング システム、またはアジア言語に対応しているオペレーティング システムを使用している場合は、テキストの方向を変更することもできます。

テキストのフォントのプロパティと言語を変更するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 [オブジェクト] ▶ [テキスト] ▶ [テキスト] をクリックします。
- 3 [テキスト] ドッキング ウィンドウで、フォント属性を指定します。
- 4 [オプション] ボタン  をクリックし、次のいずれかを選択します。

- あらゆるスクリプト
- [ラテン系]
- [アジア系]
- [中東系]

欧文テキストとアジア言語テキストの間隔を指定するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、欧文とアジア言語を組み合わせたテキストを選択します。
- 2 [テキスト] ドッキング ウィンドウの [言語間隔] ボックスに値を入力します。



[言語間隔] の値は、標準の単語間隔に対する割合 (%) で指定します。たとえば、スペース文字 2 文字分に指定する場合は、「200」と入力します。

アジア言語テキストの方向を変更するには

- 1 テキスト ツール  を使用して、テキストを選択します。
- 2 プロパティ バーで、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 垂直方向に整列  - 選択したテキストの方向を縦書きに変更します。
 - 水平方向に整列  - 選択したテキストの方向を横書きに変更します。



テキスト オブジェクトには 1 つの方向しか設定できません。入力中にテキストの方向を変更すると、テキスト オブジェクト全体の方向が変更されます。

アジア言語テキストのデフォルトの方向は水平方向です。

アジア言語テキストに対する OpenType のサポート

先進の OpenType タイポグラフィ機能をアジア言語テキストに適用できます。OpenType 機能には、**[テキスト]** ドッキング ウィンドウ (**[オブジェクト]** ▶ **[テキスト]** ▶ **[テキスト]**) からアクセスできます。次の表に、アジア言語テキストに使用できる OpenType の機能 (機能がフォントに含まれている場合) を示します。

OpenType の機能	説明
アジア言語の文字幅	グリフの配置や置換により幅を変更します。 CJK 句読点の中央揃え機能は、句読点を上下左右の中央に配置します。
アジア言語の字形	選択した文字を別のグリフの字形に置換します。字形を組み合わせることはできません。
アジア言語の縦書きメトリックス	縦書き用代替メトリックス機能は、高さが短い文字を、高さが最大の文字を基準にして上下中央に配置します。この機能は、幅が最大の欧文グリフにも適用されます。 縦書き半角の代替メトリックス機能は、文字を、高さが 1/2 の文字を基準にして上下中央に配置します。
横書きかなの代替	標準かなのグリフを横書きかなのグリフに置換します。
縦書きかなの代替	標準かなのグリフを縦書きかなのグリフに置換します。
縦書きの代替字形と回転	文字を縦書きテキストに適する字形に置換し、多くの場合 90 度回転します。
注記の代替字形	選択した文字に、注記の字形を適用します。この OpenType 機能は、欧文テキストとアジア言語テキストの両方に適用されます。

OpenType 機能の操作について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- [454 ページの「OpenType の機能」](#)
- [457 ページの「OpenType の機能をテキストに適用するには」](#)

Web イメージとムービー

ムービーを作成/編集する.....	483
Web 用のイメージを作成する.....	491



ムービーを作成/編集する

Corel PHOTO-PAINT ではムービーを作成できます。ムービーは、フレームと呼ばれるイメージの連なりです。連続するフレームの中でオブジェクトの位置を変化させると、オブジェクトが動いているように見えます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 483 の「ムービーを開く/再生する」。
- ページ 484 の「ムービーを作成する」。
- ページ 486 の「フレーム順と表示時間を変更する」。
- ページ 489 の「ムービーを保存する」。

ムービーを開く/再生する

ムービーの全体または一部を開くことができます。ムービーの一部を開いて再生する場合は、コンピュータが一度に処理するデータが少ないので、早く実行できます。

ムービーのコントロールでは、ムービーの再生、先頭のフレームまでの巻き戻し、最後のフレームまでの早送り、または任意のフレームでの停止を行うことができます。また、1 フレームずつ前後にコマ送りすることもできます。

ムービーを開くには

- 1 [ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ムービーが保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をクリックします。
- 4 [キャンセル] ボタンの横のリスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [部分的にロード]
 - [開く]
 - [リサンプルしてロード]
 - [切り抜いてロード]

[部分的にロード] を選択した場合は、[ムービーを部分的にロード] ダイアログ ボックスで [開始] および [終了] ボックスに値を入力して、開きたいフレーム範囲を指定します。

ムービーの再生コントロールを使用するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。

2 次の表からいずれかの作業を実行します。

目的	次のいずれかの操作を実行します
ムービーを再生する	[再生] ボタン  をクリックします。
ムービーを停止する	[停止] ボタン  をクリックします。
ムービーの先頭へ戻る	[最初のフレーム] ボタン  をクリックします。
1 フレーム進める	[次のフレーム] ボタン  をクリックします。
1 フレーム戻る	[前のフレーム] ボタン  をクリックします。



[ムービー] ドッキング ウィンドウでフレームのサムネールをダブルクリックして、特定のフレームへ移動することもできます。

ムービーを作成する

ムービーは、バックグラウンドと、フォアグラウンドのオブジェクトで構成されます。



ムービーは、フレームと呼ばれる一連のイメージで構成されます。主な要素は、バックグラウンドと可動オブジェクトです。バックグラウンドは、ムービーの最初のフレームです。

バックグラウンドを作成する

ムービーのバックグラウンドを作成する場合は、バックグラウンドのカラー、サイズ、解像度、カラーモードを選択できます。既存のイメージを利用してムービーのバックグラウンドを作成することもできます。このバックグラウンド イメージが、新規ムービー

ファイルの唯一のフレームになります。既存のイメージをバックグラウンドとして使用して、フレームを追加することができます。フレームの追加について詳しくは、[487 ページの「ムービーにフレームを挿入するには」](#)を参照してください。

可動オブジェクトを作成する

ムービーでは、オブジェクトをフレーム間で少しずつ移動させてアニメーション化することができます。オブジェクトは、バックグラウンドと結合して現在のフレームに組み込むまでは、各フレームに表示されます。オブジェクトの作成と結合について詳しくは、[411 ページの「オブジェクトを操作する」](#)を参照してください。

複数のフレームを同時に表示して、オブジェクトを別のフレームに配置することができます。隣接するフレームが現在のフレームに重ねて表示されるので、前後のフレームを基準に可動オブジェクトを配置できます。

ムービーのバックグラウンドを作成するには

- 1 [ファイル] ▶ [新規作成] をクリックします。
- 2 [カラー モード] リスト ボックスからカラー モードを選択します。
- 3 [バックグラウンド カラー] ピッカーを開き、バックグラウンド カラーをクリックします。
- 4 [サイズ] リスト ボックスからフレーム サイズを選択します。
別の単位を使用するには、[幅] ボックスの横にあるリスト ボックスからオプションを選択します。
- 5 [解像度] リスト ボックスから値を選択します。
- 6 [フレーム数] ボックスに 1~1,000 の値を入力して、ムービーのフレーム数を指定します。



Web ページ用のアニメーション GIF を作成するには、[カラー モード] リスト ボックスで [8 ビットパレット] カラー モードを選択します。これにより、ダウンロードするファイル サイズが小さくなります。[パレット カラー モードについて詳しくは、221 ページの「カラー モードを変更する」](#)を参照してください。

カラー モニタで表示できる最大解像度は 96 dpi です。dpi 値を大きくすると、再生時のパフォーマンスが低下します。

既存のイメージを使用してムービーのバックグラウンドを作成するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 2 [ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 3 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 4 ファイル名をダブルクリックします。
- 5 ムービー ツールバーで [ムービーの作成] ボタンをクリックします。
選択したイメージが、最初のフレームのバックグラウンドになります。

既存のイメージをバックグラウンドとして使用してフレームを追加するには

- 1 [ムービー] ドッキング ウィンドウで、バックグラウンドを追加するフレームの 1 つ前のフレームのサムネールをダブルクリックします。
[ムービー] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] } [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 2 [ムービー] ドッキング ウィンドウで、[ファイルから挿入] ボタン  をクリックします。
- 3 イメージ ファイル名をダブルクリックします。
- 4 [ファイルの挿入] ダイアログ ボックスで、[後に] オプションを有効にします。

可動オブジェクトを作成するには

- 1 選択ツール  でオブジェクトを選択します。
- 2 [編集] ▶ [コピー] をクリックします。

- 3 [オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [選択オブジェクトのバックグラウンド結合] をクリックします。
- 4 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 5 [ムービー] ドッキング ウィンドウで、[次のフレーム] ボタン  をクリックします。
フレームを追加する場合は、[ムービー] ドッキング ウィンドウで [フレームの挿入] ボタン  をクリックします。
- 6 [編集] ▶ [貼り付け] をクリックします。
- 7 現在のフレームにオブジェクトを配置します。
- 8 [オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [選択オブジェクトのバックグラウンド結合] をクリックします。



隣接するフレームに現在のフレームを重ねると、現在のフレームにオブジェクトを正確に配置することができます。隣接フレームは半透明に表示されます。

他のフレームを基準に可動オブジェクトを配置するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 2 [ムービー] ドッキング ウィンドウの [オーバーレイ] チェック ボックスをオンにします。
- 3 赤い [フレームのオーバーレイ] スライダを調整して、表示するフレームを指定します。
- 4 [オーバーレイ] スライダを調整して、重ねて表示されるオブジェクトの不透明度を変更します。
- 5 選択ツール  で現在のフレーム内のオブジェクトを選択します。
- 6 現在のフレームにオブジェクトを配置します。
- 7 [オブジェクト] ▶ [結合] ▶ [選択オブジェクトのバックグラウンド結合] をクリックします。



赤い [フレーム オーバーレイ] スライドの位置を変更するには、スライダの移動先となるフレームのサムネイルをダブルクリックします。

フレーム順と表示時間を変更する

フレームの順序を変更したりカスタマイズしたりして、ムービーを編集できます。空白のフレームやムービー ファイルを挿入できます。また、フレームやムービー全体を移動したり、イメージ ファイルを移動したりすることもできます。フレームを削除してムービーの再生時間を短くすることもできます。

表示時間によって、各フレームが画面に表示される時間の長さが決まります。表示時間を変更すると、可動オブジェクトの移動速度を調整することができます。表示時間は、個々のフレームまたは複数のフレームに対して設定できます。

ムービー フレーム順を変更するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 2 [ムービー] ドッキング ウィンドウ ボックスで、フレームをリストの別の位置へドラッグします。



[ムービー] ドッキング ウィンドウで、サムネールが赤い枠で囲まれているフレームはアクティブなフレームです。このフレームが、イメージ ウィンドウに表示されます。アクティブなフレームは編集できます。一度にアクティブにできるフレームは 1 つだけです。

選択したフレームは、青でハイライト表示されます。選択したフレームには、移動、削除、表示時間変更を行うことができます。同時に複数のフレームを選択することが可能です。



[ムービー] ツールバーの [フレームの移動] ボタンをクリックして、ムービーのフレーム順を変更することもできます。

ムービーにフレームを挿入するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。
- 2 [ムービー] ドッキング ウィンドウで、[フレームの挿入] ボタン  をクリックします。
- 3 [挿入] ボックスに値を入力して、追加するフレーム数を指定します。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [前に] – [フレーム] ボックスに指定したフレームの直前に挿入します
 - [後に] – [フレーム] ボックスに指定したフレームの直後に挿入します
- 5 [フレーム] ボックスに値を入力して、新規フレームの挿入位置を指定します。
- 6 次のいずれかのオプションを選択します。
 - [現行フレームのコピー] – 現在のフレームのコピーを使用してフレームを挿入します
 - [バックグラウンド カラーの使用] – 現在のバックグラウンド カラーを使用して空白のフレームを挿入します



部分的にロードしたムービーにフレームを挿入する場合は、[ムービー] ドッキング ウィンドウを使用して、新しいフレームを配置する場所を決定します。[ムービー] ドッキング ウィンドウには、ムービー全体からの実際のフレーム番号が表示されます。イメージ ウィンドウの下部にあるムービーのステータス バーには、フレーム番号ではなく、部分的にロードされたムービーの合計フレーム数だけが表示されます。

[ムービー] ドッキング ウィンドウで、サムネールが赤い枠で囲まれているフレームはアクティブなフレームです。このフレームが、イメージ ウィンドウに表示されます。アクティブなフレームは編集できます。一度にアクティブにできるフレームは 1 つだけです。

選択したフレームは、青でハイライト表示されます。選択したフレームには、移動、削除、表示時間変更を行うことができます。同時に複数のフレームを選択することが可能です。

一度に 100 個までのフレームをムービーに挿入できます。



[ムービー] ツールバーの [フレームの挿入] ボタン  をクリックして、ムービーにフレームを挿入することもできます。

ムービーにファイルを挿入するには

- 1 [ムービー] ドッキング ウィンドウで、[ファイルから挿入] ボタン  をクリックします。

[ムービー] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、[ウィンドウ] } [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ムービー] をクリックします。

- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をクリックします。
- 4 **[開く]** をクリックします。
- 5 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **[前に]** - **[フレーム]** ボックスに指定したフレームの直前にファイルを挿入します
 - **[後に]** - **[フレーム]** ボックスに指定したフレームの直後にファイルを挿入します
- 6 **[フレーム]** ボックスに値を入力し、ムービーにファイルを挿入する位置を指定します。



現在のムービーと挿入されるファイルのサイズが異なる場合は、挿入されるファイルが現在のムービーのイメージ寸法に合わせて変更されます。

[ムービー] ドッキング ウィンドウで、サムネイルが赤い枠で囲まれているフレームはアクティブなフレームです。このフレームが、イメージ ウィンドウに表示されます。アクティブなフレームは編集できます。一度にアクティブにできるフレームは 1 つだけです。

選択したフレームは、青でハイライト表示されます。選択したフレームには、移動、削除、表示時間変更を行うことができます。同時に複数のフレームを選択することが可能です。



[ウィンドウ] ▶ **[ツールバー]** ▶ **[ムービー]** をクリックし、**[ファイルから挿入]** ボタン  をクリックして、ムービーにファイルを挿入することもできます。

ムービーからフレームを削除するには

- 1 **[ムービー]** ドッキング ウィンドウで、削除するフレームのサムネイルをクリックします。
[ムービー] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** } **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[ムービー]** をクリックします。
- 2 **[ムービー]** ドッキング ウィンドウで、**[フレームの削除]** ボタン  をクリックします。



[ムービー] ドッキング ウィンドウで、サムネイルが赤い枠で囲まれているフレームはアクティブなフレームです。このフレームが、イメージ ウィンドウに表示されます。アクティブなフレームは編集できます。一度にアクティブにできるフレームは 1 つだけです。

選択したフレームは、青でハイライト表示されます。選択したフレームには、移動、削除、表示時間変更を行うことができます。同時に複数のフレームを選択することが可能です。



削除するフレームへ移動し、**[ムービー]** ツールバーで **[フレームの削除]** ボタン  をクリックして、フレームを削除することもできます。**[ムービー]** ツールバーが開いていない場合は、**[ウィンドウ]** ▶ **[ツールバー]** ▶ **[ムービー]** をクリックします。

フレームの表示時間を変更するには

- 1 **[ウィンドウ]** ▶ **[ドッキング ウィンドウ]** ▶ **[ムービー]** をクリックします。
- 2 **[ムービー]** ドッキング ウィンドウでフレームのサムネイルをクリックします。
- 3 サムネイルの横にある **[フレームの遅延]** ボックスに値を入力します。
フレームの表示時間の変更結果を確認するには、**[再生]** ボタン  をクリックします。



[ムービー] ドッキング ウィンドウで、サムネールが赤い枠で囲まれているフレームはアクティブなフレームです。このフレームが、イメージ ウィンドウに表示されます。アクティブなフレームは編集できます。一度にアクティブにできるフレームは 1 つだけです。

選択したフレームは、青でハイライト表示されます。選択したフレームには、移動、削除、表示時間変更を行うことができます。同時に複数のフレームを選択することが可能です。

ムービーを保存する

ムービーは、バックグラウンドやオブジェクトを追加する前でも追加した後も保存できますが、アニメーション GIF または AVI 形式でムービーを保存すると、オブジェクトが各フレームでバックグラウンドと自動的に結合されるので、編集できなくなります。

Web ページでムービーを使用する場合は、アニメーション GIF ファイル形式で保存します。この形式で保存するムービーは、256 色で構成される 8 ビットパレットに変換する必要があります。24 ビット イメージを 8 ビットパレット カラー モードに変換する方法について詳しくは、223 ページの「モノクロ カラー モード」を参照してください。

ムービーをアニメーション GIF 形式で保存する際には、カラーを透明にして、Web ページの背景が透けて見えるようにすることができます。また、ムービーの再生回数を指定することもできます。

ムービーを保存するには

- 1 [ファイル] ▶ [名前を付けて保存] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- 4 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

ムービーをアニメーション GIF として保存するには

- 1 [ファイル] ▶ [名前を付けて保存] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [ファイルの種類] リスト ボックスから [GIF - GIF アニメーション] を選択し、[保存] をクリックします。
- 5 [パレットに変換] ダイアログ ボックスで、必要な設定を変更し、[OK] をクリックします。
- 6 [GIF 89 アニメーション オプション] ダイアログ ボックスで、[フレーム設定] タブをクリックします。
- 7 [パレット] 領域で次のオプションのいずれかをオンにします。
 - [グローバルの使用] — すべてのフレームで同じカラーパレットを使用します。
 - [ローカルに使用] — フレームごとに異なるカラーパレットを使用します。
- 8 [フレーム遅延] ボックスに値を入力し、フレーム間の時間間隔を指定します。
- 9 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - [変更箇所のみ適用] — 変更されたフレーム設定のみ適用します。
 - [すべて適用] — すべてのフレーム設定を適用します。

可能な操作

ムービーで透明にするカラーを選択する

[イメージ カラー] オプションをオンにし、[カラーの選択] をクリックします。[カラーの選択] ダイアログ ボックスで目的のカラーを選択して、[OK] をクリックします。

可能な操作

フレームをロードするたびにイメージを更新する

[インターレース (行)] チェック ボックスをオンにします。

フレームをオフセットするピクセル数を指定する

[X] ボックスと **[Y]** ボックスに、現在のフレームをページ左上隅からオフセットする値を入力します。**[dX]** および **[dY]** ボックスに、連続する各フレームを前のフレームからオフセットする値を入力します。

表示後のフレームを消去する方法を指定する

[処理方法] リスト ボックスからオプションを選択します。透明なバックグラウンドを作成するには、**[バックグラウンドと置き換え]** を選択します。

アニメーションを繰り返し再生する

[ファイル設定] タブをクリックし、**[フレームのループ]** チェック ボックスをオンにし、**[フレーム回]** 領域でいずれかのオプションを有効にします。

ページ サイズを指定する

[自動] チェック ボックスをオンにするか、**[幅]** ボックスと **[高さ]** ボックスに値を入力してバックグラウンド サイズを手動で設定します。

最初のフレームと異なるピクセルのみ保存する

[フレーム間の相違のみ保存] チェック ボックスをオンにします。



変更は、選択したフレームにのみ適用されます。変更をすべてのフレームに適用するには、左側のウィンドウですべてのフレームを選択します。

ムービーをアニメーション GIF として保存すると、オブジェクトは各フレームのバックグラウンドと自動的に結合されます。このため、オブジェクトをイメージから切り離して編集することができなくなります。



Web 用のイメージを作成する

Corel PHOTO-PAINT には、Web 用のイメージの作成に必要なツールが用意されています。

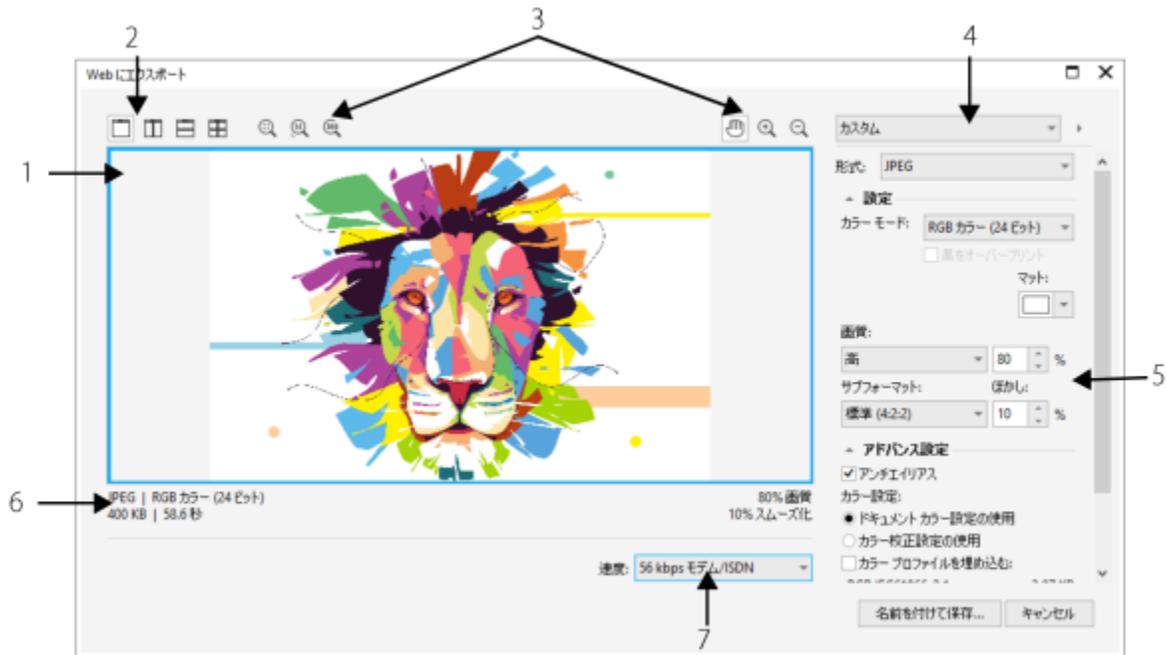
このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 491 の「Web 用のイメージをエクスポートする」。
- ページ 497 の「ビットマップをエクスポートして WordPress にアップロードする」。
- ページ 498 の「Web プリセットの保存と適用」。
- ページ 498 の「透明なカラーとバックグラウンドのパレット ベースのイメージを作成する」。
- ページ 499 の「イメージをスライスする」。
- ページ 502 の「ロールオーバーを作成/編集する」。
- ページ 506 の「イメージを電子メールで送信する」。

Web 用のイメージをエクスポートする

Corel PHOTO-PAINT では、次の Web 対応ファイル形式をエクスポートできます: GIF、PNG、および JPEG。

エクスポート オプションを指定すると、設定を最大 4 つまで使用して、イメージをプレビューできます。ファイル形式、プリセット設定、ダウンロード速度、圧縮、ファイル サイズ、画質、およびカラー範囲の比較も可能です。また、プレビュー ウィンドウ内でズームとスクロールを行うことで、プレビューを詳しく調べることができます。



アートワーク: Indra Risky

コンポーネント

1.プレビュー ウィンドウ

2.プレビュー モード

3.ズーム/スクロールのツール

4.プリセット リスト ボックス

5.エクスポート設定

6.形式情報

7.速度リスト ボックス

説明

ドキュメントのプレビューを表示します。

単一または分割フレームでの調整をプレビューできます。

プレビュー ウィンドウに表示されたイメージの内外をズームし、100% 以上のズーム レベルで表示されたイメージをスクロールして、イメージをプレビュー ウィンドウに合わせることができます。

ファイル形式のプリセット設定を選択できます。

カラー、表示オプション、サイズなどのエクスポート設定をカスタマイズできます。

ファイル形式情報を表示して、各プレビュー フレームに使用できます。

ファイルを保存するためのインターネットの速度を選択できます。

プリセット設定を使用して Web 対応ファイルをエクスポートできます。これにより、ここの設定を変更することなくファイルを最適化できます。また、特定の結果を生み出すために、設定をカスタマイズすることもできます。たとえば、カラー、表示画質、ファイルサイズなどを調整できます。

Web 対応ファイル形式を選択する

このテーブルは、Web 対応ファイル形式を選択するためのクイック リファレンスとなります。

ファイル形式	最適な
GIF	<p>スキャナで取り込んだモノクロ イメージなど、線画、テキスト、色数が少ないイメージ、シャープなエッジを持つイメージに使用されます。</p> <p>さらに、バックグラウンドの透明化、イメージのインターレース、アニメーションなど、高度な表示効果をグラフィックに付加できます。また、イメージのカスタム パレットを作成できます。</p>
PNG	<p>写真や線画を含む、さまざまなイメージ タイプ。</p> <p>PNG ファイル形式は (GIF や JPEG 形式とは異なり) アルファチャンネルをサポートしています。これにより、透明なイメージを高品質に保存できます。</p>
JPEG	<p>写真やスキャンしたイメージ。</p> <p>JPEG ファイルは、ファイルの圧縮を使用してイメージの近似値を保存するため、イメージ データの一部が失われますが、ほとんどの写真で画質を犠牲にすることはありません。イメージを保存するときは、イメージの品質を選択できます。高品質になるほどファイル サイズも大きくなります。</p>
WEBP	<p>写真、アイコン、テキスト付きの画像など、さまざまな画像タイプ</p> <p>WEBP 形式は、データ非損失型圧縮とデータ損失型圧縮の両方に対応しており、透明度をサポートします。WEBP データ非損失型画像は PNG ファイルよりも小さく、WEBP データ損失型画像は JPEG 画像よりも小さくなります。ユーザーは RGB チャンネルの圧縮係数を調整できるので、エンコード速度、ファイル サイズ、品質の比率を制御できます。詳しくは、571 ページの「Google Web Picture (WEBP)」を参照してください。</p>

パレットベースのイメージをエクスポートする

パレット GIF や 8 ビット PNG などのパレットベースのイメージでは、個々のピクセルを正確なカラー値に維持できます。これにより、エクスポートした際にファイルのカラー表示を制御できます。また、パレットベースのイメージでは、イメージのカラーを選択して、それを透明にすると、ファイルに透明を使用できます。詳しくは、[498 ページの「透明なカラーとバックグラウンドのパレットベースのイメージを作成する」](#)を参照してください。

イメージのエクスポート プレビューを調整するには

- 1 [ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [Web] をクリックします。
- 2 次の表のタスクを実行します。

目的	作業手順
単一プレビュー フレームでオブジェクトを表示する	[フルプレビュー] ボタン  をクリックします。
オブジェクトの 2 つのバージョンをフレームを横に並べて表示する	[2つの垂直プレビュー] ボタン  をクリックします。
オブジェクトの 2 つのバージョンをフレームを縦に並べて表示する	[2つの水平プレビュー] ボタン  をクリックします。
オブジェクトの 4 つのバージョンを別個のフレームに表示する	[4つのプレビュー] ボタン  をクリックします。
オブジェクトをプレビュー ウィンドウに合わせる	[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。
イメージ データの各ピクセルを画面の 1 つのピクセルに表示する	[ズーム 1:1 ピクセル] ボタン  をクリックします。
オブジェクトの別の領域にスクロールする	スクロール ツール  を使用して、表示する領域が見えるまでイメージをドラッグします。
オブジェクトを実寸で表示する	[100%] ボタン  をクリックします。
ズーム イン/アウトする	ズーム イン ツール  、またはズームアウト ツール  を使用して、プレビュー ウィンドウでクリックします。
プレビュー フレームでのオブジェクトの表示オプションを変更する	フレームをクリックして、エクスポート設定領域から異なるエクスポート設定を選択します。

Web 対応イメージをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [Web] をクリックします。
- 2 [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスの右上隅にある [プリセット] リスト ボックスからプリセット設定を選択します。
- 3 [設定] 領域の [カラー パレット] リスト ボックスからカラー パレットを選択します。
このオプションは、GIF ファイル形式には使用できません。
- 4 [アドバンス設定] 領域の [カラー プロファイルの埋め込み] チェック ボックスをオンにします。
- 5 [名前を付けて保存] をクリックします。
- 6 ファイルを保存するドライブとフォルダを選択し、[ファイル名] ボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。



ダイアログ ボックスの下部にある [速度] リスト ボックスからインターネットの接続速度を選択できます。

また、[ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックし、[ファイルの種類] リスト ボックスからファイル形式を選ぶと、Web 対応形式にエクスポートすることができます。

Web 対応イメージをエクスポートする際にイメージをサイズ変更するには

- [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスの [変形] 領域で次の表の 1 つまたは複数のタスクを実行します。

目的	作業手順
オブジェクトの測定単位を選択する	[単位] リスト ボックスから測定の単位を選択します。
オブジェクトの寸法を指定する	[幅] ボックスと [高さ] ボックスに値を入力します。
オブジェクトを元のサイズのパーセンテージでサイズ変更する	[幅 %] ボックスと [高さ %] ボックスに値を入力します。
イメージの幅と高さの比率を一定に保って歪みを防ぐ	[縦横比の維持] チェック ボックスをオンにします。
オブジェクトの解像度を指定する	[解像度] ボックスに値を入力します。
ハード ディスク上のファイル サイズを変えずに、オブジェクトの解像度を変更します。	[サイズの維持] チェック ボックスをオンにします。

JPEG ビットマップのエクスポート用オプションをカスタマイズするには

- 1 [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスの [フォーマット] リスト ボックスから [JPEG] を選択します。
- 2 次の表のタスクを実行します。

目的	作業手順
画質を制御	[設定] 領域で、[画質] リスト ボックスから画質オプションを選択するか、パーセントの値を入力します。
エンコーディング設定を選択する	[設定] 領域で、[サブフォーマット] リスト ボックスからオプションを選択します。
隣接するピクセル間のカラーの変化をぼかす	[設定] 領域の [ぼかし] ボックスに値を入力します。
一部の Web ブラウザで JPEG イメージを徐々にロードして、ロードが完了する前にイメージの部分を表示する	[アドバンス設定] 領域の [画質の向上] チェック ボックスをオンにします。
最適なエンコード方法を使用して、JPEG ファイルのサイズを最小にします。	[アドバンス設定] 領域の [最適化] チェック ボックスをオンにします。
可能な操作	
ドキュメントのカラー設定を適用する	[アドバンス設定] 領域の [ドキュメント カラー設定の使用] オプションをオンにします。

可能な操作

カラー校正設定をドキュメントに適用する

[アドバンス設定] 領域の [色校正設定の使用] オプションをオンにします。

CMYK にエクスポートする際に黒のオーバープリントをオンにする

[設定] 領域で、[黒をオーバープリント] チェック ボックスをオンにします。

マット カラーをオブジェクトのバックグラウンドに適用して、アンチエイリアス化したオブジェクトのエッジをブレンドする

[設定] 領域で、[マット] カラー ピッカーを開き、カラーを選択します。

Web 対応イメージをエクスポートするための表示画質オプションを指定するには

- [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスから、次の表の 1 つまたは複数のタスクを実行します。

目的	作業手順
マット カラーをオブジェクトのバックグラウンドに適用して、アンチエイリアス化したオブジェクトのエッジをブレンドする	[設定] 領域で、[マット] カラー ピッカーを開き、カラーを選択します。
オブジェクトのエッジのスムーズ化	[アドバンス設定] 領域の [アンチエイリアス] チェック ボックスをオンにします。
一部の Web ブラウザでファイルを徐々にロードして、ロードが完了する前にイメージの部分のみを表示する	[アドバンス設定] 領域の [インターレース] チェック ボックスをオンにします。

パレット ベースの Web 対応イメージをエクスポートするためのカラー設定を指定するには

- [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスから、次の表の 1 つまたは複数のタスクを実行します。

目的	作業手順
カラー モードを選択する	[設定] 領域で、 カラー モード リスト ボックスからカラー モードを選択します。 このオプションは、GIF ファイル形式には使用できません。
カラー パレットを選択する	[設定] 領域の [カラー パレット] リスト ボックスからパレットを選択します。
ディザの設定と量を指定する	[設定] 領域の [ディザ] リスト ボックスからディザを選択するか、ボックスに値を入力します。
カラー プロファイルを埋め込む	[アドバンス設定] 領域の [カラー プロファイルの埋め込み] チェック ボックスをオンにします。

可能な操作

カラーパレットをロードする

[設定] 領域で、[カラーパレット] リストボックスの横の矢印をクリックして、[パレットをロード] をクリックします。

カラーをサンプリングしてカラーパレットに追加する

ツールバーの [スポイト] をクリックして、色を選択するイメージをクリックします。[設定] 領域の [サンプルカラーをパレットに追加] ボタン  をクリックします。

カラーを追加/変更する

カラーパレットのカラーボックスをダブルクリックします。

表示する色数を選択する

[設定] 領域の [色数] リストボックスから値を選択します。

カラーパレットからカラーを削除する

[設定] 領域で、カラーパレットのカラーをクリックしてから、[選択したカラーを削除] ボタンをクリックします。



また、イメージのカラーを選択して、それを透明にすると、パレットに基づくドキュメントに透明度を追加できます。詳しくは、498 ページの「[透明なカラーとバックグラウンドのパレットベースのイメージを作成する](#)」を参照してください。

ビットマップをエクスポートして WordPress にアップロードする

Corel PHOTO-PAINT では、プロジェクトを WordPress に適したビットマップイメージにエクスポートし、それを WordPress アカウントにアプリケーションから直接アップロードできます。

必要なファイル形式とオプションを選択したら、イメージを WordPress アカウントにアップロードできます。WordPress サイトが複数ある場合は、ビットマップのアップロード先となるサイトを選択できます。エクスポートされたビットマップは、選択したサイトのメディアライブラリに追加されます。

ビットマップを WordPress に初めてアップロードする際には、WordPress アカウントを認証してログインする必要があります。WordPress アカウントが複数ある場合は、いつでも切り替えられます。

ビットマップをエクスポートして WordPress にアップロードするには

- 1 [ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [WordPress] をクリックします。
- 2 [WordPress にエクスポート] ダイアログボックスで、使用するファイル形式を [フォーマット] リストボックスで選択し、必要なエクスポート設定を調整します。
[WordPress にエクスポート] ダイアログボックスでは、[Web にエクスポート] ダイアログボックスに用意されているものと同一エクスポートオプションが用意されています。エクスポートオプションについては、491 ページの「[Web 用のイメージをエクスポートする](#)」を参照してください。
- 3 [アップロード] をクリックします。
- 4 [WordPress にアップロード] ダイアログボックスから、次の表の 1 つまたは複数のタスクを実行します。

目的

WordPress アカウントを認証してログインする

作業手順...

[WordPress アカウントの認証] アカウントをクリックします。

目的	作業手順...
WordPress サイトを選択する	[サイト] ボックスからサイトを選択します。
ビットマップをアップロードする	[アップロード] をクリックします。
別の WordPress アカウントにログインする	[ログアウトまたはアカウントの切り替え] をクリックします。



エクスポートされたビットマップが一時ファイルとして保存され、イメージを WordPress にアップロードした後に削除されません。

Web プリセットの保存と適用

Web プリセットでは、Web 互換ファイル形式のエクスポート用カスタム設定を保存できます。

Web 互換イメージのエクスポート用プリセットを保存するには

- 1 **[Web にエクスポート]** ダイアログ ボックスの **[フォーマット]** リスト ボックスからファイル形式を選択します。
- 2 プリセットとして保存する設定を選択します。
- 3 **[プリセット]** リスト ボックスの横の矢印をクリックして、**[プリセットの保存]** をクリックします。
- 4 **[ファイル名]** ボックスにプリセットの名前を入力します。
- 5 **[保存]** をクリックします。



保存したプリセットを削除するには、**[プリセット]** リスト ボックスからプリセットを選び、**[プリセット]** リスト ボックスの横にある矢印をクリックして **[プリセットの削除]** をクリックします。

Web 互換イメージのエクスポート用プリセットを適用するには

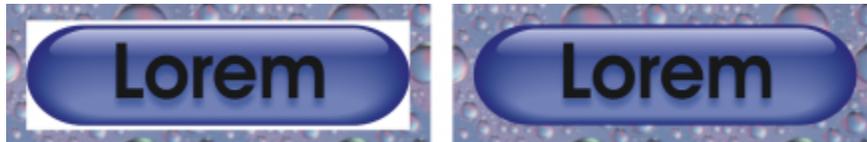
- 1 **[Web にエクスポート]** ダイアログ ボックスで **[プリセット]** リセット ボックスの横の矢印をクリックし、**[プリセットのロード]** をクリックします。
- 2 ファイル名をクリックします。
- 3 **[開く]** をクリックします。

透明なカラーとバックグラウンドのパレット ベースのイメージを作成する

Corel PHOTO-PAINT は、パレット GIF または 8 ビット PNG などのパレット ベースのイメージを、透明なカラーやバックグラウンドとともにエクスポートできます。これらのイメージは、カラーや模様のパックグラウンドを使った Web ページで一般的にボタンやロゴなどに使用されます。

バックグラウンドが不透明になっているイメージを Web ページに配置すると、ページ上でイメージのバックグラウンド カラーが長方形で表示されてしまいます。イメージのバックグラウンドを透明にすると、イメージのバックグラウンドはページに溶け込んで表示されます。イメージのバックグラウンドを透明にすると、Web ページのバックグラウンドのカラーやパターンを変更する際に、一致するイメージのバックグラウンドを変更する必要がありません。

バックグラウンド カラーは、イメージ内の他の場所で使用されていない、単一の均一カラーを使用する必要があります。編集領域や保護領域を透明にすることもできます。これらの領域の定義については、279 ページの「マスク」を参照してください。



Web ページで使用する、透明なバックグラウンドのイメージを作成することができます。

その他のファイル形式のイメージでも、透明なバックグラウンドを作成できます。詳しくは、300 ページの「イメージをカットアウトする」を参照してください。

透明なバックグラウンドのパレット ベース イメージをエクスポートするには

- 1 **[Web にエクスポート]** ダイアログ ボックスで、**[フォーマット]** リスト ボックスから GIF や 8 ビット PNG などのパレットのファイル形式を選択します。
- 2 次の表のタスクを実行します。

目的	作業手順
オブジェクトの背景を透明にする	[設定] 領域で、 [透明] チェック ボックスをオンにします。
選択したカラーを透明にする	ツールバーの [スポイト] をクリックして、色を選択するイメージをクリックします。 [設定] 領域で、 [選択した色を透明にする] ボタン  をクリックします。
マット カラーをオブジェクトのバックグラウンドに適用して、アンチエイリアス化したオブジェクトのエッジをブレンドする	[設定] 領域で、 [マット] カラー ピッカーを開き、カラーを選択します。



最高の結果を得るには、**[設定]** 領域の **[デザ]** リスト ボックスから **[なし]** を選択します。

イメージをスライスする

イメージをスライスすると、イメージは複数の小さなファイルに分割され、それをまとめて Web ページに大きなイメージをロードすることができます。結果的に作成されるファイル、つまりスライスは、表示専用と (ハイパーリンクによる) クリックابل エリアの両方に使用できます。

スライス は長方形に限定されます。長方形以外の形でクリックابل エリアを作成する場合は、代わりにロールオーバーを使用します。ロールオーバーについて詳しくは、502 ページの「ロールオーバーを作成/編集する」を参照してください。

スライスのグリッドを作成する

イメージをスライスするには、まずイメージ上に水平と垂直のスライス線を配置して、スライスのグリッドを作成する必要があります。イメージでのオブジェクトの配置に基づいて自動的にスライスのグリッドを作成したり、指定した行と列の数に基づいて均等にスライスを作成したりすることができます。また、スライスのグリッドをインポート/エクスポートすることもできます。

スライスのグリッドにより、イメージ ウィンドウにオーバーレイが作成されます。スライスされたイメージの作業中でも、その他の機能にアクセスできます。スライスのグリッドとオーバーレイを非表示にすることもできます。

スライスに名前を付けてエクスポートする

イメージをスライスしたら、ファイル名を指定できます。また、各スライス をさまざまなファイル形式にエクスポートし、個別に最適化することもできます。特定のプロパティが指定されていないスライスには、デフォルト設定が適用されます。名前が付けられていな

いスライスは、スライスのグリッドの行と列の位置に基づいて、自動的に名前が付けられます。たとえば、「banner」という名前のスライスされたイメージでは、1 番目の行と 1 番目の列のスライスは「banner_r1c1」という名前になります。

イメージ スライスをロールオーバーにすることもできます。ロールオーバーの作成と編集について詳しくは、502 ページの「ロールオーバーを作成/編集する」を参照してください。



スライスされたこのイメージには、個別に最適化された、テキスト付きのロールオーバー ボタンとスライスが装備されています。緑色の線はスライスのグリッドを示しています。

スライスを消去する

スライス線は、追加後に移動や消去が可能です。スライス線の一部を消去するには、隣接するスライスを選択して結合します。スライスのグリッド全体を一度に消去することもできます。スライス線を消去すると、複数のスライスから 1 つのスライスが作成されます。その結果、個別のスライスに適用されている設定が失われます。新しい大きなスライスには、デフォルト設定が適用されます。

スライスされたイメージをエクスポートする

イメージのスライスが完了したら、そのイメージをエクスポートする必要があります。エクスポートする際に、Corel PHOTO-PAINT はイメージ スライスを入れるフォルダを作成します。

スライスされたイメージを既にエクスポートしており、それをもう一度開いて修正した場合は、イメージ スライスのみをエクスポートすることができます。

スライスされたイメージを最適化する

[イメージのスライス] ドッキング ウィンドウから、またはイメージをエクスポートするときに、スライスしたイメージを最適化できます。この段階では、個別のスライスに設定を指定することはできません。また、イメージ全体を最適化して、すべてのスライスとその設定を消去することもできます。Web 用のイメージの最適化について詳しくは、491 ページの「Web 用のイメージをエクスポートする」を参照してください。

イメージをスライスするには

- 1 [イメージのスライス] ツール  をクリックします。
- 2 プロパティ バーで、次のボタンをクリックしてスライスのグリッドを作成します。
 - 縦にスライスボタン  - イメージをクリックすると、垂直なスライス線が 1 本追加されます。
 - 横にスライスボタン  - イメージをクリックすると、水平なスライス線が 1 本追加されます。
 - 自動スライスボタン  - オブジェクトの配置に基づいて、イメージ全体がスライスされます。
 - 等幅スライスボタン  - 行と列の数を指定すると、イメージが均等なサイズにカットされます。
- 3 プロパティ バーの[スライスの選択] ボタン  をクリックします。

スライス線を移動する場合は、イメージ上で新しい位置にドラッグします。
- 4 イメージ スライスをクリックします。

- 5 **[スライス]** ドッキング ウィンドウで、選択したスライス (複数可) に関する次の情報を入力します。
- **名前** - スライスのファイル名を指定します。ファイル名を入力しないと、元のイメージのファイル名と、スライスの行と列の配置に基づいて、デフォルトの名前が挿入されます。
 - **URL** - ハイパーリンクを挿入できます。
- 6 **[フォーマット]** 領域では、リスト ボックスからスライスのファイル形式を選択します。
- ファイル形式を選択しない場合は、イメージ スライスが自動的にデフォルトのファイル形式で保存されます。
- スライスしたイメージのエクスポート方法について詳しくは、502 ページの「スライスされたイメージをエクスポートするには」を参照してください。

可能な操作

スライスを最適化する	スライスを選択し、 [スライス] ドッキング ウィンドウで [アドバンス設定] をクリックし、ファイル形式の設定を調整します。
スライスのグリッドをインポートする	[オプション] ボタン  をクリックし、 [スライスのグリッドのインポート] をクリックします。
スライスのグリッドをエクスポートして別のイメージで使用する	[オプション] ボタン  をクリックし、 [スライスのグリッドのエクスポート] をクリックします。
プリセットに指定したファイル形式の設定を保存する	[オプション] ボタン  をクリックし、 [プリセットの保存] をクリックします。



複数のスライスを選択する場合は、**Shift** キーを押したままにしてスライスをクリックします。

[横にスライス] と **[縦にスライス]** を切り替えるには、**Shift** キーを押します。

スライス オーバーレイおよびグリッドの表示/非表示を切り替えるには

- **[表示]** ▶ **[スライス グリッド]** をクリックします。



イメージのスライス ツール  が選択されている場合は、スライスのグリッドの表示/非表示を選択できません。スライス ツールが選択されている場合は、スライスのグリッドは常に表示されます。

イメージ スライス線を消去するには

- 1 **[イメージのスライス]** ツール  をクリックします。
 - 2 プロパティ バーの**[線の消去]** ボタン  をクリックします。
 - 3 線をクリックすると消去されます。
- すべてのスライスを消去する場合は、プロパティ バーの**[線の消去]** ボタン  をクリックします。



スライス線が消去されると、結合後の新しいスライスはデフォルトの設定に戻ります。各スライスに適用されたすべての設定は失われます。

スライスされたイメージをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [目的別エクスポート] ▶ [Web] をクリックします。
- 2 [Web にエクスポート] ダイアログ ボックスの右上隅にある [プリセット] リスト ボックスからプリセット設定を選択します。
- 3 [HTML とスライス] 領域で、[エクスポート] リスト ボックスから [イメージと HTML] を選択します。
- 4 [スライスを含む] チェック ボックスをオンにします。
- 5 [名前を付けて保存] をクリックします。
- 6 ファイルを保存するドライブとフォルダを選択し、[ファイル名] ボックスにファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

可能な操作

既存のイメージ スライスを置き換える

[HTML とスライス] 領域で、[既存ファイルの上書き] オプションをオンにします。

スライスされたイメージをブラウザでプレビューする

[ブラウザに表示] チェック ボックスをオンにすると、デフォルトのブラウザを起動して、現在の設定でファイルをプレビューします。



[スライス] オプションがオンになっていない場合は、スライスと、[スライス] ドッキング ウィンドウで割り当てられたすべての設定は、エクスポートされるイメージに適用されません。スライスと設定を適用しない場合は、[ファイルの種類] リスト ボックスから、イメージ全体に適用するファイル形式を選択できます。

Web 対応のファイル名が使用されていない場合は、エクスポート中に自動的に修正されます。不注意によってファイル名が重複している場合も、自動的に修正されます。



イメージ スライスのみをエクスポートする場合は、[イメージのみ] オプションをオンにします。

ロールオーバーを作成/編集する

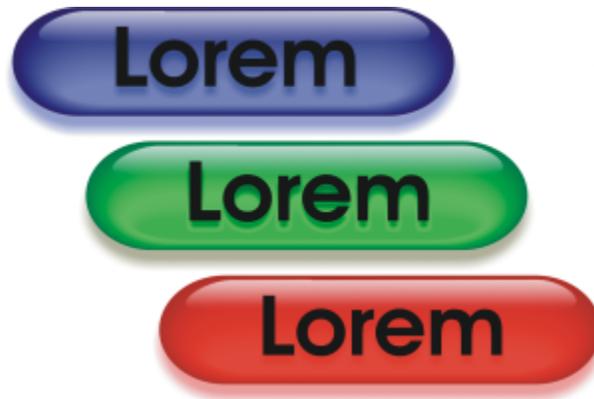
ロールオーバーとは、クリックしたりポインタを合わせたりしたときに外観が変化する、インタラクティブなイメージです。たとえば、ボタンをクリックするとそのカラーが変わったり、ポイントするとテキストが表示されたりするように設定できます。ロールオーバーは、ナビゲーション ボタンとして Web ページでよく使用されています。

ロールオーバーを作成する

ロールオーバーは、形状、ブラシストロック、テキストなどのオブジェクトを使用して作成します。単一のオブジェクトだけでなく、上にテキストがある楕円形など、オブジェクトのグループを使用することができます。ロールオーバーは次の状態から構成されています。

- **普通** - デフォルトの状態です。
- **オーバー** - ポイントすると、この状態になります。
- **ダウン** - クリックすると、この状態になります。

各状態は、1 つまたは複数のオブジェクトから構成されます。



ロールオーバーには、「普通」、「オーバー」、「ダウン」の3つの状態があります。

ロールオーバー オブジェクトを編集する

各状態のオブジェクトを追加、修正、削除して、ロールオーバー状態を編集することができます。ロールオーバーを作成すると、標準、上、下の状態にオリジナルのオブジェクトがコピーされます。あるロールオーバー状態にオブジェクトを追加すると、すべての状態にそのオブジェクトが追加されます。ただし、あるオブジェクトへの変更は、現在の状態にのみ適用されます。また、現在の状態からオブジェクトを削除することもできます。

編集領域またはバックグラウンドを使用してロールオーバーを作成する場合は、それらをオブジェクトに変換する必要があります。編集領域の定義について詳しくは、279 ページの「マスク」を参照してください。

ロールオーバーを作成すると、イメージはスライスされ、そのロールオーバーはスライスになります。イメージ スライスの操作、およびスライスしたイメージのエクスポートと最適化について詳しくは、499 ページの「イメージをスライスする」を参照してください。

ロールオーバーを作成するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ロールオーバー] をクリックします。
- 2 オブジェクトを選択します。
- 3 [ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで [オブジェクトからロールオーバーを作成] ボタン  をクリックします。
- 4 [状態] リスト ボックスから、次のいずれかのロールオーバー状態を選択します。
 - 標準
 - オーバー
 - ダウン
- 5 オブジェクトを追加、削除、修正して、選択したロールオーバー状態を編集します。
- 6 [変更を適用] ボタン  をクリックします。

各状態はコンポーネント オブジェクトを保持しているため、引き続きロールオーバーを編集できます。

可能な操作

ロールオーバーを削除する

[ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[ロールオーバーの削除] ボタン  をクリックします。

既存のロールオーバーを修正する

[ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[ロールオーバーの編集] ボタン  をクリックします。



[オブジェクト] ドッキング ウィンドウでは、ロールオーバー オブジェクトはハイライト/グループ化され、名前の横に [ロールオーバー オブジェクト] アイコン  が表示されます。[テキスト ロールオーバー オブジェクト] アイコン  は、ロールオーバー オブジェクトがテキストであることを示しています。

重なっているロールオーバーはエクスポートできません。別のロールオーバー オブジェクトに重ならないように、ロールオーバーを移動する必要があります。



開始時点では単一オブジェクトを選択し、後で他のオブジェクトを追加してロールオーバーの外観を変更することができます。

ロールオーバーを編集するには

- 1 [オブジェクト] ドッキング ウィンドウでロールオーバーを選択します。
ロールオーバー オブジェクトは、名前の横に [ロールオーバー オブジェクト] アイコン  が表示されます。
- 2 [ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[ロールオーバー設定] の隣にある矢印をクリックし、[ロールオーバーの編集] を選択します。
- 3 [状態] リスト ボックスから、次のロールオーバーの状態のいずれかを選択します。
 - 標準
 - オーバー
 - ダウン
- 4 オブジェクトを追加、削除、および修正して、ロールオーバー状態を編集します。
- 5 [ロールオーバー設定] の隣にある矢印をクリックし、[ロールオーバーの編集を終了] を選択します。

可能な操作

ある状態を現在の標準状態に戻し、最初から設定し直す

[ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[リセット] をクリックします。

ロールオーバーのすべての状態を単純なオブジェクトに戻す

[ロールオーバー設定] の隣にある矢印をクリックし、[ロールオーバーのオブジェクトの抽出] を選択します。



ロールオーバーを単純なオブジェクトに抽出すると、自動的にコンポーネント オブジェクトに名前が付けられます。

2 つのロールオーバーを同時に編集することはできません。



ロールオーバーをイメージ ウィンドウでダブルクリックすると、ロールオーバーを編集することができます。

また、[ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[ロールオーバーの編集] ボタン  をクリックして、ロールオーバーを編集することもできます。

ロールオーバーにオブジェクトを追加するには

- 1 [ロールオーバー] ドッキング ウィンドウで、[状態] リスト ボックスから次のロールオーバーの状態のいずれかを選択します。
 - 標準
 - オーバー

● ダウン

- 2 ツールボックスの整形ツールをクリックします。
- 3 イメージ ウィンドウ内でドラッグして図形を作成します。

オブジェクトはすべてのロールオーバー状態に追加されます。

可能な操作

ブラシストロークを追加する

ツールボックスで、**[ペイント]** ツール  をクリックし、イメージ ウィンドウにドラッグして、ブラシストロークを作成します。

テキストを追加する

[テキスト] ツール  をクリックしてイメージ ウィンドウ内でクリックし、テキストを入力します。



形状とブラシストロークの追加について詳しくは、412 ページの「オブジェクトを作成する」を参照してください。テキストの追加について詳しくは、449 ページの「テキストを追加/選択する」を参照してください。

イメージ バックグラウンドおよび編集領域からオブジェクトを作成することもできます。詳しくは、412 ページの「オブジェクトを作成する」を参照してください。



ブラシストロークはすべて、デフォルトでアクティブなオブジェクトに追加されます。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、**[新規オブジェクト]** ボタン  をクリックして、オブジェクトを作成することもできます。**[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。

現在のロールオーバー状態のオブジェクトを修正するには

- 1 **[ロールオーバー]** ドッキング ウィンドウで、**[状態]** リスト ボックスから次の**ロールオーバー**の状態のいずれかを選択します。
 - 標準
 - オーバー
 - ダウン
- 2 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、修正する**オブジェクト**を選択します。
[オブジェクト] ドッキング ウィンドウが開いていない場合は、**[ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [オブジェクト]** をクリックします。
- 3 オブジェクトを修正します。

変更が適用されるのは、現在の状態に含まれるオブジェクトのみです。



オブジェクトの変更について詳しくは、411 ページの「オブジェクトを操作する」および431 ページの「オブジェクトを修正する」を参照してください。

テキストには、ペイント、カラーの変更、塗りつぶし、フォーマット設定を行うこともできます。テキストの修正について詳しくは、449 ページの「テキストを作成/フォーマットする」を参照してください。



ロールオーバーは、普通、オーバー、ダウンへの各状態で、別のテキストを表示することができます。ロールオーバーのテキストを編集するには、**テキスト** ツール  をクリックし、ポインタがカーソルに変化するまでテキストにポイントを合わせてから、テキストを選択します。新しいテキストを入力して、現在のテキストを置き換えます。

現在のロールオーバー状態からオブジェクトを削除するには

- 1 **[ロールオーバー]** ドッキング ウィンドウで、**[状態]** リスト ボックスから次の**ロールオーバー**の状態のいずれかを選択します。
 - 標準
 - オーバー
 - ダウン
- 2 **[オブジェクト]** ドッキング ウィンドウで、削除する**オブジェクト**を選択します。
- 3 **[消しゴム]** ツール  をダブルクリックします。

現在の状態のオブジェクトのみが削除されます。



Delete キーを使用してオブジェクトを削除する場合、オブジェクトはすべてのロールオーバー状態から削除されます。

イメージを電子メールで送信する

Corel PHOTO-PAINT で作成または開いたイメージを、電子メール プログラムを使用して、電子メールに添付して送信できます。イメージが保存されていない場合、イメージを保存してから、電子メールを送信することを促すメッセージが表示されます。また、電子メール アプリケーションがインストールされていることが必要です。インストールされていない場合、インターネット接続または電子メール設定ウィザードが起動します。

イメージを電子メールで送信するには

- **[ファイル]** ▶ **[送信]** をクリックします。

印刷

印刷の基本.....	509
印刷サービス プロバイダ用にファイルを準備する.....	519



印刷の基本

Corel PHOTO-PAINT には、作業内容を印刷するためのさまざまなオプションがあります。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 509 の「作業内容を印刷する」。
- ページ 510 の「プリント ジョブをレイアウトする」。
- ページ 511 の「プリント ジョブをプレビューする」。
- ページ 512 の「印刷スタイル」。
- ページ 513 の「プリント ジョブを微調整する」。
- ページ 514 の「カラーを正確に印刷する」。
- ページ 516 の「PostScript プリンタへ印刷する」。
- ページ 517 の「プリフライトの概要」。

作業内容を印刷する

Corel PHOTO-PAINT アプリケーションでは、同じイメージを 1 部または複数部数、印刷することができます。現在のイメージまたは特定のイメージを指定して印刷することができます。イメージを印刷する前に、用紙サイズやデバイス オプションなど、プリンタのプロパティを指定できます。

プリンタのプロパティを設定するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [一般] タブをクリックします。
- 3 [指定先] 領域で、[プリンタ] リスト ボックスからプリンタを選択します。
- 4 [プリンタの環境設定] ボタン  をクリックします。
- 5 ダイアログ ボックスでプロパティを設定します。

作業内容を印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [一般] タブをクリックします。
- 3 [指定先] 領域で、[プリンタ] リスト ボックスからプリンタを選択します。

- 4 **[指定先]** 領域で、**[方向]** リスト ボックスからページ サイズと方向のオプションを選択します。
- 5 **[部数]** 領域内の **[コピー数]** ボックスに値を入力します。
部単位でページを揃える場合は、**[部単位で印刷]** チェック ボックスをオンにします。
- 6 **[印刷範囲]** 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **現行のドキュメント** - アクティブな描画を印刷します。
 - **現行のページ** - アクティブなページを印刷します。
 - **ページ** - 指定したページを印刷します。
 - **ドキュメント** - 指定したドキュメントを印刷します。
 - **選択範囲** - 指定したオブジェクトを印刷します。**[ページ]** オプションがオンの場合、ページの範囲、偶数ページのみ、奇数ページのみ、偶数と奇数ページの両方を印刷するように選択することができます。

可能な操作

プリンタ用紙の向きがドキュメントの方向へ自動的に調整されます

[指定先] 領域で、**[方向]** リスト ボックスから **[方向を合わせる]** を選択します。

プリンタのデフォルト ページ サイズを適用します

[指定先] 領域で、**[方向]** リスト ボックスから **[プリンタのデフォルトを使用]** を選択します。



選択範囲を印刷する場合は、最初にオブジェクトを選択する必要があります。

プリント ジョブをレイアウトする

サイズ、位置、およびスケールを指定して、プリント ジョブをレイアウトできます。プリント ジョブにタイル設定を指定すると、各ページを部分的に別の用紙に印刷して、後で 1 枚の用紙にまとめることができます。たとえば、印刷用紙より大きなプリント ジョブはタイル設定で印刷します。

プリント ジョブのサイズおよび位置を指定するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[レイアウト]** タブをクリックします。
- 3 **[イメージの配置/サイズ]** 領域で、次のいずれかのオプションをオンにします。
 - **ドキュメントに合わせる** - ドキュメントでイメージのサイズを維持します。
 - **ページのサイズに合わせる** - 印刷ページに合わせてプリント ジョブのサイズと位置を調整します。
 - **アートワークの再配置** - リスト ボックスから位置を選択して、プリント ジョブを再配置します。



[アートワークの再配置] オプションをオンにした場合は、対応するボックスで配置、サイズ、スケール率を指定します。



[インポジション レイアウト] リスト ボックスから、**[2 × 2 (4 追加)]** や **[2 × 3 (6 追加)]** などのインポジション レイアウトを選択することもできます。詳しくは、[520 ページの「インポジション レイアウト」](#) を参照してください。

プリント ジョブをタイル設定するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [レイアウト] タブをクリックします。
- 3 [タイル ページ] チェック ボックスをオンにします。
- 4 以下のボックスに値を入力します。
 - **重ねる割合** - タイルを重ねるときの割合を指定します。
 - **% (ページ幅)** - ページ上でタイルが占める幅をパーセンテージで指定します。



[**タイル マークを含める**] チェック ボックスをオンにすると、タイルの整列記号が含まれます。

プリント ジョブをプレビューする

作業内容をプレビューして、用紙上でのプリント ジョブの位置とサイズを確認できます。細部を表示するには、領域を**ズーム** インします。出力時の個々のカラー分解の状態を確認できます。

作業内容を印刷する前に、プリント ジョブの潜在的な印刷問題を見つけるために、問題の概要を表示できます。たとえば、現在のプリント ジョブに関する印刷エラー、発生の可能性がある印刷問題、および問題の解決方法を調べることができます。

プリント ジョブをプレビューするには

- [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 印刷プレビューを閉じるには、[ファイル] ▶ [印刷プレビューを閉じる] をクリックします。



[ファイル] ▶ [印刷] をクリックして [ミニプレビュー] ボタン  をクリックすると、[印刷] ダイアログ ボックスでプリント ジョブを素早くプレビューできます。

プレビュー ページを拡大するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 ツールボックスの **ズーム** ツール  をクリックし、領域を**選択範囲線**で**選択**します。

カラー分解をプレビューするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 プロパティ バーで [カラー分解を使用する] ボタン  をクリックします。



コンポジットをプレビューする場合は、[表示] ▶ [カラー分解のプレビュー] ▶ [コンポジット] をクリックします。
アプリケーション ウィンドウの下にあるタブをクリックすると、個々のカラー分解を表示できます。

プリント ジョブに関する問題の概要を表示するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリフライト] タブをクリックします。

プリント ジョブに問題がない場合は、タブ名に**問題なし**と表示されます。問題がある場合は、タブ名に検出された問題の数が表示されます。

プリフライトのチェック対象から除く問題がある場合は、**[設定]** ボタン  をクリックし、**[印刷]** をダブルクリックして、対象外とする問題に対応するチェック ボックスをオフにします。



設定を保存する場合は、**[プリフライトの設定の追加]** ボタン  をクリックし、**[プリフライト スタイルの保存]** ボックスに名前を入力します。

印刷スタイル

印刷スタイルとは、印刷オプションの組み合わせを保存したものです。印刷スタイルは、それぞれ個別のファイルになっています。したがって、別のコンピュータへの印刷スタイルの移動、印刷スタイルのバックアップ、ドキュメント固有のスタイルをドキュメントファイルと同じディレクトリに格納することも可能です。

既存の印刷スタイルの選択、印刷スタイルの新規作成、および印刷スタイルの編集と変更内容の保存ができます。また、印刷スタイルを削除することもできます。

印刷スタイルを選択するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[一般]** タブをクリックします。
- 3 **[印刷スタイル]** リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - **[Corel PHOTO-PAINT のデフォルト]**
 - **参照**

印刷スタイルを作成するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[一般]** タブをクリックします。
- 3 印刷のオプションを設定します。
- 4 **[名前を付けて保存]** をクリックします。
- 5 印刷スタイルを保存するフォルダを選択します。
- 6 **[ファイル名]** ボックスにスタイルの名前を入力します。



また、**[ファイル]** ▶ **[印刷プレビュー]** をクリックし、**[印刷スタイルに名前を付けて保存]**  ボタンをクリックして、印刷スタイルを保存することもできます。

印刷スタイルを編集するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷プレビュー]** をクリックします。
- 2 **[印刷スタイル]** リスト ボックスで印刷スタイルを選択します。
- 3 印刷オプションを変更します。
- 4 **[名前を付けて保存]** をクリックします。
- 5 印刷スタイルが保存されているフォルダを選択します。
- 6 ファイル名をクリックします。
- 7 **[保存]** をクリックします。



変更後の設定は、印刷スタイルとして保存するか、またはキャンセルする前に変更を適用する必要があります。保存または適用しなかった場合、設定はすべて破棄されてしまいます。

印刷スタイルを削除するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷 プレビュー] をクリックします。
- 2 印刷スタイルを選択します。
- 3 [印刷スタイルの削除] ボタン  をクリックします。

プリント ジョブを微調整する

非 PostScript プリンタのドライバの互換性を指定して印刷時間を短くすることができます。詳しくは、514 ページの「カラーを正確に印刷する」を参照してください。

プリンタが大きなビットマップを処理できない場合は、出力のしきい値を設定して、ビットマップを処理可能なチャンクに分割することができます。チャンクを印刷する際に線が現れた場合は、オーバーラップの値を設定して継ぎ目のないイメージを作成します。

ファイル サイズを縮小するには、イメージをダウンサンプリングします。イメージはピクセルで構成されているため、イメージをダウンサンプリングすると、線あたりのピクセル数が減少します。このため、ファイル サイズが小さくなります。

ドライバ互換設定を指定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [印刷] をクリックし、[ドライバの互換性] をクリックします。
- 3 [プリンタ] リスト ボックスから、PostScript 以外のプリンタを選択します。
- 4 指定する設定に該当するチェック ボックスをオンにします。

しきい値およびチャンクのオーバーラップを選択するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [印刷] をクリックします。
- 3 [特別な設定] 領域で、次のリスト ボックスから値を選択します。
 - ビットマップ出力のしきい値 (K)
 - ビットマップ チャンク オーバーラップ

イメージをダウンサンプリングするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [ビットマップのダウンサンプリング] で、次のチェック ボックスをオンにして、それぞれに対応するボックスに値を入力します。
 - カラーとグレースケール
 - モノクロ

カラーを正確に印刷する

Corel PHOTO-PAINT では印刷時にカラーを管理することができるので、色をきれいに再現することができます。適用されたドキュメントの色設定でドキュメントを印刷するか、印刷に別の色設定を選択することができます。**[カラー校正]** ドッキング ウィンドウで前に指定したカラー校正設定を使用してドキュメントを印刷することもできます。

さらに、印刷時に再現範囲外の色を効果的に解釈するレンダリング方法を選択することができます。選択するレンダリング方法は、ドキュメントの画像に応じて異なります。

を参照してください。プリンタ デバイスの**カラー プロファイル**の選択について詳しくは、244 ページの「印刷のカラーを管理する」。

GDI プリンタの注意事項

GDI プリンタでは、2種類のカラー スペース、RGB と グレースケールが使用できます。ドキュメントに複数のカラー スペース (たとえば RGB、CMYK、およびスポット カラー) の色が含まれている場合は、印刷前にすべての色を RGB かグレースケールへ変換する必要があります。



[ファイル] ▶ **[印刷]** をクリックし、**[プリンタ]** リスト ボックスからプリンタを選択して、プリンタが GDI プリンタかどうかを決定することができます。**[PostScript]** タブがダイアログ ボックスの上に表示されていない場合は、選択したプリンタは GDI プリンタです。

次の表では、GDI プリンタへの出力時のさまざまな色の管理方法について説明します。

方法	[印刷] ダイアログ ボックスで
ドキュメントを印刷して RGB または グレースケールの色を維持します	[カラー] タブをクリックし、 [カラーの出力] リスト ボックスから適切なカラー モードを選択します。
ドキュメントを元の色で印刷します	[カラー] タブをクリックし、 [カラー プロファイル] リスト ボックスの [ドキュメントのプロファイル] からドキュメントのカラー プロファイルを選択します。
ドキュメントを印刷して、ドキュメント カラーをプリンタ カラーへ変換します	[カラー プロファイル] リスト ボックスからプリンタのカラー プロファイルを選択します。

PostScript プリンタの注意事項

ほとんどの PostScript プリンタでは、ドキュメントに複数のカラー スペースを使用することができます。例えば、ドキュメントに複数カラー スペース (RGB、CMYK、およびグレースケール) の色を含めることができます。

次の表では、PostScript プリンタへの出力時のさまざまな色の管理方法について説明します。

方法	[印刷] ダイアログ ボックスで
ドキュメントを元の色で印刷します	[カラー] タブをクリックし、 [カラーの出力] リスト ボックスから [ネイティブ] を選択します。
複数のカラー モードを含んでいるドキュメントを 1 つのカラー モードを使用して印刷します	[カラー] タブをクリックし、 [カラーの出力] リスト ボックスからカラー モードを選択します。

方法

カラー モードを 1 つしか含んでいないドキュメントの印刷

[印刷] ダイアログ ボックスで

プリンタが 1 つのカラー モードしかサポートしていない場合は、Corel PHOTO-PAINT 内で色変換を制御することができます。

[カラー] タブをクリックし、[カラーの出力] リスト ボックスと [カラー プロファイル] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。

印刷のカラー設定を指定するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [ドキュメントのカラー] オプションをオンにします。
PostScript プリンタを選択した場合は、[カラー変換] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - Corel PHOTO-PAINT — カラー変換を実行します。
 - (選択したプリンタ) — 選択したプリンタがカラー変換を実行します (このオプションを利用できるのは PostScript プリンタのみです)
- 4 [カラーの出力] リスト ボックスからカラー モードを選択します。
印刷時にすべてのドキュメント カラーを特定のカラー モードへマージすることができます。

可能な操作

スポット カラーをプロセス カラーに変換する

[スポット カラーを変換] チェック ボックスをオンにします。

[カラーの出力] リスト ボックスから [ネイティブ] を選択した場合は、リスト ボックスからカラー モードを選択する必要があります。

特定プリンタへ印刷時に色を補正するためのカラー プロファイルを選択します

[カラー プロファイル] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。

このオプションは、特定のカラー モデルでしか使用できません。

選択したカラー モデルに関連するカラー値を維持します

[(カラー モデル) 番号を保存] チェック ボックスをオンにします。

色校正設定を使用して印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [カラー校正] オプションをオンにして、[カラー校正] ドッキング ウィンドウで定義されているカラー設定を適用します。
カラー校正を補正する場合は、[カラー プロファイル] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。
- 4 [印刷] をクリックします。

印刷時のレンダリング方法を指定するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。

- 2 **[カラー]** タブをクリックします。
- 3 **[レンダリング方法]** リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **相対比色** - ホワイト ポイントを維持しないでプリンタで校正刷りをします。
 - **[絶対比色]** - ホワイト ポイントと校正を維持します。
 - **知覚** - さまざまなイメージ、特にビットマップや写真用。
 - **彩度** - ベクトル グラフィックと高彩度色（直線、テキスト、均一カラーのオブジェクト、グラフなど）に適しています。

PostScript プリンタへ印刷する

PostScript とは、ページの印刷方法を PostScript デバイスに指示するためのページ記述言語です。プリント ジョブ内のすべての要素（曲線やテキストなど）は PostScript コードの行として表現され、印刷デバイスはそのコードを元にドキュメントを再現します。互換性を向上させるには、デバイスに依存しない PostScript オプションを選択します。PPD (PostScript プリンタ定義) ファイルを選択することもできます。PostScript プリンタ定義ファイルには、PostScript プリンタの性能と機能が記載されていて、プリンタの製造元から入手できます。

フォントの多すぎるプリント ジョブは正しく印刷されない可能性があります。また**スポット カラー**が多用されているプリント ジョブはファイル サイズが大きくなります。PostScript のオプションを設定して、プリント ジョブのフォントやスポット カラーの数が設定値より多くなったときに警告が表示されるようにできます。プリント ジョブに含まれるビットマップ フォントの最大数を指定することができます。

PostScript プリンタ定義 (PPD) ファイルを選択するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[一般]** タブをクリックします。
- 3 **[指定先]** 領域で、**[プリンタ]** リスト ボックスから PostScript プリンタを選択します。
- 4 **[PPD の使用]** チェック ボックスをオンにします。
- 5 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 6 ファイル名をダブルクリックします。

PostScript 対応デバイスに出力するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[一般]** タブをクリックします。
- 3 **[指定先]** 領域で、**[プリンタ]** リスト ボックスから PostScript プリンタを選択します。
- 4 **[PostScript]** タブをクリックします。
- 5 **[互換性]** のリスト ボックスから、プリンタに対応する PostScript レベルを選択します。

印刷時ビットマップを圧縮する場合、**[ビットマップ]** 領域の **[圧縮の種類]** リスト ボックスから圧縮形式を選択します。JPEG 形式の圧縮を選択した場合は、**[JPEG 画質]** スライダを動かして圧縮の品質を指定することができます。



ビットマップの圧縮の設定は、PostScript ドライバを使用してファイルへ出力するときに PostScript Interpreted ファイル (PS または PRN) に保存できます。ファイルへの出力について詳しくは、519 ページの「[ファイルに出力するには](#)」を参照してください。

グラデーション塗りつぶしに帯状出力がないかどうかを調べるには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[プリフライト]** タブをクリックします。

プリント ジョブに問題がない場合は、タブ名に**問題なし**と表示されます。問題がある場合は、タブ名に検出された問題の数が表示されます。

- 3 [設定] をクリックします。
- 4 [印刷] をダブルクリックします。
- 5 [帯状グラデーション塗りつぶし] チェック ボックスをオンにします。



グラデーション塗りつぶしに帯状出力がないかどうかのテストは、線形グラデーション塗りつぶしのみ適用されます。

カラー分解とフォントの警告オプションを設定するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 表示されたダイアログ ボックスの左側のペインで、[印刷] をクリックします。
- 3 [印刷スタイル] タブをクリックします。
- 4 [スポット カラー分解警告] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - スポット カラーが使われている場合
 - 1 色以上のスポット カラーが使われている場合
 - 2 色以上のスポット カラーが使われている場合
 - 3 色以上のスポット カラーが使われている場合
- 5 [多くのフォント (プリフライト)] リスト ボックスから数値を選択します。

プリフライトの概要

ファイルを出力する前に、プリフライトでファイルの状態を調べます。そうすると、問題の概要と潜在的な問題、およびその解決方法が表示されます。ユーザーはプリフライトで調べる問題を指定できます。プリフライトの設定を保存することもできます。プリフライトの特定の設定について詳しくは、次の項目を参照してください。

- ファイルの印刷に関する問題を調べるには、511 ページの「[プリント ジョブに関する問題の概要を表示するには](#)」を参照してください。
- PDF ファイルへの書き出しに関する問題を調べるには、538 ページの「[PDF ファイルのプリフライト概要を表示するには](#)」を参照してください。



印刷サービス プロバイダ用にファイルを準備する

Corel PHOTO-PAINT では、印刷サービス プロバイダに送るプリント ジョブを準備できます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 519 の「印刷サービス プロバイダ用に準備する」。
- ページ 520 の「インポジション レイアウト」。
- ページ 522 の「印刷マーク」。
- ページ 524 の「カラー分解」。
- ページ 525 の「カラー トラッピングとオーバープリント」。
- ページ 526 の「コンポジットを印刷する」。
- ページ 527 の「フィルムに印刷する」。
- ページ 527 の「キャンバス印刷」。
- ページ 528 の「印刷サービス プロバイダを使用する」。

印刷サービス プロバイダ用に準備する

イメージをファイルに出力できます。描画をファイルに出力すると、印刷サービス プロバイダではそのファイルを出力デバイスに直接送ることができます。どの設定を選択するかが不明な場合は、印刷サービス プロバイダに問い合わせてください。

商用印刷について詳しくは、528 ページの「印刷サービス プロバイダを使用する」を参照してください。

ファイルに出力するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [一般] タブをクリックします。
- 3 [指定先] 領域で、[ファイルに出力] チェックボックスをオンにし、リスト ボックスから次のいずれかを選択します。
 - **単一ファイル** - ドキュメントのすべてのページを単一のファイルに出力します。
 - **ページごとにファイルを分割** - ページごとに別々のファイルに出力します。
 - **版ごとにファイルを分割** - 版ごとに別々のファイルに出力します。
- 4 [印刷] をクリックします。
- 5 [ファイルの種類] リスト ボックスから次のいずれかを選択します。
 - **印刷ファイル** - ファイルを PRN ファイルとして保存します。

- **PostScript ファイル** - ファイルを PS ファイルとして保存します。

- 6 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 7 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 8 **[保存]** をクリックします。



PostScript ファイルを準備できない場合、出力ファイルを作成できるアプリケーションを備えた印刷サービス プロバイダであれば、元のファイル (たとえば、CorelDRAW のファイル) を渡すと、必要なプリプレス設定も行ってくださることがあります。

インポジション レイアウト

インポジション レイアウトを使用することにより、複数ページのドキュメントを 1 枚の紙に印刷できます。プリセットのインポジション レイアウトを選択して、商業用印刷機で印刷するような雑誌や本などのドキュメントを作成する、封筒の宛名、名刺、パンフレット、グリーティング カードなどの切ったり折ったりするようなドキュメントを作成する、ドキュメントの複数のサムネールを 1 ページに印刷することができます。プリセットのインポジション レイアウトを編集して、独自のレイアウトを作成することができます。

バインディングの方法を選択する場合は、プリセットのバインディング方式を選択するか、バインディング方式をカスタマイズします。プリセットのバインディング方式を選択すると、最初のもの以外、サインの面付けはすべて自動的に行われます。

自動または手動で、サインにページを面付けすることができます。サイン上に自動的にページを面付けする場合、イメージの角度を選択できます。複数ページにまたがる場合は、ページ間隔のサイズを指定することができます。たとえば、自動間隔設定のオプションでは、ドキュメント ページがレイアウト内の使用可能な領域に収まるように間隔が指定されます。

デスクトップ プリンタで印刷する場合、マージンがページの非印刷領域に収まるように調整する必要があります。マージン サイズが非印刷領域より小さいと、ページの端や印刷マークの一部が切り落とされてしまう可能性があります。

プリセットのインポジション レイアウトを選択するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[レイアウト]** タブをクリックします。
- 3 **[インポジション レイアウト]** リスト ボックスから、インポジション レイアウトを選択します。



選択されたレイアウトは印刷結果のみに影響し、元のドキュメントには影響はありません。

インポジション レイアウトを編集するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[印刷]** をクリックします。
- 2 **[レイアウト]** タブをクリックします。
- 3 **[インポジション レイアウト]** リスト ボックスから、インポジション レイアウトを選択します。
- 4 **[編集]** をクリックします。
- 5 インポジション レイアウトの設定を編集します。
- 6 **[ファイル]** ▶ **[インポジション レイアウトの保存]** をクリックします。
- 7 インポジション レイアウトに付ける名前を **[保存名]** ボックスに入力します。



インポジション レイアウトを編集する場合は、レイアウトに新しい名前を付けて保存します。新しい名前を付けなかった場合、プリセットのインポジション レイアウトの設定に上書きされてしまいます。

バイディング方式を選択するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 インポジション レイアウト ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの[編集内容]リスト ボックスから[基本設定の編集]を選択します。
- 4 [縦/横方向のページ数]ボックスに値を入力します。
ページを両面にする場合は、[片面/両面指定] ボタン  をクリックします。
- 5 [バイディング モード] リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - 完全バイディング — 個々のページをバラバラにして背表紙にそれらを接着します
 - 中綴じ — ページを折りたたんで相互にそれらを挿入します
 - ページを揃える/切り取る — すべての折丁を順に並べて積み重ねます
 - カスタム バイディング - 各折丁に印刷されるページを準備します。[中綴じ]または[カスタム バイディング]を選択した場合は、対応するボックスに値を入力します。



[片面/両面指定] ボタンをクリックして両面印刷を選択した場合、両面印刷機能のないプリンタで印刷しようとする、自動的にウィザードが起動してプリンタへの用紙の挿入方法が示され、ページの両面を印刷することができます。

ページを面付けするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 インポジション レイアウト ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの[編集内容]リスト ボックスから[ページの配置を編集]を選択します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - ページの自動配列  — 折丁にページを自動的に面付けします。
 - 連続自動配列  — ページを左から右、上から下に面付けします。
 - クローンされた自動配列  — 印刷可能なページの各フレームに作業ページを配置します。ページ番号を手動で面付けする場合は、ページをクリックして[ページ順番号] ボックスでページ番号を指定します。
- 5 [ページの回転] リスト ボックスから角度を選択します。

間隔を編集するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 インポジション レイアウト ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの[編集内容]リスト ボックスから[間隔と仕上げの編集]を選択します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 自動間隔  — ドキュメントのページがレイアウトの使用可能なスペース全体に合うように間隔のサイズを調整します。
 - 等間隔  — 同等の横および縦の間隔を設定します。
- 5 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 切り取りの場所  — ページ間に切り取りマークを配置します。
 - 折る場所  — ページ間に折るマークを配置します。



[等間隔] ボタンをクリックした場合は、[間隔のサイズ] ボックスで値を指定する必要があります。

間隔は、複数ページにまたがるインポジション レイアウトを選択した場合にのみ編集できます。

マージンを調整するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 インポジション レイアウト ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの[編集内容] リスト ボックスから[マージンの編集]を選択します。
- 4 次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 自動マージン  ▶ — マージンを自動的に設定します。
 - 等幅マージン  = — 右マージンを左マージンと同じに設定し、下マージンを上マージンと同じに設定します。



[等幅マージン] ボタンをクリックした場合は、[上/左端マージン] ボックスに値を指定する必要があります。

商業用印刷用のジョブを準備する場合、印刷サービス プロバイダからページ グリッドや印刷マークなどの最小マージン サイズを指定される場合があります。

印刷マーク

印刷マークを印刷すると、ドキュメントの印刷方法についての情報をページ上に表示することができます。また、ページ上の印刷マークの位置を指定できます。

使用可能な印刷マークは、次のとおりです。

- **トンボ/折りトンボ** — 用紙のサイズを表し、用紙の隅に印刷されます。トンボ/折りトンボを印刷して、用紙を裁断するときの基準として使用できます。1 枚の用紙に複数のページを印刷する場合 (2 行×2 列など) は、トンボ/折りトンボの印刷を選択してページの端の外側にトンボ/折りトンボを印刷して、余白部分を切り落とした後ですべてのトンボ/折りトンボが除去されるようにすることもできますし、各行と列の周囲にトンボを追加することもできます。トンボ/折りトンボでは、別々の CMYK ファイルの色版ごとにトンボが表示されます。
- **ブリードの制限** — イメージがトンボの外にはみ出る幅を指定します。ブリードを使用してページの端に達するプリント ジョブを作成する場合は、ブリードの制限を設定してください。ブリードを使用する場合は、最終的なページ サイズより大きな用紙が必要であり、最終的なページ サイズの外にプリント ジョブが達する必要があることに注意してください。
- **レジストレーション マーク** — カラー印刷機でフィルムを並べて刷版を校正するために必要です。レジストレーション マークは、カラー分解のすべての用紙に印刷されます。
- **カラー キャリブレーション バー** — カラー分解の各用紙に印刷されるカラー スケールで、カラーを正確に再現するために必要です。キャリブレーション バーを表示するには、作業内容の用紙サイズよりもプリント ジョブのページ サイズの方が大きくなければなりません。
- **濃度計スケール** — 淡から濃まで一連のグレーの四角形が並んだものです。これらのボックスは、ハーフトーン イメージの濃度を調べるために必要です。濃度計スケールは、ページの任意の場所に配置できます。濃度計スケールの 7 つの四角形に表示されるグレーの濃度を調整することもできます。
- **ページ番号** — ページ番号が含まれていないイメージのページを揃えるときや、ページ番号が実際のページ番号に対応していない場合、この設定は便利です。
- **ファイル情報** — カラー プロファイル、ハーフトーンの設定、イメージの名前と作成の日付と時刻、版番号、ジョブ名などのファイル情報を印刷します。

トンボ/折りトンボを印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。

3 [仕上げマーク] 領域で、[トンボ/折りトンボ] チェック ボックスをオンにします。

すべてのトンボ/折りトンボを印刷する場合は、**[断裁のみ]** チェック ボックスをオフにします。



トンボと折りトンボを印刷するには、印刷するイメージのページ サイズより上下左右とも 12.7 mm ほど大きな用紙に印刷する必要があります。



トンボと折りトンボを設定するには、521 ページの「[間隔を編集するには](#)」を参照してください。

コンポジットのトンボ/折りトンボを印刷するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [印刷] をクリックします。
- 3 [印刷スタイル] タブをクリックします。
- 4 [コンポジットのトンボ (PS)] リスト ボックスから、**[すべての版に出力]** を選択します。

ブリードの制限を設定するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [レイアウト] タブをクリックします。
- 3 [ブリードの制限] チェック ボックスをオンにします。
- 4 [ブリードの制限] ボックスに値を入力します。



通常、ブリードの制限は 3~6 mm に設定すれば十分です。この量を超えて外に出るオブジェクトがあると、不必要にメモリを使用し、ブリードのある複数のページを 1 枚の用紙に印刷するときに問題が発生する可能性があります。

レジストレーション マークを印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [レジストレーション マーク] 領域で、**[レジストレーション マークの印刷]** チェック ボックスをオンにします。
- 4 [スタイル] ピッカーからレジストレーション マークのスタイルを選択します。



レジストレーション マークを印刷するには、印刷するイメージのページ サイズより上下左右とも 12.7 mm ほど大きな用紙に印刷する必要があります。

カラー キャリブレーション バーと濃度計スケールを印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [キャリブレーション バー] で、次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - カラー キャリブレーション バー
 - 濃度計スケール

濃度計スケールのいずれかの四角形のグレー濃度をカスタマイズする場合は、**[濃度]** リストからボックスの番号を選択し、その四角形の新しい濃度を入力します。番号が小さいほど、薄い濃度の四角形です。

ページ番号を印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [ファイル情報] 領域で、[ページ番号の印刷] チェック ボックスをオンにします。

ページ内にページ番号を配置する場合は、[ページ内に配置] チェック ボックスをオンにします。

ファイル情報を印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [ファイル情報] 領域で、[ファイル情報の印刷] チェック ボックスをオンにします。
- 4 [ファイル情報の印刷] ボックスにジョブ名を入力します。

ページ内にファイル情報を配置する場合は、[ページ内に配置] チェック ボックスをオンにします。

印刷マークを配置するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷プレビュー] をクリックします。
- 2 トンボの配置ツール  をクリックします。
- 3 プロパティ バーの [自動配置マーク長方形] ボタン  をクリックします。
- 4 [整列範囲長方形を指定] ボックスに値を入力します。



印刷のプレビュー ウィンドウで印刷マークのアイコンをクリックし、**範囲ボックス**をドラッグして、印刷マークの位置を変更することもできます。

カラー分解

カラー イメージを印刷サービス プロバイダまたは印刷業者に渡す場合は、ユーザーまたは印刷サービス プロバイダが**カラー分解**を作成する必要があります。印刷機は一度に 1 色のインクでしか用紙に印刷できないため、カラー分解が必要になります。印刷するカラー分解と、それを印刷する順序を指定できます。

印刷機でカラーを印刷するときは、**プロセス カラー**または**スポット カラー**、あるいはその両方を使用します。印刷時に、スポットカラーをプロセス カラーに変換できます。スポット カラーとプロセス カラーについて詳しくは、次を参照してください。204 ページの「**カラーを選択する**」。

カラー分解を印刷するためのハーフトーン スクリーンを設定する場合は、デフォルト設定を使用してください。デフォルト設定を使用しなかった場合、スクリーンが正しく設定されず、**モアレ パターン**が発生してカラーがきれいに再現されない場合があります。ただし、イメージセットを使用する場合は、印刷サービス プロバイダが使用するイメージセットの種類に合わせて、スクリーン テクノロジーを設定する必要があります。ハーフトーン スクリーンをカスタマイズする前に、補正の設定について印刷サービス プロバイダに問い合わせてください。

カラー分解を印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。

3 [分解] オプションをオンにします。

特定のカラー分解を印刷する場合は、[カラー分解] タブをクリックし、印刷するカラー分解のチェック ボックスをオンにします。



カラー分解の印刷順を変更する場合は、[オプション] 領域の [アドバンス設定] をクリックします。ダイアログ ボックスの下部のカラー分解リストで、変更するカラー分解の横の [重ね順] 列内をクリックします。リスト ボックスから新しい順番の値を選択します。

ドキュメントのカラー プロファイルと異なるカラー プロファイルを使用してカラー分解を出力する場合は、[カラー] タブをクリックして、[カラー プロファイル] リスト ボックスからカラー プロファイルを選択します。

スポット カラーをプロセス カラーに変換するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [分解] オプションをオンにします。
- 4 [スポット カラーを変換] チェック ボックスをオンにします。



スポット カラーをプロセス カラーに変更しても、オリジナルのCorel PHOTO-PAINT ファイルは影響を受けません。また、これは、カラーをプリンタに送信する方法に影響します。

ハーフトーン スクリーンをカスタマイズするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [分解] オプションをオンにします。
- 4 [カラー分解] タブをクリックします。
- 5 [オプション] 領域で、[アドバンス設定] をクリック します。
- 6 以下のいずれかの設定を変更します。
 - スクリーニング テクノロジー
 - 解像度
 - 標準スクリーン
 - ハーフトーンの種類



スクリーン密度、スクリーン角度、およびオーバープリントのオプションは、プロセス カラーだけでなくスポット カラーについても設定できます。たとえば、2 つのスポット カラーで構成されるグラデーション塗りつぶしがある場合、一方のスクリーン角度を 45 °に、もう一方を 90 °に設定できます。

カラー トラッピングとオーバープリント

カラーをトラッピングすると、カラー分解印刷のずれが目立たないようにカラーが意図的に重ねられます。手動トラッピングでは、1 つのカラーを別のカラーにオーバープリントする必要があります。オーバープリントでは、カラーの上に別のカラーが印刷されます。オーバープリント トラッピングは、上のカラーが下のカラーより濃い場合に最も効果的です。逆の場合は、重複する部分に好ましくない第 3 カラーが現れる場合があります。

印刷が準備できたら、カラー分解のオーバープリントを選択してオーバープリントの設定を保存できます。また、カラー分解を印刷する順番や、グラフィック、テキスト、またはその両方をオーバープリントするかどうかを指定できます。

選択したカラー分解をオーバープリントするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [分解] オプションをオンにします。
- 4 [カラー分解] タブをクリックします。
- 5 [オプション] 領域で、[アドバンス設定] をクリック します。
- 6 [スクリーニング テクノロジー] リスト ボックスからカラー分解を選択します。
- 7 [オーバープリント]列で次のアイコンのいずれか、または両方をクリックします。

- グラフィックのオーバープリント 
- テキストのオーバープリント 



カラー分解にオーバープリントが設定されると、アイコンは濃いカラーになります。



カラー分解の印刷順を変更する場合は、カラー分解を選択し、[重ね順] リスト ボックスから順番を選択します。

コンポジットを印刷する

校正用としてカラー、テキスト、オブジェクトをすべて 1 枚のシートに盛り込んだイメージのコンポジットを印刷できます。コンポジットにおいて、連続階調は線状に印刷されるハーフトーン ドットでシミュレートされます。1 インチ当たりの線数 (lpi) の値を大きくすると、ハーフトーン ドットのサイズと間隔が小さくなり、より精緻な出力が得られます。

コンポジットを印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [カラー] タブをクリックします。
- 3 [コンポジット] オプションをオンにします。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - カラー校正 — カラー校正設定をドキュメントに適用します
 - ドキュメント カラー — ドキュメントのカラー設定を適用しますPostScript プリンタを選択した場合は、[カラー変換] リスト ボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。
 - Corel PHOTO-PAINT — カラー変換を実行します。
 - (選択したプリンタ) — 選択したプリンタがカラー変換を実行します (このオプションを利用できるのは PostScript プリンタのみです)
- 5 [カラーの出力] リスト ボックスからカラー モードを選択します。
印刷時にすべてのドキュメント カラーを特定のカラー モードへマージすることができます。
- 6 [カラー プロファイル] リスト ボックスから、特定プリンタへの印刷時に色を補正するためのカラー プロファイルを選択します。
- 7 [レンダリング方法] リスト ボックスから、イメージの最終出力に応じてレンダリング方法を選択します。
レンダリング方法について詳しくは、232 ページの「レンダリング方法とは?」を参照してください。
- 8 [コンポジット] タブをクリックします。
- 9 [スクリーン密度] リスト ボックスからスクリーン線数を選択します。
- 10 [適用] をクリックします。

フィルムに印刷する

ネガを作成するプリント ジョブを設定できます。イメージセッタは、フィルムにイメージを出力します。使用する印刷デバイスによってはこのフィルムのネガが必要になる場合があります。印刷サービスセンターに、イメージをフィルム出力できるかどうか問い合わせてください。

エマルジョン面を下にして印刷するように指定することができます。エマルジョン面を下にして印刷すると、デスクトップ プリンタではイメージが裏返しになります。

ネガを印刷するには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [用紙/フィルムの設定] 領域で、[反転] チェック ボックスをオンにします。



デスクトップ プリンタで印刷する場合は、ネガを選択しないでください。

フィルムのエマルジョン面を下にするには

- 1 [ファイル] ▶ [印刷] をクリックします。
- 2 [プリプレス] タブをクリックします。
- 3 [用紙/フィルムの設定] 領域で、[ミラー] チェック ボックスをオンにします。

キャンバス印刷

[キャンバス準備] ドッキング ウィンドウを使用すると、簡単な 3 ステップの操作でキャンバス印刷用の写真やイメージを用意できます。イメージのサイズを変更し、微調整して引き伸ばすことで、ウォール アート用に最適な構成にすることができます。

最初に、イメージの縦横比を保ったままサイズを変更し、印刷サイズを指定します。最良の結果を得るには、まず小さいほうのサイズを指定します。たとえば、最終的に 8 x 10 インチの横方向のイメージを印刷する場合は、高さを 8 に設定します。幅の値はそのままにしてください。

2 番目に、イメージをトリミングして印刷サイズを微調整します。正確な高さや幅を指定してから、イメージ ウィンドウでサイズを調整できます。キャンバスに印刷して枠に張ると、トリミングされたイメージがウォール アートの画面を構成する要素になります。

3 番目に、キャンバスに印刷して枠に張ったときに重要なイメージの細部が失われないようにするため、伸縮量を指定します。イメージを引き伸ばすと、イメージの枠のピクセルがコピーされて周囲に追加されます。イメージのエッジを伸縮またはミラー化して、イメージを引き伸ばすことができます。引き伸ばした領域は、最終出力で枠に巻き付ける部分になります。



イメージのエッジを引き伸ばすか (左)、イメージのエッジをミラー化します (右)。長方形の外側にある伸縮された領域は、最終出力で枠に巻き付けられます。(アートワーク: Dmitri Demidenko)

キャンバス印刷用のイメージを用意するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ ドッキング ウィンドウ ▶ [キャンバス準備] をクリックします。
- 2 [縦横比を維持してイメージのサイズを変更] ボタン  をクリックします。
- 3 [縦横比を維持してサイズを変更] 領域で、[幅] または [高さ] ボックスに目的の値を入力して、[サイズ変更] をクリックします。
他のボックスの値が自動的に調整され、[選択イメージ] 領域に新しい寸法が表示されます。
- 4 [イメージのトリム] ボタン  をクリックし、[幅] ボックスと [高さ] ボックスに目的の正確な幅と高さの値を入力します。トリムする領域に赤いオーバーレイが表示されます。
必要に応じて [イメージの調整] ボタン  をクリックし、トリム領域の長方形を移動して、残したいイメージ要素が表示されるようにします。
- 5 [トリム] をクリックします。
- 6 [伸縮イメージ] ボタン  をクリックし、[伸縮] 領域で次のいずれかのボタンをクリックします。
 - イメージのエッジの伸縮  — イメージのエッジを引き伸ばして表示します
 - すべての方向にイメージをミラー化  — イメージのエッジを反転してイメージの周囲に貼り付けます
- 7 [奥行き] ボックスに値を入力し、[適用] をクリックします。

印刷サービス プロバイダを使用する

印刷サービス プロバイダはファイルを受け取り、直接それをフィルムや版に出力します。

印刷用にプリント ジョブを準備するときは、カメラ対応の用紙に印刷した版下イメージを渡すか、イメージをディスクに保存して渡します。イメージをディスクに出力する場合、印刷サービス プロバイダ側では、PostScript ファイルまたは使用しているアプリケーション固有のファイル形式のファイルのいずれかを必要とします。イメージセッタやプレートセッタに送信するファイルを作成する場合は、最適なファイル形式と使用する印刷デバイスの設定について印刷サービス プロバイダに問い合わせてください。たとえモノクロのものでも、最終的な出力イメージを印刷サービス プロバイダに必ず渡すようにしてください。印刷サービス プロバイダで潜在的な問題を検出して解決する際に役立ちます。

描画を印刷する前に、適切なプリンタ ドライバを選択して正しく設定する必要があります。プリンタ ドライバの設定方法については、プリンタ メーカーのマニュアルまたは印刷を依頼する印刷サービス プロバイダや印刷業者に問い合わせてください。

ファイル形式

PDF へのエクスポート.....	531
オフィス生産性アプリケーションを使用する.....	541
RAW カメラ ファイル.....	543
サポートされているファイル形式.....	551



PDF へのエクスポート

PDF は、元のアプリケーション ファイルに含まれる **フォント**、**イメージ**、**グラフィック**、および **フォーマット** を保存するためのファイル形式です。複数のイメージを 1 つの PDF ファイルに保存してコンパクトなフォト アルバムを作成し、配布することもできます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 531 の「PDF へのエクスポート」。
- ページ 533 の「PDF ハイパーリンク、ブックマーク、サムネール」。
- ページ 534 の「PDF ファイル サイズを縮小する」。
- ページ 535 の「PDF ファイルのエンコード」。
- ページ 535 の「PDF カラー マネジメント オプション」。
- ページ 536 の「PDF セキュリティ オプション」。
- ページ 538 の「PDF ファイルを最適化する」。
- ページ 538 の「PDF プリフライトの概要」。
- ページ 539 の「印刷プロバイダ用に PDF ファイルを準備する」。

PDF へのエクスポート

ドキュメントを PDF ファイルとしてエクスポートすることができます。PDF ファイルは、Adobe Acrobat、Adobe Reader、または PDF 対応のリーダーがインストールされているコンピュータであれば、あらゆるプラットフォームで表示、共有、および印刷することができます。また、PDF ファイルをイントラネットや Web にアップロードすることもできます。

ドキュメントを PDF ファイルとしてエクスポートする際は、複数の PDF プリセットから選択でき、これによって特定の設定をファイルに適用できます。たとえば **Web** プリセットでは、オンラインでの閲覧に適した PDF を作成することができます。

また、PDF プリセットの新規作成、既存のプリセットの編集も可能です。PDF ファイルのセキュリティ設定は PDF プリセットで保存されません。PDF ファイルのセキュリティ オプションについては、536 ページの「PDF セキュリティ オプション」を参照してください。

ドキュメントを PDF ファイルとしてエクスポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[書き出し先]** ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 2 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 3 **[PDF プリセット]** リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。

- **アーカイブ (CMYK)** - アーカイブに適した PDF/A-1b ファイルを作成します。従来の PDF ファイルに比べ、PDF/A-1b ファイルは、より自己完結的で、特定のデバイスへの依存度も低いので、ドキュメントの長期的な保持に適しています。PDF/A-1b ファイルには、デバイス非依存のカラーと XMP メタデータ形式の独自の記述が含まれています。この PDF スタイルは、元のドキュメントに含まれるスポット カラーまたは Lab カラーを保持しますが、グレースケールや RGB などの他のカラーを CMYK カラー モードに変換します。また、このスタイルは、レンダリング デバイスで CMYK カラーをどのように解釈するかを指定するカラー プロファイルを埋め込みます。
- **アーカイブ (RGB)** - 前回のスタイルと同じように、スポット カラーまたは Lab カラーを保持する PDF/A-1b ファイルを作成します。他のすべてのカラーは、RGB カラー モードに変換されます。
- **現在の校正設定** - 校正カラー プロファイルを PDF に適用します。
- **ドキュメント配布** - レーザー プリンタまたはデスクトップ プリンタで印刷でき、通常のドキュメントの配布に適した PDF ファイルを作成します。このスタイルでは、ビットマップ イメージを JPEG 形式に圧縮し、ブックマークやハイパーリンクを入れることができます。
- **編集 - LZW** 形式に圧縮し、ハイパーリンク、ブックマーク、サムネールなどを入れたいことができます。このスタイルの PDF ファイルは、後で編集できるように、すべてのイメージ、ハイパーリンクが表示されます。 イメージは最大解像度で表示されます。
- **PDF/X-1a** - ビットマップ イメージを ZIP 形式に圧縮し、すべてのオブジェクトを CMYK カラー スペースに変換します。
- **PDF/X-3** - このスタイルは PDF/X-1a のサブセットです。PDF ファイルに CMYK データと CMYK 以外のデータ (Lab やグレースケールなど) の両方を保存できます。
- **プリプレス** - ビットマップ イメージを ZIP 形式に圧縮し、ハイエンドな印刷を実現するスポット カラー オプションを保存できます。印刷用 PDF ファイルを準備する前に、必ず印刷プロバイダに適切な設定についてお問い合わせください。
- **Web** - 電子メールでの配布や Web での公開など、オンライン表示を目的とした PDF ファイルを作成します。このスタイルでは、ファイルを素早く表示できます。ビットマップ イメージを JPEG 形式に圧縮し、ハイパーリンクを使用できます。

4 [設定] をクリックします。

[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 [エクスポートの範囲] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。

- **現行のドキュメント** - 現在のドキュメントをエクスポートします
- **ドキュメント** - 指定したドキュメントをエクスポートします
- **選択範囲** - 選択したオブジェクトをエクスポートします
- **現行のフレーム** - 選択したフレームをエクスポートします
- **フレーム** - 指定したフレームのみをエクスポートします

6 [OK] をクリックします。

7 [保存] をクリックします。

複数のドキュメントを 1 つの PDF ファイルとしてエクスポートするには

1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。

2 ファイルを保存するフォルダを選択します。

3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

4 [設定] をクリックします。

[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 [一般] タブで、[エクスポートの範囲] 領域から [ドキュメント] オプションを有効にします。

6 保存する各ドキュメントのチェック ボックスをオンにします。

7 [OK] をクリックします。

8 [保存] をクリックします。

PDF プリセットを作成するには

1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。

2 ファイルを保存するフォルダを選択します。

3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

- 4 [設定] をクリックします。
- 5 [PDF の設定] ダイアログ ボックスで必要な設定を行います。
- 6 [一般] タブをクリックします。
- 7 [PDF プリセット] リスト ボックスの横にある [PDF プリセットの追加] ボタン  をクリックします。
- 8 [PDF プリセットの保存形式] リスト ボックスにスタイル名を入力します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 [保存] をクリックします。



PDF スタイルを削除する場合は、スタイルを選択し、[PDF プリセット] リスト ボックスの横にある [PDF プリセットの削除] ボタン  をクリックします。

PDF プリセットを編集するには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [設定] をクリックします。
- 5 [PDF の設定] ダイアログ ボックスで必要な設定を行います。
- 6 [一般] タブをクリックします。
- 7 [PDF プリセット] リスト ボックスの横にある [PDF プリセットの追加] ボタン  をクリックします。
- 8 [PDF プリセットの保存形式] リスト ボックスから編集するスタイルを選択します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 [保存] をクリックします。



プリセット設定に対する変更を保存すると、元の設定が上書きされます。この問題を避けるには、プリセットに対する変更を別の名前で保存します。

PDF ハイパーリンク、ブックマーク、サムネール

ハイパーリンク、ブックマーク、およびサムネールを PDF ファイルに含めることができます。ハイパーリンクとは、Web ページやインターネット URL にジャンプするのに役立ちます。ブックマークは、PDF ファイルの特定の領域にリンクする機能です。Adobe Acrobat や Acrobat Reader で最初に PDF ファイルを開いたときに、ブックマークやサムネールを表示するかどうかを指定できます。

PDF ファイルにハイパーリンク、ブックマーク、サムネールを含めるには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [設定] をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [ドキュメント] タブをクリックします。
- 6 [ブックマーク] 領域で、次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - ハイパーリンクを含む

- **ブックマークの生成**
- **サムネールの生成**

起動時にブックマークやサムネールを表示する場合は、**[開始時]** 領域で**[ブックマーク]** または **[サムネール]** ボタンをオンにします。

- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **[保存]** をクリックします。

PDF ファイル サイズを縮小する

ビットマップ イメージを圧縮して、PDF ファイルのサイズを縮小できます。ビットマップ イメージの圧縮形式には、**JPEG**、**LZW**、**ZIP** があります。JPEG 形式による圧縮では、100% (高画質、低圧縮率) ~ 1% (低画質、高圧縮率) の範囲でビットマップ イメージの圧縮の品質を指定できます。画質を高くするほど、ファイルのサイズは大きくなります。

カラー、グレースケール、またはモノクロのビットマップ イメージをダウンサンプリングして、ファイルのサイズを小さくすることもできます。

PDF ファイルでビットマップの圧縮を設定するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[PDF に書き出し]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 4 **[設定]** をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[オブジェクト]** タブをクリックします。
- 6 **[圧縮の種類]** リスト ボックスから次のいずれかを選択します。
 - なし
 - LZW
 - JPEG
 - ZIP
 - JP2
- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **[保存]** をクリックします。



JP2 (JPEG 2000) オプションは Adobe Acrobat 6.0 と Adobe Acrobat 8.0 と Adobe Acrobat 9.0 でのみ使用できます。



JPEG 形式の圧縮を選択した場合は、**[JPEG 画質]** スライダーを動かして圧縮の品質を指定することができます。

PDF ファイルでビットマップ イメージをダウンサンプリングするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[PDF に書き出し]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 4 **[設定]** をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[オブジェクト]** タブをクリックします。
- 6 必要に応じて次のチェック ボックスをオンにし、該当するボックスに値を入力します。

- カラー
- グレースケール
- モノクロ

7 [OK] をクリックします。

8 [保存] をクリックします。



カラー、グレースケール、およびモノクロのビットマップのダウンサンプリングが効果を発揮するのは、ビットマップ イメージの解像度が [ダウンサンプリング] で指定された解像度より高い場合のみです。

PDF ファイルのエンコード

ASCII とバイナリは、ドキュメントのエンコード形式です。ファイルを PDF に書き出す場合は、ASCII ファイルまたはバイナリファイルのエクスポートを選択できます。ASCII 形式のファイルは、あらゆるプラットフォームに移植できます。バイナリ形式のファイルはサイズが小さくなりますが、プラットフォームによってはこのファイル形式を処理できないため、移植性は低下します。

PDF ファイルのエンコード形式を指定するには

1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。

2 ファイルを保存するフォルダを選択します。

3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

4 [設定] をクリックします。

[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

5 [ドキュメント] タブをクリックします。

6 次のいずれかのオプションを選択します。

- ASCII 85
- バイナリ

7 [OK] をクリックします。

8 [保存] をクリックします。

PDF カラー マネジメント オプション

PDF ファイルのエクスポート時にカラー マネジメント オプションを指定することができます。また、カラー プロファイルを選択するか、オブジェクトを元のカラー スペースのままにすることもできます。また、PDF ヘカラー プロファイルを埋め込むこともできます。

ファイルにスポット カラーが含まれている場合は、スポット カラーを維持することも、ファイルから CMYK 出力用の 4 つの版を作成するためにスポット カラーをプロセス カラーに変換することもできます。

ドキュメントのソフト校正の目的で PDF へエクスポートする場合は、ドキュメントのカラー校正設定を適用することができます。さらに、ドキュメントのオーバープリントや黒のオーバープリントなどを防ぐために追加のソフト校正オプションを選択することができます。

PDF ファイルのエクスポートでのカラー マネジメント オプションを指定するには

1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。

2 ファイルを保存するフォルダを選択します。

3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

4 [設定] をクリックします。

[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

- 5 [カラー] タブをクリックします。
- 6 [ドキュメント カラー設定の使用] オプションをオンにします。
- 7 [カラーの出力方法] リスト ボックスからカラー プロファイル オプションを選択します。
 - RGB
 - CMYK
 - グレースケール
 - ネイティブ
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 [保存] をクリックします。

可能な操作

校正カラー プロファイルを PDF に適用する

[カラー校正設定の使用] オプションをオンにします。

ドキュメントに適用されたすべてのスポット カラーを選択した色校正へ変換します

[スポット カラーを変換] チェック ボックスをオンにします。

カラー プロファイルを PDF に埋め込む

[カラー プロファイルの埋め込み] チェック ボックスをオンにします。

PDF セキュリティ オプション

作成する PDF ファイルを保護するためのセキュリティ オプションを設定できます。セキュリティ オプションを使用することで、Adobe Reader で表示される PDF ファイルのアクセス、編集、再現を可能にするかどうかと、それらをどの程度まで可能にするかを制御できます。

利用可能なセキュリティのレベルは、PDF ファイルを作成するのに使用する Adobe Reader のバージョンによって決定されます。Adobe Reader によって提供される暗号化レベルは、時間の経過とともに増加されてきました。たとえば、Adobe Reader バージョン 6 以前に保存する場合は、標準エンコーディングであり、バージョン 8 は 128 ビット エンコーディング、バージョン 9 は 256 ビット エンコーディングです。バージョンの選択について詳しくは、[538 ページの「PDF ファイルを最適化する」](#)を参照してください。

セキュリティ オプションは、権限パスワードと文書を開くパスワードの 2 つのパスワードで制御されます。

権限パスワードは、ファイルを印刷、編集、コピーできるかどうかを制御するマスター パスワードです。たとえば、ファイルの所有者は、ファイルの内容の一貫性を保護するために、編集を許可しない権限設定を選択できます。

また、文書を開くパスワードを設定すると、ファイルにアクセスできる人を制限できます。たとえば、ファイルに機密情報が含まれており、ファイルを表示できるユーザーを制限する場合は、文書を開くパスワードを設定します。権限パスワードを設定しないまま文書を開くパスワードを設定しないでください。

セキュリティ オプションは PDF ファイルを保存するときに適用されます。この設定は、Adobe Acrobat で PDF ファイルを開くときに表示できます。

PDF ファイルの権限を設定するには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

- 4 **[設定]** をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - 5 **[セキュリティ]** タブをクリックします。
 - 6 **[権限パスワード]** チェック ボックスをオンにします。
 - 7 **[パスワード]** ボックスにパスワードを入力します。
 - 8 **[パスワードの確認]** ボックスにもう一度パスワードを入力します。
 - 9 **[印刷を許可]** リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **なし** - PDF を画面に表示できますが、PDF ファイルを印刷することはできないようにします。
 - **低解像度** - PDF ファイルの低解像度バージョンを印刷できるようにします。このオプションは、Adobe Acrobat 5 以降と互換性がある PDF ファイルで使用できます。
 - **高解像度** - PDF ファイルの高解像度バージョンを印刷できるようにします。
 - 10 **[編集を許可]** リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - **なし** - PDF ファイルを編集できないようにします。
 - **ページの挿入、削除、回転** - PDF ファイルを編集する際に、ページを挿入、削除、回転できます。このオプションは、Adobe Acrobat 5 以降と互換性がある PDF ファイルで使用できます。
 - **ページの抽出を除くすべての操作** - PDF ファイルを編集できますが、ファイルからページを削除することはできないようにします。
- PDF ファイルの内容を他のドキュメントにコピーすることを許可する場合は、**[内容のコピーを有効にする]** チェック ボックスをオンにします。
- 11 **[OK]** をクリックします。
 - 12 **[保存]** をクリックします。



権限パスワードはドキュメントのマスター パスワードです。このパスワードを使用して、ファイルの所有者が権限を設定したり、文書を開くパスワードが設定されている場合にファイルを開いたりすることができます。

一部の PDF 互換性オプション (**PDF/X-3** や **PDF/A-1b** など) では、PDF ファイルの権限を設定できません。上記の互換性オプションを選択した場合、**[セキュリティ]** ページのすべてのコントロールは無効になります。互換性を変更するには、538 ページの「[互換性オプションを選択するには](#)」を参照してください。

PDF ファイルのユーザー パスワードを設定するには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[PDF に書き出し]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
- 4 **[設定]** をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 **[セキュリティ]** タブをクリックします。
- 6 **[文書を開くパスワード]** チェック ボックスをオンにします。
- 7 **[パスワード]** ボックスにパスワードを入力します。
- 8 **[パスワードの確認]** ボックスにもう一度パスワードを入力します。
- 9 **[OK]** をクリックします。
- 10 **[保存]** をクリックします。



文書を開くパスワードを設定する場合は、権限パスワードも設定することをお勧めします。

PDF ファイルを最適化する

PDF ファイルの受信者が使用するビューアの種類に合った互換性オプションを選択すると、別バージョンの Adobe Acrobat または Acrobat Reader 向けに PDF ファイルを最適化できます。Corel PHOTO-PAINT では、次のいずれかの互換性オプションを選択できます。Acrobat 4.0、Acrobat 5.0、Acrobat 6.0、Acrobat 8.0、Acrobat 9.0、PDF/X-1a、PDF/X-3、または PDF/A-1b。選択した互換性オプションによって使用できるコントロールが異なります。PDF ファイルを広範囲に配布する場合は、旧バージョンの Acrobat でもファイルを表示できるよう、Acrobat 8.0 や 9.0 などの旧バージョンとの互換性オプションを選ぶことをお勧めします。ただし、セキュリティが懸念される場合は、暗号化レベルが高い最新バージョンを選択します。詳しくは、536 ページの「PDF セキュリティ オプション」を参照してください。

互換性オプションを選択するには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [設定] をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [一般] タブをクリックします。
- 6 [互換性] リスト ボックスから、互換性オプションを選択します。

PDF プリフライトの概要

PDF ファイルとしてドキュメントを保存する前に、ドキュメントをプリフライトして (点検して) 潜在的な問題を確認することができます。プリフライトでは、エラーの概要、潜在的な問題、および問題の解決方法の確認および表示を行います。プリフライト時、デフォルトでは、PDF ファイルのさまざまな問題がチェックされますが、チェックする必要がない問題は、チェックの対象外にすることができます。

PDF ファイルのプリフライト概要を表示するには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [設定] をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [プリフライト] タブをクリックします。
プリント ジョブに問題がない場合は、タブ名に **問題なし** と表示されます。問題がある場合は、タブ名に検出された問題の数が表示されます。
プリフライト時にチェックする問題を制限するには、[プリフライト] タブをクリックし、[設定] ボタン  をクリックし、[プリフライトの設定] ダイアログ ボックスで、プリフライトによるチェックの対象外にする問題の隣にあるチェック ボックスをオフにします。



設定を保存する場合は、[プリフライトの設定の追加] ボタン  をクリックし、[プリフライト スタイルの保存] ボックスに名前を入力します。

印刷プロバイダ用に PDF ファイルを準備する

印刷マークにより、印刷方法に関する情報を印刷プロバイダに提供できます。ページ上に表示する印刷マークを指定できます。使用可能な印刷マークは、次のとおりです。

- **トンボ** - 用紙の角に印刷され、用紙のサイズを表します。用紙を裁断するときの基準としてトンボを配置します。1 枚の用紙に複数のページを印刷する場合 (2 行 × 2 列など) は、ページの端より外側にトンボを配置して裁断後にすべてのトンボが削除されるようにすることも、各行および各列の周囲にトンボを配置することもできます。**ブリードの制限**とは、イメージがトンボの外にはみ出る幅のことです。プリント ジョブがページの端まで達するようブリードを使用するには、ブリードの制限を設定する必要があります。ブリードは、印刷している紙が最終的に必要な紙のサイズより大きく、イメージ領域が最終的な紙のサイズからはみ出る必要があります。
- **レジストレーション マーク** - カラー印刷機でフィルムを並べて色版を校正するために必要です。レジストレーション マークは、カラー分解のすべての用紙に印刷されます。
- **濃度計スケール** - 淡から濃まで一連のグレーの四角形が並んだものです。これらのボックスは、**ハーフトーン** イメージの濃度を調べるために必要です。濃度計スケールは、ページの任意の場所に配置できます。濃度計スケールの 7 つの四角形に表示されるグレーの濃度を調整することもできます。
- **ファイル情報** - カラー プロファイル、ハーフトーン設定、イメージの名前と作成の日付と時刻、版番号、ジョブ名を含めて印刷します。

PDF ファイルに印刷マークを含めるには

- 1 [ファイル] ▶ [PDF に書き出し] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 4 [設定] をクリックします。
[PDF の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 5 [プリプレス] タブをクリックします。
- 6 次のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - トンボ
 - ファイル情報
 - レジストレーション マーク
 - 濃度計スケール

ブリードを含めるには、[ブリードの制限] チェック ボックスをオンにし、対応するボックスにブリードの量を入力します。



通常、ブリードの量は 3~6 mm に設定すれば十分です。この値に設定したブリードからはみ出るオブジェクトがあると、不必要にスペースを使用し、ブリードのある複数のページを 1 枚の用紙に印刷するときに問題が発生する可能性があります。



オフィス生産性アプリケーションを使用する

Corel PHOTO-PAINT は、Microsoft Word や WordPerfect などのオフィス生産性アプリケーションとの高い互換性を備えています。たとえば、アプリケーション間でファイルをインポート/エクスポートすることや、Corel PHOTO-PAINTからオフィス生産性アプリケーションのドキュメントにオブジェクトをコピー、移動、または挿入することができます。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 541 の「ファイルをオフィス生産性アプリケーションにエクスポートする」。
- ページ 541 の「オブジェクトをドキュメントに追加する」。

ファイルをオフィス生産性アプリケーションにエクスポートする

ファイルをエクスポートして、Microsoft Word や WordPerfect などのオフィス生産性アプリケーション使用に最適化することができます。Corel PHOTO-PAINT からのファイルのエクスポートについて詳しくは、106 ページの「Microsoft Office または Corel WordPerfect Office にイメージをエクスポートするには」を参照してください。

オブジェクトをドキュメントに追加する

Corel PHOTO-PAINT を使用すると、オブジェクトをコピーしてイメージに貼り付けることができます。また、オブジェクトをコピーして、Microsoft Word や WordPerfect などのオフィス生産性アプリケーションで作成したドキュメントに配置することもできます。オブジェクトのコピーについて詳しくは、416 ページの「オブジェクトを移動/コピー/削除する」を参照してください。

オブジェクトをオフィス生産性アプリケーションのドキュメントに挿入できます。オフィス生産性アプリケーションのドキュメントへのオブジェクトの挿入について詳しくは、445 ページの「リンク オブジェクトまたは埋め込みオブジェクトを別のアプリケーションに挿入する」を参照するか、オフィス生産性アプリケーションのヘルプを参照してください。



RAW カメラ ファイル

Corel PHOTO-PAINT

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 543 の「RAW カメラ ファイルを使用する」。
- ページ 544 の「Corel PHOTO-PAINT に RAW カメラ ファイルをインポートする」。
- ページ 546 の「RAW カメラ ファイルのカラーとトーンを調整する」。
- ページ 549 の「RAW カメラ ファイルをシャープ化してノイズを低減する」。
- ページ 549 の「RAW カメラ ファイルをプレビューしてイメージ情報を取得する」。

また、AfterShot 3 HDR をダウンロードして RAW カメラ ファイルを編集および処理することもできます。詳しくは、[117 ページの「AfterShot 3 HDR」](#) を参照してください。

RAW カメラ ファイルを使用する

RAW カメラ ファイルには、デジタル カメラのイメージ センサーによってキャプチャされた画像データが含まれます。これらのファイルは RAW (未処理) と呼ばれます。なぜなら JPEG ファイルや TIFF ファイルとは異なり、カメラ内の処理としては最小限のものだけが含まれており、イメージ編集アプリケーションで印刷のための編集や準備を行う必要があるからです。

RAW カメラ ファイルにより、カメラで自動的なカラーの調整や変換を行わずに、イメージ データの処理を制御できます。RAW イメージの品質を損なわずに、そのホワイト バランス、トーン範囲、コントラスト、彩度、およびシャープ度を調整できます。さらに、RAW イメージをいつでも再処理して必要な結果を得ることができます。この意味で、RAW カメラ ファイルは露出済みの現像されていないフィルムと比較できます。

RAW カメラ ファイルを利用するには、RAW ファイル形式でファイルを保存するよう、カメラを設定する必要があります。Corel PHOTO-PAINT は、サポートしているカメラのモデルから RAW カメラ ファイルを開いたり、インポートしたりできます。サポートしているカメラには、次のものがあります。

- Canon EOS-1D X、Canon EOS 650D、Canon 5D Mark III、Canon G1-X、Canon ID-X、Canon EOS 6D、Canon A3300、Canon EOS C500、Canon EOS SX50
- Casio EX-ZR100
- Fuji X-Pro1、Fuji X-S1、Fuji XS50、Fuji X20、Fuji X100S、Fuji SL1000、Fuji X-E1、および Fuji XF1
- Olympus XZ-10
- Pentax K-5 II (s)
- Samsung EX2F、Samsung NX300、Samsung NX1000、Samsung NX20

- シグマ SD1、シグマ SD15、シグマ DP カメラ
- ソニー RX100

また、Adobe の非可逆 DNG (Digital Negative、デジタル ネガティブ) ファイル フォーマットや Imacon Flexframe 3f フォーマットもサポートされるようになりました。

サポートされているカメラについては、[Corel Knowledge Base](#) にアクセスしてください。

Corel PHOTO-PAINT に RAW カメラ ファイルをインポートする

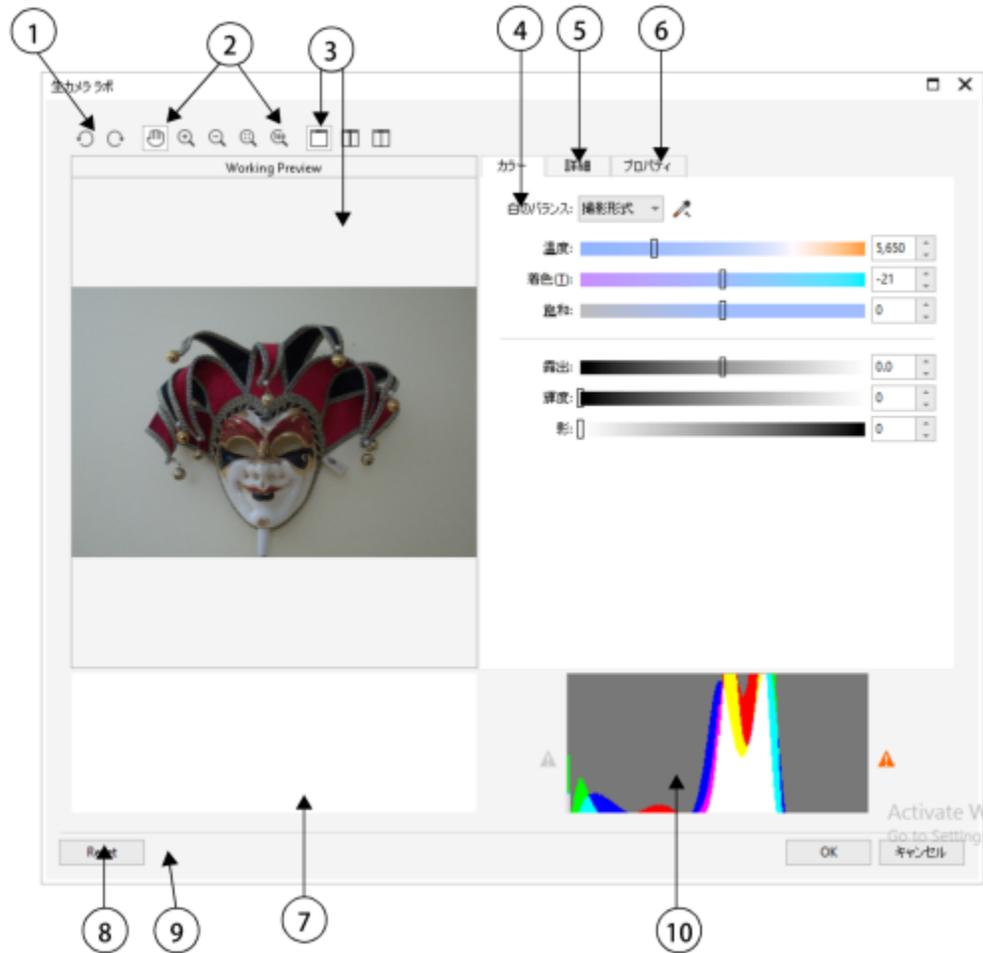
Corel PHOTO-PAINT で 1 つまたは複数の RAW カメラ ファイルを開くと、最初に [カメラ RAW ラボ] に表示されます。[カメラ RAW ラボ] の各コントロールを使用して、RAW カメラ イメージのカラーやトーンを調整できます。ファイルの調整を完了したら、その調整内容を残りのファイルに適用できます。

RAW カメラ ファイルの処理が終わったら、それらを Corel PHOTO-PAINT で利用可能なツールや効果を使用してさらに編集できます。その後、RAW カメラ ファイルを TIFF ファイルまたは JPEG ファイルとして保存したり、Corel PHOTO-PAINT でサポートされている他のファイル形式に保存したりすることができます。

Corel PHOTO-PAINT では RAW カメラ ファイルを RAW カメラ ファイル形式には保存できないことに注意してください。[カメラ RAW ラボ] で RAW カメラ ファイルに対して行った変更は、そのファイルをサポートされているファイル形式に保存しないと失われます。

RAW カメラ ファイルを処理する

[カメラ RAW ラボ] では、RAW カメラ イメージのカラー補正やその他の調整を行うためのコントロールが論理的な順序で編成されています。調整は **[カラー]** ページの一番上から始めることをお勧めします。イメージのカラーやトーンの補正が終わったら、**[詳細]** ページの各コントロールを使用して、そのイメージをシャープ化したりノイズを除去したりすることができます。**[カラー]** ページの設定について詳しくは、546 ページの「RAW カメラ ファイルのカラーとトーンを調整する」を参照してください。**[詳細]** ページの設定について詳しくは、549 ページの「RAW カメラ ファイルをシャープ化してノイズを低減する」を参照してください。



Camera RAW Lab: ラボの主要コンポーネントについて、次の表で説明します。丸数字は、表内の番号に対応しています。

コンポーネント

1.2. 回転ツール

2.ズーム/スクロールのツール

3.プレビュー モードとプレビュー ウィンドウ

4.[カラー] ページ

説明

イメージを時計回りおよび反時計回りに 90 度回転できます。

プレビュー ウィンドウに表示されたイメージをズーム イン/ズーム アウトしたり、100% を超えるズーム レベルで表示されたイメージをスクロールしたり、イメージをプレビュー ウィンドウに合わせて表示することができます。

RAW カメラ イメージに施された調整結果を単独のウィンドウまたは分割されたウィンドウでプレビューできます。元のイメージと調整後のイメージを比較するために横に並べて表示できます。

RAW カメラ イメージのカラーやトーンを調整できるツールが含まれていて、色かぶりを解消して表示されていない細部を明らかにすることができます。

コンポーネント

説明

5. [詳細] ページ

RAW カメラ イメージからノイズを除去できるコントロールが含まれています。

6. [プロパティ] ページ

RAW カメラ イメージに関する情報 (サイズ、カラー モード、カメラ設定など) を表示できるコントロールが含まれています。

7. [元に戻す] および [やり直し] ボタン

直前に実行した操作を元に戻したり、やり直したりすることができます。

8. [リセット] ボタン

すべての補正を取り消して、元の RAW カメラ イメージを使用してやり直せます。

9. スナップショットの作成

イメージの補正バージョンをいつでも「スナップショット」でキャプチャできます。スナップショットのサムネールがイメージの下のウィンドウに表示されます。

10. ヒストグラム

イメージのトーン範囲をプレビューできます。

RAW カメラ ファイルをインポートするには

1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。

2 1 つまたは複数の RAW カメラ ファイルを選択して、[開く] または [インポート] をクリックします。

3 [生カメラ ラボ] で、RAW カメラ イメージのカラーやトーンを調整します。必要に応じて、イメージをシャープ化したりノイズの量を減らしたりすることもできます。

複数の RAW カメラ ファイルを選択し、それらすべてに同じ調整を適用する場合は、[残りのファイルすべてに適用] チェックボックスをオンにします。



[カメラ RAW ラボ] では、RAW カメラ イメージを処理する前に切り抜いたり、リサンプルしたりすることができます。詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージを切り抜くには」と76 ページの「インポート時にイメージをリサンプルするには」を参照してください。

イメージを回転するには、[左に回転] ボタン  または [右に回転] ボタン  をクリックします。

RAW カメラ ファイルのカラーとトーンを調整する

イメージのカラーやトーンは、以下の設定を使用して調整できます。

カラー深度

カラー深度は、イメージに使用できるカラーの数を示します。RAW カメラ ファイルを使用する 1 つの利点は、それらが JPEG または TIFF ファイルとして保存された写真よりも多くのカラーを使用できることです。このようにカラーが多いほど、カラーを正確に再現したり、シャドウの細部を表現したり、輝度レベルを調整することが容易になります。

[カメラ RAW ラボ] では、RAW カメラ ファイルを 48 ビットまたは 24 ビットのイメージとして処理できます。48 ビットのイメージは、より正確なカラー表現を提供し、レタッチの際にイメージの品質が損なわれるのを防ぎます。Corel PHOTO-PAINT で使用可能な特殊効果のいくつかは、48 ビットのイメージには適用できないことに注意してください。

ホワイトバランス

ホワイトバランスは、イメージから不自然な色かぶりを除去して、イメージのカラーが現実世界と同じように表示されるようにするプロセスです。ホワイトバランスでは、写真が撮影された照明条件を考慮し、カラーバランスを設定して写実的なイメージカラーを再現します。

デフォルトでは、RAW カメラ ファイルが Corel PHOTO-PAINT に読み込まれるときは、ホワイトバランスのカメラ設定が反映されます。この設定は、**[ホワイトバランス]** リストボックスにプリセットの**[撮影形式]**として表示されます。この設定に満足しない場合は、プリセットの**[自動]**を選択することにより、ホワイトバランスを自動的に調整させることができます。以下のいずれかのプリセットを適用することができます。**昼光**、**曇り**、**シェード**、**タングステン**、**蛍光灯**、または**フラッシュ**。これらのプリセットでは、さまざまな照明条件をシミュレートできます。



ホワイトバランスが正しくない RAW カメラ イメージ(左)、ホワイトバランスが調整されている同じイメージ(右)

さらに**スポイト** ツールを使用して、プレビュー ウィンドウでサンプリングした白またはグレーの点に従ってイメージ内のコントラストを自動調整できます。

[ホワイトバランス] オプションによって必要な結果が得られなかった場合は、以下のコントロールを使用して色かぶりを除去することもできます。

- **[色温度]** スライダー - イメージのカラー温度を調整することで色かぶりを修正して、写真撮影時の照明条件を補正します。たとえば、室内の薄暗い白熱灯で撮影した写真の黄色の色かぶりを補正するには、スライダーを左に動かします。逆に、強い照明条件によって発生した青色の色かぶりを補正するには、スライダーを右に動かします。
- **[着色]** スライダー - イメージの緑またはマゼンタを調整して、色かぶりを修正します。スライダーを右に動かすと緑を増やし、左に動かすとマゼンタを増やすことができます。**[色温度]** スライダーを使用してから **[着色]** スライダーを動かすと、イメージを微調整できます。

トーンの調整

以下のコントロールを使用して、RAW カメラ ファイルのトーンを調整できます。

- **[彩度]** スライダー - カラーの鮮やかさを調整します。たとえば、このスライダーを右に動かすとイメージの青空がより鮮明になります。スライダーを左に動かすと、カラーの鮮やかさは薄れます。
- **[露出]** スライダー - 写真撮影時の照明条件を補正できます。露出は、デジタル カメラのイメージ センサーに当たることが許される照明の量です。露出の値が高いと完全に白い (細部が表現されていない) 領域となり、値が低いとシャドウが多くなります。露出の値 (EV) は -3.0 ~ + 3.0 です。
- **[輝度]** スライダー - イメージ全体を明るくまたは暗くします。イメージの最も暗い領域だけを暗くする場合は、**[影]** スライダーを使用する必要があります。
- **[影]** スライダー - イメージの最も暗い領域の輝度を、明るい領域に影響を与えずに調整します。たとえば、写真撮影時に被写体の後ろに明るい光があると (逆光)、被写体が暗くなる場合があります。この写真を補正するには、**[シャドウ]** スライダーを右に動かして、暗い領域を明るくし、細部を鮮明にします。

ヒストグラムを使用する

調整を行っている間は、ヒストリグラムでイメージのトーン範囲を表示して、シャドウ領域やハイライト領域のクリッピングをチェックできます。クリッピングとは、イメージに含まれるピクセルが白 (ハイライト クリッピング) または黒 (シャドウ クリッピング) にシフトすることです。クリッピングされたハイライト領域は完全に白く見えて細部が表示されません。クリッピングされたシャドウ領域は完全に黒く見えて細部が表示されません。

イメージにシャドウ クリッピングが含まれている場合は、ヒストグラムの左側のボタンに警告が表示されます。イメージにハイライト クリッピングが含まれている場合は、ヒストグラムの右側のボタンに警告が表示されます。プレビュー ウィンドウで、クリッピングされた領域にシェーディングを適用することもできます。

RAW カメラ ファイルのカラーとトーンを調整するには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 1 つまたは複数の RAW カメラ ファイルを選択して、[開く] または [インポート] をクリックします。
- 3 色かぶりを除去するには、[ホワイト バランス] リスト ボックスから[自動] オプションを選択します。
結果に満足しない場合は、**スポイト ツール**  を使用してイメージ内の白色または灰色をサンプリングすることにより、より正確にホワイト ポイントを設定できます。
- 4 次の表のタスクを実行します。

目的	作業手順
さまざまな照明条件をシミュレートする	[ホワイト バランス] リスト ボックスからオプションを選択します。
イメージ内のカラーを補正する	[色温度] スライダを調整してから、[着色] スライダを調整してカラー補正を微調整します。
カラーの鮮やかさを強くする/弱くする	[彩度] スライダを右に動かすとイメージのカラーの量が増加し、左に動かすとカラーの量が減少します。
露出を調整する	[露出] スライダを左に動かすと高露出のカメラ設定が補正され、右に動かすと低露出のカメラ設定が補正されます。
イメージを明るくする/暗くする	[輝度] スライダを右に動かすとイメージが明るくなり、左に動かすとイメージが暗くなります。
明るい領域を変更せずにイメージの暗い領域の輝度を調整する	[影] スライダを動かします。
クリッピングされたシャドウ領域を表示する	ヒストグラムの左のボタンをクリックします。
クリッピングされたハイライト領域を表示する	ヒストグラムの右のボタンをクリックします。



[スナップショットの作成] をクリックして、イメージの現在の状態をキャプチャできます。スナップショットのサムネールがイメージの下のウィンドウに表示されます。スナップショットには連続した番号が付けられ、この番号はスナップショットのタイトル バーの右上隅にある[閉じる] ボタンをクリックすると削除できます。

カラーやトーンの設定を一度に 1 段階ずつ変更するには、スライダの右のボックスをクリックして、**上矢印キー**または**下矢印キー**を押します。

[元に戻す] または[やり直し] をクリックして、直前の補正を元に戻したり、やり直したりすることができます。すべての補正を元に戻すには、[オリジナル イメージに戻す] をクリックします。

RAW カメラ ファイルをシャープ化してノイズを低減する

RAW カメラ ファイルをシャープ化して、イメージのエッジを強調できます。

RAW カメラ ファイルには、輝度ノイズ (グレースケール) やカラー ノイズ (彩度) が含まれている場合があります。このノイズは特にイメージの暗い領域で目立ちます。輝度ノイズは「ホワイト スノー」効果として現れます。カラー ノイズはイメージ領域に分散したさまざまなカラーのランダムなピクセルとして現れます。RAW カメラ ファイルのノイズを低減して、イメージの品質を高めることができます。



RAW カメラ イメージのノイズの量が低減される前 (左) および低減された後 (右)

RAW カメラ ファイルをシャープ化するには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 1 つまたは複数の RAW カメラ ファイルを選択して、[開く] または [インポート] をクリックします。
- 3 [生カメラ ラボ] で、[詳細] タブをクリックします。
- 4 [シャープ度] スライダを動かして、イメージのエッジを強調します。

RAW カメラ ファイルのノイズを低減するには

- 1 [生カメラ ラボ] で、[詳細] タブをクリックします。
- 2 次のスライダのいずれかを右に動かします。
 - [輝度ノイズ] - 輝度ノイズの量を低減します。
 - [カラーノイズ] - カラー ノイズの量を低減します。設定値を高くするほど、イメージのカラーの正確さが失われてゆく可能性があることに注意してください。



[輝度ノイズ] と [カラーノイズ] の設定を両方とも調整すると、より最適な結果が得られます。

RAW カメラ ファイルをプレビューしてイメージ情報を取得する

RAW カメラ ファイルをさまざまな方法でプレビューすることにより、カラーやトーンの調整結果を評価することができます。たとえば、イメージを回転したり、別の領域にスクロールしたり、ズーム イン/アウトしたり、処理したイメージのプレビュー ウィンドウでの表示方法を選択したりすることができます。

RAW カメラ ファイルのカラー モード、サイズ、解像度についての情報を得ることができます。さらに、写真撮影時に使用したカメラやカメラ設定についての情報を得ることができます。

RAW カメラ ファイルをプレビューするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 1 つまたは複数の RAW カメラ ファイルを選択して、[開く] または [インポート] をクリックします。
- 3 [生カメラ ラボ] で、次の表に示すいずれかの作業を実行します。

目的	作業手順
イメージの別の領域にスクロールする	スクロール ツール  を使用して、表示する領域が見えるまでイメージをドラッグします。
ズーム イン/アウトする	ズーム イン ツール  、または ズーム アウト ツール  を使用して、プレビュー ウィンドウでクリックします。 [ズーム] スライダをドラッグしてもズーム イン/ズーム アウトできます。
イメージをプレビュー ウィンドウに合わせる	[ページに合わせる] ボタン  をクリックします。
イメージを実寸で表示する	[100%] ボタン  をクリックします。
補正したイメージを単一プレビュー ウィンドウで表示する	[フルプレビュー] ボタン  をクリックします。
補正したイメージと元のイメージをそれぞれ別のウィンドウに表示する	[適用前後のフルプレビュー] ボタン  をクリックします。
分割線の付いた 1 つのウィンドウで、元のイメージと補正したイメージを表示する	[適用前後の分割プレビュー] ボタン  をクリックします。 ポインタを分割線 (破線) の上に移動し、分割線をイメージの別の領域にドラッグします。

RAW カメラ ファイルについての情報を取得するには

- [生カメラ ラボ] で [プロパティ] タブをクリックし、選択した RAW カメラ ファイルに関する利用可能なプロパティを表示します (カラー スペース、カメラの製造元および型番、焦点距離、露出時間、ISO スピードなど)。



サポートされているファイル形式

ファイル形式によって、アプリケーションでファイルに情報を保存する方法が定義されます。作成したファイルを現在使用しているアプリケーションとは異なるアプリケーションで使用する場合は、そのファイルをインポートする必要があります。また、あるアプリケーションで作成したファイルを別のアプリケーションで使用する場合は、そのファイルを別のファイル形式でエクスポートする必要があります。

ファイル名を指定すると、アプリケーションによってファイル拡張子が自動的に追加されます。通常、拡張子は 3 文字です (.cdr、.bmp、.tif、.eps など)。ファイル拡張子は、ユーザーやコンピュータが各種のファイル形式を区別するのに役立ちます。

次のリストには、このアプリケーションで使用されるすべてのファイル形式が含まれています。すべてのファイル形式のフィルタがデフォルトでインストールされるわけではないことに注意してください。このリストのファイルをエクスポート/インポートできない場合は、CorelDRAW Graphics Suite のインストールを更新する必要があります。詳しくは、20 ページの「インストールを修正および修復する」を参照してください。

- ページ 552 の「Adobe Illustrator (AI)」。
- ページ 552 の「Windows ビットマップ (BMP)」。
- ページ 553 の「OS/2 ビットマップ (BMP)」。
- ページ 553 の「コンピュータ グラフィックス メタファイル (CGM)」。
- ページ 554 の「CorelDRAW (CDR)」。
- ページ 554 の「Corel Presentation Exchange (CMX)」。
- ページ 555 の「Corel PHOTO-PAINT (CPT)」。
- ページ 555 の「カーソル リソース (CUR)」。
- ページ 555 の「AutoCAD Drawing Database (DWG) および AutoCAD Drawing Interchange Format (DXF)」。
- ページ 556 の「Encapsulated PostScript (EPS)」。
- ページ 558 の「PostScript (PS または PRN)」。
- ページ 559 の「GIF」。
- ページ 560 の「High Efficiency Image File Format (HEIF)」。
- ページ 561 の「JPEG (JPG)」。
- ページ 561 の「JPEG 2000 (JP2)」。
- ページ 563 の「Kodak Photo CD イメージ (PCD)」。
- ページ 564 の「PICT (PCT)」。
- ページ 565 の「PaintBrush (PCX)」。
- ページ 566 の「HPGL プロッタ ファイル (PLT)」。
- ページ 567 の「Portable Network Graphics (PNG)」。
- ページ 568 の「Adobe Photoshop (PSD)」。
- ページ 569 の「Corel Painter (RIF)」。

- ページ 570 の「TARGA (TGA)」。
- ページ 571 の「TIFF」。
- ページ 571 の「Google Web Picture (WEBP)」。
- ページ 573 の「WordPerfect Graphic (WPG)」。
- ページ 574 の「RAW カメラ ファイル形式」。
- ページ 574 の「Wavelet 圧縮ビットマップ (WI)」。
- ページ 574 の「その他のファイル形式」。
- ページ 575 の「グラフィックをインポートする際の推奨形式」。
- ページ 576 の「グラフィックをエクスポートする際の推奨形式」。

Adobe Illustrator (AI)

Adobe Illustrator (AI) ファイル形式は、Adobe Systems によって Windows プラットフォームおよび Macintosh プラットフォーム用に開発されました。このファイル形式は基本的にはベクトル ベースですが、最近のバージョンではビットマップ情報もサポートしています。

Adobe Illustrator ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 ファイル名をクリックします。
- 4 [インポート] をクリックします。
- 5 ファイルをインポートするイメージ ウィンドウ内をクリックします。
- 6 [ビットマップに変換] ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

Adobe Illustrator (AI) テクニカル ノート

AI ファイルをインポートする

- Adobe Illustrator CS4 までの AI ファイル形式をインポートできます。
- Corel PHOTO-PAINT ではマルチページをサポートしていないため、すべてのアートボード オブジェクトは 1 ページに配置されます。

Windows ビットマップ (BMP)

Windows ビットマップ (BMP) ファイル形式は、Windows オペレーティング システムでグラフィック イメージをビットマップとして表現するための標準形式として開発されました。

ビットマップ ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから[BMP - Windows ビットマップ](*.bmp; *.dib; *.rle) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。

ビットマップ ファイル形式で保存するには

- 1 [ファイル] ▶ [名前を付けて保存] をクリックします。

- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから **[BMP - Windows ビットマップ]** を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 **[保存]** をクリックします。

Windows ビットマップ (BMP) テクニカル ノート

BMP ファイルをインポートする

- Windows および OS/2 の BMP 仕様に準拠した Windows ビットマップ ファイルをインポートできます。
- Windows ビットマップ ファイルには、**モノクロ**、16 色、**グレースケール**、**パレット**、または **RGB カラー** (24 ビット) があり、ご使用のプリンタに合わせて印刷されます。
- RLE (Run-Length Encoding) 圧縮は、RGB カラー (24 ビット) およびモノクロ ビットマップ以外のすべてのビットマップで使用できます。
- 解像度は 72~300 dpi の範囲です。カスタム設定を選択すれば、さらに高い解像度を設定できます。
- 最大イメージ サイズは 64,535 x 64,535 **ピクセル**です。

BMP ファイルをエクスポートする

- **ビットマップ**などのラスター イメージは**ピクセル**単位でページにマッピングされるため、**解像度**は向上しません。ビットマップは解像度が低下して見え、「ギザギザ」が目立ちます。

OS/2 ビットマップ (BMP)

このタイプのビットマップ ファイルは、OS/2 オペレーティング システム向けに設計されています。OS/2 ビットマップ ファイル形式では、最大 64,535 x 64,535 ピクセルのイメージ サイズをサポートしています。OS/2 は RLE (Run-Length Encoding) 圧縮を使用します。

OS/2 ビットマップ (BMP) テクニカル ノート

- Corel プログラムは、OS/2 ビットマップ ファイル形式の標準バージョン 1.3 およびエンハンスド バージョン 2.0 以降のバージョンをサポートしています。
- Corel プログラムは、BMP ファイルのインポートとエクスポートに関して、1 ビット モノクロ、256 階調 (8 ビット) グレースケール、16 色 (4 ビット) パレット、256 色 (8 ビット) パレット、および 24 ビット RGB のカラー深度をサポートしています。

コンピュータ グラフィックス メタファイル (CGM)

コンピュータ グラフィックス メタファイル (CGM) は、2D グラフィックスの保存や交換に使用されるオープンでプラットフォームに依存しないメタファイル形式です。この形式は **RGB カラー**をサポートしています。CGM ファイル形式では、**ベクトル グラフィックス**と**ビットマップ**をどちらも保存できますが、通常はいずれか一方だけを保存し、両方を保存することはほとんどありません。

CGM ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[CGM - コンピュータ グラフィックス メタファイル](*.cgm)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 **[ビットマップに変換]** ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定をします。

コンピュータ グラフィックス メタファイル (CGM) テクニカル ノート

- CGM バージョン 1、3、および 4 形式のファイルをインポートできます。
- CGM フィルタは、CGM ファイル形式の標準でサポートされているマーカーのみに対応しています。個人で使用するマーカーは無視されます。
- CGM ファイルに、ご使用のコンピュータにないフォントがある場合は、[PANOSE フォントマッチング] ダイアログ ボックスで利用できるフォントに置き換えます。

CorelDRAW (CDR)

CorelDRAW (CDR) ファイルは、主にベクトル グラフィックで構成される描画です。ベクトルでは、ピクチャがグラフィックの根本要素 (長方形、線、テキスト、弧、および楕円) のリストとして定義されます。ベクトルはポイントごとにページにマッピングされるので、ベクトル グラフィックを拡大縮小しても元のイメージに歪みは生じません。

ベクトル グラフィックは、CorelDRAW などのグラフィック デザイン アプリケーションで作成および編集しますが、Corel PHOTO-PAINT などのイメージ編集アプリケーションで編集することもできます。また、デスクトップ パブリッシング プログラムでは、さまざまな形式のベクトル イメージを使用できます。

CorelDRAW ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [CDR - CorelDRAW](*.cdr) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 7 [ビットマップに変換] ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

CorelDRAW (CDR) テクニカル ノート

- インポートした CorelDRAW ファイルはラスタライズされます。
- リンクされたシンボルは内部のシンボルに変換されます。

Corel Presentation Exchange (CMX)

Corel Presentation Exchange (CMX) はメタファイル形式で、ビットマップ情報やベクトル情報のほか、PANTONE、RGB、および CMYK をフルカラーでサポートしています。CMX 形式で保存されたファイルは、他の Corel アプリケーションで開いて編集できます。

Corel Presentation Exchange ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスで、次のいずれかを選択します。
 - [CMX - Corel Presentation Exchange] — Corel Presentations X6 以降のバージョンで作成されたファイル用
 - [CMX - Corel Presentation Exchange Legacy] — Corel Presentations X5 以前のバージョンで作成されたファイル用
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。

- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 7 **[ビットマップに変換]** ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

Corel Presentation Exchange (CMX) テクニカル ノート

- サポートされているバージョンは、5、6、7、8、9、10、11、12、X3、X4、X5、および X6 です。
- Corel Presentation Exchange (CMX) ファイルは**ビットマップ**として Corel PHOTO-PAINT にインポートされます。

Corel PHOTO-PAINT (CPT)

Corel PHOTO-PAINT (CPT) ファイル形式で保存されるファイルは**ビットマップ**です。ビットマップでは、図形を**ピクセル**の配列で表してイメージを形成します。グラフィックを Corel PHOTO-PAINT 形式で保存すると、マスク、フローティング オブジェクト、およびレンズがイメージとともに保存されます。

Corel PHOTO-PAINT ファイルをエクスポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから**[CPT - Corel PHOTO-PAINT イメージ]**を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。

Corel PHOTO-PAINT (CPT) テクニカル ノート

- このフィルタは CorelDRAW、Corel PHOTO-PAINT、および Corel DESIGNER で使用できます。
- Corel PHOTO-PAINT ファイルは、**モノクロ**、**グレースケール**、**パレット**、**CMYK カラー** (32 ビット)、**RGB カラー** (24 ビット)、または **Lab** 形式です。

カーソル リソース (CUR)

Windows 3.x/NT カーソル リソース (**.cur**) ファイル形式は、Windows 3.1、Windows NT、および Windows 95 インタフェースのカーソルの作成に使用されます。このファイル形式は、Windows のポインタで使用されるカーソル グラフィックをサポートしています。ユーザーは**透明マスク**や**反転マスクのカラー**を選択できます。

Windows 3.x/NT カーソル リソース ファイル形式では、最大 32 x 32 ピクセルのイメージ サイズをサポートしています。

カーソル リソース (CUR) テクニカル ノート

- Corel プログラムでは、**.cur** ファイルをインポートする際に、1 ビット モノクロ、16 色 (4 ビット) パレット、および 256 色 (8 ビット) パレットのカラー深度をサポートしています。

AutoCAD Drawing Database (DWG) および AutoCAD Drawing Interchange Format (DXF)

AutoCAD Drawing Database (DWG) ファイルは、AutoCAD 描画の固有の形式として使用するベクトル ファイルです。

Drawing Interchange Format (DXF) では、AutoCAD 描画ファイルの情報が**タグ付きデータ**として表現されます。Drawing Interchange Format は、AutoCAD 固有のファイル形式です。CAD 描画を交換する際の標準として、多くの CAD アプリケーションでサポートされています。Drawing Interchange Format はベクトル ベースで、256 色までのカラーをサポートしています。

AutoCAD Drawing Database ファイル (DWG) または AutoCAD Drawing Interchange Format (DXF) をインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート]をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから、[DWG - AutoCAD](*.dwg) または [DXF - AutoCAD](*.dxf) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート]をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 7 [ビットマップに変換] ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。



インポートするファイルにあるフォントがコンピュータにインストールされていない場合は、[PANOSE フォント マッチング] ダイアログ ボックスが表示され、類似フォントでそのフォントを代用できます。

AutoCAD Data Interchange Format (DXF) テクニカル ノート

- このプログラムは、AutoCAD のバージョン R2.5 ~ 2018 のファイルをサポートしています。

AutoCAD DXF ファイルをインポートする

- モデル スペース ページはマスター ページとしてインポートされます。
- 均一なエンティティとトレースされたエンティティは塗りつぶされます。
- 点は最小サイズの楕円としてインポートされます。
- 「エンティティのみ」でエクスポートされたファイルは、ヘッダー情報がないため、Corel プログラムでは期待どおりに表示されないことがあります。
- 特にインポートされたファイル内でフォントが置き換えられる場合、テキスト エントリの端揃えは維持されない可能性があります。最良の結果を得るには、テキストは端揃えしないでください。
- ユーザーのコンピュータにインストールされていないフォントが DXF ファイルで使用されている場合は、[PANOSE フォント マッチング] ダイアログ ボックスで該当するフォントを代用フォントに置き換えることができます。

AutoCAD Drawing Database (DWG) テクニカル ノート

- Corel PHOTO-PAINT では、バージョン R2.5 ~ 2018 の AutoCAD ファイルをインポートすることができます。
- ユーザーのコンピュータにインストールされていないフォントが DWG ファイルで使用されている場合は、[フォント マッチングの結果] ダイアログ ボックスで該当するフォントを代用フォントで置き換えることができます。

Encapsulated PostScript (EPS)

EPS ファイルは、テキスト、ベクトル グラフィック、ビットマップを含むことができ、他のドキュメントに含める (カプセル化する) ためのファイルです。複数のページを含むことができる他の PostScript ファイルとは異なり、EPS ファイルは常に 1 ページです。

通常、EPS ファイルには、PostScript インタープリタを介さずにファイルの内容を表示できるプレビュー イメージ (ヘッダー) が含まれます。Corel アプリケーションでは、プレビュー イメージのない EPS ファイルはグレーのボックスとして表示されます。

CorelDRAW Graphics Suite のインストール中に、Ghostscript をインストールするオプションがあります。これは、PostScript ファイル形式を解釈するアプリケーションです。Ghostscript では、PostScript Level 3 ファイルをインポートできます。製品の最初のインストール時に Ghostscript をインストールしなかった場合は、今行うことができます。

Encapsulated PostScript ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート]をクリックします。

[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。EPS ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。

- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから[PS, EPS, PRN - PostScript] (*.ps; *.eps; *.prn) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 8 [ビットマップに変換] ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

Encapsulated PostScript ファイル形式で保存するには

- 1 [ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [Sファイルの種類] リスト ボックスから [EPS - Encapsulated PostScript] を選びます。
- 4 [ファイル名] リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 [エクスポート] をクリックします。
- 6 [EPS へのエクスポート] ダイアログ ボックスで、必要に応じて設定を調整します。

エクスポートの一般オプションを設定するには

- [EPS へのエクスポート] ダイアログ ボックスで、次のテーブルの 1 つまたは複数のタスクを実行します。

目的	作業手順
スポット カラーの変換	[カラー マネージメント] 領域で、[スポットカラーの変換] チェック ボックスをオンにして、リスト ボックスからオプションを選択します。
PostScript イメージをプレビューするファイル形式を選ぶ	[イメージのプレビュー] 領域で、[種類] リスト ボックスから次のオプションのいずれかを選択 します。 <ul style="list-style-type: none">●なし●TIFF●WMF TIFF 形式を選んだ場合は、カラー モードと解像度を選びます。
互換性オプションを選択する	[互換性] リスト ボックスから、ファイルの印刷や表示で使用 するプリンタまたはアプリケーションでサポートされている PostScript レベルを選択します。



プレビュー イメージに 8 ビット TIFF 形式を選んだ場合は、[プレビュー イメージ] 領域の [透明バックグラウンド] チェック ボックスをオンにすると、ビットマップの背景を透明にできます。

クリッピング オプションを指定するには

- 1 [EPS へのエクスポート] ダイアログ ボックスの [クリップ] で、[クリップ先] チェック ボックスをオンにします。
- 2 次のオプションのいずれかをオンにします。
 - **マスク** - マスク領域の内容を EPS ファイルに保存します。
 - **[クリップ パス]** - アクティブ パスまたは [MRU] リスト ボックスにあるパスで囲まれた部分を保存します。
- 3 [平坦度] ボックスに値を入力して、プリンタなどの出力デバイスで曲線パス セグメントをどのくらい正確にレンダリングするかを指定します。

マスクまたはパスの外側にあるイメージ部分を削除する場合は、[イメージ データをクリッピング領域から除く] チェック ボックスをオンにします。

Ghostscript をインストールするには

- 1 開いているプログラムを閉じます。
- 2 Windows タスクバーの [スタート] ▶ [コントロール パネル] をクリックします。
- 3 [プログラムのアンインストール] をクリックします。
- 4 [プログラムのアンインストールまたは変更] ページで、[CorelDRAW Graphics Suite] をダブルクリックします。
- 5 [修正] オプションをオンにします。
- 6 [機能] ページで [GPL Ghostscript] のチェックボックスをオンにします。
- 7 インストール ウィザードの指示に従って操作します。

Encapsulated PostScript (EPS) テクニカル ノート

EPS ファイルをインポートする

- Corel PHOTO-PAINT では、EPS ファイルはビットマップとしてインポートされます。
- 2 色トーン情報は、Corel PHOTO-PAINT で作成された EPS ファイルでのみ維持されます。CorelDRAW で作成された 2 色トーンの EPS ファイルをインポートすると、ファイルはグレースケールに変換されます。

EPS ファイルをエクスポートする

- Encapsulated PostScript (EPS) 形式でエクスポートされたグラフィックを PostScript プリンタで印刷する場合は、他のプログラムから印刷しても、Corel グラフィック プログラムで印刷した場合と同じ結果になります。
- ヘッダーは、Tagged Image File 形式 (TIFF) または Windows メタファイル形式 (WMF) に、**モノクロ**、4 ビット **グレースケール** または **カラー**、あるいは 8 ビット **グレースケール** または **カラー** で保存できます。1 インチあたり 1 から 300 ドット (dpi) の間のヘッダー **解像度** を設定できます。デフォルトのヘッダー解像度は 72 dpi です。EPS ファイルをインポートするプログラム側にイメージ ヘッダーのサイズの制限がある場合は、取り込もうとするファイルが大きすぎるというエラー メッセージが表示されることがあります。ファイル サイズを小さくするには、ファイルをエクスポートする前に、[EPS へのエクスポート] ダイアログ ボックスの [イメージ ヘッダー] の [モード] ボックスから [モノクロ] を選択して、ヘッダーの解像度を落とします。設定はヘッダー解像度にも影響し、描画の印刷画質には影響しません。カラー ヘッダーは、取り込んだ EPS ファイルを表示する場合に便利です。ファイルを使用するプログラムでカラー ヘッダーがサポートされていない場合は、モノクロ ヘッダーでエクスポートしてみてください。ヘッダーを含めずにエクスポートすることもできます。
- エクスポートした EPS ファイルには、グラフィックのほか、ファイル名、プログラム名、および日付を含めることもできます。

PostScript (PS または PRN)

PostScript (PS) ファイルは、PostScript 言語を使用して、印刷および表示するためのテキスト、ベクトル グラフィック、またはビットマップのレイアウトを記述します。PostScript ファイルには複数のページを含めることができます。

通常、PostScript ファイルのファイル拡張子は **.ps** ですが、拡張子が **.prn** の PostScript ファイルもインポートできます。**.prn** ファイル拡張子を持つファイルは、通常は PRN (Printer) ファイルと呼ばれ、ファイルの印刷方法に関する指示が含まれています。このファイルを使用すると、ドキュメントが作成されたアプリケーションがコンピュータにインストールされていない場合でも、ドキュメントを印刷できます。

CorelDRAW Graphics Suite のインストール中に、Ghostscript をインストールするオプションがあります。これは、PostScript ファイル形式を解釈するアプリケーションです。Ghostscript はファイルのインポート処理をアシストします。インストール中に Ghostscript をインストールしなかった場合は、558 ページの「Ghostscript をインストールするには」を参照してください。

また、Encapsulated PostScript (EPS) ファイルもインポートできます。詳しくは、556 ページの「Encapsulated PostScript (EPS)」を参照してください。

PostScript (PS または PRN) ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PostScript ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから[PS, EPS, PRN - PostScript] (*.ps; *.eps; *.prn) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックし、[インポート].をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 7 [ビットマップに変換] ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

PostScript (PS または PRN) テクニカル ノート

- スポット カラーによるメッシュ塗りつぶしまたは DeviceN がある PostScript ファイルはインポートできません。Ghostscript をインストールするとこの問題は解決します。
- PostScript ファイルはビットマップとしてインポートされます。
- インポートされた PostScript ファイルのテキストは編集できません。
- PostScript 形式のプリンタ (PRN) ファイル、PS ファイル、EPS ファイルだけがサポートされています。

GIF

GIF は、Web 用に開発されたビットマップ ベースのファイル形式です。圧縮率が高いので、ファイルの転送時間を最小限に抑えることができます。イメージのカラーは 256 色までサポートされます。GIF ファイル形式は、最大イメージ サイズ 30,000 x 30,000 ピクセルをサポートし、LZW 圧縮を使用しています。

GIF 形式では、1 つのファイルに複数のビットマップを保存できます。複数のイメージを素早く連続表示するファイルをアニメーション GIF ファイルといいます。詳しくは、489 ページの「ムービーを保存する」を参照してください。

透明なバックグラウンドの GIF イメージは Web ページで一般的に使用されています。詳しくは、498 ページの「透明なカラーとバックグラウンドのパレット ベースのイメージを作成する」を参照してください。

また、インターネットで使用する場合は、イメージを JPEG 形式および PNG 形式で保存できます。イメージを Web に書き出す際に、使用する形式を確認するには、493 ページの「Web 対応ファイル形式を選択する」を参照してください。

GIF ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。GIF ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから[GIF - CompuServe ビットマップ](*.gif) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。

- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンプルする

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージをリサンプルするには」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージを切り抜くには」を参照してください。

アニメーション GIF ファイルを開くには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから**[GIF - GIF アニメーション](*.gif)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 リスト ウィンドウの下にあるリスト ボックスから**[フル イメージ]** を選択します。
- 6 **[開く]** をクリックします。



ムービーを開いて再生する方法について詳しくは、483 ページの「ムービーを開く/再生する」を参照してください。



ムービーの一部を開くこともできます。**[部分的にロード]** を選択するか、**[ムービーの部分ロード]** ダイアログ ボックスで**[開始]** ボックスと**[終了]** ボックスに値を入力して、ロードするフレームの範囲を選択します。

GIF テクニカル ノート

- Corel プログラムでは、GIF ファイル形式のバージョン 87A および 89A をインポートできますが、エクスポートはバージョン 89A でのみ可能です。バージョン 87A では基本機能とインターレースをサポートします。新しいバージョンの 89A では、87A のすべての機能を利用できるほか、透明カラーを使用したり、イメージ ファイルのコメントなどのデータを含めたりすることができます。
- Corel プログラムでは、アニメーション GIF ファイルをインポートする際に、モノクロ (1 ビット)、16 色、グレースケール (8 ビット)、および 256 色パレット (8 ビット) のカラー深度をサポートしています。

High Efficiency Image File Format (HEIF)

High Efficiency Image File Format (HEIF) は、個別のイメージ、イメージ シーケンス、アニメーション、イメージ メタデータをサポートしています。このファイル形式は Moving Picture Experts Group (MPEG) によって開発されたもので、High Efficiency Video Compression (HEVC) に基づいています。HEIF ファイルは JPEG ファイルと比べ、画質を犠牲にすることなくファイル サイズが小さめです。

HEIF ファイルは Corel PHOTO-PAINT にインポートできます。詳しくは、75 ページの「アクティブなイメージにファイルをインポートするには」を参照してください。

また、Corel PHOTO-PAINT で HEIF ファイルを開くこともできます。ただし、HEIF ファイルを編集するには、別のファイル形式で保存する必要があります。

HEIF テクニカル ノート

HEIF ファイルをインポートする

- HEIF ファイルのファイル拡張子は **.heif** または **.heic** です。
- イメージ シーケンスを含むファイルをインポートする場合は、シーケンスのキー (マスター) イメージのみインポートされます。
- アニメーションを含む HEIF ファイルはサポートしていません。

JPEG (JPG)

JPEG は、JPGE (Joint Photographic Experts Group) によって開発された標準形式です。この形式は、優れた圧縮技術を使用しており、多くのプラットフォーム間でファイルを交換できます。JPEG では、8 ビット **グレースケール**、24 ビット **RGB**、および 32 ビット **CMYK** の各カラー モードをサポートしています。

JPEG 形式は Web ページで一般的に使用されます。詳しくは、[を参照してください](#)。493 ページの「[Web 対応ファイル形式を選択する](#)」。

JPEG ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ **[インポート]** コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。JPEG ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[JPG - JPEG ビットマップ]**(* .jpg; * .jtf; * .jff; * .jpeg) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンプルする

詳しくは、76 ページの「[インポート時にイメージをリサンプルするには](#)」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「[インポート時にイメージを切り抜くには](#)」を参照してください。



イメージ ウィンドウ上でドラッグしてイメージのサイズを変更できます。

JPEG テクニカル ノート

- JPEG ファイルには EXIF データを含めることができます。このデータは JPEG ファイルの開き方に影響します。

JPEG 2000 (JP2)

JPEG 2000 (JP2) ファイル形式は、高度な圧縮機能およびファイル データ機能を持つ JPEG イメージです。JPEG 2000 スタンダード ファイルには、JPEG 2000 コードストリーム ファイルよりも多くの記述ファイル データ (寸法、トーン スケール、カラー スペース、知的所有権などのメタデータ) を保存できます。コードストリーム ファイルは、低帯域幅チャンネルでデータを損失する可能性のあるビット エラーの発生を抑えるため、ネットワーク転送に適しています。

Web ブラウザには、JPEG 2000 形式をサポートしていないものもあります。そのため、JPEG 2000 ファイルを表示するときにプラグインが必要になる場合があります。

JP2 イメージの領域をマスクして、強調領域 (ROI) を定義できます。ROI に低めの圧縮設定を適用すると、その領域のイメージ品質を向上できます。

イメージを JP2 ファイルにエクスポートする際は、**解像度**、**画質**、および**配置**によるダウンロードの進行状況を表示できます。

JPEG 2000 ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [JP2 - JPEG 2000 ビットマップ] (*.jp2; *.j2k) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

JPEG 2000 ビットマップをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 [ファイルの種類] リスト ボックスから [JP2 - JPEG 2000 ビットマップ] を選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスに名前を入力します。
- 4 [エクスポート] をクリックします。
- 5 ダイアログ ボックスの上右隅にある [プリセット リスト] リストボックスから [JPEG 2000] プリセットを選択します。プリセット設定を変更する場合は、ダイアログ ボックスでエクスポート オプションを変更できます。
- 6 [OK] をクリックします。

可能な操作

カラー モードを選択する	[設定] 領域で、 カラー モード リスト ボックスからカラー モードを選択します。
カラー プロファイルを埋め込む	[アドバンス設定] 領域の [カラー プロファイルの埋め込み] チェック ボックスをオンにします。
画質を制御	[設定] 領域で、[画質] リスト ボックスから画質オプションを選択するか、値を入力します。
JPEG 2000 ダウンロードを低解像度から高解像度に設定して、イメージ全体のサイズが増加するようにします。	[アドバンス設定] 領域で、[プログレッション] リストボックスから [解像度 \times 画質] を選択します。
イメージの左上隅から右下隅に JPEG 2000 ダウンロードを設定する	[アドバンス設定] 領域で、[プログレッション] リストボックスから [解像度 \times 配置] を選択します。
イメージの左上隅から右下隅に JPEG 2000 ダウンロードを設定する	[アドバンス設定] 領域で、[プログレッション] リスト ボックスから [配置] を選択します。

可能な操作

JPEG 2000 ダウンロードをカラー チャンネルごとにプログレッションに設定

[アドバンス設定] 領域で、[プログレッション] リスト ボックスから [チャンネル] を選択します。

JPEG 2000 コードストリームを許可

[アドバンス設定] 領域の [Codestream] チェック ボックスをオンにします。

JPEG 2000 (JP2) テクニカル ノート

- Corel PHOTO-PAINT では JP2 ファイルまたは JPC ファイルをインポートできますが、保存先は JP2 形式だけです。

Kodak Photo CD イメージ (PCD)

Kodak Photo CD イメージ ファイルは、Eastman Kodak によって開発されたラスタ形式で、コンパクト ディスクへのフォト イメージのスキャンに使用されます。PCD イメージは、35 mm フィルムのネガやスライドをデジタル形式に変換し、CD に保存して作成されます。Photo CD では、フォト イメージを高品質にデジタル保存し、操作することができます。PCD 形式は、通常はフォト フィニッシャーや出力センターでフォトを CD に入れるために使用します。

このファイル形式は 64 ビットバージョンのアプリケーションではサポートされていません。

Kodak Photo CD イメージ ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [PCD - Kodak Photo-CD イメージ](*.pcd) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 [PCD インポート] ダイアログ ボックスで、必要に応じて次のスライダを調整します。
 - 輝度 - 照明の量を設定します。
 - コントラスト - イメージのピクセル間のコントラストを指定します。
 - 彩度 - カラーの純度を指定します。
 - 赤 - イメージの赤の濃さを指定します。
 - 緑 - イメージの緑の濃さを指定します。
 - 青 - イメージの青の濃さを指定します。
- 7 [解像度] リスト ボックスからイメージ サイズを選択します。
- 8 [イメージの種類] リスト ボックスからカラー モードを選択します。
- 9 イメージ ウィンドウ内でインポート配置の始点にカーソルを置き、クリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンブルする

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージをリサンブルするには」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージを切り抜くには」を参照してください。



フォトフィニッシャが元のイメージをスキャンして Photo CD ディスクに入れる際に調整できないようにするには、**[シーンのバランスを減算]** チェック ボックスをオンにします。

[カラー再現範囲外のカラーを表示] チェック ボックスをオンにすると、イメージのカラー再現範囲外を識別できます。カラー再現範囲外のピクセルは、純粋な赤または青でレンダリングされます。

Kodak Photo CD イメージ (PCD) テクニカル ノート

- Kodak Photo CD (PCD) イメージは、著作権によって保護されています。Corel プログラムでは、著作権についての警告は表示されません。
- 他の Kodak 互換プログラムでは、Kodak の **pcdlib.dll** ファイルが **Windows¥System** フォルダではなく **Windows** フォルダにインストールされる場合があります。このようにフォルダの場所が異なるため、エラー メッセージが表示されます。
- **[Photo CD]** ファイルをインポートするときは、目的の解像度とカラーを選択するダイアログ ボックスが表示されます。解像度は 72 dpi までに制限されており、最大イメージ サイズは 3072 x 2048 ピクセルです。
- インポート可能なカラー モードは、RGB (24 ビット)、パレット (8 ビット)、およびグレースケール (8 ビット) です。

PICT (PCT)

Macintosh PICT ファイル形式は、Apple Computer Inc. によって macOS プラットフォーム用に開発されました。これは QuickDraw 固有のファイル形式で、ベクトルとビットマップの両方を保存できます。Macintosh PICT ファイル形式は、Macintosh のアプリケーションで広く使用されています。

PICT ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ **[インポート]** コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PICT ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[PCT - Macintosh PICT](*.pct; *.pict)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。
- 7 **[ビットマップに変換]** ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整します。

PICT (PCT) テクニカル ノート

- Corel グラフィック プログラムでは、Macintosh PICT (PCT) ファイル内のベクトル描画とビットマップをインポートできます。
- 塗りつぶしと輪郭表示の両方が適用されたオブジェクトは、2 つのオブジェクトのグループとして開きます。1 つのオブジェクトは輪郭で、もう 1 つは塗りつぶしです。
- PICT の塗りつぶしはビットマップ パターンであることが多く、Corel プログラムは、これらの塗りつぶしをビットマップ パターンとして保持しようとします。
- パターンの輪郭は均一カラーに変換されます。
- PICT ファイル内のテキストは、編集可能なテキストとして開かれます。インポートするファイル内の書体がシステムで使用できない場合は、最も類似するフォントで代用されます。
- 元のファイルのテキストの整列は、維持されない場合があります。この問題は、2 つの形式のフォント サイズ、文字間隔、および単語間隔が異なるときに生じます。整列の不一致は、プログラムのテキスト フォーマット設定で簡単に修正できます。

PaintBrush (PCX)

PaintBrush (PCX) ファイル形式は、ZSoft Corporation によって PC Paintbrush プログラム用に開発されたビットマップ形式です。

PaintBrush ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PCX ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [PCX - PaintBrush](*.pcx) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

PaintBrush ファイルをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リスト ボックスから [PCX - PaintBrush] を選択します。
- 4 [ファイル名] リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 [エクスポート] をクリックします。

PaintBrush (PCX) テクニカル ノート

PCX ファイルをエクスポートする

- ビットマップでは、モノクロ、16 色、グレースケール (8 ビット)、パレット (8 ビット)、または RGB (24 ビット) のいずれかを使用できます。
- RLE (Run-Length Encoding) 圧縮がサポートされ、最大イメージ サイズは 64,535 x 64,535 ピクセルです。
- これらのファイルは、1 つ、2 つ、または 4 つのカラー プレーンを保持できます。
- このファイル形式は CorelDRAW と Corel PHOTO-PAINT でサポートされています。

PCX ファイルをインポートする

- PCX 仕様の 2.5、2.8、および 3.0 に準拠した PCX ファイルをインポートできます。
- ビットマップでは、モノクロ、16 色、グレースケール (8 ビット)、パレット (8 ビット)、または RGB (24 ビット) のいずれかを使用できます。
- RLE 圧縮がサポートされ、最大イメージ サイズは 64,535 x 64,535 ピクセルです。
- これらのファイルは、1 つ、2 つ、または 4 つのカラー プレーンを保持できます。ファイルに 3 つ、または 5 つ以上のカラー プレーンがある場合はインポートできません。

Adobe Portable Document Format(PDF)

Adobe Portable Document Format (PDF) は、元のファイルに含まれるフォント、イメージ、グラフィック、およびフォーマットを保存できるファイル形式です。PDF ファイルは、Adobe Reader や Adobe Acrobat を使用して、macOS、Windows、および UNIX で表示、共有、および印刷することができます。

ファイルを PDF 形式で保存することができます。詳しくは、[531 ページの「PDF へのエクスポート」](#) を参照してください。

Adobe Portable Document Format (PDF) テクニカル ノート

PDF ファイルへの書き出し

- 埋め込み 3D モデルは、インタラクティブな埋め込み 3D オブジェクトとしてエクスポートされます。ドキュメント内に 3D モデルがある場合は、**[PDF に書き出し]** ダイアログボックスで **[設定]** をクリックして、**[互換性]** リストボックスから **[Acrobat 9.0]** またはそれ以降のバージョンを選択し、その 3D モデルが PDF リーダーでインタラクティブになるようにします。
- Corel PHOTO-PAINT で作成されたカラー チャンネルは維持されます。
- テキストやグラフィックに適用された透明度は維持されます。
- OpenType 機能などのテキストの文字属性は維持されます。
- DeviceN カラー スペースは、ファイルの内容によっては、インポートされたファイルで RGB または CMYK プロセス カラーに変換される場合があります。
- Adobe Acrobat 6 以降で作成されたファイルではレイヤが維持されます。
- Xform オブジェクト、ヘッダー、およびフッターはシンボルに変換されます。
- シンボルは、バージョン 1.3 以降で作成された PDF ファイルがラウンド トリッピング処理された場合に維持されます。

HPGL プロッタ ファイル (PLT)

HPGL プロッタ ファイル (PLT) は、Hewlett Packard 社によって開発されたファイルで、ベクトル ベースです。このファイル形式は、描画をプロッタで印刷するために AutoCAD などのプログラムで使用されます。その他の Corel アプリケーションでは、HPGL と HPGL/2 コマンド セットのサブセットを処理できます。この形式では、1,016 プロッタ単位 = 1 インチというスケール率が使用されます。

HPGL プロッタ ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ **[インポート]** コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PLT ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[PLT - HPGL プロッタ ファイル](*.plt; *.hgl)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 **[HPGL オプション]** ダイアログ ボックスで、必要に応じて設定を調整します。
- 7 **[OK]** をクリックします。

HPGL プロッタ (PLT) テクニカル ノート

PLT ファイルをインポートする

- Corel プログラムでは、PLT ファイル形式のバージョン 1 および 2 をサポートしていますが、バージョン 2 の機能は一部しかサポートされていません。
- Corel プログラムの最大ページ サイズより大きなイメージをインポートする場合は、**[HPGL オプション]** ダイアログ ボックスの**[スケール]** オプションをオンにします。これにより、イメージはサイズ変更されてインポートされます。
- 曲線の解像度は、0.0001~1.0 インチの間で値を設定できます。入力値の精度は、小数点以下 8 桁までに設定できます。0.0001 を設定すると解像度が最も高くなりますが、ファイル サイズも大きくなります。曲線の解像度には 0.004 インチを設定することをお勧めします。
- PLT ファイル形式にはカラー情報がありません。その代わりに、PLT ファイル内のさまざまなオブジェクトに、オブジェクトに関連付けられたペン番号があります。Corel プログラムにインポートすると、各ペン番号に特定の色が割り当てられます。特定のペンに割り当ててる色を指定して、グラフィックの元の色を対応させることができます。
- **[ペンの選択]** リストには 256 のペンがありますが、一部のペンしか割り当てることができない場合があります。色の割り当てを変更するには、対象のペンを選択し、**[ペンのカラー]** リスト ボックスで新しい色を選択します。**[カスタム カラー]** を選択すると、カラー定義ダイアログ ボックスが表示され、RGB 値に応じてカスタム カラーを定義できます。
- ペンの太さを変更するには、対象のペンを選択し、**[ペンの幅]** リスト ボックスで新しい幅を選択します。

- 定義済みのペンを **[未使用]** オプションとして設定できます。また、現在のペン ライブラリのペンの設定を最後に保存した設定に戻すこともできます。
- Corel プログラムでは、PLT ファイル形式のさまざまな点線、破線、および実線をサポートしています。PLT ファイル内の線のパターン番号は、線種のパターンに変換されます。
- ユーザーのコンピュータにインストールされていないフォントが PLT ファイルで使用されている場合は、**[PANOSE フォント マッチング]** ダイアログ ボックスで該当するフォントを代用フォントに置き換えることができます。

Portable Network Graphics (PNG)

Portable Network Graphics (PNG) ファイル形式は、ビットマップを劣化させずに高圧縮率で移植可能に保存する優れたファイル形式です。必要なディスク容量が少なく、コンピュータ間で簡単に読み取りや交換ができます。PNG 形式は、GIF 形式や一般的に使用される TIFF 形式の代わりに使用できます。

PNG 形式は、Web などのオンライン表示で効果を発揮し、プログレッシブ表示オプションに完全に対応しています。Web ブラウザの中には一部のフォーマットや機能しかサポートしていないものもあります。イメージを PNG ファイル形式でエクスポートして、Web ページに透明なバックグラウンド、イメージのインターレース、イメージ マップ、またはアニメーションを使用することができます。

グラフィックを PNG 形式でエクスポートすると、グラフィックはビットマップに変換されてデスクトップ パブリッシング プログラムや Microsoft Office アプリケーションで使用できるようになります。また、PNG ファイルは、Corel PHOTO-PAINT や Adobe Photoshop などのイメージ編集プログラムで編集することもできます。

インターネットで使用する場合は、イメージを GIF 形式および JPEG 形式で保存できます。イメージを Web に書き出す際の形式について詳しくは、493 ページの「[Web 対応ファイル形式を選択する](#)」を参照してください。

Portable Network Graphics ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ **[インポート]** コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PNG ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[PNG - Portable Network Graphics](*.png)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンプルする

詳しくは、76 ページの「[インポート時にイメージをリサンプルするには](#)」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「[インポート時にイメージを切り抜くには](#)」を参照してください。



イメージ ウィンドウでドラッグしてイメージのサイズを変更できます。

Portable Network Graphics (PNG) テクニカル ノート

- 1 ビット モノクロから 24 ビット カラーまでの Portable Networks Graphics (PNG) ファイルをインポートできます。48 ビット カラーはサポートされていません。

- マスク、インデックス付きカラー、グレースケール、および True Color イメージがサポートされています。ただし、マスクを 1 ビット モノクロおよび 8 ビット パレット ファイルには保存できません。
- LZ77 圧縮がサポートされ、最大イメージ サイズは 30,000 x 30,000 ピクセルです。サンプル深度は 1~16 ビットです。
- PNG ファイル形式は、ファイル全体の完全性を検査し、一般的な転送エラーを検出します。PNG ファイル形式では、異なるプラットフォームでのカラー マッチング向上のために、ガンマおよび色度のデータを保存できます。

Adobe Photoshop (PSD)

Adobe Photoshop (PSD) ファイル形式は、Adobe Photoshop 固有のビットマップ ファイル形式です。

Adobe Photoshop ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。PSD ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[PSD - Adobe Photoshop](*.psd; *.pdd)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンプルする

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージをリサンプルするには」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージを切り抜くには」を参照してください。

Adobe Photoshop ファイルをエクスポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから **[PSD - Adobe Photoshop]** を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。



Adobe Photoshop ファイル形式では、Corel PHOTO-PAINT オブジェクトをレイヤとして保存できます。



16 ビット グレースケールまたは 48 ビット RGB のファイルをエクスポートして、バージョン CS またはそれ以前の Adobe Photoshop で使用する場合は、**[圧縮の種類]** リスト ボックスから **[圧縮なし]** を選択します。Adobe Photoshop のバージョン CS 以前では、圧縮された 16 ビット グレースケールおよび 48 ビット RGB ファイルはサポートされていません。

Adobe Photoshop (PSD) テクニカル ノート

PSD ファイルをインポートする

- テキストはテキスト オブジェクトとしてインポートされるため、引き続き編集可能です。
- モノトーン、グレースケール、2 色トーン、48 ビット RGB、および 32 ビットまでの CMYK イメージがサポートされています。
- 一部のレイヤ効果はインポートできません。[グラデーション マップ]調整レイヤは、ノイズ、不透明度の分岐点、およびディザがない状態でインポートされます。
- 比較 (暗)および 比較 (明)の描画モードを使用してインポートされたレイヤは、それぞれ[暗化] および[明化] のマージ モードにマップされます。Corel PHOTO-PAINT でのマージ モードの操作については、343 ページの「マージ モード」を参照してください。
- スマート フィルタ効果は、個別のフィルタ効果が累積した基本オブジェクトとしてインポートされます。
- [自然な彩度] 調整レイヤは [自然な彩度] レンズにマップされます。
- [モノクロ] 調整レイヤは [グレースケール] レンズにマップされます。
- [チャンネル ミキサー] 調整レイヤは [チャンネル ミキサー] レンズにマップされます。
- [グラデーション マップ] 調整レイヤは [グラデーション マップ] レンズにマップされますが、不透明度の分岐点、ディザ、およびノイズの調整はサポートされていません。
- [写真フィルタ]調整レイヤは[写真フィルタ]レンズにマップされます。
- スポット カラー チャンネルは維持されます。スポット カラー チャンネルが適用されたアルファ チャンネルはサポートされていません。
- 適用される濃度を持ったレイヤ マスクは、調整された透明度を持つクリップ マスクとしてインポートされます。ただし、Corel PHOTO-PAINT では濃度設定を変更できません。
- 適用されるフェードを持ったレイヤ マスクは、適用されたフェードを持つクリップ マスクとしてインポートされます。ただし、Corel PHOTO-PAINT ではフェード設定を変更できません。

PSD ファイルをエクスポートする

- テキストはテキスト オブジェクトとしてエクスポートされるため、引き続き編集可能です。
- このフォーマットは、1 ビット モノクロ イメージ、2 色トーン、16 ビット グレースケール、48 ビット RGB、および 32 ビットまでの CMYK カラー イメージをサポートしています。
- オブジェクトはサポートされています。
- 32 ビットの浮動小数点カラー チャンネルは、16 ビットのチャンネルにマップされますが、32 ビットのハイ ダイナミック レンジ (HDR) イメージとしてはエクスポートできません。
- スマート フィルタ効果は、インポート時には維持されず、エクスポート時には置き換えられません。
- スポット カラー チャンネル情報は、エクスポートされたファイルで維持されます。

Corel Painter (RIF)

インポートされた Corel ®Painter® (RIF) ファイルは、フローティング オブジェクトなどの情報を保持するため、GIF ファイルや JPEG ファイルよりもサイズがかなり大きくなります。Corel Painter ファイルをインポートして、フロータをサイズ変更や調整することができます。

Corel Painter ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。RIF ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [RIFF - Painter](*.rif) を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート]をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

可能な操作

インポート時にグラフィックをリサンプルする

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージをリサンプルするには」を参照してください。

インポート時にグラフィックを切り抜く

詳しくは、76 ページの「インポート時にイメージを切り抜くには」を参照してください。

Corel Painter (RIF) テクニカル ノート

- 埋め込まれたカラー プロファイルは保持されますが、ファイルをインポートすると変更できます。
- Corel Painter のイメージに透明のバックグラウンド (Corel Painter ではキャンバスと呼ばれる) が含まれていると、それは保持されます。
- インポートされたファイルにはベクトル図形は維持されません。
- テキストおよび注記は維持されません。
- ビットマップ レイアはオブジェクトとしてインポートされます。
- レイア マスクはクリップ マスクとして維持されます。
- 液体インク、水彩画、デジタル水彩画、およびプラグイン レイアは RGB オブジェクトとしてインポートされます。
- モザイクおよびテセレーションは RGB オブジェクトとしてインポートされます。
- イメージ スライスは維持されません。

TARGA (TGA)

TARGA (TGA) グラフィック形式は、**ビットマップ**を保存するために使用されます。この形式は、さまざまな圧縮システムをサポートし、モノクロから RGB カラーまでのビットマップを表現できます。Corel PHOTO-PAINT では、TGA ファイルを開くこともできますし、インポートまたはエクスポートすることもできます。

ファイルを開いたりインポートしたりする方法については、73 ページの「イメージを開く」または75 ページの「ファイルをインポートする」を参照してください。

TARGA ファイルをインポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。
[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。TARGA ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にあるリスト ボックスから [TGA - Targa ビットマップ] を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 [インポート] をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

TARGA ファイルをエクスポートするには

- 1 [ファイル] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 [ファイルの種類] リスト ボックスから [TGA - Targa ビットマップ] を選択します。
- 4 [ファイル名] リスト ボックスにファイル名を入力します。
イメージをエクスポートするときに圧縮するには、[圧縮の種類] リスト ボックスから圧縮の種類を選択します。
- 5 [エクスポート] をクリックします。

- 6 **[ビットマップに変換]** ダイアログ ボックスで、必要に応じて、幅、高さ、解像度、カラー モード、およびその他の設定を調整し、**[OK]** をクリックします。
- 7 **[TGA へのエクスポート]** ダイアログ ボックスで、次のいずれかのオプションをオンにします。
 - 標準
 - エンハンスト



モノクロ イメージは、TARGA ファイルとして保存することはできません。

TARGA (TGA) テクニカル ノート

- サポートされている機能は、非圧縮カラー マッピング イメージ、非圧縮 RGB イメージ、RLE (Run-Length Encoding) 圧縮されたカラー マッピング イメージ、RLE 圧縮された RGB イメージ (AT&T Electronic Photography and Imaging Center で定義された Type 1、2、9、および 10)、およびマスクです。
- 生成されるファイルの種類は、エクスポートする色数で決まります。たとえば、24 ビット カラーの TARGA (TGA) ファイルは、RLE 圧縮された RGB ビットマップとしてエクスポートされます。
- 8 ビット グレースケールから 24 ビット RGB までの TGA ファイルをインポートできます。
- マスクを 1 ビット モノクロおよび 8 ビット バレット ファイルには保存できません。
- RLE 圧縮がサポートされ、最大イメージ サイズは 64,535 x 64,535 ピクセルです。

TIFF

Tagged Image File Format (TIFF) は、標準のラスタ形式です。ほとんどすべてのグラフィック アプリケーションで TIFF ファイルを読み書きできます。TIFF はさまざまなカラー モードとビット深度をサポートしています。

Corel PHOTO-PAINT では、TIFF ファイルを開くことも、インポートすることもできます。ファイルを開いたりインポートしたりする方法については、73 ページの「イメージを開く」または 75 ページの「ファイルをインポートする」を参照してください。

TIFF ファイルをエクスポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト フォックスで **[TIF - TIFF ビットマップ]** を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。

TIFF テクニカル ノート

- マルチページの TIFF をインポートする場合は、インポートする個々のページを選択できます。
- マスクは、1 ビット モノクロ、16 ビット グレースケール、または 48 ビット RGB ファイルではエクスポートされません。
- 6.0 までの仕様に準拠したモノクロ、カラー、およびグレースケールの TIFF ファイルをインポート/エクスポートできます。
- また、CCITT、Packbits 32773、LZW の各圧縮方式で圧縮された TIFF ファイルもインポートできます。ただし、プログラムによってファイル圧縮がデコードされるため、読み込み時間が長くなります。

Google Web Picture (WEBP)

Corel PHOTO-PAINT は、Google Web Picture (*.webp) ファイル形式をサポートしています。Google が開発したこのオープン標準のファイル形式は、Web での利用を目的としており、画像のデータ非損失型圧縮とデータ損失型圧縮に対応しています。

WEBP ファイルを Corel PHOTO-PAINT にインポートしたり、Corel PHOTO-PAINT ファイルを WEBP ファイル形式にエクスポートしたりできます。他のサポート対象ファイルと同様に、WEBP ファイルをインポートします。ファイルのインポートについて詳しく

くは、「75 ページの「ファイルをインポートする」。ファイルを WEBP 形式にエクスポートする場合、ニーズに合わせていくつかのプリセットから選択できます」を参照してください。498 ページの「Web 互換イメージのエクスポート用プリセットを保存するには」を参照してください。

データ損失型圧縮とデータ非損失型圧縮の 2 つの圧縮方法から選択できます。データ非損失型圧縮を使用すると、画像の品質は低下しませんが、サイズが大きくなります。データ損失型圧縮を使用すると、画像のサイズは小さくなりますが、品質が低下します。**[品質]** 設定を変更することで、RGB チャンネルの圧縮係数を制御できます。データ損失型の方法を使用する場合、係数が小さいと、ファイルのサイズが小さくなり、品質が低下します。値を 100 にすると、最高の品質を実現できます。データ非損失型の方法では、**[品質]** 設定で圧縮を調整できます。係数を小さくすると、エンコーディング速度が速くなりますが、ファイルが大きくなります。値を 100 にすると、最大の RGB 圧縮が実現され、より小さなファイルが生成されます。

[圧縮率] を調整することで、エンコーディング速度、ファイル サイズ、品質の比率を制御することもできます。値を小さくすると、圧縮品質が低くなり、処理時間が短くなる代わりに、ファイル サイズが大きくなります。値を大きくすると、圧縮品質が高くなり、エンコーディング時間が長くなる代わりに、ファイル サイズが小さくなります。

WEBP ファイル形式にエクスポートする場合、画像の透明な背景を保持できます。

[変形] コントロールを使用して、エクスポート時に画像のサイズを変更できます。

WEBP ファイルをインポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[インポート]** をクリックします。
[ファイル] ▶ **[インポート]** コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。WEBP ファイルをイメージとして開くには、**[ファイル]** ▶ **[開く]** をクリックします。
- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[WEBP – Google Web Picture (*.webp)]** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。



WEBP ファイルのインポートでは、透明度が維持されます。

WEBP ファイルをエクスポートするには

- 1 **[ファイル]** ▶ **[エクスポート]** をクリックします。
- 2 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 3 **[ファイルの種類]** リスト ボックスから **[WEBP – Google Web Picture (*.webp)]** を選択します。
- 4 **[ファイル名]** リスト ボックスにファイル名を入力します。
- 5 **[エクスポート]** をクリックします。
- 6 **[WebP]** ダイアログ ボックスの右上隅にある **[プリセット]** リスト ボックスからプリセットを選択します。

プリセット

説明

低品質の WEBP

このプリセットは、データ損失型のエンコーディングを使用しており、画像の生成では、ファイル サイズが小さく、RGB 圧縮品質が低く、変換時間が短くなります。

中品質の WEBP

このプリセットは、データ損失型のエンコーディングを使用しており、画像の生成では、品質、ファイル サイズ、RGB 圧縮は中程度になります。

プリセット

高品質の WEBP

説明

このプリセットは、データ非損失型のエンコーディングを使用しており、画像の生成では、RGB 圧縮が最大になり、ファイルサイズが大きく、処理時間が長くなります。

カスタム

カスタム設定を指定できる

オリジナル

画像の元の設定を維持する

7 [OK] をクリックします。

可能な操作

エンコーディング方法を選択する

次のいずれかのオプションを選択します。

- データ損失型
- データ非損失型

RGB チャンネルの圧縮係数を設定する

[品質] リストからオプションを選択します。

値を小さくすると、画質は低下しますが、ファイルは小さくなります。値を大きくすると、画質は向上しますが、ファイルは大きくなります。

エンコード速度、ファイル サイズ、品質の比率を設定する

[圧縮率] リストからオプションを選択します。

値を小さくすると、圧縮品質が低くなり、処理時間が短くなる代わりに、ファイル サイズが大きくなります。値を大きくすると、圧縮品質が高くなり、エンコーディング時間が長くなる代わりに、ファイル サイズが小さくなります。

アルファ透明度を使用して画像をエクスポートする

[透明度] チェック ボックスをオンにします。

エクスポート時にファイル サイズを変更する

495 ページの「Web 対応イメージをエクスポートする際にイメージをサイズ変更するには」を参照してください。

[WEBP にエクスポート] ダイアログ ボックスでプレビュー オプションを設定する

493 ページの「イメージのエクスポート プレビューを調整するには」を参照してください。

WordPerfect Graphic (WPG)

Corel WordPerfect Graphic (WPG) ファイル形式は、基本的にはベクトル グラフィック形式ですが、ビットマップとベクトル データの両方を保存できます。WPG ファイルには、100 万色以上のパレットから選択した最大 256 色のカラーを保存できます。

WordPerfect Graphic ファイルをインポートするには

1 [ファイル] ▶ [インポート] をクリックします。

[ファイル] ▶ [インポート] コマンドを使用して、ファイルをアクティブなイメージ内にオブジェクトとして配置できます。ファイルをイメージとして開くには、[ファイル] ▶ [開く] をクリックします。

- 2 ファイルが保存されているフォルダを選択します。
- 3 **[ファイル名]** ボックスの横にあるリスト ボックスから **[WPG - Corel WordPerfect Graphic](*.wpg)** を選択します。
- 4 ファイル名をクリックします。
- 5 **[インポート]** をクリックします。
- 6 イメージ ウィンドウをクリックします。

WordPerfect Graphic (WPG) テクニカル ノート

- グラフィック テキスト タイプ 2 はサポートされていません。

RAW カメラ ファイル形式

RAW カメラ ファイルは、ハイエンドのデジタル カメラのイメージ センサーによってキャプチャされたデータ ファイルです。RAW カメラ ファイルには、カメラ内の処理としてはシャープ化やデジタルズームなどの最小限のものだけが含まれており、イメージのシャープ度、コントラスト、および彩度を完全に制御できます。RAW カメラ ファイルには、さまざまなフォーマットが存在するため、ファイル形式も複数存在します (.nef、.crw、.dcr、.orf、.mrw など)。

RAW カメラ ファイルは直接 Corel PHOTO-PAINT にインポートできます。詳しくは、[543 ページの「RAW カメラ ファイルを使用する」](#)を参照してください。

Wavelet 圧縮ビットマップ (WI)

このファイル形式は 64 ビット バージョンのスイートではサポートされていません。

WI ファイルをインポートする

- Corel プログラムは、Wavelet 圧縮ビットマップ (.wi) ファイルのインポート時に、256 階調 (8 ビット) グレースケールおよび 24 ビット RGB のカラー深度をサポートしています。

Windows メタファイル形式 (WMF)

Microsoft 社によって開発されたもので、ベクトル情報とビットマップ情報をどちらも保存できるファイル形式です。Microsoft Windows 3 のファイル形式として開発されました。24 ビットの RGB カラーに対応し、ほとんどの Windows アプリケーションでサポートされています。

Windows メタファイル形式 (WMF) テクニカル ノート

WMF ファイルをインポートする

- サポートされていない機能は、PANOSE フォント マッチング、およびビットマップの回転と斜変形です。

その他のファイル形式

Corel PHOTO-PAINT では、次のファイル形式もサポートしています。

- Audio Video Interleaved (AVI) - Audio video interleaved (AVI) 形式は、オーディオ要素とビデオ要素をセグメントに交互に保存する、Microsoft 社のマルチメディア形式です。
- CALS 圧縮ビットマップ (CAL) - CALS Raster (CAL) は、主にハイエンドの CAD プログラムによるドキュメント保存に使用されるビットマップ形式です。このファイル形式は、モノクロ (1 ビット) カラー深度をサポートし、CAD/CAM、工業デザイン、およびイメージ処理アプリケーション用のデータ グラフィック交換形式として使用されます。
- Corel ArtShow 5 (CPX) - CPX は、Corel ArtShow 5 固有のファイル形式で、ベクトルとビットマップの両方を保存できます。
- CorelDRAW Compressed (CDX) - CDX は、圧縮版の CorelDRAW ファイルのファイル形式です。
- Encapsulated PostScript (Desktop Color Separation) - DCS ファイル形式は、QuarkXPress で使用されている標準 Encapsulated PostScript (EPS) ファイル形式の拡張版です。通常、DCS ファイル形式は 5 つのファイルから構成されます。

そのうちの 4 ファイルには、高解像度カラーに関する情報が保存されています。この情報は、CMYK (シアン、マゼンタ、イエロー、黒) 形式で表現されます。5 つ目のファイルはマスター ファイルであり、DCS ファイルの PICT プレビューが保存されています。DCS 形式はスポット カラー チャンネルをサポートしています。

- EXE – EXE は、Windows 3.x/NT のビットマップ リソースの形式で、ICO ファイルを Windows 3.x/NT アイコン リソースとして保存できます。
- FPX - FlashPIX は、複数のイメージを異なる解像度で 1 つのファイルに保存するファイル形式です。このファイル形式は 64 ビットバージョンのスイートではサポートされていません。
- フレーム ベクトル メタファイル (FMV) - FMV は、フレーム ベクトル メタファイルで使用されるファイル形式です。
- GEM Paint (IMG) - GEM Paint (IMG) は、GEM 環境に固有のビットマップ ファイル形式です。IMG ファイルは、1 ビットおよび 4 ビットのパレット カラーをサポートし、RLE 方式で圧縮されます。IMG は、初期のデスクトップ パブリッシングの標準形式でした。
- GEM ファイル (GEM) - GEM は、GEM ファイルで使用されるファイル形式です。
- GIMP (XCF) - XCF は GIMP の固有の形式です。この形式は、レイヤなどの GIMP に特有の情報をサポートします。
- ICO - ICO は、Windows 3.x/NT のアイコン リソースの形式です。
- Lotus PIC (PIC) - PIC は、Lotus PIC ファイルで使用されるファイル形式です。
- MacPaint ビットマップ (MAC) - ビットマップ形式のファイルで、拡張子に MAC、PCT、PNT、PIX を使用します。Macintosh 128 に付属していた MacPaint プログラムで使用されていたファイル形式で、2 色と 1 パレット分のパターンしかサポートしていません。MAC ファイル形式は、主に Macintosh グラフィック アプリケーションでモノクロ グラフィックとクリップアートを保存するために使用されています。MAC イメージの最大サイズは 720 x 576 ピクセルです。
- MET メタファイル (MET) - MET は、MET メタファイルのファイル形式です。
- Micrografx Picture Publisher 4 & 5 (PP4、PP5) - PP4 は、Micrografx Picture Publisher 4 固有のファイル形式です。PP5 は、Micrografx Picture Publisher 5 固有のファイル形式です。このファイル形式は 64 ビットバージョンのスイートではサポートされていません。
- NAP メタファイル (NAP) - NAP は、NAP メタファイルで使用されるファイル形式です。
- Fill ファイル (FILL) – このファイル形式は、Corel PHOTO-PAINT でカスタム塗りつぶしの保存に使用されます。
- PostScript Interpreted (PS または PRN) - PRN PostScript (PS または PRN) は、PostScript プリンタ用のメタファイル形式です。このファイル形式は、ANSI テキストで記述されます。PostScript Interpreted インポート フィルタでは、PS、PRN、および EPS PostScript ファイルをインポートできます。
- SCITEX CT ビットマップ (SCT) - SCT ファイル形式は、32 ビット カラーおよびグレースケール SCITEX イメージのインポートに使用します。SCITEX ビットマップは、ハイエンド スキャナで作成され、その後、このビットマップは、フィルム レコーダまたはハイエンドのページ レイアウト プログラムで出力できるように処理されます。
- XPixmap イメージ (XPM) - XPM ファイル形式は、XPixmap イメージ ファイルで使用されます。

グラフィックをインポートする際の推奨形式

以下の表は、グラフィック アプリケーションや他のソースからグラフィックをインポートする際にどのファイル形式を使用したら良いのかを示しています。

アプリケーション/ソース	推奨インポート形式
Adobe Photoshop	PSD
Paint Shop Pro	PSP
Corel Painter	RIF
デジタル カメラ	RAW カメラ ファイル

グラフィックをエクスポートする際の推奨形式

以下の表は、他のグラフィック アプリケーションまたは Web 用にエクスポートする際に推奨されるファイル形式を示しています。

アプリケーション/出力	推奨形式
Adobe Photoshop	PSD、TIF
Web	JPG、GIF、PNG

カスタマイズと自動化

Corel PHOTO-PAINTをカスタマイズする.....	579
マクロとスクリプトを使用してタスクを自動化する.....	595



Corel PHOTO-PAINTをカスタマイズする

必要に応じてコマンド バーやコマンドを並び替えたり、ウィンドウ枠の色を変更したりしてアプリケーションをカスタマイズすることができます。コマンド バーには、メニュー、ツールバー、プロパティ バー、ツールボックス、ステータス バーがあります。フィルタやファイルの関連付けをカスタマイズすることもできます。

ヘルプのトピックは、アプリケーションのデフォルト設定に基づいて記述されています。コマンド バー、コマンド、およびボタンを変更しても、関連するヘルプ トピックの記述にその変更は反映されません。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 579 の「オプションを選択する」。
- ページ 580 の「GPU を設定する」。
- ページ 581 の「デフォルトを変更する/復元する」。
- ページ 581 の「作業領域を作成する」。
- ページ 582 の「作業領域をインポートする/エクスポートする」。
- ページ 583 の「作業領域の外観をカスタマイズする」。
- ページ 585 の「ショートカット キーをカスタマイズする」。
- ページ 586 の「メニューをカスタマイズする」。
- ページ 588 の「ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする」。
- ページ 591 の「ツールボックスをカスタマイズする」。
- ページ 591 の「プロパティ バーをカスタマイズする」。
- ページ 593 の「ステータス バーをカスタマイズする」。
- ページ 594 の「フィルタをカスタマイズする」。

オプションを選択する

設定をワークフローに合わせるため、次のカテゴリのオプションを使用できます。

- **[アプリケーション オプション]** (**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[Corel PHOTO-PAINT]**) は Corel PHOTO-PAINT に固有です。起動時にアプリケーションの動作を選択したり、表示カラーをカスタマイズしたり、自動保存やバックアップ設定を調整したりすることができます。その他のアプリケーション オプションは、テキスト、デジタル ペン、警告、プラグインに適用されます。
- **[カスタマイズのオプション]** (**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[カスタマイズ]**) では、ユーザー インターフェイス (UI) エLEMENTのサイズ調整、UI テーマの選択、ウィンドウの枠やデスクトップ カラーの設定を実行できます。また、コマンド バーやコントロールを並べ替えたり、よく使用するコントロールのツールバーを作成したりすることもできます。詳しくは、583 ページの「作業領域の外観をカスタマイズする」、586 ページの「メニューをカスタマイズする」、588 ページの「ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする」、591 ページの「プロパティ バーをカスタマイズする」、593 ページの「ステータス バーをカスタマイズする」。とを参照してください。

- **[グローバル オプション]** (**[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[グローバル]**) はスイート全体に影響します。ユーザー インタフェースの言語の選択、印刷設定の調整、塗りつぶし・フォント・カラーパレットなどのコンテンツの保存場所の変更などが行えます。アクティブ ファイル フィルタのリストをカスタマイズして、プライバシーおよびパーソナライズ設定を調整することもできます。たとえば、機能追跡を停止することができ、より適切な学習資料が推奨されるようにプロファイルを更新できます。
- **[ドキュメント オプション]** (**[イメージ]** ▶ **[ドキュメント オプション]**) はアクティブなドキュメントに適用されます。ページのサイズ、グリッド、ルーラー、ガイドラインなどの設定があります。これらのオプションは、ドキュメントが開いている場合にのみ指定できます。

また、カラー マネージメント オプション にアクセスして、表示および印刷のドキュメントのカラーを管理することができます。詳しくは、233 ページの「[カラー マネージメントを使用する](#)」を参照してください。

オプションの各種カテゴリにはさまざまなメニュー コマンドからアクセスでき、それぞれ **[オプション]** ダイアログ ボックスの特定のページが開きます。必要な設定が見つからない場合は、ワンクリックで別のカテゴリに切り替えられます。

別のオプションカテゴリに切り替えるには

- **[オプション]** ダイアログ ボックスの右上隅にある次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **ドキュメント** 
 - **Corel PHOTO-PAINT** 
 - **カスタマイズ** 
 - **グローバル** 
 - **作業領域** 

GPU を設定する

システムに複数のグラフィックス プロセッシング ユニット (GPU) が搭載されていて使用可能な場合は、CorelDRAW Graphics Suite がさまざまな処理タスクで使用する GPU を選択できます。

CorelDRAW Graphics Suite は、GPU ハードウェア アクセラレーションを次の処理で使用します。

- **表示** - スクロール、ズーム、画面描画が滑らかになります。
- **効果** - ビットマップ効果をレンズとして適用でき、精度とデザインの自由度が大幅に向上します。
- **アート スタイル** - これらのプリセットでは AI テクノロジーを用いてイメージやオブジェクトを修正し、オリジナルのコンテンツを保ちつつ画風変換されたバージョンを生成できます。
- **リサンプル** - イメージの拡大やビットマップのトレースに AI を活かしたアップサンプリングが使用され、クリーンなエッジ、シャープさ、精細なディテールが得られます。
- **JPEG アーチファクトの削除** - 高度な機械学習テクノロジーを駆使して、JPEG 圧縮アーチファクトの削減やイメージに含まれるカラーとディテールの両方の復元を行います。

GPU を設定するには

- 1 **[ツール]** ▶ **[オプション]** ▶ **[グローバル]** をクリックします。
[ハードウェア アクセラレーションを使用する] チェック ボックスはデフォルトでオンです。
- 2 **[ハードウェア アクセラレーションを使用する]** リスト ボックスから GPU を選択します。
- 3 ハードウェア アクセラレーションをオンまたはオフにする処理に対応するチェック ボックスをオンまたはオフにします。
 - **表示**
 - **効果**
 - **アート スタイル**
 - **リサンプル**
 - **JPEG アーチファクトの削除**



選択した GPU が表示に使用されない場合、CorelDRAW Graphics Suite は最適なパフォーマンスを維持できるように引き続き OS で指定された GPU を表示に使用します。選択した GPU はその他のハードウェア アクセラレーション オプションで使用されます。

GPU 設定の変更内容によっては、アプリケーションの再起動が必要になることがあります。

デフォルトを変更する/復元する

[オプション ダイアログ ボックス] で、多くのデフォルト作業領域オプションを変更できます。たとえば、カラー テーマやスケール レベルの変更、およびデフォルトの測定単位の変更を行うことができます。

変更した設定を使用しなくなった場合、またはコントロールが簡単に見つけられなくなった場合、現在の作業領域をリセットすることでデフォルト設定を復元することができます。

現在の作業領域をリセットするには

- 1 アプリケーションを終了します。
- 2 **F8**キーを押した状態で、アプリケーションを再起動します。



作業領域をリセットすると、アプリケーション、ドキュメント、ツールのデフォルトの オプションが復元されます。グローバル オプション は作業領域に保存されていないため、リセットされません。

作業領域の外観およびコマンド バーに行われたカスタマイズは削除されます。

作業領域を作成する

作業領域を作成し、頻繁に使用するツールをよりアクセスしやすくすることができます。たとえば、ドッキング ウィンドウを開くか、ツールをツールバーに追加することができます。また、作成したカスタム作業領域を削除することもできます。

作業領域の保存先となるデフォルトの場所は変更できます。詳しくは、[118 ページの「コンテンツの場所を変更する」](#)。を参照してください。

作業領域を作成する前に、アプリケーションに含まれる作業領域を試すことができます。これらの作業領域は、多くの一般的なワークフロー向けに最適化されています。詳しくは、[54 ページの「作業領域を選択する」](#)。を参照してください。

作業領域を作成するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [作業領域] をクリックします。
- 2 [複製] をクリックします。
- 3 [作業領域の複製] ダイアログ ボックスで、[名前] ボックスに作業領域の名前を入力します。

必要に応じて、[説明] ボックスに作業領域の説明を入力します。

新しい作業領域をすぐに使用しない場合は、別の作業領域を選択し、[現行として設定] チェック ボックスをオフにします。

作業領域を削除するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [作業領域] をクリックします。
- 2 [作業領域] リストから作業領域を選択します。
- 3 [削除] をクリックします。



デフォルトの作業領域を削除することはできません。

作業領域をインポートする/エクスポートする

他のコンピュータまたはバージョン X6 以降の他のバージョンのアプリケーションで作成されたカスタム作業領域をインポートできます。作業領域をインポートする際に、インポート対象の作業領域要素を選択できます。たとえば、ドッキング ウィンドウの設定と位置をインポートし、スタートアップ オプションなどのアプリケーション設定はインポートしないことも可能です。選択した作業領域要素を現在または新規の作業領域にインポートすることもできます。利用可能な作業領域のいずれかを基に、新規の作業領域を作成し、名前と説明を割り当てることができます。

また、作成した作業領域をエクスポートして、他のユーザーと共有することもできます。

作業領域をインポートするには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [作業領域] ▶ [インポート] をクリックします。
- 2 [開く] ダイアログ ボックスで、インポートする作業領域ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- 3 [作業領域のインポート] ダイアログ ボックスで、インポートする作業領域要素を選択します。デフォルトでは、すべての作業領域要素が選択されます。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **現在の作業領域** — 現在の作業領域の作業領域要素を、インポートした作業領域要素で置き換えます。たとえば、すべてのツールバーをインポートすることを選択すると、現在の作業領域のツールバーは、インポートしたツールバーで置き換えられます。
 - **新規作業領域** — インポートした作業領域要素を含む作業領域を作成します。

可能な操作

新規作業領域の名前を指定する

[名前] ボックスに名前を入力します。

既存の作業領域を新規作業領域のベースにする

[ベース] リスト ボックスで、作業領域を選択します。

インポートした作業領域要素は、ベース作業領域とマージされます。

作業領域の説明を追加する

[説明] ボックスに説明を入力します。



作業領域の作成時に利用できなかった新しい機能のすべてが、インポート先の作業領域に追加されます。新しい機能は、デフォルトの作業領域とは異なる場所に配置されることがあります。

インポート元の作業領域がバージョン X6 または X7 で作成されている場合、カスタム アイコンが適切にスケールされないことがあります。

作業領域をエクスポートするには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [作業領域] ▶ [エクスポート] をクリックします。
- 2 [作業領域のエクスポート] ダイアログ ボックスで、エクスポートする作業領域の横にあるチェック ボックスをオンにします。
- 3 [エクスポート] をクリックします。
- 4 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 5 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

6 [保存] をクリックします。



エクスポートできる作業領域の項目は、ドッキング ウィンドウ、ツールバー (プロパティ バーとツールボックスを含む)、メニュー、およびショートカット キーです。

作業領域は **.cdws** ファイルとしてエクスポートされます。

作業領域の外観をカスタマイズする

ユーザー インタフェース項目のサイズのカスタマイズ、テーマの選択、ウィンドウ枠とデスクトップのカラーの変更が可能です。

スケールする

スケール レベルを変更することで、ユーザー インタフェース (UI) 項目のサイズを変更できます。スケール レベルはオペレーティング システムのスケール レベルと相対的です。デフォルト設定は 100% で、これはアプリケーションの UI 項目がオペレーティング システムの同様の UI 項目と同じサイズで表示されることを意味します。200% にスケールすると、アプリケーションの UI 項目はオペレーティング システムの UI 項目の 2 倍の大きさを表示されます。

テーマ

作業領域を明るくしたり暗くしたりするために、明、中、暗、ブラックのいずれかのテーマを選択できます。

ウィンドウ枠カラー

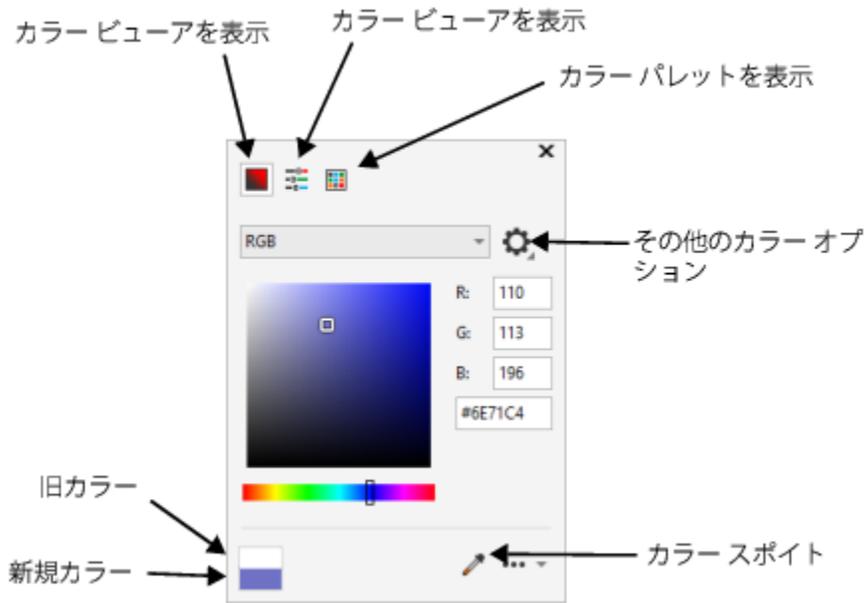
枠のカラーを変更することで、アプリケーション ウィンドウやダイアログ ボックスをカスタマイズできます。

デスクトップ カラー

ドキュメントに合わせて、デスクトップ、つまりイメージの周辺領域のカラーを変更できます。たとえば、ドキュメントに濃いカラーがある場合、デスクトップ カラーを白からグレーに変更して、コントラストを低くすることができます。

カラーを選択する

デスクトップやウィンドウ枠のカラーを選択するには、画面上にあるいずれかのカラーをサンプリングするだけです。または、カラー スライダー、カラー ビューア、カラー パレットを使用することもできます。



さまざまなツールを使用して、デスクトップやウィンドウ枠のカラーを変更できます。

作業領域の外観を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [外観] をクリックします。
- 3 必要に応じて設定を変更します。

さまざまなカラー ツールを使用してウィンドウまたはデスクトップのカラーを指定するには

- [カラー] 領域で、[デスクトップ] または [ウィンドウ枠] カラー ピッカーを開き、次の表にある操作を実行します。

目的	作業手順
カラーをサンプリングする	カラー スポイト ツール  をクリックして、画面上のカラーをクリックします。
カラー スライダを使用する	[カラー スライダを表示] ボタン  をクリックし、リストボックスからカラー モードを選択してスライダを移動します。
カラー ビューアを使用する	[カラー ビューアを表示] ボタン  をクリックし、リストボックスからカラー モードを選択してカラー ビューアでカラーをクリックします。
カラー パレットからカラーを選択する	[カラー パレットを表示] ボタン  をクリックし、パレットライブラリからカラー パレットを選択してカラーをクリックします。

目的

追加のカラー オプションを使用する

作業手順

[追加のカラー オプション] ボタン  をクリックし、オプションを選択します。オプションは、サンプリングや、カラービューア、カラー スライダ、カラー パレットの使用など、選択した方法により異なります。

ショートカット キーをカスタマイズする

このアプリケーションには**プリセットのショートカット キー**が用意されていますが、プリセットの変更や、独自のショートカット キーの追加ができます。不要になったショートカット キーは削除できます。

ショートカット キーのリストは印刷できます。また、ショートカット キーのリストを **[CSV]** ファイル形式 (カンマ区切り形式) にエクスポートして、ワープロや表計算ソフトなどのアプリケーションで容易に開くことができます。

ショートカット キーを変更すると、変更内容がアクセラレータ テーブルという名前のファイルに保存されます。このアプリケーションには次のアクセラレータ テーブルがあり、作業環境に合わせてカスタマイズできます。

- カットアウト ラボ - カットアウト ラボを使用するためのショートカット キーが格納されています。
- メイン テーブル - テキスト関連を除くすべてのショートカット キーが格納されています。
- 印刷プレビュー - 印刷プレビュー オプション用のショートカット キーが格納されています。
- スマート カーバー - スマート カーバー ツールを使用するためのショートカット キーが格納されています。
- テキストの編集テーブル - テキスト関連のすべてのショートカット キーが格納されています。



数字を含むキーボード ショートカットを使用する場合は、テンキーではなくキーボード上部の数字キーを押してください。

コマンドにキーボード ショートカットを割り当てるには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 [ショートカット キー] タブをクリックします。
- 4 [ショートカット キー テーブル] リスト ボックスからショートカット キーのテーブルを選択します。
- 5 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリ ([ファイル] など) を選択します。
- 6 [コマンド] リストでコマンド ([エクスポート] など) をクリックします。
[現在のショートカット キー] ボックスに、選択したコマンドに現在割り当てられているショートカット キーが表示されます。
- 7 [新規ショートカット キー] ボックスをクリックし、キーの組み合わせを押します。
入力したキーの組み合わせが別のコマンドに割り当て済みの場合は、そのコマンドが [現在の設定] 領域に表示されます。
- 8 [割り当て] をクリックします。



別のコマンドに同じショートカット キーが割り当てられている場合、最初に割り当てたショートカット キーが 2 番目に割り当てたショートカット キーに上書きされます。[割り当ててコンフリクトに移動] チェック ボックスをオンにすると、再割り当てによってショートカットを失うコマンドへ自動的に移動し、ショートカットを新しく割り当てることができます。



[すべて表示] をクリックすると、既存のショートカット キーをすべて表示できます。

[すべてリセット] をクリックすると、カスタム ショートカットがすべてデフォルトに置き換わります。

ショートカット キーを削除するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 [ショートカット キー] タブをクリックします。
- 4 [ショートカット キー テーブル] リスト ボックスからショートカット キーのテーブルを選択します。
- 5 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリ ([ファイル] など) を選択します。
- 6 [コマンド] リストでコマンド ([エクスポート] など) をクリックします。
- 7 [現在のショートカット キー] ボックスのショートカット キーをクリックします。
- 8 [削除] をクリックします。

キーボード ショートカットを印刷するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 [ショートカット キー] タブをクリックします。
- 4 [すべて表示] をクリックします。
- 5 [印刷] をクリックします。

ショートカット キーのリストをエクスポートするには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 [ショートカット キー] タブをクリックします。
- 4 [すべて表示] をクリックします。
- 5 [CSV にエクスポート] をクリックします。
- 6 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- 7 ファイルを保存するフォルダを選択します。
- 8 [保存] をクリックします。

メニューをカスタマイズする

Corel のカスタマイズ機能を使用すると、メニュー バーとそのメニューの設定を変更できます。追加、削除、および名前変更のメニューとメニュー コマンドの順序を変更できます。メニュー コマンドが属するメニューを忘れた場合は、メニュー コマンドを検索できません。デフォルトのメニューを復元することも可能です。

メニュー バーのメニューだけでなく、右クリックしたときに表示されるショートカット メニューも変更できます。

ヘルプのトピックは、アプリケーションのデフォルト設定に基づいて記述されています。メニューおよびメニュー コマンドをカスタマイズしても、関連するヘルプ トピックの記述にその変更は反映されません。

メニューとメニュー コマンドの順序を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 アプリケーション ウィンドウで、メニュー バーのメニューを右または左にドラッグします。

メニュー コマンドの順序を変更する場合は、メニュー バーのメニューをクリックし、メニュー コマンドをクリックし、再び最上位メニューをポイントし、コマンドを上または下にドラッグします。

コンテキスト メニューのコマンドの順序を変更するには、アプリケーション ウィンドウで右クリックして、コンテキスト メニューを表示し、メニュー コマンドを新しい位置にドラッグします。

メニューまたはメニュー コマンドの名前を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリを選択します。
- 4 リストのメニューまたはコマンドをクリックします。
- 5 [一般] タブをクリックします。
- 6 [キャプション] ボックスに名前を入力します。



[キャプション] ボックスの文字の最後にあるアンパサンド (&) は、文字 (アクセス キー) によるショートカットを示します。メニューを表示するには、**Alt** キーとこの文字を押します。コマンドを呼び出すには、メニューが表示されたときに下線付きの文字を押します。



[デフォルトの復元] をクリックすれば、名前をデフォルトの設定に戻すことができます。

メニュー バーの項目を追加/削除するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
メニュー項目を削除する場合は、**Alt** キーを押しながらメニュー項目をメニュー バーの外側にドラッグします。
- 3 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリを選択します。
- 4 メニュー バーに項目をドラッグします。

メニュー コマンドを素早く検索するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 [検索] ボックスにコマンド名や関連キーワードを入力します。
入力内容に合わせて結果が自動で更新されます。

メニュー バーの外観を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド バー] をクリックします。
- 3 リストから[メニュー バー] を選択します。
- 4 [メニュー バー モード] セクションで、次のいずれかのオプションをオンにします。
 - **標準モード** — 使用できるメニューがすべて表示されます。
 - **ファイル モード** — 限られたメニューが表示されます。

このページのその他の設定について詳しくは、590 ページの「ツールバーの外観を変更するには」を参照してください。

メニューをデフォルト設定に戻すには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド バー] をクリックします。
- 3 リストから[メニュー バー] を選択します。
- 4 [リセット] をクリックします。

ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする

ツールバーの位置および表示をカスタマイズすることができます。たとえば、ツールバーを移動したり、サイズを変更したり、表示/非表示を切り替えたりすることができます。このアプリケーションのユーザー インターフェイスやマニュアルでは、用語「ツールバー」と「コマンド バー」は同じ意味で使用されています。

ツールバーは、固定することもフロート表示することもできます。ツールバーを固定すると、ツールバーはアプリケーション ウィンドウの端に接して配置されます。ツールバーの固定を解除すると、ツールバーはアプリケーション ウィンドウから離れてフロート表示され、任意の場所に移動できるようになります。カスタム ツールバーの作成、削除、および名前変更ができます。ツールバー項目を追加、削除、および配置して、ツールバーをカスタマイズすることもできます。ボタンのサイズ変更、イメージまたはキャプション、あるいはその両方の表示などにより、ツールバーの外観を調整することができます。ツールバー ボタンのイメージを置き換えることもできます。

ツールバーの移動、固定、および固定の解除を行うときは、ツールバーのGrab領域を使用します。

目的のツールバー

Grab領域

固定および固定解除されたツールバー

ツールバーの上または左端の破線によって示されます。



フロート ツールバー

タイトル バー。タイトルが表示されない場合、Grab領域はツールバーの上または左端の破線によって識別されます。



固定したツールバーを間違っって移動したくない場合は、ツールバーをロックできます。ロックしたツールバーは左端に沿って点線がありません。



ロックしたツールバー

このトピックの手順は、ツールバーだけでなく、メニュー バー、プロパティ バー、ステータス バー、ツールボックス、コンテキストメニュー バーなど、他のコマンド バーの場合にも使用できます。

ツールバーの位置および表示をカスタマイズするには

目的

ツールバーを移動する

ツールバーを固定する

ツールバーの固定を解除する

フロート ツールバーのサイズを変更する

ツールバーの表示/非表示を切り替える

ツールバーをデフォルト設定に戻す



固定したツールバーはロックすると移動できません。ツールバーのロック解除については、[591 ページの「ツールバーのロック/ロック解除を切り替えるには」](#)を参照してください。

カスタム ツールバーを追加/削除/名前変更するには

目的

カスタム ツールバーを追加する

カスタム ツールバーを削除する

カスタム ツールバーの名前を変更する

作業手順

ツールバーのロックを解除して、ツールバーのグラブ領域をクリックし、ツールバーを新しい位置にドラッグします。

ツールバーのグラブ領域をクリックし、アプリケーション ウィンドウの端にドラッグします。

ツールバーのロックを解除して、ツールバーのグラブ領域をクリックし、ドラッグしてアプリケーション ウィンドウの端から離します。

ツールバーの端にマウス カーソルを置きます。2 方向矢印でツールバーの端をドラッグします。

[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**カスタマイズ**] をクリックします。**[コマンド バー]** をクリックし、ツールバー名の横にあるチェック ボックスをオンまたはオフにします。

[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**カスタマイズ**] をクリックします。**[コマンド バー]** をクリックしてツールバーをクリックし、**[リセット]** をクリックします。

作業手順

[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**カスタマイズ**] をクリックします。**[コマンド バー]** をクリックして **[新規作成]** をクリックし、**[コマンド バー]** リストに名前を入力します。ダイアログ ボックスを閉じます。**Alt + Ctrl** キーを押しながら、アプリケーション ウィンドウ内のツールまたはボタンを新しいツールバーまでドラッグします。

[**オプション**] ダイアログ ボックスの **[コマンド]** リストからコマンドをドラッグすることもできます。

[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**カスタマイズ**] をクリックします。**[コマンド バー]** をクリックしてツールバーをクリックし、**[削除]** をクリックします。

[**ツール**] ▶ [**オプション**] ▶ [**カスタマイズ**] をクリックします。**[コマンド バー]** をクリックし、カスタム ツールバー名を

目的

作業手順

クリックして選択し、もう一度クリックして編集モードに入ります。新しい名前を入力します。

ツールバーの項目を追加、削除、配置するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリを選択します。
- 4 ツールバー項目のアイコンを、リストからアプリケーション ウィンドウのツールバーにドラッグします。
ツールバーから項目を削除する場合は、ツールバー項目のアイコンをツールバーの外側にドラッグします。
- 5 アプリケーション ウィンドウのツールバーで、ツールバー項目を新しい位置にドラッグします。
ツールバー項目を他のツールバーに移動する場合は、ツールバー項目のアイコンをツールバーから別のツールバーにドラッグします。



Ctrl キーを押しながらツールバー項目をドラッグすると、ツールバー項目を他のツールバーにコピーできます。[オプション] ダイアログ ボックスが開いていない場合は、**Alt+Ctrl** を押す必要があります。

ツールバーの外観を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド バー] をクリックします。
- 3 全ツールバーのボタン サイズを変更するには、[グローバル ボタン サイズ] リスト ボックスからサイズを選択します。
- 4 リストでツールバー名をクリックします。
- 5 [ボタンのプロパティ] 領域の [サイズ] リスト ボックスから、ボタン サイズを選択します。
- 6 [ボタンのプロパティ] 領域の [スタイル] リスト ボックスから、次のいずれかを選択します。
 - Default
 - イメージのみ
 - キャプションのみ
 - イメージとキャプション (右)

フロート ツールバーの状態をタイトルを非表示にするには、[フロート ツールバーにタイトルを表示] チェック ボックスをオフにします。



組み込みのツールバーをデフォルトの設定にリセットするには、[リセット] をクリックします。

[ツールバーをロック] チェック ボックスをオンにすると、ツールバーをすべてロックできます。

ツールバー ボタンのイメージを置き換えるには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [オプション] ダイアログ ボックスの左側のペインで、[コマンド] をクリックします。
- 3 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリを選択します。
- 4 ツールバーのコマンドをクリックします。
- 5 [一般] タブをクリックします。
- 6 [アイコン] 領域で、[参照] をクリックし、使用するアイコンへ移動します。



使用するイメージの拡張子が **.ico** になっている必要があります。



[デフォルトの復元] をクリックすると、ツールバー ボタンのイメージをデフォルト設定に戻すことができます。

ツールバーのロック/ロック解除を切り替えるには

- **[ウィンドウ] ▶ [ツールバー] ▶ [ツールバーをロック]** をクリックします。

[ツールバーをロック] コマンドがオンの場合は、横にチェック マークが表示されます。アプリケーションの初回起動時は、ツールバーがデフォルトでロックされています。



フロート ツールバーはロックできません。



また、ツールバーのロックまたはロック解除は、ツールバーを右クリックして、**[ツールバーをロック]** をクリックしても行えます。

ツールボックスをカスタマイズする

ツールボックスに対してツールの追加または削除を行うことができます。ツールボックスを変更した場合、いつでもデフォルトの設定に戻すことができます。

また、ツールボックスなどのボタンの外観も変更できます。詳しくは、588 ページの「[ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする](#)」を参照してください。

ツールボックスをカスタマイズするには

- 1 ツールボックスの **[素早くカスタマイズ]** ボタン  をクリックします。
- 2 チェック ボックスをオンまたはオフにして、ツールを追加または削除します。

可能な操作

ツールボックスをリセットする

[ツールバーのリセット] ボタンをクリックします。

ツールボックスをカスタマイズする

[カスタマイズ] ボタンをクリックします。

プロパティ バーをカスタマイズする

プロパティ バーの配置と内容を変更できます。画面上のどの位置にでもプロパティ バーを移動できます。アプリケーション ウィンドウの内部に移動すると、フロートプロパティ バーになります。アプリケーション ウィンドウの上下左右のいずれかの端に配置すると、プロパティ バーがウィンドウ枠の一部として固定されます。

プロパティ バーの移動、固定、および固定の解除を行うときは、プロパティ バーのグラブ領域を使用します。これは、ツールバーのグラブ領域と同じです。グラブ領域について詳しくは、588 ページの「[ツールバーやその他のコマンド バーをカスタマイズする](#)」を参照してください。

ツールを追加または削除して、プロパティ バーをカスタマイズすることもできます。これにより、各種ツールを選択したときにプロパティ バーに表示される内容をカスタマイズできます。たとえば、**テキスト** ツールを使用している場合は、フォント サイズの拡大/縮小や大文字と小文字の変更など、テキストに関連するコマンドをプロパティ バーに追加できます。プロパティ バーをデフォルトの設定に戻すこともできます。

加えて、プロパティ バーにあるボタンのサイズやスタイルも変更できます。詳しくは、590 ページの「[ツールバーの外観を変更するには](#)」を参照してください。

プロパティ バーを配置するには

目的	作業手順
プロパティ バーを移動する	プロパティ バーをロック解除し、プロパティ バーのグラブ領域をクリックして、プロパティ バーを適切な位置にドラッグします。
プロパティ バーの固定を解除する	プロパティ バーのグラブ領域をクリックし、プロパティ バーをドラッグしてアプリケーション ウィンドウの端から離します。
プロパティ バーを固定する	プロパティ バーのグラブ領域をクリックし、プロパティ バーをアプリケーション ウィンドウの端までドラッグします。

プロパティ バーのツールバー項目を追加/削除するには

- 1 プロパティ バーの **[素早くカスタマイズ]** ボタン  をクリックします。
- 2 追加または削除する項目の横にあるチェック ボックスをオンまたはオフにします。

可能な操作

プロパティ バーをリセットする	[ツールバーのリセット] ボタンをクリックします。
プロパティ バーをカスタマイズする	[カスタマイズ] ボタンをクリックします。



アクティブなツールまたはタスクに対して、新しい項目がプロパティ バーに表示されます。プロパティ バーの内容が変更されると、この新しい項目は表示されません。新しい項目は、関連するツールまたはタスクがアクティブになると、再び表示されます。



[ツール] ▶ **[オプション]** ▶ **[カスタマイズ]** をクリックして、プロパティ バーをカスタマイズすることも可能です。**[オプション]** ダイアログ ボックスの左側のペインで **[コマンド]** をクリックして、上部のリスト ボックスからコマンド カテゴリを選択し、ツールバー項目をリストからプロパティ バーにドラッグします。プロパティ バーから項目を削除する場合は、**Alt** キーを押しながらツールバー項目のアイコンをプロパティ バーの外側にドラッグします。

プロパティ バーのボタンを変更することもできます。詳しくは、590 ページの「[ツールバーの外観を変更するには](#)」を参照してください。

ステータス バーをカスタマイズする

ステータスバーには、ファイル サイズ、現在のツール、ドキュメントの寸法、およびメモリに関する情報が表示されます。また、ドキュメントのカラー プロファイルやカラー校正ステータスなどのドキュメントのカラー情報を表示します。表示される情報を変更し、サイズを変更すると、ステータス バーをカスタマイズできます。また、ツールバー項目を追加、削除、およびサイズ変更して、ステータス バーをカスタマイズすることもできます。さらに、ステータス バーをデフォルトの設定に復元できます。表示された情報を簡単に確認するために、アプリケーション ウィンドウの上部にステータス バーを配置することもできます。

ステータス バーに表示される情報を変更するには

- ステータス バーで、表示された情報の横にあるボタン  をクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ツール ヒント
 - ファイル サイズ
 - メモリ
 - ドキュメントの寸法
 - ドキュメントのカラー設定

ステータス バーのサイズを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [コマンド バー] をクリックします。
- 3 リストから [ステータス バー] を選択します。
- 4 [ステータス バー プロパティ] 領域で、[ドッキング時の行数] ボックスに「1」または「2」を入力します。

ステータス バーにツールバー項目を追加/削除するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [コマンド] をクリックします。
- 3 上のリスト ボックスでコマンドのカテゴリを選択します。
- 4 Alt キーを押しながらツールバー項目をリストからステータス バーにドラッグします。

ステータス バーからツールバー項目を削除する場合は、項目のアイコンをステータス バーの外側にドラッグします。

ステータス バーのツールバー項目のサイズを変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [カスタマイズ] をクリックします。
- 2 [コマンド バー] をクリックします。
- 3 [ステータス バー] をクリックし、チェック ボックスをオンにします。
- 4 [ボタンのプロパティ] 領域の [サイズ] リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - [小]
 - [中]
 - [大]

ステータス バーの位置を変更するには

- ステータス バーを右クリックし、[カスタマイズ] ▶ [ステータス バー] ▶ [配置] の順にクリックし、[上端] または [下端] をクリックします。

ステータス バーのデフォルト設定に戻すには

- ステータス バーを右クリックし、[カスタマイズ] ▶ [ステータス バー] ▶ [デフォルトにリセット] をクリックします。

フィルタをカスタマイズする

ファイルの形式を変換するには、**フィルタ**を使用します。フィルタは、**ラスタ**、**ベクトル**、**アニメーション**、および**テキスト**の4種類に分類されます。必要なフィルタだけがロードされるようにフィルタを追加または削除して、フィルタの設定をカスタマイズすることができます。フィルタのリストの順序を入れ替えたり、デフォルトのフィルタを復元したりすることも可能です。

フィルタを追加するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [ファイル形式] をクリックします。
- 3 [使用できるファイルの種類] リストで、フィルタの種類をクリックします。
- 4 **フィルタ** をクリックします。
- 5 [追加] をクリックします。

フィルタを削除するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [ファイル形式] をクリックします。
- 3 [アクティブなフィルタ] リストで**フィルタ** をクリックします。
- 4 [削除] をクリックします。

フィルタのリストの順序を変更するには

- 1 [ツール] ▶ [オプション] ▶ [グローバル] をクリックします。
- 2 [ファイル形式] をクリックします。
- 3 [アクティブなフィルタ] リストで**フィルタ** をクリックします。
- 4 次のいずれかをクリックします。
 - **上に移動** - リストでフィルタを上に移動します。
 - **下に移動** - リストでフィルタを下に移動します。



[デフォルトにリセット] をクリックすると、[アクティブなフィルタ] リストをデフォルト設定にリセットできます。



マクロとスクリプトを使用してタスクを自動化する

マクロやスクリプトを使用すると、反復的なタスクをスピード アップしたり、複数または複雑な操作を組み合わせたり、オプションにより簡単にアクセスできます。内蔵の Visual Basic for Applications (VBA) または Visual Studio Tools for Applications (VSTA) 機能を使用してマクロを作成できます。また、内蔵の JavaScript 機能あるいは Corel SCRIPT プログラミング言語を使用してスクリプトを作成します。

マクロ (またはスクリプト) を使うことは、電話のスピードダイヤル機能を使うようなものです。たいていの電話には、頻繁にかける電話番号をスピードダイヤル ボタンに設定できます。これによって、次回その番号をダイヤルする必要が生じた場合に、そのスピードダイヤル ボタンを押すことにより、時間を節約できます。同じように、マクロを使用すると、繰り返したい操作を設定できます。そして、次回にその操作を繰り返す必要が生じたら、そのマクロを実行して時間を節約できます。

タスクを実行するのに必要なコードを (VBA または VSTA を使用して) 記述したい場合はマクロが適している一方、タスクを実行するのに必要な手順を (Corel SCRIPT を使用して) 記録したい場合は、スクリプトが適しています。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ページ 595 の「Macros」。
- ページ 600 の「JavaScript スクリプト」。
- ページ 601 の「Corel スクリプト」。

Macros

マクロを使って反復的なタスクを自動化すると、時間を節約できます。マクロを使って操作のシーケンスを指定できるので、その操作を後で簡単に繰り返すことができます。

マクロを使い場合、プログラミングの経験は不要です — 実際、メイン アプリケーション ウィンドウ内でマクロを操作するための基本的なツールを使用できます。ただし、マクロをさらにコントロールしたい場合には、次の内蔵プログラミング環境を使用できます。

- Microsoft Visual Studio Tools for Applications (VSTA) — VBA の後継機能であり、開発者やその他のプログラミングの専門家に最適です。VSTA には、最も高度なマクロ プロジェクトの作成に必要なツールや機能が用意されています。
- Microsoft Visual Basic for Applications (VBA) — Microsoft Visual Basic (VB) プログラミング環境の一部です。これは初心者にも最適です。VBA を使用して個人用の基本的なマクロを作成できますが、より高度なマクロ プロジェクトも作成できます。



VBA と VSTA の相違点に関する詳しい情報は、[CorelDRAW コミュニティ Web サイトの開発者エリア](#)にあるプログラミングガイドを参照してください。

マクロを使い始める

VBA および VSTA のマクロ機能は、デフォルトでこのソフトウェアと共にインストールされますが、必要に応じてこれらの機能を手動でインストールできます。VBA 機能のオプションを指定できます。



Corel PHOTO-PAINTで VSTA マクロ機能を使用するには、Microsoft Visual Studio 2019 をインストールする必要があります。VSTA エディタを使用するには、まず Microsoft Visual Studio 2019、Community、Professional、Premium、Ultimate、または Enterprise のいずれかのエディションをインストールする必要があります。次に [microsoft.com](#) から Microsoft Visual Studio Tools for Applications 2019 を再インストールします。

CorelDRAW Graphics Suite をインストールした後に Microsoft Visual Studio をインストールした場合、CorelDRAW Graphics Suite インストールを修正して、VSTA マクロ機能を再インストールする必要があります。詳しくは、[597 ページの「マクロ機能を手動でインストールするには」](#)を参照してください。

マクロ機能には、メイン アプリケーション ウィンドウでマクロを操作するツールがいくつか用意されています。

- マクロ ツールバー — 一般的なマクロ関数に簡単にアクセスできます
- [スクリプト] ドッキング ウィンドウ — VBA で利用できるすべてのマクロ プロジェクトと、これらのプロジェクトで使用する基本的な機能に簡単にアクセスできます。
- スクリプト エディタ (旧称 Visual Basic エディタ) — VBA ベースのマクロ プロジェクトを作成する高度な関数が用意されています。
- Visual Studio エディタ — VSTA ベースのマクロ プロジェクトを作成する高度な関数が用意されています。VSTA エディタは、Microsoft Visual Studio 2019 をインストールしている場合のみアクセスできます。

マクロを作成する

マクロはモジュール (「コード モジュール」とも呼ばれます) に保存され、このモジュールはマクロ プロジェクトに保存されます。[スクリプト] ドッキング ウィンドウでは、マクロ プロジェクト、モジュール、および実際に使用できるマクロのすべてを表示し、管理できます。

[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用して、Global Macro Storage (GMS) ファイルまたは Corel VSTA プロジェクト (CGSaddon) の形式でマクロ プロジェクトを作成できます。これらのファイルを使用は、マクロ プロジェクトのコンポーネントを包含して他のユーザーと共有する最適な方法です。[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用すると、作成するマクロ プロジェクトを開いたり (または「ロード」したり)、ソフトウェアとともにインストールするマクロ プロジェクトや、ユーザーが利用できるマクロ プロジェクトを開くことができます。また、[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使ってマクロ プロジェクトの名前を変更したり、GMS ベースおよび VSTA のマクロ プロジェクトをコピーして閉じる (または「アンロード」する) ことができます。



一部のマクロ プロジェクトはロックされており、変更できません。



ドキュメントを作成すると、そのドキュメントのマクロ プロジェクトは [スクリプト] ドッキング ウィンドウに自動的に追加されます。マクロはドキュメントのマクロ プロジェクト内に保存できますが (たとえば、オールインワン テンプレートを作成するためなど)、GMS ファイルを使用してマクロ プロジェクトを保存することをお勧めします。

各マクロ プロジェクトには少なくともモジュールが 1 つ含まれます。[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用してモジュールを VBA ベースのマクロ プロジェクトに追加するか、編集するために既存のモジュールを開くことができます。[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用して、VBA モジュールの名前を変更したり、削除することもできます。



一部のモジュールでは、編集機能が無効になっています。

さらに、[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用すると、利用可能なモジュール内でマクロを作成できます。マクロを作成するにはプログラミングの経験は必要ありません。ただし、プログラミング経験をお持ちで、VBA を編集したい場合は、スクリプト エディタを使って行うことができます。また、[スクリプト] ドッキング ウィンドウを使用して、VBA マクロの名前を変更したり、削除したりすることも可能です。

マクロを再生する

マクロを再生すると、そのマクロに関連付けられたアクションを実行できます。

マクロについてさらに学習する

CorelDRAW コミュニティ Web サイトの[開発者エリア](#)には、便利なリソースが豊富に用意されています：[プログラミング ガイド](#)、[コード サンプル付きの詳細なオブジェクト モデル参照ドキュメント](#)、[オブジェクト モデル図](#)、[詳細なプログラミング記事とチュートリアル](#)などがあります。

オブジェクト モデル参照ドキュメントは API ドキュメントとも呼ばれ、アプリケーション内で自動化できるあらゆる機能と関数に関するヘルプが含まれます。(これらの機能や関数は集散的に「オブジェクト モデル」と呼ばれます)。スクリプト エディタから関連するドキュメントに簡単にアクセスできます。

オブジェクト モデル図は、CorelDRAW、Corel PHOTO-PAINT、および Corel DESIGNER で自動化できる機能や関数を階層的に表したものです。



VBA とそのプログラミング環境の詳細については、スクリプト エディタの **[ヘルプ]** メニューから Microsoft Visual Basic ヘルプを開き、参照してください。

VSTA とそのプログラミング環境の詳細については、VSTA エディタの **[ヘルプ]** メニューを参照してください。

マクロ機能を手動でインストールするには

- 1 Windows のコントロール パネルで **[プログラムのアンインストール]** をクリックします。
- 2 **[プログラムのアンインストールまたは変更]** ページで、**CorelDRAW Graphics Suite** をダブルクリックします。
- 3 ウィザードに表示される **[変更]** オプションをオンにして、指示に従います。
- 4 インストール ウィザードの **[機能]** ページで、**[ユーティリティ]** リスト ボックスの次のチェック ボックスを有効にします。
 - **Visual Basic for Applications**
 - **Visual Studio Tools for Applications**



VBA および VSTA のマクロ機能は、デフォルトでこのソフトウェアと共にインストールされます。

VBA オプションを指定するには

- 1 **[ツール] ▶ [オプション] ▶ [Corel PHOTO-PAINT]** をクリックします。
- 2 **[VBA]** をクリックします。
- 3 **[セキュリティ]** 領域で、**[セキュリティ オプション]** をクリックして、不正なマクロが実行されるリスクを管理する方法を指定します。

このセキュリティ機能を回避するには、**[インストールされたすべての GMS モジュールを信頼する]** チェック ボックスをオンにして、手順 6 に進みます。
- 4 **[セキュリティ]** ダイアログ ボックスの **[セキュリティ レベル]** ページで、次のチェック ボックスのいずれかをオンにします。

- **最高** - 信頼された場所にインストールされたマクロのみ実行できます。その他の署名付き/署名なしのマクロはすべて無効になります。
 - **高** - 信頼されたソースの署名付きマクロのみ実行できます。署名のないマクロは自動的に無効になります。
 - **中** - 害を及ぼす可能性のあるマクロも含めて、実行するマクロを選択できます。
 - **低 (推奨しません)** - 潜在的リスクのあるマクロも含め、すべて実行できます。ウイルス スキャンのソフトウェアがインストールされている場合、あるいは開く文書の安全性を確認できる場合は、この設定をオンにしてください。
- 5 **【セキュリティ】** ダイアログ ボックスの **【信頼できる発行元】** ページで、どのマクロ発行元が信頼できるか確認します。**【表示】** をクリックして選択したマクロ発行元の詳細を表示するか、**【削除】** をクリックしてリストから選択したマクロ発行元を削除します。必要な場合は、選択したマクロ発行元の **【Visual Basic プロジェクトへのアクセスを信頼する】** チェック ボックスをオンまたはオフにできます。
- 6 VBA 機能を起動時にロードするには、**【VBA のロードの遅延】** チェック ボックスをオフにします。

マクロ ツールにアクセスするには

目的	作業手順
マクロ ツールバーを表示する	【ウィンドウ】 ▶ 【ツールバー】 ▶ 【マクロ】 をクリックします。 ツールバーが表示されているときは、コマンドの横にチェックマークが付いています。
【スクリプト】 ドッキング ウィンドウを表示する	【ツール】 ▶ 【スクリプト】 ▶ 【スクリプト】 をクリックします。
スクリプト エディタを表示する	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 【ツール】 ▶ 【スクリプト】 ▶ 【スクリプト エディタ】 をクリックします。 • 【マクロ】 ツールバーで 【スクリプト エディタ】 ボタン  をクリックします。 • 【スクリプト】 ドッキング ウィンドウで 【Visual Basic for Applications】 を右クリックしてから、【IDE の表示】 をクリックします。
Visual Studio エディタを表示する	【ツール】 ▶ 【スクリプト】 ▶ 【Visual Studio エディタ】 をクリックします。ただし、VSTA がコンピュータにインストールされている必要があります。

マクロ プロジェクトを作成するには

- **【スクリプト】** ドッキング ウィンドウで、次のいずれかを行います。
 - リストの **【Visual Studio Tools for Applications】** をクリックし、**【新規作成】** をクリックしてから **【新規マクロ プロジェクト】** をクリックします。
 - リストの **【Visual Basic アプリケーション】** をクリックし、**【新規作成】** をクリックしてから **【新規マクロ プロジェクト】** をクリックします。

可能な操作

Openマクロ プロジェクトを開く (または「ロード」する)	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • リストの 【Visual Studio Tools for Applications】 をクリックし、【ロード】 をクリックしてからプロジェクトを選択します。
--------------------------------	--

可能な操作

- リストの **[Visual Basic アプリケーション]** をクリックし、**[ロード]** をクリックしてからプロジェクトを選択します。

マクロ プロジェクトの名前を変更する

リストのプロジェクトを右クリックし、**[名前の変更]** をクリックします。

GMS ベースのマクロ プロジェクトのコピー

リストのプロジェクトを右クリックして **[コピー]** をクリックし、プロジェクトのコピー先の場所を選びます。

ドキュメント ベースのマクロ プロジェクトはコピーできません。このようなプロジェクトはドキュメント内に保存されており、そのドキュメントから分離して管理することはできません。

リストのモジュールをすべて表示/非表示にする

[簡略モード] ボタン  をクリックします。

マクロ プロジェクトにモジュールを追加する

次のいずれかの操作を実行します。

- リストのプロジェクトをクリックし、**[新規作成]** をクリックしてから **[新規モジュール]** をクリックします。
- リストのプロジェクトを右クリックし、**[新規モジュール]** をクリックします。

マクロ プロジェクトのモジュールを編集する

次のいずれかの操作を実行します。

- リストのモジュールをクリックし、**[編集]** ボタン  をクリックします。
- リストのモジュールを右クリックし、**[編集]** をクリックします。

マクロ プロジェクトのモジュールの名前を変更する

リストのモジュールを右クリックし、**[名前の変更]** をクリックします。

マクロ プロジェクトのモジュールを削除する

次のいずれかの操作を実行します。

- リストのモジュールをクリックし、**[削除]** ボタン  をクリックします。
- リストのモジュールを右クリックし、**[削除]** をクリックします。

GMS ベースのマクロ プロジェクトを閉じる (または「アンロード」する)

リストのマクロ プロジェクトを右クリックして、**[マクロ プロジェクトのアンロード]** をクリックします。

ドキュメント ベースのマクロ プロジェクトが保存されているドキュメントを閉じると、そのマクロ プロジェクトを閉じることができます。



一部のマクロ プロジェクトはロックされており、変更できません。

マクロを作成するには

- **[スクリプト]** ドッキング ウィンドウで、次のいずれかを行います。
 - 希望するコンテナ モジュールをクリックし、**[新規作成]** をクリックして、**[新規マクロ]** をクリックします。
 - 希望するコンテナ モジュールを右クリックし、**[新規マクロ]** をクリックします。

可能な操作

マクロを編集する

次のいずれかの操作を実行します。

- リストのマクロをクリックし、**[編集]** ボタン  をクリックします。
- リストのマクロを右クリックし、**[編集]** をクリックします。

マクロを削除する

次のいずれかの操作を実行します。

- リストのマクロをクリックし、**[削除]** ボタン  をクリックします。
- リストのマクロを右クリックし、**[削除]** をクリックします。



一部のマクロ プロジェクトはロックされており、変更できません。

マクロを再生するには

- 次のいずれかの操作を行います。
 - **[ツール]** ▶ **[スクリプト]** ▶ **[スクリプトの実行]** をクリックするか、**[マクロ]** ツールバーの **[マクロの実行]** ボタン  をクリックします。**[マクロの場所]** リスト ボックスから、マクロが保存されているプロジェクトまたはファイルを選びます。**[マクロ名]** リストから、マクロを選択します。**[実行]** をクリックします。
 - **[スクリプト]** ドッキング ウィンドウで、リストのマクロをダブルクリックします。
 - **[スクリプト]** ドッキング ウィンドウでリストのマクロをクリックし、**[実行]** ボタン  をクリックします。
 - **[スクリプト]** ドッキング ウィンドウでリストのマクロを右クリックし、**[実行]** をクリックします。

スクリプト エディタ内からオブジェクト モデル参照ドキュメントにアクセスするには

- 1 Microsoft Visual Basic for Applications の操作中に **F2** キーを押して、オブジェクト ブラウザを開きます。オブジェクト ブラウザは、スクリプト エディタで自動化できるすべての機能と関数を表示します。
- 2 **[ライブラリ]** リスト ボックスから **PHOTOPAINT** を選択します。オブジェクト ブラウザが更新され、マクロ エディタで自動化できる Corel PHOTO-PAINT の機能と関数のみが表示されます。これらの機能や関数は集散的に「オブジェクト モデル」と呼ばれます。
- 3 オブジェクト ブラウザで項目をクリックし、**F1** を押します。



項目をクリックしてから **F1** キーを押して、スクリプト エディタの **[コード]** ウィンドウに項目の情報を表示することもできます。

JavaScript スクリプト

JavaScript スクリプトを使って一連の反復的なタスクを自動化すると、時間を節約できます。**[スクリプト]** ドッキング ウィンドウ (**[ツール]** ▶ **[スクリプト]** ▶ **[スクリプト]**) を使用すると、スクリプトのロード、実行、名前の変更、削除ができます。

スクリプトを再生すると、スクリプトに関連付けられた操作を実行できます。

スクリプトをロードするには

- [スクリプト] ドッキング ウィンドウで [ロード] をクリックし、スクリプトのあるフォルダを選択します。

スクリプトを再生するには

- [スクリプト] ドッキング ウィンドウでリストのスクリプトをクリックし、[実行] ボタン  をクリックします。

スクリプトを編集するには

- [スクリプト] ドッキング ウィンドウでリストのスクリプトをクリックし、[編集] ボタン  をクリックします。

通常、スクリプトはメモ帳で表示されます。スクリプトが開かなかった場合は、JavaScript ファイルがメモ帳に関連付けられていることを確認してください。詳しくは、601 ページの「JavaScript ファイルをメモ帳に関連付けるには」を参照してください。

スクリプトの名前を変更するには

- [スクリプト] ドッキング ウィンドウでスクリプト名を2回クリックし、新しい名前を入力します。

スクリプトを削除するには

- [スクリプト] ドッキング ウィンドウでリストのスクリプトをクリックし、[削除] ボタン  をクリックします。

JavaScript ファイルをメモ帳に関連付けるには

- 1 ファイル エクスプローラで、JavaScript ファイルを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 2 ダイアログ ボックスの [全般] タブで [プログラム] の横にある [変更] をクリックします。
- 3 .js ファイルをメモ帳で開くことを選択します。

Corel スクリプト

Corel スクリプトとは、単純なタスクを自動化するために Corel SCRIPT プログラミング言語を使用する短いプログラムのことです。たとえば、露光不足のイメージがいくつもある場合は、最初の写真を修整する手順を記録します。次に、その記録を残りの写真に対して再生して、すべての写真を同時に修整できます。

[レコーダ] ドッキング ウィンドウを使って記録を作成し、それを将来使用するためにスクリプトとして保存できます。また、[レコーダ] ドッキング ウィンドウを使用して、記録やスクリプトを開き、編集し、再生できます。

記録とスクリプトを作成する

キーボード、ツールバー、ツールボックス、メニュー、およびマウスのほとんどの操作を記録できます。記録を開始すると、操作はコマンド ステートメントに変換されて、コマンド リストに順番に表示されます。各コマンド ステートメントは、メニューの名前とそのメニュー内のコマンドの名前に基づく 1 つの単語になります。

一部の操作は、パラメータに変換されてコマンドに埋め込まれます。パラメータは記録されますが、コマンド リストには表示されません。たとえば、ペイント カラーを選択し、イメージにブラシ ストロークを適用する場合、選択したカラーはレコーダのコマンド リストには表示されず、ペイント ツール コマンドのパラメータとして記録されます。

Corel PHOTO-PAINT の次の操作とコマンドは記録できません。

- ツールバー、キーボード、メニューのカスタマイズ
- グリッド、ルーラー、ガイドラインのカスタマイズ
- [ウィンドウ] メニューと [ヘルプ] メニューのコマンド

- イメージの計算、イメージのつなぎ合わせ
- ズームなどの表示操作

将来の Corel PHOTO-PAINT セッションで記録を利用できるようにするには、記録をスクリプトとして保存する必要があります。作成したスクリプトは、いつでもロードして再生できます。

元に戻す操作のリストをスクリプトとして保存することもできます。たとえば、後で再現する予定がある効果の操作を記録しなかった場合は、元に戻すリストを使用して、この操作をスクリプトとして保存できます。元に戻すリストから作成されたスクリプトには、イメージに対して実行したすべての操作が含まれます。したがって、スクリプトを編集し、必要なコマンドを分離する必要があります。

記録とスクリプトを編集する

新規コマンドを挿入したり、既存のコマンドを上書きしたりすることで、記録またはスクリプトを編集できます。不要になったコマンドを削除することもできます。

記録とスクリプトを再生する

記録またはスクリプトを再生すると、記録されたコマンドがアクティブなイメージに適用されます。記録は、現在の Corel PHOTO-PAINT セッションでのみ再生できます。記録を他の作業セッションで使用したい場合は、スクリプトとして保存する必要があります。記録またはスクリプトを再生前に、記録されたコマンドを正しく実行するために必要なコンポーネントがアクティブなイメージに含まれていることを確認してください。たとえば、オブジェクトに固有のコマンドがスクリプトに含まれる場合、このスクリプトは、オブジェクトがないイメージに正しく適用されません。

記録またはスクリプトから 1 つのコマンドをイメージに適用できます。この機能は、特定のコマンドの結果を確認してから、記録またはスクリプト内の残りのコマンドをイメージに適用する場合に便利です。

記録またはスクリプトを再生する前に、その中のいくつかのコマンドを一時的に除外できます。無効にしたコマンドを有効にするために、記録またはスクリプトを再度作成する必要はありません。

1 つ以上のイメージに 1 つ以上のスクリプトを同時に適用できます。この処理はバッチ処理と呼ばれます。この機能を使用すると、複数のイメージに共通する処理を実行できます。イメージを 1 つずつ開いたり、スクリプトを 1 つずつ再生したりする必要はありません。バッチ処理の後のイメージは、同じファイル形式または異なるファイル形式に保存できます。

[レコーダ] ドッキング ウィンドウを表示するには

- [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [レコーダ] をクリックします。

記録またはスクリプトを作成するには

1 [レコーダ] ドッキング ウィンドウの [新規作成] ボタン  をクリックします。

2 [記録] ボタン  をクリックします。

3 記録する操作を実行します。

4 [停止] ボタン  をクリックします。

これで記録は終了し、現在のセッションで再生できるようになります。

この記録を将来も使用できるようにスクリプトとして保存するには、[保存] ボタン  をクリックし、スクリプトを保存するドライブとフォルダを選択して、[ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。



記録内の最初の操作がドキュメントの保存コマンドである場合は、記録内の最初のコマンドに戻ることによって、オリジナルのイメージを復元できます。

元に戻すリストをスクリプトとして保存するには

- 1 [ウィンドウ] ▶ [ドッキング ウィンドウ] ▶ [ヒストリー] をクリックします。

- 2 [履歴] ドッキング ウィンドウの [スクリプト ファイルに名前を付けて保存] ボタン  をクリックします。
- 3 [記録の保存] ダイアログ ボックスで、スクリプトを保存するドライブとフォルダを選択します。
- 4 [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。

スクリプトを開くには

- 1 [レコーダ] ドッキング ウィンドウの [開く] ボタン  をクリックします。
- 2 スクリプトが保存されているドライブとフォルダを選択します。
- 3 スクリプトのファイル名をダブルクリックします。

記録またはスクリプトにコマンドを挿入するには

- 1 [レコーダ] ドッキング ウィンドウで、記録を作成するか、スクリプトを開きます。
- 2 [新規コマンドの挿入] ボタン  をクリックします。
- 3 挿入するコマンドの直前のコマンドをダブルクリックします。
選択したコマンドの横に位置インジケータが表示されます。
- 4 [記録] ボタン  をクリックします。
- 5 挿入する操作を実行します。
- 6 [停止] ボタン  をクリックします。

記録またはスクリプト内のコマンドを置き換えるには

- 1 記録を作成するか、スクリプトを開きます。
- 2 [レコーダ] ドッキング ウィンドウで、置き換える一連のコマンドの最初のコマンドをダブルクリックします。
選択したコマンドの横に位置インジケータが表示されます。
- 3 [新規コマンドの挿入] ボタン  をクリックして無効にします。
- 4 [記録] ボタン  をクリックします。
- 5 新しい操作を実行します。
- 6 [停止] ボタン  をクリックします。

記録またはスクリプトからコマンドを削除するには

- 1 記録を作成するか、スクリプトを開きます。
- 2 [レコーダ] ドッキング ウィンドウで、Ctrl キーを押しながら各コマンドをクリックします。
- 3 [選択したコマンドの削除] ボタン  をクリックします。



スクリプトからコマンドを削除する場合は、変更を保存してからスクリプトを閉じる必要があります。

記録またはスクリプトを再生するには

- 1 記録を作成するか、スクリプトを開きます。
- 2 [レコーダ] ドッキング ウィンドウの [再生] ボタン  をクリックします。

可能な操作

1 つのコマンドを再生する

再生するコマンドの名前をダブルクリックします。選択したコマンドの横には、位置インジケータが表示されます。[1 フレーム送り] ボタン  をクリックします。

コマンドを有効または無効にする

コマンド名の左にあるチェックボックスを無効または有効にします。

無効にしたコマンドはグレー表示されます。

最初のコマンドに移動する

[巻き戻し] ボタン  をクリックします。

最後のコマンドに移動する

[早送り] ボタン  をクリックします。

複数のイメージに対してスクリプトを再生するには

- 1 [ファイル] ▶ [バッチ処理] をクリックします。
- 2 [ファイルの追加] をクリックします。
- 3 [バッチ再生用イメージのロード] ダイアログ ボックスで、イメージを保存するドライブとフォルダを選択します。
- 4 Ctrl キーを押しながら編集するイメージをクリックし、[開く] をクリックします。
- 5 [バッチ処理] ダイアログ ボックスで [スクリプトの追加] をクリックします。
- 6 [スクリプトのロード] ダイアログ ボックスで、スクリプトを保存するドライブとフォルダを選択します。
- 7 再生したいスクリプトをクリックし、[開く] をクリックします。さらにスクリプトを追加するには、このステップを繰り返します。
- 8 [完了時] リスト ボックスからオプションを選択します。
特定のフォルダにファイルを保存するには、[参照] をクリックし、目的のフォルダに移動します。
- 9 [再生] をクリックします。



[完了時] リスト ボックスで [保存しない] を選択すると、オリジナルのイメージを上書きする前に、結果を確認できます。

参照

Adobe Photoshop ユーザーのための Corel PHOTO-PAINT	607
用語集.....	611



Adobe Photoshop ユーザーのための Corel PHOTO-PAINT

Adobe Photoshop と Corel PHOTO-PAINT には、よく似た点があります。そのため、片方のアプリケーションに慣れていると、もう片方のアプリケーションも簡単に使用できます。Adobe Photoshop と Corel PHOTO-PAINT のアプリケーションの描画とデザイン機能はよく似ていますが、異なる用語とツールが使われています。これらの相違点を理解しておくで、今まで Adobe Photoshop を使用していた場合に、Corel PHOTO-PAINT を素早く使いこなせるようになります。

ここでは、次の項目について説明します。

- ページ 607 の「用語の違い」。
- ページ 608 の「ツールの違い」。

用語の違い

Adobe Photoshop と Corel PHOTO-PAINT では、いくつかの機能で異なる用語が使われています。次の表に、Adobe Photoshop の用語と、それに対応する Corel PHOTO-PAINT の用語を示します。

Adobe Photoshop の用語

操作
調整レイヤ
アニメーション
ビットマップ モード
描画モード
キャンバス

Corel PHOTO-PAINT の用語

スクリプト/マクロ
レンズ
ムービー
モノクロ カラー モード
マージ モード
用紙のサイズ

Adobe Photoshop の用語

書き出しフィルタ

ガイド

インデックス カラー モード

レイヤ マスク

レイヤ

レイヤ オプション

マスク

パネル

フォト マージ

選択範囲

スナップショット

Corel PHOTO-PAINT の用語

カットアウト ラボ

ガイドライン

パレット カラー モード

クリップ マスク

オブジェクト

オブジェクト プロパティ

マスクの保護領域

ドッキング ウィンドウ

イメージをつなぎ合わせる

マスクの編集領域

チェックポイント

ツールの違い

次の表に、Adobe Photoshop のツールと、それに対応する Corel PHOTO-PAINT のツールを示します。ツールの多くは、使った結果は同じですが、使い方が多少異なります。

Adobe Photoshop のツール

アクション パネル

ぼかしツール

焼き付けツール

Corel PHOTO-PAINT のツール

[レコーダ] ドッキング ウィンドウ。602 ページの「記録またはスクリプトを作成するには」。を参照してください。

[ぼかし] 特殊効果。371 ページの「フェード」。を参照してください。

効果ツール 。162 ページの「イメージにカラーを塗り付ける/染み付ける/ブレンドするには」。を参照してください。

覆い焼き/焼き付けツール 。187 ページの「ブラシ効果を使用してイメージのカラーとトーンを調整するには」。を参照してください。

Adobe Photoshop のツール

コピー スタンプ ツール

覆い焼きツール

楕円形選択ツール

フィルタ ギャラリー

フリーフォーム ペン ツール

グラデーション ツール

修復ブラシ ツール

ヒストリー パネル

投げ縄ツール

自由選択ツール

マグネティック選択ツール

移動ツール

Corel PHOTO-PAINT のツール

クローン ツール 。155 ページの「イメージ領域またはオブジェクトのクローンを作成するには」。を参照してください。

覆い焼き/焼き付けツール 。187 ページの「ブラシ効果を使用してイメージのカラーとトーンを調整するには」。を参照してください。

楕円形マスク ツール 。282 ページの「長方形または楕円形の編集領域を定義するには」。を参照してください。

[効果]メニュー。347 ページの「特殊効果进行操作する」。を参照してください。

パス ツール 。307 ページの「フリーハンド パスを描くには」。を参照してください。

インタラクティブ塗りつぶしツール 。252 ページの「グラデーション塗りつぶしをインタラクティブに適用するには」。を参照してください。

補正ブラシ ツール 。153 ページの「テキストとカラーをブレンドしてイメージの問題を除去するには」。を参照してください。

[ヒストリー] ドッキング ウィンドウ。98 ページの「操作を元に戻す/やり直すには」。を参照してください。

フリーハンド マスク ツール 。283 ページの「フリーハンド マスク ツールを使用して編集領域を定義するには」。を参照してください。

自由選択マスク ツール 。287 ページの「標準カラーの編集領域を定義するには」。を参照してください。

マグネティック マスク ツール 。288 ページの「標準カラーで囲まれた編集領域を定義するには」。を参照してください。

選択ツール 。415 ページの「オブジェクトを選択するには」。を参照してください。

Adobe Photoshop のツール

ナビゲータ パネル

ペイント バケツ ツール

パターン スタンプ ツール

ペン ツール

多角形選択ツール

クイック選択ツール

長方形選択ツール

一列選択ツール

一行選択ツール

文字ツール

Corel PHOTO-PAINT のツール

ナビゲータ ポップアップ ウィンドウ 。83 ページの「イメージを表示する」。を参照してください。

塗りつぶしツール 。247 ページの「標準塗りつぶしを適用するには」。を参照してください。

イメージスプレー ツール 。333 ページの「イメージをスプレーするには」。を参照してください。

パス ツール 。305 ページの「パスを作成する」。を参照してください。

フリーハンド マスク ツール 。283 ページの「フリーハンド マスク ツールを使用して編集領域を定義するには」。を参照してください。

パス ツール 。306 ページの「ベジェ パスを描くには」。を参照してください。

スマート選択マスク ツール 。285 ページの「編集領域を形状または領域のエッジに基づいて定義するには」。を参照してください。

長方形マスク ツール 。282 ページの「長方形または楕円形の編集領域を定義するには」。を参照してください。

長方形マスク ツール 。282 ページの「長方形または楕円形の編集領域を定義するには」。を参照してください。

長方形マスク ツール 。282 ページの「長方形または楕円形の編集領域を定義するには」。を参照してください。

テキスト ツール 。450 ページの「テキストを追加するには」。を参照してください。



用語集

数字 C D E G H J L N P R T U W Z あいうえお かき く け こ さ し す せ そ た ち つ て と ぬ ね の は ひ ふ へ ほ ま め も や ら り る れ ろ わ

数字

2色トーン

2色トーン カラー モードのイメージは、1~4色のカラーを追加してエンハンスされた8ビットのグレースケール イメージです。

C

CERN

CERN (Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire) は World Wide Web を開発した科学研究施設です。また、それ自体も World Wide Web サーバー システムの1つです。システムで使用しているサーバーの種類を調べるには、サーバー管理者に問い合わせてください。

CMY

シアン (C)、マゼンタ (M)、およびイエロー (Y) で構成されるカラー モード。このモードは3色印刷プロセスで使用します。

CMYK

シアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、および黒 (K) で構成されるカラー モード。CMYK 印刷では、黒の純色と広い範囲のトーンが再現されます。CMYK カラー モードでは、カラー値は百分率で表されます。このため、いずれかのインクの値が100である場合、そのインクは彩度100%で印刷されます。

D

DeviceN

カラー スペースとデバイスのカラー モデルの種類。このカラー スペースはマルチコンポーネントであり、標準の3つ (RGB) および4つ (CMYK) のカラー コンポーネント セット以外でカラーを定義できます。

dpi (1インチあたりのドット数)

プリンタの解像度を1インチあたりのドット数で表したものです。標準のデスクトップ レーザー プリンタの解像度は600dpiです。イメージセッタの解像度は1270または2540dpiです。dpi値の大きいプリンタでは、出力がなめらかで美しくなります。スキャン解像度やビットマップの解像度をdpiで表す場合もあります。

E

EXIF (Exchangeable Image File)

デジタル カメラの情報 (撮影日時、シャッター速度、焦点など) を、JPEG イメージに埋め込むことができるファイル形式。

G

GIF

必要なディスク容量が少なく、コンピュータ間で簡単に交換できるグラフィック ファイル形式。一般に、256 色以下のイメージをインターネットに発行する場合に使用されます。

H

HSB (色相、彩度、輝度)

このカラー モデルには、色相、彩度、および輝度の 3 つのカラー コンポーネントがあります。色相は色 (イエロー、オレンジ、赤など) を、輝度は見かけ上の強度 (色の明暗) を、彩度はカラー深度 (色の鮮やかさ) を決定します。

HTML

World Wide Web の作成規格は、構造を定義するマークアップ タグとドキュメントの要素によって構成されています。Web ページを作成するときは、タグを使用してテキストをマークアップし、イメージ、サウンド、ビデオ、アニメーションなどのリソースを統合します。

J

JavaScript

Web 上で使用するスクリプト言語。HTML ページにインタラクティブな機能を追加できます。

JPEG 2000

改良されたバージョンの JPEG ファイル形式。従来よりも高品質な圧縮が可能です。また、イメージ情報を添付し、イメージ領域ごとに異なる圧縮率を割り当てることができます。

JPEG

写真イメージの圧縮形式。圧縮する際に画質が多少低下します。データの損失がほとんどなく、ファイル サイズが小さいため (圧縮率は最大で 20 分の 1)、インターネットでも幅広く使用されています。

L

Lab

光度 (明度) コンポーネント (L) と、「a」 (緑~赤) と「b」 (青~イエロー) の 2 つの色コンポーネントがあるカラー モデル。

LZW

ファイル サイズが小さく処理時間が速い、データ非損失型のファイル圧縮形式。LZW 圧縮形式は、一般に GIF ファイルおよび TIFF ファイルで使用されます。

N

NCSA (National Center for Supercomputing Applications)

NCSA は、サーバー システムです。イメージ マップを作成して Web に表示する場合は、サーバーで使用しているシステムを調べて、マップ ファイルで適切なコードを使用する必要があります。システムで使用しているサーバーの種類を調べるには、サーバー管理者に問い合わせてください。

NTSC (National Television Standards Committee)

北米のテレビ モニタでサポートされているカラー再現範囲を定義するために、一般に使用されているビデオ カラー フィルタ。

P

PAL

ヨーロッパとアジアのテレビ モニタでサポートされているカラー再現範囲を定義するために、一般に使用されているビデオ カラー フィルタ。

PANOSE フォント マッチング

コンピュータにインストールされていないフォントを含むファイルを開いたときに、そのフォントの代用フォントを選択する機能。代用フォントは、現在のセッションのみに適用することも、常に使用するフォントとして設定することもできます。常に使用するフォントとして設定した場合は、ファイルを保存して再び開くと、新しいフォントが自動的に表示されます。

PANTONE プロセス カラー

PANTONE プロセス カラー システムで利用可能なカラー。このシステムは CMYK カラー モデルがベースになっています。

PNG (Portable Network Graphics)

オンライン表示で使用するために開発されたグラフィック ファイル形式。この形式は 24 ビットのカラー グラフィックをインポートできます。

R

RGB

カラー モードの 1 つ。光の 3 原色 (赤、緑、青) をさまざまな濃さで混合して、その他すべての色を再現します。赤、緑、青の各チャンネルに 0~255 の値が割り当てられます。モニタ、スキャナ、および人間の目は、色の再現または検出を RGB で行います。

T

True Color

24 ビット (約 1670 万色) で構成されるデジタル RGB カラーを指す用語。

TWAIN

画像処理ハードウェアの製造元が提供する TWAIN ドライバを使用すれば、デジタル カメラやスキャナから Corel グラフィック アプリケーションに直接イメージを取り込むことができます。

U

Unicode

16 ビット コード セットと 65,000 以上の文字を使い、世界の文字言語用の文字セットを定義する文字エンコード規格。Unicode はテキストの言語や OS、使用しているアプリケーションに関係なく、テキストを効率良く操作できます。

URL (Uniform Resource Locator)

インターネット上の Web ページの場所を定義する固有のアドレス。

W

Windows Image Acquisition (WIA)

Microsoft 製の標準インタフェースおよびドライバで、スキャナやデジタル カメラなどの周辺機器からイメージをロードするのに使用されます。

Z

ZIP

ファイル サイズが小さく処理時間が速い、データ非損失型のファイル圧縮形式。

あ

アクセラレータ テーブル

ショートカット キーのリストを保存するファイル。作業内容によってアクティブなテーブルは異なります。

アクティブなオブジェクト (Corel PHOTO-PAINT)

【オブジェクト マネージャ】 ドッキング ウィンドウでサムネールが赤い線で囲まれているオブジェクト。

圧力感知ペン

コマンドへのアクセスおよびイメージの描画に使用できる尖筆。圧力感知ペンを Corel PHOTO-PAINT で使用するには、圧力感知ペン、圧力感知タブレット、および対応するドライバをインストールする必要があります。

アニメーション ファイル

動画をサポートするファイル。たとえば、アニメーション GIF や QuickTime (MOV) などです。

アルファ チャンネル

マスクの一時保管領域。マスクをアルファ チャンネルに保存しておく、何度でもアクセスして再利用できます。アルファ チャンネルはファイルに保存できます。また、以前に保存したチャンネルをアクティブなイメージにロードできます。

アンチエイリアス

イメージの曲線および斜線をなめらかに表示する方法。周縁部のピクセルを塗りつぶすことで、周縁部と周囲のイメージの間の不自然さをなくします。

い

イメージ マップ

HTML ドキュメントのグラフィック。World Wide Web 上の場所、他の HTML ドキュメント、またはグラフィックにリンクするクリック可能な領域が含まれています。

イメージセッタ

印刷機用の版の作成に使用するフィルムまたはフィルム ベースの用紙の出力を作成する高解像度のデバイス。

色温度

ケルビン単位でライトを表す方法です。低い値は、ろうそくの光や発熱電球などのオレンジ キャストを生成する薄暗いライト条件に対応します。高い値は、太陽光などのブルー キャストを生成する明るいライト条件に対応します。

インターレース

GIF イメージにおいて、Web ベースのイメージを低解像度で画面に表示する方法。イメージ データの読み込みが進行するに従って、画質は向上します。

インターレースしたビデオ イメージ

インターレースしたビデオ イメージは、2 回の走査で画面に表示されます。1 回目の走査では奇数番目の線が、2 回目の走査では偶数番目の線が描かれます。その際、画面がちらつくことがあります。

え

遠近効果ハンドル

ハイライト ボックスの隅にある中空の円。

エンコード

テキストの文字セットを決定し、テキストを適切な言語で正しく表示します。

お

オーバープリント

オーバープリントでは、カラーの上に別のカラーが印刷されます。選択するカラーによっては、オーバープリントされたカラーの混合によって新しいカラーが作成されたり、上のカラーが下のカラーを隠してしまったりする場合があります。明るいカラーの上に暗いカラーをオーバープリントすることは、カラー分離の配置がずれているために発生するレジストレーションの問題を回避する場合に使用されることがあります。

[カラー トラッピング](#)、[チョーク](#)、および[スプレッド](#)も参照してください。

オーバーレイ

イメージの保護領域の上に重ねる、赤の透明シート。マスクのオーバーレイにより、イメージの編集領域とマスク (保護) 領域の区別が簡単になります。オーバーレイを適用すると、マスク領域が (透明度に基づいて) さまざまな濃淡の赤で表示されます。赤の彩度が大きいほど、保護の度合いが高いことを示します。

[編集領域](#)および[保護領域](#)も参照してください。

オブジェクト (Corel PHOTO-PAINT)

バックグラウンド イメージの前面に重なる独立したビットマップ。オブジェクトを変形しても、背面のイメージは影響を受けません。

親オブジェクト

子オブジェクトと呼ばれる別のオブジェクトのイメージ要素と図形が結合されているオブジェクト。子オブジェクトと親オブジェクトはクリッピンググループと呼ばれます。親オブジェクトは、子オブジェクトより 1 つ下のレイヤに配置されている必要があります。

か

カーソルキー移動

カーソルキーを使用し、選択したオブジェクトを少しずつ移動すること。

[マイクロ カーソルキー移動](#)および[スーパー カーソルキー移動](#)も参照してください。

カーニング

文字間隔を調整すること。カーニングは、一般に 2 つの文字の間隔を通常よりも狭くする場合に使用します。たとえば、WA、AW、TA、VA などに使用します。カーニングを行うと、文字の配置がバランスよく調整されるので読みやすくなります。特に、フォント サイズが大きい場合に有効です。

解像度

イメージ ファイルに含まれる詳細の程度。または、入力デバイス、出力デバイス、または表示デバイスで再現できる詳細の程度。解像度は、1 インチあたりのドット数 (dpi) またはピクセル数 (ppi) で表されます。解像度を低くすると、粒子の質感が出ます。解像度を高くすると、画質は向上しますが、ファイル サイズが大きくなります。

回転ハンドル

ハイライト ボックスの隅に表示される、丸みのある 2 方向矢印。

ガイドライン

描画ウィンドウ内の任意の位置に置いてオブジェクトの配置に使用する水平、垂直、または斜めの線。

ガウス

ピクセル分布の種類。直線ではなくベル状の曲線に沿ってピクセル情報が外向きに拡散されます。

重ね順

オブジェクトがイメージ ウィンドウに描画される順序。この順序によってオブジェクト間の関係とイメージの外観が決定されます。最初に描画したオブジェクトが最も下に、最後に描画したオブジェクトが最も上に表示されます。

カラー キャスト

ライト条件などの要因によってフォト上に生成されることがあるカラーの着色。たとえば、屋内の薄暗い白熱ライトで写真を撮ると黄色のカラー キャストになり、屋外の明るい日光の下で写真を撮ると青いカラー キャストになります。

カラー スペース

電子的なカラー マネージメントにおける、デバイスの仮想再現またはカラー モデルのカラー再現範囲。デバイスのカラー スペースの境界と形状は、カラー マネージメント ソフトウェアによってマッピングされます。

[カラー再現範囲](#)も参照してください。

カラー チャンネル

イメージの 8 ビットのグレースケール版。各チャンネルは、イメージのカラーの 1 つのレベルを表します。たとえば、RGB には 3 つのカラー チャンネルがあり、CMYK には 4 つのカラー チャンネルがあります。すべてのチャンネルを同時に印刷すると、イメージのカラーがすべて再現されます。

[RGB](#) および [CMYK](#) も参照してください。

カラー トラッピング

カラー分解での位置ずれ (ミスレジストレーション) を補正するためにカラーを重ねる方法を示す印刷用語。これにより、白いページ内の隣接するカラーの間に白いすき間が表示されなくなります。

[スプレッド](#)、[チョーク](#)、および[オーバープリント](#)も参照してください。

カラー パレット

均一カラーの集まり。カラー パレットからカラーを選択して、塗りつぶしや輪郭に使用します。

カラー プロファイル

デバイスのカラー処理機能と特性の説明。

カラー ボックス

カラー パレット内の均一カラーのボックス。

カラー ボックス

カラーを選択するときにサンプルとして使用する一連の均一カラーのボックスの 1 つ。カラー ボックスを印刷したパンフレットはスワッチブックといいます。カラーパレットに含まれるカラーをカラーボックスと呼ぶ場合もあります。

カラー モード

イメージを構成するカラーの数と種類を定義するシステム。一般的なカラーモードとしては、モノクロ、グレースケール、RGB、CMYK、パレットなどがあります。

カラー モデル

カラーモードで表示できるカラーの範囲を定義する単純なカラーチャート。カラーモデルとしては、RGB (赤、緑、青)、CMY (シアン、マゼンタ、イエロー)、CMYK (シアン、マゼンタ、イエロー、黒)、HSB (色相、彩度、輝度)、HLS (色相、明度、彩度)、CIE L*a*b (Lab) などがあります。

カラー再現範囲

あらゆるデバイスで再現または認識可能なカラー範囲。たとえば、モニタは、プリンタとは異なるカラー再現範囲を表示するため、元のイメージと最終出力間でカラーを管理する必要があります。

カラー深度

イメージに使用できる最大色数。カラー深度は、イメージのビット深度とモニタによって決まります。たとえば、8 ビットのイメージでは最大 256 色、24 ビットのイメージでは最大約 1,600 万色を使用できます。GIF イメージは 8 ビットイメージの例で、JPEG イメージは 24 ビットイメージです。

カラーの許容範囲

マスクの投げ縄ツール、自由選択マスクツール、および塗りつぶしツールのカラーの範囲または感度を決定する値。[カラーマスク] ダイアログボックスでも、カラーマスクを作成したときに保護されるピクセルを決定するために使用されます。定義された許容値にピクセルのグレースケール値が収まる場合、そのピクセルは指定されたカラー範囲に含まれます。

カラー分解

商業印刷で、コンポジットイメージのカラーをカラーコンポーネントに分解し、各コンポーネントに対して 1 つのグレースケールイメージを作成する処理。CMYK イメージの場合、シアン、マゼンタ、イエロー、および黒に対して 1 つずつ、合計 4 つの分解を作成する必要があります。

環境光

自然の光源と人工の光源を含む室内の照明。

き

輝度

特定のピクセルが透過または反射する光の量。HSB カラーモードの場合は、カラーに含まれる白の割合を表します。たとえば、輝度が 0 の場合は黒 (フォトの場合は影) になり、輝度が 255 の場合は白 (フォトの場合はハイライト) になります。

行間隔

テキストの行の間隔。行間隔は、読みやすさの点からも外観の点からも重要です。

強度

ビットマップにおいて、暗めの中間トーンのピクセルや暗いピクセルと比較して、明るいピクセルの輝度を表す値。強度を増やすと、暗い部分を変更することなく、白をより鮮明に表現できます。

切り抜き

イメージのうち、不要な領域を切り捨てること。残ったイメージの解像度に影響はありません。

緊密度 (パス)

マスクの**選択範囲線**からパスを作成するときには使用できるコントロール。緊密度の値は 1~10 であり、パスの形状と選択範囲線の形状が一致する度合いを決定します。値が大きいほど、パスは選択範囲線に一致します。また、小さい値を指定した場合に比べてパス上のノードが多くなります。

く

クライアント側イメージ マップ

この一般的な種類のイメージ マップでは、サーバーに依存せずにマップ情報が処理されます。

クライアント/サーバー側イメージ マップ

あまり使用されない種類のイメージ マップ。クライアント側とサーバー側の両方のイメージ マップ用のコードが含まれています。この種類のイメージ マップでは、イメージ マップの処理にデフォルトで自動的にユーザーの Web ブラウザが使用されます。ブラウザでイメージ マップがサポートされていない場合は、サーバーで外部マップ ファイルを使用して情報が処理されます。現在はほとんどの Web ブラウザでイメージ マップがサポートされているので、クライアント側イメージ マップの方が一般的です。

グラデーション ステップ数

グラデーション塗りつぶしの外観を構成するカラーの階調。塗りつぶしのステップ数が多いほど、始点カラーから終点カラーになめらかに変化します。

グラデーション ノード

グラデーション塗りつぶしのグラデーション矢印で、各カラーを表す正方形のポイント。塗りつぶしの始点、終点、カラー、および透明値の変更に使用します。

グラデーション塗りつぶし

線形状、放射状、円錐状、または正方形のパスに沿って、イメージの一部に適用される 2 色間の変化。2 色グラデーション塗りつぶしでは、あるカラーが別のカラーに直接変化し、カスタム塗りつぶしでは、何色ものカラーが段階的に変化します。

グラブ領域

コマンド バーのドラッグできる領域。グラブ領域をドラッグして、バーを移動します。グラブ領域以外の領域をドラッグした場合は、移動できません。グラブ領域の位置は、オペレーティング システム、バーの方向、およびバーがドッキングされているかどうかによって異なります。コマンド バーには、グラブ領域の他に、ツールバー、ツールボックス、およびプロパティ バーがあります。

グリッド

オブジェクトの描画およびアレンジの目安として、水平および垂直にラインを均等に配置したもの。

クリッピング範囲

ヒストグラムの垂直軸の上部に表示されない値の範囲の比率。

クリップ マスク

オブジェクトのピクセルに影響を与えることなく、オブジェクトの透明度を編集できるマスク。オブジェクトの透明度を直接変更してからクリップ マスクを追加することも、変更する前にクリップ マスクを追加することもできます。

クリップアート

Corel アプリケーションにインポート可能で、必要に応じて編集も可能なあらかじめ作成されたイメージ。

クリップボード

切り取った、または、コピーした情報を一時的に保管する場所。クリップボードの情報は、次に情報が切り取られるかコピーされると、その情報で置き換えられます。

グリフ (タイポグラフィ)

タイポグラフィ グリフは単一文字書体に相当します。

グループ

複数のオブジェクトを 1 つの単位としてまとめたもの。グループに対して実行した操作は、グループ内のすべてのオブジェクトに適用されます。

グレースケール イメージ

グレースケール カラー モードを使用するイメージ。このカラー モードでは、白～黒の 256 階調までのグレーを表示できます。特に写真のグレースケール イメージは、一般に「モノクロ」と呼ばれます。

グレースケール

256 階調のグレーでイメージを表示するカラー モード。各カラーは 0～255 の値で定義されます。0 は最も暗く (黒)、255 は最も明るく (白) になります。特に写真のグレースケール イメージは、一般に「モノクロ」と呼ばれます。

け

形状カーソル

現在使用しているツールのペン先の形状とサイズを、カーソルとして使用します。

減算型カラー モデル

CMYK カラー モデルのように、物体が反射する光から特定の波長を減算することによってカラーを作成するカラー モデル。たとえば、青以外のすべての色を吸収するインクは青く見えます。

こ

コード ページ

コード ページは DOS、または Windows オペレーティング システムの表で、テキスト表示用の ASCII、または ANSI 文字セットを定義します。言語によって文字セットが異なります。

子オブジェクト

親オブジェクトと呼ばれる別のオブジェクトの図形にイメージ要素が挿入されているオブジェクト。子オブジェクトと親オブジェクトはクリッピング グループと呼ばれます。子オブジェクトは、親オブジェクトより 1 つ上のレイヤに配置されている必要があります。

コントラスト

イメージの暗い領域と明るい領域のトーンの差コントラストの値を大きくすると、暗い部分と明るい部分の差が大きくなり、中間のグラデーションが少なくなります。

コントロール ポイント (Corel PHOTO-PAINT)

整形ツールで編集の曲線において、ノードから伸びる直線上に表示される点。コントロール ポイントは、曲線がノードを通る角度を決定します。

サーバー側イメージ マップ

あまり使用されない種類のイメージ マップ。サーバーに依存してイメージ マップ情報を処理します。Web サーバーごとに異なるマップ ファイル (*.map) が必要です。現在はほとんどの Web ブラウザでイメージ マップを処理できるので、クライアント側イメージ マップの方が一般的です。

さ

彩度

カラーの純粋さまたは鮮やかさを、白が含まれない割合として表したものの。彩度が 100 パーセントのカラーには白が含まれません。彩度が 0 パーセントのカラーはグレー階調になります。

サブパス (Corel PHOTO-PAINT)

メイン パスに結合されないセグメント。

サムネール

イメージまたはイラストを低解像度で表示するミニチュア版のプレビュー。

し

シード カラー

投げ縄マスク ツールまたは自由選択マスク ツールを使用して編集領域を定義するときに、最初にクリックしたピクセルのカラー。このカラーは、カラー マスクでカラー検出の精度を設定するときに、許容範囲として使用されます。

しきい値 (パス)

マスクからパスを作成する際に使用できるコントロール。しきい値の範囲は 1~10 であり、ノードが作成されるために必要なマスクの 2 つのセクション間の角度を決定します。値が小さいほど鋭い角になり、できあがったパスはノードが多くなります。

しきい値

ビットマップでトーン変化が許容される限界。

色相

カラーのプロパティ。カラーに名前を付けて分類できるようにします。たとえば、青、緑、赤はすべて色相です。

斜変形ハンドル

ハイライト ボックスの各辺の中央に表示されるまっすぐな 2 方向矢印。

縦横比

イメージの幅と高さの比率。x : y の形式で表されます。たとえば、640 × 480 ピクセルのイメージの縦横比は 4 : 3 です。

シンボル

再利用できるオブジェクトまたはオブジェクトのグループ。シンボルは、一度定義するとムービー内で何度でも参照できます。

す

スーパー カーソルキー移動

Shift と矢印キーを押して、オブジェクトを大きく移動すること。スーパー カーソルキー移動で移動する距離は、入力値とカーソルキー移動の距離を掛けた値です。

[カーソルキー移動](#)および[マイクロ カーソルキー移動](#)も参照してください。

ズーム

描画を縮小または拡大表示すること。細部を表示するにはズーム イン、表示範囲を広くするにはズーム アウトします。

すかし模様

イメージの各ピクセルの光度コンポーネントに加えられるわずかなランダム ノイズで、イメージに関する情報を伝えます。この情報は、通常の編集、印刷、およびスキャンには影響されません。

スキャナ

紙、透明シート、またはフィルムのイメージをデジタル化するデバイス。スキャナはビットマップやラスタ イメージを出力します。

スクロール (Corel PHOTO-PAINT)

イメージ ウィンドウ内でイメージを動かすこと。一般に、イメージをウィンドウ内に表示しきれないときに使用します。スクロールすると、イメージをイメージ ウィンドウ内で上下左右に移動したときと同じようにイメージが表示されます。高い倍率で作業していてイメージ全体を表示できない場合に、表示されていない部分を素早く表示することができます。

スプレッド

商用印刷におけるトラッピングの一種。フォアグラウンド オブジェクトをバックグラウンド オブジェクトにはみ出させることで作成します。

スポット カラー

商業印刷で、個別に印刷される均一インク カラー。スポット カラーごとに 1 つのプレートがあります。

スワップ ディスク

コンピュータで使用可能なメモリ容量を仮想的に増やすために、アプリケーションが使用するハード ディスク容量。

せ

セグメント (パス)

パスのうち、隣接する 2 つのノード間の部分。パスは一連のセグメントで構成されます。

セグメント

曲線オブジェクトのノード間の線または曲線。

選択範囲

イメージの領域。編集領域とも呼ばれます。マスクで保護されていないので編集可能です。選択範囲の内容は、ペイントおよび編集用の各ツール、特殊効果、およびイメージ コマンドによって変更されます。

選択範囲線

イメージの編集領域またはオブジェクトの周囲を囲む破線の輪郭。デフォルトでは、オブジェクトの選択範囲線は青、マスクの選択範囲線は黒です。

選択範囲線による選択

選択ツールまたは**整形**ツールを対角線上にドラッグし、点線のボックスで対象を囲むことで、オブジェクトまたはノードを選択すること。

選択ボックス

選択ツールで選択したオブジェクトの周囲に表示され、8 つのハンドルがある透明な長方形。

尖筆

ペン タブレットと連動して使用するペン デバイス。ペイント ストロークを描きます。圧力感知尖筆を使用すると、圧力を微妙に変化させてストロークを描くことができます。

た

ターゲット

新しい Web ページが表示されるフレームまたは Web ブラウザ ウィンドウ。

タイル設定

小さいイメージを反復して大きい領域を満たす技術。Web のページのバックグラウンド パターンに頻繁に使用されます。

ち

着色

フォト編集では、多くの場合、着色はイメージ全体に適用される半透明カラーを示します。**カラー キャスト**とも呼ばれます。

印刷では、ハーフトーン スクリーンを使用して作成されたカラーの薄い影 (スポット カラーなど) を意味します。

ハーフトーンも参照してください。

チャンネル

別のイメージのカラーまたはマスクに関する情報を保持する 8 ビットのグレースケール イメージ。チャンネルには、カラー チャンネルとマスク チャンネルの 2 種類があります。各イメージには、基となるカラー モデルの 1 コンポーネントについて 1 つのカラー チャンネルがあります。また、イメージによっては、スポット カラー チャンネルを使用するものもあります。各チャンネルには、対応するコンポーネントのカラー情報が含まれます。マスク チャンネル (アルファ チャンネル) には、イメージに対して作成したマスクが格納されます。マスク チャンネルは、Corel PHOTO-PAINT (CPT) 形式などのマスク情報をサポートするファイル形式で、イメージとともに保存されます。

チヨーク

商用印刷におけるトラッピングの一種。バックグラウンド オブジェクトをフォアグラウンド オブジェクトにはみ出させることで作成します。

て

データ損失型

ファイル圧縮形式の種類。圧縮または解凍したイメージの画質は大幅に低下します。

データ非損失型

ファイル圧縮形式の種類。圧縮または解凍したイメージの画質は維持されます。

ディザ

使用できる色の数が制限されているときに、制限数以上の色をシミュレートする処理。

低密度領域

徐々に変化するイメージのなめらかな領域。つまり、エッジやノイズのない領域です。

テクスチャ塗りつぶし

フラクタル生成された塗りつぶし。デフォルトでは、オブジェクトまたはイメージが、イメージの繰り返しではなく 1 つのイメージで塗りつぶされます。

と

トーン

カラーのバリエーションまたは黒と白の間にあるグレーの範囲。

トーン範囲

ビットマップ イメージの暗 (0 は輝度なし) から明 (255 は最高輝度) へのピクセル分布。範囲内の最初の 3 分の 1 は影、中間の範囲は中間トーン、最後の範囲はハイライトと見なされます。理想的な状態は、1 つのイメージ内のピクセルがトーン範囲全体に分布していることです。**ヒストグラム**は、イメージのトーン範囲を表示および評価するための優れたツールです。

透明度

オブジェクトの透過性を高める度合い。透明度を下げると不透明度が高くなり、背面の項目またはイメージが見えにくくなります。

[不透明度](#)も参照してください。

ぬ

塗りつぶし

イメージの一部に適用するカラー、ビットマップ、グラデーション、またはパターン。

の

ノード

線や曲線のセグメントの終端に表示される四角形。1 つ以上のノードをドラッグすると、線または曲線の形状を変更できます。

ノイズ

ビットマップの編集で、ビットマップに含まれるランダムなピクセル。テレビ画面のノイズのように見えます。

ノックアウト

下のカラーが削除されて、上のカラーだけが印刷される領域を示す印刷用語。たとえば、大きな円の上に小さい円を印刷する場合、小さい円の下領域は印刷されません。これにより、小さい円に対して使用されたカラーは、大きな円で使用されたカラーと重なったり混合したりすることなく、そのまま使用されます。

は

ハーフトーン

異なったトーンを表現するために、連続階調のイメージをさまざまなサイズから成る一連のドットに変換したイメージ。

ハイパーリンク

ドキュメント内のある場所から、同じドキュメントの別の場所や他のドキュメントに直接アクセスする電子的なリンク。

ハイライト ボックス

イメージの選択範囲を囲む長方形で、8 つのハンドルがあります。

ハイライト、影、および中間トーン

ビットマップ イメージのピクセルの輝度を示す用語。輝度の範囲は、0 (暗) ~ 255 (明) です。範囲内の最初の 3 分の 1 は影、中間の範囲は中間トーン、最後の範囲はハイライトと見なされます。ハイライト、影、または中間トーンを調整することで、イメージ内の特定領域を明るくしたり暗くしたりすることができます。**ヒストグラム**は、イメージのハイライト、影、および中間トーンを表示および評価するための優れたツールです。

パス

ノードと呼ばれる四角形の端点を接続した一連の直線および曲線のセグメント。

パターン塗りつぶし

繰り返される一連のベクトル オブジェクトまたはイメージから成る塗りつぶし。

パレット カラー モード

最大 256 色のイメージを表示する 8 ビットのカラー モード。複雑なイメージをパレット カラー モードに変換すると、ファイル サイズを小さくでき、さらにカラー変換処理で使用されるカラーをより細かく調整できます。

範囲感度

パレット変換のフォーカス カラーを指定する、パレット カラー モードのオプション。カラーの調整、および変換の際のカラーの重要度を指定できます。

範囲ボックス

選択したオブジェクトを囲む透明なボックス。8 つの選択ハンドルで示されます。

半径

軌道に適用すると、軌道でペイントするときのブラシストロークの中心からブラシストロークの中心を回るペン先までの距離を設定します。この値を増やすと、ブラシストロークが太くなります。

ダストとキズ フィルタに適用すると、フィルタを適用するときに破損領域を囲むピクセル数を設定します。

ハンドル

オブジェクトを選択したときに、オブジェクトの四隅と側面に表示される 8 つの黒い四角形。ハンドルをドラッグして、オブジェクトをスケール、サイズ変更、またはミラー化できます。選択したオブジェクトをクリックすると、ハンドルの形状が矢印に変わり、オブジェクトを回転および斜変形できます。

ひ

ピクセル

ビットマップを構成する最小単位のカラー付きドット。

[解像度](#)も参照してください。

ピクセレート効果

イメージの歪みの種類。各ピクセルが目に見えるように表示されるか、ピクセルのグループがカラーのブロックとして表示されます。ピクセレート効果は、解像度やイメージの寸法が不適切な場合に発生します。また、特殊効果として意図的に作成することもできます。

ヒストグラム

ヒストグラムは、イメージ内のピクセルの輝度を横軸方向に 0 (暗) ~ 255 (明) の範囲で示す棒グラフで構成されます。ヒストグラムでは、左側がイメージの影、中央部が中間トーン、右側がハイライトを表します。スパイクの高さは、各輝度レベルのピクセル数を示します。たとえば、影 (ヒストグラムの左側) のピクセル数が多い場合、イメージの暗い領域に細部があることを示しています。

ビット深度

ビットマップに含まれる各ピクセルの階調またはカラーを定義するビットの数。たとえば、モノクロ イメージのピクセルの場合、カラーは白か黒だけなので、ビット深度は 1 ビットです。ビット深度を x とすると、使用できる色数は 2 の x 乗です。たとえば、ビット深度 1 では 2 つ ($2^1 = 2$) のカラー値、ビット深度 2 では 4 つ ($2^2 = 4$) のカラー値を使用できます。

ビット深度は、1 ピクセル当たり 1 ~ 64 ビット (bpp) で、イメージのカラー深度を決定します。

ビットマップ

ピクセルまたはドットのグリッドで構成されるイメージ。

[ベクトル グラフィック](#)も参照してください。

ビットマップ塗りつぶし

任意のビットマップから作成する塗りつぶし。

描画ページ

描画ウィンドウのうち、影付きの長方形で囲まれた部分。

標準塗りつぶし

塗りつぶしの種類の 1 つ。単一の均一カラーをイメージに適用します。

[塗りつぶしも参照してください。](#)

ふ

フィルタ

ある形式のデジタル情報を別の形式に変換するアプリケーション。

フェード

ドロップ シャドウの周縁部のシャープ度。

フォント

Times New Roman などの 1 つの書体において、単一のスタイル (斜体など)、太さ (太字など)、およびサイズ (10 ポイント) を持つ文字のセット。

不透明度

オブジェクトの透過性を低める度合い。不透明度が 100 パーセントのオブジェクトは、透けて見えません。不透明度を 100 パーセントよりも低くするに従って、オブジェクトの透過性が高くなります。

[透明度も参照してください。](#)

フラクタル

繰り返しパターンによって生成された不規則な形状。フラクタルを使用すると、不規則で複雑なイメージをパターンに沿って正確に生成できます。イメージ内のコンポーネントを 1 つずつ定義する必要はありません。

ブラックポイント

ビットマップ イメージ内で黒色と見なされる輝度。Corel PHOTO-PAINT では、ブラックポイントを設定して、イメージのコントラストを調整できます。たとえば、0 (暗い) ~255 (明るい) の輝度を持つイメージの[ヒストグラム](#)で、ブラックポイントを 5 に設定すると、5 よりも大きい値を持つすべてのピクセルが黒色に変換されます。

ブリード

最終的なページ サイズの外側に印刷される部分。ブリードにより、バインディングやトリミング後にページの境界までイメージを印刷できます。

フローティング オブジェクト

バックグラウンドがないビットマップ。フローティング オブジェクトは、フォト オブジェクトまたはカットアウト イメージとも呼ばれます。

フロート編集領域

イメージ前面に浮き上がって (フロートして) 表示される編集領域。背面のピクセルに影響を与えずに移動および変更できます。

プログレッシブ

JPEG イメージで、イメージの読み込みが始まったときに、低解像度でイメージ全体を画面に表示する方法。イメージ データの読み込みが進行するに従って、画質は徐々に向上します。

プロセス カラー

商業印刷で、シアン、マゼンタ、イエロー、および黒を混合して再現されるカラー。これに対して、スポット カラーは、均一カラーのインクであり、1 つのスポット カラーにつき 1 つの版を使用して印刷されます。

へ

平坦化イメージ

オブジェクトとバックグラウンドが結合されたイメージ。これらのオブジェクトは個別のオブジェクトとして編集できません。

ベクトル グラフィック

線を描く際の位置、長さ、および方向を数学的に記述して生成したイメージ。ベクトル グラフィックは、個々のドットまたはピクセルのパターンとしてではなく、線の集まりとして作成されます。

[ビットマップ](#)も参照してください。

編集領域

編集領域 (選択領域) では、下にあるピクセルにペイントや効果を適用できます。

[保護領域](#)および[マスク](#)も参照してください。

ほ

保護領域

下にあるピクセルにペイントや効果が適用されない領域。

[マスク](#)および[編集領域](#)も参照してください。

ホットスポット

クリックすると、URL で指定されたアドレスにジャンプするオブジェクト内の領域。

ホワイト ポイント

カラー モニタでの白色の測定基準。ハイライトおよびコントラストの表示に影響します。

イメージ補正では、ホワイト ポイントは、ビットマップ イメージで白色と見なされる輝度を決定します。Corel PHOTO-PAINT では、ホワイト ポイントを設定して、イメージのコントラストを調整できます。たとえば、0 (暗い) ~255 (明るい) の輝度を持つイメージの[ヒストグラム](#)で、ホワイト ポイントを 250 に設定すると、250 よりも大きい値を持つすべてのピクセルが白色に変換されます。

ま

マージ モード

選択したペイント、オブジェクト、または塗りつぶしカラーをイメージ内の別のカラーとどのように結合するかを決定する編集モード。

マイクロ カーソルキー移動

オブジェクトを少しずつ移動すること。

[カーソルキー移動](#)および[スーパー カーソルキー移動](#)も参照してください。

マスク モード

マスクやその編集領域を作成または微調整するときを選択する必要がある、マスク ツールの操作モード。マスク モードには、標準、加算、減算、および XOR の 4 つのモードがあります。標準モード (デフォルト) では、イメージ内の領域を選択できます。加算モードでは、イメージ内の複数の領域を選択して編集可能領域を拡大できます。減算モードでは、選択範囲から領域を削除して編集可能領域を縮小できます。XOR モードでは、イメージ内の複数の領域を選択できます。領域が重なる場合、重なった領域を編集領域から除外し、保護領域に追加します。

マスク

イメージの編集集中にイメージに適用されるマスクで、[保護領域](#)と[編集領域](#)を定義します。

マルチタスキング

CPU がタスクを実行する方法を最適化することでアプリケーションのパフォーマンス全体を向上できるオプション。

マルチチャンネル

256 階調のグレーで構成されるカラー チャンネルを複数使用してイメージを表示するカラー モード。RGB カラー イメージをマルチチャンネル カラー モードに変換すると、赤 (R)、緑 (G)、および青 (B) の各カラー チャンネルは、そのチャンネルにおけるピクセルのカラー値を反映するグレースケール情報に変換されます。

も

モアレ パターン

2 つの標準パターンを重ねて作成される同心線による視覚的効果。たとえば、角度、ドット間隔、およびドット サイズの異なる 2 つのハーフトーン スクリーンを重ねると、モアレ パターンが作成されます。イメージを別のハーフトーン スクリーンまたは同じハーフトーン スクリーンでも角度が異なるものと再スクリーンした場合は、モアレ パターンが不適切に発生します。

モザイク

さまざまなカラーの素材を細かく並べたピクチャやパターンによる装飾。

モノクロ カラー モード

白と黒の 2 色でイメージを保持する 1 ビットのカラー モード。白と黒の間に階調はありません。このモードは、線画や単純なグラフィックの場合に便利です。モノクロのフォト効果を作成するには、グレースケール カラー モードを使用できます。

グレースケールも参照してください。

ら

ラウンド トリッピング

Portable Document Format (PDF) などのファイル形式で保存されたドキュメントを Corel DESIGNER (DES) などの別の形式に変換し、元に戻す機能。

ラスタ イメージ

ピクセルにレンダリングされたイメージ。ベクトル グラフィックをビットマップに変換すると、ラスタ イメージが作成されます。

り

リサンプル

ビットマップの解像度と寸法を変更すること。アップサンプリングを行うと、イメージのサイズが大きくなります。ダウンサンプリングでは、イメージのサイズが小さくなります。解像度を固定してリサンプルを行うと、イメージのサイズは変更されますが、ピクセルの増減によってイメージの解像度を維持することができます。さまざまな解像度でのリサンプルでは、イメージのサイズが変更されてもピクセル数が維持され、元のイメージとは異なる解像度になります。

立体派

1 つのオブジェクトをさまざまな角度から四角形や立方体の形状で同時に強調する抽象的な絵画スタイル。

リンク

あるアプリケーションで作成したオブジェクトを別のアプリケーションで作成したドキュメントに配置する処理。リンク オブジェクトはソース ファイルと接続されたままになります。リンク オブジェクトを変更する場合は、ソース ファイルを修正します。

る

ルーラー

目盛りの付いた水平バーまたは垂直バー。オブジェクトのサイズおよび位置の決定に使用します。ルーラーは、デフォルトではアプリケーション ウィンドウの左側と上側に表示されます。非表示にしたり、移動したりすることができます。

れ

レイヤ

描画内のオブジェクトを配置する透明な平面です。

レンズ

カラーやトーンを補正するときに、イメージの一部または全体を保護するオブジェクト。レンズを使用すると、レンズ背面のピクセルに変更を加えることなく、補正の結果を確認できます。レンズを移動すると、移動先のピクセルに補正が適用されます。

レンダリング

3D モデルを 2D イメージにキャプチャすること。

ろ

ロールオーバー

クリックまたはポイントすると外観が変わるインタラクティブ オブジェクトまたはオブジェクト グループ。

露出

イメージを作成するために使用される光の量を表す写真用語。センサー (デジタル カメラの場合) またはフィルム (従来のカメラの場合) に十分な光が当てられないと、イメージは暗くなりすぎます (露光不足)。センサーまたはフィルムに光が当たりすぎると、イメージは明るくなりすぎます (露光過多)。

わ

歪曲ハンドル

外向きの 2 方向矢印。ハイライト ボックスの四隅に表示されます。